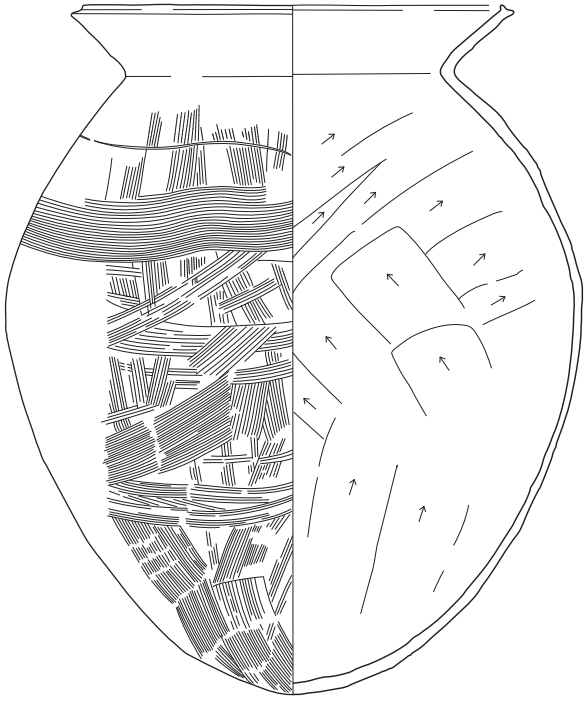
熊本県文化財調査報告第２６４集

北の崎遺跡
釼抜遺跡

―木葉川災害復旧等関連緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査―



第２分冊

２０１１．３

熊本県教育委員会

Copyright by Board of Education,Kumamoto Prefectural Office

第Ⅳ章　理化学分析

1　北の崎遺跡における古環境調査について

応用地質株式会社

1　はじめに

ボーリング調査により、北の崎遺跡周辺の地質構成を把握するとともに、採集した試料を用いて自然科学分析を実施し、縄文時代からの北の崎遺跡の古環境を推定することを目的とする。尚、分析に関しては、放射性炭素年代測定・炭素及び窒素含有量・花粉分析・植物珪酸体分析・珪藻分析を行うことにより多面的に考察を加えていった。

2　放射性炭素年代測定

（1）測定方法

放射性炭素年代の測定は、以下の手順で行った。

① メス等を使用して表面的な汚れを削り落とす。

② 試料を遠沈管に入れ、酸・アルカリ・酸処理を施し、不純物を除去する。

※酸処理……IN塩酸（80℃）数時間

アルカリ処理……水酸化ナトリウム水溶液

表－4　放射性炭素年代測定結果

試料番号	ボーリング地点	深度	測定試料	δ13C（‰）	14C年代（yBP)	暦年代（2σ）
No. 1	2	2.30 ～ 2.35	土壌	－24.70	820±40	1230AD 1190AD－1260AD 1160AD－1280AD
No. 2	2	2.55 ～ 2.60	土壌	－24.80	1030±40	1010AD 990AD－1020AD 960AD－1040AD
No. 3	2	2.75 ～ 2.80	土壌	－26.80	2170±40	200BC 350BC－ 300BC 220BC－ 170BC 370BC－ 100BC
No. 4	2	3.25 ～ 3.30	土壌	－28.10	2560±40	790BC 800BC－ 770BC 810BC－ 760BC 680BC－ 550BC
No. 5	2	4.60 ～ 4.70	土壌	－23.90	6530±50	5480BC 5510BC－5470BC 5550BC－5380BC
C 2 － 1	2	5.24	木炭	－25.71	5680±30	4680BC－4640BC 4620BC－4440BC 4430BC－4390BC
C 2 － 2	2	5.98	木片	－24.54	5720±40	4690BC－4450BC
C 2 － 3	2	6.38	木片	－28.53	5720±40	4690BC－4450BC
C 2 － 4	2	7.07	木片	－30.37	5740±40	4710BC－4490BC 4480BC－4460BC
C 2 － 5	2	8.59	木片	－28.82	6420±40	5480BC－5320BC
C 2 － 6	2	8.85	木炭	－24.05	6960±50	5980BC－5950BC 5920BC－5720BC
C 2 － 7	2	9.53	草本(葉)	－29.78	6690±50	5720BC－5510BC 5500BC－5480BC
C 2 － 8	2	10.55	木片	－27.60	7190±50	6210BC－6130BC 6120BC－5980BC 5950BC－5920BC

表－５　炭素及び窒素含有量、花粉分析、植物珪酸体分析、珪藻分析用試料採取箇所一覧

試料番号	ボーリング	深度(GL)	花粉	植物珪酸体	珪藻	C/N比
1	2	2.22	○	○	○	○
2	2	2.60	○	○	○	○
3	2	3.42	○	○	○	○
4	2	3.75	○	○	○	○
5	2	3.85	○	○	○	
6	2	3.95		○		
7	2	4.05	○	○	○	○
8	2	4.15		○		
9	2	4.25	○	○	○	
10	2	4.42	○	○	○	○
11	2	4.55		○		
12	2	4.74	○	○	○	
13	2	4.90	○	○	○	○
14	2	5.08		○		
15	2	5.25	○	○	○	○
16	2	5.40		○		
17	2	5.57	○	○	○	
18	2	5.70		○		
19	2	5.84	○	○	○	○
20	2	6.12	○	○	○	
21	2	6.28	○	○	○	○
22	2	6.75	○	○	○	○
23	2	7.48	○	○	○	○
24	2	8.10	○	○	○	○
25	2	8.61	○	○	○	
26	2	8.88	○	○	○	○
27	2	9.11	○	○	○	
28	2	9.68	○	○	○	○
29	2	10.55	○	○	○	○
合計点数			23点	29点	23点	16点

③　乾燥させた試料を酸化銅とともに石英管に詰め、管内を真空にして封じ切り、500℃ 30分、850℃ ２時間で加熱する。

④　液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用して、真空ラインにて二酸化炭素を精製する。

⑤　真空ラインにて、石英管に精製した二酸化炭素、鉄、水素を投入し、650℃で10時間加熱する。

⑥　グラファイト化した試料を、アルミニウム製のターゲットホルダーに手動の圧縮装置で固める。

⑦　加速器質量分析計（AMS）にて測定する。

測定機器は、134試料装填可能なイオン源が設置された、３MV小型タンデム加速器をベースとした14C－AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH－２）を使用した。測定時には、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX－Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行った。また、測定では加速器により測定中同時に13C/12Cの測定も行い、この値を用いてδ13Cを算出した。

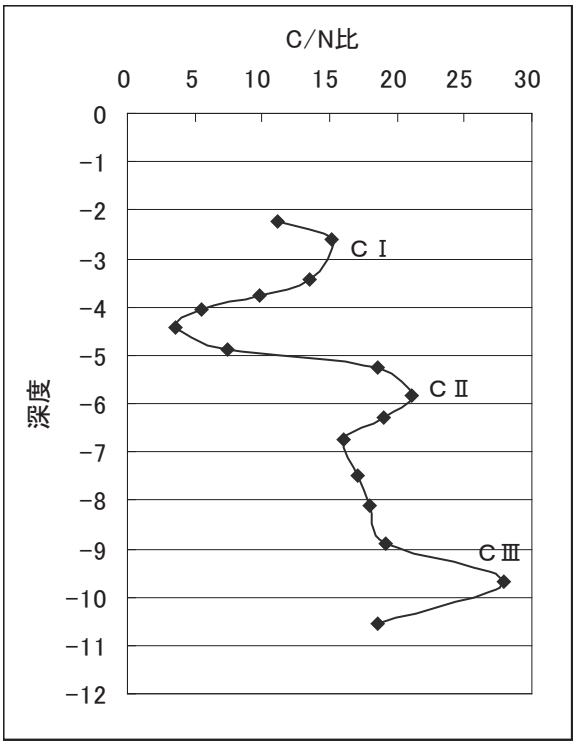
⑧　測定した14C濃度について同位体分別効果の補正を行い、補正した14C濃度を用いて14C年代を算出する。

（２）測定結果

測定結果を表－４に一覧表で示す。なお、報告した年代値は、測定値の下一桁（一の位）を四捨五入した値である。測定の結果、分析した試料は

表－６　C/N比測定結果

試料番号	ボーリング	深度(GL)	C/N比
1	2	2.22	11.1
2	2	2.60	15.1
3	2	3.42	13.5
4	2	3.75	9.8
7	2	4.05	5.5
10	2	4.42	3.5
13	2	4.90	7.4
15	2	5.25	18.6
19	2	5.84	21.1
21	2	6.28	19.0
22	2	6.75	16.0
23	2	7.48	17.1
24	2	8.10	17.9
26	2	8.88	19.1
28	2	9.68	27.9
29	2	10.55	18.5



図－455　C/N比分布図

№１～Ｃ２－８は7190±50yBP～820±40yBP(縄文時代前期～鎌倉時代）の年代が得られている。

しかし、№５は6530±50yBP（縄文時代早期）の年代が得られており、下位層に比べて年代が古く、古い土壌が混入したものと考えられる。

３　炭素及び窒素含有量

（１）分析の目的

土壌断面の連続試料を用いて、炭素含量と窒素含量の比（C/N比）の垂直分布を求めると、上位および下位層より含量が高い層が見られることがある。これを埋没腐植層という。埋没腐植層は過去の表土であり、考古学でいう文化層の可能性が高い。また、埋没腐植層の存在は、その土壌が多元土壌であることを示しており、環境の変遷、埋没現象や古地形、古地理の解明にも役立つ。

（２）分析方法

土壌環境分析法に基づき、炭素の測定は乾式燃焼法、窒素の測定はケルダール法で測定を行った。

以下に手順を示す。

＜炭素・乾式燃焼法＞

① 分析試料を粉砕機で微粉砕し、0.5㎜ふるいを全通させる。

② 試料を完全燃焼させ、発生した燃焼ガス中の炭素をすべてCO_2の形態にする。

③ 同時に他の成分は取り除く。

④ CO_2を熱伝導度検出器（TCD）によって検出する。

＜窒素・ケルダール法＞

① 風乾細土１－３ｇをケルダール分解フラスコに正確に秤取し、分解促進剤１ｇを加え試料とよく混合する。

② この分解フラスコの頭部に付着している試料を洗い落とすように、濃硫酸10mℓを加える。

③ ドラフト内の分解台上で最初はごく弱火で加熱し、有機物の分解が緩やかになってから強熱する。

④ フラスコ内の内容物が、黒色、帯緑濁色を経て白濁色になったら分解終了とし、放冷後、フラスコに蒸留水を静かに注ぐ。

⑤　冷却後、100mℓメスフラスコに移し、残った沈殿部分をよく洗い、その洗液をメスフラスコに加える。
⑥　一定量（10mℓ）をとり、蒸留する。
⑦　蒸留液をN/50水酸化ナトリウム溶液で滴定する。２回以上蒸留を行い、滴定値が誤差範囲内になるまで繰り返す。

上記の方法で求めた炭素含量および窒素含量より、C/N比を求めた。

（3）測定結果

堆積環境の変遷について、各地点のC/N比分布からおおよそ３期の埋没腐食層の可能性が考えられる。

①　CⅠ期
C/N比が15程度。深度２～３m付近。
②　CⅡ期
C/N比が15以上。深度５～７m付近。
③　CⅢ期
C/N比が20以上。深度９～11m付近。

文　献

坂上寛一（1993）炭素・窒素分析法.第四紀試料分析法，２.研究対象別分析法，日本第四紀学会，p．５－14.

土壌環境分析法編集委員会（1997）８.炭素；乾式燃焼法、９.窒素.土壌環境分析法，日本土壌肥料学会，p.222－241.

４　花粉分析

（1）　分析の目的

種子植物やシダ植物等が生産する花粉・胞子は、分解されにくく堆積物中に保存される。花粉は空中に飛散する風媒花植物と虫媒花植物等があり、虫媒花植物に対し風媒花植物は非常に多くの花粉を生産する。花粉は地表に落下後、一部土壌中に留まり、多くは雨水や河川で運搬され水域に堆積する。堆積物より抽出した花粉の種類構成や相対比率から、地層の対比や、植生や土地条件の古環境や古気候の推定を行う。普通、比較的広域に分布する水成堆積物を対象として、堆積盆単位などのやや広域な植生や環境と地域的な対比に用いられる。考古遺跡では堆積域の狭い遺構などの堆積物も扱い、局地的な植生や環境の復元にも用いられている。

（2）分析方法

中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で花粉を抽出し、プレパラートを作成した。

①　５％水酸化カリウム溶液を加えて15分間湯煎
②　水洗処理の後、0.5㎜の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
③　25％フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
④　水洗処理の後、氷酢酸によって脱水してアセトリシス処理を施す
⑤　再び氷酢酸を加えて水洗処理
⑥　沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成

（3）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300 ～ 1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は、同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。イネ属については､中村(1974,1977)を参考にして、現生標本の表面模様･大きさ･孔･表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

（4）分析結果

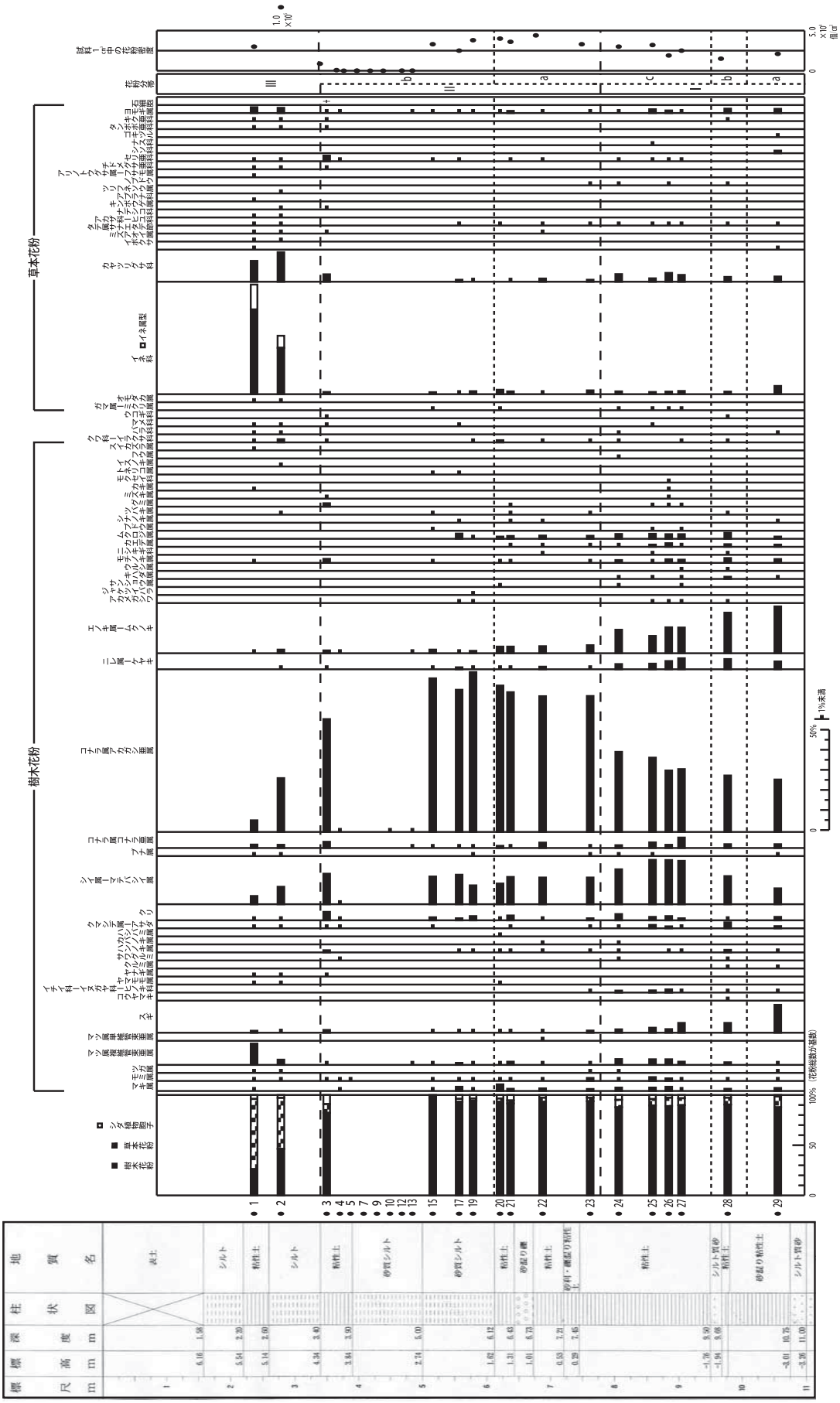
①　分類群

出現した分類群は、樹木花粉44、樹木花粉と草本花粉を含むもの４、草本花粉23、シダ植物胞子２形態の計71である。また、寄生虫卵についても観察した結果、２分類群が検出された。計数された花粉の学名、和名及び粒数を表－７に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とした場合の百分率を算定した花粉ダイアグラムを図－456に示した。花粉及び寄生虫卵の主要な分類群の顕微鏡写真は、写真－30に示した。

以下に出現した分類群を記す。

表－７　花粉分析結果

分類群		ボーリングNo.２地点																						
学名	和名	1	2	3	4	5	7	9	10	12	13	15	17	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
Arboreal pollen	樹木花粉																							
Podocarpus	マキ属	1			1							1	8	3	12	4	5	5	7	6	8	1	4	7
Abies	モミ属	2	3	3	2	1						3	2	1	1	3	1	8	1	7	5	3	1	1
Tsuga	ツガ属	1	1															1	2					1
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	51	10	3							1	1	4	3	2	6	3	3	12	10	11	6	5	4
Pinus subgen. *Haploxylon*	マツ属単維管束亜属																2							
Cryptomeria japonica	スギ	4	3	5								3	2	2	2	2	2	6	7	9	7	19	18	65
Sciadopitys verticillata	コウヤマキ																						1	
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科																	2	4	4	6	1	1	2
Myrica	ヤマモモ属	2	2												1									
Salix	ヤナギ属	1	1	2																				
Juglans	クルミ属																						1	2
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ				1														3				1	
Alnus	ハンノキ属			4									1	1	1	1	1	1	1		1	1	5	1
Betula	カバノキ属																1		1					
Corylus	ハシバミ属														1									
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ	4	1	2	3							1				1		4	2	6	4	2	11	5
Castanea crenata	クリ	1	3	15	4							6	4	7	1	9	3	5	13	6	8	4	2	8
Castanopsis-Pasania	シイ属-マテバシイ属	20	33	54	18							54	57	32	38	50	49	70	73	81	85	83	52	37
Fagus	ブナ属	1	2											1				1	1	2			2	1
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	8	6	11							1	1	1	1	4	1	10	4	6	10	6	20	7	9
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	28	102	200	47				1		13	299	274	270	269	257	254	355	167	134	118	120	104	122
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ		1	1								1	4	2	1	1	5	4	11	10	16	21	19	18
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ	3	7	5	1						1	7	2	4	12	12	13	21	49	31	50	49	75	109
Mallotus japonicus	アカメガシワ												2	1						1	1	1	1	
Caesalpinia japonica	ジャケツイバラ													1										
Zanthoxylum	サンショウ属														1				2			2		
Phellodendron	キハダ属																		2	1		2	4	3
Rhus	ウルシ属																					1	2	
Ilex	モチノキ属	1		7								1			2	1		2	6	3	7	6	9	9
Celastraceae	ニシキギ科																1			1			2	
Acer	カエデ属															1	1	1	3	4	7	3	5	5
Sapindus	ムクロジ属												10	1	4	5	6	8	10	9	9	9	11	5
Vitis	ブドウ属											3								2		1		
Tilia	シナノキ属												2			1	1							1
Camellia	ツバキ属		1									1				1		2					1	
Elaeagnus	グミ属			6												1				1	1	1		
Cornus	ミズキ属			1																	1			
Diospyros	カキ属	1																			1			
Oleaceae	モクセイ科																				1			
Fraxinus	トネリコ属											1	1											
Distylium	イスノキ属		1																					
Liquidambar	フウ属																		1					
Lonicera	スイカズラ属	1																						
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉																							
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	1	6	1										1	4		1	2	2			1	1	
Rosaceae	バラ科	1	1																2					1
Leguminosae	マメ科	2	3	1									1							1				
Araliaceae	ウコギ科			1																			2	
Nonarboreal pollen	草本花粉																							
Typha-Sparganium	ガマ属-ミクリ属											1			1				1	1	2	1		
Sagittaria	オモダカ属	1	1																					
Gramineae	イネ科	204	88	4								4	1	5	8	5	2	10	6	4	5	6	5	19
Oriza type	イネ属型	60	23																					
Cyperaceae	カヤツリグサ科	50	56	13									4	1		2	6	5	16	6	17	13	9	12
Aneilema keisak	イボクサ	1																						1
Monochoria	ミズアオイ属	3	2																					
Polygonum sect. *Persicaria*	タデ属サナエタデ節	1	1	1													1							
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	2	3										3		2		3	2	3	3	2	3	1	2
Caryophyllaceae	ナデシコ科	2	1																					
Ranunculus	キンポウゲ科		1	1																				
Cruciferae	アブラナ科	2											2											
Impatiens	ツリフネソウ属		1																					
Ampelopsis brevipeduunculata	ノブドウ																	1	1		1		1	
Haloragis-Myriophyllum	アリノトウグサ属-フサモ属	1																						
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科	1	2	1																				
Apioideae	セリ亜科	3	1	10	3							2	1			1	1		3	2	2	2		
Labiatae	シソ科																							6
Solanaceae	ナス科																			1				
Actinostemma lobatum	ゴキヅル																							1
Lactucoideae	タンポポ亜科	1	3	1																				
Asteroideae	キク亜科	3	1	1																			2	
Artemisia	ヨモギ属	14	10	3	1						4	1	3	2	2	4	3	2	2	7	5	2	8	10
Fern spore	シダ植物胞子																							
Monolate type spore	単条溝胞子	10	5	28	17	2	1			1	6	5	11	9	10	18	2	11	17	13	7	13	9	7
Trilate type spore	三条溝胞子	10	6	7	1						4		4	3	3	3	8	3	4	2	3		1	
Arboreal pollen	樹木花粉	130	177	319	77	1	0	0	1	0	16	383	374	330	352	357	358	503	384	338	353	356	344	415
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	4	10	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	0	1	2	4	1	0	1	3	1
Nonarboreal pollen	草本花粉	349	194	35	4	0	0	0	0	0	4	8	14	8	13	12	16	20	32	24	34	27	26	51
Total pollen	花粉総数	483	381	357	81	1	0	0	1	0	20	391	389	339	369	369	375	525	420	363	387	384	373	467
	試料1cm^{3}中の花粉密度	3.0 $\times10^4$	1.0 $\times10^5$	8.7 $\times10^3$	7.4 $\times10^2$	0.8 $\times10$	0.0	0.0	0.8 $\times10$	0.0	1.6 $\times10^2$	3.3 $\times10^4$	2.5 $\times10^4$	3.8 $\times10^4$	4.0 $\times10^4$	3.6 $\times10^4$	4.4 $\times10^4$	3.3 $\times10^4$	3.0 $\times10^4$	3.2 $\times10^4$	1.9 $\times10^4$	2.5 $\times10^4$	1.5 $\times10^4$	2.1 $\times10^4$
Unknown pollen	未同定花粉	7	8	14	12	0	0	0	0	0	0	8	6	5	7	5	9	6	9	18	20	11	15	14
Fern spore	シダ植物胞子	20	11	35	18	2	1	0	0	1	10	5	15	12	13	21	10	14	21	15	10	13	10	7
Helminth eggs	寄生虫卵																							
Trichuris(trichiura)	鞭虫卵																			1				
Clonorchis sinensis	肝吸虫卵												1											
Total	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	試料1cm^{3}中の寄生虫卵密度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6 $\times10$	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0 $\times10$	0.0	0.0	0.0	0.0
Storne cell	石細胞			(+)																				
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)



図－456　北の崎遺跡（ボーリングNo.２地点）における花粉ダイアグラム

〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ヤナギ属、ヤマモモ属、クルミ属、サワグルミ、ノグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属－アサダ、クリ、シイ属－マテバシイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、アカメガシワ、ジャケツイバラ、サンショウ属、キハダ属、ウルシ属、モチノキ属、ニシキギ科、カエデ属、ムクロジ属、ブドウ属、シナノキ属、ツバキ属、グミ属、ミズキ属、カキ属、モクセイ科、トネリコ属、イスノキ属、フウ属、スイカズラ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、バラ科、マメ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

ガマ属－ミクリ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、ノブドウ、アリノトウグサ属－フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、シソ科、ナス科、ゴキヅル、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

〔寄生虫卵〕

鞭虫卵、肝吸虫卵

②　花粉群集の特徴

砂混り粘性土層（図－456試料29）では、樹木花粉の占める割合が草本花粉より極めて高い。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属、エノキ属－ムクノキ、スギ、シイ属－マテバシイ属が優占し、ニレ属－ケヤキ、クリなどが伴われる。粘性土層下部（試料20 ～ 28）では、コナラ属アカガシ亜属やシイ属－マテバシイ属が増加し、スギは減少している。また、マキ属、モミ属、マツ属複維管束亜属が微増している。試料25では鞭虫卵がわずかに検出された。

粘性土層上部（試料20 ～ 23）からの砂質シルト下部（試料15 ～ 19）にかけては、コナラ属アカガシ亜属が大幅に増加しており、エノキ属－ムクノキなどは減少している。試料17では肝吸虫卵がわずかに検出された。砂質シルト層上部（試料７～ 13）から粘性土層下部（試料４、５）にかけては、花粉があまり検出されなかった。粘性土層上部（試料３）では、砂質シルト層下部（試料15 ～ 19）とほぼ同様の結果である。

シルト（試料２）から粘性土層（試料１）にかけては、草本花粉の占める割合が樹木花粉より高くなる。草本花粉では、イネ属型を含むイネ科が優占し、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが伴われる。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属やシイ属－マテバシイ属が大幅に減少し、マツ属複維管束亜属が増加している。

③　考察

花粉分析から推定される植生と環境（寄生虫卵分析を含む）を各地点ごとにまとめる。

放射性炭素年代測定で7190±50年BPの年代値が得られた砂混り粘質土層（試料29）から6420±40年BPの年代値が得られた粘質土層中部（試料24）にかけては、周辺にコナラ属アカガシ亜属（カシ類）やシイ属－マテバシイ属を主体とする照葉樹林が分布していたと考えられ、エノキ属－ムクノキ、ニレ属－ケヤキ、クリなどの落葉広葉樹、およびスギ、マツ属複維管束亜属（マツ類）、マキ属、スギなどの針葉樹も見られたと推定される。また、林縁などには部分的にイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などの草本が生育していたと考えられる。

粘質土層上部（試料23）から5680±40年BPの年代値が得られた砂質シルト層下部（試料15）にかけては、コナラ属アカガシ亜属（カシ類）などの照葉樹林が大幅に拡大したと考えられ、エノキ属－ムクノキなどの落葉広葉樹は減少したと推定される。砂質シルト層上部（試料７～ 13）から粘性土層下部（試料４、５）にかけては、花粉がほとんど検出されなかった。花粉が検出されない原因としては、前述の試料１－１、３と同様の理由が考えられる。

シルト層（試料２）から粘性土層（試料１）にかけては、水田稲作が行われていたと考えられ、周辺にはオモダカ属、ミズアオイ属などの水田雑草やカヤツリグサ科などが生育していたと推定される。周辺地域ではコナラ属アカガシ亜属（カシ類）やシイ属－マテバシイ属などの照葉樹林が激減し、二次林とみられるマツ類が増加したと考えられる。

文　献

中村純（1973）花粉分析.古今書院，ｐ.82－110.

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原.新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店，ｐ.248－262.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態.大阪市立自然科学博物館収蔵目録第５集，60ｐ.

中村純（1980）日本産花粉の標徴.大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91ｐ.

中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として.第四紀研究，13，ｐ.187－193.

中村純（1977）稲作とイネ花粉.考古学と自然科学，第10号，ｐ.21－30.

金原正明･金原正子（1992）花粉分析および寄生虫.藤原京跡の便所遺構－藤原京７条１坊－，奈良国立文化財研究所，ｐ.14－15.

金原正明（1999）寄生虫.考古学と動物学，考古学と自然科学，２，同成社，ｐ.151－158.

表－８－①　植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

地点・試料		ボーリングNo.2地点									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
分類群	学名	2.22	2.60	3.42	3.75	3.85	3.95	4.05	4.15	4.25	4.42
イネ科	Gramineae (Grasses)										
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	63	86								
キビ族型	Paniceae type		14	7				7			
ヨシ属	*Phragmites* (reed)	14	29	7	7	7		21	8		
ススキ属型	*Miscanthus* type	28	14	35		7	14		15		
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	7	14	7		7			8	15	8
ウシクサ族B	Andropogoneae B type		14						8		
ジュズダマ属	*Coix*										
Bタイプ	B type		29	7							
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)										
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*	7	14								
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*	21	7								
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)										
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*	14	7	7	15	36		7	8	23	30
マダケ属型	*Phyllostachys*	7									
未分類等	Others	14	7	7	7		7				
その他のイネ科	Others										
表皮毛起源	Husk hair origin	14	21	7	7		7		8		
棒状珪酸体	Rod-shaped	183	421	99	37	58	93	21	23	30	8
茎部起源	Stem origin										
未分類等	Others	472	514	340	280	318	385	347	98	76	45
樹木起源	Arboreal										
ブナ科(シイ属)	*Castanopsis*	28	79	71	29	36	36	42	45	8	53
ブナ科(アカガシ亜属)	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*								53	8	
クスノキ科	Lauraceae				7	22	29	21	38	15	30
マンサク科(イスノキ属)	*Distylium*	21	36	7		7	7				
アワブキ科	Sabiaceae	14	7	7				7			
その他	Others	14	71	71	37	51	29	62	60	68	105
(海綿骨針)	Sponge	7							15	15	38
植物珪酸体総数	Total	923	1385	679	427	549	606	534	368	242	278

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡･cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	1.86	2.52								
ヨシ属	*Phragmites* (reed)	0.89	1.80	0.45	0.46	0.46		1.31	0.47		
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.35	0.18	0.44		0.09	0.18		0.19		
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*	0.08	0.17								
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*	0.10	0.03								
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)										
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*	0.04	0.02	0.02	0.04	0.11		0.02	0.02	0.07	0.09

タケ亜科の比率（%）

メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*	36	75								
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*	45	15								
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)										
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*	19	10	100	100	100		100	100	100	100

表－８－②　植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

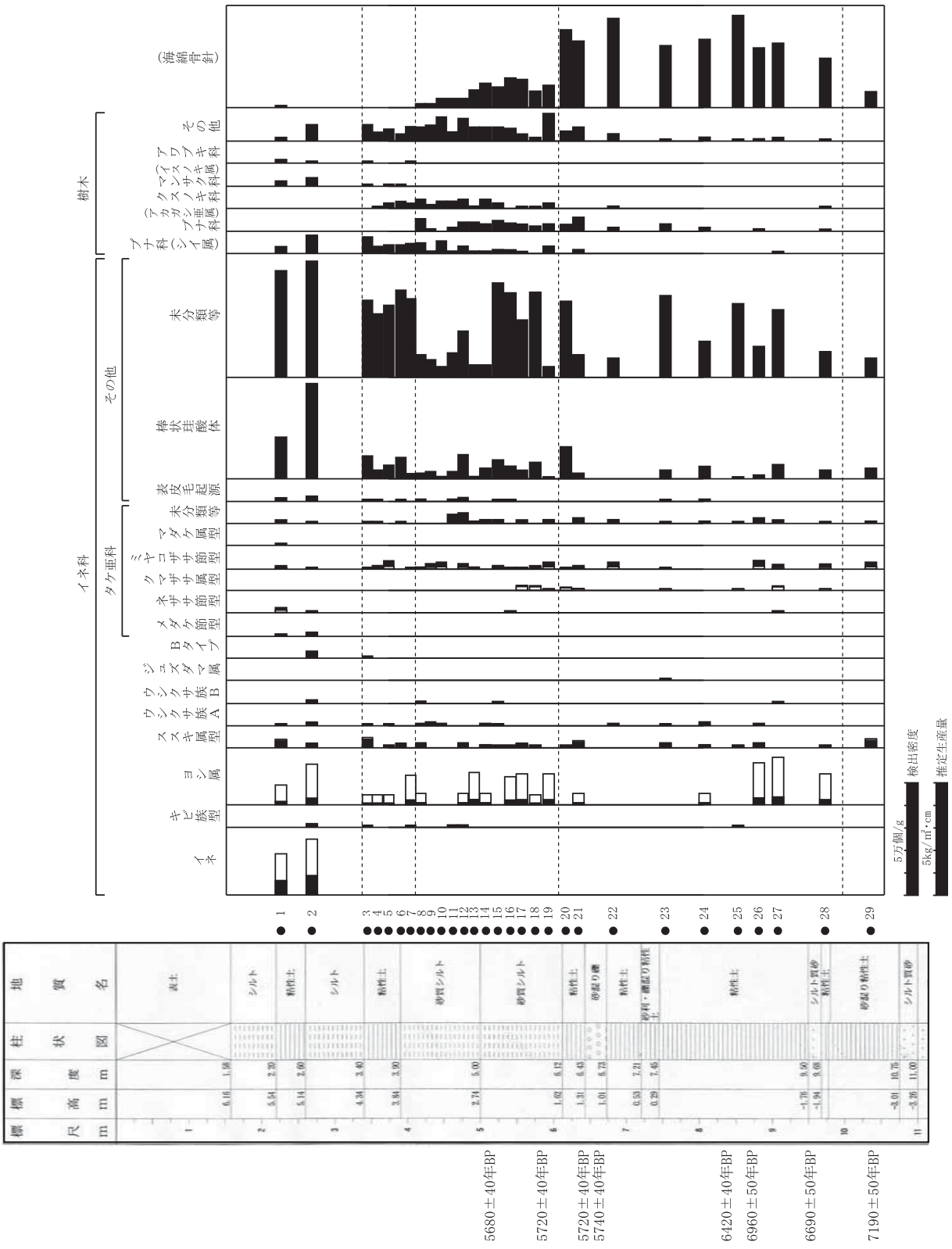
分類群	学名	地点・試料 ボーリングNo.2地点 11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
		4.55	4.74	4.90	5.08	5.25	5.40	5.57	5.70	5.84	6.12	6.28	6.75	7.48	8.10	8.61	8.88	9.11	9.68	10.55
イネ科	Gramineae (Grasses)																			
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)																			
キビ族型	Paniceae type	8	8													7				
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		8	23	8		20	22	7	22		8			8		30	34	22	
ススキ属型	*Miscanthus* type		15		8	7	7	14	7		7	23		15	8	7	15		7	30
ウシクサ族A	Andropogoneae A type				8	7							8	7	15		8			
ウシクサ族B	Andropogoneae B type					7												7		
ジュズダマ属	*Coix*													7						
Bタイプ	B type																			
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)																			
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*																			
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*						7											7		
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)							22	21	7	14	8		7		7		20	7	
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*		23	8		15	7	7	14	30	7	15	30	7			38	20	22	30
マダケ属型	*Phyllostachys*																			
未分類等	Others	38	45	8	15	15		14		15		23	15	7	8	7	23	14	7	8
その他のイネ科	Others																			
表皮毛起源	Husk hair origin	8	15			7	7							7	8					
棒状珪酸体	Rod-shaped	30	105	8	45	82	54	36	71	7	140	23		37	53	7	15	61	37	45
茎部起源	Stem origin																			
未分類等	Others	106	203	53	53	417	373	253	376	45	336	98	83	361	158	325	135	298	112	83
樹木起源	Arboreal																			
ブナ科(シイ属)	*Castanopsis*	8	30	8	8	15	14	7		30		15						7		
ブナ科(アカガシ亜属)	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	15	38	38	30	45	34	29	21	30	28	60	15	30	15		8		7	
クスノキ科	Lauraceae	30	38	8	38	22		7	7	22			8						7	
マンサク科(イスノキ属)	*Distylium*																			
アワブキ科	Sabiaceae																			
その他	Others	38	98	60	60	60	54	29	14	120	42	60	30	7	15	7	8	14	7	
(海綿骨針)	Sponge	38	38	76	106	89	129	123	71	97	343	293	394	273	301	407	263	284	217	68
植物珪酸体総数	Total	279	623	212	272	699	577	441	539	329	575	330	189	494	285	370	278	481	240	196

おもな分類群の推定生産量（単位：kg / m²・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)																			
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		0.47	1.43	0.48		1.28	1.37	0.45	1.42		0.47			0.47		1.90	2.14	1.42	
ススキ属型	*Miscanthus* type		0.19		0.09	0.09	0.08	0.18	0.09		0.09	0.28		0.18	0.09	0.09	0.19		0.09	0.37
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*																			
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*						0.03											0.03		
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)							0.16	0.16	0.06	0.11	0.06		0.06		0.06		0.15	0.06	
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*		0.07	0.02		0.04	0.02	0.02	0.04	0.09	0.02	0.05	0.09	0.02			0.11	0.06	0.07	0.09

タケ亜科の比率（%）

メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*																			
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*						62											13		
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)							88	79	38	83	56		71		100		62	45	
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*		100	100		100	38	12	21	62	17	44	100	29			100	25	55	100



図－457　北の崎遺跡（ボーリングNo.２地点）における植物珪酸体分析結果

５　植物珪酸体分析

（１）分析の目的

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（SiO_2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。また、イネの消長を検討することで、埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

（２）分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

① 試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
② 試料約１ｇに対し直径約40㎛のガラスビーズを約0.02ｇ添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
③ 電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理
④ 超音波水中照射（300W･42KHz･10分間）による分散
⑤ 沈底法による20㎛以下の微粒子除去
⑥ 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
⑦ 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１ｇ中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：10－５ｇ）をかけて、単位面積で層厚１㎝あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる。イネの換算係数は2.94（種実重は1.03）、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75、ミヤコザサ節は0.30である（杉山，2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

（３）分析結果

①　分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表－８－①、表－８－②および図－457に示した。また、主要な分類群の写真は、写真－31に示した。

以下に出現した分類群を記す。

〔イネ科〕

イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族Ａ（チガヤ属など）、ウシクサ族Ｂ（大型）、ジュズダマ属、Ｂタイプ

〔イネ科－タケ亜科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、マダケ属型（マダケ属、ホウライチク属）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

〔樹木〕

ブナ科（シイ属）、ブナ科（アカガシ亜属）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）、アワブキ科、その他

②　植物珪酸体の検出状況

約2.2m深の粘性土層から約10.5m深の砂混じり粘性土層までの層準について分析を行った。その結果、砂混じり粘性土層（試料29）では、少量ではあるもののススキ属型やミヤコザサ節型などが検出された。また、海綿骨針も検出された。

粘性土層（試料20 ～ 28）では、海綿骨針が多量に検出された。海綿骨針の密度は最大４万個以上に達している。また、部分的にヨシ属やウシクサ族A､およびアカガシ亜属などの樹木（照葉樹）も検出された。

砂質シルト層下部（試料14 ～ 19）では、ブナ科（シイ属）、アカガシ亜属、クスノキ科などの樹木（照葉樹）が増加し、海綿骨針は大幅に減少している。砂質シルト層上部（試料２－６～ 13）では、海綿骨針がさらに減少し、ほとんど見られなくなる。

粘性土層（試料３～５）では､ブナ科（シイ属）が増加し、アカガシ亜属は見られなくなる。

シルト層（試料２）と粘性土層（試料１）では、イネが検出された。イネの密度は6,300 ～ 8,600個/ｇと高い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/ｇを上回っている。

おもな分類群の推定生産量によると、多くの層準でヨシ属が優勢であり、上位のシルト層と粘性土層ではイネが卓越している。

（4）考察

植物珪酸体分析から推定される植生と環境をまとめる。

放射性炭素年代測定で7190±50年BPの年代値が得られた砂混じり粘質土層（試料29）から5720±40年BPの年代値が得られた粘質土層（試料20）にかけては、海綿骨針が多量に検出されることから、干潟など海水の影響を受ける堆積環境であったと考えられ、部分的にヨシ属などが生育する湿地的なところも見られたと推定される。また、周辺域にはススキ属やチガヤ属、ササ類などが生育していたと考えられ、アカガシ亜属などの照葉樹も分布していたと推定される。

5680±40年BPの年代値が得られた砂質シルト層（試料８～ 19）の堆積当時は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、周辺にはススキ属やチガヤ属、ササ類、およびシイ属、アカガシ亜属、クスノキ科などの照葉樹林が分布していたと推定される。また、海綿骨針が認められることから、何らかの海水の影響を受けていた可能性が考えられるが、砂質シルト層上部（試料６、７）よりも上位では海水の影響はなくなったと推定される。

シルト層（試料２）および粘質土層（試料１）の堆積当時は、水田稲作が行われていたと考えられ、周辺にはヨシ属などが生育する湿地的なところや、ススキ属やチガヤ属、メダケ属などが生育する草原的なところも分布していたと推定される。また、周辺域にはシイ属やイスノキ属などの照葉樹林が分布していたと考えられる。

文　献

中村純（1973）花粉分析.古今書院，ｐ.82－110.

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原.新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店，ｐ.248－262.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態.大阪市立自然科学博物館収蔵目録第５集，60ｐ.

中村純（1980）日本産花粉の標徴.大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91ｐ.

中村純（1974）イネ科花粉について､とくにイネ（Oryza sativa）を中心として.第四紀研究，13，ｐ.187－193.

中村純（1977）稲作とイネ花粉.考古学と自然科学，第10号，ｐ.21－30.

金原正明･金原正子（1992）花粉分析および寄生虫.藤原京跡の便所遺構－藤原京７条１坊－，奈良国立文化財研究所，ｐ.14－15.

金原正明（1999）寄生虫.考古学と動物学，考古学と自然科学，２，同成社，ｐ.151－158.

６　珪藻分析

（1）分析の目的

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映していることから、水域を主とする古

環境復原の指標として利用されている。

（2）方法

以下の手順で珪藻を抽出し、プレパラートを作成した。

① 試料から乾燥重量１ｇを秤量
② 10%過酸化水素水を加え、加温しながら一晩放置
③ 上澄みを捨て、細粒のコロイドと薬品を水洗
④ 残渣をマイクロピペットでカバーグラスに滴下して乾燥
⑤ マウントメディアによって封入し、プレパラート作成
⑥ 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって600 ～ 1000倍で行った。計数は珪藻被殻が100個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

（3）分析結果

① 分類群

試料から出現した珪藻は、真－中塩性種（海－汽水生種）59分類群、中－貧塩性種（汽－淡水生種）分類群、貧塩性種（淡水生種）127分類群である。計数された珪藻の学名と個数を表－９に示し、珪藻総数を基数とする百分率を算定したダイアグラムを図－458に示す。以下にダイアグラムで表記した主要な分類群を記す。珪藻の主要な分類群の顕微鏡写真は写真－32及び写真－33に示した。

北の崎遺跡湿地区地点（試料１～ 29）

〔真－中塩性種〕

Achnanthes delicatula、*Bacillaria paradoxa*、*Coscinodiscus spp.*、*Cyclotella striata－stylorum*、*Cyclotella sp.*、*Diploneis smithii*、*Nitzschia granulata*、*Nitzschia levidensis v.victoriae*、*Paralia sulcata*、*Thalassionema nitzschioides*、*Thalassiosira sp.*

〔貧塩性種〕

Achnanthes lanceolata、*Amphora copulata*、*Cocconeis placentula*、*Navicula contenta*、*Navicula elginensis*、*Navicula kotschyi*、*Navicula mutica*、*Nitzschia brevissima*

② 藻群集の特徴

珪藻構成と珪藻組成の変化から、下位より７帯の珪藻分帯を行った。

Ⅰ帯（試料24 ～ 29）：真－中塩性種（海－汽水生種）の占める割合が貧塩性種（淡水生種）よりも高い。真－中塩性種（海－汽水生種）では外洋、内湾環境指標種群の*Coscinodiscus spp.*、*Paralia sulcata*、*Thalassionema nitzschioides*、*Thalassiosira sp.*、*Cyclotella striata－stylorum*、*Cyclotella sp.*などが多く出現する。貧塩性種（淡水生種）では流水性種で中～下流水性河川環境指標種群の*Achnanthes lanceolata*、沼沢湿地付着生種の*Cocconeis placentula*などが出現する。

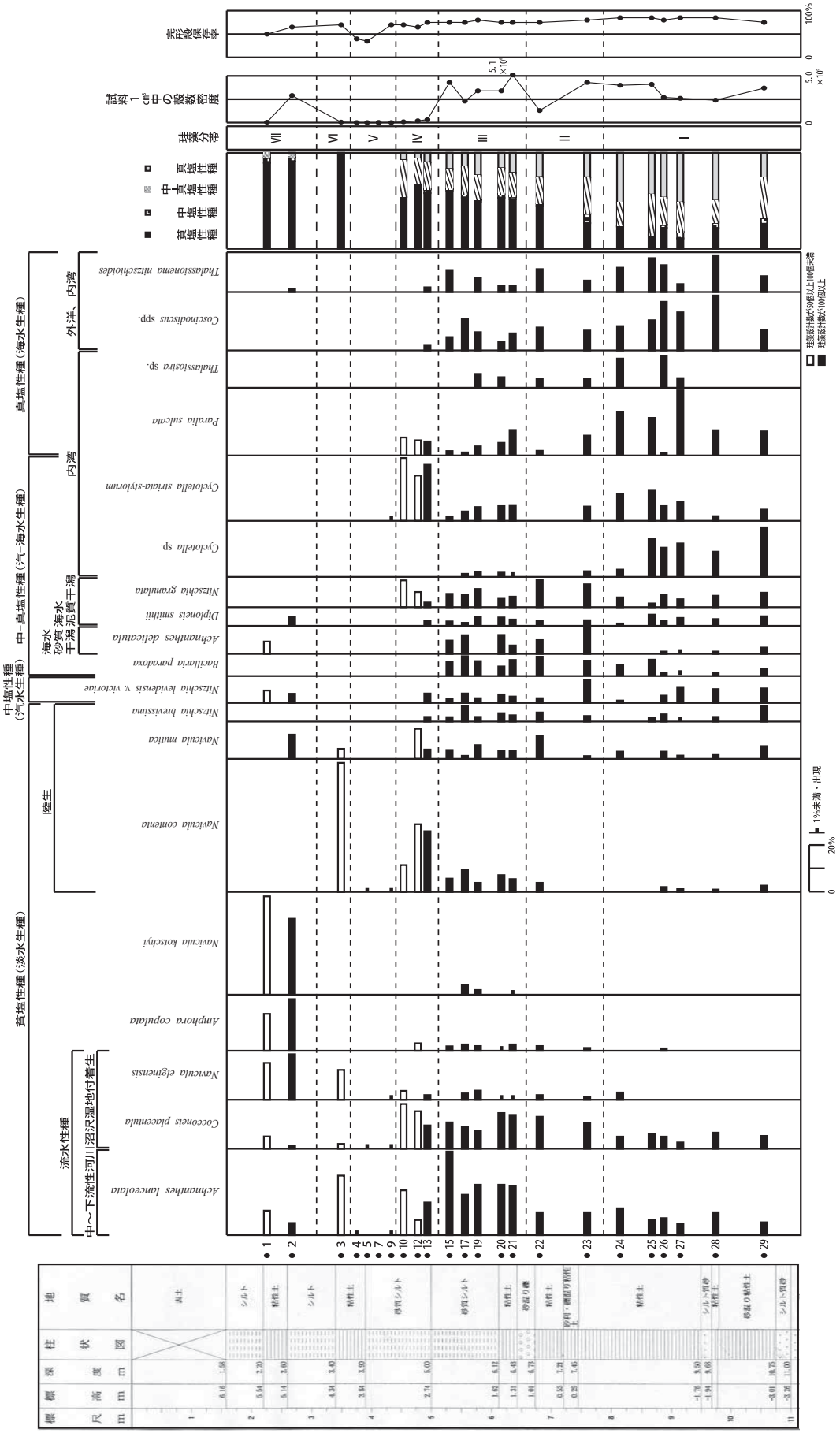
Ⅱ帯（試料22、23）：真－中塩性種（海－汽水生種）の占める割合が貧塩性種（淡水生種）よりも非常に高い。真－中塩性種（海－汽水生種）では海水砂質干潟環境指標種群の*Achnanthes delicatula*、海水泥質干潟環境指標種群の*Nitzschia granulata*、外洋、内湾環境指標種群の*Coscinodiscus spp.*、*Paralia sulcata*、*Thalassionema nitzschioides*などが高率で出現する。貧塩性種（淡水生種）では流水性種で中～下流水性河川指標種群の*Achnanthes lanceolata*、沼沢湿地付着生種の*Cocconeis placentula*などが多く出現する。

Ⅲ帯（試料15 ～ 21）：真－中塩性種（海－汽水生種）の占める割合が貧塩性種（淡水生種）よりも高い。貧塩性種（淡水生種）では下位の分帯より流水性種の割合が増加し、中～下流水性河川環境指標種群の*Achnanthes lanceolata*、沼沢湿地付着生種の*Cocconeis placentula*などが優占して出現する。真－中塩性種（海－汽水生種）では海水泥質干潟環境指標種群の*Nitzschia granulata*、外洋、内湾環境指標種群の*Coscinodiscus spp.*、*Paralia sulcata*、*Thalassionema nitzschioides*などが高率で出現する。

Ⅳ帯（試料10 ～ 13）：真－中塩性種（海－汽水生種）の占める割合が貧塩性種（淡水生種）よりも高い。貧塩性種（淡水生種）では流水性種の中～下流水性河川環境指標種群の*Achnanthes lanceolata*、沼沢湿地付着生種の*Cocconeis placentula*、陸生

表－９　珪藻分析結果

分類群	ボーリング№２地点 1	2	3	4	5	7	9	10	12	13	15	17	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
貧塩性種（淡水生種）																							
Achnanthes clevei				1				1															
Achnanthes exigua	1	4	1					1	1	3	4	4	3	2	2	1							
Achnanthes hungarica			2								1	1											
Achnanthes inflata																	1						
Achnanthes lanceolata	2	4	12	1			1	5	2	7	19	13	11	24	23	5	8	11	4	7	7	10	8
Amphora copulata	3	17							1		1	2	1	1	3	1	1			1			
Amphora montana	1											1											
Amphora normanii		1	2					6	1	3	1	1	1	2			5		2				
Amphora sp.											3	4		3	1	1		2		3	1	2	
Anomoeoneis sphaerophora		3																					
Aulacoseira granulata												1											
Aulacoseira sp.														1	1				1		1	1	3
Caloneis hyalina										1	1			1	1		1						
Caloneis lauta		2																					
Caloneis silicula		5																			1		
Caloneis sp.																			1				
Cocconeis neodiminuta									1	2		3	2	1	2			1			1	1	1
Cocconeis placentula	1	1	1		1		1	5	5	5	6	7	4	17	16	7	9	5	4	5	4	7	8
Cyclotella sp.												1	1	2	1		2	3	10	12	21	11	31
Cymbella minuta			1								1				1		1						
Cymbella naviculiformis	3	1																					
Cymbella silesiaca	2	3												1								1	
Cymbella sinuata								1				3	2	1	5	1					1		
Cymbella subaequalis		2																					
Cymbella tumida										1			2	1				3		1			
Cymbella turgidula												1	3	1				1			1	1	1
Diploneis elliptica										1													
Diploneis ovalis		2													1	1							
Diploneis parma																	2	1					
Diploneis sp.		2						1	1				1	2	1	1							
Diploneis subovalis		1																					
Epithemia adnata								4															
Eunotia minor			1					1			1			1			1	1	2		1		
Fragilaria brevistriata			1		1			2	2	2	1	2		8	6	3	2					1	
Fragilaria capucina	1												2	2		1	2	1	2		4		
Fragilaria construens	4	6							1	2		1		1	1	3				1			
Fragilaria construens v. *binodis*																				1			
Fragilaria construens v. *subsalina*		3																					
Fragilaria leptostauron										1	2				1							1	1
Fragilaria parasitica	1	1	1												1								
Fragilaria pinnata		2								3									1				
Frustulia rhomboides v. *saxonica*														1									
Frustulia vulgaris														2	1	1							
Gomphonema angustatum																	1					1	
Gomphonema angustum													1						1				
Gomphonema augur		4																					
Gomphonema clevei								3									1						
Gomphonema gracile	1	5																					
Gomphonema minutum		1									2		1	2	1			1				1	
Gomphonema olivaceum															1	1	1		1				
Gomphonema parvulum	4	4												3	2		1				1		
Gomphonema pseudoaugur		1																					
Gomphonema sp.										2	1	2		8	4	1	2	1	1		5		1
Gyrosigma sp.	1	4												2	2	2				1	1	2	
Hantzschia amphioxys		3	1																				
Meridion circulare v. *constrictum*	1																		1		1		
Navicula bacillum		1																					
Navicula cohnii																					1		
Navicula concentrica											6	1	3	1	1		1	2		1		1	1
Navicula confervacea	5	5	1				2																
Navicula contenta			26		1		2	3	9	13	3	7	2	8	6	2				2	2	1	4
Navicula cryptotenella	2	1							1		1	2	1		3	2	1	2	1		2		2
Navicula decussis	2	9																					
Navicula elginensis	3	15	6				1	1		1		2	2	1	1	1	1	3					
Navicula erifuga												2									3		2
Navicula goeppertiana																							1
Navicula gregaria															1								
Navicula kotschyi	8	25										3	1		1								
Navicula laevissima		3																					
Navicula margalithii													1	1	7	3	1						
Navicula meniscus										1													
Navicula mutica		8	2						4	2	2	1	3	4	4	5	1	3		3	2	2	8
Navicula oppugnata											2												
Navicula placenta v. *obtusa*		1																					
Navicula placentula		7																					
Navicula pupula		6									1			1		1			1	1		2	
Navicula pygmaea																	2	1	1			1	
Navicula radiosa													2										
Navicula recens														3			4	2	1				
Navicula reinhardtii														1	1							1	
Navicula rhychocephala												1								1			
Navicula spp.											4	5		5	4	2							
Navicula sp1.												1			1								
Navicula sp2.									2			2			1	2	1		2		1		2
Navicula viridula v. *rostellata*	1	5									1		1	3	5				1			1	2
Neidium ampliatum		1																					
Neidium iridis		1																					
Nitzschia brevissima										1	1	5	1	4	3	2	2		1	3	1	2	10
Nitzschia clausii														2									
Nitzschia frustulum								1			1			2			1						1
Nitzschia palea											2	3	1	1	1	2				19			
Nitzschia recta															2								
Nitzschia sinuata		2								1													
Nitzschia sp1.										3				1	4		3						
Nitzschia sp2.										2			3	5									
Pinnularia acrosphaeria		2																					
Pinnularia hemiptera		1																					
Pinnularia interrupta		1																					
Pinnularia microstauron		3								2											1		
Pinnularia schoenfelderi													1										
Pinnularia schroederii	1	5						3	2	7	3												
Pinnularia viridis		2												1									
Rhoicosphenia abbreviata												1	1	1	1	3	2	1	2	3	1	2	1
Rhopalodia gibba	1	7																					
Rhopalodia sp.														1									
Stauroneis lauenburgiana		2																				1	1
Stauroneis phoenicenteron		5																					
Stauroneis smithii			1						1	1			1	2	2		1						
Surirella angusta													2		1	1							
Surirella sp.																	2	2	3		4	3	5
Synedra ulna													1		2			1	1		1		1
Thalassiosira bramaptrae										2	4				3								
貧-中塩性種（淡-汽水生種）																							
Achnanthes brevipes								2	1	2	1	2	1	1	2	1	1	5		1	6	2	2
Rhopalodia gibberula		2						4	2	5	1	1	1		1			1		1			
中-真塩性種（汽-海水生種）																							
Achnanthes delicatula	1										3	6		9	4	3	9			1	1	1	4
Actinocyclus spp.																				6	4		
Actinoptychus undulatus												1	1	1				1			1		
Amphora coffeaeformis										1		1	1	3	8	6	1						2
Amphora holsatica																		1		1			
Bacillaria paradoxa											3	6	3	4	7	4	5	4	4	1	1	1	4
Caloneis amphisbaena fo. *subsalina*													1										
Caloneis permagna																				1	1		
Caloneis westii										1													
Cocconeis scutellum												3						1					
Coscinodiscus lineatus													3	2					1		3		
Coscinodiscus marginatus										1	1	1			2				3	7	2	7	6
Coscinodiscus spp.										1	3	10	4	4	8	5	7	10	8	20	24	24	13
Cyclotella striata-stylorum							1	7	6	12	1	3	3	7	7		5	11	8	6	12	2	7
Diploneis interrupta													1		1								
Diploneis pseudovalis		1						12	3														
Diploneis smithii		3								1	1	1	2	4	3	1	2	1	3	2	5	3	6
Diploneis weissflogii											1	1		1	1	2	1	1	1		1	1	1
Hantzschia distinctepunctata															1								
Hantzschia marina														1									
Melosira lineata																						1	
Navicula capitata v. *hungarica*									1		2		2	2	5	3	2	1	1	1	2	2	2
Navicula crucicula												1		3		1	3						
Navicula delta													2				1						
Navicula digitoradiata																					1		
Navicula menisculus													1		2						3	1	
Navicula meniscus											3	4											
Navicula yarrensis																				2	1		
Nitzschia coarctata														1									
Nitzschia cocconeiformis								2		1		1	1	1			1		2	1	2		
Nitzschia compressa								1	1				1	2	4	1	3		1				
Nitzschia compressa v. *elongata*																1		1					
Nitzschia constricta											1	1	1	3	1		1	1				1	2
Nitzschia granulata								3	2	1	3	4	4	4	5	6	8	4	1	5	5	5	9
Nitzschia lanceola											1				2						2		4
Nitzschia levidensis v. *victoriae*	1	3								2	1	3	1	4	3	1	8	1		3	10	6	9
Nitzschia littoralis												2					2	2					4
Nitzschia lorenziana											2	1		2		1				1	1		1
Nitzschia sigma											1	1		1	1			1		1			2
Opephora olsenii								6			1	2	1	2	1	1	1	2					2
Paralia sulcata								2	2	3	1	1	2	6	12	1	7	18	10	1	41	11	15
Podosira stelliger																				1	1	1	
Rhaphoneis surirella										1	1	2	2	1	2		2	1	4	4	3	1	
Rhopalodia musculus		6							1			1	4	2	2	1	3						
Thalassionema nitzschioides		1								1	5		3	3	3	5	4	10	9	11	5	16	10
Thalassionema sp.																			6				
Thalassiosira nitzschoides												11											
Thalassiosira sp.													3	5		2	3	12		13	6		
Trachyneis sp.																					2		
Trachysphenia australis																					2	1	
Tryblioptychus cocconeiformis												1	1	1	1	1	3	2	4	3	6	1	5
合　計	51	216	59	2	3	0	8	77	53	102	112	155	112	218	222	103	147	140	111	159	224	145	205
未同定	2	8	8	0	1	0	3	28	11	15	19	30	26	46	44	20	24	18	10	16	19	20	22
破片	48	132	28	3	8	0	5	46	32	44	46	61	31	87	95	46	37	25	21	46	48	33	72
試料１cm^{3}中の殻数密度	4.2×10^4	2.9×10^6	5.3×10^4	1.6×10^3	1.6×10^3	0.0	4.0×10^3	8.4×10^4	1.9×10^5	3.2×10^5	4.3×10^6	2.3×10^6	3.4×10^6	3.4×10^6	5.1×10^6	1.3×10^6	4.3×10^6	4.0×10^6	4.1×10^6	2.7×10^6	2.6×10^6	2.4×10^6	3.7×10^6
完形殻保存率（%）	52.5	62.9	70.5	40.0	33.3	(-)	68.8	69.5	66.7	72.7	74.0	75.2	81.7	75.2	73.7	72.8	82.2	86.3	85.2	79.2	83.5	83.3	75.9



図－458　北の崎遺跡（ボーリングNo.2地点）における主要珪藻ダイアグラム

表－10　北の崎湿地区（ボーリングNo.２地点）の地質状況

下端標高 [m]	深 度 [m]	地　層	観 察 記 事
7.74 6.16	 1.58	表土	・褐色のシルト～砂を主体とし、所々に小礫を含む。 ・コアは指圧で少々凹む程度の締まり具合である。 ・含水比は中位と推定される。
  4.34	 3.40	シルト主体	・暗灰色～黒色のシルトを主体とする。 ・コアは指圧で容易に凹む程緩い。 ・含水比は中位と推定される。
  2.74	 5.00	砂質シルト主体	・暗緑灰色の砂質シルトを主体とする。 ・コアは指圧でほとんど凹まない程度の締まり具合である。 ・含水比は低いと推定される。
  1.01	 6.73	砂質シルト主体	・暗灰色の砂質シルトを主体とする。 ・コアは指圧で少々凹む程度の締まり具合である。 ・含水比は中位と推定される。 ・鬼界アカホヤ火山灰が砂質シルト中に混入する。
  -3.01	 10.75	粘性土主体	・黒色～暗灰色の粘性土を主体とし、所々に細粒砂や細礫を含む。 ・コアは指圧で容易に凹む程緩い。 ・含水比は中位～高いと推定される。
  -5.14	 12.88	砂主体	・暗褐色の細粒～中粒砂を主体とし、所々に小礫を含む。 ・コアは指圧で容易に崩せる程緩い。 ・含水比は高いと推定される。
  -9.11	 16.85	砂混じり 礫主体	・大小様々な礫を主体とする。礫間にシルト～砂が存在する。 ・コアは礫状を呈する。 ・含水比は高いと推定される。 ・色調は褐灰色～暗褐色を呈する。
  -18.01	 25.75	軽石混じり 砂主体	・暗灰色で、軽石、スコリアと粒径の不均一な砂より構成される。 ・コアは指圧で崩せない程度の締まり具合である。 ・含水比は低いと推定される。 ・阿蘇火砕流堆積物(Aso-3)に相当する。
  -22.26	 30.00	礫主体	・大小様々な亜角礫～亜円礫を主体とする。 ・礫種は主に片岩である。 ・礫間にマトリックスはほとんどみられない。

珪藻の*Navicula contenta*などが優占して出現する。真－中塩性種（海－汽水生種）では内湾環境指標種群の*Cyclotella striata*－*stylorum*、*Paralia sulcata*が多く出現し、海水泥質干潟環境指標種群の*Nitzschia granulata*、外洋、内湾環境指標種群などが伴われる。

Ⅴ帯（試料４～９）：珪藻密度が非常に低く、珪藻はほとんど検出されなかった。

Ⅵ帯（試料３）：検出された珪藻は、ほとんど貧塩性種（淡水生種）であった。陸生珪藻の*Navicula contenta*が優占し、流水性種の中～下流水性河川環境指標種群の*Achnanthes lanceolata*、沼沢湿地付着生種の*Navicula elginensis*などが伴われる。

Ⅶ帯（試料１、２）：真－中塩性種（海－汽水生種）よりも貧塩性種（淡水生種）の占める割合が非常に高い。貧塩性種で流水不定性種の*Navicula kotschyi*が優占し、*Amphora copulata*、沼沢湿地付着生種の*Navicula elginensis*などが伴われる。真－中塩性種（海－汽水生種）では中塩性種（汽水生種）の*Nitzschia levidensis* v.*victoriae*、海水泥質干潟環境指標種の*Diploneis smithii*、海水砂質干潟環境指標種群の*Achnanthes delicatula*などが出現する。

（４）考察

珪藻分析から推定される堆積環境を、以下まとめる。

放射性炭素年代測定で7190±50年BPの年代値が得られた砂混じり粘質土層（試料29）から6420±40年BPの年代値が得られた層準付近（試料24）にかけては、外洋、内湾環境指標種群の真塩性種（海水生種）、海水砂質干潟環境指標種群、海水泥質干潟環境指標種群を主とする真－中塩性種（海－汽水生種）が優占することから、湾外からの影響を受ける内湾から干潟の環境が示唆される。貧塩性種（淡水生種）は近隣の河川の流れ込みによると考えられる。上位に向かい海水準が若干高くなり、湾外からの影響を受ける内湾の環境が拡大すると考えられる。

5740±40年BPの年代値が得られた層準より下位の粘性土層（試料22、23）では、海水砂質干潟環境指標種群、海水泥質干潟環境指標種群および流水性の中～下流水性河川環境指標種群と沼沢湿地付着生種の貧塩性種（淡水生種）が増加し、外洋、内湾環境指標種群はやや減少することから、干潟環境と河川の河口域の環境が示唆され、海水準の低下が考えられる。

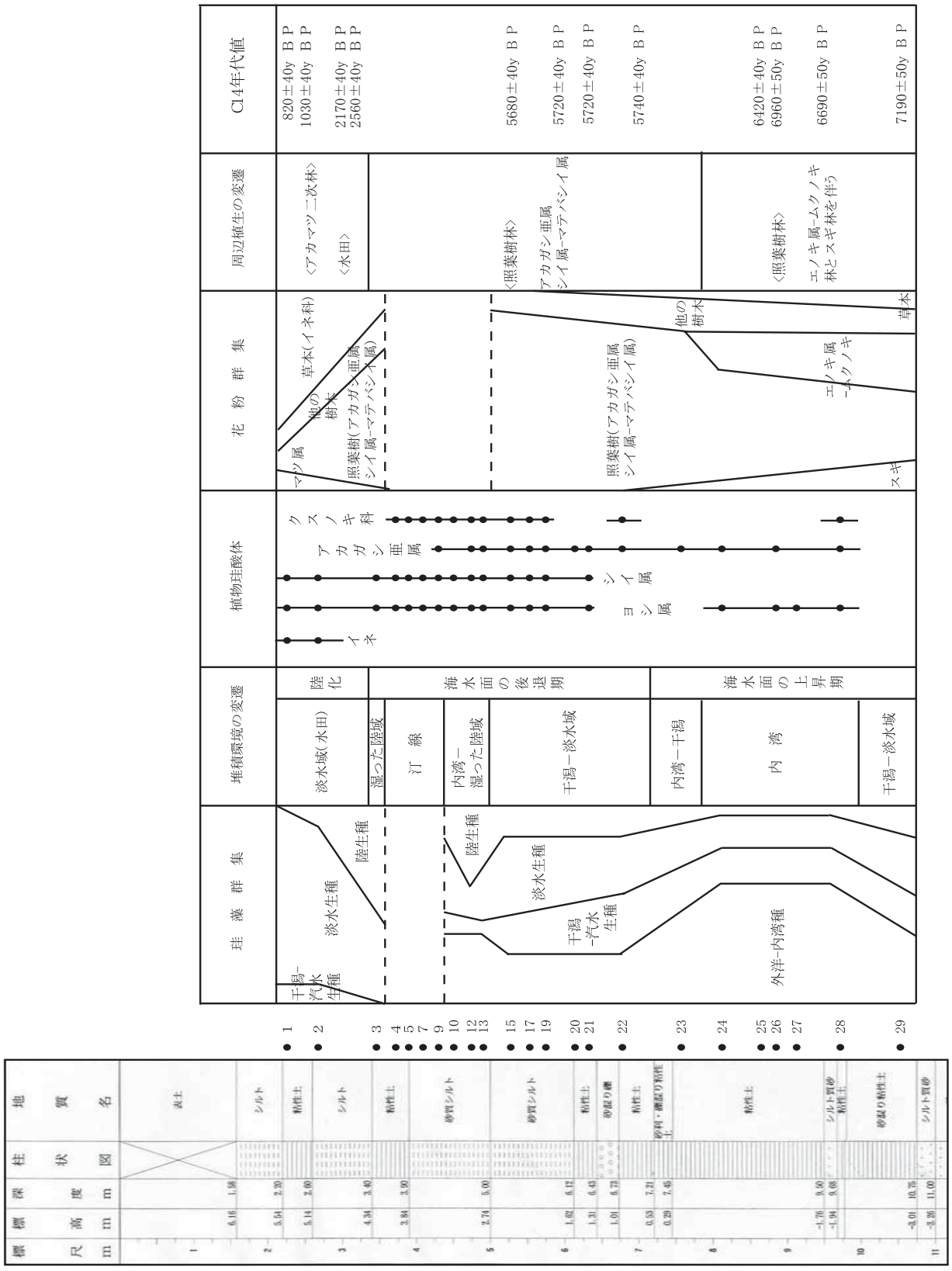
5720±40年BPの年代値が得られた層準直下の粘質土層（試料20、21）から5680±40年BPの年代値が得られた砂質土シルト層（試料15～19）にかけては、流水性の中～下流水性河川環境指標種群、沼沢湿地付着生種が優占し、海水泥質干潟環境指標種群、外洋、内湾環境指標種群、陸生珪藻が出現することから、近隣に陸域を伴う河川の河口域環境が示唆され、潮の干満により干潟、内湾、湾外からの影響があったと考えられる。

砂質土シルト層中部（試料10～13）では、内湾環境指標種群、流水性の中～下流水性河川環境指標種群、沼沢湿地付着生種、陸生珪藻が優占し、海水泥質干潟環境指標種群が伴われることから、河川の河口域の影響の強い内湾環境が陸域に接する湿地の環境が示唆される。

砂質土シルト層上部（試料５～９）から粘性土層下部（試料４）にかけては、珪藻がほとんど検出されなかった。珪藻が検出されない原因としては、珪藻の生育に適さない乾燥した堆積環境であったことや、水流による淘汰を受けたことなどが考えられる。

粘性土層上部（試料３）では、陸生珪藻が優占し、中～下流水性河川環境指標種群、沼沢湿地付着生種の流水性種が伴われることから、河川に接するやや乾燥した湿地の環境が示唆される。

シルト層（試料２）から粘性土層（試料１）にかけては、流水不定性種を主に、沼沢湿地付着生種、中～下流性河川環境指標種群の流水性種が優占することから、河川に接する不安定な淡水域が示唆される。



図－459　北の崎遺跡（ボーリングNo.２地点）における分析結果総合図

文　献

Hustedt,F.（1937－1938）Systematische und ologishe Untersuchungen uber die Diatomeen-Flora von Java,Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch.Hydrobiol,Suppl.15,p.131－506.

Patrick, R.eimer, C. W.（1966）The diatom of the United States, vol. 1. Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No.13, The Academy of Natural Siences of Philadelphia, 644p.

Lowe,R.L.（1974）Environmental Requirements and pollusion tolerance of fresh－water diatoms. 333p., National Environmental Reserch.Center.

Patrick, R.eimer, C. W.（1975）The diatom of the United States, vol. 2. Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No.13, The Academy of Natural Siences of Philadelphia, 213p.

Asai,K.&,Watanabe,T.（1995）Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relaiting to Organic Water Pollution（2）Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom,10,p.35－47.

小杉正人（1986）陸生珪藻による古環境解析とその意義－わが国への導入とその展望－.植生史研究，第1号，植生史研究会，p.29－44.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用.第四紀研究，27，p．1－20.

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用.東北地理，42，p.73－88.

伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用.珪藻学会誌，6，p.23－45.

7　ボーリング試料を使った自然科学分析の総合所見

（1）北の崎遺跡湿地区の地質状況

（ボーリング調査結果より）

北の崎遺跡湿地区の概略地質は、表－10に示した通りである。

北の崎遺跡湿地区は阿蘇火砕流堆積物（Aso－3）の堆積以降、旧木葉川の影響を受け礫や砂主体の地層が堆積したと考えられる。その後、粘性土やシルトが堆積するような穏やかな堆積環境になったと考えられる。この時期は砂質シルト（標高2.74m～1.01m）中に含まれる鬼界アカホヤ火山灰が約6000～6500年前に堆積したことを考慮すると、砂質シルトより下位にある粘性土は縄文海進の時期に堆積し、砂質シルトやシルトは海退期に堆積したものと想定される。

（2）北の崎遺跡湿地区における古環境の変遷

（自然科学分析結果より）

自然科学分析の結果をもとに、古環境の変遷について以下にまとめる。

北の崎遺跡湿地区（ボーリング№2地点）では、深度2.22～10.55m（標高5.52～－2.81m）の地層について、分析を実施した。№2地点の分析結果を取りまとめたものを、表－10および図－459に示す。

年代測定では、深度5.24m（標高2.50m）の砂質シルト層（試料1）で5680±40yBP、深度5.98m（標高1.76m）の砂質シルト層（試料2）、その下位の深度6.38m（標高1.36m）の粘性土層（試料3）で5720±40yBP、深度7.07m（標高0.67m）の粘性土層（試料4）で5740±40yBP、深度8.59m（標高0.85m）、深度8.85m（標高－1.11m）の粘性土層（試料5、6）でそれぞれ6420±40yBP、6960±50yBP、深度9.53m（標高－1.79m）のシルト質砂層（試料7）で6690±50yBP、深度10.55m（標高－2.81m）の砂混じり粘性土層（試料8）で7190±50yBPの年代が得られており、縄文時代早期後半から前期前半にあたる。なお、コア観察では深度5.00m～6.00m（標高1.94m～0.94m）区間には火山灰質シルト層（アカホヤ）が混入することを確認した。

調査地点周辺の植生は、大きく3分帯に分類される。下位から順番に、第Ⅰ期は試料24（6420±40yBP頃）～試料29（7190±50yBP頃）、第Ⅱ期は試料3（年代測定未実施）～試料23（5740±40yBP頃）、第Ⅲ期は試料1～2（コア観察によ

り中世の地層と推定）である。第Ⅰ期は、照葉樹林のコナラ属アカガシ亜属やシイ属―マテバシイ属を主体とし、エノキ属－ムクノキ、ニレ属－ケヤキ、クリなどの落葉広葉樹、スギモなどの針葉樹も分布していた。また周囲には、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などの草本類も生育していた。第Ⅱ期になると、照葉樹林が拡大し、落葉広葉樹、針葉樹は減少する。さらに第Ⅲ期になると、水田稲作が行われるようになり、周辺にはオモダカ属、ミズアオイ属などの水田雑草やカヤツリグサ科などが生育していた。照葉樹林は激減し、二次林と見られるマツ属が増加する。

調査地点の堆積環境は、下位から砂混じり粘性土層（試料29、7190±50yBP頃）では干潟－淡水域の環境、粘性土層下位（試料24 ～ 28、6420±40yBP ～ 6960±50yBP頃）では内湾の環境、粘性土層上位（試料23、6420±40yBP頃）では内湾－干潟の環境、砂質シルト層（試料15、5680±40yBP頃）～粘性土層（試料22、5720±40yBP ～ 5740±40yBP）では、干潟－淡水域の環境、砂質シルト層下位（試料10 ～ 13、5680±40yBP以降）では内湾－湿った陸域の環境、粘性土層下位（試料４、５）～砂質シルト層上位（試料６～９）では汀線付近の環境、粘性土層上位（試料３）では湿った陸域環境、粘性土層（試料１）～シルト層（試料２）では淡水域（水田）の環境が示唆される。調査対象時期の環境は、内湾～外洋の海水の影響を受けながらも、淡水や陸に近い環境であったことが推察される。それが、次第に淡水や陸域の環境に変わり、試料１、２の時期には陸域（水田）になったと考えられる。

（3）　玉名平野安楽寺地区における縄文海進の時期

放射性炭素年代測定の結果、今回分析した地層について、縄文時代早期～前期（7190±50yBP ～ 5680±40yBP）が想定された。縄文海進の高頂期は約6000年前と言われており、この時期は海岸線がもっとも内陸に侵入し、海水面が上昇していた時期にあたる。

また、地質的に見ると、日本各地の海岸平野下には、縄文海進によって海が進入してきたときを示す砂質堆積物を主とする地層と、つづいて海面が急速に上昇したときに堆積した粘土が中心になる地層と、その後の小規模な海面低下と三角州の発達による砂や粘土を中心とする三角州堆積物の三層で構成されているところが多いが、本調査地の地層においても同様の傾向が得られている。

北の崎遺跡湿地区（ボーリング№２地点）については、珪藻分析結果から、下位の粘性土を主とする層では内湾～外洋の海水の影響を受けていたことが推察される。花粉分析やプラント・オパール分析結果では、照葉樹林を主体とする温暖な気候であったことがうかがわれる。したがって、今回の調査対象時期の中では、この時期（およそ6500 ～ 7000年前）に最も海岸線が入り込んでいたと考えられる。ただし、淡水生種や陸生種も検出されていることから、完全に海水域であったのではなく、潮の干満によって変化する海岸線付近の内湾環境であったと考えられる。その後、次第に海水面が後退し、干潟の環境に遷移し、中世の段階には完全に陸域になったものと推察される。

２　玉名平野における古環境関連調査について
－上小田宮の前遺跡－

応用地質株式会社

１　はじめに

玉名平野において、縄文時代のどの時期にどの程度海進がすすんだかを北の崎遺跡が所在する玉名市安楽寺田崎だけの結果だけでは、面的な広がりや連続性を考察するのは危険性がある。そこで北の崎遺跡から４㎞はなれた菊池川左岸に位置する上小田宮の前遺跡において北の崎遺跡と同様の分析を行った。

表－11　上小田宮の前遺跡の地質状況

標高 [m]	深 度 [m]	地　層	観 察 記 事
8.65 6.36	 2.29	表土・埋土	・表土は砂を主体とし、埋土は粘性土を主体とする。 ・埋土の所々に安山岩礫、片岩礫が存在する。 ・コアは指圧で容易に崩せる程緩い。 ・含水比は中位～高いと推定される。 ・色調は褐色を呈する。
    4.65	 4.00	砂主体	・褐色～緑灰色の細粒～中粒砂を主体とする。 ・コアは指圧で容易に崩せる程緩い。 ・含水比は中位と推定される。 ・色調は褐色～褐灰色を呈する。
    3.25	 5.40	シルト主体	・シルト主体で、部分的に細粒～中粒砂が存在する。 ・コアは指圧で少々凹む程度の締まり具合である。 ・含水比は中位と推定される。 ・色調は暗灰色～緑灰色を呈する。
    -0.57	 9.22	粘性土主体	・淡緑灰色～暗灰色で、上部は粘性土、下部は砂質シルトである。 ・コアは指圧で少々凹む程度の締まり具合である。 ・含水比は中位～高いと推定される。 ・上部には鬼界アカホヤ火山灰が分布する。
    -2.58	 11.23	礫混り砂主体	・全体的に粒径の不均一な砂を主体とする。 ・所々に花崗岩礫、片岩礫が存在する。 ・コアは指圧で容易に崩せる程緩い。 ・含水比は高いと推定される。 ・色調は褐灰色～黄褐色を呈する。
    -3.85	 12.50	砂礫層	・全体的に大小様々な亜角礫～円礫を主体とする。 ・礫間の一部に粒径の不均一な砂が存在する。 ・コアは礫状を呈する。 ・含水比は高いと推定される。
    -8.35	 17.00	風化花崗岩 （マサ）	・概ね花崗岩の岩相を残す。 ・コアは指圧で崩れない程度に締まっている。 ・含水比は中位と推定される。 ・色調は褐灰色～褐色を呈する。

2　上小田宮の前遺跡の地質状況

上小田宮の前遺跡の地層は、風化花崗岩を最下部として、それより上位に亜角礫～円礫主体の砂礫層や礫混じり砂層、シルト～粘性土、砂質シルト～砂の順に分布することが確認されている。

このような層序は上小田宮の前遺跡付近が旧菊池川の氾濫原であったことを示唆するもので、旧菊池川の動向によって、自然堤防帯や後背湿地帯を形成したものと推定される。

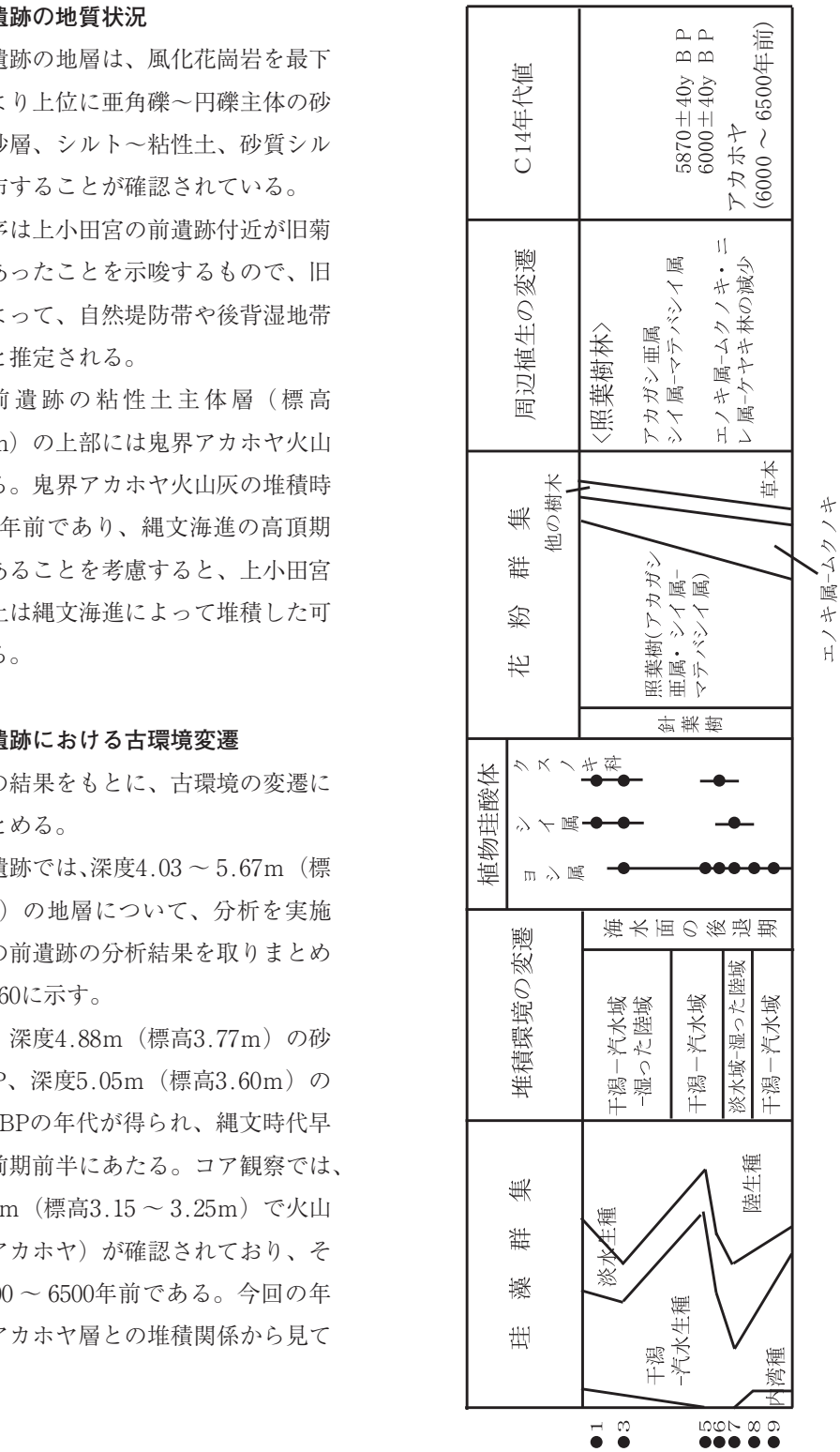
上小田宮の前遺跡の粘性土主体層（標高3.25m～－0.57m）の上部には鬼界アカホヤ火山灰が分布している。鬼界アカホヤ火山灰の堆積時期は6000～6500年前であり、縄文海進の高頂期が約6000年前であることを考慮すると、上小田宮の前遺跡の粘性土は縄文海進によって堆積した可能性も考えられる。

3　上小田宮の前遺跡における古環境変遷

自然科学分析の結果をもとに、古環境の変遷について以下にまとめる。

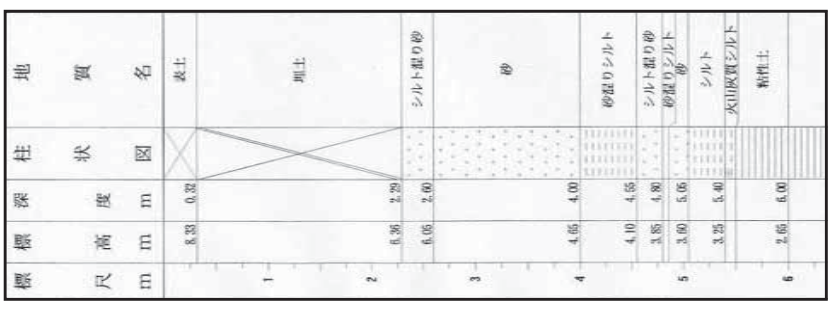
上小田宮の前遺跡では､深度4.03～5.67m（標高4.62～2.98m）の地層について、分析を実施した。上小田宮の前遺跡の分析結果を取りまとめたものを、図－460に示す。

年代測定では、深度4.88m（標高3.77m）の砂層で5870±40yBP、深度5.05m（標高3.60m）の砂層で6000±40yBPの年代が得られ、縄文時代早期の終わりから前期前半にあたる。コア観察では、深度5.40～5.50m（標高3.15～3.25m）で火山灰質シルト層（アカホヤ）が確認されており、その噴出年代は6000～6500年前である。今回の年代測定結果は、アカホヤ層との堆積関係から見て



図－460　上小田宮の前遺跡における分析結果総合図

模式柱状図



も整合した値が得られている。年代測定の結果から分析した試料の年代を考えると、シルト層（深度5.05～5.40m）より下位の試料５～９は6000±40yBP以前（さらに言えば、粘性土層（深度5.50～6.00m）より下位の試料８、９はアカホヤ噴出以前）、砂層（深度4.86～5.05m）より上位の試料１～４は5870±40yBP以降となる。

調査地点周辺の植生は、どの年代も共通してコナラ属アカガシ亜属やシイ属－マテバシイ属などの照葉樹林を主体とし、エノキ属－ムクノキ、ニレ属―ケヤキなどの落葉広葉樹も分布していた。また周囲には、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などの草本類も生育していた。なお、落葉広葉樹や草本は、上位になるに従い減少する傾向が見られる。なお、砂混じりシルト層（試料１～４）はコア観察時に水田の可能性が考えられていたが、分析では水田である根拠を示す結果は得られていない。

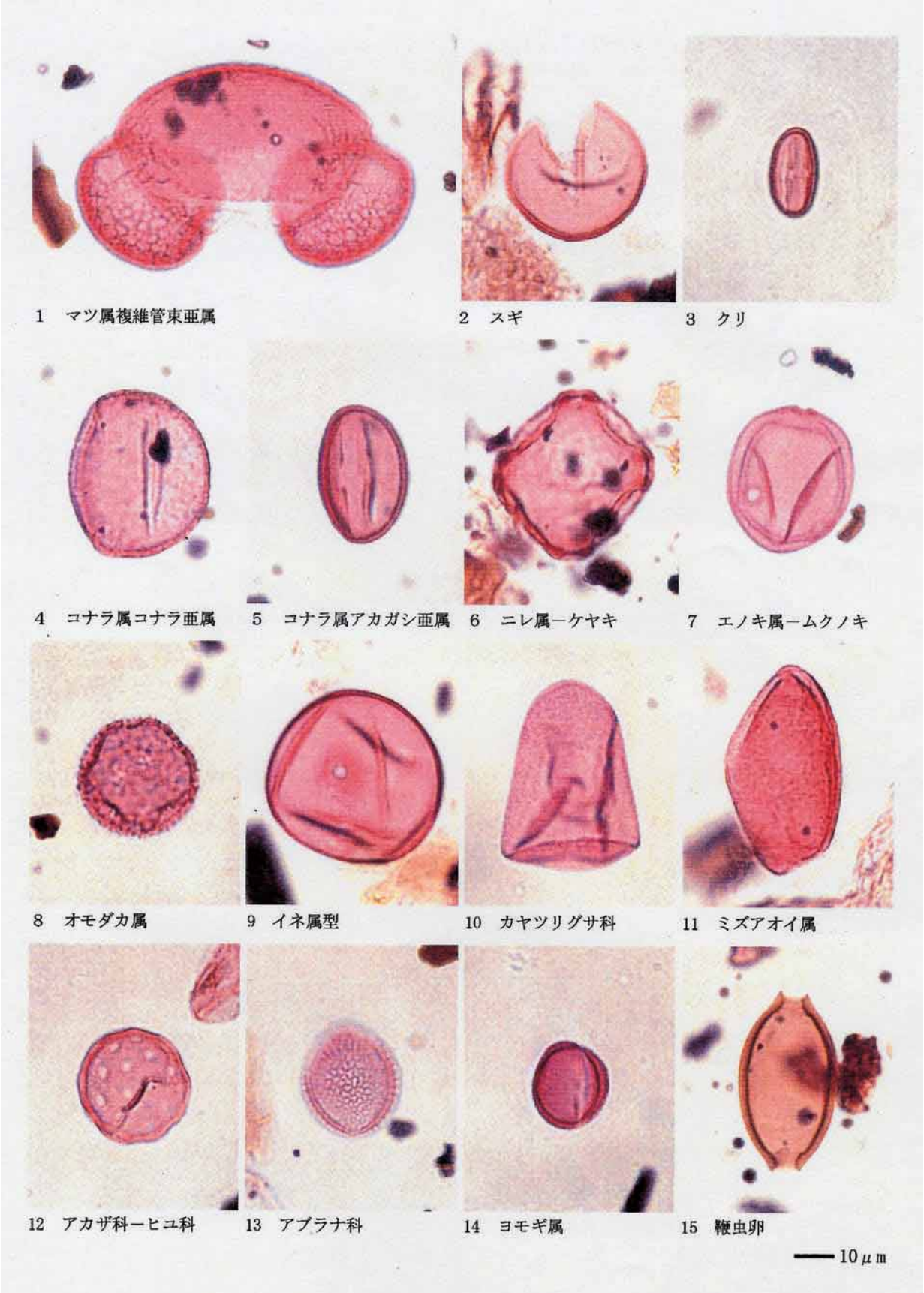
調査地点の堆積環境は、下位から粘性土層（試料８、９）では干潟－汽水域の環境、シルト層下位（試料６、７）では淡水域－湿った陸域の環境、シルト層上位（試料５）では干潟－汽水域の環境、砂混じりシルト層（試料１、３）では干潟－汽水域－湿った陸域の環境が示唆される。調査対象時期の環境は、湿った陸域と干潟や汽水域の環境を繰り返すような、海岸線付近の不安定な環境にあったことが推察される。

４　上小田宮の前遺跡における縄文海進の時期

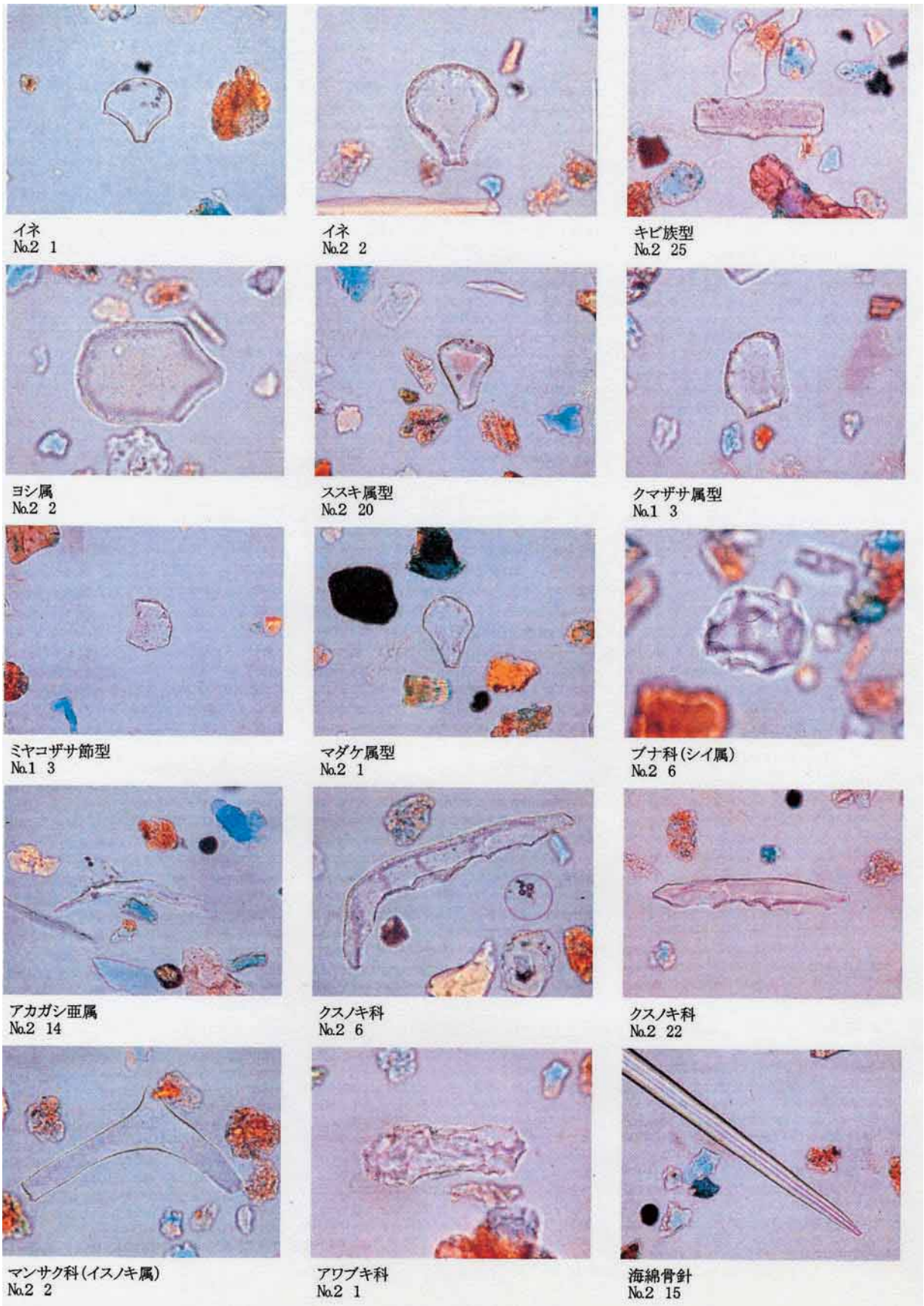
放射性炭素年代測定の結果、今回分析した地層について、縄文時代早期～前期（7190±50yBP～5680±40yBP）が想定された。縄文海進の高頂期は約6000年前と言われており、この時期は海岸線がもっとも内陸に侵入し、海水面が上昇していた時期にあたる。

また、地質的に見ると、日本各地の海岸平野下には、縄文海進によって海が進入してきたときを示す砂質堆積物を主とする地層と、つづいて海面が急速に上昇したときに堆積した粘土が中心になる地層と、その後の小規模な海面低下と三角州の発達による砂や粘土を中心とする三角州堆積物の三層で構成されているところが多いが、本調査地の地層においても同様の傾向が得られている。

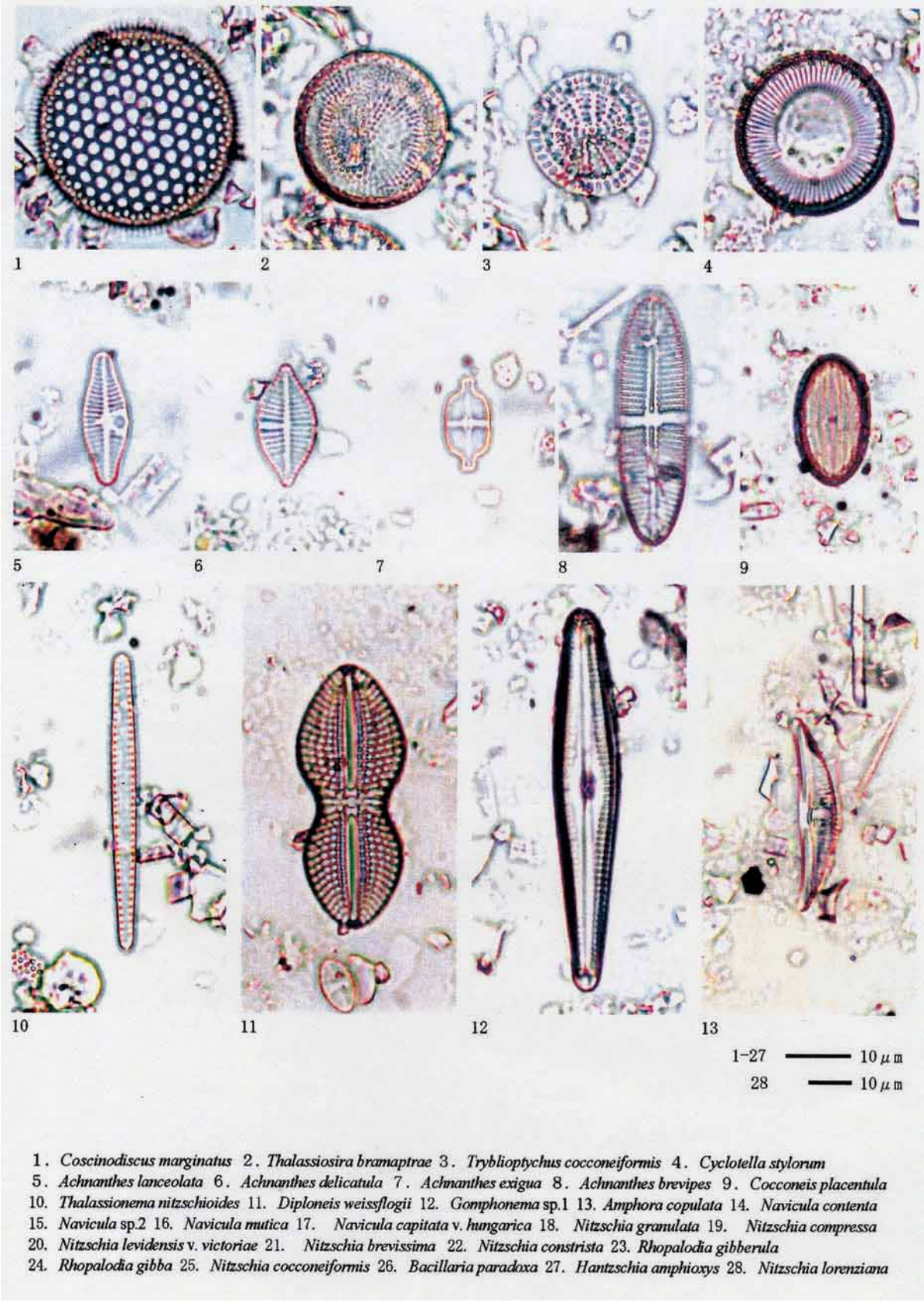
上小田宮の前遺跡については、珪藻分析結果から、湿った陸域と干潟や汽水域の環境を繰り返すような、海岸線付近の不安定な環境にあったことが推察される。また､花粉分析やプラント･オパール分析結果から、照葉樹林を主体とする温暖な気候であったことがうかがわれる。したがって、今回の調査対象時期（地層）には、縄文海進によって、調査地点付近まで海岸線が到達していた可能性が高い。ただし、淡水生種や陸生種も検出されていることから、完全に海水域であったのではなく、潮の干満によって変化する海岸線付近の環境であったと考えられる。



写真－30　検出された花粉・寄生虫卵

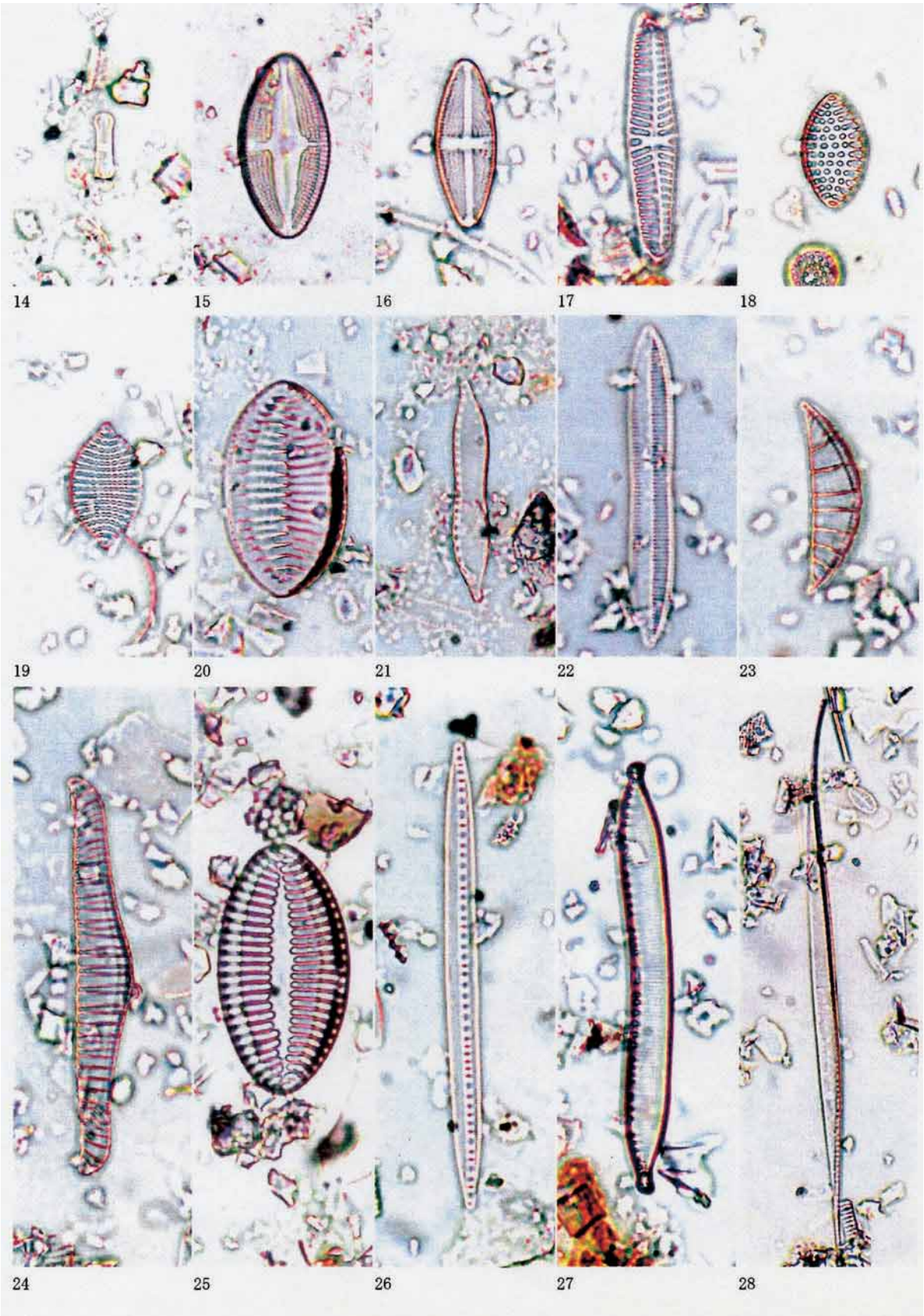


写真－31　検出された植物珪酸体（プラント・オパール）



1．*Coscinodiscus marginatus* 2．*Thalassiosira bramaptrae* 3．*Trybliоptychus cocconeiformis* 4．*Cyclotella stylorum*
5．*Achnanthes lanceolata* 6．*Achnanthes delicatula* 7．*Achnanthes exigua* 8．*Achnanthes brevipes* 9．*Cocconeis placentula*
10．*Thalassionema nitzschioides* 11．*Diploneis weissflogii* 12．*Gomphonema* sp.1 13．*Amphora copulata* 14．*Navicula contenta*
15．*Navicula* sp.2 16．*Navicula mutica* 17．*Navicula capitata* v. *hungarica* 18．*Nitzschia granulata* 19．*Nitzschia compressa*
20．*Nitzschia levidensis* v. *victoriae* 21．*Nitzschia brevissima* 22．*Nitzschia constrista* 23．*Rhopalodia gibberula*
24．*Rhopalodia gibba* 25．*Nitzschia cocconeiformis* 26．*Bacillaria paradoxa* 27．*Hantzschia amphioxys* 28．*Nitzschia lorenziana*

写真－32　検出された珪藻　Ⅰ



写真－33　検出された珪藻　Ⅱ

３　北の崎遺跡における甕棺内の炭化物による放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

１　はじめに

北の崎遺跡では、縄文時代晩期～奈良・平安時代の集落跡に伴う竪穴住居跡、土坑、溝状遺構、掘立柱建物跡等の遺構等が検出されている。本報告では、弥生時代中期の甕棺内から出土した炭化物を対象として、遺構の年代を検討するために放射性炭素年代測定を実施する。

２　試料

試料は、弥生時代中期の９号甕棺墓，１０号甕棺墓，１４号甕棺墓から出土した炭化物３点（試料番号１～３）の合計３点である。

３　分析方法

試料に土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HCｌにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HCｌによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、１ｇの酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（２時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO_2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO_2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径１㎜の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、３MV小型タンデム加速器をベースとした14C－AMS専用装置（NEC Pelletron ９SDH－２）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX－Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いてδ13Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。なお、放射性炭素年代は、δ13Cの値を用いて同位体効果の補正を行った値（補正値）と、補正前の値を併記する。

補正年代を用いて、暦年較正を実施する。暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14Ｃ濃度の変動、及び半減期の違い（14Ｃの半減期5730±40年）を較正することである。暦年較正には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986－2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用いる。その際、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、１年単位で表す。いずれも種実を試料としていることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差σ、２σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、２σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、σ、２σの範囲をそれぞれ１とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

4　分析結果

放射性炭素年代測定結果を表－12、暦年較正結果を表－13に示す。同位体効果の補正を行った年代値は、試料番号１が2110±30BP、試料番号２が2040±30BP、試料番号３が2050±30BPを示す。また、測定誤差をσとして計算させた暦年較正結果は、試料番号１がcalBC179－60、試料番号２がcalBC92－calAD ３、試料番号３がcalBC96－calAD １である。

表－12　放射性炭素年代測定結果

試料名	遺構	種類	補正年代 BP	δ 13C (‰)	測定年代 BP	Code No.	Measurement No.
1	9号甕棺墓	炭化物	2,110± 30	−26.07±0.84	2,130± 30	10328−3	IAAA−82640
2	10号甕棺墓	炭化物	2,040± 30	−28.76±0.63	2,100± 30	10328−4	IAAA−82641
3	14号甕棺墓	炭化物	2,050± 30	−28.93±0.61	2,110± 30	10328−5	IAAA−82642

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

表－13　暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代(cal)					相対比	Code No.
1	2,109± 33	σ	cal BC 179 − cal BC 91	cal BP 2,129 − 2,041	0.926	10328−3
			cal BC 70 − cal BC 60	cal BP 2,020 − 2,010	0.074	
		2σ	cal BC 342 − cal BC 326	cal BP 2,292 − 2,276	0.022	
			cal BC 204 − cal BC 45	cal BP 2,154 − 1,995	0.978	
2	2,040± 32	σ	cal BC 92 − cal AD 3	cal BP 2,042 − 1,947	1.000	10328−4
		2σ	cal BC 164 − cal BC 129	cal BP 2,114 − 2,079	0.088	
			cal BC 120 − cal AD 27	cal BP 2,070 − 1,923	0.900	
			cal AD 41 − cal AD 48	cal BP 1,909 − 1,902	0.012	
3	2,045± 32	σ	cal BC 96 − cal AD 1	cal BP 2,046 − 1,949	1.000	10328−5
		2σ	cal BC 165 − cal BC 127	cal BP 2,115 − 2,077	0.114	
			cal BC 124 − cal AD 24	cal BP 2,074 − 1,926	0.886	

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986−2005 M Stuiver and PJ Reimer）を使用した。
2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
4)統計的に真の値が入る確率はσ は68%、2σ は95%である
5)相対比は、σ 、2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

４　北の崎遺跡及び釧抜遺跡における木製品の樹種同定

株式会社　古環境研究所

１　はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

２　試料

試料は、北の崎遺跡から出土した３点の木製品および釧抜遺跡から出土した８点の木製品の計11点である。試料の詳細を分析結果表に示す。

３　方法

カミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目）、接線断面（板目）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

４　分析結果

表－14に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

モミ属　*Abies*　マツ科　写真－36

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行は比較的緩やかである。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は小型のスギ型で１分野に１～４個存在する。放射柔細胞の壁が厚く、じゅず状末端壁を有する。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質より、モミ属に同定される。モミ属は日本に５種が自生し、その内ウラジロモミ、トドマツ、シラビソ、オオシラビソの４種は亜寒帯に分布し、モミは温帯を中心に分布する。常緑高木で高さ45m、径1.5mに達する。材は保存性が低く軽軟であるが、現在では多用される。

ツガ属　*Tsuga*　マツ科　写真－35

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞及び放射仮道管から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行は急である。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はスギ型でややヒノキ型の傾向を示し、１分野に２～４個存在する。放射仮道管が存在し、その壁には小型の有縁壁孔が存在する。わずかではあるが､樹脂細胞が存在する。接線断面:放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質より、ツガ属に同定される。ツガには、ツガ、コメツガがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で通常高さ20～25m、径50～80cmである。材は耐朽、保存性中庸で、建築、器具、土木、薪炭などに用いられる。

スギ　*Cryptomeria japonica D.Don*

スギ科　写真－36

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。樹脂細胞が見られる。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、１分野に２個存在するものがほとんどである。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で１～15細胞高である。樹脂細胞が存在する。

以上の形質よりスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ40m、径２mに達する。材は軽軟であるが強靭で、広く用いられる。

ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa Endl.*

ヒノキ科　写真－37

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が見られる。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はヒノキ型で１分野に２個存在するものがほとんどである。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で１～15細胞高である。

以上の形質よりヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。材は木理通直、肌目緻密で強靭、耐朽、耐湿性も高い。良材であり、建築など広く用いられる。

クリ　*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*

ブナ科　写真－34

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40㎝ぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径２mに達する。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木など広く用いられる。

コナラ属アカガシ亜属

Quercus subgen. Cyclobalanopsis

ブナ科　写真－35

横断面：中型から大型の道管が１～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5*m*以上に達する。材は堅硬で強靭、弾力性強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

イスノキ　*Distylium racemosum Sieb. et Zucc.*

マンサク科　写真－34

横断面：小型でやや角張った道管がほぼ単独に散在する散孔材である。軸方向柔細胞が接線方向に向かって黒い線状に並んで見られ、一定の間隔で規則的に配列する傾向を示す。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は比較的少なく15本前後のものが多い。放射組織は異性である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で、ほとんどが１～３細胞幅である。

以上の形質よりイスノキに同定される。イスノキは関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑の高木で、高さ20m、径１mに達する。耐朽性および保存性の高い材で、建築、器具、楽器、ろくろ細工、櫛、薪炭などに用いられる。

ヌルデ　*Rhus javanica L.*　ウルシ科　写真－34

横断面：年輪のはじめにやや小型から中型の道管が単独あるいは２～３個複合して配列する環孔材である。晩材部で小道管が多数集合して、接線方向あるいは斜線方向に配列する傾向を示す。早材から晩材にむけて道管の径は徐々に減少していく。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は異性である。小道管の内壁にらせん肥厚が存在する。接線断面：放射組織は異性放射組織型で１～３細胞幅である。

以上の形質よりヌルデに同定される。ヌルデは、

北海道（渡島半島）、本州、四国、九州、沖縄に分布する。落葉高木で、通常高さ５～10m、径20～30cmであるが、大きいものは高さ13m、径45cmに達する。耐朽、保存性はさほど高くない材で、器具、ろくろ細工、薪炭に用いられる。

ヤブツバキ　*Camellia japonica Linn.*

ツバキ科　写真－37

横断面：小型でやや角張った道管が単独ないし２～３個複合して散在する散孔材である。道管の径はゆるやかに減少する。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は７～30本ぐらいである。放射組織は平伏細胞と直立細胞からなる異性で、直立細胞には、大きく膨れているものが存在する。接線断面：放射組織は異性放射組織型で、１～３細胞幅である。直立細胞には大きく膨れているものが存在する。

以上の形質よりヤブツバキに同定される。ヤブツバキは本州、四国、九州に分布する。常緑の高木で、通常高さ５～10m、径20～30cmである。材は強靭で、耐朽性強く、建築、器具、楽器、船、彫刻などに用いられる。

タイミンタチバナ　*Myrsihe seguinii Lev*

ヤブコウジ科　写真－36

横断面：小型の道管が単独ないし２～３個複合して散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は異性である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で10細胞幅を超える。

以上の形質よりタイミンタチバナに同定される。タイミンタチバナは本州（千葉県以西）、四国、九州、沖縄に分布する。常緑の大低木または高木である。

ガマズミ属　*Viburnum*　スイカズラ科　写真－35

横断面：小型でやや角張った道管がほぼ単独で均一に散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は数十本である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で、直立細胞からなる単列のものと１～４細胞幅で細長い紡錘形を示す多列のものからなる。

以上の形質よりガマズミ属に同定される。ガマズミ属には、ガマズミ、ゴマキ、サンゴジュなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑の小高木で通常高さ10m、径30cmぐらいである。樹木は庭園、生垣、防火樹などに、材は旋作、小細工物などに用いられる。

５　所見

樹種同定の結果、北の崎遺跡の試料１（杭？）はイスノキ、試料２（櫛）はヌルデ、試料３（不明）はクリと同定された。また、剱抜遺跡の試料１（台付椀）はガマズミ属、試料２（杭状加工品）はコナラ属アカガシ亜属、試料６（円形板）はツガ属、試料７（杭状加工品）はモミ属、試料８（板状加工品）はスギ、試料10（鏑矢）はタイミンタチバナ、試料11（棒状加工品の先端部）はヤブツバキ、試料14（把手）はヒノキと同定された。今回の11試料はいずれも異なった樹種であり、用途に応じて多様な樹種が利用されていたと考えられる。

モミ属は温帯性のモミと考えられ、耐久性、保存性は低いが軽軟な事から加工が容易な材である。ツガ属は耐朽性、保存性は中庸で、切削、加工はあまり容易でない。スギは加工工作が容易な上、大きな材がとれる良材である。ヒノキも大きな材が取れる良材であり、特に保存性が高い。クリは重厚で保存性が良く、建築材などに適する。コナラ属アカガシ亜属は硬堅な材であり広く用いられるが、西南日本では弥生時代以降、特に農耕具を中心に用いられる傾向にある。イスノキは重硬で耐朽性に優れ、細かい細工にも良好で器具類にも適する。ヤブツバキは硬堅な良材で耐朽性にも優れている。タイミンタチバナは重く硬い材で耐朽性、保存性も高い。ガマズミ属はやや硬い材である。

コナラ属アカガシ亜属、イスノキは西南日本に

分布する照葉樹林の主要高木構成要素であり、ヤブツバキ、タイミンタチバナも照葉樹林の構成要素である。また、クリ、ヌルデ、ガマズミ属は温帯に広く分布する広葉樹、モミ、ツガ属、スギ、ヒノキは温帯域に分布する針葉樹である。いずれも当時の遺跡周辺もしくは近隣の地域で採取可能な樹種であったと考えられる。

文　献

島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司（1985）木材の構造．文永堂出版，290p.

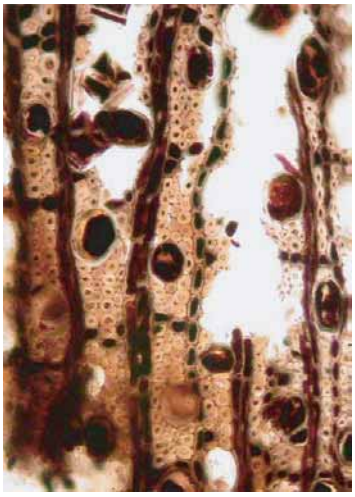
島地 謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧．雄山閣，296p.

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成．植生史研究特別１号．植生史研究会，242p.

表－14　樹種同定結果

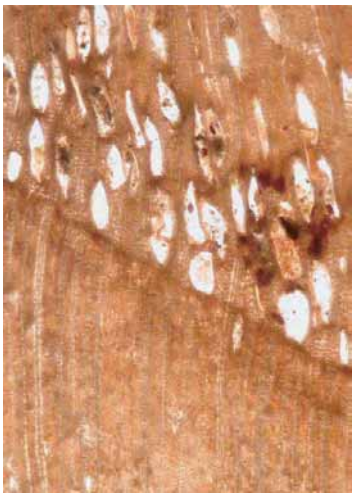
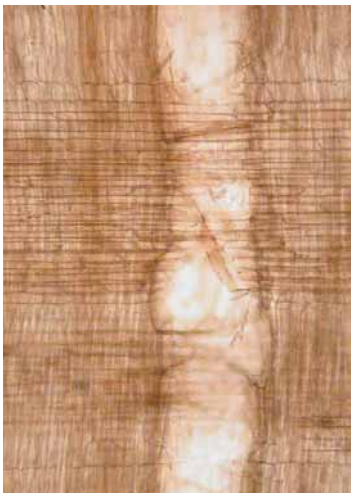
遺　跡	遺物番号	No.	器　種	結果（学名／和名）	
北の崎遺跡	1424	①	杭？	*Distylium racemosum Sieb. et Zucc.*	イスノキ
	1426	②	櫛	*Rhus javanica L.*	ヌルデ
	1425	③	不明	*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ
釧抜遺跡	117	①	台付椀	*Viburnum*	ガマズミ属
	113	②	板状加工品	*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
	111	⑥	円形板	*Tsuga*	ツガ属
	112	⑦	板状加工品	*Abies*	モミ属
	38	⑧	板状加工品	*Cryptomeria japonica D.Don*	スギ
	40	⑩	鏑矢	*Rapanaea neriifolia Mez.*	タイミンタチバナ
	116	⑪	棒状加工品の先端部	*Camellia japonica Linn.*	ヤブツバキ
	41	⑭	把手	*Chamaecyparis obtusa Endl.*	ヒノキ

北の崎遺跡の木材　Ⅰ



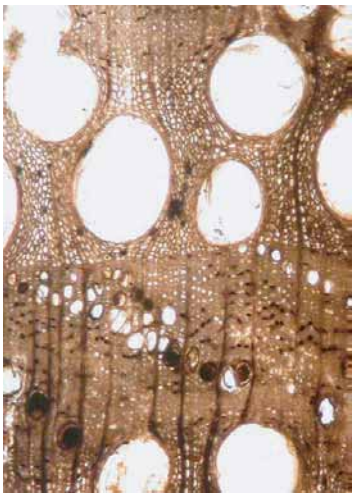
横断面 ━━━━━━━━ ： 0.2mm　放射断面━━━━━━━━ ： 0.2mm　接線断面━━━━━━━━ ： 0.1mm

1．北の崎遺跡①　イスノキ

横断面 ━━━━━━━━ ： 0.5mm　放射断面━━━━━━━━ ： 0.2mm　接線断面━━━━━━━━ ： 0.2mm

2．北の崎遺跡②　ヌルデ



横断面 ━━━━━━━━ ： 0.5mm　放射断面━━━━━━━━ ： 0.5mm　接線断面━━━━━━━━ ： 0.2mm

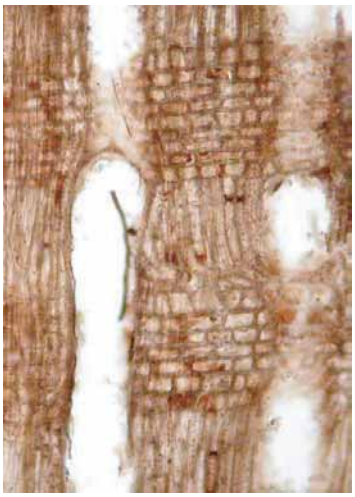
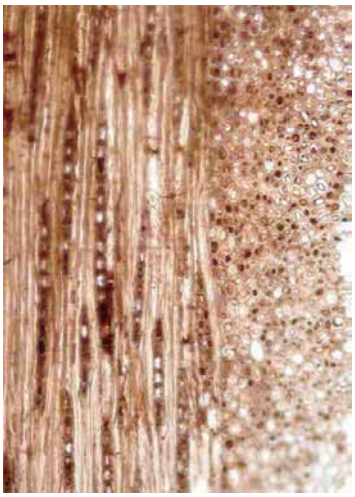
3．北の崎遺跡③　クリ

写真－34　北の崎遺跡・釼抜遺跡出土木製品顕微鏡写真①

鈒抜遺跡の木材　Ⅱ

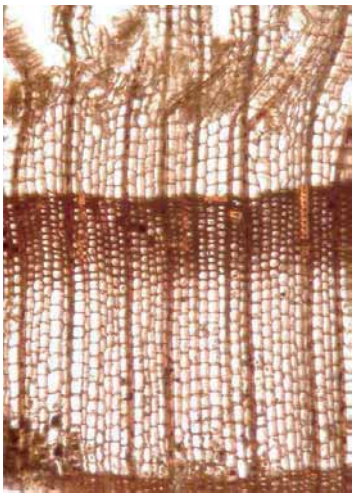
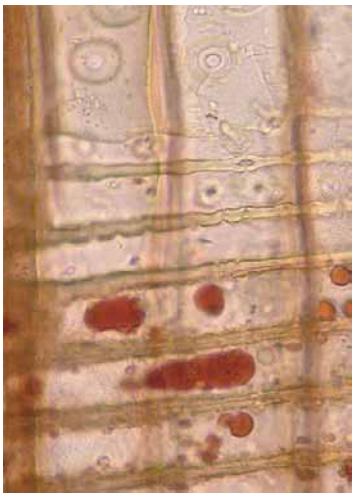
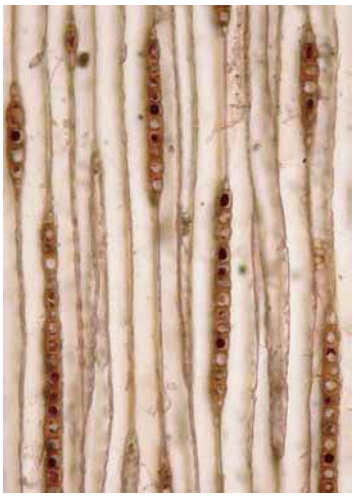
横断面 ━━━━━━━━ ： 0.5mm　放射断面━━━━━━━━ ： 0.2mm　接線断面━━━━━━━━ ： 0.5mm

4．鈒抜遺跡①　ガマズミ属

横断面 ━━━━━━━━ ： 0.5mm　放射断面━━━━━━━━ ： 0.2mm　接線断面━━━━━━━━ ： 0.2mm

5．鈒抜遺跡②　コナラ属アカガシ亜属

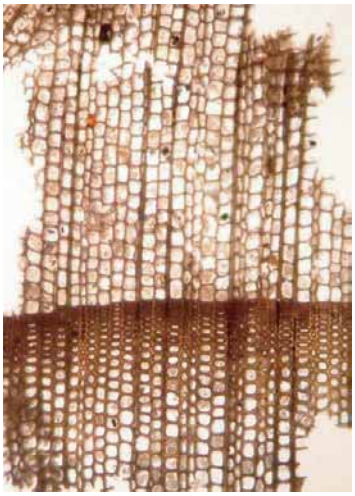
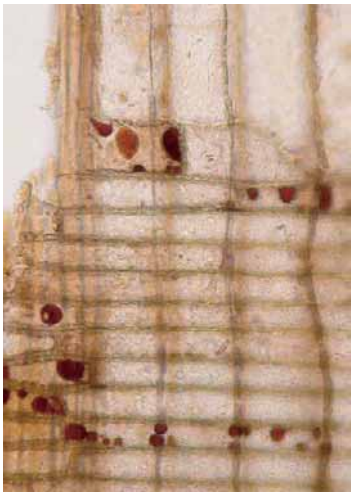




横断面 ━━━━━━━━ ： 0.5mm　放射断面━━━━━━━━ ： 0.05mm　接線断面━━━━━━━━ ： 0.2mm

6．鈒抜遺跡⑥　ツガ属

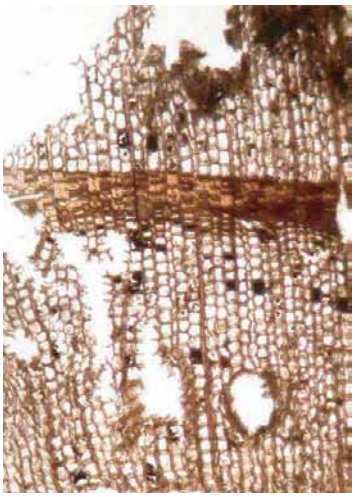
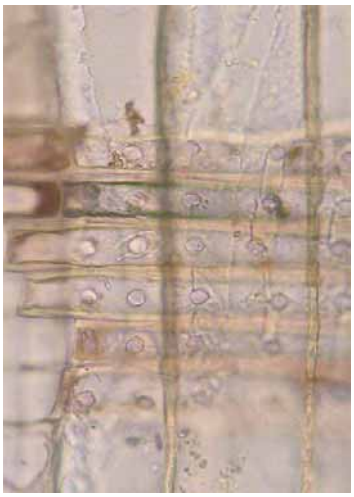
写真－35　北の崎遺跡・鈒抜遺跡出土木製品顕微鏡写真②

鈒抜遺跡の木材　Ⅲ

横断面 ━━━━━━━━ ： 0.5mm　放射断面━━━━━━━━ ： 0.1m　接線断面━━━━━━━━ ： 0.2mm

7．鈒抜遺跡⑦　モミ属

横断面 ━━━━━━━━ ： 0.5mm　放射断面━━━━━━━━ ： 0.05mm　接線断面━━━━━━━━ ： 0.2mm

8．鈒抜遺跡⑧　スギ

横断面 ━━━━━━━━ ： 0.5mm　放射断面━━━━━━━━ ： 0.2mm　接線断面━━━━━━━━ ： 0.2mm

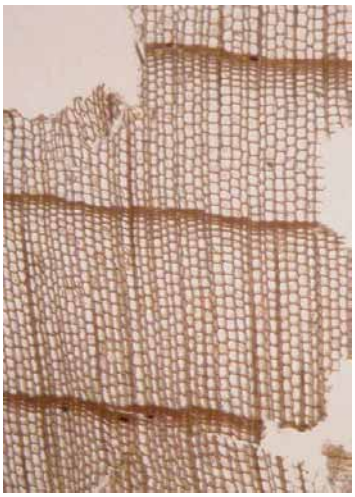
9．鈒抜遺跡⑩　タイミンタチバナ

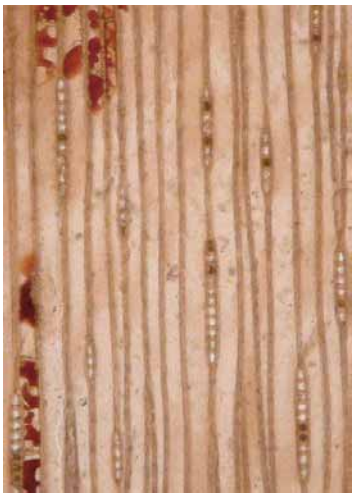
写真－36　北の崎遺跡・鈒抜遺跡出土木製品顕微鏡写真③

釦抜遺跡の木材　Ⅳ

横断面 ―――― ： 0.5㎜　放射断面 ―――― ： 0.2㎜　接線断面 ―――― ： 0.2㎜

10．釦抜遺跡⑪　ヤブツバキ





横断面 ―――― ： 0.5㎜　放射断面 ―――― ： 0.05㎜　接線断面 ―――― ： 0.2㎜

11．釦抜遺跡⑭　ヒノキ

写真－37　北の崎遺跡・釦抜遺跡出土木製品顕微鏡写真④

5　北の崎遺跡出土勾玉類の石材同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

1　はじめに

石製遺物を対象として非破壊による蛍光X線分析を行い、使用されている石材の石質について検討を行った。

2　試料

分析対象とした試料は表－15に示される勾玉などの石製遺物３点である。この３試料について蛍光X線分析に供した。

3　分析方法

（1）肉眼鑑定

野外用のルーペを用いて構成鉱物や組織の特徴を観察し、肉眼で鑑定できる範囲の岩石名を付す。鑑定は、五十嵐（2006）に示される分類基準を参考にして行なっている。

（2）蛍光X線分析

蛍光X線分析はサンプリングが困難な文化財の材質調査に広く用いられている手法であるが、ごく表面層を測定対象としているため、出土遺物表面が風化の影響を受けている場合、遺物本来の化学組成を導くことは難しく、本来の化学組成を知るためには風化層を除去しなければならない。ただし、遺物保存の観点から考えれば、外観上の変化を伴わない本分析法は概略の化学組成を知るためには極めて有効な手法となる。

本報告では、非破壊を前提とした材質調査を目的とすることから、試料はクリーニング処理や風化層の除去を行わず、調査に用いる。材質調査に用いた装置はセイコーインスツルメンツ（株）製エネルギー分散型蛍光X線分析装置（SEA2120L）である。

表－15　分析試料

試料番号	出土遺構	遺物番号	種別
1	北の崎遺跡７区３８号住居	514	勾玉
2	北の崎遺跡８区４２号住居	532	剝片石器
3	北の崎遺跡７区３７号住居	504	勾玉

表－16　測定条件

測定装置	SEA2120L	
管球ターゲット元素	Rh	
コリメータ	φ10.0㎜	
フィルター	なし	
マイラー	OFF	
雰囲気	真空	
励起電圧（kV）	15	50
管電流（μA）	自動設定	自動設定
測定時間（秒）	300	300
定性元素	Na ～ Ca	Sc ～ U

得られた特性X線スペクトルは元素定性を実施した後、FP法（ファンダメンタルパラメーター法）を用いたスタンダードレス分析により定量演算を行い、相対含有率（質量%）を求める。なお、算出された結果は半定量的なものであることや実際にどの程度の深さまでX線が進入しているのか不確実な部分もあり（例えば表面の風化層のみから発生した特性X線を検出しているのか、あるいは風化層より内部の新鮮部分の材質も含めた特性X線を検出しているのか）、結果の評価には注意する必要がある。本調査における測定条件の詳細は、表－16に示す。

4　結果

蛍光X線分析

蛍光X線スペクトルを図－461に掲げ、FP法により求めた化学組成を表－17に示す。分析を行った3試料は、SiO_2が主要成分となっている珪酸塩岩から構成されている。

5　考察

蛍光X線分析による全岩化学組成に基づき、使用石材の石質について検討する。肉眼による簡易的な観察結果も踏まえて試料毎に記す。

1）試料番号1　38号住居　514　勾玉

本試料は、SiO_2が34%ときわめて低い値を示す珪酸塩岩である。主要成分としてはこの他にAl_2O_3 21%、Fe_2O_3 15%、MgO 29%が挙げられる。肉眼観察では細粒緻密質で灰黒色を呈し、蛇紋岩様の岩相を示す。しかし、きわめて低いSiO_2含有率を考慮すると、緑泥石が主要鉱物となっている可能性が考えられる。また、微量成分として検出されているCr_2O_3やNi_2O_3などの含有を考慮すると苦鉄質岩に伴う石材であることが推定される。したがって、本試料は苦鉄質岩に伴う緑泥石岩と推定される。

2）試料番号2　42号住居　532　剝片石器

本試料の化学組成はSiO_2が89%と非常に高い値を示す。SiO_2に次いで多い成分としては、Al_2O_3 6.7%、Fe_2O_3 1.5%が挙げられる。肉眼観察では、緑色を示す珪化岩とみられ、クラックや孔隙に水酸化鉄を伴っている。Fe_2O_3の原因物質としては水酸化鉄が考えられる。緑色の色調が強い部分では、碧玉様となっている。珪化岩は、珪酸（SiO_2）が侵入または交代することにより、岩石がより珪質に変化した岩石である。肉眼的な特徴と、高いSiO_2含有率を示す化学組成は整合しており、本試料は珪化岩と判断することができる。

3）試料番号3　37号住居　504　勾玉

本試料は、SiO_2が34%ときわめて低い値を示す珪酸塩岩である。SiO_2以外には、Al_2O_3 24%、Fe_2O_3 9.8%、MgO 30%などが主要成分となっている。化学組成は試料番号1の勾玉と酷似している。肉眼による観察では、暗緑色を示す細粒緻密質岩であり、緑色岩または緑泥石岩とみられる。SiO_2がきわめて低い含有率を考慮すると、主成分鉱物としては緑泥石が想定され、緑泥石岩とみるのが妥当である。また、微量成分として検出されているCr_2O_3やNi_2O_3などの含有を考慮すると試料番号1の試料と同様に苦鉄質岩に伴う緑泥石岩と推定される。

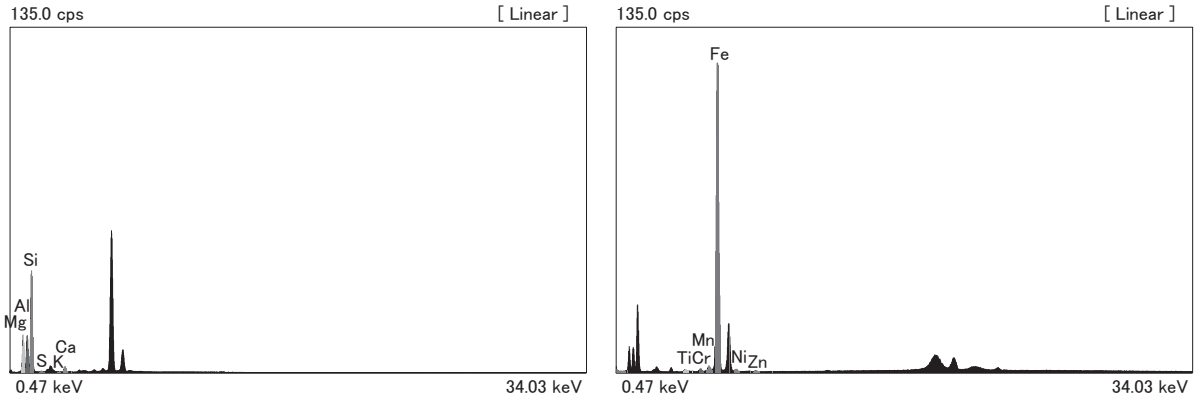
引用文献

五十嵐俊雄，2006，考古資料の岩石学．パリノ・サーヴェイ株式会社，194p.

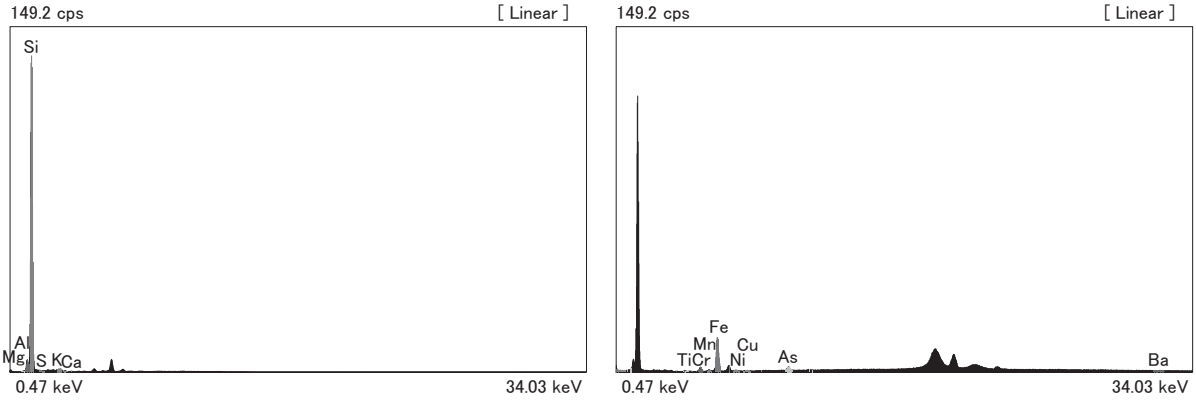
表－17　蛍光X線分析結果（化学組成）

試料番号	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	Fe_2O_3	MnO	MgO	CaO	K_2O	As_2O_5	BaO	Cr_2O_3	CuO	Ni_2O_3	Rb_2O	SO_3	SrO	ZnO	ZrO_2
1	34.02	0.27	20.61	14.74	0.31	28.83	0.65	0.06	－	－	0.18	－	0.11	－	0.21	－	0.02	－
2	88.92	0.07	6.74	1.46	0.05	0.82	0.11	0.81	0.06	0.01	0.30	0.02	0.03	－	0.60	－	－	－
3	34.04	0.37	24.30	9.78	0.17	29.74	0.55	0.38	－	－	0.22	－	0.17	－	0.27	－	0.01	－

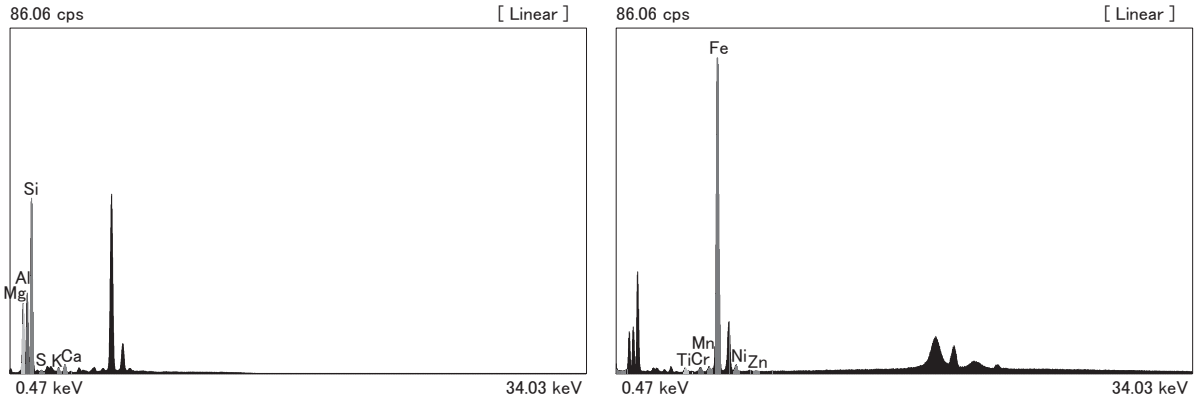
（単位：wt%）



試料番号1　514　勾玉の蛍光X線スペクトル（左:励起電圧15kV、右:50kV）



試料番号2　532　剝片石器の蛍光X線スペクトル（左:励起電圧15kV、右:50kV）



試料番号3　504　勾玉の蛍光X線スペクトル（左:励起電圧15kV、右:50kV）

図－461　北の崎遺跡から出土した勾玉類の蛍光Ｘ線スペクトル

第Ⅴ章　総括

１　はじめに

北の崎遺跡は、縄文時代から中世まで断続的に集落を形成してきた遺跡である。中でも縄文後期から晩期、弥生中期後半、古墳前期～中期、奈良～平安時代、鎌倉時代の遺構や遺物がある程度まとまって検出または出土している。本遺跡の全体像をつかむには不十分ではあったが、今回の発掘調査によって、それぞれの時代において部分的ではあるが集落の特徴や出土遺物の特徴が少しではあるがわかってきた。今回、出土遺物をとりまとめるため、土器の型式の分類を行っている。編年を論じるにはまとまった一括資料や特徴的な型式を見出すことが難しかったため行っていない。そういった意味からも、北の崎遺跡の変遷や集落の繁栄と衰退時期、他の遺跡との比較検討する資料作成という観点から、大局的な傾向を知る上での分類であると捉えていただきたい。したがって、今回の土器型式の分類は、従来の土器の型式や周辺の遺跡の分類を踏襲しながら、本遺跡の土器を分類したものである。尚、各時代の基準となる遺構同士の切り合いが数多くはなく、不明瞭な部分も多くあったため、各時代の器形分類図において、時期を反映した「期」とか「様相」という表現ではなく、「類型」という表現をとらせていただく。

２　縄文時代後期から晩期について

（１）検出された遺構について

今回、検出された遺構は、平面形状が円形を呈する竪穴住居、埋鉢、土坑である。竪穴住居はほとんど調査区外にあり全体の約１/４程度の検出であった。後世の遺構やカクランによる削平によりさらに断片的にしか情報が入らなかった。ただし、床面は硬化面範囲として示すほど硬化はしていなかった。しかしながら明らかに硬化して、締まった床面である。住居跡が使用されていた時期は出土した土器型式から縄文時代晩期の天城式の時期であろうと考えられる。玉名地方において縄文時代の竪穴住居の検出例が少ないだけに、完全な形での検出とはならなかったが貴重な情報を与えてくれるものと考えられる。また、埋鉢では２基検出されている。ともに竪穴住居跡（１号住居）とは異なり古閑式の時期である。一部剥平等により欠損はあるものの、土坑にそのまま据えた状態でほぼ完形で出土した。さらに遺構として３基の土坑が検出されている。１号土坑は後期の土器も流れ込み等で含まれているが、総体的には天城式の時期であろうと考えられる。２号及び３号土坑については、土器の一部の破片しか出土していないため詳細な時期の決定は不可能であった。ただし晩期のいずれかの時期であろうと考えられる。地形との関係からみると台地の中央部の標高の高い位置に竪穴住居が配置され、その周辺のやや高い位置に土坑が配置され、若干標高が低くなる平坦地形の部分に埋鉢は配置されている。特に１号埋鉢と２号土坑は北の崎遺跡が所在する舌状台地の落ちの部分にあたる東側崖の近隣にあり、弥生時代の甕棺墓が密集する地域と同じ地域にある。ただし、遺跡全体の遺構の配置具合は、遺構数が少ないため総括的なものは不明である。今後の周辺の確認調査や発掘調査に詳細な解明を期待したい。

（２）縄文後期から晩期の土器について

北の崎遺跡出土の土器は、そのほとんどが包含層出土のものである。そのため、土器片の大きさは小さく接合できても完形に近いものは少なく、全体の器形を判断できるものは少ない。また、文様も限られた部分しか見ることができず、その特徴を十分に明らかにすることはできない。このため、土器を記述するにあたっては従来からの土器型式に見られる器形や文様にあてはめて記述することとする。なお、器形については現在まで報告されている器形をもとに、図－462及び図－463のように分類し記述する。なお、器形は深鉢形、浅鉢形、皿形の３つに大別した。

１）分類基準

①深鉢形土器

【Ａ類】

土器の部位が口縁部、頸部、胴部、底部から構成される。特に口縁部の形状等によりＡ１からＡ４の４つに細分する。Ａ１類は口縁部近くが外湾し口縁端部が内側に倒れ、口縁端部は波状である。Ａ２類

は口縁端部は波状であるが、口縁部は外反する。口縁部にいたっては、口縁部というよりは頸部の先端を口縁部としている。Ａ３類は、口縁部が水平に整えられている。Ａ４類は口縁端部は水平であるが口縁部幅が大きくなる。

【Ｂ類】

土器の部位が、頸部、胴部及び底部から構成され、明瞭な口縁部がないものをさしている。特に口縁部の形状等によりＢ１とＢ２の２つに細分する。Ｂ１は、頸部、胴部、底部からなり、頸端部がそのまま口縁部となっているもので、その口縁端部は水平となっている。Ｂ２は、Ｂ１と形状は似ているが、口縁端部が波状となっている。尚、Ｂ類は明瞭な口縁部がないものの、説明する上で土器の先端部分を口縁部と表現することとする。

【Ｃ類】

土器の部位が、胴部と底部から構成される。特に口縁部の形状等によりＣ１とＣ２の２つに細分される。Ｃ１は、胴部と底部から構成され、胴端部をそのまま口縁端部としているものであり、最大径が口縁端部になるものをさす。Ｃ２は、Ｃ１とつくりは同じであるが、口縁部近くが外湾し、口縁端部が土器の内側に倒れる。尚、このＣ類は口縁部がないものをさすが、説明する上で土器の先端部分を口縁部と表現しなければ説明が困難であり、便宜上口縁部とすることとする。

【Ｄ類】

土器の部位が、口縁部、胴部及び底部から構成され頸部がないものをさす。口縁部近くの違いにより２つに細分する。Ｄ１は、口縁部、胴部及び底部からなり、胴部が口縁部近くで強く外反すものである。Ｄ２は、Ｄ１とつくりは同じであるが、口縁端部外面に粘土紐をつけたものである。いわゆる突帯文土器である。本遺跡では出土していない。

②浅鉢形土器

【Ａ類】

土器の部位が、胴部と底部からなり胴端部がそのまま口縁端部となるものをさす。特に口縁部の形状等によりＡ１とＡ２の２つに細分する。Ａ１類は、胴部と底部からなり口縁端部が波状となる。Ａ２類は、Ａ１とつくりは同じであるが、口縁端部が水平に整えてあり椀形に近い形状を呈する。

【Ｂ類】

土器の部位が、口縁部、胴部及び底部から構成され頸部がないものをさしている。特に口縁部の形状等によりＢ１とＢ２の２つに細分する。Ｂ１は、口縁部、胴部及び底部からなり、口縁部が外湾ぎみに内側に傾く。Ｂ２は、口縁部が直立するか外側に傾く。

【Ｃ類】

土器の部位が、頸部、胴部及び底部から構成され、口縁部がない。底部は丸底となっているようである。Ｃ類に非常に似た破片が認められたが分類するには情報が少なすぎて掲載していないが、Ｃ類の可能性を秘めているので分類基準を残すこととする。

【Ｄ類】

土器の部位が、口縁部、頸部、胴部及び底部の４部位から構成されている。Ｂ２の胴部を頸部と胴部とに分けたような形状を呈する。底部は平底であるようである。

【Ｅ類】

土器の部位が、基本的に口縁部、頸部、胴部及び底部の４部位から構成されるものをさす。底部と胴部の境界は明瞭ではなく、丸底である。それぞれの部位の特徴からＥ１からＥ５に細分し、細分されたそれぞれの分類基準でさらに口径と器高の比によってａ及びｂとにさらに細分する。Ｅ１－ａは、胴部から内湾しながら強く外反する。口縁部が直立する。口径が器高と比べおおよそ2.5倍以上であるもの。Ｅ１－ｂは、Ｅ１－ａと同じつくりであり、口径が器高と比べおおよそ2.5倍未満であるもの。Ｅ２－ａは、口縁端部に４つの小さな山形の突起がつき基本的に平底である。口径が器高と比べその比率が大きいもの。Ｅ２－ｂは、Ｅ２－ｂと同じつくりであるが、口径が器高と比べその比率が小さいもの。Ｅ３は、口縁端部は水平となっており、口縁部は頸部端部をわずかにつまみあげる程度のものである。また、頸部はやや長く伸びた形状を呈するもの。Ｅ４－ａは、口縁部は段状となり頸部が短く口縁部は湾曲して折れるように外反する。器高に対する口

径の割合が大であるもの。Ｅ４－ｂは、Ｅ４－ａとつくりは同じであるが、器高に対する口径の割合が小さいものである。Ｅ５は、口縁部と頸部が一体化し区別ができない。胴部上半と下半の境界には明瞭な屈折が見られ、上半はやや外湾しながら内側に傾くものである。

【Ｆ類】

土器の部位が、基本的に口縁部、胴部、底部から構成されており頸部がないものをさす。口縁部は大きく広く開き口縁端部が最大径となる。口縁端部は水平に整えてある。

③皿形土器

本遺跡では、実測可能な皿形土器は921のみであるため詳細な分類は困難である。底部は平坦であり、波状の口縁部をもつ。

２）土器型式

遺跡で検出された遺構に年代を与えるため、土器型式の変遷について、今まで多くの報告がなされてきた。縄文土器の編年についても多くの研究者がその報告を行っている。今回は、これまで多くの研究者の方々が提唱された土器型式を基に、出土した縄文土器をあてはめる形で分類することとする。そこで分類するにあたり、これまで提唱された土器型式の中で北の崎遺跡で出土している土器型式のみを筆者なりにまとめ、縄文時代後期から晩期にかけての変遷の指標とする。

①北久根山式土器

縄文時代後期中葉の標識とする土器である。熊本市渡鹿に所在する北久根山遺跡（新南部遺跡群内の遺跡）から出土した土器から名づけられたものである。中九州を中心として分布している。器形は、深鉢形土器、鉢形土器及び皿形土器の３種類が主である。口縁部の施文帯をもち、文様は短斜線文と綾杉文が中心である。口縁端部には４箇所にW字状などの粘土紐が貼り付けられている。その下にはリング状の把手がつけられているものもあるようである。皿形土器は、底部から直線的に口縁部が立ち上がり、内面に施文するものもある。

②辛川式土器

菊池郡菊陽町に所在する辛川遺跡から出土した土器を標識として名付けられた型式である。縄文時代後期の標識とする土器である。器形は鉢形土器を中心に変化に富み、本遺跡では出土していないが皿形土器も北久根山式土器に引き続き作られているようである。また頸部が弓状に湾曲するが反りは少ない。頸部と胴部の境界がやや明瞭となり胴部に膨らみを持たせているようである。施文においては文様構成が画一的となり半弧文と短斜線文が中心となる。他の遺跡においては「Ｘ」字状文や鉤手文の組み合わせもあるようである。また、文様を作り上げる沈線では、端を止めるような刺突をつけている。貝殻による擬似縄文が多用され、磨消縄文も見受けられる。辛川式にはⅠ式とⅡ式があるがⅡ式においてこの磨消縄文が一般的となる。口縁部の形状では、平口縁と波状をなすものがある。他の遺跡においては波状口縁の高まった部分が３箇所見られるものも報告されているが、４箇所施すのが大方である。

③御領式土器

熊本市城南町東阿高（旧下益城城南町）に所在する御領貝塚から出土した土器から名づけられたものであり、九州地方で縄文時代後期末ないし晩期初頭の標識土器である。器形は、深鉢形土器と浅鉢形土器が主流である。縄文時代後期に見られる磨消縄文や貝殻押圧の擬似縄文は、この御領式では見られなくなり黒色磨研土器となっている。また、文様についてはほとんど目立たなくなる。文様帯は基本的に口縁部に限られている。深鉢形土器は、口縁部と胴部に凹線文をめぐらせ、口縁部の凹線の本数は２～３本である。頸部から口縁部で「く」字状に屈折して立ち上がり、胴部の屈曲は明瞭である。他の遺跡においては押点がつくものや口縁部に沈線が抉らないものも見られるようである。浅鉢形土器は、口辺部が「く」字状に屈折して立ち上がり、内湾する頸部から屈曲する胴部を経て底部となるものと「く」字状に立ち上がる口辺部からそのまま底部へと移行するものがある。本遺跡では底部の形状が不確定であるが、他の遺跡から出土したものには、上げ底を呈するものが多い。口縁部や胴部には凹線や太い沈線をめぐらしている。口縁端部には低い山形の突起を持つものもあり、山形突起部分やその下に楕円形

の凹点文を施すものがある。口縁部の凹線は基本的に２本で構成されている。

④天城式土器

菊池市赤星に所在する天城遺跡から出土した土器から名づけられたものであり、縄文時代晩期の指標となるものである。器形は、深鉢土器、浅鉢土器、坏形土器が見られる。器形の大きな特徴としては、御領式でみられた胴部から頸部にかけての角ばった屈折部がなくなり緩やかに屈折するようになる。頸部から胴部への屈折する角度も御領式と比べれば大きくなる。器面調整においても、御領式のミガキ調整と比べると粗くなっている。文様帯については、口縁部に限られており、御領式よりさらに希薄となった文様となる。浅鉢では沈線文が１条のものが多い。深鉢では、口縁部に平行沈線文が見られる。３～５本の沈線で構成しているようである。浅鉢の口縁端部において山形突起とはいえない小さな突起が見られるものがあり、その下には凹点文が施されているが実に形式的となっている。

⑤古閑式土器

上益城郡益城町に所在する古閑遺跡から出土した土器から名づけられたものである。縄文時代晩期の指標となるものである。器形は、深鉢形土器、浅鉢形土器及び椀形土器である。この他に他の遺跡では、高坏形土器、皿形土器、壺形土器も見られるようである。古閑式の全体的な特徴としては、基本的に文様帯が天城式と比べてもさらに希薄となるところであろう。文様帯があるものには、天城式で見られた平行沈線文が非常に雑になり平行とは決して言えない沈線が平行沈線文に似せて施してある。中には３本は平行であるが残り１本が平行からはずれるものなども出現する。また、深鉢の中には貝殻条痕を口縁部に平行に引き沈線文に似せたものも出現する。器形については、深鉢においては基本的には天城式とほとんど変わらないが、頸部から胴部の屈折部までの長さが広がり間延びした形状を呈している。浅鉢については、口辺部が天城式よりさらに外開きとなる。椀形土器については、体部はほぼ直線的であり、手捏ね状の粗雑な整形である。

⑥黒川式土器

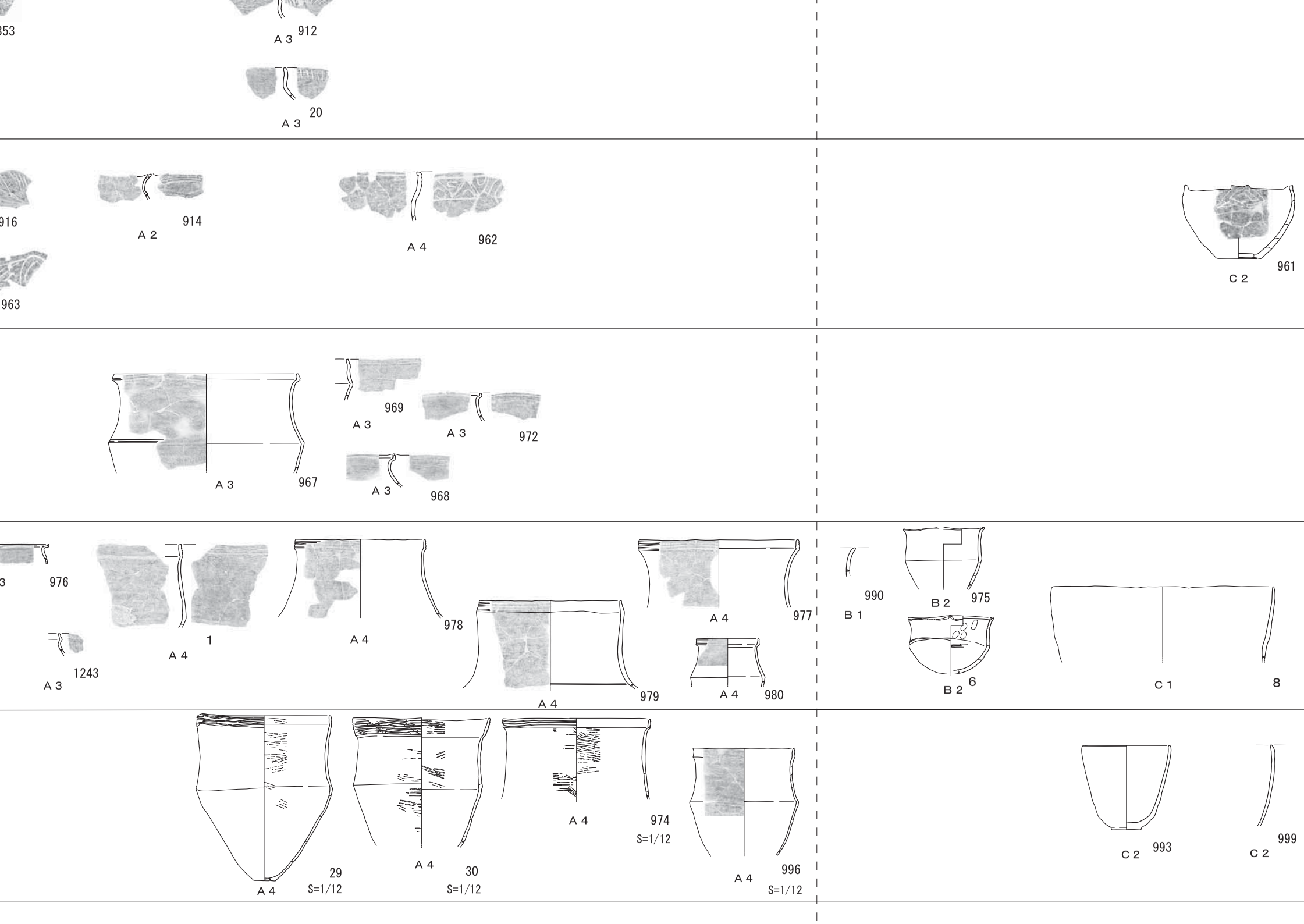
鹿児島県日置郡吹上町に所在する黒川洞穴遺跡から出土した土器から名づけられており、九州地方の縄文時代晩期の標識となる土器である。器形としては黒川式は精製土器である浅鉢形土器と粗製土器である深鉢形土器が中心であるが、他の遺跡では坏形、皿形、甕形土器も見られるようである。基本的に天城式、古閑式と同様に御領式土器の特徴を受け継いでいる。本遺跡では深鉢などの出土がなく、浅鉢のみの出土であった。浅鉢は胴部の屈曲が緩やかで、口縁部の文様帯がなくなる。その代わりに口縁端部にリボン状や鰭条の突起が貼り付けあるものがある。

（３）縄文時代のまとめ

縄文時代の遺構としては、竪穴住居跡が１軒、土坑が３基、埋鉢が２基であった。それぞれの遺構の時期は、住居跡と土坑が縄文晩期の天城式の時期、埋鉢は縄文時代晩期の古閑式の時期であることが言えよう。

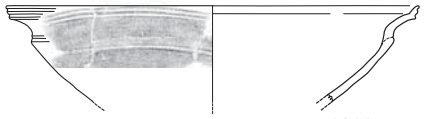
一方、包含層から出土した土器を見ていくと、縄文時代後期では比較的辛川式が多いようである。縄文晩期においては、圧倒的に天城式の出土が多く、型式的にみても多彩である。その他の時代となると縄文早期の押形文土器が１点出土した程度で生活の痕跡が見られない。

よって、北の崎遺跡において、縄文時代の人々の活動時期が縄文後期から晩期の範囲に限られており、この後述べる弥生時代では中期後半期からのものであることからも、縄文晩期で一端この北の崎遺跡からは人が他の地域へ流出したと考えられる。この点については、今後、玉名地域の縄文海進・海退の状況や稲作開始による集落の変容との関連性を考えていく必要があるようである。

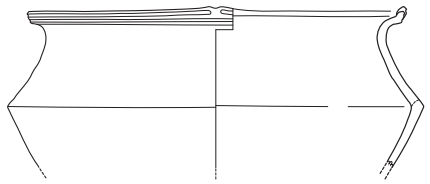

353
A 3
912
A 3
20
916
A 2
914
A 4
962
963
C 2
961
A 3
967
969
A 3
A 3
972
A 3
968
3
976
A 3
1243
A 4
1
A 4
978
979
A 4
977
A 4
980
990
B 1
B 2
975
B 2
6
C 1
8
A 4
29
S=1/12
A 4
30
S=1/12
A 4
974
S=1/12
A 4
996
S=1/12
C 2
993
C 2
999

B 1 1013

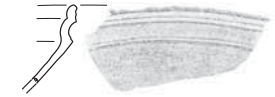
B 2 1014



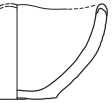
E 1－a 1011



E 1－b 1010



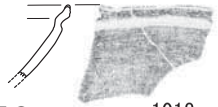
E 1－a 1012



A 1 1030

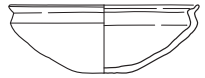
1024 E 1－a

E 1－a 16



E 2－a 1018

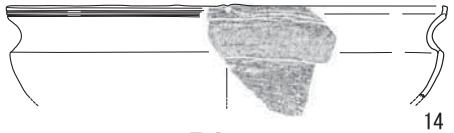
E 2－b 1016



E 3 1015

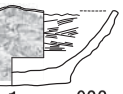
E 3 1021

E 1－a 1019

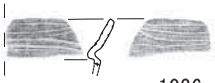


E 2－a 14

E 3 15

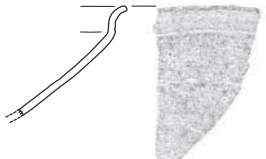


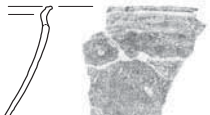
1 923



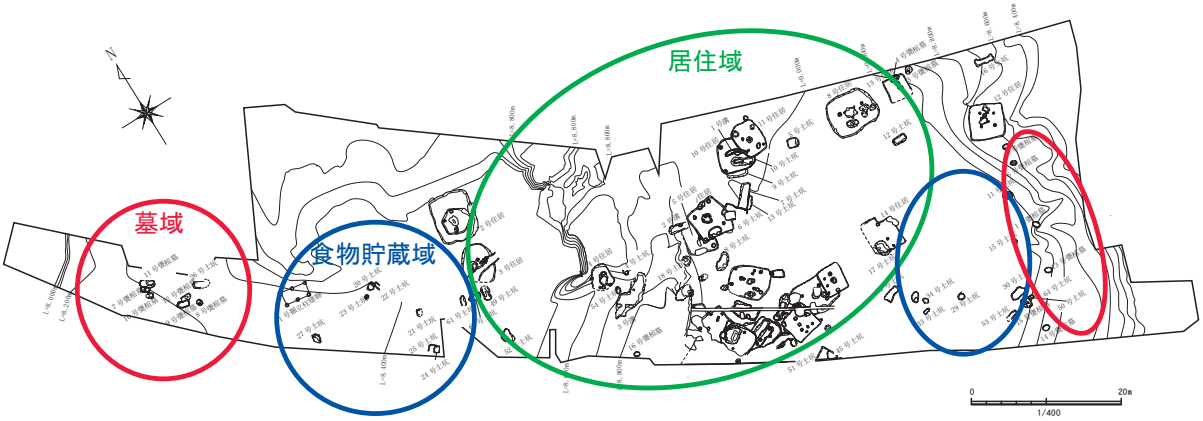
D 1026

E 3 1027





E 5 1245



図－464　北の崎遺跡における弥生中期後半から後期前半期の遺構配置図

３　弥生中期後半から後期前半期について

（１）検出された遺構について

弥生時代中期後半から後期前半期の遺構として、竪穴住居が21軒、土坑が61基、溝が４条、甕棺墓が14基検出された。

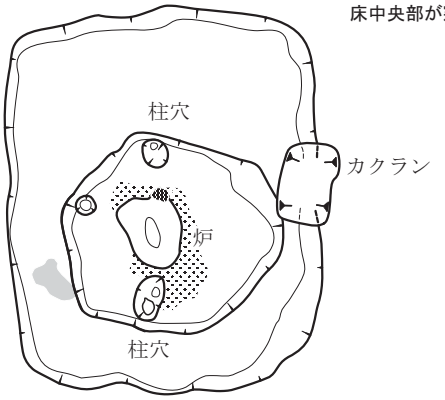
まず、図－464の遺構配置図から集落の構造を考える。今回の調査では、舌状を呈する台地状の地形を横断するような調査となった。これにより集落を横断するように遺構等が検出され、集落の構造が見えてきた。県内の遺跡では、墓域や居住域などの区域ごとの出土例はあるものの集落の構造がわかるような例は数多くないため貴重な資料となりうる。

さて、北の崎遺跡での集落の中心には、竪穴住居群が切り合いながら配置している。住居の形態が異なるものが切り合っており時期差があると考えている。地形測量の結果からもわかるように比較的高くなった部分に建てている。中央の竪穴住居が集中している部分を居住域としており、居住域の東側には遺構があまり存在しない空白地帯を有している。この領域は、広場的な意味合いをもっているのかもしれない。この空白地帯の北側には石戈や器台が出土している８号住居が存在することから、祭祀的なことを司る領域の可能性が高いと考えられる。これらの居住域の周囲に土坑や掘立柱建物跡が配置されている。この掘立柱建物跡は、１軒×２軒の建物であり、遺構の位置関係から倉庫ではないかと考えられる。居住域周辺の土坑は、貯蔵穴であろうと考えている。これら配置具合から、この土坑や掘立柱建物跡が配置される領域を貯蔵域とした。さらに、貯蔵域の周囲に甕棺墓が台地の崖（縁）に沿って配置されている。中心部の住居域から離れた特定の地域に墓は集中しているのでこの領域を墓域とした。県内や北部九州の弥生中期後半期の集落では、墓域と貯蔵域の境には環濠や結界を意味する溝等が検出される場合があるが、北の崎遺跡では検出されなかった。これらの遺構の配置から、この時期の集落の構造を理解する上で貴重な資料となると考えられる。

また、北の崎遺跡において、遺構の中で形態変化をみることができるのが、竪穴住居である。今回の調査で、７タイプの竪穴住居が存在することが理解できる。これらがそれぞれ良好な切り合い関係を示していないため新旧は全てにおいて判明しない。タイプ別の形態の特徴は、大別して２タイプに分かれる。隅丸方形、方形の２タイプである。隅丸方形の竪穴住居は柱の本数や位置、貯蔵穴の有無で４タイプに分類できる。また方形の竪穴住居は、柱の本数、貯蔵穴及び張り出し部の有無により３タイプに分類できる。これらの付帯設備等の形態の違いにより７タイプに分類したのが、図－465の形態分類図である。遺構の切り合い関係や出土した土器の型式分類から隅丸方形の竪穴住居が古く、さらに方形の竪穴住居へ、そして張り出しをもつ竪穴住居へ変遷していったのではないかと考えられる。方形でもこの時期まではベッド状遺構はつかないようである。尚、

① 隅丸方形竪穴住居

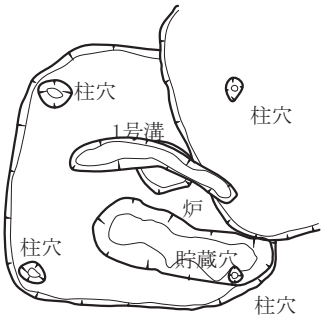
隅丸方形　炉　柱２本
床中央部が窪む



２号住居

② 隅丸方形竪穴住居

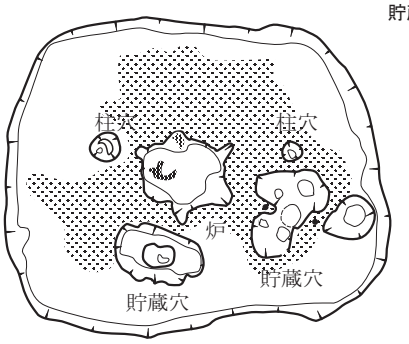
隅丸方形　炉　柱４本
貯蔵穴



１０号住居

③ 隅丸方形竪穴住居

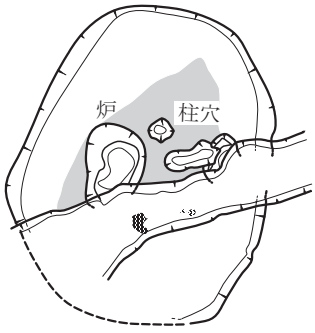
隅丸方形　炉　柱２本
貯蔵穴２基



８号住居

④ 隅丸方形竪穴住居

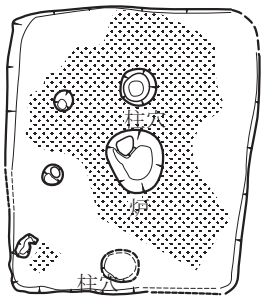
隅丸方形　炉
柱１本



３号住居

⑤ 方形竪穴住居

方形　炉　柱２本
貯蔵穴なし



９号住居

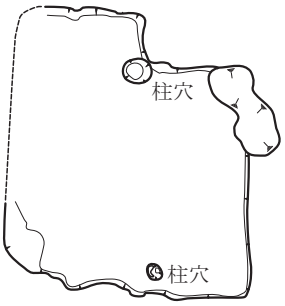
⑥ 方形竪穴住居

方形　炉　柱４本
貯蔵穴１基

１２号住居

⑦ 張り出し部をもつ竪穴住居

方形
柱2本



１４号住居

図－465　弥生中期後半から後期前半期の竪穴住居形態分類図

土器の型式分類から考察を加えた竪穴住居の形態変遷は、最後にまとめる。

（2）出土した弥生土器について

今回の調査で、竪穴住居などの遺構から一括資料に近い状態で多量の土器が出土した。型式学的分類に耐えうる土器が出土した遺構は、残念ながら良好な切り合い関係を示すことがなかったため土器編年まで検討を加えることができなかった。そこで、今回は各段階を同じ形態を持つ土器群として捉え、それぞれの土器群の類型を以って段階として分類した。よって、類型は絶対的な時間軸を表しているのではないとご理解いただきたい。尚、土器の形態変化に関しては、甕の形態変化を基本とし４段階の類型を設定している。

①土器の分類

北の崎遺跡で出土した土器の主な器種には、甕形土器、壺形土器、高坏形土器、鉢形土器、蓋形土器、器台形土器がある。

１）甕形土器

胴部最大径位置によって２つに大別できる。胴部最大径が口縁部周辺にあるものをⅠ類として、胴部最大径が胴部の中位よりやや上に位置するものをⅡ類とする。さらに口縁部の形によってさらに細分する。Ⅰａ類は、口縁部は平縁であり、その上面が平坦であるもの。Ⅰｂ類は、口縁部は平縁であり、その上面が平坦であり内側に突起を持つもの。Ⅰｃ類は、口縁部が「く」の字で内側に突起をもち、上面がやや窪むもの。Ⅱａ類は、口縁部が平縁であり上面が平坦であり、内側に突起をもつ。Ⅱｂ類は、口縁部が平縁であり内側に突起をもつ。また口縁端部は垂れ下がるかもしくは垂れ下がりぎみのもの。Ⅱｃ類は、口縁部の断面形状が「く」の字状であり内側に突起を持ち、上面の中央が窪むもの。Ⅱｄ類は、断面形状が「く」の字状であり内側に突起を持たないもので口縁部が直線的に立ち上がるもの。Ⅱｅ類は、「く」の字状の口縁部で突起がなく外反するもの。Ⅱｆ類は、断面形状が「く」の字状でありその内側に突起を持ち、端部が大きくしゃくれ上がるもの。尚、台付甕においては、脚部と胴部とが接合できた遺物が非常に少なかったため脚部は単独で附している。

２）壺形土器

口縁部の形によって４つに大別することができる。さらに頸部と胴部のつくりの違いによってさらにそれぞれを細分することとする。まず、口縁部が平縁でその内側に突起を持つものをⅠ類とする。さらに口縁部が外に開きその内側に突起をもたないものをⅡ類、口縁部が直線的に立ち上がるものをⅢ類、胴端部がそのまま口縁部となり、胴部が球状のものをⅣ類とする。そこで、頸部と胴部のつくりの違いから以下のように細分することとする。Ⅰ類は細分されず１つである。Ⅱ類は、頸部から口縁部までの長さが短いものをⅡａ類、頸部から口縁部までの長さが長いものをⅡｂ類と細分する。Ⅲ類は胴部が扁平であり、頸部が短いものをⅢａ類とし、胴部が扁平で頸部が長いものをⅢｂ類とし、さらに口縁部が袋状となっているものをⅢｃ類とする。Ⅳ類は、口径が胴部最大径と比べ大きいものをⅣａ類とし、口径が胴部最大径と比べ小さいものをⅣｂ類とする。

３）高坏形土器

高坏形土器は出土数が少なく口縁部から脚部まで揃っているものが少ない。よって坏部の口縁部から底部までの深さと体部の形状によってⅠ類からⅢ類までの３つに大別することとする。さらに口縁部のつくりによってさらに細分する。Ⅰ類は、深い坏部であり口縁部が平縁で端部がやや垂れ下がる。Ⅱ類は、浅い坏部であり体部が丸みを帯びている。さらにⅡ類は口縁部の形態によって細分され、Ⅱａ類は口縁部が平縁で端部が垂れ下がる。Ⅱｂ類は、平縁で上面が平坦若しくは中央がやや膨らむ。Ⅲ類は浅い坏部であり体部は直線的に立ち上がる。

４）鉢形土器

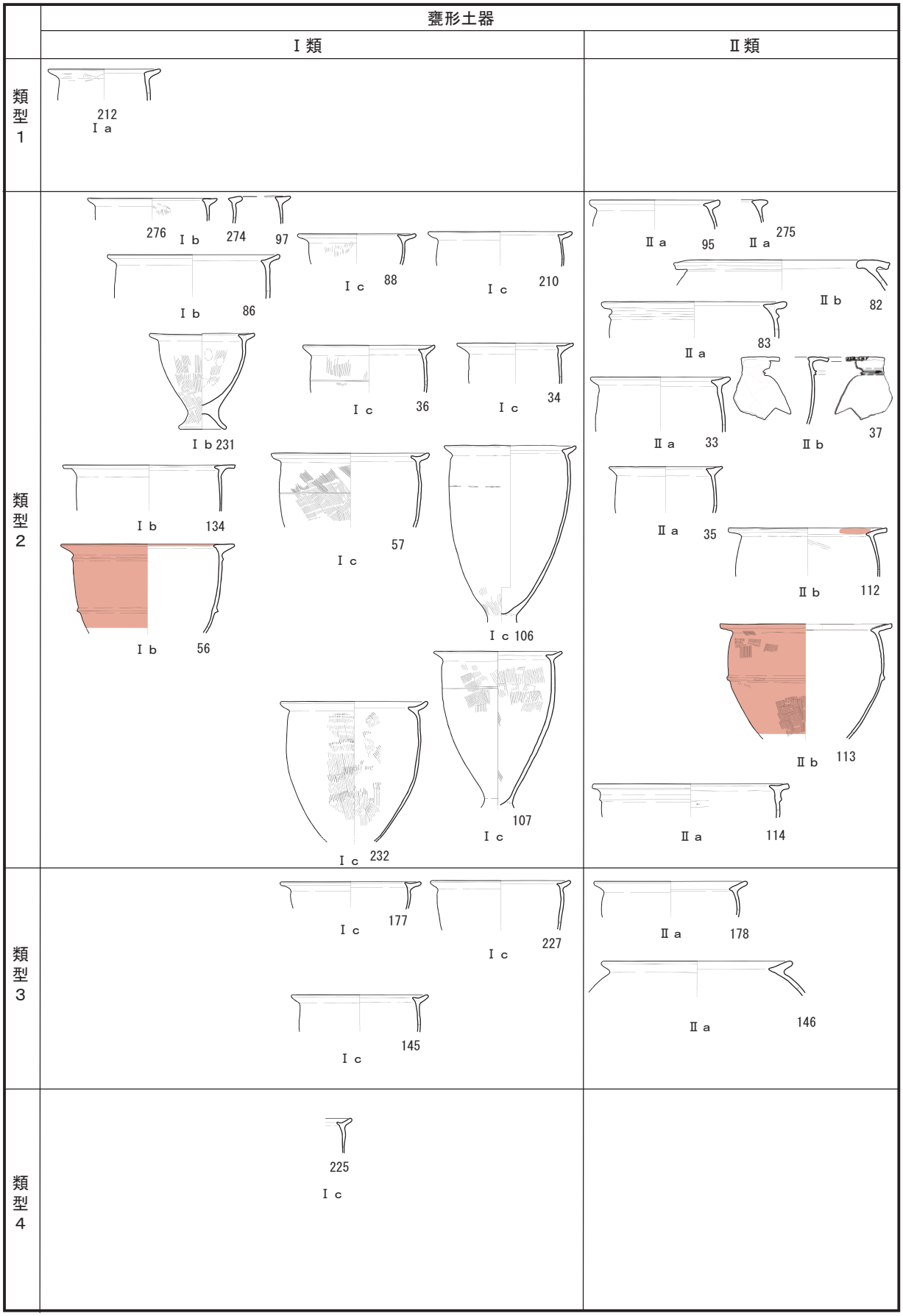
鉢形土器は、２号住居から出土した46及び８号住居から出土した118である。分類できないため甕形土器と同じ類型に位置づける。

５）蓋形土器

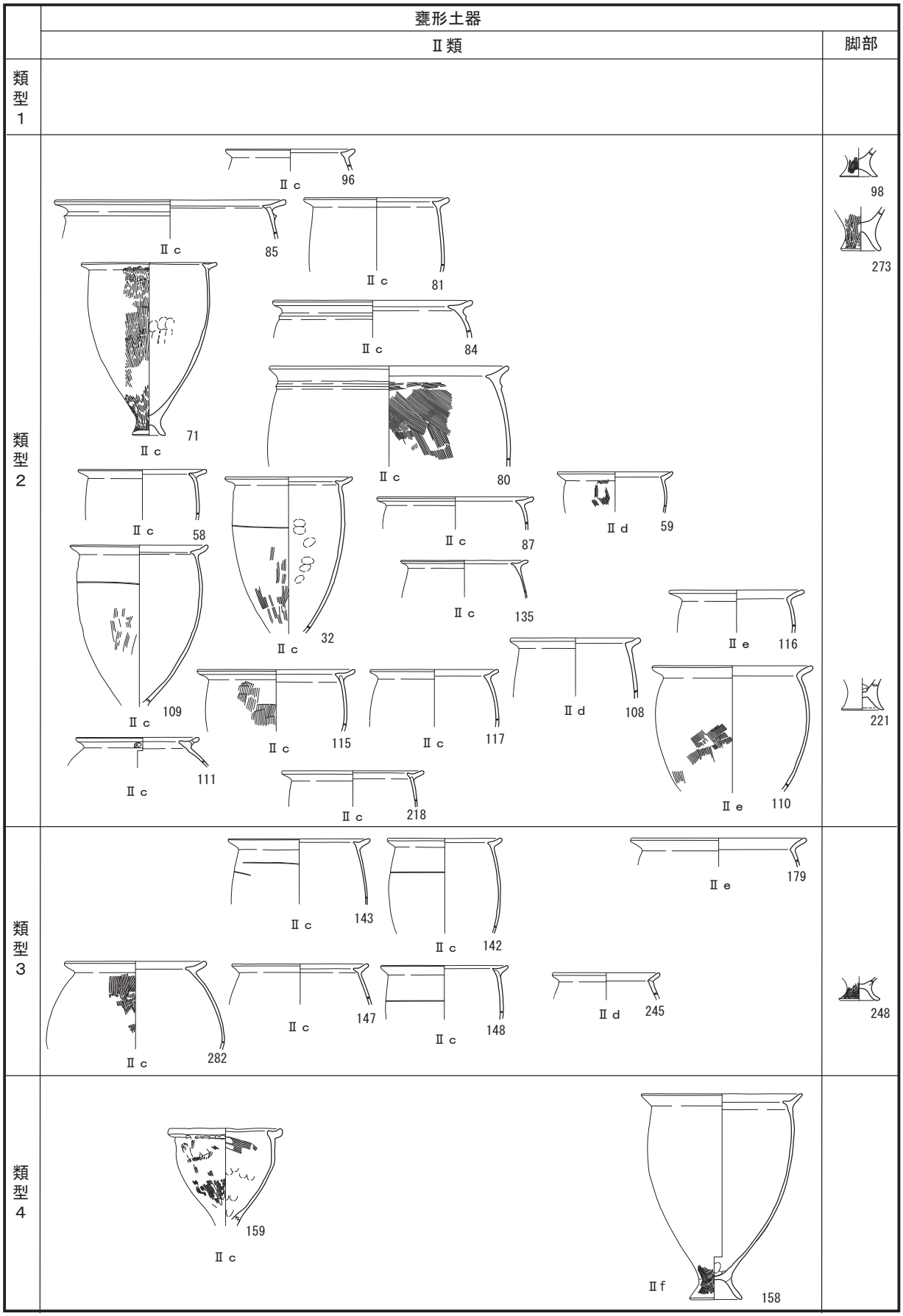
蓋形土器も、３号住居と４号住居から出土した２点のみである。これも分類ができないため供伴した土器と同じ類型に位置づける。

６）器台形土器

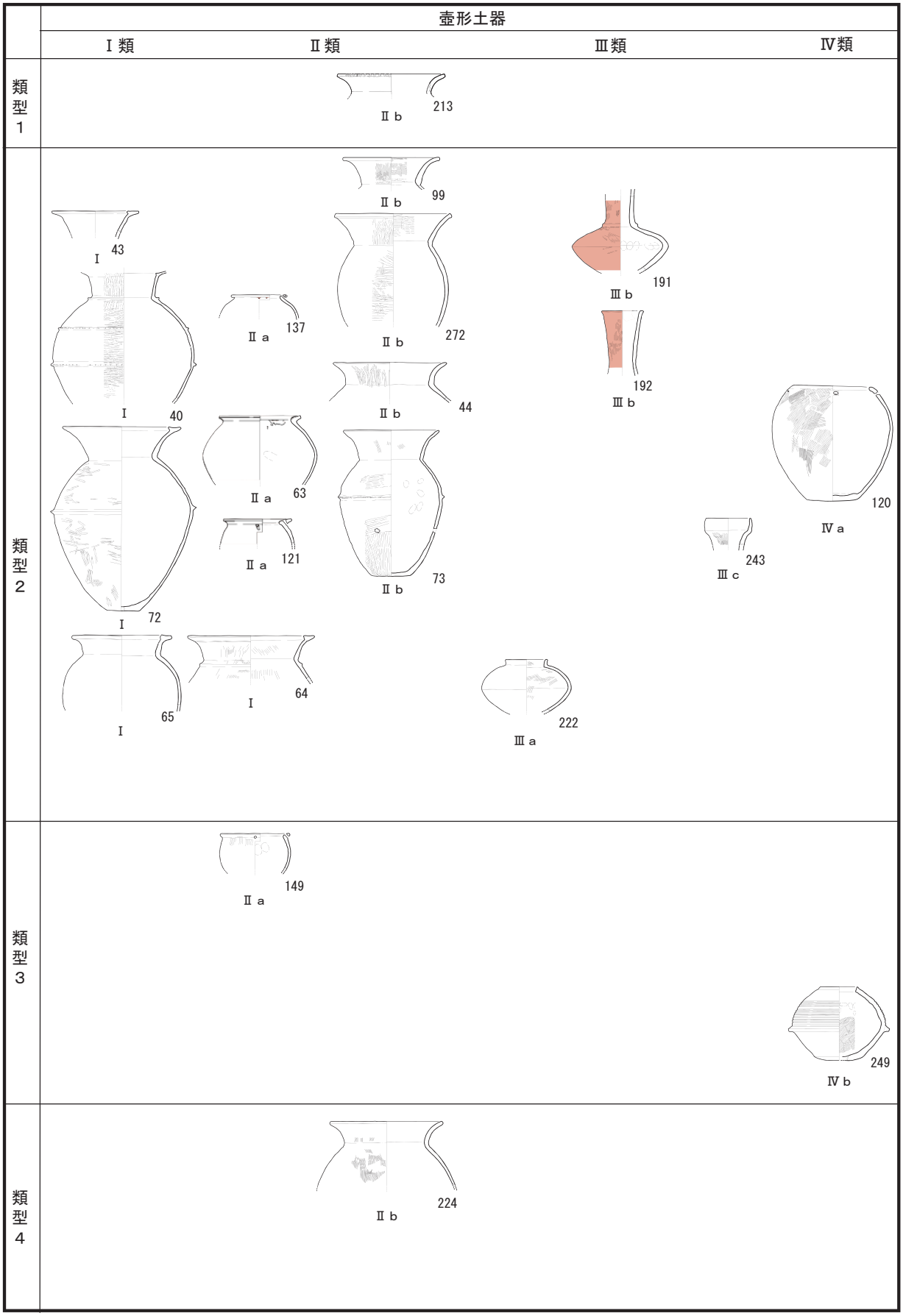
器台形土器は、くびれの位置により２つに分類で



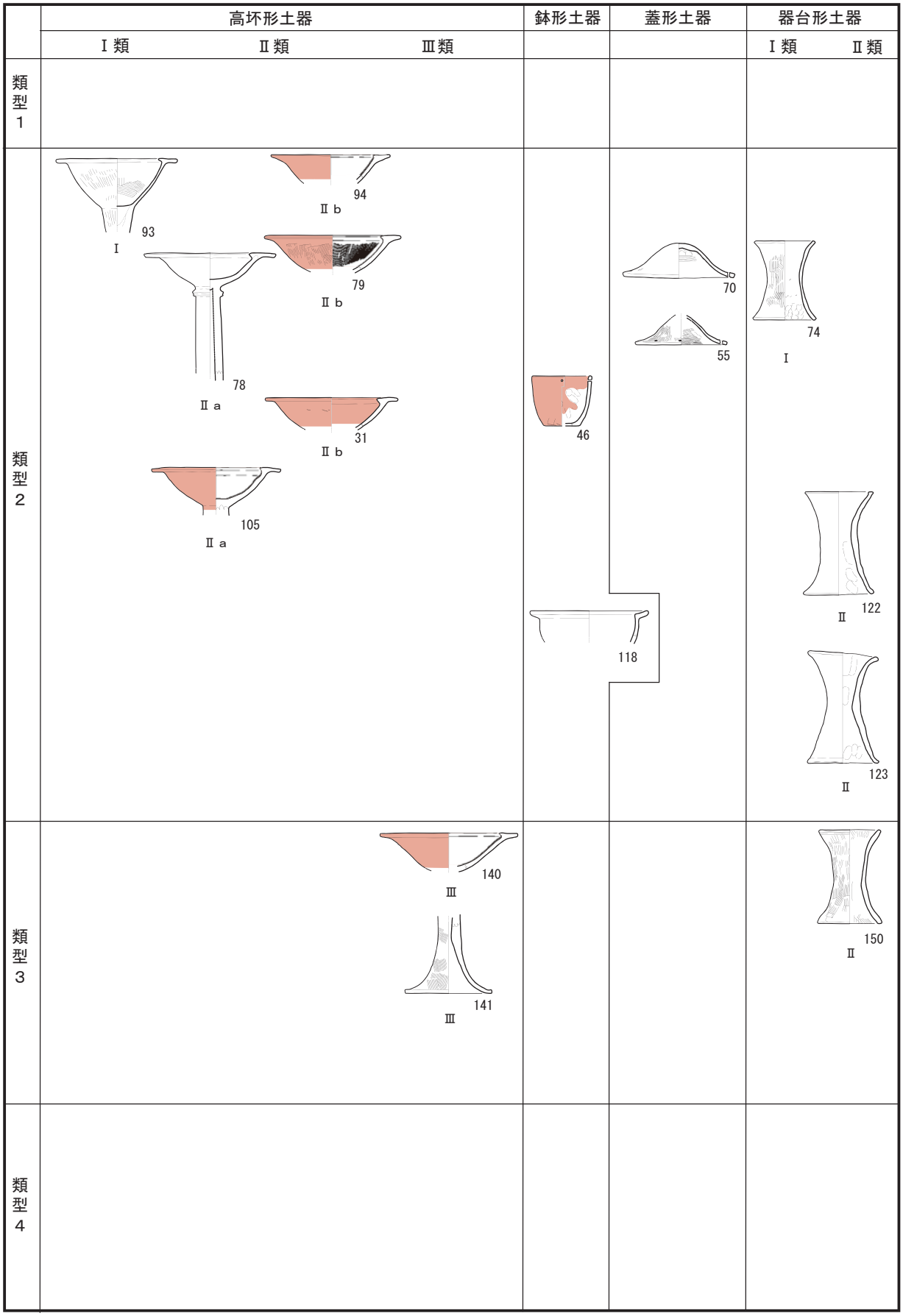
図－466　北の崎遺跡における弥生時代中期後半期から後期前半の土器分類図　①



図－467　北の崎遺跡における弥生時代中期後半期から後期前半の土器分類図　②



図－468　北の崎遺跡における弥生時代中期後半期から後期前半の土器分類図　③



図－469　北の崎遺跡における弥生時代中期後半期から後期前半の土器分類図　④

きる。くびれが中央にあり、しまりが弱いものをⅠ類。くびれが中央よりやや上にあり、しまりがやや強くなるものをⅡ類とする。

②各段階における同じ土器群を有する遺構の選定

各器種において、同じ形態であるものを類型として設定する。尚、類型のそれぞれを１つの遺構で設定したいところであるが、一括資料がないために複数の遺構をもって１つの類型とする。以下各類型を構成する遺構を各類型ごとにまとめておく。

１）類型１

形態を同じくする遺構はなく、１０号土坑の１遺構のみである。

２）類型２

この類型は、多くの遺構が当てはまり、中心的な段階となっている。住居跡が７軒、土坑が３基、溝が１条が当てはまる。住居では７号住居・６号住居・２号住居・４号住居・１０号住居・８号住居・３号住居で、土坑は２７号土坑・２８号土坑・１７号土坑で、溝は３号溝によって設定している。

３）類型３

この類型に当てはまる遺構は、住居跡２軒、土坑２基、溝１条である。住居跡が１６号住居・１１号住居、土坑が２１号土坑・３６号土坑で、溝が４号溝によって設定している。

４）類型４

この類型に当てはまる遺構は２遺構であり、１４号住居と１９号土坑によって設定している。

③遺構の時期的な前後関係

冒頭で遺構の切り合いに恵まれていないことを述べているが、今回抽出した遺構で切り合いが認められるものが一部ある。その新旧関係をここで確認しておく。

類型１→類型２

類型１である１０号土坑は類型２である１０号住居によって切られている。よって１０号土坑→１０号住居である。

類型２→類形３

類型２の１０号住居は類型３の１１号住居によって切られている。よって１０号住居→１１号住居である。

類型２→類型４

類型２の１７号土坑は、類型４の１４号住居によって切られている。よって１７号土坑→１４号住居である。

類型３→類型３

同じ類型３の中で１６号住居が３６号土坑に切られており、１６号住居→３６号土坑である。

④各類形の概要

各類型の大まかな特徴をここでまとめておく。

類型１

この類型に属する遺構が１０号土坑のみであり全体的な器種組成はつかめなかった。１０号土坑からは甕Ⅰａ類と壺Ⅱｂ類が認められる。甕は、胴部最大径が口縁部近くにあり口縁部には内側に突起がつかないものと平縁で突起がつくものもがあるようである。壺は口縁部が「く」字状を呈して外反する。端部には刻み目を施すものもあるようである。

類型２

この類型になると、甕形土器では胴部最大径が口縁部近くにあるものと中位よりやや上にあるものとがある。個体数的には中位よりやや上にあるものが多いようである。口縁部の形状では、平縁で内側に突起を持たないものは少なく多くは突起を持つ。内外面ともハケ目で仕上げられている。「く」の字口縁が出現するのが３号住居型の59以降であろう。弥生後期を代表する「く」の字口縁の原型がこの段階で形成されたものではなかろうか。壺形土器は、長頸壺、短頸壺、無頸壺、広口壺、袋状口縁壺から構成されている。長頸壺はミガキで仕上げてあり、この類型の中でも口縁部が寝るものから立つものへ移行している傾向にあり、後期の壺へつながっていくのであろう。広口壺は扁平な胴部から長胴に変化する様相を呈する。短頸壺は胴部は扁平であるようである。無頸壺は長胴で胴の張りがやや強くなる。袋状口縁壺は甕形土器とのセット関係で類型２に位置付けている。甕形土器・壺形土器・高坏形土器・鉢形土器の丹塗り土器はこの類型に属する。高坏形土器は、坏部が深いものから扁平のものへ移りかわるような様相を呈し、体部の立ち上がりも丸みを帯びている。蓋形土器は、底平に広がり天井部は丸みを

帯びている。器台形土器は、くびれ部が中央にあるものと中央よりやや上に位置しくびれも強くなるものとがあり、上に位置するものほど新しくなる傾向を示す。

類型３

甕形土器では胴部最大径が口縁部近くにあるものと中位よりやや上にあるものとがある。口縁部が平坦になっているものは傾斜がつき、立つ傾向にある。口縁部の内側に突起をもつものは、突起部が小さくなる傾向を示す。口縁部が極端に立つものはない。新相ほど胴部最大径が下がり中央付近に移りその結果胴部に丸みが生じているようである。甕形土器ではこの類形で丹塗り土器は姿を消し、器面調整で丁寧なナデ調整で仕上げるものが中心となる。壺形土器は、広口壺と無頸壺で構成されている。口縁部はやや立ち、胴部もやや長胴化する。無頸壺は扁平の球状を呈する胴部である。高坏形土器は類型２と比較すると、坏部の体部がやや反りながら直線的に立ち上がるものへ移り変わるような傾向を示す。甕形土器や壺形土器では丹塗り土器が姿を消しているが、この高坏形土器ではまだ残っている。器台形土器では類型２と同様にくびれが中央よりやや上方に位置している。

類型４

この類型に属する遺構が少なく全体的な器種組成はつかめなかった。甕形土器は、口縁部において大きく上方にしゃくれ上がる傾向があるようである。弥生後期前半期の様相を呈している。依然として内側に突起は持っている。口縁部の断面が肥厚するものもあるようである。壺形土器は、平縁で平坦な形状を呈する口縁部は姿を消し頸部がやや直立ぎみに立ち上がり、口縁部で外反するようである。器面調整ではハケ目を施した後ナデ調整で仕上げている。

（３）竪穴住居の形態変遷と土器型式分類

北の崎遺跡の竪穴住居のタイプは、竪穴の形状によって隅丸方形竪穴住居と方形竪穴住居の２タイプに大別できることは前述した。そこで、土器の型式分類をそれぞれのタイプに当てはめてみると、竪穴住居①～④までが、型式分類の類型２であり、竪穴住居⑥は類型３、⑦が類型４に相当する。尚、竪穴住居⑤は、出土遺物が少なく類型を当てはめることができなかった。しかしながら、類型２と類型３のどちらかであるとは考えている。このことから全体的な形態変化としては、隅丸方形の竪穴住居から方形の竪穴住居へ移行していっているのが理解できる。さらに、類型２に相当する隅丸方形竪穴住居を細かく見ていくと、①では中央に深さはないものの大きな土坑状のものがあり、これに接するように柱穴が見られる。この配置具合は朝鮮系の松菊里型の竪穴住居の流れをくむものなのかもしれない。②及び③になると、どちらかと言うと東西にやや長いものへと変化するようである。④以降はまた南北に長い形状をとる。②～④では柱の本数が減る傾向にあるが本遺跡のみでは判断がつかない。一方、方形竪穴住居に関しては、弥生時代後期前半期への過渡期及び前半期のものあろうと考えられる。この時期で大きな変化と言えば、貯蔵穴と炉の位置であろうか。弥生時代中期後半期の貯蔵穴は、南側壁に隣接して敷設されていたものが、この時期になると北側に敷設されているものが現れる。また、炉においても弥生時代中期後半期では竪穴のほぼ中央に配置されていたものがやや中心から外れた位置にあるのも大きな変化と言えよう。さらには、⑥に至っては、新たなオプションとして張り出し部をもつようになり、炉がないものが現れる。この時期になると弥生時代後期前半期であるようである。

（４）まとめ

今回、土器の型式分類を行うことで弥生時代中期後半期から後期前半期までの土器の変遷を部分的ではあるがつかむことができ、これを竪穴住居の変遷に当てはめることができたことは大きな意義があると思われる。これまで弥生時代中期から後期にかけての遺物や遺構の変遷資料が少なかっただけに貴重な資料となるのではないかと考えている。しかしながら、荒削りな面は否めなく、今後菊池川水系を中心に他の遺跡と比較検討し、編年学的な面を付加しながら弥生時代中期～後期における変遷の考察を行う必要があると考える。

４　古墳時代について

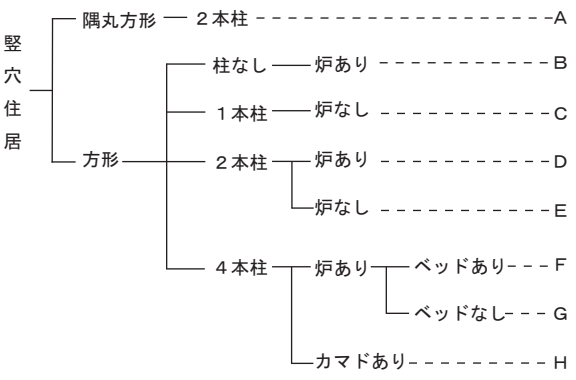
（１）検出された遺構について

古墳時代の遺構では、竪穴住居が21軒、土坑が７基（詳細時期不明の３基含む）、溝が１条検出された。これらのほとんどが古墳時代前期のものである。その中に、古墳時代中期や古墳時代後期の竪穴住居も一部見られる。この時代の遺構で、形態を変化させるものとしては、竪穴住居である。形態の特徴によって分類した構造図が下図（図－470）である。

北の崎遺跡では、竪穴の形状によって大きく分けて２種類である。隅丸方形と方形である。また、柱の本数もまちまちである。柱なし、１本、２本、４本とバリエーションがある。さらに付帯設備を見ていくと炉がある住居とない住居がみられる。他の付帯設備ではベッド状遺構があるものとないものが見られる。貯蔵穴もあるものとないものが存在する。これらの特徴から分類したものが、図－471である。

この時代では、切り合い関係がないため遺構による新旧関係をつかむことはできなかった。よって遺構の変遷を考察するには、遺物の分類にかかるところが大きい。構造図には反映させてはいないが、主軸の方向によっても３タイプあるようである。北を向く住居、北東にやや傾く住居、北西にやや傾く住居である。

全体の傾向としては、古墳時代前期では炉は竪穴の中央に位置している。ところが中期あたりで徐々に壁際に移動し、最終的には後期で完全に壁に接し竈へと変化していくようである。後述する土師器の型式変遷から、Ｃ→Ｄ→Ｂ→Ａ・Ｆ→Ｇ→Ｅ→Ｈと竪穴住居の形態が変遷するものと考えている。



図－470　古墳時代における竪穴住居の形態構造図

（２）出土した土器について

今回の調査で、竪穴住居と土坑から一括資料とはいかないまでも、ある程度まとまって出土したため型式分類を試みた。しかしながら抽出した遺構には切り合い関係を示すものがなく、土器編年を考察するまでには至らなかった。よって、土器の型式が類するものをグループ化し、分類したものである。類型に正確な時間軸を持たせているものではないので編年学的な意味合いを持つ「期」という用語は使用せず類型という用語を使用し、６段階に分類した。尚、玉名地域には、古墳時代前期の遺跡として柳町遺跡、山下遺跡などがあげられる。柳町遺跡は菊池川を挟んで対岸に位置する。本遺跡の土器は、柳町遺跡でいう柳町Ⅲ期～Ⅴ期に相当する時期であると考えられるが、十分な比較検討までは至らなかった。

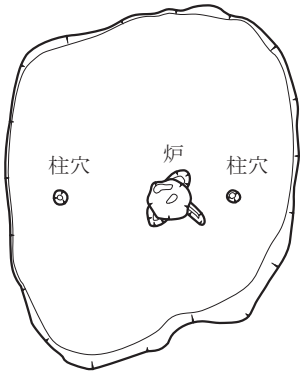
① 土器の分類

北の崎遺跡で出土した土器の主な器種は、甕・壺・高坏・小形丸底壺（鉢）・器台・坏形土器であり、これを基本形式として分類した。出土した個体数が少なく型式の変遷が理解できない器種については除外して分類している。また、分類するにあたって一括資料に近い遺構を主とし、セット関係から補足的に必要な遺構を入れて分類している。

１）甕

甕は、長胴でタタキを残すＡ類からＣ類、胴部が長胴や球形で外面がハケ目調整で内面がヘラケズリ調整を施すＤ類及びＥ類、布留式や吉備系のＦ類及びＧ類の７種類に大きく分類できる。さらに、胴部や口縁部の形状等によってさらに細分できる。

Ａ類は、長胴で口縁部が外反し、口縁端部はすぼむ。外面はタタキを残し、内面はハケ目調整である。Ｂ類は、外面の調整がタタキのちハケ目で内面がハケ目調整である。Ｂ－１類は、長胴であり、Ｂ－Ⅱ類は胴部が球形で口縁部は直線的である。Ｃ類は長胴で外面がタタキで内面がケズリ調整である。口縁部は直線的。Ｃ－Ⅰ類は外面がタタキからハケ目を施し、Ｃ－Ⅱ類はナデ消している。Ｄ類は、外面がハケ目調整、内面がケズリ調整である。在来系と外来系の折衷系である。胴部や口縁部の形態によって細分する。Ｄ－Ⅰａ類は、長胴で口縁部は直線的

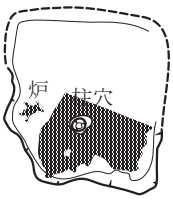


隅丸方形
２本柱

A　２６号住居　（類型３）

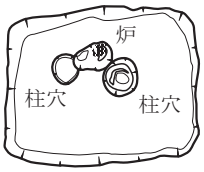
方形
柱なし
炉あり

B　４２号住居　（類型２・３）



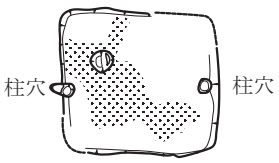
方形
１本柱
炉あり

C　２４号住居　（類型２より古い）



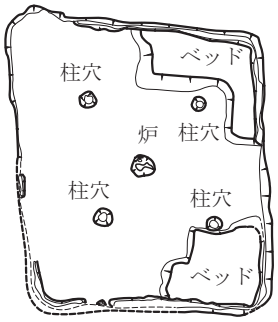
方形
２本柱
炉あり

D　２５号住居　（類型２）



方形
２本柱
炉なし

E　２８号住居　（類型６より新しい）

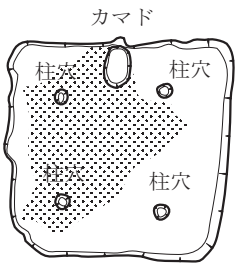


方形
４本柱
炉あり
ベットあり

F　３９号住居　（類型３）

方形
４本柱
炉あり
ベットなし
貯蔵穴あり

G　３５号住居　（類型４）



方形
４本柱
カマドあり

H　４３号住居　（類型６より新しい）

図－471　古墳時代の竪穴住居形態分類図

で口縁端部は面取りを施されている。Ｄ－Ⅰｂ類は、長胴で口縁部は直線的で、口縁端部を丸くおさめるか若しくは窄ませる。Ｄ－Ⅰｃ類は、長胴で口縁部は外反し口縁端部は窄ませる。Ｄ－Ⅱ類は、胴部最大径が頸部近くにある。Ｄ－Ⅲａ類は、胴部が球状で口縁端部は面取りが施されている。Ｄ－Ⅲｂ類は、胴部は球状で口縁端部は窄む。Ｄ－Ⅳａ類は小型の甕で胴部がやや長胴である。Ｄ－Ⅳｂ類は小型の甕で胴部が球状である。Ｄ－Ⅴ類は胴部が倒卵形もしくはそれに近い形状を呈し、器壁が厚い。Ｅ類は、外面がハケ目調整で内面がヘラケズリ調整であり重心が下がり下膨れ。胴部の肩付近に波状文を施す。口縁部は直線的である。Ｆ類は外面がハケ目調整で内面がヘラケズリ調整であり、器壁が薄く、倒卵形である。胴部の調整と口縁部の形状によって細分する。Ｆ－Ⅰ類は、外面のハケ目の方向は不定方向。Ｆ－Ⅱ類は胴部肩付近にヨコハケ目を施し口縁部は内湾ぎみ。Ｆ－Ⅲは胴部肩付近にヨコハケ目を施し口縁部は直線的である。Ｇ類は複合口縁甕であり、二次口縁接合部の外面の稜がしっかりしている。

２）壺

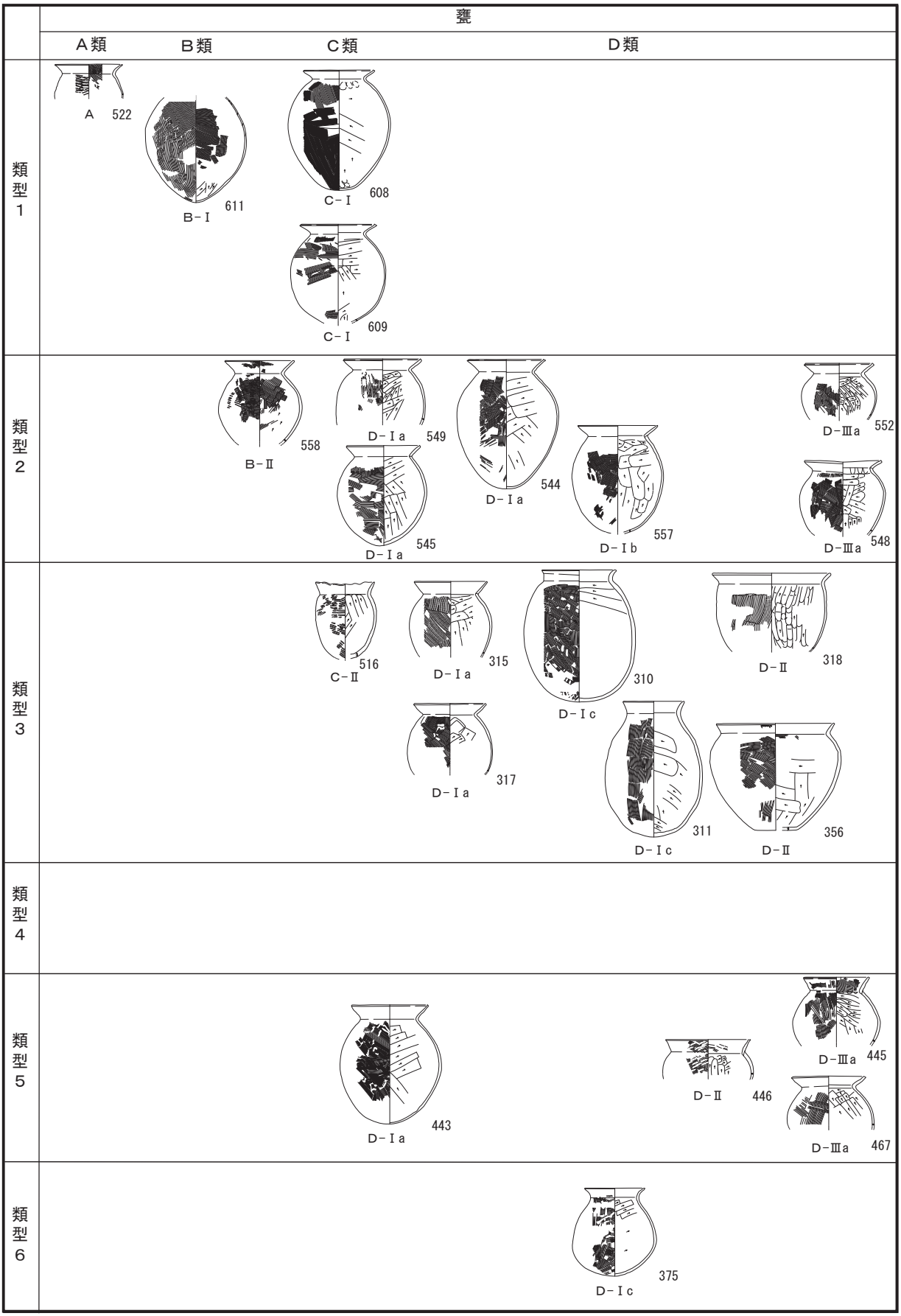
壺は、口縁部と胴部の形状でＡ類からⅠ類までの９種類に大別できる。Ａ類はいわゆる長頸壺であり、頸部から口縁部の器高が胴部の器高に比して占める割合が大きい。Ｂ類は、胴部に張りがあり胴部の肩付近に波状文を施す。口縁部が外反するものをＢ－Ⅰ類、口縁部が直線的なものをＢ－Ⅱ類とする。Ｃ類は、胴部の肩が張るもので口縁部が外反するものである。Ｄ類は胴部がなで肩である。口縁部が外反するものをＤ－Ⅰ類、直線的であるものをＤ－Ⅱ類とする。Ｅ類は、口縁部が直立するもので、口縁部が外反するものをＥ－Ⅰ類、直線的なものをＥ－Ⅱ類に細分される。Ｆ類は複合口縁壺である。二次口縁が大きく開き、一次口縁と二次口縁の屈曲がゆるやかである。Ｇ類は一次口縁と頸部、頸部と胴部の屈曲が明瞭である。二次口縁は外反ぎみに直立する。Ｈ類は、一次口縁と頸部、頸部と胴部の屈曲が明瞭であり、頸部や二次口縁に浮文や突帯を施す加飾複合口縁壺である。Ⅰ類は、一次口縁と頸部、頸部と胴部の境界の屈曲が明瞭でなくスムースな曲線を描くもので、頸部のしまり具合で細分される。山陰系複合口縁壺である。頸部径/口径が0.6より大きいものをⅠ－Ⅰ類、0.6より小さいものをⅠ－Ⅱ類とする。胴部の肩には波状文やヨコハケ目を施してあるものが多いようである。

３）高坏

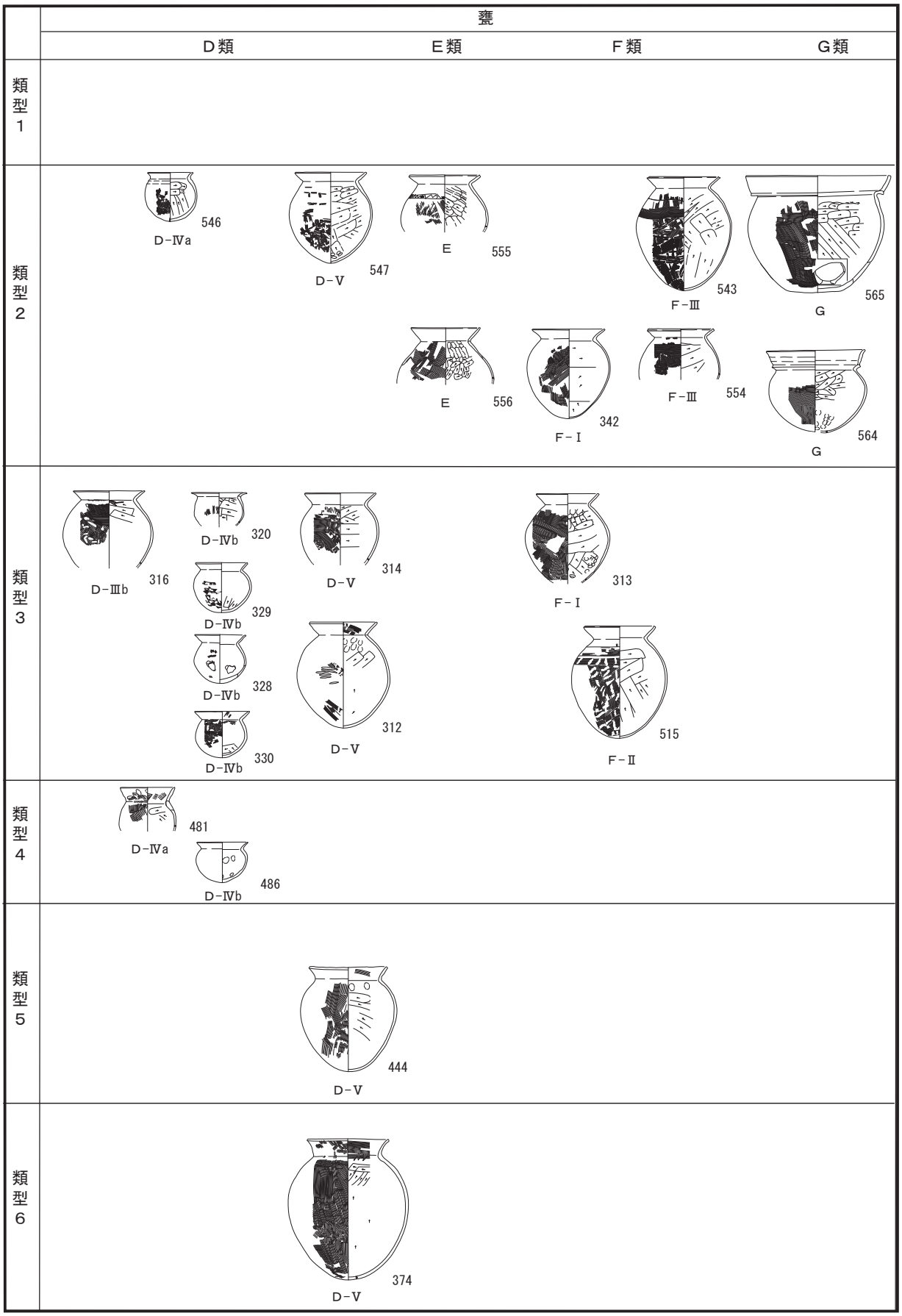
坏部と脚部の形状の違いによってＡ類からＦ類まで分類される。Ａ類は、坏部の上半と下半が分かれ明瞭な段状をなす。Ｂ類は、坏部上半と下半を分ける稜があり小さい段状をなす。脚部が柱状のものをＢ－Ⅰ類、「ハ」の字状のものをＢ－Ⅱ類とする。Ｃ類は、坏部上半と下半を分ける稜があるが段をなすことはない。脚部の開き具合によってＣ－Ⅰ類とＣ－Ⅱ類に細分できる。Ｄ類は、脚柱状部が太く比較的短い。脚裾部への屈曲はきつい。Ｅ類は、坏部上半と下半の屈曲は目立たない。Ｆ類は、坏部上半と下半の屈曲は目立たなく、その境界の稜の上部に凹みをめぐらす。

４）小形丸底壺（鉢）

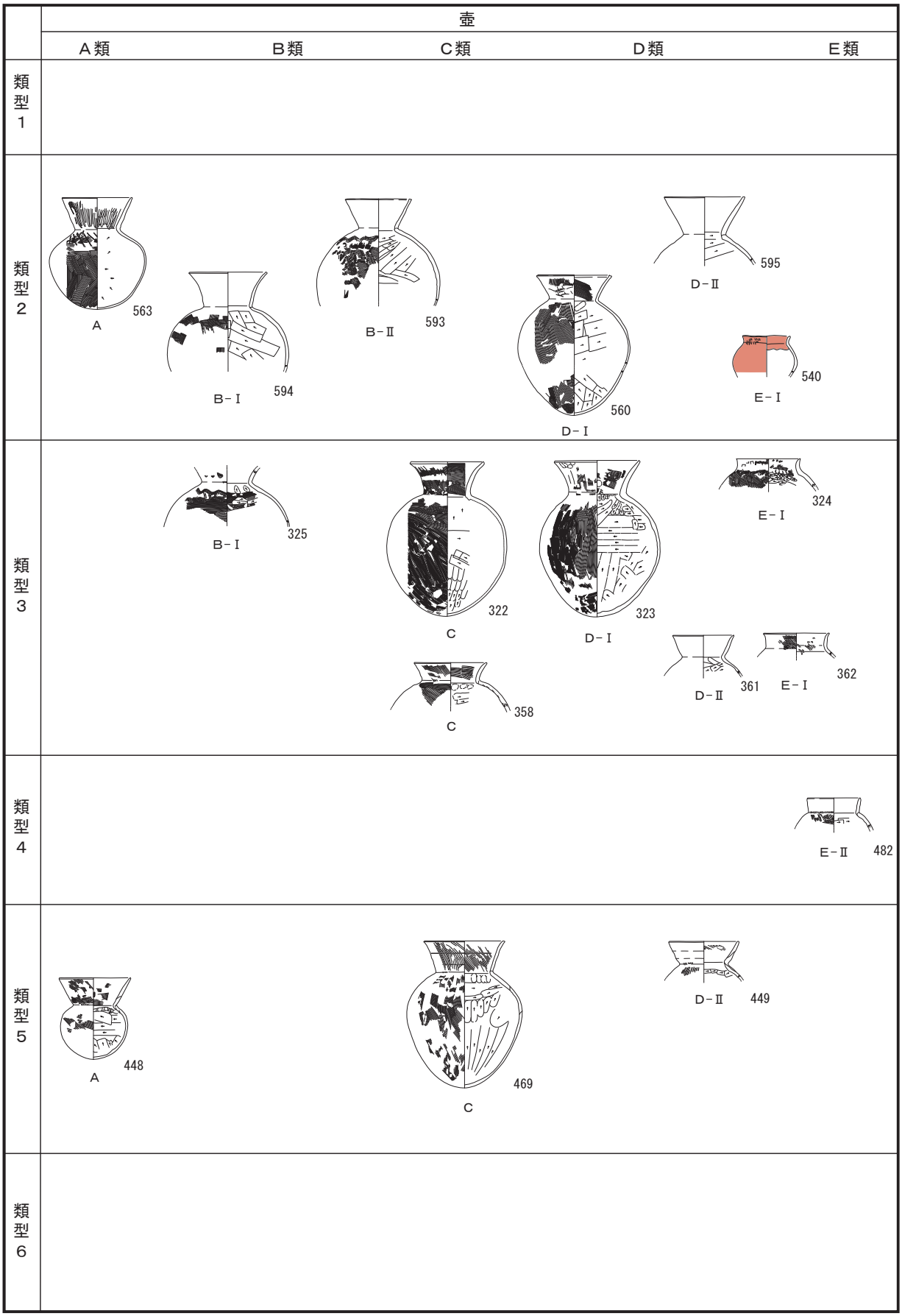
体部と口縁部の形状と頸部のしまり具合によりＡ類からＣ類の３つに大別される。各部位の細かい違いによってそれぞれ細分される。Ａ－Ⅰ類は、体部がやや球形で頸部のしまりがない。口縁部は上方へ延びる。Ａ－Ⅱａ類は、体部が扁球形で頸部にしまりがなく口縁部が寝る。Ａ－Ⅱｂ類は、体部が扁球形で口縁部は上方へ直線的に延び口縁部が長い。Ａ－Ⅱｃ類は、Ａ－Ⅱｂ類と基本的に同じであるが口縁部が短い。Ａ－Ⅲ類は、胴部から口縁部までほぼ一直線である。Ｂ類は、体部が基本的に扁球形で頸部がしまっている。口径と最大胴径の比でさらに細分される。Ｂ－Ⅰ類は口径＞最大胴径、Ｂ－Ⅱ類は口径≒最大胴径、Ｂ－Ⅲ類は口径＜最大胴径である。さらにＢ－Ⅰ類は、口縁部の器高と胴部の器高の比によってＢ－Ⅰａ類（口縁部高<胴部高）、Ｂ－Ⅰｂ類（口縁部高≒胴部高）、Ｂ－Ⅰｃ類（口縁部高＞胴部高）に細分される。Ｂ－Ⅲ類は、脚部の有無によってＢ－Ⅲａ類とＢ－Ⅲｂ類に細分される。Ｃ類は、体部が球状であり口縁部が上方へ直線的に延び、口径＜最大胴径となっているものである。



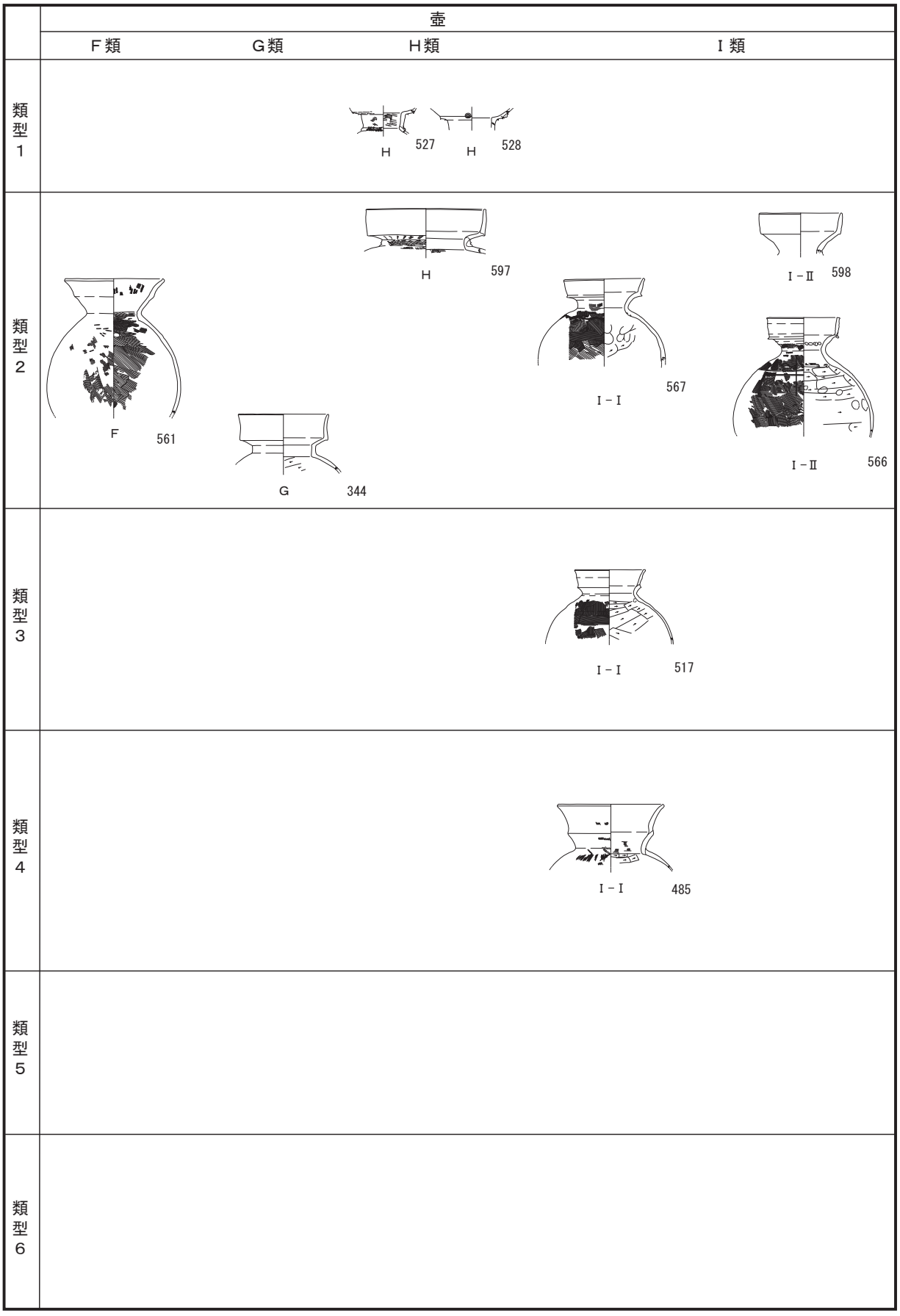
図－472　北の崎遺跡古墳時代前期から中期前葉の土器分類図　甕　①



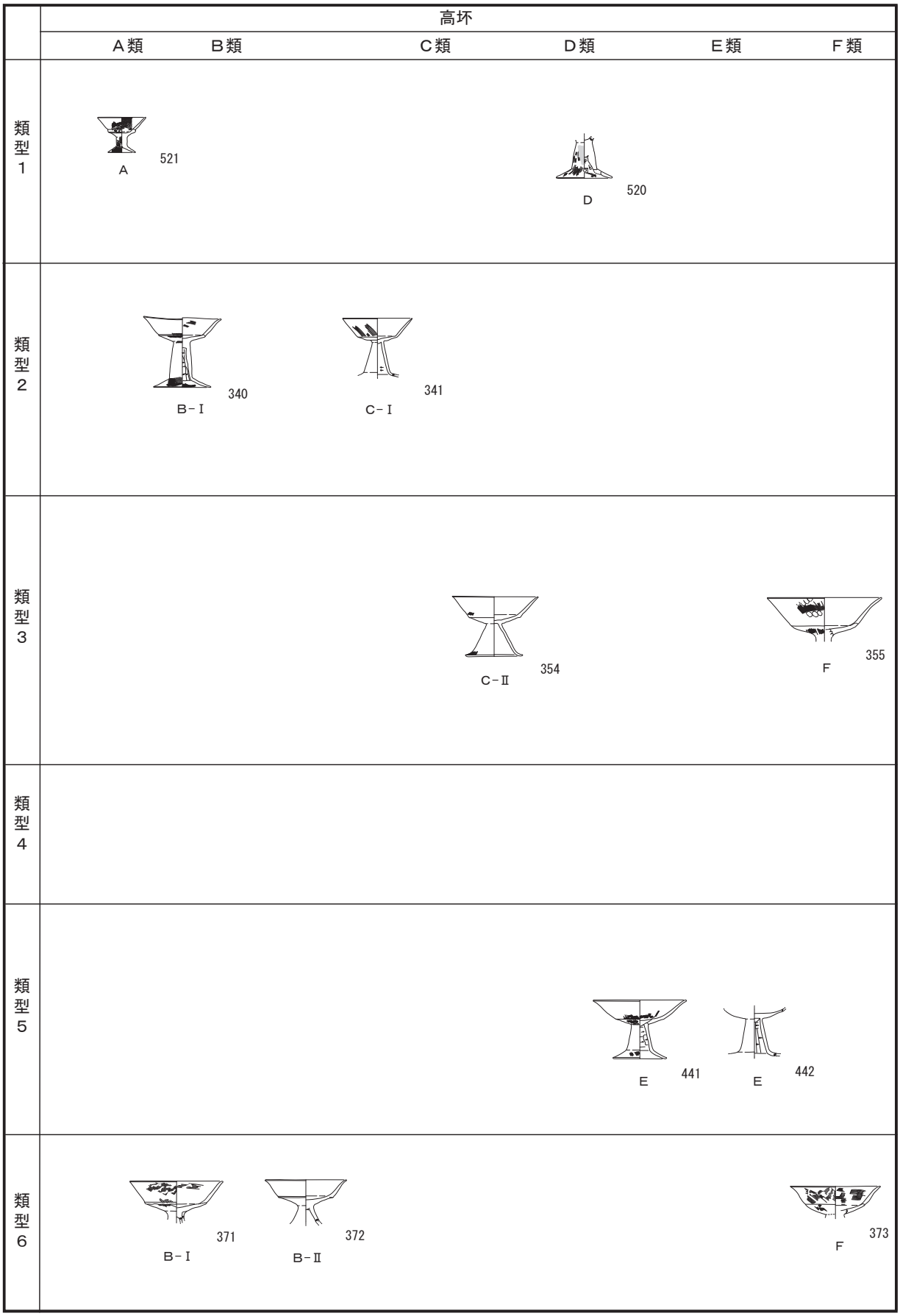
図－473　北の崎遺跡古墳時代前期から中期前葉の土器分類図　甕　②



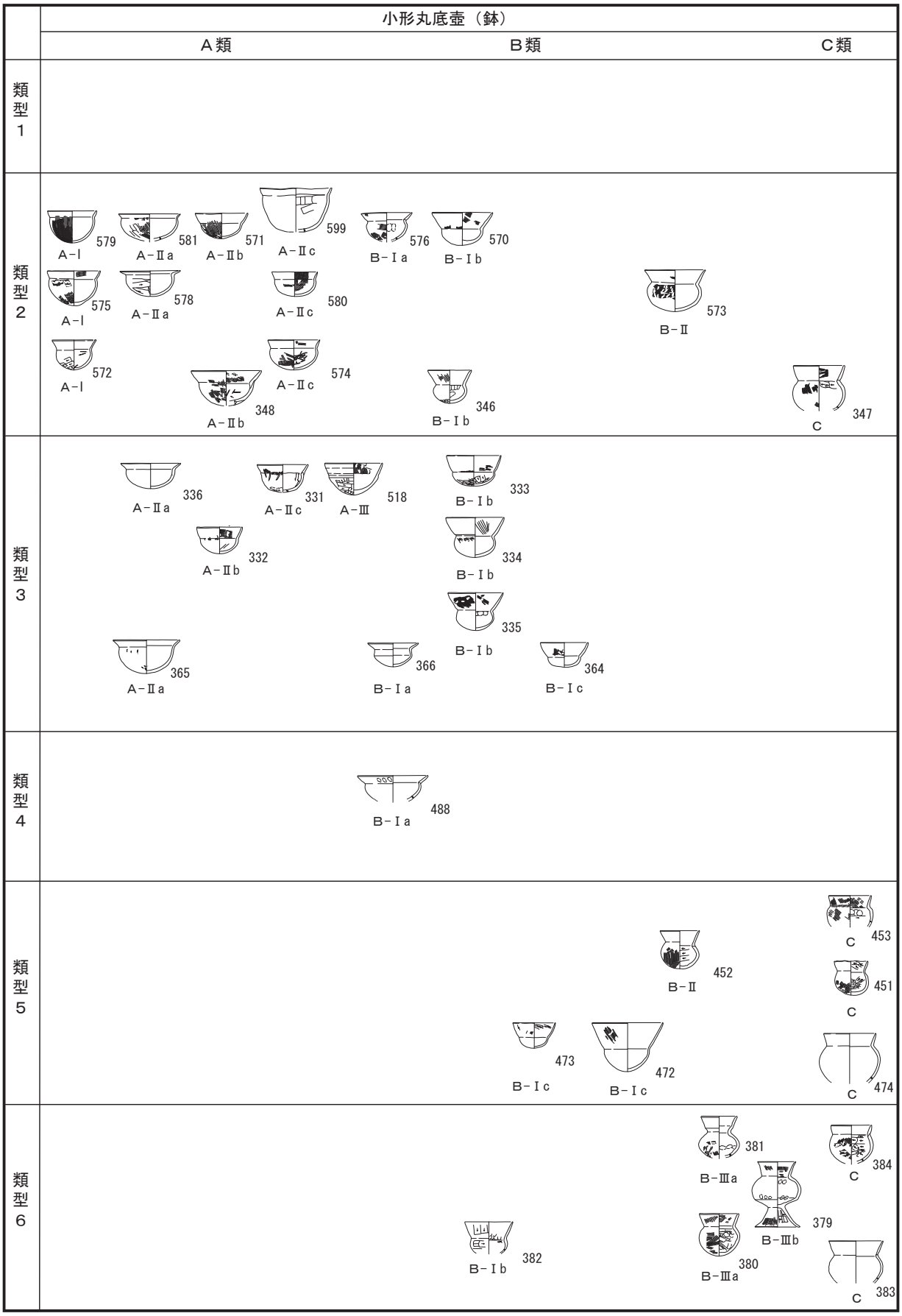
図－474　北の崎遺跡古墳時代前期から中期前葉の土器分類図　壺　①



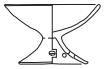
図－475　北の崎遺跡古墳時代前期から中期前葉の土器分類図　壺　②



図－476　北の崎遺跡古墳時代前期から中期前葉の土器分類図　高坏



図－477　北の崎遺跡古墳時代前期から中期前葉の土器分類図　小形丸底壺（鉢）

	器台				坏形土器		
	Ａ類	Ｂ類	Ｃ類	Ｄ類	Ａ類	Ｂ類	Ｃ類
類型1							
類型2			C 582			B－Ⅰ 586 C－Ⅰ 585  C－Ⅱb 587 B－Ⅱ 541	
類型3							C－Ⅱa 309
類型4	A 489						C－Ⅰ 479
類型5		B 476	C 475	D 454		A 463 B－Ⅰ 464	C－Ⅰ 465
類型6							

図－478　北の崎遺跡古墳時代前期から中期前葉の土器分類図　器台

５）器台

器台は、受け部と脚部の形状の違いによって４分類される。Ａ類は、受け部の立ち上がりが短く直立する。Ｂ類は、立ち上がりは短いが小さく外反する。Ｃ類は、立ち上がりは短く明瞭に外反する。脚部は直線的に「ハ」の字状に開く。Ｄ類は脚部がやや裾広がりで外反する。

６）坏形土器

坏形土器は口縁部の形状によって分類できる。Ａ類は、口縁部が内傾する。Ｂ類は、口縁部が直立する。さらに脚部の有無によりＢ－Ⅰ類とＢ－Ⅱ類に細分される。Ｃ類は口縁部が直線的に開いて立ち上がる。これも脚部の有無によってＣ－Ⅰ類とＣ－Ⅱ類とに細分され、Ｃ－Ⅱ類はさらに脚部の開き具合によってＣ－Ⅱａ類とＣ－Ⅱｂ類に細分される。

②各段階における同じ土器群を有する遺構の選定

各器種において、同じ形態であるものを類型として設定する。以下各類型を構成する遺構をまとめておく。

１）類型１

この類型に属するのは、４１号住居と５号溝である。

２）類型２

６７号土坑が、ほぼ一括資料に近いためこの遺構を中心に、６８号土坑と２５号住居を補足的に扱っている。

３）類型３

２３号住居をこの類型の中心に、２６号住居と３９号住居はセット関係から補足的に扱っている。

４）類型４

この類型は型式的に類形がなく、３５号住居単独で構成するものである。

５）類型５

この類型は一括資料に近い遺構がなく、セット関係で分類したものである。３３号住居、３４号住居、３５号住居がこれにあたる。

６）類型６

この類型は、２７号住居のみで構成するものである。

③各類型の概要

類型１

甕では、胴部は長胴であり、底部は尖底もしくは平底に近いレンズ底で、調整では外面にタタキが残る。壺では加飾複合口縁壺のみの出土であった。高坏では、坏部の上半と下半がはっきり分かれており段がつく。

類型２

甕では倒卵形や球胴のものが多くなる。底部は尖底もしくは丸底に近いレンズ底である。壺では外面にタタキが残る。山陰系複合口縁壺をはじめ複合口縁壺が最も多く出現する。高坏では、上半と下半の稜は明瞭で上半の比率が下半より大きい。小形丸底壺では胴部に比べ口縁部が短い鉢型のものと口縁部が大きく外方に大きく延びるものがある。

類型３

甕では球胴化が進み、外面にタタキが残るものも一部に見られる。壺のしまりはやや緩くなる。高坏は、坏部が丸みをもち稜が目立たなくなる。脚部は「ハ」の字状に開くようになるようである。小形丸底鉢では胴部から口縁部までが直線状になる。小形丸底壺では、口縁部高が胴部高より比率的に大きくなる傾向が出てくる。

類型４

複合口縁壺の一次口縁から二次口縁にかけての屈曲が類型３よりさらに緩やかになる。小形器台の受け部が小さく直立する。

類型５

甕では、球胴が多く、口縁端部で水平の面を作り出すものや内傾するものがある。高坏では坏部には丸みが見られ、脚裾部への屈曲はきつい。長頸壺は口縁部が胴部と比べ長くなる傾向がある。小形丸底壺は、口縁部高が胴部高より比率的にさらに大きくなる傾向にある。小形器台の受け部の立ち上がりは小さく外反する。坏形土器では、脚はつかなくなるようである。

類型６

高坏では、坏部の下半が上半と比べた場合、下半の占める割合が大きい。小形丸底壺では、口径が最大胴径より小さくなる。

５　古代以降のまとめ

（1）　遺構について

古代以降の遺構として、竪穴住居を７軒、土坑を16基、溝を８条検出した。溝に関しては、１０号溝は溝の一部のみの検出で全体像がつかめていない。また、６号溝と７号溝については、途中竪穴住居により削平されているため詳細は分からないが、同一の溝である可能性がある。

竪穴住居の特徴として、おおかたの住居で軸方向は北を向く。しかし例外的に４７号住居は、N54°－Wと大きく西に傾く。住居の規模からは、８～12㎡の小規模タイプと17～22㎡の大規模タイプの２タイプあるようである。柱の本数も１本・２本・４本と３タイプある。検出例が少ないため、詳細な分類はできないが、出土遺物から大きく分けて３時期ほどあると考えられる。７世紀後半、８世紀後半そして、10世紀前半の時期差があるようである。４８号住居が７世紀後半、４９号住居で10世紀前半で、その他はおおかた８世紀後半と考えている。これらの時期と住居の特徴をあわせて考えても、時期によって住居の特徴が変わることはさほどない。大きく軸方向を異とする４７号住居でさえ８世紀後半の範疇といえよう。古代において住居の大きさでは用途に合わせて規模の大きい建物、小さい建物を使い分けていたと考えられる。しかし、カマドについては、ある特徴がある。４８号住居は、７世紀後半の竪穴住居と考えている。この住居は北側壁の中央にカマドを設けている。しかし、他の住居では、カマドの痕跡すら検出できなかった。おそらく住まいとしての使用ではなかったのではないかと考えられる。特に４６号住居や４９号住居は、灯明皿が多く出土した住居跡である。特に４９号住居は、総数43個の油煙が付着した灯明皿が出土している。

小規模住居については、住まいという用途ではなく菜種油をとるような作業場的な使用がなされていたのではないかと考えられる。遺跡全体の遺構配置から概観すると、やや平坦な土地に集中して住居が建っており、住居の近隣もしくは住居と切り合って土坑が配置されている。なお、７４号土坑や７５号土坑に代表されるように、住居からやや離れた場所に単独で存在するものがあるが、これらからはややまとまって遺物が見られる。どのような用途で使用されていたか不明である。

土坑については、出土遺物の少なさから時代の特定が十分とは言えないが、おおかた８世紀後半期にかたまる傾向が見える。例外的に、８７号土坑は、白磁の皿と瓦器質の椀が出土しているので中世である。

溝については、８世紀後半、10世紀前半、11世紀後半から12世紀前半の３時期ありそうである。特徴的な溝としては、８世紀後半の灯明皿が比較的多く出土した６号溝と11世紀後半以降の大溝である１１号溝がある。１１号溝は台地（平坦地区）の東側を台地の縁に沿って掘られている。軍事用か区画用か、どのような用途で構築されたのか他に同じ時期の遺構が検出されない為、よくわからない。今回の調査では具体的な性格はわからなかった。

（2）　出土遺物について

北の崎遺跡では、古代から中世にかけての遺物は、７世紀後半から12世紀前半までの土器が出土してい

表－18　竪穴住居の主な特徴

遺構名	長軸（m）	短軸（m）	床面積（㎡）	長軸方位	柱穴数	カマドの有無
４４号住居	3.3	3.0	8.8	Ｎ３°－Ｗ	1	なし
４５号住居	3.0	2.6	7.6	N12°－Ｅ	2	なし
４６号住居	4.0	2.7	10.9	Ｎ	2	なし
４７号住居	4.4	4.0	17.5	N54°－Ｗ	4	なし
４８号住居	不明	4.6	不明	Ｎ４°－Ｗ	不明	有（北側壁）
４９号住居	3.7	3.4	12.3	Ｎ６°－Ｗ	4	なし
５０号住居	5.2	4.0	21.7	Ｎ	２？	なし

る。その中でも、８世紀後半期が中心となっており、全体的な比率からも量的にもっとも多い。内訳として、土師器、須恵器、輸入陶磁器、瓦器質土器である。遺構から出土した遺物は、さほど多くなくそれぞれにおいて編年を作成できる状況ではない。そこで、須恵器の型式分類図を作成することにより土器の傾向をつかみ、古代において集落がどの時期に営まれていたか考察することとする。尚、土師器については、出土遺物の多くは、坏であり、分類するに堪える器種がそろわなかったため分類をしていない。

（１）須恵器の型式分類について

型式を分類する上で、十分な量ではなかったため、総体的な把握を行うこととした。そこで分類を細かく細分化するのではなく、傾向をつかむことを目的として体局的な分類図を作成することとする。

尚、分類にあたって切り合いがある遺構については、時代の新旧を考慮したが、多くは単独で検出されたものであり、必ずしも時期が反映されているものではないことを断わっておく。よって類型という表現をとらせていただいた。

まず、分類に使用した遺構であるが、類型１は、４８号住居を使用した。類型２は、４４号住居・４６号住居・４７号住居・５０号住居、７４号土坑・７５号土坑そして６号溝・７号溝を使用した。類型３は７７号土坑を使用した。

今回の分類においては、多様な器種において分類はできず、蓋、坏、椀を中心に分類を進めた。それぞれの器種における分類の基準は以下の通りである。

①蓋

口縁部に返しがつくものをⅠ類とし、つまみがあるものをⅡからⅣ類とし、Ⅱ類はつまみがあり、天井が高いもので、つまみの形状が擬宝珠形のものをⅡａ類、つまみが扁平なものをⅡｂ類、口縁端部を段をつけながら斜めにつまみ出すものをⅡｃ類とした。Ⅲ類は、天井が低く扁平化の傾向を示すものとし、つまみが擬宝珠形のものをⅢａ、扁平なものをⅢｂとした。Ⅳ類は、つまみが輪状となったものとした。そして、つまみがないものをⅤ類とし、その中で天井がすこし高いものをⅤａ類、扁平なものをⅤｂ類としている。

②椀（高台つき）

底部から体部に丸みを帯び、立ち上がるものをⅠ類とし、中でも外反ぎみに立ち上がるものをⅠａ類、まっすぐ立ち上がり直に近いものをⅠｂ類とし、Ⅰｂと基本的には同じであるが高台が高いものをⅠｃ類とした。また、屈曲がややきつくなり体部ではまっすぐ立ち上がるものをⅡ類とした。さらに、底部と体部の境で明らかに角をつけたものをⅢ類とし、体部がまっすぐに立ち上がるものをⅢａ類、底部径に対して器高がやや高いものをⅢｂ類、体部がやや外反するものをⅢｃ類とし分類した。

③坏（高台なし）

底部から体部にかけ丸みを帯びまっすぐ立ち上がるものをⅠ類とし、中でも器高が底部径に対し低いものをⅠａ類、高いものをⅠｂ類としている。底部から体部にかけ丸みを帯びやや外反しながら立ち上がるものをⅡ類としている。底部と体部の境が角張るものをⅢ類として分類した。

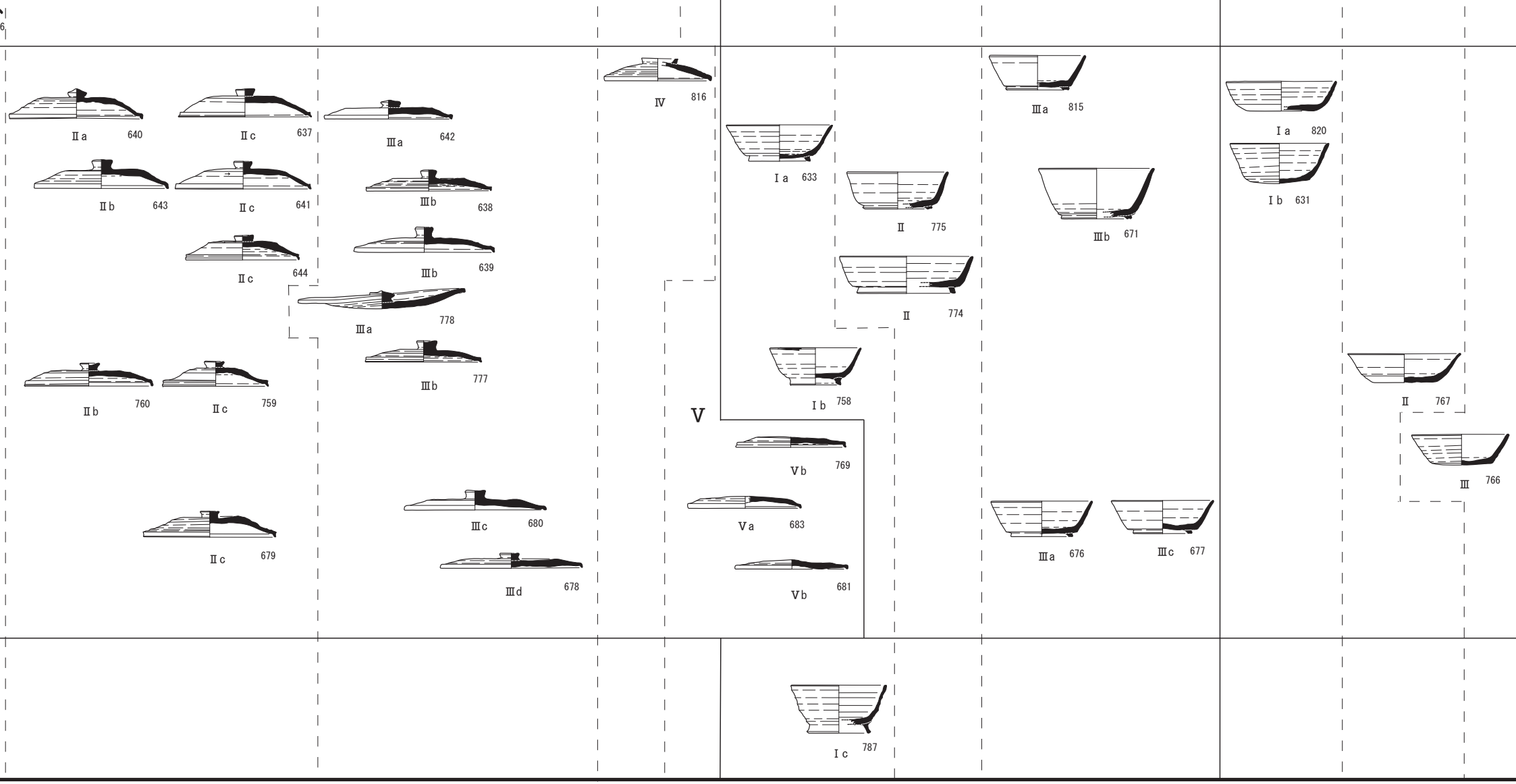
④高坏

高坏については、出土したものがほとんどなく分類はできなかったが、供伴関係から類型２に配置している。

（２）須恵器の分類からわかること

今回、点数に恵まれず総体的なものしかとらえることができなかったが、北の崎遺跡では大きく分けて３時期あるようである。それぞれの時期は連続しているのではなく、断続的に集落が営まれていたようである。今回の調査地は、集落の中心ではなく周辺部であるがゆえ、たまたま３時期の遺構のみしか検出されていないのかもしれない。集落の中心では継続的に営まれていた可能性も否定できない。よって、周辺域の情報が今後必要と考えられる。

土器の点数からも類型２付近が集落としては主に繁栄した時期であることを物語っていると思われる。この様相を示すのは、おおかた８世紀後半ではないかと考えられる。湿地区からは墨書土器も出土しており、集落の繁栄は稲佐廃寺等の寺の存在が大きく関与しているのかもしれない。これも周辺の状況を踏まえながら考察を加えるべきで、今後の周辺の調査が待たれるところである。

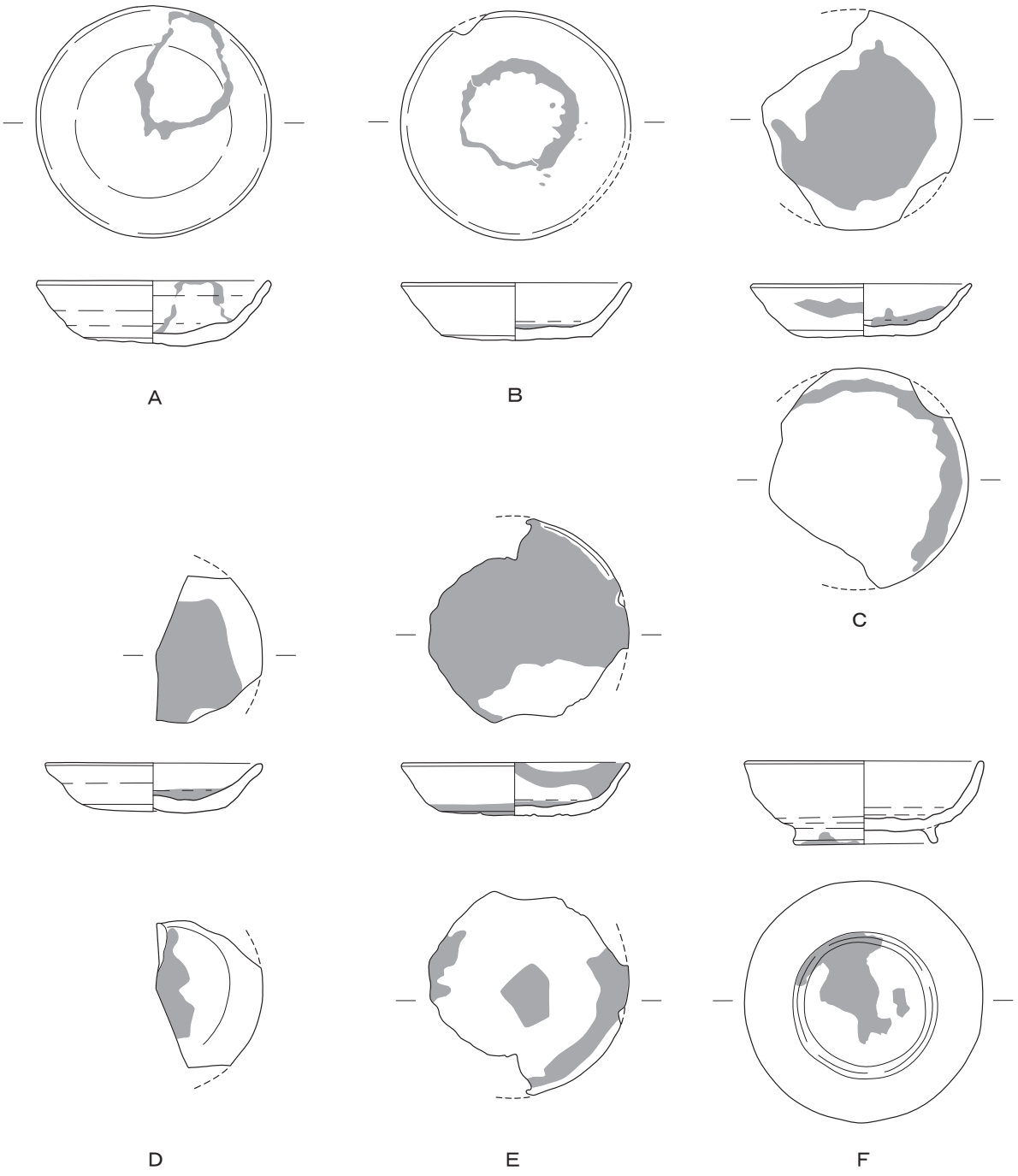


図－479　北の崎遺跡における古代須恵器の分類図

（3）灯明皿の分類について

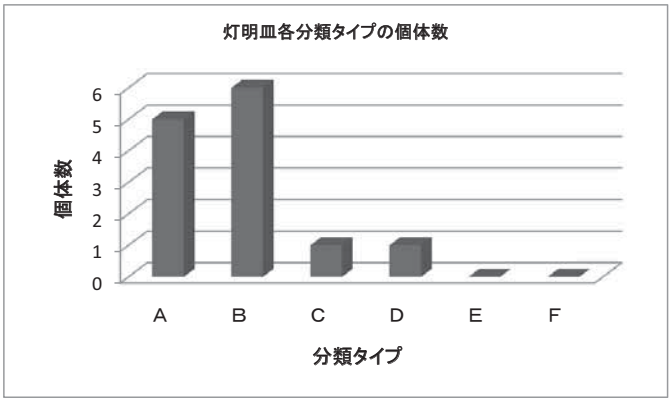
今回の調査で、時期が異なる４６号住居、６号溝及び４９号住居で油煙が付着した坏や皿が多く出土した。油煙の存在から灯明皿として使用したものであると考えられる。油煙のつき方で、今回いろいろなパターンを示したので、分類してまとめることとした。特に、４９号住居はおびただしい量であった。ちなみに、４６号住居と６号溝は須恵器の分類で類型２の特徴を示した。

そこで、油煙のつき方によってＡタイプからＦタイプの６タイプで分類した。分類の基準は、Ａが口縁に灯芯の痕跡を残すもの。Ｂが灯芯はわからないものの内面底部に油煙がつくもの。Ｃは灯芯はわからないが内外面に油煙を残すもの。Ｄは灯芯はわか

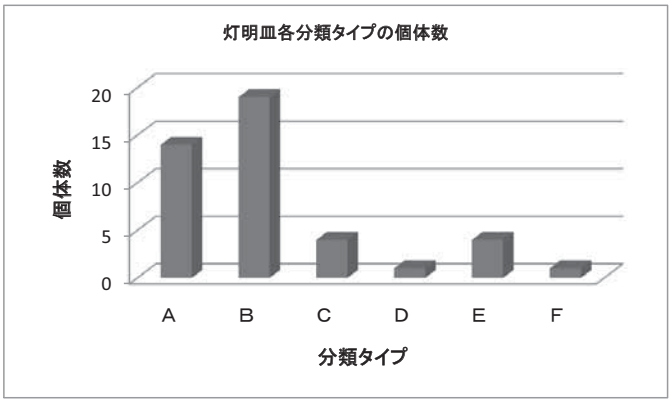


図－480　灯明皿の油煙のつきかたによるタイプ別分類

		分類（点数）						合計
		A	B	C	D	E	F	
① 8世紀後半 （類型2）	46号住居	2	1	0	1	0	0	4
	50号住居	1	0	0	0	0	0	1
	6号溝	2	5	1	0	0	0	8
	分類小計	5	6	1	1	0	0	13



		分類（点数）						合計
		A	B	C	D	E	F	
② 10世紀前半	49号住居	14	19	4	1	4	1	43



図－481　灯明皿分類タイプ別個体数

らないが、内面底部に油煙を残すもの。Ｅは灯芯はわからないが、内外面及び外面底部に油煙を残すもの。Ｆは灯芯はわからないものの外面底部のみに油煙を残すものである。

結果、２時期ともＢタイプがもっとも多く次いでＡタイプであった。火を灯すために使用していたことが考えられる。しかし、４９号住居からは特異的な例であろうが外面底部のみというものもあった。また、この住居からは内面につくＢタイプでは中には、油煙がぎっしりこびりついたものもあり、純粋に火を灯すだけに使用していたか疑問に残る点がある。この点から、場合によっては、墨を作るために使用されたものではないかとも推測したが、菜種油を燃やし油煙によるススを坏などで採集する墨（油煙墨）作りは中世の鎌倉時代以降であろうからやや早すぎるであろう。以外で考えられるのは菜種油を作る際に必要としたのかもしれない。湿地区における古代に形成された土壌から油菜の花粉がこの時期を中心に発見されたのはたいへん調和的なことであろう。用途については今後の課題である。

６　北の崎遺跡出土石製品の石材と産地について

北の崎遺跡から出土した石製品は数的に少なく、型式分類までは至らなかった。そこで周辺地質と石材の産地について考察する。

（１）石製品の石材について

北の崎遺跡から出土した石製品は、遺構から出土したものが104点、包含層から出土したものが92点である。尚、遺構から出土したものの中には廃絶された遺構を埋積する際に流れ込んだものも含まれており、出土した土器と明らかに使用されていた時期が合致しない場合がある。今回出土した石製品の器種、石材の種類とその比率を表－19にまとめた。石器の器種の11種類を、石材の23種類で分類しているが、少数の器種については除外している。その少数器種には、弥生時代中期後半期の竪穴住居後から出土した歯車状石器、石戈及び石鎌や古墳時代前期の竪穴住居跡から出土した勾玉や剥片石器などがある。歯車状石器が蛇紋岩、石戈が変ハンレイ岩、石鎌が泥質片岩である。また、勾玉は緑泥石岩、剥片石器が珪化岩である。この中で、珪化岩のみ県北地域で産出しない石材であるが、その他は、県北から福岡県南部にかけ産出する。尚、勾玉及び剥片石器は、蛍光Ｘ線分析を行っているので理化学分析（P416－P418）を参照していただきたい。

（２）石材の産地について

石材の種類は、23種にわたっている。ここで、石材となる岩石が産出する地域の概要を紹介しておく。まず、石材の岩石名は、基本的に岩石学の分類に沿って肉眼観察によって、岩石名を附している。よって、偏光顕微鏡観察や蛍光Ｘ線分析を行ったわけではないので、特に表面が研磨されているものに関しては岩石名が異なるものもある可能性はある。北の崎遺跡が所在する玉名市周辺には地質的に三郡帯の花崗岩、変成岩、変ハンレイ岩、超苦鉄質岩が見られる。変成岩の中には、石材として使われていると考えられる「結晶片岩」「緑泥片岩」「泥質片岩」「チャート」「結晶質石灰岩」が含まれる。また、変ハンレイ岩からも緑泥石は産出する。超苦鉄質岩には蛇紋岩が含まれている。これらの岩石が地表に露出している場所を示した地質図を図－11に示している。尚、変ハンレイ岩と蛇紋岩の産出場所は紙面上の都合で表示できなかったが、表示した地質図の北側の山鹿市付近に位置する。磨製石斧や磨製石鏃の石材であるホルンフェルスは、花崗岩周辺で熱変質を受けたものであるので花崗岩が分布する玉名地域、山鹿地域の菊池川流域では普通に見られる岩石である。磨石や敲石で使われる輝石安山岩や角閃石安山岩は金峰火山中期噴出物の二の岳や三の岳由来のものであろう。阿蘇溶結凝灰岩や軽石は、阿蘇４火砕流堆積物由来のものである。サヌカイトについては、遺跡周辺地域では産出しない岩石であり、持ちこみである。無斑晶安山岩は、主に縄文時代の石器に使用されており、似た岩石としては大津岩戸神社で見られる阿蘇溶結凝灰岩があげられる。黒曜石では、西北九州産と姫島産が見られるが西北九州産が圧倒的に多い。チャートや輝緑凝灰岩は少数であるが緑川上流域周辺の秩父帯のものであろう。頁岩や砂岩については産地は特定できないものの、砂岩で遺跡に最も近い場所では荒尾市付近が考えられる。頁岩については遺跡の周辺部では見られないので、熊本市以南あるいは福岡県にその産地を考える必要があるようである。リソイダイトは、変質した流紋岩であり上天草市、富岡半島で見られる岩石である。ヒン岩も同じ地域に見られる。珪化岩は、碧玉のような緑色の色調を呈しており特徴的である。県北にはない岩石である。他地域からの流入である。

（３）まとめ

北の崎遺跡から出土した石製品の石材産地の候補地を考えた場合、ほとんどの石材は県北周辺で調達できるものである。実際、木葉川や菊池川の石を利用したと考えられる。しかしながら、石包丁で使われている頁岩、縄文時代の石器で使用されている黒曜石や無斑晶安山岩、砥石に使用されているリソイダイトは他地域からの流入を考えねばならない。石製品と石材の観点から、縄文時代から鎌倉時代までのそれぞれの時代において、使用する用途に合わせて石材を選定していることがわかる。詳細な産地の特定には肉眼観察のみでは十分と言えず、理化学分析や偏光顕微鏡による鉱物の同定を行い、原岩との比較検討が必要である。

表－19　北の崎遺跡から出土した石製品の石材とその比率

器種＼石材		蛇紋岩	変ハンレイ岩	ホルンフェルス	結晶片岩	緑泥片岩	泥質片岩	輝石安山岩	角閃石安山岩	サヌカイト	無斑晶安山岩	黒曜石（西北九州）	黒曜石（姫島）	軽石	阿蘇溶結凝灰岩	チャート	砂岩	頁岩	珪化岩	輝緑凝灰岩	結晶質石灰岩	リソイダイト	花崗岩	ヒン岩
打製石斧	数	1	7		7	6	1	4	1															
	%	4%	26%		26%	21%	4%	15%	4%															
磨製石斧	数	8	1	2	2	3	1	2									2	3						1
	%	32%	4%	8%	8%	12%	4%	8%									8%	12%						4%
石匙	数									3	1													
	%									75%	25%													
スクレイパー	数									2	1	1								1				
	%									40%	20%	20%								20%				
剥片石器	数							1		1	2	1							1		1			
	%							14%		14%	29%	14%							14%		14%			
打製石鏃	数										5	10	2			3								
	%										25%	50%	10%			15%								
磨製石鏃	数			1		1	1											1						
	%			25%		25%	25%											25%						
磨石	数							25	2					1	1		1							
	%							83%	6%					3%	3%		3%							
敲石	数				2			6	2								1							
	%				18%			55%	18%								9%							
石包丁	数						3	3										9						
	%						20%	20%										60%						
砥石	数					1		4									4	1				3	1	
	%					7%		29%									29%	7%				21%	7%	

「数」はそれぞれの器種における個体数、「%」はそれぞれの器種における百分率を表している

7　北の崎遺跡出土土器の胎土の特徴と採掘粘土分布

（1）北の崎遺跡における土器の胎土の構成物

本遺跡の土器の胎土の構成物は、大きく２分類される。火成岩を構成する鉱物である「長石・角閃石」を主体とするものと「石英・長石・雲母・角閃石」を主体とする２タイプである。尚、ここで主体とする表現をとっているのは、純粋にこの鉱物のみで構成されているのではなく、安山岩や片岩の岩片などが含まれているからである。また、ここでいう胎土というのは土器を製作するために必要な粘土と混和材をあわせて胎土ということとする。

（2）胎土を構成する粘土と混和材

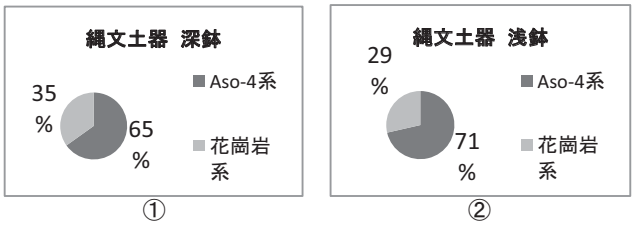
胎土は、粘土と混和材から構成される。元来粘土は源岩の岩石が風化することにより細粒化し、鉱物の多くが粘土鉱物と化し粘性度が増した堆積物をいう。よって鉱物の多くは、形を変え別の鉱物となっているが、一部元の形を留めているものがある。粘土は主に水が供給される平坦な土地で形成される。

①

種別	器種	胎土の系統	点数
縄文土器	深鉢	Aso-4系	56
		花崗岩系	30
		総点数	86

②

種別	器種	胎土の系統	点数
縄文土器	浅鉢	Aso-4系	50
		花崗岩系	20
		総点数	70



図－482　縄文後晩期における土器の胎土系統別組成

③

種別	器種	胎土の系統	点数
弥生土器	高坏	Aso-4系	5
		花崗岩系	1
		総点数	6

④

種別	器種	胎土の系統	点数
弥生土器	甕	Aso-4系	105
		花崗岩系	97
		総点数	202

⑤

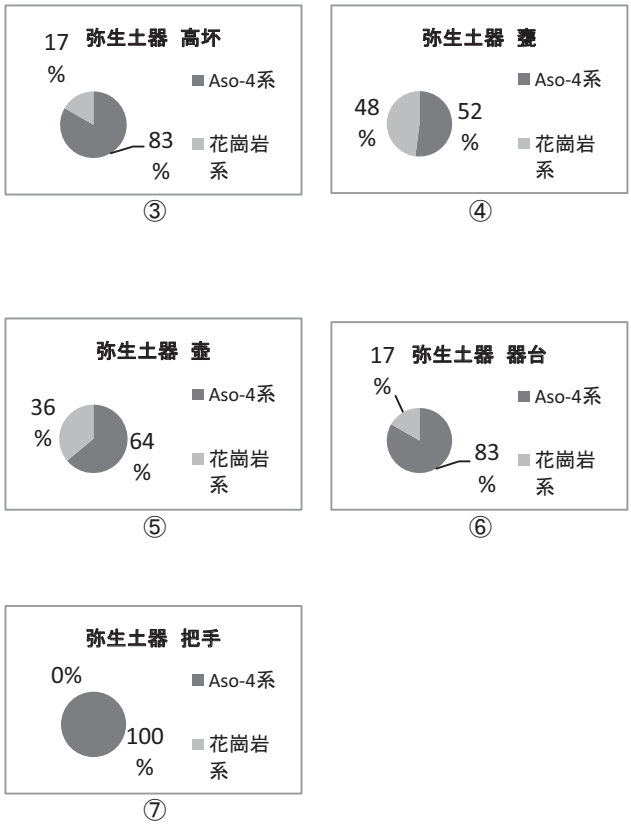
種別	器種	胎土の系統	点数
弥生土器	壺	Aso-4系	16
		花崗岩系	9
		総点数	25

⑥

種別	器種	胎土の系統	点数
弥生土器	器台	Aso-4系	5
		花崗岩系	1
		総点数	6

⑦

種別	器種	胎土の系統	点数
弥生土器	把手	Aso-4系	6
		花崗岩系	0
		総点数	6



図－483　弥生時代中期後半期における土器の胎土系統別組成

一方混和材とは、強度を高めたり製作時のひび割れを防止するために砂や鉱物を粘土に入れ素地土をつくるためのものである。粒子が細かく均一な素地であれば密閉されたところで膨張して暴発してしまいひび割れなどが生じてしまう。混和材を入れることにより、粘土と混和材の間にできる空隙を通じて、素地の水分が蒸発して器体の暴発を避けることができるのである。また、焼くときの膨張・収縮時の緩衝材のような働きがあるとされている。主に花崗岩が風化したマサ土を河川等で採取するものと考えられる。

このように、胎土には異なった場所から採集されたものが混じっている可能性が高いことから、粘土と混和材の組成はそれぞれ分けて考えるべきである。それぞれ他地域からの持ち込み等が考えられるからである。通常、器面や器壁の断面の観察を行う際、鉱物が割れ細粒になったものを多く含む胎土と砂状のものを故意に入れ込んだようなものがあるのは経験的にわかっていたが、より詳しく粒度組成ごとに分析するまで、今回の調査では時間的・分析機材の関係からできなかった。今回は、玉名平野部の粘土等を使用した場合の傾向を概観的に掴むためにも精度的に荒くなるが粘土と混和材の両者を合わせたもので考察を加えることとする。

（3）胎土にみられる鉱物を含む火成岩の分布

本遺跡の胎土の構成物のほとんどは、火成岩由来の岩石をつくっている鉱物である。

そこで、この火成岩が母材であるがゆえ、火成岩の分布を理解すれば、各水系ごとに作られる粘土がわかることとなる。玉名平野における火成岩の分布であるが、詳細については、第Ⅱ章遺跡の概要で掲載している地質図を参照していただきたい。大きく分けて３種類存在する。玉名平野の西部から北部の山麓に分布する花崗岩、玉名平野を取り囲む山地や丘陵地の崖等にある阿蘇４火砕流堆積物、そして玉名平野の東部や南部に分布する金峰山系の安山岩による堆積物である。これらの岩石が粘土の構成物を決めている。

粘土や混和材として母材になる３種類の岩石をつくっている鉱物をまとめておく。まず、花崗岩であるが、角閃石、黒雲母、斜長石、石英が主で、白雲母やカリ長石、燐灰石を含むことがある。次に阿蘇４火砕流堆積物であるが、石英、斜長石、角閃石、輝石からなっている。さらに金峰山の安山岩系の堆積物（凝灰角礫岩等）は、斜長石、輝石、少量の角閃石から構成されている。そこで、この３者を比較してみると花崗岩が他の２者とは大きな違いがある。まず、雲母の存在である。器面観察から雲母は識別が容易い。これらは、阿蘇の火砕流堆積物や金峰山系の堆積物には決して含まれない鉱物である。よって、雲母の存在から花崗岩を母材とした胎土と断定できる。尚、観察表等で雲母として記載しているが、これは含水及び加熱により変質したバーミキュライトにほとんど変化している。これを金雲母と記載するものもいるがそれは誤りである。また、金峰山系の堆積物がある地域には阿蘇４火砕流堆積物も同時にあるためあまり両者の区別は必要としない。

そこで、胎土の分類を行うため、石英、斜長石、黒雲母、角閃石から構成されている胎土を花崗岩系、斜長石、角閃石から構成されている胎土をAso－４系と称し分類した。

胎土に見られる鉱物を概観すると、前述したような２パターンの胎土は、玉名平野周辺にある火成岩により十分まかなえるのであり、露頭として、または川の砂として見ることが可能な場所に存することからも近くのものを採集していた可能性は高いと考えられる。もちろん製品の持ち込みがある可能性もあるので今後詳細な化学分析を必要とすることは言うまでもない。

（4）各時代ごとの胎土の様相

各時代ごと、器種ごとに比率を算出しているが、同一器種において５個体以上ある器種においてのみ算出した。これに満たないものは、一方的な偏りが生じて適切な数値を反映しているものではないとし、除外している。

①縄文時代後期～晩期

今回は、後期から晩期までの区別をせず、一括して傾向を調べた。深鉢で65%、浅鉢で71%という比率でAso－４系であり約70%前後を占める。

②弥生時代中期後半～後期前半期

この時代においては、甕と壺でAso－４系が、そ

⑧

種別	器種	胎土の系統	点数
土師器（古墳前期）	坏	Aso-4系	30
		花崗岩系	9
		総点数	39

⑨

種別	器種	胎土の系統	点数
土師器（古墳前期）	高坏	Aso-4系	12
		花崗岩系	3
		総点数	15

⑩

種別	器種	胎土の系統	点数
土師器（古墳前期）	甕	Aso-4系	40
		花崗岩系	30
		総点数	70

⑪

種別	器種	胎土の系統	点数
土師器（古墳前期）	壺	Aso-4系	19
		花崗岩系	19
		総点数	38

⑫

種別	器種	胎土の系統	点数
土師器（古墳前期）	小形丸底壺（鉢）	Aso-4系	30
		花崗岩系	16
		総点数	40

⑬

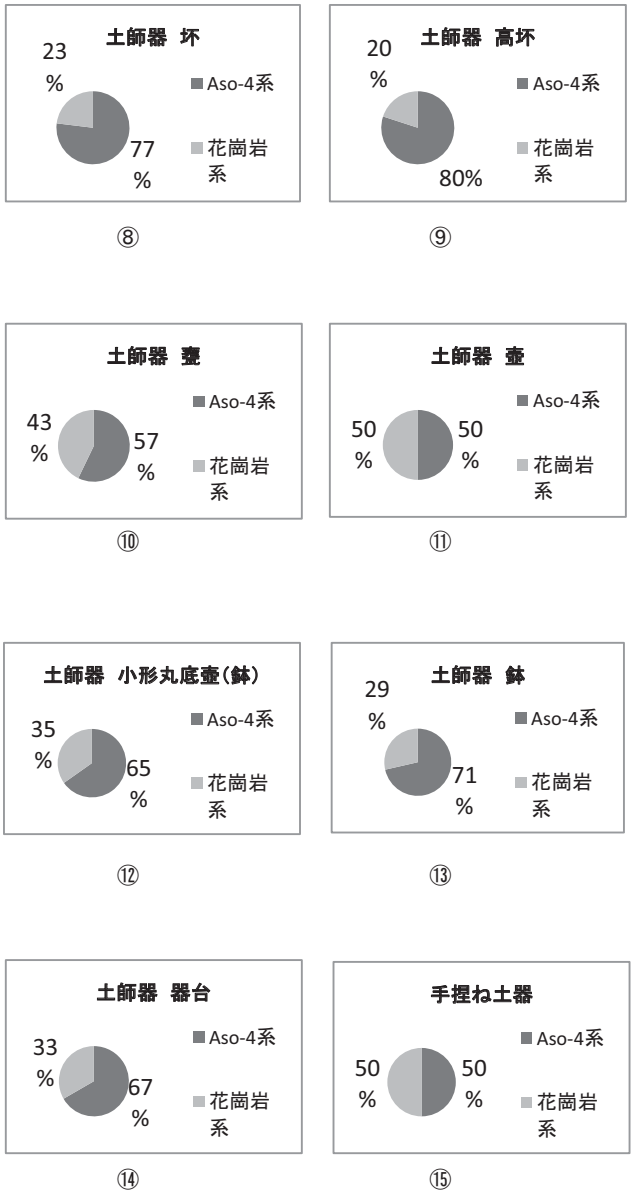
種別	器種	胎土の系統	点数
土師器（古墳前期）	鉢	Aso-4系	10
		花崗岩系	4
		総点数	14

⑭

種別	器種	胎土の系統	点数
土師器（古墳前期）	器台	Aso-4系	6
		花崗岩系	3
		総点数	9

⑮

種別	器種	胎土の系統	点数
土師器（古墳前期）	手捏ね土器	Aso-4系	6
		花崗岩系	6
		総点数	12



図－484　古墳時代前期における土器の胎土系統別組成

れぞれ52%と64%であり、残りの器種は80%以上でAso－４系である。大型の甕や壺は花崗岩系の胎土が増えており意識的に選択しているのではないかと考えられる。大型化することにより粒度が小さく均一な粘土では焼成段階の暴発による割れが生じる恐れがある。これを防ぐため花崗岩系粘土を使用した可能性があると思われる。

③古墳時代前期

手捏ね土器は例外として、弥生時代中期後半の土器と同じような傾向を示す。おおかたの器種では、約70%近くは、Aso－４系の胎土になるが、壺や甕では50%と57%という低い数値になり花崗岩系が増加する傾向にある。やはり大型の器種が花崗岩系の胎土となるようである。手捏ね土器については、他の器種と異なり、粗雑な作りであり焼成時の水分の蒸発及び膨張収縮に堪えられないことから花崗岩系の胎土にする率が多かったのかもしれない。

④古代

今回の調査では、大型の器種の出土が少なくデータ化できなかったが、65%～78%とおおかた70%近

⑯

種別	器種	胎土の系統	点数
土師器（古代）	坏	Aso-4系	121
		花崗岩系	34
		総点数	155

⑰

種別	器種	胎土の系統	点数
土師器（古代）	椀	Aso-4系	22
		花崗岩系	12
		総点数	34

⑱

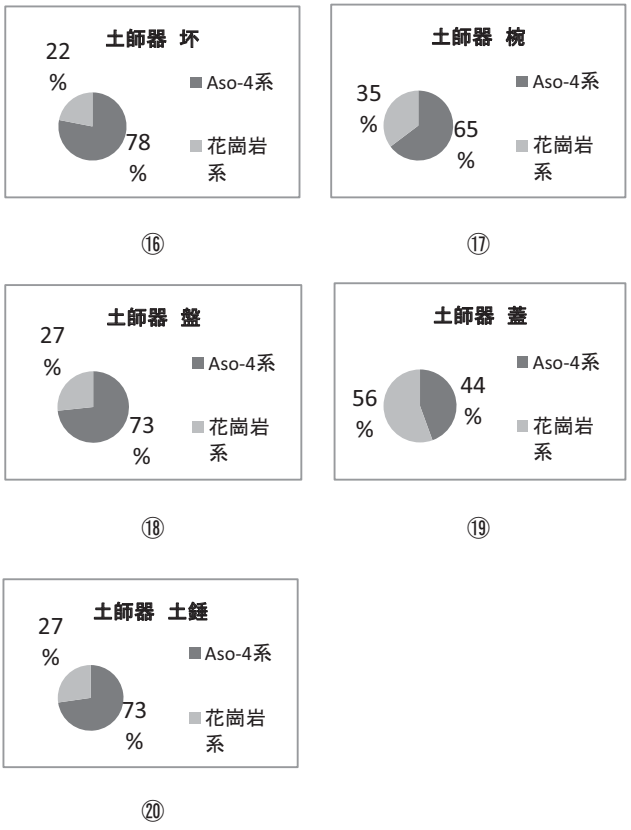
種別	器種	胎土の系統	点数
土師器（古代）	盤	Aso-4系	11
		花崗岩系	4
		総点数	15

⑲

種別	器種	胎土の系統	点数
土師器（古代）	蓋	Aso-4系	4
		花崗岩系	5
		総点数	9

⑳

種別	器種	胎土の系統	点数
土師器（古代）	土錘	Aso-4系	8
		花崗岩系	3
		総点数	11



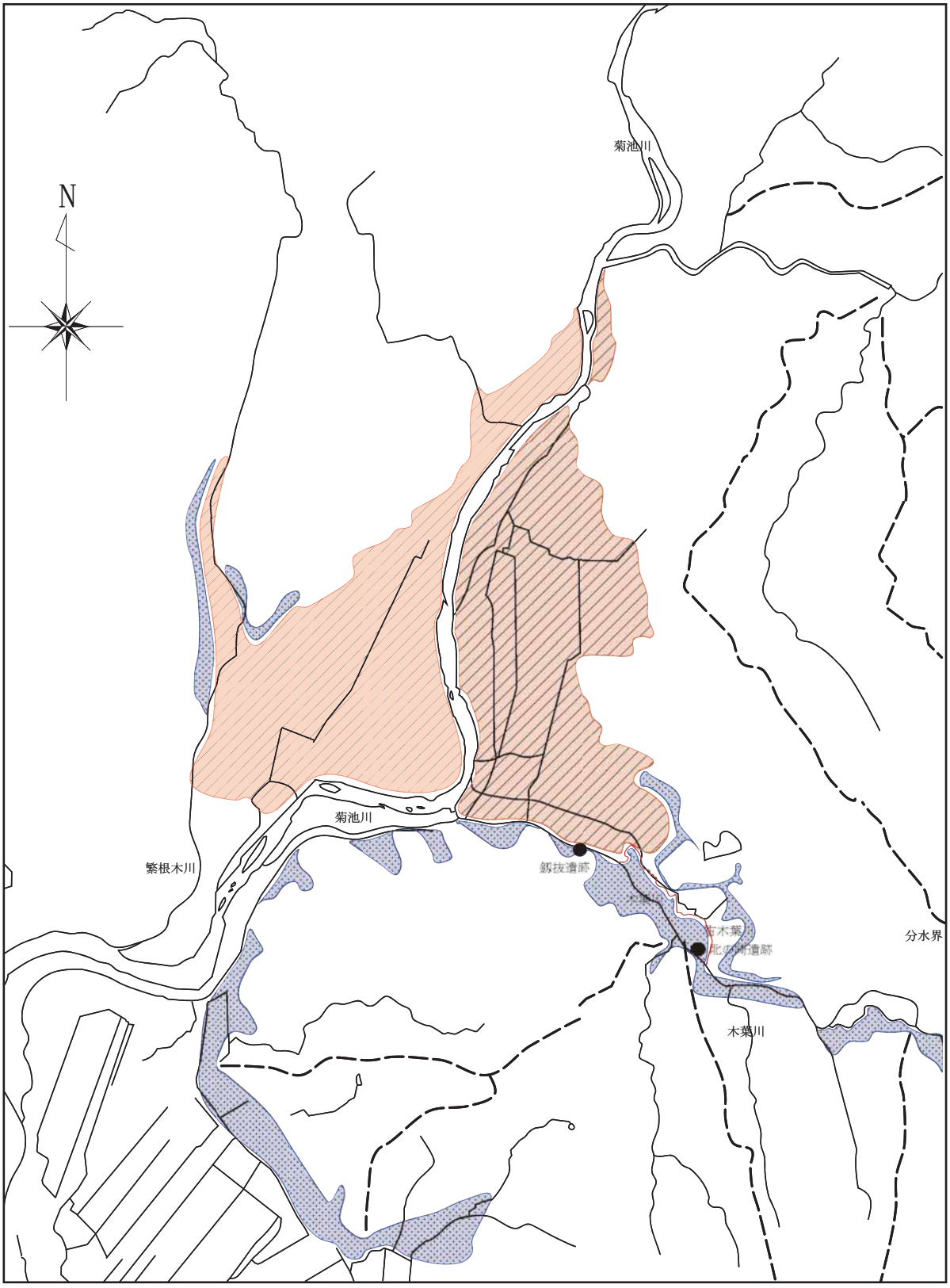
図－485　古代における土師器の胎土系統別組成

くは、Aso－４系となっており、やはり古墳前期までと同じ傾向を示した。ただし、蓋において、56%が花崗岩系の胎土となっているのはよくわからない。データ数が少ないことからくる数値のぶれが反映しているのかもしれない。

（５）玉名平野における各系統別粘土の分布推定域の考察

玉名平野において、各系統別の粘土の分布域を考察することは、粘土の採掘場所の検討を加えるためにも非常に重要となってくる。今回、地質図・水系図・分水界・旧河川の全ての情報を地形図上に落とし、分布域を作成した。粘土が形成される地域は後背地の地質と粘土となる素材を運ぶ水系の位置によって決定される。例えば、安山岩の地質の領域を流れる水系に花崗岩が周囲になければ花崗岩起源の砂などは運ばれる筈がない。そこで、それぞれの河川（常時水が流れていない沢などを含む）の集水範囲において花崗岩系の粘土をもつ領域とAso－４系の粘土の領域を分けたものが図－486である。玉名平野は、花崗岩系の粘土が卓越することが理解できる。Aso－４系は、台地の周囲を取り囲むように部分的にしか存在しないと考えられる。今回発掘調査を行った釼抜遺跡及び北の崎遺跡は、Aso－４系粘土の分布推定域にあり、湿地区の基本土層からは、花崗岩系の粘質土は一切存在しなかった。今回の胎土の組成をみてもAso－４系粘土をほとんどの器種で使用し、花崗岩系は一部であることから遺跡周辺の低湿地から粘土を採掘して土器を作っていたのではないかと考えられる。ただし、大型の器種の土器をつくる場合には、花崗岩系の粘土を採掘するのではなく、混和材として、マサ土を菊池川流域まで取りに行き、素地土を作る際に混入させていたのではないかと考えている。胎土の状況を肉眼だけではなく、双眼実体顕微鏡によって確認していったが、大型の器種で、粉砕され細粒化した雲母が少ないのは、花崗岩系粘土を使用したのではなく、むしろ混和材による調整が効いているからと思われる。

ただし、古墳前期における土器については、細粒



図－486　玉名平野における系統別粘土の分布推定域

の雲母片が認められたりするので、他地域からの持ち込みや粘土の採掘を菊池川流域に求めたことが予想され今後十分検討しなければならない。

また、Aso－４系胎土には、片岩の岩片が含まっているものもある。片岩は地質的に阿蘇４火砕流堆積が分布する領域にあるのでAso－４系胎土の土器から認められるものは地域をかなり限定できそうである。

最後に、今回の出土した遺物の整理をする中で、胎土から各時代の人々の土器製作に関わる内容も見えてきた。しかし、まだ概観にすぎない。今後は、粒度組成を把握するとともに、分類できる粒度ごとに化学分析を行い正確な粘土や混和材の産地同定を進めていく必要があると考えられる。

尚、系統別粘土分布推定域については、全ての旧河川位置を完全に把握できているわけではないので多少のずれが生じることがあるのでご注意頂きたい。

大俵ころがし

玉名市は、菊池川河口にあり、古くから菊池川流域の物産の集散地として発展してきました。明治初期まで栄えた高瀬舟着場では、効率的に荷積みの作業をするため米蔵から船着場までの石畳の坂道を俵をころがす「俵ころがし」が行われていました。これを由来とし、「俵」に玉名の未来への希望と発展の願いをこめ、毎年９月に「玉名大俵まつり」が行われていましたが最近では11月に行われているようです。

夏

表－20－１　北の崎遺跡出土遺物観察表　　土器

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1	25	260	1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	深鉢						19.9	ナデ　ミガキ	ミガキ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	橙（5YR6/6）	長石　角閃石	良好	口縁部に３条の凹線あり
2	25		1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	深鉢						6.5	ミガキ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　褐色粒	良好	口縁部に２条の凹線あり
3	25	260	1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	深鉢						9.2	ナデ	ナデ	にぶい赤褐（5YR5/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤色粒	良好	口縁部に２条の凹線あり
4	25	260	1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	深鉢						7.5	ナデ　ミガキ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	石英　長石　角閃石　雲母　赤色粒	良好	口縁部に３条の凹線あり
5	25		1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	深鉢						5.2	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	石英　長石　角閃石　雲母　黒曜石	良好	口縁部に３条の沈線あり
6	25	口絵－8	1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	深鉢	21.3		20.0	14.5			ミガキ　ナデ	ナデ後ミガキ	にぶい黄橙（7.5YR6/4）	灰黄褐（10YR5/2）	長石　角閃石　褐色粒	良好	内、外面の口縁部に沈線あり 外面屈曲部に界線あり 内面に指頭圧痕あり 口縁部に山形突起あり
7	25	261	1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	深鉢						12.0	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁部に沈線らしき２条の線あり 内面に１条の沈線あり
8	26		1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	深鉢	（54.9）					17.8	ナデ	ナデ	にぶい黄（2.5Y6/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　褐色粒	良好	
9	26	261	1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	深鉢						12.5	ヨコナデ　ミガキ	ミガキ	浅黄橙（10YR8/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒	良好	口縁部に３条の沈線あり 外面にヘラ状工具痕あり
10	26	261	1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	深鉢						9.4	ナデ　ミガキ	ナデ	明赤褐（2.5YR5/6）	にぶい橙（5YR6/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁部に３条の沈線あり
11	26	261	1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	深鉢						6.7	ナデ	ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	浅黄（2.5Y7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁部に３条の沈線あり
12	26	261	1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	深鉢						8.3	ナデ　条痕後ナデ	ミガキ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	
13	26		1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	深鉢		7.5				14.6	条痕後ナデ　ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒　黒色粒	良好	内、外面胴部にスス付着
14	27	262	1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	浅鉢	（39.0）					8.1	条痕　ミガキ ヨコナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	長石　角閃石	良好	口縁部に沈線らしき条痕あり
15	27	262	1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	浅鉢	（31.8）					4.6	ナデ	ナデ	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁部に１条の沈線あり 界線あり　内、外面にスス付着
16	27	262	1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	浅鉢						3.8	ミガキ	ミガキ	黒褐（5YR3/1）	黒褐（5YR3/1）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	口縁部に１条の沈線あり
17	27	262	1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	浅鉢						4.8	ナデ　ナデ後ミガキ	ナデ　ナデ後ミガキ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	石英　長石　角閃石	良好	口縁部に１条の沈線あり 内、外面胴部に指頭圧痕あり
18	27	262	1号住居	1区	SI-07	—	縄文土器	浅鉢						5.3	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	灰黄褐（10YR6/2）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	口縁部に３条の沈線あり
19	29	263	1号土坑	6区	SK-28	—	縄文土器	深鉢						5.1	ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐（10YR5/3）	灰黄褐（10YR4/2）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	口縁部に１条の沈線あり
20	29	263	1号土坑	6区	SK-28	—	縄文土器	深鉢						7.2	条痕	ミガキ	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい黄褐（10YR5/3）	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	口縁部に貝殻腹縁による連続刺突文あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
21	29	263	1号土坑	6区	SK-28	—	縄文土器	浅鉢						2.1	ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい黄褐（10YR5/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁部に1条の沈線あり
22	29	263	1号土坑	6区	SK-28	—	縄文土器	深鉢						5.4	ミガキ	条痕後ミガキ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面に凹線文様あり　口縁部に擬似縄文あり
23	29	263	1号土坑	6区	SK-28	—	縄文土器	深鉢						5.8	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい褐（7.5YR6/3）	長石　角閃石	良好	口縁部に4条の沈線あり
24	29		1号土坑	6区	SK-28	—	縄文土器	深鉢		（11.1）				8.3	ナデ後ミガキ　ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	
25	29	263	1号土坑	6区	SK-28	—	縄文土器	深鉢						12.0	条痕後ナデ	条痕後ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	橙（7.5YR7/6）	長石　角閃石	良好	
27	31		2号土坑	8区	SK-43	—	縄文土器	深鉢						3.7	条痕後ナデ	ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	浅黄（2.5Y7/3）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	
28	33	264	3号土坑	8区	SK-73	—	縄文土器	鉢		10.5				2.9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	灰黄（2.5Y6/2）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	底部に圧痕あり
29	35	258	1号埋鉢	2区	SX-25	—	縄文土器	深鉢	（40.0）	（6.4）	40.8	50.0			ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	口縁部に3条の沈線あり　外面胴部に黒斑あり　内面胴部にスス付着　埋鉢
30	37	259	2号埋鉢	7区	SX-46	—	縄文土器	深鉢	（41.2）		38.7			37.4	条痕後ナデ	条痕後ナデ	明黄褐（10YR7/6）	明黄褐（10YR7/6）	長石　角閃石　黒曜石	良好	口縁部に貝殻条痕文あり　外面胴部に黒斑あり　内面胴部にスス付着　埋鉢
31	41	266	2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	高坏	25.2					5.5	ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）明赤褐（2.5YR5/6）	浅黄橙（7.5YR8/3）明赤褐（2.5YR5/6）	長石　角閃石　黒曜石	良好	口縁部上面に放射線状の暗文あり　内、外面に赤色顔料塗布　口縁部に黒斑あり　丹塗り土器
32	41	266	2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	甕	23.8		（21.4）			28.7	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	石英　長石　雲母　角閃石　黒色粒	良好	全周していない沈線あり　外面にスス付着
33	41	266	2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	甕	（26.0）					9.3	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　黒曜石　褐色粒	良好	
34	41	266	2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	甕	（21.9）					6.5	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	
35	41	266	2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	甕	（21.0）					7.6	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	
36	42	266	2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	甕	（24.8）					7.9	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ　ナデ	明褐灰（7.5YR7/1）	灰褐（7.5YR4/2）	石英　長石　角閃石	良好	外面胴部に沈線あり　口縁部と胴部の一部にスス付着
37	42	266	2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	甕						11.6	ヨコナデ	ヨコナデ	明赤褐（2.5YR5/6）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　黒曜石　赤褐色粒　黒色粒	良好	口縁部に刻み目あり　内、外面に赤色顔料塗布　1条の突帯文あり　丹塗り土器
38	42	266	2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	甕		（8.5）				16.8	ハケメ後ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	灰黄褐（10YR6/2）	石英　長石　角閃石　褐色粒	良	外面底部に黒斑あり　内面胴部に指頭圧痕あり
39	42	266	2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	壺		8.4	20.5			20.2	ヨコナデ後ハケメ　ヨコナデ後ハケメ後ミガキ　ナデ	ヨコナデ後ハケメ　ハケメ　ナデ	明赤褐（2.5YR5/6）にぶい黄橙（7.5YR6/4）	明赤褐（2.5YR5/6）にぶい黄橙（10YR6/4）	長石　角閃石　黒色粒　赤褐色粒	良好	外面胴部から底部に黒斑あり　内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
40	43	265	2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	壺			（35.7）			33.2	ミガキ　ヨコナデ	ヨコナデ　ナデ	明赤褐（2.5YR5/6）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　黒曜石	良好	2条の刻み目突帯文と頸部に1条の突帯文あり　内面に黒斑、外面に赤色顔料痕あり
41	43	267	2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	壺			33.3			24.5	ハケメ後ヨコナデ　ヨコナデ　ハケメ	ハケメ　ハケメ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	2条の刻み目突帯文あり　外面に赤色顔料痕あり　外面に黒斑あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
42	43		2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	壺			(37.1)			15.0	ミガキ	ミガキ後ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	石英　長石　角閃石　雲母　黒曜石　赤褐色粒	良好	外面胴部に赤色顔料痕あり　2条の刻み目突帯文あり
43	43	266	2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	壺	(16.4)					4.2	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英　長石　雲母　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	
44	43	266	2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	壺	(20.9)					7.1	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面口縁部に暗文の痕跡あり
45	44		2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	壺						6.0	ハケメ　ヨコナデ	ミガキ　ハケメ	浅黄橙 (10YR8/3) 明赤褐 (2.5YR5/8)	浅黄橙 (10YR8/3) 明赤褐 (2.5YR5/8)	長石　角閃石　黒曜石	良好	頸部に1条の突帯文あり　内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
46	44	266	2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	鉢	(11.1)	(6.5)		9.5			ナデ	ナデ	明赤褐 (2.5YR5/6) 浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3) 明赤褐 (2.5YR5/6)	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	内面胴部に指頭圧痕あり　口縁部に穿孔あり　内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
47	44		2号住居	1区	SI-02	—	弥生土器	壺			(27.7)			25.7	ヨコナデ	ナデ	灰黄 (2.5Y7/2)	灰黄 (2.5Y7/2)	長石　角閃石	良好	胴部に刻み目突帯文あり　突帯部分に布目痕あり　内、外面にスス付着
55	47	268	3号住居	1区	SI-09	—	弥生土器	蓋	(16.9)					5.0	ハケメ後ミガキ ハケメ後ナデ ヨコナデ	ナデ　ハケメ後ナデ　ヨコナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英　長石　雲母　角閃石	良好	外面に指頭圧痕あり　口縁端部に穿孔2ヶ所あり　内面に黒斑あり
56	47	268	3号住居	1区	SI-09	—	弥生土器	甕	(33.0)		(28.3)			16.0	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	明赤褐 (5YR5/6) 灰黄 (2.5Y7/2)	明赤褐 (5YR5/6) 灰黄 (2.5Y7/2)	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　褐色粒	良好	胴部に2条の突帯文あり　内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
57	47	268	3号住居	1区	SI-09	—	弥生土器	甕	(29.0)		(27.0)			13.0	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	石英　長石　雲母　黒色粒	良好	胴部に沈線あり　内面にスス付着
58	47	268	3号住居	1区	SI-09	—	弥生土器	甕	(23.6)		(21.6)			8.5	ナデ　ヨコナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英　長石　角閃石	良好	内、外面にスス付着　外面口縁部に布目痕あり
59	47	268	3号住居	1区	SI-09	—	弥生土器	甕	(21.6)		(19.7)			6.7	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ	灰黄褐 (10YR6/2)	浅黄 (2.5Y7/3)	長石　角閃石　褐色粒	良好	外面にスス付着
60	47	268	3号住居	1区	SI-09	—	弥生土器	甕		(6.9)				11.4	ハケメ　ヨコナデ	ナデ　ヨコナデ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面胴部にスス付着　内面に指頭圧痕、工具痕あり
61	47	268	3号住居	1区	SI-09	—	弥生土器	甕						6.9	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙 (7.5YR7/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	長石　角閃石　褐色粒	良好	
62	47	269	3号住居	1区	SI-09	—	弥生土器	把手						13.2	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
63	48	268	3号住居	1区	SI-09	—	弥生土器	壺	(15.2)		(21.8)			12.1	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3) 明赤褐 (2.5YR5/6)	にぶい黄橙 (10YR7/3) 明赤褐 (2.5YR5/6)	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　褐色粒　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料塗布　内面胴部に指頭圧痕あり　丹塗り土器
64	48	268	3号住居	1区	SI-09	—	弥生土器	壺	(23.6)					8.3	ヨコナデ　ハケメ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ　ヨコナデ後ハケメ　ハケメ後ナデ	にぶい赤褐 (5YR5/4)	にぶい赤褐 (5YR5/4)	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　口縁部に1条の沈線あり　頸部に1条の突帯文あり
65	48	268	3号住居	1区	SI-09	—	弥生土器	壺	(19.0)		(22.5)			13.4	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒　黒色粒	良好	内、外面口縁部に赤色顔料痕あり　胴部外面に黒斑あり
66	48	268	3号住居	1区	SI-09	—	弥生土器	壺		7.9	(17.8)			17.6	ナデ　ヨコナデ　ミガキ　ハケメ	ナデ　ナデ後ハケメ	浅黄橙 (7.5YR8/6) 赤褐 (5YR4/8)	橙 (7.5YR7/6)	石英　長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒　ザクロ石	良好	赤色顔料塗布　頸部と胴部に突帯文あり　頸部と底部に指頭圧痕あり　外面に黒斑あり　丹塗り土器

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
67	48	268	3号住居	1区	SI-09	—	弥生土器	器台		(43.8)				9.6	ナデ　ミガキ	ナデ　ハケメ	橙（7.5YR7/6）橙（2.5YR6/8）	橙（7.5YR7/6）明赤褐（2.5YR5/8）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器　筒形器台
70	50	273	4号住居	1区	SX-16	—	弥生土器	蓋	20.8			6.5			ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石	良好	外面に黒斑あり　内面に指頭圧痕あり　口縁端部に２つの対面する穿孔あり
71	50	272	4号住居	1区	SX-16	—	弥生土器	甕	25.4	(5.2)	23.1	32.9			ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	褐灰（10YR4/1）	褐灰（10YR4/1）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	内面胴部に指頭圧痕あり　内、外面にスス付着
72	51	273	4号住居	1区	SX-16	—	弥生土器	壺	22.5	(6.0)	(26.3)	35.0			ヨコナデ　ヨコナデ後ハケメ　ヨコナデ後ミガキ	ヨコナデ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	外面胴部に工具痕あり　外面胴部に黒斑あり　胴部に１条の突帯文あり
73	51	273	4号住居	1区	SX-16	—	弥生土器	壺	(17.9)	7.2	(19.5)	27.7			ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ミガキ　ナデ	ヨコナデ　ハケメ　ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	浅黄橙（7.5YR8/4）	石英　長石　雲母　角閃石　白色粒	良好	外面胴部に突帯文あり　内面胴部に指頭圧痕あり
74	51	273	4号住居	1区	SX-16	—	弥生土器	器台	(10.7)	11.3		15.1			ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　雲母　角閃石	良好	内面底部に指頭圧痕あり
76	53		5号住居	2区	SI-11	—	弥生土器	甕	(27.7)					3.5	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石	良好	
77	53		5号住居	2区	SI-11	—	弥生土器	甕						3.8	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石	良好	
78	55	277	6号住居	2区	SI-12	—	弥生土器	高坏	(25.0)					23.0	調整不明	調整不明	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	石英　長石　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　脚部上部にM字突帯文あり
79	55	277	6号住居	2区	SI-12	—	弥生土器	高坏	(26.0)					6.6	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）明赤褐（2.5YR5/6）	にぶい黄橙（10YR7/3）明赤褐（2.5YR5/6）	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
80	55		6号住居	2区	SI-12	—	弥生土器	甕	(44.8)		(46.2)			17.9	調整不明	ヨコナデ　ハケメ	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	口縁部に黒斑あり　頸部に１条の突帯文あり
81	55	271	6号住居	2区	SI-12	—	弥生土器	甕	(26.9)		(25.8)			12.5	ヨコナデ　ヨコナデ後ナデ	ヨコナデ　ヨコナデ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	浅黄橙（10YR8/3）	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒　黒色粒	良好	外面胴部に黒斑あり
82	55	271	6号住居	2区	SI-12	—	弥生土器	甕	(41.0)					4.2	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面口縁部に黒斑あり
83	56	271	6号住居	2区	SI-12	—	弥生土器	甕	(33.7)					5.8	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	１条の突帯文あり
84	56	271	6号住居	2区	SI-12	—	弥生土器	甕	(37.2)					6.0	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　褐色粒	良好	１条の突帯文あり　外面口縁部に黒斑あり
85	56	271	6号住居	2区	SI-12	—	弥生土器	甕	(43.1)					6.3	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄（2.5Y6/3）	にぶい黄（2.5Y6/3）	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　褐色粒	良好	１条の突帯文あり
86	56		6号住居	2区	SI-12	—	弥生土器	甕	(31.9)					7.1	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　褐色粒	良好	外面口縁部から胴部にかけてスス付着
87	56		6号住居	2区	SI-12	—	弥生土器	甕	(29.0)					5.1	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　口縁部にスス付着

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
88	56		6号住居	2区	SI-12	—	弥生土器	甕	(21.8)					4.7	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	口縁部にスス付着　被熱による赤色化あり
89	56		6号住居	2区	SI-12	—	弥生土器	甕						5.8	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙（10YR8/3）	灰黄褐（10YR6/2）	石英　角閃石　雲母	良好	内、外面に黒斑あり　内面にスス付着
90	56	277	6号住居	2区	SI-12	—	弥生土器	器台		13.9				10.5	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	明赤褐（5YR5/6）	長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	
91	56	277	6号住居	2区	SI-12	—	弥生土器	器台						11.2	ナデ　ヨコナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）赤褐（2.5YR4/8）	にぶい橙（7.5YR7/4）赤褐（2.5YR4/8）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面に赤色顔料塗布　内面に赤色顔料痕と工具痕あり　暗文あり　丹塗り土器　筒形器台
93	59	278	7号住居	2区	SI-18	—	弥生土器	高坏	23.0					13.0	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁部に黒斑あり
94	59		7号住居	2区	SI-18	—	弥生土器	高坏	(22.2)					4.7	ヨコナデ　調整不明	ヨコナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/3）赤褐（2.5YR4/8）	浅黄橙（10YR8/3）赤褐（2.5YR4/6）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
95	59		7号住居	2区	SI-18	—	弥生土器	甕	(24.0)					4.5	調整不明	調整不明	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石	良好	
96	59		7号住居	2区	SI-18	—	弥生土器	甕	(24.0)					3.3	ヨコナデ	調整不明	灰黄褐（10YR5/2）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石	良好	
97	59		7号住居	2区	SI-18	—	弥生土器	甕						4.2	ヨコナデ　調整不明	調整不明	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　赤褐色粒	良好	
98	59		7号住居	2区	SI-18	—	弥生土器	甕		(7.0)				4.7	ハケメ	ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	黒（10YR2/1）	長石　雲母	良好	内面底部に黒斑あり
99	59		7号住居	2区	SI-18	—	弥生土器	壺	(18.0)					5.5	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ハケメ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	橙（5YR6/6）	長石　雲母	良好	
100	59		7号住居	2区	SI-18	—	弥生土器	把手						4.6	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）		石英　長石	良好	
105	63	口絵-7	8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	高坏	(24.4)					8.1	ヨコナデ　ナデ　調整不明	ヨコナデ　ナデ　調整不明	浅黄橙（7.5YR8/4）赤褐（2.5YR4/8）	浅黄橙（7.5YR8/6）赤褐（2.5YR4/8）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
106	63	口絵-7	8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	甕	24.6		23.2			32.5	ヨコナデ　ナデ　ハケメ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	長石　角閃石　黒曜石　褐色粒	良好	内、外面にスス付着　沈線あり　外面に被熱による赤色化あり
107	63	口絵-7	8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	甕	23.9		21.5			29.1	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	にぶい橙（5YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/3）	石英　長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	外面胴部に沈線あり　内、外面にスス付着　外面に黒斑あり
108	63		8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	甕	(23.9)					10.1	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	黒褐（10YR3/2）	にぶい黄（2.5Y6/3）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	外面にスス付着
109	64	口絵-7	8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	甕	26.0		24.3			29.8	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	石英　長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	外に黒斑あり　沈線あり
110	64		8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	甕	(29.8)		(29.2)			23.1	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	内、外面にスス付着
111	65	口絵-7	8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	甕	(22.8)					4.9	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　口縁部に穿孔あり
112	65	口絵-7	8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	甕	(29.8)					8.0	ミガキ　調整不明	調整不明　ハケメ	灰白（10YR8/2）赤（10YR4/6）	灰白（10YR8/2）赤（10YR4/6）	長石　角閃石　黒曜石	良好	口縁部、頸部に赤色顔料塗布　丹塗り土器

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
113	66		8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	甕	(32.4)		(29.7)			20.9	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	浅黄橙（10YR8.3）赤褐（2.5YR4/6）	浅黄橙（10YR8.3）赤褐（2.5YR4/6）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料塗布　胴部にM字突帯文あり　口縁部上面に暗文あり　丹塗り土器
114	67		8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	甕	(36.5)					5.2	ヨコナデ	ヨコナデ　ケズリ　ナデ	橙（7.5YR6/6）	橙（5YR6/6）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	1条の突帯文あり
115	67		8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	甕	(29.5)		(26.8)			10.6	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/4）	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　褐色粒	良好	
116	67		8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	甕	(25.0)					6.9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	浅黄（2.5Y7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	内面口縁部にスス付着
117	67		8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	甕	(23.7)					9.7	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	明黄褐（10YR7/6）	黄橙（10YR8/6）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	
118	67		8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	鉢	(21.7)		(18.8)			5.0	ヨコナデ　ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	
119	67		8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	甕						6.4	ヨコナデ　調整不明	調整不明	橙（7.5YR7/6）	橙（5YR7/6）	長石　角閃石	良好	被熱による赤色化あり　外面に黒斑あり
120	67	□絵-7	8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	壺	14.6	9.2	22.9	22.1			ナデ　ハケメ後ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/4）	石英　長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	無頸壺　穿孔2ヶ所あるが1ヵ所は貫通していない　外面と内面口縁部付近に赤色顔料痕あり　外面に黒斑あり
121	68	□絵-7	8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	壺	(12.4)					4.7	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄（2.5Y7/2）にぶい赤褐（2.5YR4/4）	灰黄褐（10YR5/2）にぶい赤褐（2.5YR4/4）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料塗布　外面に黒斑あり　口縁部に穿孔あり　丹塗り土器
122	68	□絵-7	8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	器台	12.7	12.3		19.6			ナデ	ナデ　ヨコナデ後ナデ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	長石　角閃石　黒曜石　褐色粒　黒色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　外面に黒斑あり　内面に指頭圧痕あり
123	68	□絵-7	8号住居	2区	SI-19	—	弥生土器	器台	12.5	13.0		20.5			ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	橙（5YR6/6）	灰黄（2.5Y7/2）	長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	内面に指頭圧痕あり　外面に黒斑あり　内、外面に赤色顔料痕あり
133	72		9号住居	2区	SI-20	—	弥生土器	高坏						8.8	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	橙（5YR7/6）赤（10R5/6）	橙（5YR6/6）	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　褐色粒	良好	外面に赤色顔料痕あり
134	74	270	10号住居	2区	SI-22	—	弥生土器	甕	(32.7)		(27.6)			7.5	調整不明	調整不明	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	
135	74	270	10号住居	2区	SI-22	—	弥生土器	甕	(23.4)					6.0	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　赤色粒	良好	内面に黒斑あり
136	74	270	10号住居	2区	SI-22	—	弥生土器	甕	(19.7)					5.9	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ　ナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）	黄灰（2.5Y6/1）	長石　角閃石　黒曜石　赤色粒	良好	
137	74	270	10号住居	2区	SI-22	—	弥生土器	壺	(10.2)					3.6	調整不明	調整不明	浅黄橙（10YR8/3）明赤褐（2.5YR5/8）	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面に赤色顔料痕あり　口縁部に穿孔2ヶ所あり　広口壺　丹塗り土器
140	76	274	11号住居	2区	SI-23	—	弥生土器	高坏	(26.2)					7.0	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）赤褐（2.5YR4/6）	浅黄橙（7.5YR8/3）赤褐（2.5YR4/6）	長石　角閃石　黒曜石	良好	内、外面に赤色顔料塗布　外面にスス付着　丹塗り土器
141	76	274	11号住居	2区	SI-23	—	弥生土器	高坏		16.2				13.7	ハケメ後ナデ　ヨコナデ	ナデ	にぶい橙（10YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面底部に黒斑あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
142	76	274	11号住居	2区	SI-23	—	弥生土器	甕	(21.0)		(21.2)			16.9	ヨコナデ　ヨコナデ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	内、外面にスス付着　胴部に沈線あり
143	76	274	11号住居	2区	SI-23	—	弥生土器	甕	(26.3)					11.3	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	胴部に沈線あり　外面にスス付着
144	76	274	11号住居	2区	SI-23	—	弥生土器	甕	(24.6)					5.3	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面にスス付着
145	76	274	11号住居	2区	SI-23	—	弥生土器	甕	(25.5)					5.8	ヨコナデ後ナデ	ヨコナデ後ナデ	にぶい黄褐（10YR5/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	外面にスス付着　内面に黒斑あり
146	77	274	11号住居	2区	SI-23	—	弥生土器	甕	(35.2)					5.6	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	長石　角閃石	良好	
147	77	274	11号住居	2区	SI-23	—	弥生土器	甕	(25.4)					6.5	ヨコナデ	ヨコナデ　ヨコナデ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰黄（2.5Y7/2）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	内面に黒斑あり
148	77	274	11号住居	2区	SI-23	—	弥生土器	甕	(23.7)		(22.4)			9.1	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	橙（7.5YR7/6）	にぶい黄橙（10YR7/2）	長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	胴部に沈線あり
149	77		11号住居	2区	SI-23	—	弥生土器	壺	(12.8)		(13.5)			6.8	ナデ　ハケメ後ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	広口壺　外面に黒斑あり　口縁部に穿孔あり　内面胴部に指頭圧痕あり
150	77	274	11号住居	2区	SI-23	—	弥生土器	器台	(11.2)	(11.8)		17.8			ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面口縁部に沈線あり
156	81		12号住居	2区	SI-25	—	弥生土器	甕						1.6	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR4/2）	にぶい橙（5YR7/4）	石英　長石　角閃石	良好	
158	85	275	14号住居	2区	SX-21	—	弥生土器	甕	30.2	(9.6)	27.7	39.6			ヨコナデ　ナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	橙（7.5YR7/6）	褐灰（7.5YR4/1）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	内、外面に黒斑あり　内面底部に指頭圧痕あり
159	85	275	14号住居	2区	SX-21	—	弥生土器	甕	20.7		18.7			17.9	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石	良好	内、外面に指頭圧痕あり　内、外面にスス付着
160	85		14号住居	2区	SX-21	—	弥生土器	甕						16.1	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ　ハケメ後ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面にスス付着
161	85		14号住居	2区	SX-21	—	弥生土器	甕						4.6	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒　黒色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
162	85		14号住居	2区	SX-21	—	弥生土器	甕						4.2	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒　黒色粒	良好	1条の突帯文あり
167	88		15号住居	8区	SI-43	—	弥生土器	甕	(24.0)					4.1	調整不明	調整不明	橙（5YR7/6）	橙（5YR7/6）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
168	88		15号住居	8区	SI-43	—	弥生土器	甕						4.9	ヨコナデ	ヨコナデ　ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	浅黄（2.5Y7/3）	長石　角閃石	良好	1条の突帯文あり
169	88		15号住居	8区	SI-43	—	弥生土器	甕						3.8	ヨコナデ	ヨコナデ　調整不明	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石	良好	
170	88		15号住居	8区	SI-43	—	弥生土器	甕						3.2	調整不明	調整不明	橙（7.5YR7/6）	橙（5YR7/6）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
171	88		15号住居	8区	SI-43	—	弥生土器	甕						6.2	調整不明	調整不明	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	胴部に1条の刻み目突帯文あり
172	88		15号住居	8区	SI-43	—	弥生土器	甕						5.1	ハケメ	ナデ	明黄褐（10YR7/6）	黒褐（2.5Y3/1）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	内面に黒斑あり
173	88		15号住居	8区	SI-43	—	弥生土器	壺	(20.1)					6.3	ハケメ　調整不明	調整不明　ハケメ	橙（7.5YR7/6）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	頸部に1条の突帯文あり
174	88		15号住居	8区	SI-43	—	弥生土器	鉢？		(10.2)				6.2	ハケメ後ナデ　ナデ	ハケメ後ナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
177	90		16号住居	8区	SI-44	—	弥生土器	甕	(26.1)		(22.7)			4.2	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	石英　長石　角 閃石　雲母	良好	
178	90		16号住居	8区	SI-44	—	弥生土器	甕	(28.8)		(26.2)			5.8	ヨコナデ　調整不明	調整不明	橙 (2.5YR7/6)	橙 (2.5YR7/6)	長石　角閃石	良好	
179	90		16号住居	8区	SI-44	—	弥生土器	甕	(32.5)					4.5	調整不明	調整不明	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英　長石	良好	口縁部に黒斑あり
180	90		16号住居	8区	SI-44	—	弥生土器	甕						3.5	ヨコナデ	ヨコナデ　ナデ	灰白 (2.5Y8/2)	灰白 (2.5Y8/2)	石英　長石　角 閃石　雲母	良好	
181	90		16号住居	8区	SI-44	—	弥生土器	甕						5.0	調整不明　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	
182	90		16号住居	8区	SI-44	—	弥生土器	甕		6.0				3.9	ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	灰黄褐 (10YR5/2)	長石　角閃石 雲母	良好	
183	90		16号住居	8区	SI-44	—	弥生土器	壺						3.9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR5/3)	石英　長石	良好	外面に黒斑あり
184	90		16号住居	8区	SI-44	—	土製品	手捏ね						2.0	ナデ	ナデ	褐灰 (10YR5/1)	淡黄 (2.5Y8/3)	長石　角閃石	良好	
185	92		17号住居	8区	SI-46	—	弥生土器	甕						4.0	調整不明	調整不明	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	石英　長石　角 閃石　雲母	良好	
186	92		17号住居	8区	SI-46	—	弥生土器	甕						5.0	調整不明	調整不明	明黄褐 (10YR7/6)	浅黄橙 (10YR8/4)	石英　長石　角 閃石　雲母	良好	
187	92		17号住居	8区	SI-46	—	弥生土器	甕		(5.6)				5.6	ナデ　調整不明	ナデ　調整不明	橙 (5YR6/6)	黒 (10YR2/1)	石英　長石　角 閃石	良好	内面に黒斑あり
188	92		17号住居	8区	SI-46	—	弥生土器	甕		6.2				4.5	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	黒褐 (10YR3/1)	石英　長石　角 閃石	良好	内面に黒斑あり
191	94	276	18号住居	8区	SI-47	—	弥生土器	壺			18.3			14.4	ハケメ後ナデ後ミガキ　ヨコナデ	ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/4) 明赤褐 (2.5YR5/6)	暗灰 (N 3/0) 灰黄 (2.5Y7/2)	石英　長石　角 閃石　雲母　赤 褐色粒	良好	長頸壺　外面に赤色顔料塗布 内、外面に黒斑あり　頸部に突帯文あり　内面胴部に指頭圧痕あり 丹塗り土器
192	94		18号住居	8区	SI-47	—	弥生土器	壺	(7.0)					11.2	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ	浅黄橙 (7.5YR8/4) 赤褐 (2.5YR4/8)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	長石　角閃石	良好	長頸壺　内、外面に赤色顔料塗布 丹塗り土器
194	95		19号住居	8区	SI-48	—	弥生土器	甕						3.3	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	
195	95		19号住居	8区	SI-48	—	弥生土器	甕						1.8	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐 (7.5YR5/3)	褐灰 (7.5YR4/1)	長石　角閃石 黒色粒　褐色粒	良好	外面に工具痕あり 内、外面にスス付着
196	95		19号住居	8区	SI-48	—	弥生土器	甕						2.2	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英　長石　角 閃石　雲母　褐 色粒　黒色粒	良好	外面に工具痕あり 内、外面にスス付着
197	97		20号住居	8区	SI-49	—	弥生土器	鉢？						2.7	ヨコナデ　ヨコナデ後ミガキ	ヨコナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英　長石　角 閃石　雲母	良好	黒斑あり
198	97		20号住居	8区	SI-49	—	弥生土器	甕						4.4	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英　長石　雲 母　黒色粒	良好	外面に被熱による赤色化あり
199	97		20号住居	8区	SI-49	—	弥生土器	甕						2.2	ナデ　ハケメ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	口縁部に黒斑あり
200	97		20号住居	8区	SI-49	—	弥生土器	甕						1.8	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	長石	良好	黒斑あり
202	100		21号住居	8区	SI-51	—	弥生土器	甕						2.4	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	外面に赤色顔料痕あり
203	100		21号住居	8区	SI-51	—	弥生土器	甕						3.1	ヨコナデ	ヨコナデ　ハケメ	にぶい黄褐 (10YR7/3)	灰黄褐 (10YR6/2)	長石　角閃石	良好	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
204	100		21号住居	8区	SI-51	—	弥生土器	把手						6.7	調整不明	調整不明	にぶい橙（7.5YR7/3）	灰褐（7.5YR5/2）	長石　角閃石	良好	
205	98		22号住居	8区	SI-53	—	弥生土器	甕						1.9	ナデ	ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	浅黄（2.5Y7/3）	石英　角閃石	良好	
206	98		22号住居	8区	SI-53	—	弥生土器	甕						2.1	ナデ	ナデ	黒褐（2.5Y3/1）	黒褐（2.5Y3/1）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	
207	103		4号土坑	1区	SK-06	—	弥生土器	甕						4.1	ヨコナデ後ナデ	ヨコナデ後ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　褐色粒	良好	
208	103		4号土坑	1区	SK-06	—	弥生土器	甕						4.3	ヨコナデ後ナデ	ヨコナデ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	1条の突帯文あり
209	105		5号土坑	2区	SK-10	—	弥生土器	甕						1.9	調整不明	調整不明	にぶい黄橙（10YR7/4）	浅黄橙（10YR8/4）	長石　角閃石	良好	外面頸部に赤色顔料痕あり
210	107		6号土坑	2区	SK-13	—	弥生土器	甕	（26.7）					5.4	ヨコナデ	ヨコナデ	明褐灰（7.5YR7/2）	明褐灰（7.5YR7/2）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面にスス付着
211	110		8号土坑	2区	SK-15	—	弥生土器	甕	（28.7）					4.9	ヨコナデ後ナデ	ヨコナデ後ナデ	にぶい橙（2.5YR6/4）	橙（2.5YR7/6）	長石　角閃石　赤褐色粒　褐色粒	良好	外面胴部と内面口縁部に黒斑あり
212	113		10号土坑	2区	SK-17	—	弥生土器	甕	（20.8）					4.8	ヨコナデ後ハケメ後ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　赤褐色粒　褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
213	113		10号土坑	2区	SK-17	—	弥生土器	壺	（20.2）					3.9	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒	良好	内面口縁部に黒斑、外面口縁部にスス付着　口縁部に刻み目あり
214	113		10号土坑	2区	SK-17	—	弥生土器	甕						2.5	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面にスス付着
215	116		12号土坑	2区	SK-20	—	弥生土器	甕						2.6	ヨコナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	M字突帯文あり　赤色顔料痕あり
216	121		16号土坑	2区	SX-31	—	弥生土器	甕						2.1	ヨコナデ	ヨコナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
217	121		16号土坑	2区	SX-31	—	弥生土器	甕						2.6	ヨコナデ	ヨコナデ　調整不明	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	石英　長石　角閃石	良好	
218	123		17号土坑	2区	SX-32	—	弥生土器	甕	（26.3）					5.7	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄（2.5Y8/3）	浅黄橙（10YR8/4）	長石　角閃石　褐色粒	良好	内面口縁部から外面頸部にかけてスス付着
219	123		17号土坑	2区	SX-32	—	弥生土器	甕						10.0	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/3）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	内、外面に黒斑あり　外面胴部に刻み目突帯文あり
220	123		17号土坑	2区	SX-32	—	弥生土器	甕						3.6	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
221	123		17号土坑	2区	SX-32	—	弥生土器	甕		7.6				5.2	調整不明	ケズリ	橙（2.5YR6/8）	橙（2.5YR6/8）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内面に黒斑あり　外面に被熱による赤色化あり
222	123		17号土坑	2区	SX-32	—	弥生土器	壺	（7.7）		（17.0）			9.9	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ後ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒	良好	内面に黒斑あり　工具痕あり　短頸壺
223	125		18号土坑	6区	SK-25	—	弥生土器	甕						5.4	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	長石	良好	
224	127		19号土坑	6区	SK-26	—	弥生土器	壺	（21.0）					12.2	ハケメ後ヨコナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）	石英　長石　角閃石	良好	外面に赤色顔料痕あり
225	127		19号土坑	6区	SK-26	—	弥生土器	甕						5.6	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	灰白（7.5YR8/1）	長石　雲母　角閃石　黒色粒	良好	内面に指頭圧痕あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
226	130		21号土坑	7区	SK-34	—	弥生土器	甕	(16.6)					9.2	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面にスス付着
227	130		21号土坑	7区	SK-34	—	弥生土器	甕	(26.0)		(24.0)			8.3	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	長石　角閃石	良好	外面にスス付着
228	130		21号土坑	7区	SK-34	—	弥生土器	甕						1.6	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄褐(10YR5/2)	灰黄褐(10YR5/2)	長石　角閃石　雲母	良好	外面に黒斑あり
229	132		22号土坑	7区	SK-35	—	弥生土器	甕						2.1	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白(10YR8/2)	浅黄橙(10YR8/3)	長石　角閃石	良好	内面に赤色顔料痕あり
230	134		23号土坑	7区	SK-37	—	弥生土器	甕	(24.2)					6.0	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい橙(7.5YR7/3)	長石　角閃石	良好	
231	138	280	27号土坑	7区	SK-80	—	弥生土器	甕	19.5	8.4	16.4	18.2			ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面にスス付着　内面に指頭圧痕あり
232	140	279	28号土坑	8区	SK-42	—	弥生土器	甕	27.5		25.5			25.6	ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ後ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	浅黄橙(10YR8/3)	石英　長石　角閃石　雲母	良好	外面にスス付着　口縁部に黒斑と赤色顔料痕あり
234	142		29号土坑	8区	SK-44	—	弥生土器	甕						2.4	ナデ	ナデ	暗灰黄(2.5YR5/2)	灰黄(2.5YR4/1)	長石　角閃石	良好	外面に黒斑あり
235	142		29号土坑	8区	SK-44	—	弥生土器	甕						2.3	ヨコナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英　長石　角閃石　雲母	良好	外面にスス付着
236	142		29号土坑	8区	SK-44	—	弥生土器	甕						3.2	ヨコナデ	ヨコナデ	橙(5YR6/6)	にぶい橙(5YR6/4)	長石　角閃石　赤褐色粒　片岩の粒	良好	
237	145		31号土坑	8区	SK-46	—	弥生土器	甕						2.4	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/2)	灰黄(2.5Y7/2)	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	
238	145		31号土坑	8区	SK-46	—	弥生土器	甕						2.2	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒	良好	
239	147		32号土坑	8区	SK-47	—	弥生土器	甕						3.2	ヨコナデ	ヨコナデ	橙(5YR6/6)	浅黄橙(10YR8/3)	長石　角閃石	良好	
240	147		32号土坑	8区	SK-47	—	弥生土器	甕						1.8	ナデ	ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	浅黄橙(10YR8/3)	長石　角閃石	良好	
241	149		33号土坑	8区	SK-48	—	弥生土器	甕						2.7	ナデ	ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	長石　角閃石	良好	
242	151		34号土坑	8区	SK-51	—	弥生土器	甕						2.2	ナデ	ナデ	橙(7.5YR7/6)	浅黄橙(10YR8/3)	長石　角閃石　褐色粒	良好	
243	153		35号土坑	8区	SK-53	—	弥生土器	壺	(8.4)					5.1	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ	浅黄橙(7.5YR8/6)	橙(7.5YR7/6)	長石　角閃石	良好	外面に赤色顔料痕あり　袋状口縁壺
245	155		36号土坑	8区	SK-55	—	弥生土器	甕	(19.8)					4.2	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
246	155		36号土坑	8区	SK-55	—	弥生土器	甕						2.4	ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄(2.5Y8/3)	灰白(2.5YR8/2)	長石　角閃石	良好	
247	155		36号土坑	8区	SK-55	—	弥生土器	甕						3.8	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	石英　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面にスス付着
248	155		36号土坑	8区	SK-55	—	弥生土器	甕		6.7				3.8	ハケメ　ヨコナデ	ナデ　ヨコナデ	橙(2.5YR6/6)	灰白(2.5Y8/2)	長石　角閃石	良好	
249	155	281	36号土坑	8区	SK-55	—	弥生土器	壺	(7.0)	(4.6)	(17.7)	14.0			ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ　ハケメ	浅黄橙(10YR8/3)	灰白(10YR8/2)	長石　角閃石	良好	無頸壺　外面に１０条の沈線と１条の突帯文あり　内面に指頭圧痕あり　外面に黒斑又はスス付着
250	158		38号土坑	8区	SK-59	—	弥生土器	甕	(27.6)					4.5	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　調整不明	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	石英　長石	良好	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
251	158		38号土坑	8区	SK-59	—	弥生土器	甕	(28.8)					3.0	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙（10YR8/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	外面にスス付着
252	158		38号土坑	8区	SK-59	—	弥生土器	甕	(21.8)					3.9	ヨコナデ　調整不明	ヨコナデ	浅黄橙（10YR8/3）	橙（5YR7/6）	長石　角閃石	良好	
253	163		42号土坑	8区	SK-65	—	弥生土器	壺？						1.8	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　黒色粒	良好	
254	163		42号土坑	8区	SK-65	—	弥生土器	甕						1.8	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	
256	165		43号土坑	8区	SK-67	—	弥生土器	甕	(26.4)					5.1	ヨコナデ　調整不明	ヨコナデ	浅黄（2.5Y7/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	
257	165		43号土坑	8区	SK-67	—	弥生土器	甕						5.6	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ハケメ	浅黄橙（10YR8/4）	灰白（2.5Y8/2）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	
258	165		43号土坑	8区	SK-67	—	弥生土器	甕		(5.8)				5.3	調整不明	ナデ　調整不明	にぶい黄橙（10YR6/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）	長石　角閃石	良好	
259	167		44号土坑	8区	SK-69	—	弥生土器	甕						2.3	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	長石　角閃石	良好	
260	169		45号土坑	8区	SK-70	—	弥生土器	甕						1.7	ヨコナデ	ヨコナデ	灰褐（7.5YR5/2）	灰褐（7.5YR5/2）	長石　黒曜石	良好	
262	171		46号土坑	8区	SK-71	—	弥生土器	甕			(53.9)			30.3	ハケメ　ヨコナデ	調整不明	浅黄橙（10YR8/3）	灰白（10YR8/2）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	胴部に１条の突帯文あり　内面にスス付着　外面胴部に黒斑あり　赤色顔料痕あり
263	173		47号土坑	8区	SK-75	—	弥生土器	甕						6.0	調整不明　ハケメ	調整不明	灰黄褐（10YR6/2）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石	良好	
264	176		50号土坑	8区	SX-52	—	弥生土器	甕	(31.2)		(29.0)			10.6	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	内面に指頭圧痕あり　外面胴部に沈線あり
265	176		50号土坑	8区	SX-52	—	弥生土器	甕						29.6	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	浅黄橙（10YR8/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面に赤色顔料痕あり
266	190		１号溝	２区	SD-02	—	弥生土器	甕						2.3	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄（2.5Y6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	長石　角閃石　赤褐色粒　黒色粒	良好	
267	190		１号溝	２区	SD-02	—	弥生土器	甕						2.1	ヨコナデ	ナデ	暗灰黄（2.5Y5/2）	灰黄（2.5Y6/2）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	外面に工具痕あり
268	190		１号溝	２区	SD-02	—	弥生土器	甕						1.6	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	
269	192		２号溝	６区	SD-06	—	弥生土器	甕						2.6	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	灰（7.5Y4/1）	長石　角閃石	良好	
270	192		２号溝	６区	SD-06	—	弥生土器	？		7.6				3.8	ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	にぶい黄褐（10YR7/3）	長石　角閃石　褐色粒	良好	
271	192		２号溝	６区	SD-06	—	弥生土器	甕		(6.0)				2.6	ハケメ後ナデ　ナデ	ナデ	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR6/6）	長石　角閃石	良好	
272	194	297	３号溝	６区	SD-07	—	弥生土器	壺	(21.4)		(21.0)			20.6	ヨコナデ　ハケメ　ハケメ後ミガキ	ハケメ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	長石　角閃石	良好	外面に黒斑あり
273	194	297	３号溝	６区	SD-07	—	弥生土器	甕		7.0				7.5	ハケメ	ナデ　ヨコナデ	橙（7.5YR7/6）	灰白（2.5Y7/1）	長石　角閃石　片岩　赤褐色粒	良	被熱による赤色化あり
274	194	297	３号溝	６区	SD-07	—	弥生土器	甕						4.2	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	橙（5YR6/6）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
275	194	297	３号溝	６区	SD-07	—	弥生土器	甕						3.5	調整不明	ヨコナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（2.5Y7/1）	長石　角閃石	良好	
276	194	297	３号溝	６区	SD-07	—	弥生土器	甕	(24.4)					3.3	ヨコナデ	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	
277	194		３号溝	６区	SD-07	—	弥生土器	甕？		(8.4)				13.5	ハケメ　ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR5/2）	にぶい褐（7.5YR6/3）	石英　長石　雲母　角閃石　赤色粒	良好	内面に指頭圧痕あり
282	197	297	４号溝	８区	SD-13	—	弥生土器	甕	(26.2)		(33.8)			15.5	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	浅黄橙（10YR8/3）	石英　長石　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
283	197	297	４号溝	８区	SD-13	—	弥生土器	甕						4.9	ヨコナデ　調整不明	ヨコナデ　調整不明	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
286	199	282	１号甕棺墓	２区	SX-24	—	弥生土器	甕	(37.8)	(13.2)	(53.7)	74.9			ヨコナデ　ハケメ後ミガキ　ハケメ　ナデ	ヨコナデ　調整不明	にぶい橙（7.5YR6/6）	にぶい橙（7.5YR6/4）	石英　長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	１条の刻み目突帯文あり　外面に黒斑あり
287	201	283	２号甕棺墓	２区	SX-27	—	弥生土器	甕	28.0	8.6	27.8	33.2			調整不明　ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ	ナデ　ヨコナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	石英　長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	１条の突帯文あり　外面胴部に黒斑あり　上甕
288	201	283	２号甕棺墓	２区	SX-27	—	弥生土器	甕	33.1	(7.2)	(33.1)	54.9			ヨコナデ　ハケメ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	内面に黒斑あり　外面胴部にスス付着　下甕
289	203	284	３号甕棺墓	２区	SX-30	—	弥生土器	甕	(28.9)		25.0			29.4	調整不明　ミガキ	ナデ	黄灰（2.5Y6/1）	黄灰（2.5Y6/1）	石英　長石　角閃石　雲母　黒曜石　赤褐色粒	良好	１条の突帯文とＭ字状突帯文あり　外面に黒斑あり　上甕
290	203	284	３号甕棺墓	２区	SX-30	—	弥生土器	甕	24.7	9.2	33.0	44.9			ヨコナデ　調整不明　ハケメ？ナデ	調整不明	にぶい黄橙（10YR7/3）浅黄橙（7.5YR8/6）	にぶい黄橙（10YR7/3）浅黄橙（10YR8/3）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	２条の刻み目突帯文あり　内、外面に黒斑あり　下甕
291	205	285	４号甕棺墓	２区	SX-33	—	弥生土器	鉢	27.0	10.7		16.0			ナデ　ヨコナデ	ハケメ　ナデ　ヨコナデ	黄橙（10YR8/6）	橙（7.5YR7/6）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	内面に指頭圧痕あり　外面に黒斑あり　上甕
292	205	285	４号甕棺墓	２区	SX-33	—	弥生土器	甕	32.3	10.0	45.8	59.7			ヨコナデ　ミガキ　ハケメ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　黒曜石　茶褐色粒	良好	２条の刻み目突帯文あり　底部に黒斑あり　下甕
293	207	286	５号甕棺墓	２区	SX-34	—	弥生土器	甕	32.6	7.4	45.7	65.8			ヨコナデ　ミガキ後ナデ　ミガキ　工具ナデ　ナデ	ヨコナデ　ハケメ　ハケメ後ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　黒曜石	良好	１条の刻み目突帯文あり　外面に黒斑あり　外面胴部に赤色顔料痕あり
294	209	287	６号甕棺墓	７区	SX-37	—	弥生土器	甕	(24.8)		(21.4)			20.9	工具ナデ　ハケメ　ヨコナデ	工具ナデ　ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	灰黄褐（10YR6/2）	石英　長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	内、外面に黒斑あり　上甕
295	209	287	６号甕棺墓	７区	SX-37	—	弥生土器	甕	31.9	11.0	47.7	62.9			ヨコナデ　ミガキ　ナデ	ヨコナデ　ハケメ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	２条の刻み目突帯文と１条の突帯文あり　外面に黒斑あり　下甕
296	211	288	７号甕棺墓	７区	SX-38	—	弥生土器	壷	24.5	8.4	31.5	38.4			ハケメ　ヨコナデ　工具ナデ	ハケメ　ハケメ後ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　雲母　赤褐色粒	良	２条の刻み目突帯文あり　外面底部に黒斑あり　内面胴部に指頭圧痕あり　甕棺として使用
297	213	289	８号甕棺墓	７区	SX-39	—	弥生土器	甕	44.2		43.0			44.0	ハケメ　ハケメ後ヨコナデ　ヨコナデ	ハケメ後ナデ　ナデ　ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）橙（5YR7/6）	浅黄橙（7.5YR8/4）橙（5YR6/6）	石英　長石　黒曜石	良好	外面胴部に黒斑あり　口縁部に赤色顔料痕あり　上甕

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
298	213	289	8号甕棺墓	7区	SX-39	—	弥生土器	甕	52.0	8.2	51.8	62.9			ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石	良好	内、外面に黒斑あり　下甕
299	215	290	9号甕棺墓	7区	SX-41	—	弥生土器	甕	（26.4）	8.1	39.5			47.6	調整不明　ヨコナデ　ミガキ　工具ナデ	ヨコナデ　工具ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	橙（7.5YR7/6）	石英　長石　角閃石　雲母	良	1条の刻み目突帯文と突帯文あり　内面胴部に指頭圧痕あり　外面胴部に赤色顔料痕と黒斑あり　胴部に穿孔あり　2110±30年BP
300	217	口絵－9	10号甕棺墓	7区	SX-42	—	弥生土器	鉢	70.7			42.5			ナデ　ヨコナデ	ナデ　工具ナデ　ヨコナデ	橙（5YR7/6）	橙（2.5YR6/6）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	内面胴部に指頭圧痕あり　1条の突帯文あり　内、外面に黒斑あり　上甕
301	217	口絵－9	10号甕棺墓	7区	SX-42	—	弥生土器	甕	75.6	14.0	67.8	106.4			ヨコナデ　ナデ　ハケメ	ナデ	淡橙（5YR8/4）	橙（5YR7/6）	石英　長石　雲母	良好	須玖式甕棺　3条の突帯文あり　内、外面黒斑あり　下甕　2040±30年BP
302	219	291	11号甕棺墓	7区	SX-44	—	弥生土器	甕	26.0		22.0			20.4	ナデ　ハケメ　ヨコナデ	ナデ　ハケメ後ナデ　ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	橙（7.5YR7/6）	石英　長石　角閃石	良	内面底部に指頭圧痕あり　外面に黒斑あり　上甕
303	219	291	11号甕棺墓	7区	SX-44	—	弥生土器	壷	25.7	7.7	27.0	33.4			ヨコナデ　ハケメ後ミガキ　ハケメ　ナデ	ハケメ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	石英　長石　角閃石	良好	外面口縁部と胴部に赤色顔料痕あり　底部に黒斑あり　下甕
304	221	292	12号甕棺墓	8区	SX-50	—	弥生土器	甕		10.1	（40.0）			45.5	ヨコナデ　ハケメ　ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	1条の刻み目突帯文あり
305	223	294	13号甕棺墓	8区	SX-51	—	弥生土器	甕	30.2		45.1	61.2			調整不明	ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	石英　長石　角閃石	良好	1条の突帯文あり　外面胴部に黒斑あり　下甕
306	223	293	13号甕棺墓	8区	SX-51	—	弥生土器	甕		8.5				36.9	ナデ	ナデ	明赤褐（2.5YR5/8）	にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	1条の刻み目突帯文あり　外面胴部に黒斑あり　上甕
307	225	296	14号甕棺墓	8区	SX-57	—	弥生土器	甕	（26.2）	10.5	（42.1）	56.0			ヨコナデ　ミガキ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　茶褐色粒	良好	1条の突帯文と刻み目突帯文あり　外面胴部に黒斑、赤色顔料痕あり　下甕　2050±30年BP
308	226	295	14号甕棺墓	8区	SX-57	—	弥生土器	甕	（30.8）	11.2	（42.4）	53.2			調整不明	調整不明	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	石英　長石　角閃石　黒曜石　茶褐色粒	良好	1条の刻み目突帯文あり　外面胴部と口縁部に黒斑あり　上甕
309	230	300	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	台付坏	13.6	8.2		8.2			ヨコナデ　ハケメ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　雲母　角閃石	良好	
310	230	298	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	甕	16.6		25.3	30.2			ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ　調整不明	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	長石　雲母　角閃石　赤色粒	良	外面にスス付着　外面胴部に黒斑あり
311	230	299	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	甕	（13.8）		（22.2）	30.9			ナデ　ハケメ	ナデ　ケズリ	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/4）	石英　雲母　角閃石　褐色粒	良好	
312	230	298	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	甕	15.1		21.2	24.3			ヨコナデ　ハケメ　タタキ	ハケメ　ヘラケズリ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　赤色粒	良	外面にスス付着　内面頸部に指頭圧痕あり
313	230	299	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	甕	（13.9）		（19.3）			19.8	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ後ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　雲母	良好	外面胴部にスス付着　内面に指頭圧痕あり
314	231	299	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	甕	16.0		17.9			15.6	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい黄橙（10YR6/3）	灰黄褐（10YR6/2）	石英　長石　雲母　角閃石　赤色粒	良好	内面口縁部に黒斑あり　外面胴部と口縁部にスス付着
315	231	299	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	甕	（16.4）		（18.9）			16.5	ナデ　ハケメ	ナデ　ケズリ	灰黄（2.5Y7/2）	灰黄（2.5Y7/2）	石英　角閃石　褐色粒	良好	外面口縁部から胴部にかけて黒斑あり
316	231	299	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	甕	（16.2）		（20.6）			16.9	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ　ケズリ後ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　角閃石　赤褐色粒	良好	内面頸部に工具痕あり
317	231	299	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	甕	（16.0）		（19.4）			15.5	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ後ナデ　ケズリ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	外面胴部に黒斑あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
318	231	299	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	甕	(26.0)		(25.1)			17.2	ヨコナデ　ハケメ　ナデ	ヨコナデ　ヘラケズリ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英　長石　雲母　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	
319	231	299	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	甕	(20.4)					6.0	ハケメ後ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ヘラケズリ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英　長石　雲母　角閃石	良好	内、外面にスス付着　内面頸部に指頭圧痕あり
320	232	299	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	甕	(12.3)		(11.3)			6.9	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい褐(7.5YR5/4)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に黒斑あり
321	232	299	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	甕	(14.9)					6.3	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ケズリ後ナデ	にぶい黄橙(7.5YR7/3)	にぶい黄橙(7.5YR7/3)	石英　長石　角閃石	良好	内、外面に黒斑あり
322	232	298	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	壺	16.4		27.5	35.2			ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ　ナデ　ケズリ後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英　長石　雲母　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良	外面に黒斑あり　内面底部に指頭圧痕あり
323	232	298	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	壺	19.2		27.7	35.7			ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ケズリ	にぶい橙(7.5YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面胴部に黒斑、スス付着　底部に被熱による赤色化あり　内面口縁部に指頭圧痕あり
324	233		23号住居	1区	SI-01	—	土師器	壺	(14.3)					6.5	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ　ケズリ後ナデ	明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/6)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　内、外面頸部に指頭圧痕あり
325	233		23号住居	1区	SI-01	—	土師器	壺						11.8	ハケメ後ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ後ケズリ	浅黄橙(7.5YR8/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面口縁部と頸部に波状文あり　外面に黒斑あり　内面頸部に指頭圧痕と工具痕あり
326	233	300	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	甑	(15.8)			9.6			ナデ　ハケメ後ナデ	ナデ　ハケメ　ヘラケズリ　ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	長石　角閃石　赤色粒	良好	底部中央に穿孔あり　外面に黒斑あり
327	233	300	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	鉢	25.7					7.8	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/3)	長石　雲母　輝石　赤色粒	良	
328	233	300	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	甕	(11.4)		11.9	11.2			ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい橙(7.5YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/3)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面胴部に黒斑あり　胴部２ヶ所に穿孔あり
329	233	300	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	甕	11.7		13.2	11.5			ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良	外面胴部から底部にスス付着
330	233	300	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	甕	12.4		11.8	10.7			ナデ　ハケメ	ナデ　ハケメ後ナデ　ケズリ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	長石　雲母　角閃石　褐色粒	良好	
331	234		23号住居	1区	SI-01	—	土師器	小形丸底壺	(11.5)		(9.5)			6.2	ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ミガキ	ヨコナデ　ミガキ	にぶい褐(7.5YR6/3)	にぶい褐(7.5YR6/3)	石英　長石　角閃石　黒曜石	良好	外面口縁部に赤色顔料痕あり　外面底部に黒斑、指頭圧痕あり
332	234	300	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	小形丸底壺	10.2		8.7	6.1			ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英　長石　雲母　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	内面胴部にヘラ状工具痕あり
333	234		23号住居	1区	SI-01	—	土師器	小形丸底壺	(12.3)		(9.7)			7.0	ハケメ後ヨコナデ　ナデ　ケズリ	ハケメ後ヨコナデ　ナデ　ケズリ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	
334	234	300	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	小形丸底壺	13.1		9.5	9.2			ヨコナデ　ハケメ　調整不明	ヨコナデ　ハケメ　ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	石英　長石　雲母　角閃石　赤色粒	良好	外面底部に黒斑あり　内面口縁部に赤色顔料痕あり
335	234	300	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	小形丸底壺	12.4		8.6	8.7			ナデ　ハケメ　ハケメ後ナデ	ナデ　ハケメ後ナデ　ハケメ後ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	外面胴部に黒斑あり　内面に指頭圧痕あり
336	234	300	23号住居	1区	SI-01	—	土師器	小形「く」字口縁鉢	13.5		11.1	5.8			ヨコナデ　調整不明	ヨコナデ　ナデ	にぶい橙(7.5YR7/3)	明褐灰(7.5YR7/2)	長石　雲母　角閃石　赤色粒	良	
337	234	300	23号住居	1区	SI-01	—		手捏ね	4.8		5.5	5.3			ナデ	ナデ	燈(5YR6/6)	燈(5YR6/6)	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良	外面に指頭圧痕あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
339	236		24号住居	1区	SI-04	—	土師器	小形丸底壺	7.1		8.4	7.8			ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ　ヘラケズリ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	外面胴部に黒斑あり
340	238	301	25号住居	1区	SI-06	—	土師器	高坏	17.6	12.8		16.0			ナデ　ハケメ	ハケメ後ナデ　ナデ　ケズリ　ハケメ	褐灰（10YR4/1）	橙（7.5YR6/6）	石英　長石　雲母　角閃石　褐色粒	良好	外面口縁部に黒斑あり　外面に赤色顔料痕あり
341	238	301	25号住居	1区	SI-06	—	土師器	高坏	（15.8）					13.2	ヨコナデ　ハケメ　ナデ	ヨコナデ　ナデ　ケズリ	橙（5YR6/6）	にぶい橙（5YR6/4）	石英　長石　雲母　赤色粒	良	口縁部に黒斑あり　内、外面に赤色顔料痕あり
342	238	301	25号住居	1区	SI-06	—	土師器	甕	（16.2）		（19.1）	20.4			ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ケズリ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	
343	238	301	25号住居	1区	SI-06	—	土師器	甕	16.3					6.2	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい橙（7.5YR6/4）	角閃石	良好	口縁部にスス付着
344	238	301	25号住居	1区	SI-06	—	土師器	複合口縁壺	20.4					12.7	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	石英　長石　雲母　角閃石　褐色粒	良好	
345	238	301	25号住居	1区	SI-06	—	土師器	鉢	13.8			6.9			ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	有孔鉢　底部中央に焼成前に内側から開けた穿孔あり　工具痕あり　内、外面に指頭圧痕あり
346	238	301	25号住居	1区	SI-06	—	土師器	小形丸底壺	9.8		7.7	7.6			ヨコナデ　ハケメ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	灰黄（2.5YR6/2）	長石　雲母　角閃石　赤色粒	良	外面胴部に黒斑あり　内、外面に赤色顔料痕あり　内面に指頭圧痕あり
347	238	301	25号住居	1区	SI-06	—	土師器	小形丸底壺	（11.6）		（12.0）			9.8	ナデ　ハケメ後ナデ	ナデ　ハケメ後ナデ　ケズリ	黄褐（2.5Y5/3）	にぶい黄褐（10YR5/3）	石英　長石　雲母　角閃石　褐色粒	良好	内、外面に黒斑あり　外面にスス付着
348	238	301	25号住居	1区	SI-06	—	土師器	小形「く」字口縁鉢	（15.8）		（12.4）			7.9	ナデ　ハケメ	ナデ　ハケメ　ヨコナデ後ナデ	にぶい黄橙（10YR6/4）	黒（10YR2/1）	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	
349	238	301	25号住居	1区	SI-06	—	土師器	器台		（11.2）				6.6	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ナデ　ヨコナデ　ハケメ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	中央に穿孔あり　外面に工具痕あり
354	241	302	26号住居	1区	SI-08	—	土師器	高坏	19.5	12.2		13.9			ナデ　ヨコナデ	ナデ　ヨコナデ後ナデ　ヨコナデ	橙（5YR6/6）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　雲母　赤色粒	良好	内、外面にスス付着
355	241	302	26号住居	1区	SI-08	—	土師器	高坏	25.8					8.9	ナデ　ハケメ後ナデ	ナデ　ヨコナデ	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面の口縁部に指頭圧痕あり　外面口縁部にスス付着
356	241	302	26号住居	1区	SI-08	—	土師器	甕	（26.6）	（9.6）	（29.9）	24.4			ナデ　ハケメ後ナデ	ナデ　ハケメ　ケズリ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	石英　角閃石　黒曜石　褐色粒	良好	
357	241	302	26号住居	1区	SI-08	—	土師器	甕	（19.0）					7.0	ハケメ後ナデ　ハケメ	ハケメ　ケズリ	橙（7.5YR7/6）	にぶい黄橙（10YR6/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒　黒色粒	良好	外面に赤色顔料痕あり　内、外面に黒斑あり
358	241	302	26号住居	1区	SI-08	—	土師器	壺	16.4					10.2	ナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ナデ　ハケメ　ケズリ	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	石英　長石　雲母　角閃石　褐色粒	良好	内面胴部に指頭圧痕あり
359	241		26号住居	1区	SI-08	—	土師器	甕	（12.3）					5.6	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	浅黄橙（7.5YR8/6）	にぶい橙（5YR7/4）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
360	241	302	26号住居	1区	SI-08	—	土師器	壺	（18.0）					6.6	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	外面に赤色顔料痕あり　内、外面に黒斑あり
361	242	302	26号住居	1区	SI-08	—	土師器	壺	（13.8）					8.7	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ケズリ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	外面口縁部と胴部に黒斑あり
362	242	302	26号住居	1区	SI-08	—	土師器	甕	（14.8）					5.0	ハケメ後ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	内面口縁部付近に工具痕あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
364	242	302	26号住居	1区	SI-08	—	土師器	小形丸底壺	(10.8)		(7.4)	5.7			ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	褐灰（10YR5/1）	にぶい黄橙（10YR6/3）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	
365	242	302	26号住居	1区	SI-08	—	土師器	小形「く」字口縁鉢	15.0		12.5	7.7			ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	石英　長石　角閃石　黒曜石　赤色粒	良好	外面胴部に黒斑、内面胴部に工具痕あり
366	242	302	26号住居	1区	SI-08	—	土師器	小形「く」字口縁鉢	(11.4)		(8.6)	5.5			ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/4）	長石　雲母　角閃石　赤色粒　黒色粒	良	
370	244		27号住居	1区	SI-10	—	弥生土器	壺	(19.0)		(21.6)			16.8	ヨコナデ　ハケメ後ミガキ	ハケメ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	外面頸部に刻み目突帯文あり　内面に工具痕あり
371	244	304	27号住居	1区	SI-10	—	土師器	高坏	20.8					8.7	ハケメ後ヨコナデ	ハケメ後ヨコナデ　ナデ	赤（10R5/8）	橙（7.5YR7/6）	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	赤色顔料塗布　内面口縁部に黒斑あり
372	244	304	27号住居	1区	SI-10	—	土師器	高坏	(18.4)					9.6	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ　ケズリ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	長石　角閃石	良好	内、外面に黒斑あり
373	244	304	27号住居	1区	SI-10	—	土師器	高坏	20.2					6.5	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ後ナデ	浅黄橙（7.5YR8/6）	橙（7.5YR7/6）	石英　長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	
374	244	304	27号住居	1区	SI-10	—	土師器	甕	18.3		27.5			32.0	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ケズリ	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ケズリ	赤褐（2.5YR4/8）	赤褐（2.5YR4/8）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面胴部に黒斑あり　内、外面に赤色顔料痕あり
375	244	304	27号住居	1区	SI-10	—	土師器	甕	(13.5)		19.1	20.0			ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ケズリ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	外面底部に黒斑あり
376	245	304	27号住居	1区	SI-10	—	土師器	甕	(15.6)					8.6	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ケズリ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
377	245		27号住居	1区	SI-10	—	土師器	甕	(15.6)					6.9	ハケメ後ヨコナデ	ハケメ後ヨコナデ　ケズリ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　褐色粒	良好	内、外面に黒斑あり
378	245		27号住居	1区	SI-10	—	土師器	甕	(15.4)					6.0	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ　ケズリ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　褐色粒	良好	外面にスス付着　内面頸部に指頭圧痕あり
379	245	304	27号住居	1区	SI-10	—	土師器	台付小形丸底壺	(8.6)	10.2	11.2	15.0			ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ナデ　ケズリ後ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　雲母　角閃石　赤色粒	良好	内、外面胴部に指頭圧痕あり　内面台部に工具痕あり
380	245	304	27号住居	1区	SI-10	—	土師器	小形丸底壺	(8.9)		9.2	9.7			ハケメ後ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ　指ナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/2）	石英　長石　雲母　角閃石　黒曜石	良	
381	245	304	27号住居	1区	SI-10	—	土師器	小形丸底壺	(8.0)		(9.3)			9.2	ヨコナデ　ナデ　ハケメ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい橙（7.5YR7/3）	長石　雲母　角閃石　褐色粒	良	内、外面に黒斑あり　内面胴部に指頭圧痕あり
382	245	304	27号住居	1区	SI-10	—	土師器	小形丸底壺	(10.8)		(8.5)			6.5	ケズリ後ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい橙（7.5YR7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内面胴部に指頭圧痕と工具痕あり
383	245		27号住居	1区	SI-10	—	土師器	小形丸底壺	(12.4)		(12.3)			8.8	ヨコナデ	ナデ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	長石　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
384	245	304	27号住居	1区	SI-10	—	土師器	小形丸底壺	(9.1)		(10.0)			8.3	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	浅黄橙（10YR8/3）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石	良好	外面に赤色顔料痕あり
385	245	304	27号住居	1区	SI-10	—	土師器	鉢	7.4			4.6			ハケメ後ナデ　ハケメ	ハケメ　ケズリ後ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/4）	石英　長石　雲母　角閃石	良	内、外面に黒斑あり
392	248		28号住居	2区	SI-13	—	土師器	甕	(22.8)					10.4	ナデ　ハケメ後ナデ	ケズリ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　雲母　黒色粒　褐色粒	良好	外面頸部に３条の沈線あり
394	250	305	29号住居	2区	SI-14	—	土師器	坏	12.6			4.9			ナデ	ナデ	灰黄（2.5Y6/2）	にぶい黄（2.5Y6/3）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	内、外面に黒斑あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
395	250	305	29号住居	2区	SI-14	—	土師器	坏	(11.9)	(5.3)		3.9			ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
396	250	305	29号住居	2区	SI-14	—	須恵器	坏	(11.4)			4.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ	灰（7.5Y5/1）	灰（7.5Y5/1）	長石　黒色粒　褐色粒	良好	
397	250	305	29号住居	2区	SI-14	—	須恵器	坏	(14.3)	(5.4)		4.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ	灰（7.5Y6/1）	灰（7.5Y6/1）	長石　黒色粒　褐色粒	良好	外面全体に自然釉がかかる
398	250	305	29号住居	2区	SI-14	—	須恵器	坏	(11.5)					4.8	ヘラケズリ後ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	長石　角閃石　黒色粒	良好	外面胴部に黒斑あり
399	250	305	29号住居	2区	SI-14	—	須恵器	椀	14.5	8.8		6.7	1.0		回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　回転ナデ後ナデ	灰（5Y5/1）	灰（5Y5/1）	長石　黒色粒　褐色粒	良好	外面胴部に十字線刻あり
400	250	305	29号住居	2区	SI-14	—	須恵器	蓋	(14.0)					3.7	ヘラケズリ後ナデ　ヨコナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英	良好	
401	250	305	29号住居	2区	SI-14	—	土師器	甕	(22.3)		27.9	25.5			ナデ　ハケメ	調整不明　ケズリ	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面胴部にスス付着
402	250	305	29号住居	2区	SI-14	—	土師器	甕	(21.9)					7.6	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	橙（7.5YR6/6）	橙（7.5YR6/6）	長石　角閃石　黒色粒　赤褐色粒	良好	外面口縁部に指頭圧痕あり
403	250	305	29号住居	2区	SI-14	—	土師器	甕	(23.1)					8.3	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ	明黄褐（10YR7/4）	明黄褐（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり
406	252	306	30号住居	2区	SI-15	—	土師器	坏	(13.2)					4.5	ナデ　ケズリ	ナデ　ケズリ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり
407	252	306	30号住居	2区	SI-15	—	土師器	甕	(15.0)		(20.2)			12.2	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ヘラケズリ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	石英　長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	
408	252	306	30号住居	2区	SI-15	—	土師器	甕	20.8		21.9			11.8	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい橙（7.5YR7/6）	にぶい橙（7.5YR7/6）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面にスス付着
409	252	306	30号住居	2区	SI-15	—	土師器	甕	(16.8)					8.8	調整不明	調整不明	にぶい黄橙（10YR7/4）	浅黄橙（10YR8/3）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	
410	252	306	30号住居	2区	SI-15	—	土師器	甕	15.6		19.3			19.0	ヨコナデ　タタキ後ナデ　タタキ後ハケメ　ハケメ	ナデ　ハケメ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒	良好	外面にスス付着　外面胴部に被熱による赤色化あり
411	252	306	30号住居	2区	SI-15	—	土師器	鉢？	16.6					5.7	ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	石英　長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	内面に工具痕あり
412	252	306	30号住居	2区	SI-15	—	土師器	鉢	(14.0)					9.4	ナデ　ケズリ後ナデ	ケズリ	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	長石　角閃石　赤褐色粒　黒色粒	良好	内、外面に黒斑あり
413	252	306	30号住居	2区	SI-15	—	土師器	小形丸底壺	11.7		13.1	11.5			ヨコナデ　ケズリ後ナデ	ヨコナデ　ケズリ後ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	橙（7.5YR6/6）	石英　長石　雲母　片岩の礫　赤褐色粒	良好	底部に穿孔あり　内面胴部に指頭圧痕あり
414	254		31号住居	2区	SI-17	—	土師器	甕	(20.1)					9.8	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　褐色粒　黒色粒　赤褐色粒	良好	
415	256	308	32号住居	2区	SI-21	—	土師器	坏	14.1			6.0			ハケメ後ナデ　ナデ	ナデ	橙（5YR7/8）	橙（5YR7/8）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
416	256		32号住居	2区	SI-21	—	土師器	坏	(14.9)			6.0			ナデ　ハケメ後ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　褐色粒	良好	内、外面にスス付着

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
417	256	308	32号住居	2区	SI-21	—	土師器	坏	13.9			5.2			ヨコナデ　ナデ ヘラケズリ	ヨコナデ　ナデ	明赤褐 (5YR5/6)	橙 (5YR6/8)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　外面に黒斑あり
418	256		32号住居	2区	SI-21	—	土師器	坏	(13.6)			5.0			ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	長石　角閃石 褐色粒	良好	
419	256	308	32号住居	2区	SI-21	—	土師器	坏	15.0			5.7			ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ナデ	橙 (5YR6/8)	橙 (7.5YR6/6)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	
420	256	308	32号住居	2区	SI-21	—	土師器	坏	14.5			5.4			ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	橙 (5YR7/8)	橙 (5YR6/6)	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	
421	256		32号住居	2区	SI-21	—	土師器	坏	(15.0)			4.8			ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	長石　角閃石 褐色粒	良好	外面底部にスス付着　内面に黒斑あり　内、外面に被熱による赤色化あり
422	256	308	32号住居	2区	SI-21	—	土師器	坏	(15.8)					5.2	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	長石　角閃石 褐色粒	良好	
423	256	308	32号住居	2区	SI-21	—	土師器	坏	(16.0)	(7.2)		5.5			ナデ	ナデ	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	長石　角閃石 黒曜石　赤褐色粒	良好	外面底部にスス付着と被熱による赤色化がみられる
424	256	308	32号住居	2区	SI-21	—	土師器	坏	(13.9)	(3.6)		5.1			ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	
425	256	308	32号住居	2区	SI-21	—	土師器	坏	(14.7)			6.8			ケズリ後ナデ	ナデ　ケズリ後ナデ	明赤褐 (2.5YR5/8)	明赤褐 (2.5YR5/8)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	
426	256	308	32号住居	2区	SI-21	—	土師器	坏	15.4			5.1			ヨコナデ　ナデ	ナデ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	長石　角閃石 安山岩　赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり
427	256		32号住居	2区	SI-21	—	土師器	坏	(14.4)			6.3			ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	外面底部と内面胴部にスス付着 外面に被熱による赤色化あり
428	256		32号住居	2区	SI-21	—	土師器	坏	(14.9)			4.8			ヨコナデ　ケズリ後ナデ	ヨコナデ　ケズリ後ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	
429	256	308	32号住居	2区	SI-21	—	土師器	坏	13.5					5.7	ナデ　ケズリ後ナデ	ナデ　ケズリ後ナデ	浅黄橙 (10YR8/3)	橙 (7.5YR7/6)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	
430	256		32号住居	2区	SI-21	—	土師器	坏	(14.8)					4.8	ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	
431	257	307	32号住居	2区	SI-21	—	土師器	高坏	25.4					9.0	ナデ　ハケメ後ナデ	ナデ	橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/6)	長石　角閃石 褐色粒	良好	外面に黒斑あり
432	257	307	32号住居	2区	SI-21	—	土師器	甕	16.7		(24.3)			16.7	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい橙 (5YR7/4)	にぶい橙 (5YR7/4)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	内、外面にスス付着　内、外面胴部に被熱による赤色化あり
433	257	307	32号住居	2区	SI-21	—	土師器	甕	13.1		(21.4)			16.3	ヨコナデ　タタキ後ナデ	ヨコナデ　ヘラケズリ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	長石　角閃石 黒色粒　褐色粒	良好	口縁部に赤色顔料痕あり　外面胴部に黒斑あり　外面にスス付着
434	257	307	32号住居	2区	SI-21	—	土師器	甕	(17.6)					8.6	ヨコナデ　ハケメ	ケズリ後ナデ	赤褐 (2.5YR4/8)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	長石　角閃石 赤色粒	良好	外面に赤色顔料痕あり　内、外面に黒斑あり
435	257		32号住居	2区	SI-21	—	土師器	小形丸底壺	(10.1)		(11.0)	6.7			ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	外面底部に黒斑あり　外面口縁部に赤色顔料痕あり
436	257	308	32号住居	2区	SI-21	—	土師器	小形丸底壺	(6.8)		9.2			8.8	ハケメ後ナデ	ナデ	にぶい橙 (5YR7/4)	にぶい橙 (5YR7/4)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	内面に指頭圧痕あり
437	257	307	32号住居	2区	SI-21	—	土師器	壺	(10.5)					8.1	ナデ　ハケメ後ナデ	ナデ　ケズリ	橙 (7.5YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	長石　角閃石 黒曜石　赤褐色粒	良好	長頸壺　内面に黒斑あり
438	257		32号住居	2区	SI-21	—		手捏ね	2.6			2.2			ナデ	ナデ	明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	
441	260	309	33号住居	6区	SI-26 ②	—	土師器	高坏	(21.0)	(11.8)		13.5			ヨコナデ　ハケメ　ナデ	ヨコナデ　ハケメ　ケズリ	橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/6)	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
442	260	309	33号住居	6区	SI-26 ②	—	土師器	高坏						10.7	ヨコナデ	調整不明　ケズリ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	暗灰 (N 3/0)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	内面脚部に黒斑あり
443	260	309	33号住居	6区	SI-26 ②	—	土師器	甕	17.1		23.2	27.1			ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	長石　角閃石 褐色粒	良好	外面胴部に黒斑、スス付着　外面底部に被熱による赤色化あり
444	260	309	33号住居	6区	SI-26 ②	—	土師器	甕	17.5		22.0	24.0			ヨコナデ　ハケメ	ハケメ後ナデ ケズリ	にぶい赤褐 (5YR4/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	長石　角閃石 黒曜石　赤色粒	良好	外面胴部にスス付着、黒斑あり 外面底部に被熱による赤色化あり
445	260	309	33号住居	6区	SI-26 ②	—	土師器	甕	(14.5)		(20.0)			14.8	ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　指押さえ後ハケメ ケズリ	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	口縁端部に沈線状の凹みあり
446	260	309	33号住居	6区	SI-26 ②	—	土師器	甕	(19.2)					7.9	ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ハケメ後ヨコナデ　ハケメ　ケズリ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	明褐 (7.5YR5/6)	石英　長石　雲母　角閃石	良好	
447	260	309	33号住居	6区	SI-26 ②	—	土師器	甕	(14.7)					6.3	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	長石　角閃石 赤色粒	良好	
448	261	309	33号住居	6区	SI-26 ②	—	土師器	壺	(16.1)		15.4	18.7			ハケメ後ヨコナデ　ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ハケメ後ヨコナデ　ケズリ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	石英　長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	長頸壺　外面胴部に黒斑あり　口縁部にわずかに赤色顔料痕あり 内面頸部に指頭圧痕あり
449	261	309	33号住居	6区	SI-26 ②	—	土師器	壺	15.7					8.3	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ハケメ後ヨコナデ　ヨコナデ　ケズリ	橙 (5YR6/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	口縁端部に黒斑あり
450	261	309	33号住居	6区	SI-26 ②	—	土師器	壺			(31.0)			15.2	ハケメ後ナデ	ケズリ	橙 (7.5YR7/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
451	261	309	33号住居	6区	SI-26 ②	—	土師器	小形丸底壺	7.5		7.6	7.9			ハケメ後ナデ	ケズリ	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英　長石　角閃石	良	外面に黒斑あり
452	261	309	33号住居	6区	SI-26 ②	—	土師器	小形丸底壺	(8.8)		8.7	8.8			ヨコナデ　ナデ後ハケメ	ヨコナデ　ケズリ　ナデ	浅黄橙 (10YR8/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英　長石　角閃石	良好	外面に赤色顔料痕あり
453	261	309	33号住居	6区	SI-26 ②	—	土師器	小形丸底壺	(9.5)		(10.5)			6.2	ハケメ後ナデ	ハケメ　ケズリ	褐灰 (7.5YR4/1)	褐 (7.5YR4/3)	長石　角閃石	良好	内面胴部に指頭圧痕あり
454	261	309	33号住居	6区	SI-26 ②	—	土師器	器台		6.2				6.2	ハケメ後ヨコナデ　ハケメ　ハケメ後ナデ	ナデ　ケズリ　ハケメ	灰白 (10YR8/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	石英　長石　雲母　角閃石	良好	脚部に穿孔４ヶ所あり　脚部に黒斑あり　内面に指頭圧痕あり
455	261	309	33号住居	6区	SI-26 ②	—		手捏ね	5.2			3.9			ナデ	ナデ	橙 (7.5YR7/6)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英　長石　雲母　角閃石	良好	内、外面に指頭圧痕、黒斑あり
463	264	310	34号住居	6区	SI-27	—	土師器	坏	8.6			5.2			ハケメ　ケズリ	ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	外面口縁部に指頭圧痕あり　内面に工具痕あり　内、外面に黒斑あり
464	264	310	34号住居	6区	SI-27	—	土師器	坏	13.8			6.3			ヨコナデ　ケズリ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英　長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	内、外面に黒斑あり　内面口縁部に工具痕あり
465	264	310	34号住居	6区	SI-27	—	土師器	坏	15.5			4.3			ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	外面底部に黒斑あり
466	264	310	34号住居	6区	SI-27	—	土師器	高坏	14.7					5.3	ヨコナデ　ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英　長石　白雲母	良	外面坏部に黒斑あり
467	264	310	34号住居	6区	SI-27	—	土師器	甕	16.0		(19.8)			11.2	ヨコナデ　ヨコナデ後ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒　黒色粒	良好	内、外面に黒斑あり
468	264	310	34号住居	6区	SI-27	—	土師器	甕			(22.8)			26.7	ナデ　ハケメ	ナデ　ケズリ	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	長石　角閃石 黒曜石　褐色粒	良好	外面胴部に黒斑あり　底部に被熱による赤色化あり　沈線あり　内面底部に指頭圧痕あり
469	264	310	34号住居	6区	SI-27	—	土師器	壺	17.8		26.4	33.5			ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ　ケズリ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英　長石　角閃石	良好	外面に黒斑あり　内面に指頭圧痕あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
470	265		34号住居	6区	SI-27	—	土師器	壺		(12.3)				19.2	ナデ	ケズリ後ナデ ケズリ後ヨコナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	内面底部に黒斑あり
471	265	310	34号住居	6区	SI-27	—	土師器	「く」字口縁鉢	16.0			6.9			ナデ　ケズリ	ナデ　ハケメ	にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英　長石　角閃石　褐色粒	良	外面に黒斑あり　口縁部に沈線あり
472	265	310	34号住居	6区	SI-27	—	土師器	小形丸底壺	16.0		(10.3)	11.2			ナデ後ミガキ ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/3)	明赤褐 (5YR5/6)	長石　角閃石	良	内、外面口縁部に黒斑あり
473	265	310	34号住居	6区	SI-27	—	土師器	小形丸底壺	9.6		6.6	5.8			ハケメ後ミガキ ナデ	ハケメ後ミガキ ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	長石　角閃石　赤褐色粒	良	
474	265	310	34号住居	6区	SI-27	—	土師器	小形丸底壺	11.8		13.9			10.5	ヨコナデ	ヨコナデ　ケズリ	橙 (5YR7/8)	橙 (5YR7/8)	石英　長石　角閃石　黒色粒	良好	
475	265	310	34号住居	6区	SI-27	—	土師器	器台	8.7	10.2		7.6			ナデ	ナデ　ハケメ後ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英　長石　黒色粒	良好	穿孔が２ヶ所あり
476	265	310	34号住居	6区	SI-27	—	土師器	器台	(10.0)					2.8	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	雲母　角閃石　褐色粒	良好	外面坏部に黒斑あり
479	267	311	35号住居	6区	SI-28	—	土師器	坏	10.5			3.0			ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面底部に黒斑あり
480	267	311	35号住居	6区	SI-28	—	土師器	甕	(20.8)					7.8	ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ハケメ後ヨコナデ　ケズリ	にぶい褐 (7.5YR6/3)	灰褐 (7.5YR5/2)	長石　角閃石	良好	
481	267	311	35号住居	6区	SI-28	—	土師器	甕	(12.2)		(13.0)			8.9	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ ケズリ	にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	長石　角閃石 褐色粒	良好	外面口縁部に指頭圧痕あり　外面に黒斑あり
482	267	311	35号住居	6区	SI-28	—	土師器	壺	(12.0)					6.7	ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ナデ後ハケメ	ヨコナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英　長石　雲母　赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり　短頸壺
483	267	311	35号住居	6区	SI-28	—	弥生土器	壺			(30.2)			17.7	ナデ後ミガキ ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	黄灰 (2.5Y5/1)	石英　雲母　赤褐色粒　黒色粒	良好	胴部に１条の沈線あり
484	267		35号住居	6区	SI-28	—	弥生土器	壺		(6.0)				6.0	ナデ後ミガキ	ナデ	にぶい橙 (5YR7/4)	褐灰 (7.5YR4/1)	石英　雲母　角閃石　赤褐色粒　黒色粒	良好	外面底部に黒斑あり
485	267	311	35号住居	6区	SI-28	—	土師器	複合口縁壺	(23.8)					14.5	ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ　ナデ ハケメ後ナデ ケズリ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英　長石　角閃石	良好	頸部に工具による沈線文様あり
486	268	311	35号住居	6区	SI-28	—	土師器	甕	11.5		11.7	9.3			ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英　長石　角閃石	良好	外面胴部に黒斑あり　内面に指頭圧痕あり
487	268		35号住居	6区	SI-28	—	土師器	甕	(10.0)					3.9	ヨコナデ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	内面に指頭圧痕あり
488	268		35号住居	6区	SI-28	—	土師器	小形「く」字口縁鉢	(15.8)		(12.8)			5.2	ハケメ後ヨコナデ	ハケメ後ヨコナデ	橙 (7.5YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面口縁部に指頭圧痕あり
489	268		35号住居	6区	SI-28	—	土師器	器台	9.3					2.8	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	
497	271		36号住居	7区	SI-33	—	土師器	小形「く」字口縁鉢	(12.2)		(9.6)			5.0	ハケメ後ナデ	ヨコナデ	橙 (5YR6/8)	橙 (5YR6/8)	長石　角閃石 黒曜石　赤褐色粒　黒色粒	良好	外面に赤色顔料痕あり
498	273	312	37号住居	7区	SI-34	—	土師器	高坏	20.5	13.4		14.6			ハケメ後ナデ ミガキ	ハケメ後ナデ ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英　長石　赤褐色粒	良好	内面に黒斑あり　脚部に穿孔４ヶ所あり
499	273	312	37号住居	7区	SI-34	—	土師器	高坏	(19.8)					8.5	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ	ハケメ後ヨコナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面に指頭圧痕あり　外面に黒斑あり
500	273	312	37号住居	7区	SI-34	—	土師器	甕	16.9		20.5			22.2	ヨコナデ　ハケメ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ケズリ	灰褐 (7.5YR4/2)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	石英　角閃石	良好	内、外面にスス付着　胴部に被熱による赤色化あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
501	273	312	37号住居	7区	SI-34	—	土師器	甕	13.2		(16.0)			12.5	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/3）	石英　長石　雲母　褐色粒	良好	
502	273	312	37号住居	7区	SI-34	—	土師器	鉢	16.2					6.9	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面口縁部に黒斑あり　内、外面に赤色顔料痕あり
505	275	313	38号住居	7区	SI-36	—	土師器	坏		3.8				3.1	板状工具によるケズリ状のナデ	板状工具によるケズリ状のナデ後ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	長石　角閃石　黒曜石	良好	外面胴部に黒斑あり
506	275	313	38号住居	7区	SI-36	—	土師器	器台		(12.0)				8.0	ハケメ後ヨコナデ	ケズリ後ナデ　ハケメ後ナデ	橙（7.5YR7/6）	浅黄橙（7.5YR8/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
507	275		38号住居	7区	SI-36	—	土師器	複合口縁壺	(16.0)					6.0	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ	ハケメ後ヨコナデ　ヨコナデ　ナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
508	275	313	38号住居	7区	SI-36	—	土師器	複合口縁壺	(15.9)					6.1	ナデ　ハケメ後ヨコナデ	ハケメ後ヨコナデ　ケズリ後ナデ　ケズリ	明赤褐（2.5YR5/6）	橙（2.5YR6/6）	石英　長石　雲母　黒曜石	良好	外面口縁部に黒斑あり
509	275	313	38号住居	7区	SI-36	—	土師器	鉢	16.0					7.3	ケズリ後ナデ　ケズリ後ハケメ	ケズリ　ケズリ後ハケメ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
510	275	313	38号住居	7区	SI-36	—	土師器	小形丸底壺	8.9		8.8	7.4			ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ後ケズリ	ハケメ後ナデ　指ナデ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面胴部に指頭圧痕あり
511	275	313	38号住居	7区	SI-36	—	土師器	小形丸底壺			8.8			4.8	ヨコナデ　ヘラケズリ後ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	外面胴部に黒斑あり
512	275	313	38号住居	7区	SI-36	—		手捏ね	2.6	2.7		3.2			ハケメ後ナデ　ナデ	ケズリ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面底部に黒斑あり
515	277	314	39号住居	7区	SI-37	—	土師器	甕	15.7		21.8	25.7			ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	浅黄橙（7.5YR8/6）	橙（7.5YR7/6）	石英　長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	被熱による赤色化あり　外面胴部から底部にかけスス付着
516	277	314	39号住居	7区	SI-37	—	土師器	甕	13.2		13.9	17.2			ナデ　タタキ後ナデ	ヨコナデ　ヘラケズリ	橙（7.5YR6/6）	にぶい橙（7.5YR6/4）	長石　角閃石　赤褐色粒　黒色粒	良好	底部に被熱による赤色化あり　スス付着　外面に黒斑あり
517	277	314	39号住居	7区	SI-37	—	土師器	複合口縁壺	16.0					16.0	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	橙（7.5YR6/6）	橙（7.5YR6/6）	長石　角閃石	良好	山陰系土器
518	277	314	39号住居	7区	SI-37	—	土師器	鉢	(13.0)			7.3			ナデ　ケズリ	ハケメ後ナデ　ナデ	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	
519	279		40号住居	7区	SI-38	—	土師器	鉢？						5.5	ヨコナデ　ヨコナデ後ナデ	ヨコナデ　ヨコナデ後ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石	良好	内、外面に黒斑あり
520	281	315	41号住居	8区	SI-41	—	土師器	高坏		(12.6)				9.3	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ　ヘラケズリ	にぶい橙（7.5YR7/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	脚部に赤色顔料痕あり　脚部に穿孔４ヵ所あり
521	281	315	41号住居	8区	SI-41	—	土師器	高坏	(14.4)	(8.2)		10.7			ヨコナデ　ハケメ　ハケメ後ナデ	ハケメ　ハケメ後ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　黒曜石　茶褐色粒	良好	
522	281	315	41号住居	8区	SI-41	—	土師器	甕	(15.2)					6.9	ヨコナデ　タタキ	ハケメ　ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	浅黄（2.5Y7/3）	石英　角閃石	良	
523	281	315	41号住居	8区	SI-41	—	土師器	甕						11.0	ハケメ　調整不明	ナデ	灰白（2.5YR8/2）	灰白（2.5YR8/2）	石英　長石	不良	
524	281		41号住居	8区	SI-41	—	土師器	甕						3.3	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	褐灰（7.5YR4/1）	長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	内、外面口縁部にスス付着
525	281		41号住居	8区	SI-41	—	土師器	甕						10.6	タタキ後ハケメ	ケズリ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	長石　角閃石　褐色粒	良好	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
526	281		41号住居	8区	SI-41	—	土師器	壺						5.6	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ	明赤褐（5YR5/6）	明赤褐（5YR5/6）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	内、外面口縁部にスス付着
527	281	318	41号住居	8区	SI-41	—	土師器	複合口縁壺						5.1	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ　ヨコナデ	浅黄橙（10YR8/3）	暗灰（N 3/0）	長石　角閃石	良好	頸部に刻み目突帯文あり
528	281	317	41号住居	8区	SI-41	—	土師器	複合口縁壺						3.4	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	灰黄（2.5Y7/2）	長石　角閃石　黒曜石	良好	口縁部に浮文あり
529	283	316 319	42号住居	8区	SI-45	—	土師器	坏	11.0	8.0		4.7			ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	底部に葉脈の圧痕あり　内面に工具痕あり　外面に黒斑あり
530	283	319	42号住居	8区	SI-45	—	土師器	甕	（14.8）		（19.3）			18.1	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ後ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/4）	石英　長石　雲母	良	口縁部にスス付着　外面胴部に黒斑あり　３条の凹線あり
533	285	319	43号住居	2区	SI-24	—	土師器	坏	12.9			4.4			ヘラケズリ後ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	石英　長石　雲母　赤褐色粒	良好	
534	285	319	43号住居	2区	SI-24	—	須恵器	坏	（11.7）	（7.7）		3.2			回転ナデ　回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰（N 6/0）	灰（N 6/0）	長石　黒色粒	良好	
535	285	319	43号住居	2区	SI-24	—	須恵器	蓋						2.5	回転ヘラケズリ	ナデ　回転ナデ	褐灰（10YR6/1）	褐灰（10YR6/1）	長石　黒色粒　褐色粒	良好	外面に自然釉がかかる
536	287	320	65号土坑	2区	SK-21	—	弥生土器	壺						9.2	ハケメ後ナデ	ナデ	灰白（5Y8/2）明赤褐（5YR5/6）	灰白（5Y8/2）明赤褐（5YR5/6）	長石　角閃石　黒色粒	良好	内、外面に赤色顔料塗布　頸部に1条の突帯文あり　丹塗り土器
537	289	320	66号土坑	7区	SK-31	—	弥生土器	高坏						9.4	ハケメ後ナデ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）赤褐（2.5YR4/8）	浅黄橙（7.5YR8/4）赤褐（2.5YR4/8）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
538	289	320	66号土坑	7区	SK-31	—	弥生土器	甕	（21.2）					7.0	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	橙（5YR6/6）	明黄褐（10YR7/6）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒　黒色粒	良好	内面口縁部に指頭圧痕あり
539	289	320	66号土坑	7区	SK-31	—	弥生土器	甕	（20.3）					9.0	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ミガキ	ハケメ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒　黒色粒	良好	
540	291	323	67号土坑	1区	SK-01	—	弥生土器	壺	10.6		（14.8）			8.5	ヨコナデ　ハケメ後ミガキ	ヨコナデ　ナデ	橙（5YR6/6）赤（10R5/6）	橙（5YR6/6）赤（10R5/6）	石英　長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	内、外面に黒斑あり　内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
541	291	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	台付坏	（13.4）	8.4		8.6			ヨコナデ	ヨコナデ　ケズリ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	外面底部に指頭圧痕あり　内面底部に黒斑あり
542	291	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	?						4.1	ハケメ　ナデ	ナデ　工具によるナデ	明赤褐（2.5YR5/6）	明赤褐（2.5YR5/6）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり
543	291	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	15.8		21.9	25.9			ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	橙（5YR6/8）	橙（5YR6/8）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	胴部に１条の沈線あり　胴部に黒斑あり　スス付着
544	291	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	（17.2）		（23.4）	29.4			ナデ　ハケメ	ナデ　ケズリ	灰白（2.5YR8/2）	淡黄（2.5Y8/3）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	外面胴部と底部に黒斑あり
545	291	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	（16.4）		（20.4）	22.9			ヨコナデ　ハケメ後　ナデ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（5YR6/4）	石英　長石　雲母	良好	内、外面に黒斑あり
546	291	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	（10.2）		（11.9）	11.3			ナデ　ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ナデ　ケズリ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　雲母　角閃石	良好	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
547	292	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	(15.8)		(19.1)	20.8			ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ヘラケズリ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　雲母　角閃石　黒曜石　黒色粒　褐色粒	良好	外面胴部に黒斑、底部にかけてスス付着　内面底部に指頭圧痕あり
548	292	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	17.3		19.5			16.3	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ケズリ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/3）	石英　長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒　黒色粒	良好	外面胴部に黒斑あり　内面頸部に指頭圧痕あり
549	292	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	17.3		(20.3)			13.9	ナデ　ハケメ	ナデ　ケズリ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	石英　長石　角閃石	良好	口縁部に１条の沈線あり
550	292	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	(14.9)					9.5	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ケズリ後ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面にスス付着
551	292	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	(13.6)					8.4	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ケズリ後ナデ	橙（5YR6/8）	橙（5YR6/8）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	
552	292	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	(15.0)		(17.1)			12.0	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面胴部に黒斑あり
553	292	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	(16.3)					12.0	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ヨコナデ後ケズリ	灰白（5Y8/2）	灰白（5Y8/2）	石英　角閃石　黒色粒　赤褐色粒	良好	外面胴部にスス付着
554	292	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	14.8		(18.5)			10.6	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ナデケズリ	黒褐（2.5Y3/1）	黒褐（2.5Y3/1）	長石　雲母　角閃石　赤色粒	良	
555	293	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	(15.8)		(20.0)			12.0	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい橙（7.5YR7/3）	明褐灰（7.5YR7/2）	石英　長石　雲母　角閃石　褐色粒	良	胴部に波状文と２条の沈線あり
556	293	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	(15.6)					11.6	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ナデケズリ	灰白（10YR7/2）	灰黄褐（10YR5/2）	長石　角閃石　赤色粒	良好	外面胴部に波状文あり　内面頸部に指頭圧痕あり
557	293	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	(18.0)		(21.0)			24.3	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/4）	石英　長石　雲母　角閃石	良好	外面胴部にスス付着
558	293	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	(15.4)		19.1			18.6	ナデ　ハケメ後ナデ　ヨコナデ　タタキ　ハケメ　ナデ	ナデ　ハケメ後ナデ　ハケメ　ケズリ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面胴部に黒斑あり
559	293	322	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	(15.6)					7.7	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ケズリ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石	良好	内面口縁部に工具痕あり
560	293	321	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	壺	16.3		(25.7)			20.6	ハケメ後ナデ　タタキ後ハケメ　ハケメ	ハケメ後ヨコナデ　ヘラケズリ	橙（5YR6/6）　明赤褐（10YR7/6）	明赤褐（5YR5/6）	石英　長石　角閃石　赤色粒	良好	外面口縁部に工具痕あり　外面口縁部と胴部に黒斑あり　内面頸部に指頭圧痕あり
561	294	321	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	複合口縁壺	22.3		(30.6)			30.5	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　タタキ後ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ハケメ	橙（5YR6/6）	暗灰（N 3/0）	石英　長石　角閃石	良	外面に黒斑あり　外面胴部に赤色顔料痕あり
562	294		67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	複合口縁壺		5.6	34.5			29.0	タタキ後ハケメ　ハケメ後ナデ　ナデ	ハケメ　ケズリ	橙（5YR7/8）	暗灰（N 3/0）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	外面胴部に黒斑あり
563	295	321	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	壺	(16.0)		22.2	25.4			ヨコナデ　ミガキ　ハケメ　ナデ後ミガキ	ヨコナデ　ミガキ　ナデ　ケズリ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	石英　長石　雲母　角閃石	良好	長頸壺

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
564	295	321	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	複合口縁甕	22.0		22.3			19.1	回転ヨコナデ ハケメ	回転ヨコナデ ケズリ ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英 長石 雲母 角閃石 赤褐色粒	良好	外面胴部と底部に黒斑あり 内面底部に指頭圧痕あり
565	295	321	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	複合口縁甕	32.5		31.1	26.9			回転ナデ ハケメ後ヨコナデ ハケメ	回転ヨコナデ ケズリ後ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英 長石 雲母 角閃石	良好	外面に黒斑あり 外面に赤色顔料痕あり 穿孔あり
566	296	321 327	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	複合口縁壺	(15.4)		(32.0)			26.1	回転ヨコナデ ナデ ハケメ後ナデ タタキ後ハケメ	回転ヨコナデ ハケメ後ヨコナデ ケズリ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	石英 長石 雲母 角閃石 褐色粒	良好	外面口縁部に黒斑あり 胴部に波状沈線と２条の沈線あり 内面に指頭圧痕あり
567	296	321 326	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	複合口縁壺	(17.7)					19.0	回転ヨコナデ ハケメ後ナデ ハケメ	回転ヨコナデ ケズリ後ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英 長石 角閃石 赤褐色粒	良好	外面頸部に４条の波状沈線あり 外面胴部に黒斑あり
568	296	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	鉢	8.8			4.6			ナデ	ナデ ミガキ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	橙 (5YR7/6)	石英 長石 角閃石	良	
569	296	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	鉢	(22.6)			8.5			ナデ ハケメ	ナデ ハケメ後ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英 長石 角閃石 褐色粒	良好	胴部と底部にスス付着
570	296	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	小形丸底壺	13.7		(9.4)	7.6			ヨコナデ ナデ ハケメ	ヨコナデ ハケメ ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英 長石 雲母 角閃石 褐色粒	良	外面に黒斑あり
571	296	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	小形丸底壺	11.9		9.0	5.8			ヨコナデ ハケメ	ヨコナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	長石 角閃石 赤褐色粒	良好	外面胴部に赤色顔料痕あり 外面口縁部にスス付着
572	296	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	小形丸底壺	(10.1)		(8.2)			6.8	ヨコナデ ケズリ後ナデ	ヨコナデ ケズリ	褐 (10YR4/6)	黒 (10YR7/1)	石英 長石 角閃石	良好	内、外面に黒斑あり 内面に工具痕あり
573	297	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	小形丸底壺	13.8		12.3	9.6			ナデ ハケメ後ナデ ハケメ	ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英 長石 角閃石 褐色粒 黒色粒	良好	外面に黒斑あり
574	297	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	小形丸底壺	(11.7)		(11.0)	6.9			ヨコナデ ハケメ	ヨコナデ ハケメ ミガキ	明褐灰 (7.5YR7/2)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	長石 角閃石	良好	外面に黒斑あり
575	297	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	小形丸底壺	12.0		11.1	8.0			ヨコナデ ハケメ	ヨコナデ ハケメ ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英 長石 雲母 角閃石 赤色粒	良	
576	297	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	小形丸底壺	(11.5)		(9.3)			6.2	ヨコナデ ハケメ ハケメ後ナデ	ヨコナデ ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	石英 長石 角閃石 黒曜石 赤褐色粒	良好	内面に指頭圧痕あり
577	297	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	甕	(11.8)					4.8	ヨコナデ ハケメ	ヨコナデ	にぶい橙 (7.5YR6/3)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	長石 角閃石 赤色粒	良好	外面に黒斑あり
578	297	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	小形丸底鉢	13.7			6.0			ナデ ケズリ後ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英 長石	良好	内、外面に黒斑あり 外面胴部から底部に工具痕あり
579	297	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	小形丸底鉢	(11.0)					7.3	ヨコナデ ハケメ後ヨコナデ ハケメ	ヨコナデ ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英 長石 角閃石	良好	外面に黒斑あり
580	297	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	小形丸底鉢	10.3			5.6			ハケメ後ナデ	ハケメ ナデ後ミガキ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英 長石 雲母 角閃石 黒色粒 赤褐色粒	良好	内面に黒斑あり
581	297	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	小形丸底鉢	(14.0)					5.9	ヨコナデ ハケメ後ナデ	ヨコナデ ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	長石 角閃石 赤褐色粒	良好	
582	297	323	67号土坑	1区	SK-01	—	土師器	器台	(9.2)	(12.5)		8.1			ヨコナデ ハケメ後ナデ ナデ	ヨコナデ ケズリ ハケメ後ナデ	橙 (2.5YR6/8)	橙 (2.5YR6/8)	石英 長石 角閃石	良好	脚部に穿孔４ヶ所あり
583	297	323	67号土坑	1区	SK-01	—		手捏ね	(5.2)	(2.2)		1.3			ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	石英 長石 角閃石	良好	内、外面に指頭圧痕あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
585	299	324	68号土坑	2区	SK-19	—	土師器	坏	11.3			3.0			ケズリ後ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）明赤褐（2.5YR5/6）	にぶい橙（7.5YR7/4）明赤褐（2.5YR5/6）	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料塗布
586	299	324	68号土坑	2区	SK-19	—	土師器	坏	14.4			6.2			ヨコナデ　ケズリ後ナデ　ケズリ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　角閃石　褐色粒	良好	内、外面に被熱による赤色化あり　内、外面にスス付着　外面底部にヘラ記号あり
587	299	324	68号土坑	2区	SK-19	—	土師器	台付坏	15.7	11.0		10.0			ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	橙（7.5YR6/6）	にぶい橙（7.5YR7/3）	長石　角閃石　黒色粒　赤褐色粒　褐色粒	良好	脚部に穿孔３ヵ所あり
588	299	324	68号土坑	2区	SK-19	—	土師器	甕	15.1					11.0	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ケズリ	明赤褐（5YR5/6）	橙（5YR6/6）	長石　角閃石　黒曜石　褐色粒	良好	内、外面に黒斑あり　内、外面にスス付着
589	299	324	68号土坑	2区	SK-19	—	土師器	甕	（15.0）		（15.0）			7.0	ヨコナデ　調整不明	ヨコナデ　ケズリ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　褐色粒	良好	内面口縁部に黒斑あり
590	299	324	68号土坑	2区	SK-19	—	土師器	甕	（18.0）					6.4	ヨコナデ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	内面にスス付着
591	299	324	68号土坑	2区	SK-19	—	土師器	甕	（16.5）					7.9	ヨコナデ　ヨコナデ後ナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ケズリ	橙（7.5YR7/6）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒	良好	外面にスス付着
592	299	324	68号土坑	2区	SK-19	—	土師器	甕	17.3					6.0	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面にスス付着
593	300	324	68号土坑	2区	SK-19	—	土師器	壺	（14.1）		28.1			23.3	ヨコナデ　ナデ　タタキ後ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	肩部に波状文あり　内、外面に黒斑あり　内、外面に赤色顔料痕あり
594	300	324	68号土坑	2区	SK-19	—	土師器	壺	（17.2）		27.7			21.5	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ケズリ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	長頸壺　肩部に波状文あり　内、外面に黒斑あり
595	300	324	68号土坑	2区	SK-19	—	土師器	壺	18.3					14.6	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ケズリ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒　黒色粒	良好	長頸壺
596	300		68号土坑	2区	SK-19	—	土師器	壺	（16.1）					7.5	ヨコナデ後ナデ	ヨコナデ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	長頸壺　内、外面に赤色顔料痕あり
597	301	324 328	68号土坑	2区	SK-19	—	土師器	複合口縁壺	（27.0）					10.1	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ナデ　ハケメ	黄橙（7.5YR7/8）	橙（7.5YR6/6）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	頸部に鋸歯状突帯文あり　内面頸部に指頭圧痕あり　口縁部にスス付着
598	301	324	68号土坑	2区	SK-19	—	土師器	複合口縁壺	（18.6）					9.0	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒　黒色粒	良好	内面に黒斑あり
599	301	324	68号土坑	2区	SK-19	—	土師器	小形丸底鉢	（16.2）					10.0	ヨコナデ	ケズリ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面にスス付着　内、外面に黒斑あり　外面底部に被熱による赤色化あり
600	301		68号土坑	2区	SK-19	—	須恵器	はそう			（11.1）			7.4	ヨコナデ　ヘラケズリ　ナデ	ヨコナデ　ケズリ後ヨコナデ	灰（N 6/0）	灰（N 6/0）	長石	良好	外面胴部に櫛描波状文あり
601	301	324	68号土坑	2区	SK-19	—		手捏ね	3.3			2.7			ナデ	ナデ	明褐（7.5YR5/6）	橙（7.5YR6/6）	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒	良好	口縁部に指頭圧痕あり　内、外面に黒斑あり
602	301	329	68号土坑	2区	SK-19	—		手捏ね	2.8	2.6		3.4			ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい褐（7.5YR6/4）	長石　角閃石　褐色粒	良好	ミニチュア器台　外面に２条の沈線あり
605	303	325	69号土坑	6区	SK-27	—	土師器	「く」字口縁鉢	15.3			7.0			ナデ　ハケメ　ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	外面底部に黒斑あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
606	305		70号土坑	7区	SK-36	—	土師器	高坏	18.3					6.0	ハケメ後ヨコナデ	ハケメ後ヨコナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
607	305		70号土坑	7区	SK-36	—	土師器	小形丸底壺						4.4	ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ	橙（5YR7/6）	橙（5YR7/6）	長石　角閃石	良好	
608	308	330	5号溝	7区	SD-09	—	土師器	甕	（15.6）		（23.3）	27.4			ヨコナデ　タタキ後ハケメ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内面に指頭圧痕あり　外面胴部に黒斑あり
609	308	330	5号溝	7区	SD-09	—	土師器	甕	（16.6）		（21.7）			22.0	ヨコナデ　タタキ後ハケメ	ヨコナデ　ヨコナデ後ケズリ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	被熱による赤色化あり　外面にスス付着
610	308	330	5号溝	7区	SD-09	—	土師器	甕						23.8	ハケメ	ケズリ	浅黄橙（7.5YR8/3）	褐灰（10YR6/1）	長石　角閃石	良好	
611	308	330	5号溝	7区	SD-09	—	土師器	甕			22.9			23.4	タタキ後ハケメ	ハケメ　ケズリ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	長石　角閃石	良	
612	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	（13.8）	（9.3）		2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石	良好	内、外面にわずかに赤色顔料痕あり
613	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	13.4	8.9		3.1			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	橙（2.5YR6/6）	橙（2.5YR6/6）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
614	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	13.5	9.0		3.1			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙（2.5YR6/6）	橙（2.5YR6/6）	長石　雲母　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
615	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	13.6	8.5		2.9			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙（2.5YR6/6）	橙（2.5YR6/6）	長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
616	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	13.4	8.8		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　口縁部にわずかに黒斑あり
617	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	（14.0）	8.4		2.7			回転ナデ後ミガキ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ後ミガキ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい橙（7.5YR7/3）	石英　長石　雲母	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
618	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	（14.3）	（8.0）		2.6			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	明赤褐（2.5YR5/8）	明赤褐（2.5YR5/8）	長石　雲母　角閃石　黒色粒　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
619	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	14.1	8.9		3.1			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ミガキ後ナデ	明赤褐（2.5YR5/6）	明赤褐（2.5YR5/6）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
620	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	14.2	8.4		3.0			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
621	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	14.4	9.2		3.3			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
622	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	13.8	8.7		3.0			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙（2.5YR6/8）	橙（2.5YR6/8）	石英　長石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
623	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	（17.3）	（10.8）		3.3			回転ナデ　ヘラケズリ後ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙（2.5YR6/6）	橙（2.5YR6/6）	長石　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
624	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	（12.8）	（8.5）		2.9			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
625	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	（16.8）	10.6		3.7			回転ナデ後ミガキ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
626	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	12.6	8.0		3.2			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	石英　長石　雲母　角閃石　褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
627	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	13.4	8.7		3.0			回転ナデ　ヘラケズリ後ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
628	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	13.4	8.9		2.9			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙（2.5YR6/8）	橙（2.5YR6/8）	石英　長石　角閃石　雲母　黒曜石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
629	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	（9.1）	6.6		3.9			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	明赤褐（2.5YR5/8）	明赤褐（2.5YR5/8）	石英　長石　角閃石　黒曜石	良	内、外面に赤色顔料痕あり
630	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	坏	25.0	16.0		5.4			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ後ミガキ	赤褐（2.5YR4/6）	赤褐（2.5YR4/6）	長石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
631	312	333	44号住居	1区	SI-01②	—	須恵器	坏	12.4	7.5		5.1			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　回転ナデ後ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	石英　長石　炭化物片	良好	
632	312	331	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	椀	17.0	10.8		5.5	0.8		回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙（2.5YR6/6）	橙（2.5YR6/6）	石英　長石　雲母　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
633	312	333	44号住居	1区	SI-01②	—	須恵器	椀	（13.4）	（7.7）		4.6	0.5		回転ナデ　ヘラケズリ後ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい赤褐（2.5YR4/4）	灰黄褐（10YR5/2）	石英　長石　赤色粒　黒色粒	良好	
634	313	332	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	蓋	（16.9）			3.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ　ヘラケズリ後ナデ	回転ナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
635	313	332	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	蓋	17.3			3.6			ナデ　ヘラ切り離し後回転ナデ　回転ナデ	ナデ　回転ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　雲母　角閃石　赤色粒	良	内、外面に赤色顔料痕あり
636	313	332	44号住居	1区	SI-01②	—	土師器	蓋	13.4			3.0			ナデ　ヘラ切り離し後ナデ　ヘラケズリ　回転ナデ	回転ナデ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
637	313	333	44号住居	1区	SI-01②	—	須恵器	蓋	16.7			3.6			ナデ　ヘラ切り後ヘラケズリ　回転ナデ	ナデ　回転ナデ	灰（5Y5/1）	灰（5Y5/1）	石英　長石　黒色粒	良好	
638	313	333	44号住居	1区	SI-01②	—	須恵器	蓋	（15.7）			2.7			ナデ　ヘラ切り離し後未調整　回転ナデ	回転ナデ	灰黄褐（10YR5/2）	灰黄褐（10YR5/2）	白色粒　黒色粒　赤褐色粒	良好	内、外面に自然釉がかかる
639	313	333	44号住居	1区	SI-01②	—	須恵器	蓋	17.8			3.2			ナデ　ヘラ切り離し後ヘラケズリ　回転ナデ	回転ナデ後ナデ　回転ナデ	灰（5Y5/1）	灰（7.5Y6/1）	石英　長石　黒色粒	良好	
640	313	333	44号住居	1区	SI-01②	—	須恵器	蓋	16.7			3.8			ナデ　ヘラ切り離し後ヘラケズリ　回転ナデ	ナデ　回転ナデ	にぶい赤褐（7.5R4/3）	黄灰（2.5Y5/1）	石英　長石　雲母	良好	内面に灰がかかっていて、重ね焼きの跡が見られる
641	313	333	44号住居	1区	SI-01②	—	須恵器	蓋	（17.2）			3.5			ナデ　ヘラ切り離し後未調整　回転ナデ	ナデ　回転ナデ	灰（5Y5/1）	灰（5Y5/1）	石英　長石　赤色粒	良好	
642	313	333	44号住居	1区	SI-01②	—	須恵器	蓋	16.0			2.4			ナデ　ヘラ切り離し後ナデ　回転ナデ	回転ナデ後ナデ　回転ナデ	灰（N 4/0）	灰（N 4/0）	石英　長石　黒色粒	良好	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
643	313	333	44号住居	1区	SI-01 ②	—	須恵器	蓋	16.8			3.7			ナデ　ヘラ切り離し後ヘラケズリ　回転ナデ	ナデ　回転ナデ	黄灰（2.5Y6/1）	黄灰（2.5Y6/1）	長石　雲母	良好	
644	313	333	44号住居	1区	SI-01 ②	—	須恵器	蓋	（14.2）			3.2			ナデ　ヘラ切り離し後ヘラケズリ　回転ナデ	回転ナデ	褐灰（7.5YR5/1）	灰（N 6/0）	石英　長石　赤褐色粒	良好	外面に焼成時の重ねた跡がみられる　内、外面に自然釉がかかる
645	313	332	44号住居	1区	SI-01 ②	—	土師器	盤	16.4	13.5		1.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	明赤褐（2.5YR5/8）	明赤褐（2.5YR5/8）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
646	313	332	44号住居	1区	SI-01 ②	—	土師器	盤	（15.7）	（12.5）		2.1			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	明赤褐（2.5YR5/8）	明赤褐（2.5YR5/8）	長石　雲母　黒色粒　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
647	313	332	44号住居	1区	SI-01 ②	—	土師器	盤	16.5	12.7		1.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	明赤褐（2.5YR5/8）	明赤褐（2.5YR5/8）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
648	313	332	44号住居	1区	SI-01 ②	—	土師器	盤	（15.3）	11.9		1.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	明赤褐（2.5YR5/8）	明赤褐（2.5YR5/8）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
649	313	332	44号住居	1区	SI-01 ②	—	土師器	盤	（15.9）	（13.2）		1.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	明赤褐（2.5YR5/6）	明赤褐（2.5YR5/6）	長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
650	313	332	44号住居	1区	SI-01 ②	—	土師器	盤	17.5	14.7		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	赤（10R5/6）	長石　雲母　黒色粒　赤褐色粒	良好	内面に赤色顔料痕あり
651	313	332	44号住居	1区	SI-01 ②	—	土師器	盤	（18.7）	（13.2）		2.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	明赤褐（2.5YR5/6）	明赤褐（2.5YR5/6）	長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
652	313	332	44号住居	1区	SI-01 ②	—	土師器	台付盤	（19.6）	（15.6）		2.6	1.4		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（7.5YR8/6）	橙（5YR7/8）	長石　石英　角閃石	良好	
653	313	333	44号住居	1区	SI-01 ②	—	須恵器	盤	15.6	12.6		2.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	浅黄（2.5Y7/4）	浅黄（2.5Y7/4）	石英　長石	良好	
655	315		45号住居	1区	SI-03	—	須恵器	坏	9.5	5.7		2.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　回転ナデ後ナデ	灰（N 6/0）	灰（N 5/0）	黒色粒	良好	
656	315		45号住居	1区	SI-03	—	土師器	甕						6.1	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
657	317	334	46号住居	7区	SI-29	—	土師器	坏	（15.7）	（12.1）		3.1			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	にぶい橙（5YR6/4）	長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	
658	317	334	46号住居	7区	SI-29	—	土師器	坏	（10.6）	（7.0）		2.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	
659	317	334	46号住居	7区	SI-29	—	土師器	坏	（13.8）	（8.7）		2.9			回転ヘラミガキ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ヘラミガキ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	長石　角閃石　赤褐色粒　黒色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
660	317	334	46号住居	7区	SI-29	—	土師器	坏	（10.9）	（6.4）		3.1			ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
661	317	334	46号住居	7区	SI-29	—	土師器	坏	（11.2）	（8.3）		2.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	調整不明	浅黄橙（10YR8/4）	にぶい黄橙（10YR7/2）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	
662	317	334	46号住居	7区	SI-29	—	土師器	坏		7.2				2.8	回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に黒斑あり
663	317	334	46号住居	7区	SI-29	—	土師器	坏	（11.2）	（7.5）		3.1			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
664	317	334	46号住居	7区	SI-29	—	土師器	坏	（9.9）	（6.2）		2.3			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に黒斑あり　灯明皿として使用
665	317	334	46号住居	7区	SI-29	—	土師器	坏	（9.5）	（5.2）		3.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰黄（2.5Y7/2）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
666	317	334	46号住居	7区	SI-29	—	土師器	椀	9.6	6.0		3.8	0.6		回転ナデ　ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
667	317	334	46号住居	7区	SI-29	—	土師器	椀	13.6	8.2		6.0	1.3		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　茶褐色粒	良好	
668	317	334	46号住居	7区	SI-29	—	土師器	椀		(8.2)			0.4	5.5	調整不明	調整不明	橙（2.5YR6/6）	にぶい橙（2.5YR6/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	不良	
669	317	334	46号住居	7区	SI-29	—	土師器	椀						3.3	回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
670	317	334	46号住居	7区	SI-29	—	土師器	椀		(8.5)			0.6	3.4	回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	調整不明	にぶい黄（2.5Y6/3）	オリーブ黒（5Y3/1）	石英　長石　雲母	良	内、外面に黒斑あり
671	317	334	46号住居	7区	SI-29	—	須恵器	椀	(14.4)	(8.6)		6.4	0.3		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	明赤褐（2.5YR5/6）	にぶい赤褐（5YR5/4）	長石	良好	
672	317	334	46号住居	7区	SI-29	—	土師器	皿	8.0	5.6		1.2			回転ナデ　糸切り離し後ナデ	回転ナデ	橙（7.5YR6/6）	橙（7.5YR6/6）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	
675	319	337	47号住居	7区	SI-31	—	土師器	坏	(14.1)	8.8		3.1			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　回転ナデ後ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
676	319	337	47号住居	7区	SI-31	—	須恵器	椀	(12.6)	(7.8)		4.5	0.4		回転ナデ　ケズリ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ	黄灰（2.5Y5/1）	灰（5Y6/1）	長石　黒色粒	良好	
677	319	337	47号住居	7区	SI-31	—	須恵器	椀	(12.8)	(7.3)		4.2	0.4		回転ナデ　ケズリ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ	灰（5Y5/1）	灰（5Y6/1）	石英　長石	良好	
678	319	337	47号住居	7区	SI-31	—	須恵器	蓋	17.9			1.9			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ後ナデ	にぶい黄褐（10YR5/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	石英	良好	
679	319	337	47号住居	7区	SI-31	—	須恵器	蓋	16.6			3.3			回転ナデ　ヘラケズリ後未調整	回転ナデ　ナデ	灰黄（2.5Y6/2）	にぶい黄（2.5Y6/3）	長石　黒色粒	良好	外面に自然釉がかかる
680	319	337	47号住居	7区	SI-31	—	須恵器	蓋	17.7			2.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	浅黄（2.5Y7/3）	長石　赤褐色粒　黒色粒	良好	
681	319	337	47号住居	7区	SI-31	—	須恵器	蓋	14.1			1.2			ヘラ切り離し後未調整　回転ナデ	回転ナデ	灰（N 6/0）	黄灰（2.5Y6/1）	長石　黒色粒	良好	内面口縁部に灰の跡あり
682	319	337	47号住居	7区	SI-31	—	須恵器	蓋	13.7			1.3			ヘラ切り離し後ナデ　回転ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい赤褐（5YR4/4）	暗赤褐（5YR3/3）	長石　黒色粒	良好	
683	319	337	47号住居	7区	SI-31	—	須恵器	蓋	14.1			1.5			ヘラ切り離し後ナデ　回転ナデ	回転ナデ　回転ナデ後ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	灰黄褐（10YR6/2）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
684	319	337	47号住居	7区	SI-31	—	土師器	盤	(15.1)	11.9		2.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　回転ナデ後ナデ	灰白（2.5Y8/2）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　褐色粒	良好	
686	321	336	48号住居	7区	SI-35	—	須恵器	蓋	12.6					2.5	回転ヘラケズリ　回転ナデ	回転ナデ　回転ナデ後ナデ	灰（N 4/0）	灰（N 5/0）	長石　茶褐色粒　黒色粒	良好	外面に自然釉がかかる
687	321	336	48号住居	7区	SI-35	—	土師器	甑		(11.4)				19.5	ハケメ	ケズリ	明褐（7.5YR5/6）	明褐（7.5YR5/6）	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒	良好	外面にスス付着
688	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.8	7.0		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	浅黄橙（10YR8/3）	石英　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁部にスス付着
689	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	11.0	7.1		3.3			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（2.5YR8/2）	淡黄（2.5Y8/2）	石英	良	
690	324		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	(11.0)	(7.3)		2.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（2.5YR8/2）	灰白（2.5YR8/2）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
691	324		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	(10.2)	(7.6)		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
692	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.0	6.8		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	
693	324		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	(10.0)	(6.8)		2.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
694	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.0	7.4		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	浅黄橙（10YR8/3）	角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	口縁部にスス付着
695	324		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	(10.0)	6.8		2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	長石　角閃石　茶褐色粒　黒曜石	良好	内面に赤色顔料痕あり
696	324		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	(10.5)	7.4		2.9			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
697	324		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	(14.2)	(10.0)		2.6			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）橙（5YR6/8）	にぶい橙（7.5YR7/4）橙（5YR6/8）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　口縁部にスス付着
698	324		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	(14.1)	(8.7)		2.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　回転ヘラミガキ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良	内、外面に赤色顔料痕あり
699	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.7	6.7		3.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	灯明皿として使用
700	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.7	6.8		2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	灯明皿として使用
701	324		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.2	7.3		2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	石英　角閃石　茶褐色粒	良	灯明皿として使用
702	324		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	(10.2)	7.0		2.2			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石　茶褐色粒	良好	灯明皿として使用
703	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	11.3	7.7		3.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	褐灰（10YR5/1）	褐灰（10YR5/1）	長石　角閃石	良	灯明皿として使用　内、外面に黒斑あり
704	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.2	7.2		2.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒　火山ガラス	良好	灯明皿として使用
705	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.7	7.3		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（2.5Y8/2）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
706	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.3	7.1		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	石英　角閃石　雲母　茶褐色粒	良	灯明皿として使用
707	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.6	7.2		3.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（2.5Y8/2）	灰白（2.5Y8/2）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用　外面に黒斑あり
708	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.5	7.5		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	淡黄（2.5Y8/3）	淡黄（2.5Y8/3）	長石　角閃石	良好	灯明皿として使用
709	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.7	7.5		2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
710	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.7	7.2		3.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用　内、外面に黒斑あり
711	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.4	6.9		2.9			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	灯明皿として使用
712	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	11.1	7.3		3.2			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	灯明皿として使用

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
713	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.6	7.1		2.9			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（2.5Y8/2）	灰白（2.5Y8/2）	石英　角閃石	良	灯明皿として使用
714	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.2	6.8		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
715	324	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.8	7.0		2.9			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	灯明皿として使用
716	324		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	（10.7）	5.5		2.9			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　調整不明	浅黄橙（10YR8/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
717	325		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	（10.6）	（4.9）		2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	淡黄（2.5Y8/3）	灰白（2.5Y8/2）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
718	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.0	6.7		2.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	灯明皿として使用
719	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.2	7.3		1.9			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（7.5YR8/2）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
720	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.6	7.9		2.9			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（2.5Y8/2）	灰白（2.5Y8/2）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	灯明皿として使用
721	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.3	7.3		2.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
722	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.7	6.9		3.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	淡黄（2.5Y8/3）	淡黄（2.5Y8/3）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	灯明皿として使用
723	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	9.8	6.6		2.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
724	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.0	7.2		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	長石　角閃石	良好	灯明皿として使用
725	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.2	6.9		2.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　調整不明	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石	良	灯明皿として使用
726	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.1	6.8		2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	石英　長石　角閃石　茶褐色粒	良	灯明皿として使用
727	325		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	（10.3）	6.1		2.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
728	325		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	（10.5）	7.1		2.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	長石　角閃石	良好	灯明皿として使用
729	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	11.0	7.5		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	灯明皿として使用
730	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.4	7.6		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
731	325		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	（9.8）	（6.8）		2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
732	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.4	6.6		3.1			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	浅黄橙（10YR8/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
733	325		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	（10.5）	7.0		2.9			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
734	325		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.2	6.6		2.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
735	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.8	7.1		2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
736	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	9.9	（6.3）		2.3			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
737	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.5	7.0		2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	灯明皿として使用
738	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	(10.4)	7.0		2.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（7.5YR8/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　角閃石	良好	灯明皿として使用
739	325	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	坏	10.1	6.9		2.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	灰黄（2.5Y7/2）	長石　角閃石	良	灯明皿として使用
740	326		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	椀	12.9	7.0		5.3	1.2		回転ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	外面に黒斑あり
741	326	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	椀	(12.5)	7.2		5.1	1.2		回転ナデ　ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石	良好	
742	326		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	椀		8.4			1.7	2.9	回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
743	326		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	椀		(7.9)			1.8	2.6	回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	褐灰（10YR4/1）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
744	326		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	椀		(7.0)			1.4	2.7	回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
745	326		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	椀		(4.7)			0.5	1.5	ミガキ　回転ナデ　ナデ	ミガキ	暗灰（N 3/0）	暗灰（N 3/0）	長石　雲母	良好	黒色土器B類
746	326		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	椀	10.0	5.5		3.9	0.8		回転ナデ　ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（2.5YR8/2）	灰白（2.5YR8/2）	長石　角閃石　茶褐色粒	良	灯明皿として使用
747	326	口絵-16	49号住居	8区	SI-39	—	土師器	椀	10.8	6.4		3.9	0.6		回転ナデ　ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	灯明皿として使用か？
748	326		49号住居	8区	SI-39	—	土師器	台付盤	(12.6)	8.7		1.7	0.6		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石	良好	
751	328	335	50号住居	8区	SI-40	—	土師器	坏	(15.0)	6.1		3.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	調整不明　回転ヘラミガキ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
752	328	335	50号住居	8区	SI-40	—	土師器	坏	(10.3)	(6.0)		2.5			ヘラケズリ　調整不明	回転ナデ　調整不明	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内面に赤色顔料痕あり
753	328	335	50号住居	8区	SI-40	—	土師器	坏	(14.7)	(9.7)		2.2			回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙（7.5YR7/6）	にぶい橙（7.5YR7/6）	長石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
754	328	335	50号住居	8区	SI-40	—	土師器	坏	10.7	6.6		3.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石	良好	灯明皿として使用
755	328	335	50号住居	8区	SI-40	—	土師器	椀	(14.2)	(7.1)		6.9	1.1		回転ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
756	328	335	50号住居	8区	SI-40	—	土師器	椀	(16.4)	9.8		7.3	1.1		回転ナデ　ケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	長石　赤褐色粒	良好	高台に赤色顔料痕あり　内面に黒斑あり
757	328	335	50号住居	8区	SI-40	—	土師器	椀		7.2			1.4	4.5	回転ナデ　ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	浅黄橙（10YR8/4）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内面に黒斑あり
758	328	335	50号住居	8区	SI-40	—	須恵器	椀	(11.4)	(6.3)		4.7	0.7		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	黄灰（2.5Y5/1）	黄灰（2.5Y5/1）	黒色粒	良好	内面に自然釉がかかる
759	328	335	50号住居	8区	SI-40	—	須恵器	蓋	(13.3)			3.2			回転ナデ　ヘラケズリ	回転ナデ	褐灰（7.5YR6/1）	褐灰（7.5YR5/1）	長石	良	
760	328	335	50号住居	8区	SI-40	—	須恵器	蓋	16.0			2.9			回転ナデ　ヘラケズリ	回転ナデ　ナデ	灰白（2.5YR8/2）	にぶい黄橙（10YR7/4）		不良	
761	328	335	50号住居	8区	SI-40	—	土師器	甕	(17.2)		(15.7)	12.4			ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
762	330		72号土坑	1区	SK-03	—	白磁	椀						4.2			灰白（10Y8/1）	灰白（10Y8/1）		良好	内、外面に施釉　内面にケズリの沈線あり
763	332	339	73号土坑	1区	SK-04	—	土師器	坏	（14.4）	（9.0）		2.9			回転ナデ　ヘラケズリ後ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）明赤褐（2.5YR5/8）	にぶい黄橙（10YR7/3）明赤褐（2.5YR5/8）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料塗布
764	332	339	73号土坑	1区	SK-04	—	須恵器	蓋	（18.8）					3.1	ヘラケズリ　回転ナデ	回転ナデ　ナデ	橙（5YR7/6）	暗灰黄（2.5Y5/2）	石英　黒色粒	良好	
765	332		73号土坑	1区	SK-04	—	須恵器	蓋						1.8	ヘラケズリ　回転ナデ	回転ナデ	灰（5Y6/1）	灰オリーブ（5Y6/2）	長石　黒色粒　褐色粒	良好	
766	334	339	74号土坑	1区	SX-04	—	須恵器	坏	12.0	7.6		3.9			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ナデ	灰白（2.5Y8/1）	灰白（10YR7/1）	斜長石	良	
767	334	339	74号土坑	1区	SX-04	—	須恵器	坏	（14.1）	（8.1）		3.7			回転ナデ　ケズリ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ナデ	灰黄褐（10YR5/2）にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄褐（10YR4/3）明黄褐（10YR7/6）	白色粒	良好	重ね焼きの跡あり
768	334	339	74号土坑	1区	SX-04	—	土師器	蓋	15.6			3.1			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ナデ	明赤褐（2.5YR5/6）	明赤褐（2.5YR5/6）	石英　長石　雲母　角閃石　褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
769	334	339	74号土坑	1区	SX-04	—	須恵器	蓋	13.8			1.3			ヘラ切り離し後ナデ　回転ナデ後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰（5Y6/1）	灰（5Y6/1）	石英　黒色粒	良好	
770	334	339	74号土坑	1区	SX-04	—	須恵器	壺		（14.2）				7.0	格子目タタキ後ケズリ　ケズリ　当て具痕	当て具痕後ケズリ　ケズリ	黄灰（2.5Y5/1）	暗灰黄（2.5Y5/2）	長石　黒色粒	良好	
771	336	340	75号土坑	1区	SX-05	—	土師器	坏	（13.0）	（8.4）		2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙（5YR6/8）	橙（5YR7/6）	長石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
772	336	340	75号土坑	1区	SX-05	—	土師器	坏	（13.8）	（9.1）		3.0			回転ナデ　回転ヘラケズリ後ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	灰白（7.5YR8/2）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　外面底部に黒斑あり
773	336	340	75号土坑	1区	SX-05	—	土師器	坏	（13.7）	（9.2）		4.5			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	石英　黒色粒	良好	底部に指頭圧痕あり
774	336	340	75号土坑	1区	SX-05	—	須恵器	椀	（16.7）	（12.0）		4.7	0.8		回転ナデ　ヨコナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/2）	石英　角閃石	良好	
775	336	340	75号土坑	1区	SX-05	—	須恵器	椀	（12.6）	（8.0）		4.7	0.2		回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	黄灰（2.5Y6/1）	黄灰（2.5Y6/1）	長石　角閃石	良好	
776	336	340	75号土坑	1区	SX-05	—	土師器	蓋	（12.4）					4.1	ヘラケズリ後ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	ナデ　回転ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	角閃石　赤褐色粒	良好	
777	336	340	75号土坑	1区	SX-05	—	須恵器	蓋	（14.6）			2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ヘラケズリ	回転ナデ	灰（N 6/0）にぶい赤褐（2.5YR5/3）	灰（N 6/0）にぶい赤褐（2.5YR5/3）	石英　赤褐色粒　黒色粒	良好	
778	336	340	75号土坑	1区	SX-05	—	須恵器	蓋	21.0			2.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ後ナデ	灰（N 5/0）	灰（N 5/0）	長石　黒色粒	良好	
779	336	340	75号土坑	1区	SX-05	—	須恵器	高盤	（16.2）	12.6		12.7			回転ナデ	回転ナデ	橙（7.5YR6/6）	橙（7.5YR6/6）	石英　長石　角閃石	良好	内面台部に絞り痕あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
781	338		76号土坑	2区	SK-07	—	土師器	坏	(11.0)	(7.9)		4.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英　長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	
782	340	338	77号土坑	2区	SK-08	—	土師器	坏	(11.7)	(7.4)		4.3			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
783	340	338	77号土坑	2区	SK-08	—	土師器	坏	(10.6)	(6.1)		3.9			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
784	340	338	77号土坑	2区	SK-08	—	土師器	坏	(11.0)	(7.5)				3.9	回転ナデ後ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　赤褐色粒	良好	外面胴部にスス付着
785	340	338	77号土坑	2区	SK-08	—	土師器	坏	(13.4)	(7.9)				4.9	回転ナデ後ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ後ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/6)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒　黒色粒	良好	内、外面にスス付着
786	340	338	77号土坑	2区	SK-08	—	土師器	坏		(7.2)				2.5	回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面底部に墨書の痕跡あり
787	340	338	77号土坑	2区	SK-08	—	須恵器	椀	(11.8)	(7.5)		6.1	1.1		回転ナデ	回転ナデ	灰(7.5Y6/1)	灰(7.5Y6/1)	石英　長石　角閃石	良好	
788	340	338	77号土坑	2区	SK-08	—	土師器	甕	(21.9)					6.4	回転ナデ後ナデ	回転ナデ後ナデ　ケズリ後ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	長石　角閃石　黒色粒　赤褐色粒	良好	内、外面にスス付着
789	342	341	78号土坑	2区	SK-11	—	土師器	坏	10.4	6.4		4.2			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面底部に板目痕あり
790	342	341	78号土坑	2区	SK-11	—	土師器	坏	11.7	7.2		4.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
791	344	341	79号土坑	2区	SK-12	—	須恵器	蓋						2.5	回転ナデ　回転ヘラケズリ	回転ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	長石　角閃石　黒色粒　赤褐色粒	良好	
792	346	341	80号土坑	7区	SK-30	—	土師器	坏	(15.7)	(11.6)		3.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良	
793	349	341	82号土坑	8区	SK-40	—	土師器	坏	(12.8)	(8.4)		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	長石　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
794	349	341	82号土坑	8区	SK-40	—	須恵器	坏	12.4	8.0		3.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰(7.5Y6/1)	灰(N 6/0)	長石　黒色粒	良好	
795	349	341	82号土坑	8区	SK-40	—	土師器	椀		(7.6)			1.3	3.2	回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白(7.5Y8/1)	灰白(N 8/0)	長石　赤褐色粒	良好	
796	351	341	83号土坑	8区	SK-41	—	土師器	坏	(13.6)	8.8		3.1			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙(7.5YR7/6)　明赤褐(5YR5/6)	橙(5YR6/6)　明赤褐(2.5YR5/6)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
797	353		84号土坑	8区	SK-49	—	須恵器	壺	(14.4)					5.6	回転ナデ　タタキ	回転ナデ　同心円タタキ	灰(5Y4/1)	褐灰(10YR4/1)	長石	良好	内、外面に自然釉がかかる
798	355		85号土坑	8区	SX-54	—	土師器	椀		(6.6)			0.7	2.6	調整不明	調整不明	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
800	358	351	87号土坑	2区	SK-09	—	瓦器	椀	15.5	6.7		5.5	0.4		回転ナデ　ミガキ　ヘラケズリ後ミガキ	回転ナデ　ミガキ	灰(N 5/0)	灰(N 5/0)	黒色粒　褐色粒	良好	
801	358	351	87号土坑	2区	SK-09	—	白磁	皿	9.6	3.5		2.5			ヘラ切り離し後ナデ		灰白(2.5GY8/1)	灰白(2.5GY8/1)		良好	内面立ち上がり部分に沈線あり　灯明皿として使用　内、外面に施釉

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
802	360	342	6号溝	1区	SD-01	—	土師器	坏	10.4	7.8		3.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
803	360	342	6号溝	1区	SD-01	—	土師器	坏	10.3	7.7		3.2			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（10YR8/2）	浅黄橙（7.5YR8/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
804	360	342	6号溝	1区	SD-01	—	土師器	坏	10.3	7.1		2.9			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/4）	石英　長石　角閃石	良好	灯明皿として使用
805	360	342	6号溝	1区	SD-01	—	土師器	坏	（10.6）	（7.4）		2.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
806	360	342	6号溝	1区	SD-01	—	土師器	坏	10.4	8.2		2.9			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
807	360	342	6号溝	1区	SD-01	—	土師器	坏	（10.7）	（7.2）		2.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒　火山ガラス	良好	灯明皿として使用
808	360	342	6号溝	1区	SD-01	—	土師器	坏	（9.9）	6.9		2.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
809	360	342	6号溝	1区	SD-01	—	土師器	坏	10.4	7.0		3.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
810	360	342	6号溝	1区	SD-01	—	土師器	坏	10.4	7.5		2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良	外面に黒斑あり
811	360	342	6号溝	1区	SD-01	—	土師器	坏	10.6	7.9		2.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良	内、外面に黒斑あり
812	360	342	6号溝	1区	SD-01	—	土師器	坏	（10.2）	（7.3）		2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	底部にスス付着
813	360	342	6号溝	1区	SD-01	—	土師器	坏	（15.6）	（14.2）		2.3			ヘラ切り離し調整不明	調整不明　回転ヘラミガキ	橙（5YR7/6）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　雲母　赤褐色粒	良好	見込み部に線刻あり　内、外面に赤色顔料痕あり
814	360	342	6号溝	1区	SD-01	—	土師器	椀	（14.9）	（8.2）		6.2	1.8		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
815	360	342	6号溝	1区	SD-01	—	須恵器	椀	（12.0）	（7.7）		4.4	0.4		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰（N 5/0）	灰（10Y5/1）	長石	良好	
816	360	342	6号溝	1区	SD-01	—	須恵器	蓋	（13.4）			2.8			回転ナデ　回転ヘラケズリ	回転ナデ　ナデ	灰（10Y6/1）	灰（5Y6/1）	長石	良好	外面に自然釉がかかる
817	360		6号溝	1区	SD-01	—	土師器	鉢	（8.6）	（4.2）		4.6			ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　雲母　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良	内、外面に黒斑あり
818	360		6号溝	1区	SD-01	—	土師器	壺						3.6	ナデ	ナデ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	
819	362	343	7号溝	7区	SD-08	—	土師器	坏	（11.8）	（7.2）				3.1	回転ナデ　ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	長石　雲母	良好	
820	362	343	7号溝	7区	SD-08	—	須恵器	坏	（13.7）	（8.0）		3.8			回転ナデ　回転ヘラケズリ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	橙（7.5YR7/6）	長石　角閃石	良好	外面底部に被熱による赤色化あり
821	362	343	7号溝	7区	SD-08	—	土師器	椀	（12.2）	7.3		4.9	1.3		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ　ヨコナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面胴部から高台にかけて黒斑あり
823	364	343	8号溝	8区	SD-10	—	土師器	坏	10.8	7.4		2.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
824	364	343	8号溝	8区	SD-10	—	土師器	坏	(9.9)	7.4		2.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
825	364	343	8号溝	8区	SD-10	—	土師器	椀	(11.0)	(6.6)		4.5	0.9		回転ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
828	365		9号溝	8区	SD-11	—	土師器	坏	(13.0)					4.0	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	灰黄褐（10YR5/2）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	スス付着
829	365		9号溝	8区	SD-11	—	須恵器	坏？						3.1	回転ナデ	回転ナデ	灰（N 4/0）	灰（N 4/0）	石英　長石　角閃石　雲母	不良	
830	365		9号溝	8区	SD-11	—	須恵器	甕？						12.5	ハケメ	タタキ	灰（N 5/0）	褐灰（10YR4/1）	長石　角閃石　黒色粒	良好	
833	368	348	11号溝	2区	SD-03	—	土師器	坏	(16.1)	(8.0)		4.1			回転ナデ　ヘラ切り離し	回転ナデ　ナデ	橙（5YR7/6）	橙（5YR7/6）	石英　長石　黒色粒　褐色粒	良好	
834	368	348	11号溝	2区	SD-03	—	土師器	坏	15.9	7.4		3.8			回転ナデ　糸切り離し	回転ナデ	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	石英　長石　赤褐色粒	良好	
835	368	348	11号溝	2区	SD-03	—	土師器	坏	15.7	7.6		3.0			ナデ　ケズリ後ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石	良好	
836	368	348	11号溝	2区	SD-03	—	土師器	坏	(13.9)	(8.5)		3.3			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	石英　長石　雲母	良好	
837	368	348	11号溝	2区	SD-03	—	土師器	坏	(14.8)	7.3		4.6			回転ナデ　糸切り離し	回転ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　雲母　赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり
838	368		11号溝	2区	SD-03	—	土師器	坏		(6.8)				2.0	回転ナデ　糸切り離し	回転ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石	良好	
839	368	348	11号溝	2区	SD-03	—	土師器	坏	8.4	6.1		1.3			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　工具によるナデ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	石英　長石　褐色粒	良好	
840	368		11号溝	2区	SD-03	—	須恵器	坏		(10.2)				5.6	回転ナデ　ナデ	回転ナデ	灰（N 6/0）	灰（N 6/0）	長石	良好	外面底部に工具痕あり
841	368		11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	坏	(9.5)					2.8	回転ナデ後ミガキ　ケズリ	ミガキ	灰（5Y6/1）	灰（5Y6/1）	長石　雲母	良好	
842	368		11号溝	2区	SD-03	—	土師器	椀		(6.0)			0.4	2.7	回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	ナデ	灰黄（2.5Y7/2）	灰黄（2.5Y7/2）	石英　長石　赤褐色粒	良好	底部にヘラ記号あり　外面に赤色顔料痕あり
843	368	353	11号溝	2区	SD-03	—	青磁	椀	(15.1)	6.1		5.5	0.7		ケズリ　ケズリ出し		瓦の鼠茶	瓦の鼠茶		良好	内面にケズリの沈線と目跡あり　内、外面に施釉
844	368	353	11号溝	2区	SD-03	—	青磁	椀	(16.8)					6.2	ヘラケズリ		瓦の鼠茶	瓦の鼠茶		良好	施釉部分に貫入がみられる　内面にケズリの沈線２条あり　内、外面に施釉　外面に櫛目文、内面に櫛目描文あり
845	368	353	11号溝	2区	SD-03	—	青磁	椀		(7.6)			0.2	4.0	ヘラケズリ　ケズリ　ケズリ出し		白茶	白茶		良好	内、外面に施釉　施釉部分に貫入がみられる　内、外面に目跡あり
846	369	353	11号溝	2区	SD-03	—	白磁	椀	16.5	5.8		6.9	0.2		ヘラケズリ　ケズリ　ケズリ出し		灰白　薄白茶	灰白		良好	内面にケズリの沈線あり　内、外面に施釉
847	369	353	11号溝	2区	SD-03	—	白磁	椀	(16.6)	6.8		6.3	0.2		ヘラケズリ　ケズリ　ケズリ出し		銀灰白　薄白茶	銀灰白		良好	内面にケズリの沈線あり　内、外面に施釉
848	369	353	11号溝	2区	SD-03	—	白磁	椀	(16.2)	(5.5)		6.0	0.3		ヘラケズリ　ケズリ　ケズリ出し		銀灰白　鉛の白	銀灰白		良好	内面にケズリの沈線あり　内、外面に施釉　施釉部分に貫入がみられる

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
849	369	353	11号溝	2区	SD-03	—	白磁	椀	(16.0)	6.6		7.0	0.1		ヘラケズリ　ケズリ　ケズリ出し		白茶	白茶		良好	内面にケズリの沈線と目跡あり　施釉部分に貫入がみられる　内、外面に施釉
850	369	353	11号溝	2区	SD-03	—	白磁	椀	(15.1)	5.7		6.6	0.2		ヘラケズリ　ケズリ　ケズリ出し		白茶 クリーム色	白茶		良好	内面にケズリの沈線あり　施釉部分に貫入がみられる　内、外面に施釉
851	369	353	11号溝	2区	SD-03	—	白磁	椀	(15.3)	(5.3)		5.8	0.8		ヘラケズリ　ケズリ　ケズリ出し		ベージュ 灰白	白茶	褐色粒	良好	内、外面に施釉　施釉部分に貫入がみられる
852	369		11号溝	2区	SD-03	—	白磁	椀	(15.5)	(6.1)		6.3	0.7		ヘラケズリ　ケズリ　ケズリ出し		肉桂色 銀灰	銀灰白	黒色粒	良好	内、外面に施釉　施釉部分に貫入がみられる　内面にケズリの沈線あり
853	369	353 352	11号溝	2区	SD-03	—	白磁	椀	14.7	5.7		5.8	1.1		ヘラケズリ　ケズリ　ケズリ出し		白茶 灰白	白茶		良好	内面にケズリの沈線あり　内、外面に施釉
854	369		11号溝	2区	SD-03	—	白磁	椀		6.5			0.2	3.5	ヘラケズリ　ケズリ　ケズリ出し		かもしか	かもしか		良好	内面に目跡、ケズリの沈線あり　内、外面に施釉
855	369		11号溝	2区	SD-03	—	白磁	椀		5.6			0.5	3.6	ヘラケズリ　ケズリ　ケズリ出し		真珠色	真珠色		良好	内面にケズリの沈線あり　内、外面に施釉
856	369		11号溝	2区	SD-03	—	白磁	椀		(4.9)			0.6	3.4	ヘラケズリ　ケズリ　ケズリ出し		白茶	白茶		良好	内面見込み部に砂付着　内、外面に施釉
857	369		11号溝	2区	SD-03	—	白磁	椀		5.6			1.1	4.8	ヘラケズリ　ケズリ　ケズリ出し		灰白	灰白		良好	外面に櫛目文あり　内、外面に施釉　内面見込み部に砂付着
858	370		11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	(16.8)	(6.3)		4.7	0.3		ハケメ後ミガキ　ヘラケズリ後ミガキ　回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ後ミガキ	灰 (N 6/0)	灰 (N 6/0)	長石　黒色粒	良好	外面胴部に指頭圧痕あり　内面に重ね焼きの跡あり　外面胴部に黒斑あり
859	370	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	(16.6)	6.7		5.9	0.3		回転ナデ　ケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ後ミガキ	にぶい赤褐 (5YR5/3)	灰黄褐 (10YR6/2)	長石　角閃石	良好	重ね焼きの跡あり
860	370	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	16.3	7.2		6.3	0.5		回転ナデ後ミガキ　ケズリ　回転ナデ	ナデ後ミガキ	灰 (7.5Y6/1)	灰白 (5Y7/1)	長石　黒色粒	良好	内、外面に重ね焼きの跡あり
861	370	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	(17.0)	7.2		5.4	0.4		回転ナデ　ケズリ後回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	灰白 (5Y7/1)	灰白 (5Y7/1)	石英　長石　黒色粒　褐色粒	良	内面に重ね焼きの跡あり　外面胴部にヘラ記号あり
862	370	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	(16.7)	6.6		5.8	0.3		回転ナデ後ミガキ　ヘラケズリ　回転ナデ	ナデ後ミガキ	灰 (7.5Y6/1)	灰白 (5Y7/1)	石英　長石　黒色粒	良好	内面に重ね焼きの跡あり
863	370	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	(16.3)	6.2		5.2	0.3		回転ナデ　ケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	灰 (N 4/0)	灰 (N 4/0)	石英　長石	良	
864	370	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	15.4	5.7		6.0	0.3		回転ナデ後ミガキ　ヘラケズリ　ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	ミガキ　ナデ	灰白 (2.5Y8/1)	灰白 (2.5Y8/1)	石英　黒色粒	良好	
865	370		11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	(15.6)	(5.6)		6.4	0.5		調整不明　回転ナデ	調整不明	にぶい橙 (5YR7/4)	にぶい橙 (5YR7/4)	石英　長石　角閃石　雲母	良好	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
866	370	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	17.0	5.8		5.9	0.3		回転ナデ　ミガキ　ナデ	回転ナデ　ナデ	灰（N 5/0）	灰（N 4/0）	石英　長石　角閃石　雲母	不良	重ね焼きの跡あり
867	370	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	16.5	6.3		6.2	0.2		回転ナデ後ミガキ　ヘラケズリ後ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	ナデ後ミガキ	灰（N 4/0）	灰白（2.5Y7/1）	長石　角閃石　雲母	良好	外面底部にヘラ記号あり　内面に黒斑あり
868	370		11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	（17.1）	6.2		6.2	0.3		ミガキ　回転ナデ　ナデ	ミガキ	灰白（5Y7/1）	灰白（5Y7/1）	石英　長石	良好	底部にヘラ記号あり
869	370	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	16.4	7.1		5.4	0.2		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	灰（7.5Y5/1）	灰（N 6/0）	長石　黒色粒	良好	
870	370	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	（15.5）	6.7		5.6	0.3		回転ナデ後ミガキ　糸切り離し後ナデ	回転ナデ後ミガキ　ナデ後ミガキ	褐灰（10YR6/1）	褐灰（10YR6/1）	長石　雲母	良好	
871	370	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	15.6	5.9		6.1	0.5		調整不明　回転ナデ	調整不明	灰白（5Y8/1）	灰白（2.5Y8/2）	石英　長石　角閃石	良好	
872	371	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	16.6	（6.0）		6.3	0.4		回転ナデ　ナデ	回転ナデ	灰（N 5/0）	灰（N 6/0）	石英　長石　角閃石　黒色粒	良	外面胴部に指頭圧痕あり
873	371	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	（16.7）	（6.8）		6.1	0.3		ミガキ　回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	調整不明	灰（N 6/0）	灰（N 6/0）	長石　角閃石	良好	
874	371	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	17.2	6.4		6.4	0.4		ミガキ　回転ナデ	調整不明	灰（N 4/0）	灰（N 4/0）	長石　角閃石	良好	
875	371	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	（15.4）	6.2		5.7	0.4		調整不明　回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	調整不明	灰白（7.5Y7/1）	灰白（7.5Y7/1）	長石　雲母	良好	
876	371	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	（16.8）	6.4		6.0	0.2		ナデ　回転ナデ	ナデ	灰白（10YR8/2）	灰白（10YR8/1）	石英　長石　黒色粒	良好	内面に黒斑あり
877	371		11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	（16.6）	（6.5）		5.0	0.4		回転ナデ　ナデ	回転ナデ　ナデ	褐灰（10YR6/1）	にぶい黄橙（10YR7/2）	長石	良好	
878	371	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	17.1	6.4		5.5	0.4		調整不明　回転ナデ	調整不明	灰（N 5/0）	灰（N 4/0）	長石　角閃石	良好	
879	371	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	椀	16.2	6.4		5.7	0.3		調整不明	調整不明	灰白（2.5Y8/2）	灰白（2.5Y8/2）	石英　長石　角閃石	良好	底部にヘラ記号あり　外面口縁部に黒斑あり
880	371	348	11号溝	2区	SD-03	—	須恵器	蓋	14.0			2.0			回転ナデ　回転ヘラケズリ	回転ナデ	褐灰（7.5YR5/1）	褐灰（7.5YR5/1）	石英　長石　黒色粒	良好	外面口縁端部に自然釉がかかる
881	371	348	11号溝	2区	SD-03	—	須恵器	蓋	（13.3）			2.6			回転ナデ　回転ヘラケズリ	回転ナデ	黄灰（2.5Y5/1）	黄灰（2.5Y5/1）	長石　角閃石	良好	外面に白色の灰がみられる
882	371	348	11号溝	2区	SD-03	—	土師器	皿	7.9	5.2		1.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　雲母	良好	
883	371	348	11号溝	2区	SD-03	—	土師器	皿	8.3	6.6		1.4			ナデ　調整不明	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	石英　長石　赤褐色粒	良好	
884	371	348	11号溝	2区	SD-03	—	土師器	皿	8.8	7.0		1.3			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	石英　長石　雲母　褐色粒	良好	
885	371	348	11号溝	2区	SD-03	—	土師器	皿	8.9	5.9		1.2			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　赤褐色粒	良好	
886	371	348	11号溝	2区	SD-03	—	土師器	皿	（7.9）	5.6		1.5			調整不明　ヘラ切り離し後ナデ	調整不明	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
887	371	348	11号溝	2区	SD-03	—	須恵器系土師器	皿	（9.7）	（6.7）		2.4			回転ナデ　糸切り離し	ナデ	灰白（5Y7/1）	灰（N 5/0）	長石	良好	
888	372	353	11号溝	2区	SD-03	—	青磁	皿	（9.6）	（4.1）		2.2	0.2		ケズリ		灰白（10Y7/1）	灰白（10Y7/1）		良好	内面にヘラで模様あり　内、外面の底部以外施釉

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
889	372	349	11号溝	2区	SD-03	—	瓦器	皿	9.5	7.4		2.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	調整不明	灰（7.5Y6/1）	灰（7.5Y6/1）	長石	良好	
890	372	348	11号溝	2区	SD-03	—	須恵器	高坏		11.6				11.0	回転ナデ	回転ナデ	灰（5Y5/1）	灰（5Y5/1）	石英　長石　角閃石	良好	内面に絞り痕がみられる
898	373	344	11号溝	2区	SD-03	—		滑石製石鍋		（25.6）				10.4	ケズリ	ケズリ					外面にスス付着
899	373	344	11号溝	2区	SD-03	—		滑石製石鍋						9.9	ケズリ	ケズリ					穿孔あり
900	373		11号溝	2区	SD-03	—	縄文土器	深鉢						4.7	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄褐（10YR5/3）	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　褐色粒	良好	波状口縁　口縁部に沈線文様あり
901	373		11号溝	2区	SD-03	—	縄文土器	深鉢		6.8				2.6	ナデ	ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	浅黄（2.5Y7/3）	長石　角閃石	良好	
902	373		11号溝	2区	SD-03	—	縄文土器	深鉢						7.2	ナデ	ナデ　条痕	浅黄（2.5Y7/3）	浅黄（2.5Y7/3）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	口縁部に２条の沈線あり
903	373		11号溝	2区	SD-03	—	縄文土器	浅鉢						4.3	ミガキ　ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	暗灰黄（2.5Y5/2）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	口縁部に２条の沈線あり
904	373		11号溝	2区	SD-03	—	縄文土器	坏形土器		6.6				4.1	ケズリ　ナデ	ケズリ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	口縁部に４ヶ所の山形突起あり
912	380	357	包含層	6区	—	平坦地区３層	縄文土器	深鉢						5.2	ナデ	ナデ　ミガキ	灰褐（5YR4/2）	明赤褐（5YR5/6）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	口縁部に短斜線文の貼付文あり
913	380	357	包含層	1区	—	平坦地区３層	縄文土器	深鉢						3.9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	波状口縁？　貝殻の文様あり　沈線文様あり
914	380	357	包含層	8区	—	平坦地区３層	縄文土器	深鉢	（18.8）					5.4	ミガキ	ミガキ　ナデ	黄灰（2.5Y4/1）	黄灰（2.5Y4/1）	長石　角閃石	良好	磨消縄文が口縁部と肩部に施される　山形突起あり
915	380	357	包含層	1区	—	平坦地区３層	縄文土器	深鉢						5.4	ナデ	ナデ	にぶい黄（2.5Y6/3）	にぶい黄（2.5Y6/3）	長石　角閃石	良好	３条の凹線あり　磨消縄文あり
916	380	357	包含層	8区	—	平坦地区３層	縄文土器	深鉢						8.5	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	口縁部に斜線文あり　波状口縁
917	380	357	包含層	2区	—	平坦地区３層	縄文土器	深鉢						8.0	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　黒曜石	良好	貝殻擬似縄文と沈線文様あり
918	380	354	包含層	6区	—	平坦地区３層	縄文土器	深鉢						16.6	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/3）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	波状口縁？　口縁部に貝殻擬似縄文と沈線文様あり
919	380	354	包含層	6区	—	平坦地区３層	縄文土器	深鉢			（41.0）			19.0	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	貝殻擬似縄文と沈線文様あり
920	381	354	包含層	6区	—	平坦地区３層	縄文土器	深鉢						34.3	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/3）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	貝殻擬似縄文と沈線文様あり
921	381	358	包含層	6区	—	平坦地区３層	縄文土器	皿形土器						1.9	ナデ	ナデ	橙（5YR7/6）	橙（5YR6/6）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	口縁端部に貝殻擬似縄文がみられる
922	381		包含層	1区	—	平坦地区３層	縄文土器	浅鉢						11.0	ナデ　ミガキ　条痕	ナデ	灰褐（7.5YR5/2）	にぶい褐（7.5YR5/3）	長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	
923	381	355	包含層	1区	—	平坦地区３層	縄文土器	椀形土器	（18.3）	10.4		7.1			ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/3）	長石　角閃石　黒色粒	良好	山形突起あり　手捏ね状のつくり
924	381	358	包含層	7区	—	平坦地区３層	縄文土器	鉢						10.1	ナデ　ケズリ	ナデ　ケズリ	黒褐（10YR3/1）	黒褐（10YR3/1）	石英　長石　角閃石	良好	外面にスス付着　組織痕土器

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
925	382		包含層	7区	—	平坦地区3層	弥生土器	高坏	(24.3)					13.7	ヨコナデ　ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/4）明赤褐（2.5YR5/8）	浅黄橙（10YR8/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	口縁部に赤色顔料痕あり　内面脚部に絞り痕あり　丹塗り土器
926	382		包含層	1区	—	平坦地区3層	弥生土器	高坏	(26.0)					8.5	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ	浅黄橙（10YR8/3）赤褐（2.5YR4/8）	浅黄橙（10YR8/3）赤褐（2.5YR4/8）	長石　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料塗布　外面に工具痕あり　丹塗り土器
927	382		包含層	1区	—	平坦地区3層	弥生土器	高坏		15.8				5.2	ナデ後ミガキ　ヨコナデ	ナデ　ヨコナデ	にぶい黄橙（7.5YR7/3）赤褐（2.5YR4/6）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　雲母　ザクロ石	良好	外面に赤色顔料塗布　底部に黒斑あり　丹塗り土器
928	382	368	包含層	1区	—	平坦地区3層	弥生土器	壺	(20.4)					8.4	ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ハケメ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）明赤褐（2.5YR5/6）	にぶい黄橙（10YR7/2）明赤褐（2.5YR5/6）	長石　角閃石　黒曜石	良好	外面口縁部に放射線状の暗文あり　内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
929	382		包含層	7区	—	平坦地区3層	弥生土器	壺	(21.8)					5.7	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	外面口縁部に暗文あり
930	382		包含層	7区	—	平坦地区3層	弥生土器	壺	(24.0)					8.0	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ後ミガキ	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒	良好	外面口縁部に暗文あり
931	382	369	包含層	1区	—	平坦地区3層	弥生土器	壺						9.1	ヨコナデ　ハケメ	ナデ	暗灰（N 3/0）	暗灰（N 3/0）	長石　角閃石	良好	鍵の手突帯文あり　1条の刻み目突帯文あり　内、外面に黒斑あり
932	383	368	包含層	1区	—	平坦地区3層	弥生土器	器台		(13.7)				14.1	ハケメ　ハケメ後ヨコナデ　ナデ	ハケメ　ナデ	橙（7.5YR6/6）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　雲母　角閃石	良好	底部端部に沈線あり　内面に指頭圧痕あり
933	383		包含層	1区	—	平坦地区3層	弥生土器	器台						4.6	ヨコナデ	ヘラケズリ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　赤褐色粒　黒色粒	良好	2条の突帯文あり
959	387		包含層	1区	—	平坦地区2b層	縄文土器	深鉢						4.1	ナデ	条痕　ナデ	明赤褐（5YR5/6）	橙（5YR6/6）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	波状口縁　内、外面に山形押型文あり
960	387	361	包含層	1区	—	平坦地区2b層	縄文土器	深鉢						7.0	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	波状口縁　貝殻擬似縄文と沈線文様あり
961	387	口絵-8	包含層	2区	—	平坦地区2b層	縄文土器	深鉢	(26.7)	10.5	(28.0)	18.3			ミガキ　条痕後ナデ　ナデ後ミガキ　ナデ	ナデ　ナデ後ミガキ	にぶい赤褐（5YR5/4）	黄灰（2.5Y4/1）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	口縁部にリボン状突起あり　貝殻擬似縄文と刺突列点文あり
962	387	361	包含層	6区	—	平坦地区2b層	縄文土器	深鉢						11.2	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁部に貝殻擬似縄文と沈線文様あり
963	387	361	包含層	6区	—	平坦地区2b層	縄文土器	深鉢						9.5	ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	波状口縁　口縁部に貝殻擬似縄文と沈線文様あり
964	387	361	包含層	2区	—	平坦地区2b層	縄文土器	深鉢						7.7	ナデ	ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　褐色粒	良好	口縁部に2条の凹線とその下部に短斜線文あり
965	387	356	包含層	8区	—	平坦地区2b層	縄文土器	深鉢						4.8	ナデ	条痕	灰黄（2.5Y7/2）	灰（5Y4/1）	長石　角閃石	良好	波状口縁　口縁部に鋸歯状沈線文あり
966	388	356	包含層	2区	—	平坦地区2b層	縄文土器	深鉢						9.3	ナデ	ナデ　ケズリ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	貝殻擬似縄文と沈線文様あり
967	388		包含層	1区	—	平坦地区2b層	縄文土器	深鉢	(45.8)		(48.8)			23.5	ナデ　ミガキ	ナデ	にぶい褐（7.5YR5/3）	灰黄褐（10YR4/2）	長石　角閃石　褐色粒	良好	口縁部に1条の凹線あり　外面屈曲部に界線あり
968	388	356	包含層	2区	—	平坦地区2b層	縄文土器	深鉢						7.6	ナデ　ミガキ	ナデ　ミガキ	灰黄褐（10YR6/2）	灰黄褐（10YR6/2）	長石　角閃石　褐色粒	良好	口縁部に2条の沈線あり　山形突起あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
969	388	356	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						9.2	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい褐（7.5YR5/3）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	口縁部に２条の凹線あり　屈曲部に界線あり
970	388	356	包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						6.5	ミガキ	ミガキ	灰黄褐（10YR5/2）	褐灰（10YR5/1）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	２条の凹線の間に凹点文あり
971	388		包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢		5.4				12.1	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	浅黄（2.5Y7/3）	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒　黒色粒	良好	外面底部付近に指頭圧痕あり
972	389	364	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						6.0	調整不明	ミガキ	灰黄褐（10YR6/2）	灰黄褐（10YR5/2）	石英　長石　角閃石　黒曜石　褐色粒	良好	口縁部に1条の沈線あり　山形突起あり
973	389	364	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						5.4	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁部に２条の凹線あり
974	389	360	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢	44.2					23.4	ナデ　条痕後ナデ	ナデ　条痕後ナデ	灰白（2.5Y7/1）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁部に３条の沈線あり
975	389	359	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢	（19.8）		19.1			14.5	ミガキ	ナデ	灰黄（2.5Y6/2）	灰黄（2.5Y6/2）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	波状口縁
976	389	364	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢	（25.2）					3.8	ヨコナデ後ミガキ	ヨコナデ後ミガキ	黒褐（10YR3/1）	黒褐（10YR3/1）	長石	良好	口縁部に１条の沈線あり
977	390	359	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢	（39.2）					16.0	ナデ　ミガキ	ナデ　ミガキ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	石英　長石　角閃石	良好	口縁部に３条の沈線あり　外面に工具痕あり
978	390	359	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢	（32.0）					18.4	ミガキ	ミガキ	明赤褐（2.5YR5/8）	明赤褐（2.5YR5/8）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁部に３条の沈線あり
979	390	359	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢	（35.4）					21.3	ヨコナデ　ナデ　ミガキ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁部に３条の沈線あり　工具痕あり
980	391		包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢	（15.4）		（18.6）			11.0	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	長石　角閃石	良好	口縁部に２条の沈線あり
981	391	364	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						8.4	ナデ	ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	黄灰（2.5Y4/1）	長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	口縁部に３条の沈線あり　口縁部下に穿孔あり
982	391		包含層	7区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢			（24.4）			16.7	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	灰褐（7.5YR6/2）	石英　角閃石　雲母	良好	口縁部に２条の沈線あり　外面屈曲部に界線あり
983	391	364	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						5.1	ヨコナデ	ヨコナデ	橙（7.5YR7/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁部に４条の沈線あり　工具痕あり
984	391	364	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						10.4	ナデ　条痕後ナデ後ミガキ	条痕後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	口縁部に４条の沈線あり
985	391	364	包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						7.3	ナデ　条痕後ミガキ	ミガキ	暗灰黄（2.5Y5/2）	暗灰黄（2.5Y5/2）	長石　角閃石　雲母	良好	口縁部に４条の沈線あり
986	391		包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	椀形土器？						5.2	条痕後ナデ	条痕後ナデ	灰黄褐（10YR5/2）	にぶい黄橙（10YR6/3）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
987	392		包含層	6区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						18.5	ナデ　条痕後ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石　黒曜石	良好	
988	392	359	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢		8.5	（48.0）			32.0	ナデ　ケズリ	ナデ	灰白（2.5Y7/1）	灰白（2.5Y7/1）	長石　角閃石　褐色粒	良好	外面屈曲部に界線あり
989	392	363	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						6.8	ナデ	ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）	にぶい橙（7.5YR7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
990	392		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						6.1	ナデ	ナデ	褐灰（10YR5/1）	にぶい黄橙（10YR6/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
991	392	363	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						8.0	ヨコナデ　条痕	ナデ	にぶい黄橙（10YR5/3）	黒（10YR2/1）	長石　角閃石	良好	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
992	392		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						14.7	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい橙（7.5YR7/3）	石英　長石　角 閃石　雲母　黒 曜石　赤褐色粒	良好	
993	393	359	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢	（21.4）	（7.7）		21.0			ナデ	ナデ	灰褐（7.5YR5/2）	灰褐（7.5YR6/2）	長石　角閃石 赤褐色粒	良	外面にスス付着
994	393	363	包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						9.3	ナデ	ナデ	灰黄（2.5Y6/2）	橙（7.5YR6/6）	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	2条の沈線あり
995	393	363	包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						5.7	ナデ　条痕後ナデ　条痕	条痕	浅黄（2.5Y7/3）	黒（7.5Y2/1）	長石　角閃石	良好	1条の沈線あり
996	393	359	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢	（30.0）					31.2	ナデ　ナデ後ミガキ	ナデ　条痕後ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角 閃石　雲母　赤 褐色粒	良好	
997	393	363	包含層	6区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						6.0	ナデ　条痕後ナデ	条痕後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	外面口縁部にスス付着
998	393	363	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						5.1	ナデ　条痕	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	2条の沈線あり
999	394		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						19.2	ナデ　条痕	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	
1000	394		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						16.4	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石 黒色粒　赤褐色 粒	良好	
1001	394	363	包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						15.3	ミガキ　条痕	ミガキ	橙（7.5YR6/6）	暗灰（N 3/0）	長石　角閃石	良好	
1002	394		包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢		11.6				3.1	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　角閃石	良好	内面底部に指頭圧痕あり
1003	394		包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢		10.2				3.2	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	浅黄橙（10YR8/4）	長石　角閃石	良好	底部に圧痕あり
1004	394		包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						5.7	ムシロ目	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	外面にスス付着　組織痕土器
1005	394		包含層	6区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						2.0	網目痕	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角 閃石　赤褐色粒	良好	
1006	394		包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						3.9	ナデ	ナデ	灰黄褐（10YR6/2）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角 閃石　雲母	良好	山形突起あり　沈線の間に凹点文あり
1007	394		包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						3.4	貝殻条痕	貝殻条痕	明赤褐（2.5YR5/6）	明赤褐（2.5YR5/6）	石英　長石　角 閃石	良好	口縁部に刻み目痕あり
1008	394	362	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	深鉢						5.3	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	灰黄褐（10YR4/2）	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	口縁部に2条の凹線あり
1009	395	367	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	浅鉢		8.3	（19.3）			9.9	ミガキ　ナデ	ミガキ後ナデ	にぶい黄橙（10YR6/4）	灰黄褐（10YR5/2）	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	斜線文あり　磨消縄文がみられる
1010	395		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	浅鉢	（33.0）		（36.6）			14.2	ナデ	ナデ	暗灰黄（2.5YR4/2）	灰黄（2.5YR4/1）	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	口縁部に2条の沈線あり　山形突起あり
1011	395	362	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	浅鉢	（36.2）					8.5	ヨコナデ　ミガキ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/2）	石英　長石　角 閃石　雲母	良好	口縁部に2条の凹線あり　外面に界線あり
1012	395	362	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	浅鉢						6.9	ナデ	ナデ	橙（5YR7/6）	橙（5YR7/6）	石英　長石　角 閃石　黒曜石 赤褐色粒	良好	口縁部に2条の凹線あり　外面屈曲部に界線あり
1013	395	362	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	浅鉢						4.5	ナデ	ナデ	暗灰黄（2.5Y5/2）	灰黄褐（10YR5/2）	長石　角閃石 褐色粒	良好	口縁部に2条の沈線あり
1014	395	362	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	縄文土器	浅鉢						2.8	ヨコナデ	ヨコナデ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	長石　角閃石	良好	口縁部に2条の凹線あり　スス付着　指頭圧痕あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1015	396	367	包含層	1区	—	平坦地区２b層	縄文土器	浅鉢	(16.6)	(4.0)		6.0			ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	灰褐(7.5YR5/1)	灰褐(7.5YR4/2)	長石　角閃石	良好	
1016	396	365	包含層	2区	—	平坦地区２b層	縄文土器	浅鉢						8.3	ナデ	ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	灰褐(7.5YR6/2)	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	口縁部に１条の沈線あり　山形突起の下に凹点文あり　外面屈曲部に界線あり
1017	396	365	包含層	2区	—	平坦地区２b層	縄文土器	浅鉢						9.7	ナデ　条痕	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	灰黄褐(10YR4/2)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面屈曲部に界線あり
1018	396	365	包含層	2区	—	平坦地区２b層	縄文土器	浅鉢						6.4	ヨコナデ　ナデ後ミガキ	ミガキ　ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	灰黄褐(10YR5/2)	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	山形突起の下に凹点文あり　刻み目痕あり　口縁部に１条の沈線あり
1019	396	365	包含層	7区	—	平坦地区２b層	縄文土器	浅鉢						6.1	ミガキ	ミガキ	黒褐(2.5Y3/1)	黒褐(2.5Y3/1)	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒	良好	
1020	396	365	包含層	2区	—	平坦地区２b層	縄文土器	浅鉢						7.4	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
1021	396	365	包含層	8区	—	平坦地区２b層	縄文土器	浅鉢						3.3	ナデ	ナデ	褐(7.5YR4/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英　長石　角閃石	良好	
1022	396	365	包含層	8区	—	平坦地区２b層	縄文土器	浅鉢						2.6	ミガキ	ミガキ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶい黄橙(10YR7/2)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁部に１条の沈線あり
1023	396	366	包含層	1区	—	平坦地区２b層	縄文土器	浅鉢						3.0	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁部に1条の沈線あり　山形突起あり
1024	396	366	包含層	8区	—	平坦地区２b層	縄文土器	浅鉢						4.4	ミガキ	ミガキ	にぶい黄(2.5Y6/3)	暗灰(N 3/0)	長石　角閃石	良好	口縁部に１条の沈線あり
1025	396	366	包含層	2区	—	平坦地区２b層	縄文土器	浅鉢						3.6	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　褐色粒	良好	口縁部に２条の沈線あり
1026	396	366	包含層	8区	—	平坦地区２b層	縄文土器	浅鉢						4.2	ミガキ	ミガキ	黒褐(2.5Y3/1)	黒褐(2.5Y3/1)	長石　角閃石　雲母	良好	口縁部に平行でない沈線が外面に３～５条、内面に４～６条あり
1027	396	366	包含層	8区	—	平坦地区２b層	縄文土器	浅鉢						5.3	ミガキ	ミガキ	灰黄(2.5Y6/2)	灰黄(2.5Y6/2)	長石　角閃石	良好	
1028	397	366	包含層	8区	—	平坦地区２b層	縄文土器	浅鉢						4.2	ミガキ	ミガキ	黄灰(2.5Y4/1)	灰白(2.5Y7/1)	長石　角閃石	良好	リボン状突起あり
1029	397	366	包含層	8区	—	平坦地区２b層	縄文土器	浅鉢						3.4	ミガキ	ミガキ	暗灰黄(2.5Y5/2)	灰黄(2.5Y6/2)	長石　角閃石	良好	鰭状突起あり
1030	397	367	包含層	2区	—	平坦地区２b層	縄文土器	坏形土器	(14.9)	(7.0)		8.4			ナデ　条痕	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	長石　角閃石	良好	外面に工具痕あり　波状口縁？
1031	398	373	包含層	1区	—	平坦地区２b層	弥生土器	高坏	26.3					7.0	ヨコナデ　ミガキ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	口縁部に黒斑あり　内、外面坏部に赤色顔料痕あり　丹塗り土器
1032	398	373	包含層	1区	—	平坦地区２b層	弥生土器	高坏	22.9					7.4	ヨコナデ　ハケメ後ナデ後ミガキ　ハケメ	ヨコナデ　ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	長石　角閃石　赤褐色粒　白色粒（軽石）	良好	内、外面に指頭圧痕あり　赤色顔料痕あり　口縁端部に黒斑あり　丹塗り土器
1033	398		包含層	6区	—	平坦地区２b層	弥生土器	高坏	(26.6)					6.1	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)赤(10R4/8)	にぶい橙(7.5YR7/4)赤(10R4/8)	長石　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料塗布　口縁部に黒斑あり　丹塗り土器
1034	398		包含層	7区	—	平坦地区２b層	弥生土器	高坏	(26.3)					3.8	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	浅黄橙(10YR8/3)赤褐(2.5YR4/8)	赤褐(2.5YR4/8)	長石　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1035	398	373	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	高坏	(30.0)					8.6	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)赤褐(2.5YR4/8)	にぶい黄橙(10YR7/3)赤褐(2.5YR4/8)	石英　長石　角閃石　雲母	良好	内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
1036	398		包含層	2区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	高坏	(23.0)					5.5	ナデ　ハケメ後ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)赤褐(5YR4/6)	にぶい黄橙(10YR7/3)赤褐(5YR4/6)	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒	良好	内、外面に赤色顔料塗布　口縁部に黒斑あり　丹塗り土器
1037	398		包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	高坏	(26.5)					6.2	ヨコナデ　ナデ　ハケメ	ヨコナデ　調整不明	にぶい橙(7.5YR7/3)明赤褐(2.5YR5/8)	にぶい橙(7.5YR7/3)明赤褐(2.5YR5/8)	石英　長石　角閃石　雲母　黒曜石	良好	内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
1038	398		包含層	8区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	坏	(19.8)					5.7	ナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ　ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)赤褐(5YR4/6)	にぶい黄橙(10YR7/3)明赤褐(5YR5/6)	長石　角閃石	良好	内面に指頭圧痕あり　内、外面口縁部に赤色顔料痕あり　丹塗り土器
1039	399	373	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	高坏		17.5				15.6	ハケメ後ナデヨコナデ	ナデ　ヨコナデ	橙(2.5YR7/8)にぶい赤褐(2.5YR4/4)	橙(2.5YR7/8)浅黄(2.5Y7/3)	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　褐色粒	良好	外面に赤色顔料塗布　内面底部、外面脚部に黒斑あり　絞り痕あり　丹塗り土器
1040	399	373	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	高坏		19.2				3.2	ヨコナデ後ナデミガキ	ヨコナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)赤褐(2.5YR4/8)	浅黄橙(7.5YR8/3)	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面に赤色顔料塗布　内面に赤色顔料痕あり　丹塗り土器
1041	399	373	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	高坏						19.3	ヘラミガキ	ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	内面脚部に指頭圧痕あり
1042	399	373	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	高坏		(13.9)				7.5	ヨコナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)明赤褐(2.5YR5/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)明赤褐(2.5YR5/6)	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒　黒色粒	良好	内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
1043	399		包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	高坏						7.1	ナデ		浅黄橙(7.5YR8/4)赤褐(2.5YR4/6)	褐灰(7.5YR4/1)	長石　角閃石　黒曜石	良好	M字突帯文が柱状部外面をめぐる　外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器　内面に絞り痕あり
1044	400		包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	甕	(29.4)					6.2	ヨコナデ　ナデ後ミガキ	ヨコナデ　ナデ	赤褐(2.5YR4/8)	にぶい橙(7.5YR7/4)明赤褐(5YR5/6)	長石　雲母	良好	口縁部上面に放射線状の暗文あり　内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
1045	400		包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	甕	(29.8)					9.6	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	橙(5YR7/6)赤(10R5/8)	橙(5YR7/6)	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　丹塗り土器
1046	400		包含層	2区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	甕	(25.5)					4.4	ヨコナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)赤褐(2.5YR4/8)	にぶい黄橙(10YR7/4)赤褐(2.5YR4/8)	石英　長石　雲母	良好	内、外面に赤色顔料塗布
1047	400		包含層	2区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	甕	(38.6)					5.4	ヨコナデ	ヨコナデ　ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	１条の突帯文あり　口縁部に黒斑あり
1048	401		包含層	2区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	甕	(53.4)					16.2	ヨコナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)明赤褐(5YR5/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)明赤褐(5YR5/6)	石英　長石　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　内面にスス付着　１条の突帯文あり
1049	401	371	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	甕	(25.0)		(23.4)			23.7	ヨコナデ　ハケ後ヨコナデ	ヨコナデ　ハケ後ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英　長石　角閃石　黒曜石	良好	外面胴部に１条の沈線あり　外面に黒斑あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1050	401	371	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	甕	28.5		25.7			22.7	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　雲母　角閃石	良好	外面にスス付着　外面胴部に1条の沈線あり
1051	402	371	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	甕	（25.8）		（24.0）			27.3	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	明赤褐（2.5YR5/6）	黒褐（7.5YR3/1）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内面に黒斑あり　外面に被熱による赤色化あり
1052	402		包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	甕	（27.3）		（25.4）			19.2	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	褐黄灰（10YR5/2）	灰黄（2.5Y7/2）	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒　黒色粒	良好	外面胴部に被熱による赤色化あり
1053	402		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	甕	（26.5）					8.9	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	浅黄橙（7.5YR8/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　黒色粒　赤褐色粒	良好	内、外面胴部にスス付着
1054	403		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	甕	（27.5）					6.6	ヨコナデ　ヨコナデ後ナデ	ヨコナデ　ヨコナデ後ナデ	橙（5YR7/6）	橙（5YR7/6）	長石　角閃石　黒色粒　赤褐色粒	良好	
1055	403	371	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	甕	27.2					7.6	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	外面口縁部と胴部に黒斑あり
1056	403		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	甕	（31.0）					5.0	ナデ　ヨコナデ	ナデ	橙（7.5YR6/6）	橙（7.5YR7/6）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁端部に黒斑あり
1057	403		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	甕	（20.6）					6.2	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい黄（2.5YR6/3）	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	
1058	403		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	甕						9.8	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	灰白（2.5Y7/1）	長石　角閃石	良好	口縁部に黒斑あり
1059	403		包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	甕	（18.0）					4.0	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	浅黄（2.5Y7/3）	長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	口縁部に2ヶ所穿孔あり
1060	403	375	包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	壺	（19.0）					4.3	ハケメ	ハケメ	橙（7.5YR7/6）	にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	口縁端部に刻み目文と浮文あり　口縁部に赤色顔料痕あり　内面口縁部に黒斑あり
1061	403	371	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	甕	（10.9）	（6.2）	（10.6）	12.7			ヨコナデ　ハケメ後ミガキ　ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）明赤褐（2.5YR5/6）	にぶい黄橙（10YR6/4）明赤褐（2.5YR5/6）	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料塗布　内面に工具痕あり　丹塗り土器
1062	404		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	壺？		9.3				24.3	ハケメ後ナデ　ナデ	ハケメ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり　内面に指頭圧痕あり
1063	404		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	壺？		11.1				12.3	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石	良好	内、外面にスス付着　外面に黒斑あり　被熱による赤色化あり
1064	404		包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	壺？		13.1				9.5	ハケメ　ナデ	ハケメ後ナデ指ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）にぶい橙（7.5YR7/3）	明赤褐（5YR5/6）にぶい橙（7.5YR7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に黒斑あり
1065	404		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	壺？		9.0				7.1	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	浅黄橙（10YR8/4）	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	内面に黒斑あり
1066	404		包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	壺？		11.8				8.5	ミガキ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	橙（7.5YR7/6）	石英　長石　角閃石	良好	内面に指頭圧痕あり
1067	405	371	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	甕		（6.2）	（24.4）			36.2	ハケメ後ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	灰（5Y5/1）	石英　長石　雲母　角閃石	良好	内、外面にスス付着
1068	405		包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	甕		6.8				5.9	ハケメ後ナデ　ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	橙（7.5YR7/6）	石英　長石　角閃石	良好	内面にスス付着　内面脚部に黒斑あり
1069	405		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	弥生土器	甕		（5.2）				11.4	調整不明　ハケメ　ヨコナデ	調整不明	浅黄橙（10YR8/3）	黒褐（10YR3/1）	長石　角閃石	良好	内面にスス付着

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1070	405		包含層	8区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	甕		6.3				13.3	ハケメ　ナデ	調整不明　ナデ	橙（7.5YR7/6）	浅黄（2.5Y7/3）	石英　長石	良好	
1071	405		包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	甕	（49.0）					20.0	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ	浅黄橙（10YR8/3）	灰黄（2.5Y7/2）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	外面胴部に黒斑あり　頸部に突帯文あり
1072	406	370	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	甕	32.4	7.5	34.2	54.7			ナデ　ハケメ	ナデ	明赤褐（5YR5/6）	明赤褐（5YR5/6）	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	外面胴部にスス付着
1073	407	372	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	壺	（19.2）	（5.5）	（21.0）	29.2			ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石	良好	外面胴部に刻み目突帯文あり
1074	407	372	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	壺	（7.7）	6.2	（12.2）	9.1			ナデ	調整不明　ナデ	にぶい赤褐（5YR5/4）明赤褐（2.5YR5/6）	にぶい黄褐（10YR5/4）浅黄橙（10YR8/3）	石英　長石　角閃石　雲母　黒色粒　褐色粒	良好	広口壺　外面に赤色顔料塗布　外面胴部に黒斑あり　内面胴部から底部に鉄分付着　丹塗り土器
1075	407	372	包含層	8区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	壺	22.5	8.6	24.0	28.0			ヨコナデ　ハケメ　調整不明	ハケメ　調整不明	淡黄（2.5Y8/3）	灰白（2.5Y7/1）	長石　角閃石	良好	内、外面に黒斑あり
1076	407		包含層	2区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	壺	（12.4）		（13.7）			4.8	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	浅黄橙（10YR8/4）	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	広口壺　外面に黒斑あり　口縁部に穿孔２ヵ所あり
1077	407	372	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	壺			（15.2）			12.0	ミガキ　調整不明	ナデ	橙（5YR7/6）赤褐（2.5YR4/6）	にぶい赤褐（5YR5/4）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	長頸壺　内、外面赤色顔料塗布　外面胴部に黒斑あり　内面に指頭圧痕あり　内面に絞り痕あり　丹塗り土器
1078	408	372	包含層	8区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	壺		7.2	（33.4）			35.1	ハケメ　ヨコナデ　ナデ	ナデ　ハケメ	浅黄橙（10YR8/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石	良	胴部に２条の突帯文あり　内面胴部に指頭圧痕あり　外面に黒斑と赤色顔料痕あり
1079	408	372	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	壺	（35.4）					14.2	ヨコナデ　ヨコナデ後ハケメ	ヨコナデ　ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）赤褐（2.5YR4/6）	にぶい橙（7.5YR7/4）赤褐（2.5YR4/6）	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
1080	408		包含層	2区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	壺	（27.9）					4.8	調整不明	調整不明	にぶい橙（7.5YR7/3）	灰黄（2.5Y7/2）	石英　雲母　褐色粒　黒色粒	良好	外面口縁部に暗文あり　内、外面に黒斑あり
1081	408		包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	壺						6.8	ナデ　ハケメ後ナデ　ハケメ後ヨコナデ	ナデ　ハケメ後ナデ	橙（2.5YR6/8）	橙（2.5YR6/8）	長石　角閃石	良好	口縁端部に焼成後に入れた切れ込みあり　外面に櫛描文あり
1082	409		包含層	2区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	壺		9.1				10.1	ナデ	ナデ	橙（2.5YR6/6）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり　内面底部に指頭圧痕あり
1083	409	372	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	鉢	16.4			7.4			ナデ　ハケメ	ナデ　ヘラケズリ後ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	外面にスス付着
1084	409	374	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	把手状土器						6.4	ハケメ　ナデ　指押さえ	ナデ　指押さえ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり　長さ11.8cm　幅7.1cm
1085	409	374	包含層	2区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	把手	（18.0）					5.5	ハケメ後ナデ　ヨコナデ	ナデ　ヨコナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
1086	409		包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	器台						5.1	ヨコナデ　ハケメ	ナデ	浅黄橙（7.5YR8/6）明赤褐（2.5YR5/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器　筒形器台
1087	409	374	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	弥生土器	器台	（11.2）					15.0	ナデ　ハケメ後ヨコナデ	ナデ　ハケメ後ナデ	橙（2.5YR6/8）浅黄橙（7.5YR8/6）	橙（2.5YR6/8）浅黄橙（7.5YR8/6）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	赤色顔料痕あり　内面に工具痕と絞り痕あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1088	410	378	包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	坏	(10.9)			3.4			ナデ	ナデ　調整不明	にぶい黄橙(10YR7/2)	灰白(10YR8/2)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面口縁部に指頭圧痕あり
1089	410		包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	坏	(12.0)					6.5	ナデ　ハケメ	ナデ　ハケメ後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英　長石　角閃石	良好	内、外面に黒斑あり
1090	410	378	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	坏	14.1			4.8			ヘラケズリ後ナデ	ナデ	浅黄橙(7.5YR8/6)	黄橙(7.5YR7/8)	石英　長石　角　閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
1091	410	378	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	台付坏	(12.5)	9.5		8.9			ナデ　ヨコナデ	ナデ　ミガキ	赤褐(2.5YR4/6)	にぶい赤褐(2.5YR4/4)	石英　長石　角　閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　内、外面台部に工具痕あり　内面に絞り痕あり
1092	410	378	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	台付鉢	11.2	8.8		9.1			ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ケズリ後ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい燈(7.5YR7/4)	にぶい燈(7.5YR7/4)	石英　雲母　角　閃石　赤色粒	良好	口縁部に黒斑あり
1093	410	378	包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	台付坏		(7.8)				3.6	ヨコナデ	調整不明　ナデ　ヨコナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
1094	410	378	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	台付坏	8.4	(4.5)		4.0			ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい橙(10YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英　長石　雲母　角閃石	良好	台部に指頭圧痕あり
1095	410	378	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	高坏	(17.4)	(11.6)		13.1			ナデ　ハケメ　ミガキ	ナデ　ハケメ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	石英　長石　角　閃石　黒色粒　褐色粒	良好	内面脚部に布目痕あり
1096	410	378	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	高坏	16.5	(12.5)		12.6			ナデ　ハケメ後ナデ　ナデ後ヘラミガキ	ナデ　ハケメ後ナデ　ヘラケズリ	橙(5YR7/8)	橙(5YR6/6)	石英　雲母　角　閃石	良好	
1097	410	378	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	高坏	(18.7)					5.4	ヨコナデ　ヘラケズリ	ヨコナデ　ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり
1098	411	376	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	甕	16.3		27.5	29.5			ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	長石　雲母　角　閃石	良好	内、外面ににスス付着
1099	411	376	包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	甕	16.8		20.8	23.9			ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	灰(5Y5/1)	長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	内面底部に指頭圧痕あり　外面底部は被熱による赤色化あり
1100	411	376	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	甕	15.0		19.9	21.8			ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ　ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英　長石　雲母　赤褐色粒	良好	内面底部に指頭圧痕あり　外面胴部に黒斑、底部にスス付着　工具痕あり
1101	412	376	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	甕	15.4		21.9			22.4	ナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ナデ　ケズリ	にぶい黄褐(10YR7/4)	橙(5YR6/6)	石英　長石　角　閃石　黒曜石	良好	外面全体に黒斑あり
1102	412	376	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	甕	(15.0)	(21.0)				15.9	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/6)	石英　長石　雲母　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　外面にスス付着
1103	412	376	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	甕	17.4		(22.8)			13.5	ヨコナデ　タタキ後ナデ	ケズリ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面にスス付着
1104	412		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	甕	(14.2)		(19.7)			14.3	調整不明	調整不明　ケズリ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	石英　長石　角　閃石　雲母	良好	外面にスス付着　被熱による赤色化あり
1105	412	376	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	甕	(16.5)					9.0	ヨコナデ　タタキ後ナデ	ヨコナデ　ケズリ後ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	石英　雲母　角　閃石　赤褐色粒	良好	
1106	412		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	甕	(17.6)					8.8	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	石英　長石　角　閃石　雲母　褐色粒	良好	
1107	412		包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	甕	(26.0)					6.4	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ　ケズリ後ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/4)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1108	412		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	甕	(16.7)					5.7	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	橙(5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒　黒色粒	良好	口縁部にスス付着　内面に工具痕あり
1109	413		包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	甕	(15.1)		(17.9)			10.4	ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ハケメ　ヘラケズリ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	長石　角閃石　雲母	良好	
1110	413	377	包含層	7区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	壺	17.4		(28.2)	32.8			ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/3)	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　胴部にスス付着　被熱による赤色化あり　内、外面に黒斑あり
1111	413	377	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	壺		3.7	(23.6)			26.5	ナデ　タタキ後ハケメ	ヘラケズリ後ナデ	灰褐(7.5YR5/2)	褐(7.5YR4/3)	石英　長石　雲母　角閃石	良好	外面底部に指頭圧痕あり
1112	413		包含層	6区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	壺						6.6	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白(2.5Y8/2)	灰白(2.5Y8/2)	長石　赤褐色粒　黒色粒	良	口縁部に波状の線描き文様あり　内、外面に工具による凹線あり
1113	413		包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	壺						14.8	ハケメ	ハケメ	にぶい橙(7.5YR6/4)	褐灰(7.5YR4/1)	石英　長石　雲母　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	1条の突帯文あり　内面に指頭圧痕あり
1114	414	377	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	壺			16.8			13.0	ナデ　ミガキ	ナデ　ミガキ	灰黄(2.5Y7/2)	暗灰黄(2.5Y5/2)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	長頸壺？　外面に黒斑あり
1115	414		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	壺	(14.3)					5.1	ヨコナデ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ　ナデ	明黄褐(10YR7/4)	明黄褐(10YR7/4)	石英　長石　角閃石　雲母　褐色粒　黒色粒	良好	内面頸部に黒斑あり
1116	414		包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	複合口縁壺						3.4	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙(10YR8/3)	灰白(2.5Y8/2)	石英　長石　雲母	良好	
1117	414	377	包含層	7区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	複合口縁壺	(29.4)					10.0	ヨコナデ　ナデ後ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり
1118	414	377	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	複合口縁壺	22.6					4.4	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	内面口縁部にスス付着
1119	414		包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	複合口縁壺	(17.9)					4.5	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ　ハケメ後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英　角閃石　雲母	良	外面口縁部に黒斑あり
1120	414	379	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	台付小形壺	11.6		10.1			8.9	ヨコナデ　ハケメ　ナデ	ハケメ　ナデ　ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英　長石　雲母　角閃石	良好	
1121	414	379	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	鉢	11.4			5.0			ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	褐灰(10YR5/1)	褐灰(10YR4/1)	石英　長石　角閃石　赤色粒	良	内、外面に黒斑と指頭圧痕あり
1122	414	379	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	鉢	(13.7)	(3.7)		10.6			ヨコナデ後ナデ	ヨコナデ後ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	長石　角閃石　褐色粒	良好	内、外面に黒斑あり
1123	414	379	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	鉢	(19.0)		(27.0)			12.9	ナデ　ハケメ	ナデ　ケズリ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	
1124	415		包含層	7区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	甑	(27.2)					9.7	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	
1132	415	379	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	小形丸底壺	(10.1)		(7.6)	7.6			ヨコナデ　ケズリ	ヨコナデ　ナデ	明赤褐(5YR3/2)	灰褐(5YR4/2)	長石　角閃石　雲母　白色粒	良好	外面にスス付着
1133	415	379	包含層	6区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	小形丸底壺	10.1		7.1	5.5			ヨコナデ後ミガキ　ナデ	ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/3)	長石　雲母　角閃石　赤褐色粒　黒色粒	良好	内、外面に黒斑あり
1134	415	379	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	小形丸底壺	(7.9)		9.9	8.8			ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面底部に黒斑あり
1135	415	379	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	小形丸底壺	6.0		(7.5)	8.5			ナデ　ハケメ後ミガキ	ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1136	415	379	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	小形丸底壺	(10.1)		(10.2)	7.6			ナデ　ハケメ後ナデ　ハケメ	ナデ　ケズリ	橙(2.5YR6/8)	橙(2.5YR6/8)	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	
1137	415	379	包含層	7区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	小形丸底壺	(8.6)		(9.2)	9.8			ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ケズリ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	長石　角閃石　褐色粒	良好	
1138	415	379	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	小形丸底壺	11.4		10.7	8.6			ヨコナデ　ヘラケズリ後ナデ	ヨコナデ　ヘラケズリ後ナデ　ミガキ	明赤褐(5YR5/8)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英　長石　角閃石	良好	外面底部に黒斑あり　内面に工具痕あり
1139	415	379	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	小形丸底壺	10.0		12.9			12.3	ナデ　ハケメ	ナデ　ハケメ	橙(7.5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR7/3)	石英　長石　角閃石	良好	外面胴部に黒斑あり
1140	415	379	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	小形丸底壺	(12.4)		(12.1)	9.6			ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい褐(7.5YR5/3)	長石　角閃石　白色粒	良好	外面に指頭圧痕あり
1141	415		包含層	2区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	甕	(12.8)		(13.1)			6.7	ヨコナデ　ヨコナデ後ナデ	ヨコナデ　ヨコナデ後ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	長石　角閃石　黒色粒	良好	外面口縁部から胴部にかけて黒斑あり　内面口縁部に黒斑あり　小形甕
1142	416	379	包含層	2区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	小形丸底鉢	(11.3)		(9.9)	5.1			ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	黄橙(10YR8/6)	にぶい黄橙(10YR7/3)	長石　角閃石　黒色粒	良好	内、外面に黒斑あり
1143	416	379	包含層	6区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	小形「く」字口縁鉢	16.4		13.3	5.9			ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ミガキ	浅黄橙(10YR8/4)	橙(5YR6/8)	石英　長石　角閃石　黒曜石	良好	内面胴部に工具痕あり　内、外面に赤色顔料痕あり
1144	416	380	包含層	8区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	器台	(7.9)	10.9		7.3			ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ　ハケメ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	脚部底部に黒斑あり
1145	416	380	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	器台	8.8	(12.2)		9.0			ヨコナデ後ミガキ　ヨコナデ	ヨコナデ後ミガキ　ナデ後ミガキ　ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	石英　長石　雲母　角閃石	良好	穿孔４ヶ所あり
1146	416	380	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	器台		10.0				6.2	ハケメ後ナデ　ナデ	ハケメ後ナデ　ナデ	明赤褐(2.5YR5/6)	橙(7.5YR7/6)	石英　長石	良好	外面に赤色顔料痕あり
1147	416	380	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	器台		(29.2)				9.5	タタキ　ヨコナデ　ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/2)	にぶい黄橙(10YR7/2)	石英　長石　雲母　褐色粒　黒色粒	良好	内面に工具痕あり　黒斑あり
1148	417		包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層		手捏ね	(6..0)	(3.6)		4.3			指押さえ	指押さえ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	長石　雲母　白色粒　赤褐色粒	良好	
1149	417		包含層	6区	—	平坦地区２ｂ層		手捏ね	(6.0)	(2.0)		1.4			指押さえ	指押さえ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	長石　角閃石　黒色粒	良好	底部に黒斑あり
1152	418	382	包含層	2区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	坏	12.2	6.2		4.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内面に黒斑あり
1153	418	382	包含層	2区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	坏	(11.7)	5.5		4.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　回転ナデ後ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
1154	418	382	包含層	8区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	坏	11.2	7.3		3.9			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	角閃石　雲母　赤褐色粒　白雲母	良好	
1155	418	382	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	坏	(9.6)	6.5		3.7			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	明赤褐(2.5YR5/8)	明赤褐(2.5YR5/8)	石英　長石　雲母　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
1156	418	382	包含層	2区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	坏		5.0				3.1	回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
1157	418	382	包含層	2区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	坏	(11.7)	(5.2)		3.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	
1158	418	382	包含層	6区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	坏	(11.1)	7.3		3.2			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　回転ナデ後ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	石英　長石　赤褐色粒	良好	外面底部に指頭圧痕あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1159	418	382	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	坏	(11.8)	(7.0)		3.4			回転ナデ後ナデ ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ後ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	内、外に黒斑あり
1160	418	382	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	坏	14.1	9.3		3.2			ヨコナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	ヨコナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	長石　角閃石 黒色粒	良	内、外面に赤色顔料痕あり
1161	418	382	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	坏	11.3	5.2		2.2			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	石英　長石　赤褐色粒	良好	内面に黒斑あり
1162	418		包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	坏	(14.5)	(8.8)		5.0			ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	
1163	418	385	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	坏		(10.0)				1.2	ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	ナデ	にぶい橙 (5YR6/4)	にぶい橙 (5YR6/4)	長石　雲母　赤褐色粒	良好	外面底部に刻書あり
1164	418	382	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	坏	11.4	7.5		2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英　長石　褐色粒	良好	重ね焼きの跡が見られる　灯明皿として使用
1165	418	382	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	坏	10.6	7.0		3.0			回転ナデ　ヘラケズリ後ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白 (7.5YR8/2)	灰白 (7.5YR8/2)	石英　長石　角閃石　黒色粒　赤褐色粒	良好	内面胴部に赤色顔料痕あり　灯明皿として使用
1166	418	382	包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	坏	10.7	7.1		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英　長石　角閃石　雲母	良好	灯明皿として使用
1167	418	382	包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	須恵器	坏	12.6	7.9		3.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰 (10Y6/1)	灰 (10Y6/1)	黒色粒	良好	
1168	418	382	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	須恵器	坏	12.7	6.8		3.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ナデ	灰 (5Y6/1)	灰 (5Y6/1)	長石　雲母　赤色粒　黒色粒	良	
1169	418	382	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	椀	12.0	7.7		5.6	1.0		回転ナデ	回転ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒　黒曜石	良好	口縁部に黒斑あり
1170	418	382	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	椀	12.0	6.8		5.3	1.3		回転ナデ　ヨコナデ　ナデ	回転ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	内、外面に黒斑あり　外面にスス付着
1171	418	382	包含層	7区	—	平坦地区2ｂ層	須恵器	椀	(17.7)	9.6		8.9	0.5		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　回転ナデ後ナデ	灰白 (2.5Y8/1)	灰白 (2.5Y8/1)	長石　角閃石	不良	
1172	418	382	包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	須恵器	椀	(12.4)	6.9		4.6	0.5		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	灰 (N 6/0)	灰 (N 6/0)	長石	良好	
1173	419	381	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	蓋	(19.0)			3.3			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	赤 (10R5/8)	赤 (10R5/8)	長石　角閃石 赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料塗布
1174	419	381	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	蓋	18.0			2.1			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英　長石　雲母　褐色粒	良好	
1175	419	381	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	土師器	蓋	(26.0)					3.0	ヘラ切り離し後ナデ　回転ナデ	回転ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英　長石　雲母　角閃石　赤色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
1176	419	381	包含層	8区	—	平坦地区2ｂ層	須恵器	蓋	16.1			1.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰 (N 6/0)	灰 (N 5/0)	黒色粒	良好	
1177	419	381	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	須恵器	蓋	13.5			2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ナデ	黄灰 (2.5Y6/1)	灰黄 (2.5Y6/2)	石英　長石　黒色粒	良好	内面身込み部に指頭圧痕あり
1178	419	381	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	須恵器	蓋	(15.0)			3.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ	灰 (5Y5/1)	灰 (5Y5/1)	石英　長石　黒色粒	良好	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1179	419	381	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	須恵器	蓋	(15.1)			3.2			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　回転ナデ後ナデ	灰白(5Y8/1)	灰白(5Y8/1)	長石　雲母	良	外面に黒斑あり
1180	419	381	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	盤	15.8	12.2		2.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙(5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	石英　長石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
1181	419	381	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	盤	(18.4)	(14.8)		2.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	明赤褐(2.5YR5/6)	明赤褐(2.5YR5/6)	長石　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
1182	419		包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	甑		(11.1)				1.5	ナデ　ケズリ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英　長石　角閃石　黒曜石　褐色粒	良好	外面底部に赤色顔料痕あり　底部に穿孔が３ヶ所あり
1183	419		包含層	2区	—	平坦地区２ｂ層	土師器	把手						3.1	ナデ	ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	長石　角閃石　褐色粒	良好	甑の把手
1184	419	386	包含層	8区	—	平坦地区２ｂ層	須恵器	硯						4.3	回転ナデ	回転ナデ　ナデ　ヨコナデ	青灰(10BG6/1)	灰(N 5/0)	黒色粒	良好	すかしあり　スタンプ痕あり　円面硯
1242	431		包含層	1区	—	平坦地区２ａ層	縄文土器	深鉢						8.6	ミガキ	ミガキ	にぶい赤褐(5YR5/4)	にぶい黄褐(10YR5/3)	石英　長石　角閃石　雲母	良好	波状口縁　外面口縁部に貝殻擬似縄文と沈線文様あり　磨消縄文あり
1243	431		包含層	2区	—	平坦地区２ａ層	縄文土器	深鉢						4.5	ナデ	ナデ	褐灰(10YR4/1)	にぶい黄褐(10YR5/3)	長石　角閃石　黒色粒	良好	外面口縁部に１条の沈線あり
1244	431		包含層	8区	—	平坦地区２ａ層	縄文土器	浅鉢						3.5	ミガキ	ミガキ	灰黄(2.5Y7/2)	灰黄(2.5Y6/2)	石英　長石　角閃石　雲母	良好	外面口縁部に２条の沈線あり
1245	431		包含層	8区	—	平坦地区２ａ層	縄文土器	浅鉢						5.3	ミガキ	ミガキ	にぶい黄(2.5Y6/3)	黄灰(2.5Y5/1)	長石　角閃石	良好	内面口縁部に１条の沈線あり　リボン状突起あり
1246	431	389	包含層	1区	—	平坦地区２ａ層	弥生土器	甕		7.5	(37.5)			34.4	ハケメ　ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ハケメ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良	外面胴部に２条の刻み目突帯文あり　外面胴部に黒斑と赤色顔料痕あり
1247	431		包含層	2区	—	平坦地区２ａ層	弥生土器	甕						6.2	ナデ	ナデ　ハケメ後ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)　赤褐(2.5YR4/6)	浅黄橙(7.5YR8/4)　赤褐(2.5YR4/6)	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色	良好	内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
1248	431	390	包含層	1区	—	平坦地区２ａ層	弥生土器	壺		(13.3)	(33.0)			34.9	ミガキ　ヨコナデ　ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/2)	灰白(10YR7/1)	石英　長石　雲母	良	外面胴部に１条の刻み目突帯文と１条の突帯文あり　外面に黒斑あり
1249	432		包含層	1区	—	平坦地区２ａ層	弥生土器	把手	(18.8)					6.0	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	スス付着
1250	432	391	包含層	1区	—	平坦地区２ａ層	土師器	坏	(10.2)			3.7			ナデ　ヘラケズリ後ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	石英　長石　角閃石	良好	
1251	432	391	包含層	7区	—	平坦地区２ａ層	土師器	鉢	9.8			6.8			ハケメ後ヨコナデ　ナデ　ケズリ後ナデ	ヨコナデ　ハケメ　ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	長石　角閃石	良好	外面に黒斑あり
1252	432	391	包含層	8区	—	平坦地区２ａ層	土師器	甕	(19.0)		(26.2)			22.9	ハケメ	ハケメ	赤(10R5/6)	浅黄(2.5Y7/3)	石英　長石　角閃石　黒曜石	良好	外面頸部に指頭圧痕あり
1253	432	391	包含層	1区	—	平坦地区２ａ層	土師器	甑	(28.5)					16.0	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ後ナデ　ケズリ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/4)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
1254	432	391	包含層	7区	—	平坦地区２ａ層	土師器	器台	8.9	(12.0)		8.1			ヨコナデ　ケズリ　ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ　ケズリ	橙(7.5YR7/6)	橙(5YR6/6)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	脚部に穿孔３ヶ所あり　内面に指頭圧痕あり
1258	433	392	包含層	1区	—	平坦地区２ａ層	土師器	坏	(11.4)	7.0		3.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1259	433	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	(10.3)	6.6		4.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	
1260	433	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	11.3	6.3		4.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	
1261	433		包含層	6区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	(11.0)	6.0		4.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	
1262	433	392	包含層	6区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	11.8	6.0		4.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	
1263	433	392	包含層	6区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	10.8	6.2		4.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
1264	433	392	包含層	6区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	11.5	6.2		4.6			調整不明	回転ナデ　ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
1265	433	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	(12.9)	5.9		4.6			回転ナデ　ヘラケズリ後ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ヘラケズリ後ナデ　ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	長石　雲母　角閃石　赤色粒	良好	外面底部にヘラオコシ痕あり
1266	433		包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	(13.9)	(8.0)		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	長石　角閃石　黒色粒　赤色粒	良	内、外面に赤色顔料痕あり
1267	433	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	13.6	8.4		3.2			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	浅黄橙(7.5YR8/6)	橙(5YR7/8)	長石　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
1268	433	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	13.2	8.3		3.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
1269	433		包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	(13.6)	(7.0)		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	石英　長石　角閃石　黒色粒　赤色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
1270	433	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	(14.5)	8.7		2.9			回転ナデ ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	長石　雲母　角閃石　赤色粒	良	内、外面に赤色顔料痕あり
1271	433	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	15.9	9.8		3.8			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	石英　長石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
1272	433	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	(12.7)	7.0		3.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	石英　長石　雲母　黒曜石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
1273	433	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	13.1	8.8		3.3			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	明赤褐(2.5YR5/8)	明赤褐(2.5YR5/8)	石英　長石　雲母　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
1274	433	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	(12.5)	7.7		3.2			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙(5YR7/4)	褐灰(5YR4/1)	石英　長石　角閃石	良好	口縁部に黒斑あり
1275	433	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	13.2	9.0		3.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
1276	433		包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	12.3	6.3		3.2			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	明赤褐(5YR5/8)	明赤褐(5YR5/8)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　外面に工具による沈線あり
1277	433	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	12.0	5.5		2.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	長石　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
1278	433	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	12.3	6.5		3.1			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	橙(2.5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	長石　雲母　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1279	433	392	包含層	2区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	8.6	6.3		1.8			回転ナデ後ナデヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ後ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石褐色粒	良好	
1280	433		包含層	2区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	（15.8）	（11.2）		2.9			回転ナデ後ナデヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ後ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石褐色粒	良好	口縁部に黒斑あり
1281	433	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	（13.8）	（8.4）		2.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい橙（7.5YR7/3）	明褐灰（7.5YR7/2）	白色粒　黒色粒	良好	外面に赤色顔料痕あり
1282	433	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	11.2	7.4		3.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	全体的に赤色顔料塗布か？　灯明皿として使用　6ヶ所にわたり灯芯あり
1283	433	392	包含層	8区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	11.0	8.2		2.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	長石　角閃石赤褐色粒	良好	灯明皿として使用
1284	434		包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	（13.6）	（7.6）		3.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　回転ナデ後ナデ	にぶい褐（7.5YR5/4）	橙（7.5YR6/6）	長石　角閃石赤色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　外面底部の立ち上がり部分全体に押点文あり
1285	434	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	13.3	8.8		3.1			回転ナデ　ヨコナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ヨコナデ	橙（2.5YR6/8）	橙（2.5YR6/8）	石英　長石　角閃石　黒色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　内、外面に棒状工具によるミガキ状のヨコナデあり
1286	434	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	坏	13.8	9.2		2.8			回転ナデ　ヨコナデ ヘラケズリ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ヨコナデ	赤（10YR5/8）	赤（10YR5/8）	石英　長石　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　内、外面に棒状工具によるミガキ状のヨコナデあり
1287	434	392	包含層	1区	—	平坦地区2a層	須恵器	坏	10.4	7.0		3.2			回転ナデ　ヘラケズリ後回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ　ナデ	褐灰（10YR5/1）	灰黄褐（10YR5/2）	石英　黒色粒	良好	
1288	434	392	包含層	7区	—	平坦地区2a層	須恵器	坏	12.6	7.0		3.5			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白（5Y7/1）	灰白（5Y7/1）	石英　黒色粒	良	
1289	434		包含層	1区	—	平坦地区2a層	須恵器	坏	（11.8）	（7.2）		4.0			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　回転ナデ後ナデ	灰オリーブ（5Y6/2）	灰オリーブ（5Y6/2）	長石　赤褐色粒	良好	
1290	434		包含層	1区	—	平坦地区2a層	須恵器	坏		8.1				3.7	回転ナデ　ケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	灰（5Y5/1）	灰（5Y5/1）	長石	良好	内、外面に一部自然釉がかかる　外面底部にヘラ記号あり
1291	435	393	包含層	1区	—	平坦地区2a層	黒色土器A類	椀	（14.6）	9.0		5.9	1.2		ヘラケズリ後ナデ後ミガキ　ヘラ切り離し後ナデ	ミガキ	にぶい黄橙（10YR7/3）	暗灰（N 3/0）	長石　雲母　角閃石　赤色粒	良好	
1292	435	393	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	椀	11.0	6.7		5.1	1.0		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）	石英　長石　角閃石　赤褐色粒　黒曜石	良好	
1293	435	393	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	椀	（13.7）	8.9		5.9	1.6		回転ナデ	回転ナデ後ナデ　回転ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	
1294	435	393	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	椀	11.7	7.0		6.6	1.4		回転ナデ　ナデ	回転ナデ	橙（7.5YR6/6）	橙（7.5YR6/6）	石英　長石　雲母　角閃石　褐色粒　片岩	良好	
1295	435	393	包含層	6区	—	平坦地区2a層	土師器	椀	（12.2）	（7.5）		6.9	1.9		回転ナデ	回転ナデ　調整不明	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/6）	長石　角閃石赤褐色粒	良	内、外面に黒斑あり
1296	435	393	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	椀	11.2				（1.0）	5.4	回転ナデ	回転ナデ	橙（7.5YR7/6）	浅黄（2.5Y7/3）	石英　長石　雲母　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	内、外面に黒斑あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1297	435		包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	椀		7.8			1.6	5.0	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり
1298	435	393	包含層	6区	—	平坦地区2a層	須恵器	椀	14.1	7.8		7.5	1.1		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰（5Y5/1）	灰（5Y5/1）	長石　角閃石	良好	
1299	435	393	包含層	6区	—	平坦地区2a層	須恵器	椀	11.4	7.2		4.9	1.0		回転ナデ	回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	灰白（5Y7/2）	灰黄（2.5Y6/2）	長石	良好	
1300	435	394	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	蓋	（14.5）	（11.8）		1.3			ヘラ切り離し後ナデ　回転ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙（5YR6/4）	にぶい橙（5YR6/4）	長石　角閃石	良	内、外面に赤色顔料痕あり
1301	435	394	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	蓋	（19.2）			2.4			ヘラ切り離し後ナデ　回転ナデ	回転ナデ	橙（7.5YR6/6）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	
1302	435	394	包含層	1区	—	平坦地区2a層	須恵器	蓋	（17.0）			1.8			ヘラ切り離し後ナデ　回転ナデ	回転ナデ	灰（7.5Y5/1）	灰（7.5Y5/1）	長石　黒色粒	良好	
1303	435	394	包含層	1区	—	平坦地区2a層	須恵器	蓋	13.9			1.2			ヘラ切り離し後ナデ　回転ナデ	ナデ　回転ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	浅黄（2.5Y7/3）	石英　長石　黒色粒　褐色粒	良	
1304	435	394	包含層	1区	—	平坦地区2a層	須恵器	蓋	14.5			1.4			ナデ　回転ナデ	回転ナデ後ナデ　回転ナデ	灰（N 5/0）	灰（5Y5/1）	長石　黒色粒　赤色粒	良	
1305	435	394	包含層	1区	—	平坦地区2a層	須恵器	蓋	15.2			2.1			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　回転ナデ後ナデ	黄灰（2.5Y6/2）	黄灰（2.5Y7/2）	黒色粒	良好	
1306	435	394	包含層	1区	—	平坦地区2a層	須恵器	蓋	13.9			1.7			ナデ　ヘラ切り離し後未調整　回転ナデ	回転ナデ	暗灰黄（2.5Y5/2）	暗灰黄（2.5Y5/2）	石英　長石	良	
1307	435	394	包含層	1区	—	平坦地区2a層	須恵器	蓋	14.8			2.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後未調整	ナデ　回転ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	灰黄褐（10YR6/2）	石英　長石	良	
1308	435	394	包含層	1区	—	平坦地区2a層	須恵器	蓋	13.2			3.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後ヨコナデ	回転ナデ	灰褐（5YR4/2）	褐灰（10YR5/1）	石英　長石	良好	外面に自然釉がかかる
1309	435	394	包含層	1区	—	平坦地区2a層	須恵器	蓋	（14.4）			2.9			ヘラケズリ　回転ナデ	回転ナデ	黄灰（2.5Y4/1）	灰褐（7.5YR4/2）	石英　長石	良好	
1310	435	394	包含層	6区	—	平坦地区2a層	須恵器	蓋	（17.2）			2.8			ヘラ切り離し後ナデ　回転ナデ	回転ナデ後ナデ	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	石英　長石　角閃石	良好	
1311	435	394	包含層	1区	—	平坦地区2a層	須恵器	蓋				4.3			ナデ　回転ナデ	ロクロ切り離し後ナデ	暗赤灰（5R4/1）	黒褐（7.5YR3/1）	パイラン土	良好	
1312	436	395	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	盤	（17.6）	（14.4）		3.1			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	石英　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
1313	436	395	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	盤	15.4	12.4		1.9			ヨコナデ　ヘラ切り離し後ナデ	ヨコナデ　ナデ	明赤褐（2.5YR5/6）	明赤褐（2.5YR5/6）	石英　長石　雲母　角閃石　黒色粒　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
1314	436		包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	盤	（17.5）	（14.2）		2.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）	長石　赤褐色粒	良好	
1315	436	395	包含層	6区	—	平坦地区2a層	土師器	盤	（21.6）	（12.4）		4.7			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい黄褐（10YR7/3）	にぶい黄褐（10YR7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面に赤色顔料痕あり　外面底部に線刻あり
1316	436	395	包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	台付盤	（13.8）	（10.0）		2.3	1.0		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	長石　角閃石　赤色粒　黒色粒	良	
1317	436	395	包含層	8区	—	平坦地区2a層	須恵器	壺	（19.2）					6.8	回転ナデ　タタキ後回転ナデ　格子目タタキ	回転ナデ　同心円タタキ	灰白（N 7/0）	灰白（N 7/0）	黒色粒	良好	内面頸部に自然釉がかかる

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1318	436	395	包含層	1区	—	平坦地区2a層	須恵器	鉢	(19.2)	(10.7)		11.3			回転ナデ　ヘラケズリ　ヘラ切り離し	回転ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒　黒色粒	良好	
1319	436		包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	竈						10.1	ナデ	ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	石英　長石　雲母　角閃石	良好	鍔の一部
1323	438	396	包含層	2区	—	平坦地区2a層	白磁	椀		(5.4)			0.1	4.0	ヘラケズリ　ケズリ　ケズリ出し		灰白(10Y7/1)	灰白(7.5Y7/1)		良好	内、外面に施釉　内面にケズリの沈線あり　高台に工具痕あり
1324	438	396	包含層	2区	—	平坦地区2a層	瓦器	椀	(16.2)	(6.4)		5.9	0.3		調整不明	調整不明	灰白(2.5Y7/1)	黄灰(2.5Y6/1)	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	外面胴部に沈線あり
1325	438	396	包含層	7区	—	平坦地区2a層	瓦器	椀	(16.7)	(6.2)		5.6	0.3		ナデ　ヘラケズリ後ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	ナデ後ヘラミガキ	橙(5YR7/6)	オリーブ黒(5Y3/1)	長石　角閃石	良	内面は黒色処理が施されている
1326	438	396	包含層	6区	—	平坦地区2a層	瓦器	蓋	(15.0)					5.0	ナデ後ミガキ　ケズリ後ミガキ	ナデ後ミガキ	オリーブ黒(7.5Y3/1)	オリーブ黒(7.5Y3/1)	長石	良好	
1327	438		包含層	8区	—	平坦地区2a層		把手						6.6	ナデ　ヘラケズリ	ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面にスス付着
1328	438		包含層	1区	—	平坦地区2a層	土師器	把手						5.1	ナデ	ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	石英　長石　角閃石　赤褐色粒	良好	外面にスス付着
1329	438		包含層	1区	—	平坦地区2a層	瓦器質土器	三足土器						6.4	ナデ	ナデ	にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	黒斑あり
1330	438		包含層	1区	—	平坦地区2a層		滑石製石鍋		20.1				5.3	ケズリ	ケズリ	暗灰(N 3/0)	灰(N 5/0)			
1331	438		包含層	2区	—	平坦地区2a層		滑石製石鍋	(16.8)		(20.8)			7.6	ケズリ	ケズリ	灰(10Y6/1)	灰(10Y6/1)			外面にスス付着
1348	442		表土	2区	—	—	縄文土器	深鉢						5.9	ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	褐灰(10YR4/1)	長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	口縁部に4条の沈線あり
1349	442		表土	2区	—	—	弥生土器	甕	(34.0)					9.7	ヨコナデ　ナデ	ヨコナデ　ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/8)	長石　赤褐色粒	良好	1条の突帯文あり　外面口縁部にスス付着
1350	442		表土	2区	—	—	土師器	把手						4.6	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	甑の把手？
1351	442		表土	2区	—	—	弥生土器	把手	(18.4)					6.7	ハケメ後ナデ　ヨコナデ	ハケメ後ナデ　ヨコナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/8)	石英　長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	
1353	443		カクラン	8区	—	—	縄文土器	深鉢						6.1	ナデ	ナデ　条痕後ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	石英　長石　角閃石　雲母	良好	口縁部に貼付文と磨消縄文あり　凹線文が施される
1354	443		カクラン	8区	—	—	縄文土器	深鉢						5.5	ナデ	ナデ	にぶい赤褐(5YR5/4)	にぶい黄褐(10YR5/3)	石英　長石　角閃石　雲母	良好	口縁部に貼付文あり　波状口縁
1355	443		カクラン	8区	—	—	弥生土器	甕	(22.0)		(20.6)			21.0	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	灰白(2.5Y8/2)	にぶい黄橙(10YR7/2)	長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	外面口縁部に黒斑あり
1356	443		カクラン	1区	—	—	土師器	壺	17.8					6.8	ヨコナデ　ハケメ　ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ　ハケメ　ケズリ	橙(5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	石英　長石　角閃石　褐色粒	良好	
1357	443		カクラン	2区	—	—	弥生土器	鉢	(26.4)	(9.4)		11.2			ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	内、外面に黒斑あり　内面底部に指頭圧痕あり
1359	443		カクラン	7区	—	—	土師器	小形丸底鉢						5.5	ナデ　ケズリ後ナデ	ナデ　ケズリ後ナデ	にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい褐(7.5YR5/3)	石英　長石　角閃石　雲母	良好	内面に工具痕あり　外面にスス付着
1360	443		カクラン	1区	—	—		手捏ね	(6.8)	4.2		2.9			ナデ	ケズリ出し後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英　長石　雲母　角閃石　赤褐色粒	良好	内面に赤色顔料痕あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1361	443		カクラン	8区	—	—	土師器	坏	(13.1)	(6.1)		3.2			回転ナデ　ヘラケズリ	回転ヘラミガキ	橙（5YR6/6）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石	良好	
1362	443		カクラン	2区	—	—	土師器	椀	(12.4)	7.7		5.8	0.8		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	調整不明	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　褐色粒	良好	
1363	443		カクラン	8区	—	—	土師器	椀	(15.5)	(9.6)		6.7	0.7		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　角閃石	良好	内、外面に赤色顔料痕あり
1364	443		カクラン	2区	—	—	土師器	椀		8.7			1.5	4.0	回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	
1365	444		カクラン	1区	—	—	須恵器	蓋						2.4	回転ナデ　ヘラ切り離し後調整不明	回転ナデ	黄灰（2.5Y6/1）	黄灰（2.5Y6/1）	石英　長石　角閃石　黒色粒	良好	外面に自然釉がかかる
1366	444		カクラン	2区	—	—	土師器	坏	(16.5)	(8.0)		3.7			回転ナデ　糸切り離し後ナデ	回転ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石英　長石　雲母　赤褐色粒　黒色粒	良好	
1369	446		包含層	3区	—	湿地区4層	縄文土器	深鉢						8.7	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰白（2.5Y7/1）	長石　角閃石	良好	
1370	446		包含層	3区	—	湿地区4層	縄文土器	浅鉢						6.9	ミガキ	ミガキ	褐灰（10YR5/1）	灰白（2.5Y7/1）	長石　角閃石	良好	
1371	446	398	包含層	3区	—	湿地区4層	弥生土器	壺	(27.7)					21.8	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ミガキ　ハケメ後ミガキ	ヨコナデ　ハケメ	灰（N 6/0）	灰白（5Y7/1）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	頸部と胴部に突帯文あり
1372	446	398	包含層	3区	—	湿地区4層	弥生土器	壺	(21.3)					10.2	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ後ミガキ	ヨコナデ　ナデ	灰白（2.5Y7/1）	灰白（2.5Y7/1）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	内面に指頭圧痕あり
1373	446		包含層	3区	—	湿地区4層	弥生土器	鉢	(14.0)					8.2	ヨコナデ後ミガキ　ナデ	ヨコナデ後ミガキ　ナデ	灰黄（2.5Y6/2）	灰（N 4/0）	長石　角閃石	良好	
1374	446	398	包含層	3区	—	湿地区4層	土師器	高坏		(12.2)				9.6	ハケメ　ナデ　ハケメ後ミガキ	ナデ　ハケメ	灰黄（2.5Y6/2）	灰黄褐（10YR6/2）	長石　角閃石	良好	脚部に穿孔と絞り痕あり
1375	446		包含層	3区	—	湿地区4層	土師器	小形丸底壺	(11.0)					6.0	ヨコナデ　ミガキ	ミガキ　ナデ	にぶい褐（7.5YR6/3）黒（7.5Y2/1）	にぶい橙（7.5YR6/4）	長石　角閃石	良好	祭祀用黒丹塗り土器
1382	448	397	包含層	3区	—	湿地区3層	弥生土器	高坏	(21.1)					8.7	ヨコナデ　ミガキ	ヨコナデ　ナデ	浅黄（2.5Y7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石	良好	口縁部上面に暗文あり
1383	448		包含層	3区	—	湿地区3層	弥生土器	高坏		(5.2)				5.4	ナデ	ナデ　調整不明	にぶい黄橙（10YR7/2）赤褐（2.5YR4/8）	にぶい黄橙（10YR7/2）明赤褐（2.5YR5/8）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	内、外面に赤色顔料塗布　丹塗り土器
1384	448		包含層	3区	—	湿地区3層	弥生土器	壺						5.6	ヨコナデ　ミガキ	ヨコナデ　ナデ	赤褐（2.5YR4/6）	灰黄褐（10YR6/2）赤褐（2.5YR4/6）	石英　長石　雲母	良好	内、外面に赤色顔料塗布　外面胴部に黒丹の跡あり　丹塗り土器　広口壷
1385	448	397	包含層	3区	—	湿地区3層	土師器	坏	(13.9)			7.2			ハケメ　ナデ	ヨコナデ　ハケメ　ナデ	灰黄褐（10YR4/2）	にぶい黄褐（10YR5/3）	長石　角閃石　黒曜石	良好	
1386	448	397	包含層	3区	—	湿地区3層	土師器	高坏	20.4					5.9	ヨコナデ　ミガキ	ハケメ後ヨコナデ　ハケメ後ミガキ	灰黄褐（10YR5/2）	灰黄褐（10YR5/2）	長石　角閃石	良好	
1387	448	397	包含層	3区	—	湿地区3層	土師器	甕	(12.2)		(16.8)			14.5	ヨコナデ　ハケメ　ケズリ	ハケメ後ナデ　ケズリ　ナデ	灰白（2.5Y7/1）	灰黄（2.5Y7/2）	長石　角閃石	良好	内面にスス付着

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1388	448		包含層	3区	—	湿地区3層	土師器	甕	(15.3)					7.8	ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ	ハケメ後ヨコナデ　ケズリ後ナデ　ケズリ	にぶい黄橙(10YR7/2)	にぶい黄橙(10YR7/2)	石英　長石　角閃石　雲母	良好	内、外面にスス付着
1389	449		包含層	3区	—	湿地区3層	土師器	甕	(18.7)		(27.4)			30.3	ヨコナデ　ハケメ　ハケメ後ヨコナデ	ハケメ　ハケメ後ナデ　ケズリ	灰黄(2.5Y7/2)	灰黄(2.5Y7/2)	石英　長石　角閃石　雲母　茶褐色粒	良好	外面口縁部に指頭圧痕あり
1390	449	397	包含層	3区	—	湿地区3層	土師器	小形丸底壺	(11.0)		9.2	8.8			ヨコナデ　ハケメ後ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ハケメ後ヨコナデ　ヨコナデ　ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	灰黄褐(10YR5/2)	石英　長石　角閃石　雲母	良好	内面に指頭圧痕あり
1391	449	397	包含層	3区	—	湿地区3層	土師器	坏	(16.2)	10.4		3.1			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
1392	449	397	包含層	4区	—	湿地区3層	土師器	坏	11.3	7.6		4.1			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい橙(5YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	内、外面にスス付着
1393	449		包含層	4区	—	湿地区3層	須恵器	坏	(13.4)	(8.8)		2.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白(N 7/0)	灰白(5Y7/1)	長石　角閃石	良好	口縁部付近にスス付着　底部に墨書あり
1394	449	397 401	包含層	4区	—	湿地区3層	須恵器	坏	(13.6)	(9.0)		3.7			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白(5Y7/1)	灰白(2.5Y7/1)	長石　角閃石	良好	底部に墨書あり
1395	449	397	包含層	4区	—	湿地区3層	黒色土器A類	椀		8.3			0.6	4.5	ミガキ　ヘラケズリ後回転ナデ　回転ナデ	ミガキ	にぶい黄橙(10YR7/3)	黒(N 2/0)	石英　長石　雲母　茶褐色粒	良好	
1396	449	397	包含層	4区	—	湿地区3層	土師器	椀	(14.6)	9.2		6.4	2.2		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	橙(2.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/3)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
1397	449	397	包含層	4区	—	湿地区3層	土師器	椀	13.9	8.3		5.7	0.4		回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
1398	449	397 400	包含層	4区	—	湿地区3層	須恵器	坏		7.4			0.6	4.3	回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰(N 7/0)	灰(N 7/0)	長石	良好	外面底部と胴部に墨書あり
1399	450	399	包含層	4区	—	湿地区3層	須恵器	壺	測定不能	14.7	(26.8)	36.2			回転ナデ　タタキ　ヘラケズリ　タタキ後ナデ	回転ナデ　タタキ　タタキ後ナデ	暗灰(N 3/0)	灰(N 5/0)	長石	良好	二耳壺　耳状の把手２ヶ所あり　底部に付着物あり
1402	451	402	包含層	3区	—	湿地区3層	土師器	坏	(14.6)	9.9		3.2			回転ナデ　糸切り離し	回転ナデ　ナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	石英　長石　雲母　赤褐色粒	良好	
1403	451	402	包含層	3区	—	湿地区3層	土師器	皿	8.7	6.4		1.5			回転ナデ　糸切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	にぶい黄橙(10YR7/2)	長石　角閃石	良好	灯明皿として使用　内、外面にスス付着
1404	451	402	包含層	3区	—	湿地区3層	土師器	皿	(8.3)	6.5		1.1			回転ナデ　糸切り離し	回転ナデ　ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	灰黄(2.5Y6/2)	長石　角閃石	良好	内、外面にスス付着
1405	451	402	包含層	3区	—	湿地区3層	土師器	皿	8.2	5.5		1.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
1406	451	402	包含層	3区	—	湿地区3層	土師器	皿	8.4	5.9		1.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白(2.5Y8/2)	灰白(2.5Y8/2)	長石　角閃石	良好	内、外面にスス付着
1407	451	402	包含層	3区	—	湿地区3層	土師器	皿	8.5	5.7		1.8			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白(10YR8/2)	灰白(10YR8/2)	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	
1408	451	402	包含層	3区	—	湿地区3層	土師器	皿	8.5	5.8		1.6			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	灰白(2.5Y8/1)	灰白(5Y8/1)	長石　角閃石	良好	
1409	451	402	包含層	3区	—	湿地区3層	土師器	皿	(8.4)	6.0		1.4			回転ナデ　ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ　ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	長石　角閃石	良好	
1410	451	402	包含層	3区	—	湿地区3層	瓦器	皿	8.9	6.4		2.0			回転ナデ後ミガキ　糸切り離し	回転ナデ後ミガキ　ナデ後ミガキ	暗灰(N 3/0)	黒(N 2/0)	長石	良好	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1411	451	403	包含層	3区	—	湿地区3層	瓦器	椀	15.6	6.2		5.5	0.5		回転ナデ後ミガキ　回転ヘラケズリ　糸切り離し後ナデ	回転ナデ後ミガキ　ミガキ	灰（N 6/0）	灰（N 5/0）	長石　角閃石	良好	高台の2ヶ所に切り込みあり
1412	451	403	包含層	3区	—	湿地区3層	瓦器	椀	17.2	7.7		6.3	0.6		ミガキ　回転ナデ	ミガキ	灰（N 4/0）	灰白（2.5Y7/1）	長石　角閃石	良好	外面底部にヘラ記号あり
1413	451	403	包含層	3区	—	湿地区3層	瓦器	椀	16.8	5.9		5.6	0.4		回転ナデ後ミガキ　回転ヘラケズリ　回転ナデ	ミガキ	灰白（N 8/0）	灰（N 5/0）	石英　長石	良好	外面底部にヘラ記号あり
1414	451	403	包含層	3区	—	湿地区3層	瓦器	椀	16.1	6.3		5.7	0.5		回転ナデ後ミガキ　ヘラケズリ後ミガキ　回転ナデ　ナデ	回転ナデ　ミガキ	灰（N 5/0）	灰（N 5/0）	石英　長石	良好	
1415	451	403	包含層	3区	—	湿地区3層	瓦器	椀	17.2	7.0		5.9	0.5		回転ナデ後ミガキ　ミガキ　回転ナデ	回転ナデ　ミガキ	灰白（5Y7/1）	灰（N 4/0）	石英　長石	良好	
1416	451	403	包含層	3区	—	湿地区3層	瓦器	椀	16.6	7.1		5.6	0.5		ミガキ　回転ナデ	ミガキ	灰（N 5/0）	灰（N 5/0）	長石	良好	
1417	451	403	包含層	3区	—	湿地区3層	瓦器	椀	16.4	6.4		6.0	0.5		回転ナデ後ミガキ　ナデ後ミガキ　回転ナデ	ナデ後ミガキ	灰白（5Y8/1）	灰黄（2.5Y7/2）	長石　角閃石	良好	
1418	451	403	包含層	3区	—	湿地区3層	瓦器	椀	16.4	6.5		6.0	0.5		回転ナデ後ミガキ　ナデ後ミガキ　回転ナデ	ミガキ	灰（N 4/0）	灰（N 4/0）	長石　角閃石	良好	
1419	451	403	包含層	3区	—	湿地区3層	瓦器	椀	16.6	6.2		5.7	0.3		回転ナデ後ミガキ　ヘラケズリ後ミガキ　回転ナデ	ミガキ	灰（N 6/0）	灰（N 6/0）	長石	良好	内面に重ね焼きの跡あり
1420	451	403	包含層	3区	—	湿地区3層	瓦器	椀	（16.4）	6.8		5.7	0.5		回転ナデ後ミガキ　ナデ後ミガキ　回転ナデ	ナデ後ミガキ	褐灰（10YR4/1）	暗灰黄（2.5Y5/2）	長石　角閃石	良好	
1421	452	403	包含層	4区	—	湿地区3層	瓦器	椀	16.4	6.0		5.7	0.4		回転ナデ　回転ヘラケズリ後ミガキ　ナデ	ナデ後ミガキ	灰（N 4/0）	灰（N 5/0）	長石	良好	
1422	452		包含層	3区	—	湿地区3層	瓦器質土器	擂鉢	（21.2）	（12.0）		7.2			ナデ	櫛描擂目	灰（N 4/0）	灰（N 5/0）	長石　黒色粒	良好	外面に指頭圧痕あり
1429	454	404	包含層	3区	—	湿地区2層	弥生土器	鉢	（43.4）					12.7	ヨコナデ　ハケメ	ヨコナデ　ハケメ	灰黄褐（10YR5/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	石英　長石　角閃石　雲母　赤褐色粒	良好	内、外面にスス付着
1430	454	404	包含層	3区	—	湿地区2層	土師器	壺			19.7			21.3	ハケメ後ナデ	ナデ　ケズリ　ケズリ後ナデ	灰白（2.5Y7/1）	にぶい黄橙（10YR7/2）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	底部に黒斑あり
1432	454		包含層	3区	—	湿地区2層	瓦器質土器	三足土器	（11.0）					6.1	調整不明	調整不明	にぶい褐（7.5YR6/3）	黄灰（2.5Y6/1）	長石　角閃石	良好	×状文あり
1433	454		包含層	3区	—	湿地区2層	瓦器質土器	火鉢						6.6	ヨコナデ	ナデ	灰（N 4/0）	暗灰（N 3/0）	長石	良好	×状文と浮文あり

表－20－２　北の崎遺跡出土遺物観察表　　土製品

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）			（g）	色調	胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				長さ	幅・径	厚さ	重さ				
255	163		42号土坑	８区	SK-65	—	土製品	土錘	(5.4)	3.9		36.9	淡黄（2.5Y8/3）	長石　角閃石	良好	
363	242	303	26号住居	１区	SI-08	—	土製品	土錘	3.3	3.4	3.4	30.5	橙（7.5YR6/6）	石英　長石　角閃石　雲母	良好	
456	261	309	33号住居	６区	SI-26②	—	土製品	勾玉	(4.4)	2.0	1.5	9.9	橙色（5YR6/8）	石英　長石　角閃石	良好	孔径0.35cm
673	317		46号住居	８区	SI-29	—	瓦	平瓦	(13.5)	(9.8)	2.3		灰白（5Y8/1）	長石　角閃石　茶褐色粒	良好	
749	326		49号住居	８区	SI-39	—	土製品	土錘	6.1	1.8	1.8	16.9	灰白（2.5Y8/2）	長石　角閃石	良好	外面に黒斑あり
799	355		85号土坑	８区	SX-54	—	土製品	不明	(4.1)	(3.8)	2.5	34.7	にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	ナデ調整がみられる　黒斑あり
831	365		９号溝	８区	SD-11	—	瓦	丸瓦	(12.3)	(6.4)	2.2		凹面　にぶい黄橙（10YR6/4） 凸面　浅黄（2.5Y7/3）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	凹面 布目痕　凸面 縄目タタキ
891	372	345 346	11号溝	２区	SD-03	—	瓦	丸瓦	(13.2)	(5.9)	2.3		凹面　灰（N 4/0） 凸面　灰（N 4/0）	長石　赤褐色粒	良好	凹面 布目痕
892	372	345 346	11号溝	２区	SD-03	—	瓦	平瓦	(16.5)	(21.1)	2.7		凹面　にぶい黄橙（10YR7/4） 凸面　にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	凹面 布目痕　凸面 縄目タタキ
893	372		11号溝	２区	SD-03	—	瓦	平瓦	(13.5)	(11.0)	2.7		凹面　浅黄（2.5Y7/4） 凸面　にぶい黄橙（10YR7/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	凹面 布目痕　凸面 縄目タタキ
894	372		11号溝	２区	SD-03	—	瓦	平瓦	(10.4)	(11.7)	1.9		凹面　にぶい黄橙（10YR7/3） 凸面　灰白（7.5Y7/1）	長石　角閃石	良好	凹面 布目痕　凸面 縄目タタキ
895	373		11号溝	２区	SD-03	—	瓦	平瓦	(9.3)	(12.6)	2.1		凹面　灰白（5Y7/2） 凸面　浅黄橙（10YR8/3）	長石	良好	凹面 布目痕　凸面 縄目タタキ
896	373	347	11号溝	２区	SD-03	—	土製品	土錘	6.4	3.2	2.9	51.1	橙（7.5YR7/6）	長石　角閃石　軽石	良好	孔径0.8 ～ 1.15cm
897	373	347	11号溝	２区	SD-03	—	土製品	羽口	(21.0)	8.0	8.0		橙（7.5YR6/8）	石英　長石	良好	孔径2.8cm　外面にスス付着
1125	415	384	包含層	２区	—	平坦地区２ｂ層	土製品	土錘	5.6	1.3	1.4	7.7	灰白（10YR8/2）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	孔径0.35cm　黒斑あり
1126	415	384	包含層	２区	—	平坦地区２ｂ層	土製品	土錘	5.0	1.3	1.2	5.5	浅黄橙（7.5YR8/3）	長石　角閃石　黒曜石　赤褐色粒	良好	孔径0.55cm
1127	415	384	包含層	１区	—	平坦地区２ｂ層	土製品	土錘	4.6	1.1	1.1	4.4	にぶい橙（2.5YR6/4）	長石　角閃石　褐色粒	良好	孔径0.25cm
1128	415	384	包含層	１区	—	平坦地区２ｂ層	土製品	土錘	4.2	1.0	1.1	3.8	にぶい黄橙（10YR7/4）	角閃石　褐色粒	良好	孔径0.4cm　黒斑あり
1129	415	384	包含層	７区	—	平坦地区２ｂ層	土製品	土錘	3.4	0.9	0.8	2.1	明赤褐（2.5YR5/6）	長石　雲母	良好	孔径0.2cm
1130	415	384	包含層	２区	—	平坦地区２ｂ層	土製品	土錘	4.5	1.4	1.3	6.5	灰（5Y6/1）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	孔径0.35cm
1131	415	384	包含層	１区	—	平坦地区２ｂ層	土製品	土錘	2.3	2.7	2.4	13.4	にぶい黄橙（7.5YR6/4）	長石　角閃石　褐色粒	良好	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）			（g）	色調	胎土	焼成	備考
				調査区	遺構略号				長さ	幅・径	厚さ	重さ				
1150	417	383	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	土製品	勾玉	3.0	1.4	1.0	3.3	にぶい黄橙（10YR6/4）	長石　角閃石　褐色粒	良好	孔径0.1cm
1151	417	383	包含層	1区	—	平坦地区２ｂ層	土製品	土玉	2.0	1.9		6.9	にぶい黄褐（10YR5/4）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	黒斑あり
1255	432	387	包含層	1区	—	平坦地区２ａ層	土製品	紡錘車	5.2	5.1	1.7	41.2	にぶい黄橙（10YR7/3）	長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	孔径0.6cm　両面に黒斑あり
1256	432		包含層	2区	—	平坦地区２ａ層	土製品	土錘	（2.1）	1.0	0.96	1.5	橙（2.5YR6/8）	白色粒　雲母	良好	孔径0.45cm
1257	432	388	包含層	6区	—	平坦地区２ａ層	土製品	模造鏡	5.0	4.0	0.9	8.1	浅黄橙（10YR8/3）	長石　雲母　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	指押さえがみられる
1320	436		包含層	2区	—	平坦地区２ａ層	土師器	把手	10.6	4.2	3.2		橙（5YR7/6）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	指押さえがみられる
1321	436		包含層	1区	—	平坦地区２ａ層	瓦	平瓦	6.5	8.7	1.8		凹面　にぶい黄橙（10YR6/4） 凸面　にぶい黄橙（10YR6/4）	長石　角閃石　褐色粒　黒色粒	良好	凹面 布目痕　凸面 縄目タタキ
1322	437		包含層	1区	—	平坦地区２ａ層	瓦	平瓦	（12.3）	（12.0）	（2.3）		凹面　にぶい黄橙（10YR7/2） 凸面　にぶい黄橙（10YR7/2）	長石　角閃石　褐色粒	良好	凹面 布目痕　凸面 縄目タタキ
1352	442		表土	2区	—	—	土製品	土錘	2.9	1.2	1.1	3.2	浅黄橙（7.5YR8/4）	赤褐色粒	良好	孔径0.44cm
1358	443		カクラン	2区	—	—	土製品	土錘	3.5	1.5	1.4	5.7	黒褐（10YR3/1）	長石　角閃石　黒色粒　褐色粒	良好	孔径0.35cm
1367	444		カクラン	8区	—	—	土製品	泥面子	1.95	1.45	1.0	2.2	にぶい黄橙（10YR7/4）		良好	木葉猿？
1368	444		表土	2区	—	—	土製品	泥面子	3.3	2.3	1.05	7.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	長石　褐色粒	良好	
1400	450		包含層	3区	—	湿地区３層	瓦	平瓦	（13.7）	（11.7）	2.1		凹面　灰白（7.5Y7/1） 凸面　灰（N 6/0）	長石	良	凹面 布目痕　凸面 縄目タタキ
1401	450		包含層	4区	—	湿地区３層	瓦	丸瓦	（11.9）	（11.7）	（6.9）		凹面　灰黄（2.5Y6/2） 凸面　にぶい橙（5YR6/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	不良	凹面 布目痕　凸面 縄目タタキ
1423	452		包含層	3区	—	湿地区３層	土製品	羽口	（17.5）	8.9	8.4		にぶい褐（7.5YR5/3）	石英　長石　角閃石	良	
1431	454		包含層	3区	—	湿地区２層	土師器	把手	5.4	7.1	6.4		浅黄橙（7.5YR8/4）	長石　角閃石　赤褐色粒	良好	

表－20－３　北の崎遺跡出土遺物観察表　　木製品

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種別	器種	法量（cm）			樹種	備考
				調査区	遺構略号				長さ	幅・径	厚さ		
1424	452	406	包含層	3区	—	湿地区３層	木製品	杭？	19.9	9.3	3.7	イスノキ	
1425	452	405	包含層	3区	—	湿地区３層	木製品	不明	37.3	8.6	2.4	クリ	抉り入り
1426	453	407	包含層	3区	—	湿地区３層	木製品	櫛	3.2	7.8	0.8	ヌルデ	

表－20－４　北の崎遺跡出土遺物観察表　　石製品

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種　別	器　種	石　材	法　量（cm）			（g）	備　　考
				調査区	遺構略号					長さ	幅・径	厚さ	重さ	
26	29	416	１号土坑	６区	SK-28	—	石製品	剥片石器	輝石安山岩	5.20	3.10	0.70	8.0	
48	44	409	２号住居	１区	SI-02	—	石製品	打製石鏃	黒曜石	2.45	1.60	0.35	1.0	黒色
49	44	409	２号住居	１区	SI-02	—	石製品	打製石鏃	黒曜石	(2.20)	1.60	0.50	1.5	黒色
50	44	410	２号住居	１区	SI-02	—	石製品	磨製石鏃	片岩系	2.70	1.80	2.50	1.2	
51	44	430	２号住居	１区	SI-02	—	石製品	敲石	結晶片岩	(9.05)	3.30	1.20	53.7	
52	44	428	２号住居	１区	SI-02	—	石製品	磨石	輝石安山岩	4.35	4.05	2.75	65.2	
53	45	440	２号住居	１区	SI-02	—	石製品	砥石	砂岩	12.70	5.60	4.50	314.8	
54	45	444	２号住居	１区	SI-02	—	石製品	歯車状石器	蛇紋岩	6.05	4.00	2.00	42.6	
68	48	424	３号住居	１区	SI-09	—	石製品	磨製石斧	蛇紋岩	6.30	3.80	2.10	103.1	
69	48	424	３号住居	１区	SI-09	—	石製品	磨製石斧	ホルンフェルス	4.50	4.80	1.40	47.4	
75	51	413	４号住居	１区	SX-16	—	石製品	未製品	サヌカイト	7.40	4.20	1.95	27.2	
92	57	428	６号住居	２区	SI-12	—	石製品	磨石	輝石安山岩	8.30	8.10	3.15	250.0	
101	59		７号住居	２区	SI-18	—	石製品	磨石	溶結凝灰岩	13.25	9.40	4.25	589.0	
102	59	429	７号住居	２区	SI-18	—	石製品	磨石・敲石	輝石安山岩	6.70	8.10	4.01	298.0	
103	60		７号住居	２区	SI-18	—	石製品	磨石	輝石安山岩	12.90	12.30	5.80	1335.0	
104	60	427	７号住居	２区	SI-18	—	石製品	磨石	輝石安山岩	11.22	9.13	3.76	529.6	
124	68	口絵－12	８号住居	２区	SI-19	—	石製品	石戈	変ハンレイ岩	18.95	7.95	1.25	175.0	
125	69	434	８号住居	２区	SI-19	—	石製品	石包丁	頁岩	4.41	10.75	0.75	59.3	
126	69	434	８号住居	２区	SI-19	—	石製品	石包丁	頁岩	3.30	6.30	0.60	15.9	
127	69	口絵－14	８号住居	２区	SI-19	—	石製品	石包丁	頁岩	4.50	8.55	0.90	57.0	
128	69	436	８号住居	２区	SI-19	—	石製品	石鎌	泥質片岩	12.20	3.90	1.00	79.8	
129	69	424	８号住居	２区	SI-19	—	石製品	磨製石斧	蛇紋岩	4.60	3.70	1.41	50.1	
130	70		８号住居	２区	SI-19	—	石製品	磨石	輝石安山岩	7.90	8.25	4.00	393.0	
131	70		８号住居	２区	SI-19	—	石製品	磨石	輝石安山岩	13.80	11.95	3.75	930.0	
132	70	437	８号住居	２区	SI-19	—	石製品	石錘	輝石安山岩	6.65	5.90	1.30	64.1	
138	74	411	10号住居	２区	SI-22	—	石製品	削器	サヌカイト	6.70	6.55	1.45	47.3	
139	74		10号住居	２区	SI-22	—	石製品	磨石	輝石安山岩	6.55	5.75	3.15	169.2	
151	78	420	11号住居	２区	SI-23	—	石製品	打製石斧	結晶片岩	11.50	7.08	1.17	123.7	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種　別	器　種	石　材	法　量（cm）			（g）	備　　考
				調査区	遺構略号					長さ	幅・径	厚さ	重さ	
152	78	419	11号住居	2区	SI-23	—	石製品	打製石斧	結晶片岩	7.00	7.09	1.43	86.1	
153	78	431	11号住居	2区	SI-23	—	石製品	打製石斧	結晶片岩	12.85	9.05	2.00	224.1	
154	79	436	11号住居	2区	SI-23	—	石製品	円盤状石器	変ハンレイ岩	4.97	4.70	0.85	33.3	
155	79	431	11号住居	2区	SI-23	—	石製品	石製模造品	輝石安山岩	19.35	10.40	3.00	626.0	
157	83	424	13号住居	2区	SI-26①	—	石製品	磨製石斧	安山岩	13.10	5.40	3.75	312.8	
163	86	419	14号住居	2区	SX-21	—	石製品	打製石斧	緑泥片岩	12.20	3.90	1.80	123.0	
164	86	434	14号住居	2区	SX-21	—	石製品	石包丁	緑泥片岩	3.63	3.43	0.60	12.8	
165	86	430	14号住居	2区	SX-21	—	石製品	敲石	結晶片岩	17.8	4.15	3.30	196.0	
166	86		14号住居	2区	SX-21	—	石製品	磨石・敲石	輝石安山岩	6.70	4.81	3.30	153.3	
175	88	425	15号住居	8区	SI-43	—	石製品	磨石	輝石安山岩	8.83	6.30	3.80	276.0	
176	88	411	15号住居	8区	SI-43	—	石製品	有孔円盤	軽石	3.90	5.08	2.18	10.3	
189	92	422	17号住居	8区	SI-46	—	石製品	磨製石斧	蛇紋岩	11.83	4.90	1.72	266.0	
190	92	437	17号住居	8区	SI-46	—	石製品	軽石製石製品	軽石	9.60	6.50	2.30	61.8	
193	94	425	18号住居	8区	SI-47	—	石製品	磨石	輝石安山岩	6.20	4.28	3.57	118.2	
201	97	438	20号住居	8区	SI-49	—	石製品	砥石	砂岩	10.30	5.18	3.55	259.0	2ヶ所に線刻あり
233	140	439	28号土坑	8区	SK-42	—	石製品	砥石	緑泥片岩	14.20	10.25	5.05	894.0	
244	153	427	35号土坑	8区	SK-53	—	石製品	磨石	輝石安山岩	6.30	5.90	3.38	133.0	
261	169	408	45号土坑	8区	SK-70	—	石製品	打製石鏃	無斑晶安山岩	2.40	1.30	0.30	0.7	
278	194	436	3号溝	6区	SD-07	—	石製品	安山岩質石製品	輝石安山岩	9.50	9.61	2.55	227.0	
279	195	412	3号溝	6区	SD-07	—	石製品	スクレイパー	サヌカイト	5.70	4.60	0.80	20.0	
280	195	417	3号溝	6区	SD-07	—	石製品	打製石斧	変ハンレイ岩	12.40	5.20	1.70	152.6	
281	195	426	3号溝	6区	SD-07	—	石製品	磨石	輝石安山岩	10.78	9.90	5.50	870.0	
284	197	413	4号溝	8区	SD-13	—	石製品	石匙	安山岩	3.22	5.36	0.71	8.3	
285	197	408	4号溝	8区	SD-13	—	石製品	打製石鏃	黒曜石	2.72	2.22	0.30	1.5	黒色
338	234	437	23号住居	1区	SI-01	—	石製品	不明	軽石	12.80	7.90	4.90	252.7	
350	239	408	25号住居	1区	SI-06	—	石製品	打製石鏃	黒曜石	2.40	2.10	0.63	1.6	黒色　腰岳産
351	239	424	25号住居	1区	SI-06	—	石製品	磨製石斧	ヒン岩	10.10	5.50	3.00	22.0	
352	239	428	25号住居	1区	SI-06	—	石製品	磨石	砂岩	7.95	7.70	6.90	531.0	
353	239	430	25号住居	1区	SI-06	—	石製品	敲石	角閃石安山岩	(4.90)	4.50	4.30	98.9	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種　別	器　種	石　材	法　量（cm）			（g）	備　　考
				調査区	遺構略号					長さ	幅・径	厚さ	重さ	
367	242	408	26号住居	1区	SI-08	—	石製品	打製石鏃	黒曜石	2.75	1.70	0.45	1.4	黒色
368	242	420	26号住居	1区	SI-08	—	石製品	打製石斧	安山岩	(4.65)	5.35	1.00	33.7	
369	242	437	26号住居	1区	SI-08	—	石製品	円盤状石器	軽石	7.95	7.15	1.50	34.1	
386	245	410	27号住居	1区	SI-10	—	石製品	磨製石鏃	ホルンフェルス	3.95	2.70	0.30	4.1	
387	246	420	27号住居	1区	SI-10	—	石製品	打製石斧	変ハンレイ岩	9.30	4.90	1.35	89.4	
388	246	430	27号住居	1区	SI-10	—	石製品	敲石	輝石安山岩	5.75	2.90	3.00	81.5	
389	246	438	27号住居	1区	SI-10	—	石製品	砥石	輝石安山岩	7.80	4.40	3.20	94.5	
390	246	412	27号住居	1区	SI-10	—	石製品	スクレイパー	サヌカイト	6.30	3.40	1.20	19.2	
391	246	412	27号住居	1区	SI-10	—	石製品	スクレイパー	輝緑凝灰岩	6.80	5.15	1.70	50.4	
404	250	409	29号住居	2区	SI-14	—	石製品	打製石鏃	チャート	2.75	1.98	0.49	2.1	
405	250	428	29号住居	2区	SI-14	—	石製品	磨石	輝石安山岩	9.50	8.40	2.75	304.5	
439	258	424	32号住居	2区	SI-21	—	石製品	磨製石斧	緑泥片岩	9.25	3.35	3.50	181.4	
440	258		32号住居	2区	SI-21	—	石製品	磨石	輝石安山岩	6.90	6.12	3.08	186.4	赤色顔料痕あり
457	262	417	33号住居	6区	SI-26②	—	石製品	打製石斧	結晶片岩	11.08	6.18	1.20	106.0	
458	262	417	33号住居	6区	SI-26②	—	石製品	打製石斧	緑泥片岩	12.10	5.10	1.70	121.0	
459	262	418	33号住居	6区	SI-26②	—	石製品	打製石斧	片岩	10.50	4.40	1.45	90.3	
460	262	417	33号住居	6区	SI-26②	—	石製品	打製石斧	蛇紋岩	5.90	6.20	1.10	57.0	
461	262	430	33号住居	6区	SI-26②	—	石製品	敲石	輝石安山岩	8.20	4.56	3.30	135.4	蝋のようなものが全体に付着
477	265	408	34号住居	6区	SI-27	—	石製品	打製石鏃	黒曜石	2.50	1.50	0.40	0.7	黒色
478	265	429	34号住居	6区	SI-27	—	石製品	敲石	角閃石安山岩	(7.20)	10.05	7.35	621.0	
490	268	417	35号住居	6区	SI-28	—	石製品	打製石斧	輝石安山岩	12.60	5.30	1.70	158.1	
491	268	422	35号住居	6区	SI-28	—	石製品	磨製石斧	蛇紋岩	13.50	5.00	2.40	252.2	
492	268	422	35号住居	6区	SI-28	—	石製品	磨製石斧	蛇紋岩	8.50	5.20	0.80	64.6	
493	269	421	35号住居	6区	SI-28	—	石製品	磨製石斧	結晶片岩	9.60	5.80	1.95	159.0	
494	269	426	35号住居	6区	SI-28	—	石製品	磨石	輝石安山岩	11.60	6.20	7.10	580.0	
495	269	438	35号住居	6区	SI-28	—	石製品	砥石	花崗岩	6.22	3.85	1.70	68.6	
496	269	413	35号住居	6区	SI-28	—	石製品	石匙	サヌカイト	2.90	4.40	0.90	7.4	
503	273	418	37号住居	7区	SI-34	—	石製品	打製石斧	変ハンレイ岩	9.08	4.70	1.05	60.5	
504	273	口絵－13	37号住居	7区	SI-34	—	石製品	勾玉	緑泥石岩	2.05	1.10	0.45	1.2	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種　別	器　種	石　材	法　量（cm）			（g）	備　　考
				調査区	遺構略号					長さ	幅・径	厚さ	重さ	
513	275	429	38号住居	7区	SI-36	—	石製品	敲石	輝石安山岩	5.85	10.50	4.20	362.0	
514	275	口絵－13	38号住居	7区	SI-36	—	石製品	勾玉	緑泥石岩	3.05	2.05	1.10	6.4	
531	283	409	42号住居	8区	SI-45	—	石製品	打製石鏃	黒曜石	1.75	1.40	0.55	0.7	黒色
532	283	415	42号住居	8区	SI-45	—	石製品	剥片石器	珪化岩	4.60	3.25	1.50	26.7	
603	301	419	68号土坑	2区	SK-19	—	石製品	打製石斧	緑泥片岩	8.70	4.40	0.94	43.5	
604	301	430	68号土坑	2区	SK-19	—	石製品	敲石	輝石安山岩	6.40	6.65	3.00	181.9	
674	317	435	46号住居	7区	SI-29	—	石製品	紡錘車	蛇紋岩		(5.80)	0.55	11.6	孔径（0.80）cm
685	319	422	47号住居	7区	SI-31	—	石製品	磨製石斧	ホルンフェルス	12.55	5.80	3.60	382.7	
750	326	442	49号住居	8区	SI-39	—	石製品	滑石製石製品	滑石	7.30	7.20	1.20	73.3	スス付着
826	364	425	8号溝	8区	SD-10	—	石製品	磨石	輝石安山岩	5.70	5.63	3.00	113.8	
827	364	418	8号溝	8区	SD-10	—	石製品	打製石斧	変ハンレイ岩	10.95	4.61	1.25	85.9	
832	365	409	9号溝	8区	SD-11	—	石製品	打製石鏃	黒曜石	2.71	1.90	0.50	2.0	姫島産
905	374	423	11号溝	2区	SD-03	—	石製品	磨製石斧	結晶片岩	(13.00)	5.45	1.95	235.0	
906	374		11号溝	2区	SD-03	—	石製品	磨製石斧	輝石安山岩	(13.25)	7.82	1.68	290.0	
907	374		11号溝	2区	SD-03	—	石製品	磨石	輝石安山岩	9.75	9.71	5.21	708.0	被熱による赤色化あり
908	374		11号溝	2区	SD-03	—	石製品	磨石	軽石	10.16	8.90	5.90	135.9	
909	375	445	11号溝	2区	SD-03	—	石製品	石鉢	軽石	23.70	20.90	6.95	1160.0	
910	375	443	11号溝	2区	SD-03	—	石製品	連盃	滑石	3.50	4.50	1.98	33.6	
934	383	436	包含層	8区	—	平坦地区3層	石製品	礫器	輝石安山岩	6.50	5.15	2.00	71.7	全体に被熱による赤色化あり
935	383	413	包含層	1区	—	平坦地区3層	石製品	剥片石器	黒曜石	3.30	3.45	0.55	4.1	黒色
936	383	412	包含層	1区	—	平坦地区3層	石製品	スクレイパー	黒曜石	4.00	1.85	1.05	4.9	黒色
937	383	412	包含層	6区	—	平坦地区3層	石製品	スクレイパー	無斑晶安山岩	8.15	4.10	0.80	22.2	
938	383	409	包含層	1区	—	平坦地区3層	石製品	打製石鏃	黒曜石	2.41	2.00	0.55	2.2	黒色
939	383	408	包含層	8区	—	平坦地区3層	石製品	打製石鏃	黒曜石	1.58	1.07	0.30	0.4	黒色
940	383	409	包含層	1区	—	平坦地区3層	石製品	打製石鏃	無斑晶安山岩	2.70	2.03	0.45	1.4	
941	383	408	包含層	8区	—	平坦地区3層	石製品	打製石鏃	無斑晶安山岩	2.08	1.58	0.30	0.6	
942	384	408	包含層	1区	—	平坦地区3層	石製品	剥片石器	黒曜石	2.41	1.85	0.45	1.1	黒色
943	384	410	包含層	1区	—	平坦地区3層	石製品	磨製石鏃	緑泥片岩	3.40	3.30	0.35	5.3	
944	384	416	包含層	8区	—	平坦地区3層	石製品	剥片石器	無斑晶安山岩	6.18	3.80	0.96	11.4	

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種　別	器　種	石　材	法　量（cm）			（g）	備　　考
				調査区	遺構略号					長さ	幅・径	厚さ	重さ	
945	384	416	包含層	1区	—	平坦地区3層	石製品	剥片石器	黒曜石	3.79	1.75	0.93	3.4	
946	384	416	包含層	8区	—	平坦地区3層	石製品	二次加工剥片	無斑晶安山岩	5.70	2.50	0.94	12.8	
947	384	416	包含層	1区	—	平坦地区3層	石製品	二次加工剥片	サヌカイト	5.10	2.80	1.45	19.1	
948	384	420	包含層	1区	—	平坦地区3層	石製品	打製石斧	緑泥片岩	12.05	6.65	1.95	191.0	
949	384	418	包含層	8区	—	平坦地区3層	石製品	打製石斧	変ハンレイ岩	11.30	4.25	1.33	87.5	
950	384	418	包含層	8区	—	平坦地区3層	石製品	打製石斧	泥質片岩	10.80	4.80	1.48	100.7	
951	385	417	包含層	2区	—	平坦地区3層	石製品	打製石斧	結晶片岩	12.70	6.04	1.57	129.9	
952	385	433	包含層	1区	—	平坦地区3層	石製品	石包丁	輝石安山岩	6.50	4.30	0.45	23.6	
953	385	433	包含層	7区	—	平坦地区3層	石製品	石包丁	輝石安山岩	5.70	8.20	0.55	34.8	
954	385	423	包含層	2区	—	平坦地区3層	石製品	磨製石斧	蛇紋岩	11.40	4.80	2.80	242.3	
955	385	425	包含層	2区	—	平坦地区3層	石製品	磨石	輝石安山岩	3.70	6.20	2.05	114.8	
956	386	427	包含層	8区	—	平坦地区3層	石製品	磨石・敲石	輝石安山岩	12.00	10.00	4.50	718.0	
957	386	438	包含層	2区	—	平坦地区3層	石製品	砥石	リソイダイト	9.30	4.25	3.88	196.7	
1185	420	416	包含層	1区	—	平坦地区2b層	石製品	剥片石器	サヌカイト	7.60	3.40	1.10	24.1	
1186	420	411	包含層	1区	—	平坦地区2b層	石製品	削器	無斑晶安山岩	7.50	4.70	1.00	29.6	
1187	420	413	包含層	1区	—	平坦地区2b層	石製品	石匙	サヌカイト	3.40	6.90	0.95	15.9	
1188	420	409	包含層	2区	—	平坦地区2b層	石製品	打製石鏃	無斑晶安山岩	3.54	2.07	0.50	2.8	
1189	420		包含層	7区	—	平坦地区2b層	石製品	打製石鏃	チャート	2.40	1.30	0.31	0.6	
1190	420	409	包含層	1区	—	平坦地区2b層	石製品	打製石鏃	無斑晶安山岩	2.60	1.90	0.50	1.6	
1191	420	408	包含層	8区	—	平坦地区2b層	石製品	打製石鏃	チャート	2.54	1.90	0.39	1.3	
1192	420	408	包含層	1区	—	平坦地区2b層	石製品	打製石鏃	黒曜石	0.95	3.10	0.50	1.6	姫島産
1193	420	414	包含層	8区	—	平坦地区2b層	石製品	三日月形石器	安山岩	3.10	2.05	0.55	1.8	
1194	420		包含層	8区	—	平坦地区2b層	石製品	磨製石器	片岩	2.30	2.30	0.35	2.0	
1195	421	416	包含層	2区	—	平坦地区2b層	石製品	剥片石器	無斑晶安山岩	8.59	4.40	1.60	50.5	
1196	421	420	包含層	1区	—	平坦地区2b層	石製品	打製石斧	緑泥片岩	11.20	5.95	1.30	87.9	
1197	421	420	包含層	1区	—	平坦地区2b層	石製品	打製石斧	変ハンレイ岩	13.70	6.10	1.50	117.5	
1198	421	418	包含層	7区	—	平坦地区2b層	石製品	打製石斧	結晶片岩	11.22	5.25	1.68	136.9	
1199	422	419	包含層	2区	—	平坦地区2b層	石製品	打製石斧	結晶片岩	7.65	6.90	1.25	126.5	
1200	422	419	包含層	2区	—	平坦地区2b層	石製品	打製石斧	角閃石安山岩	7.45	6.52	1.33	63.6	

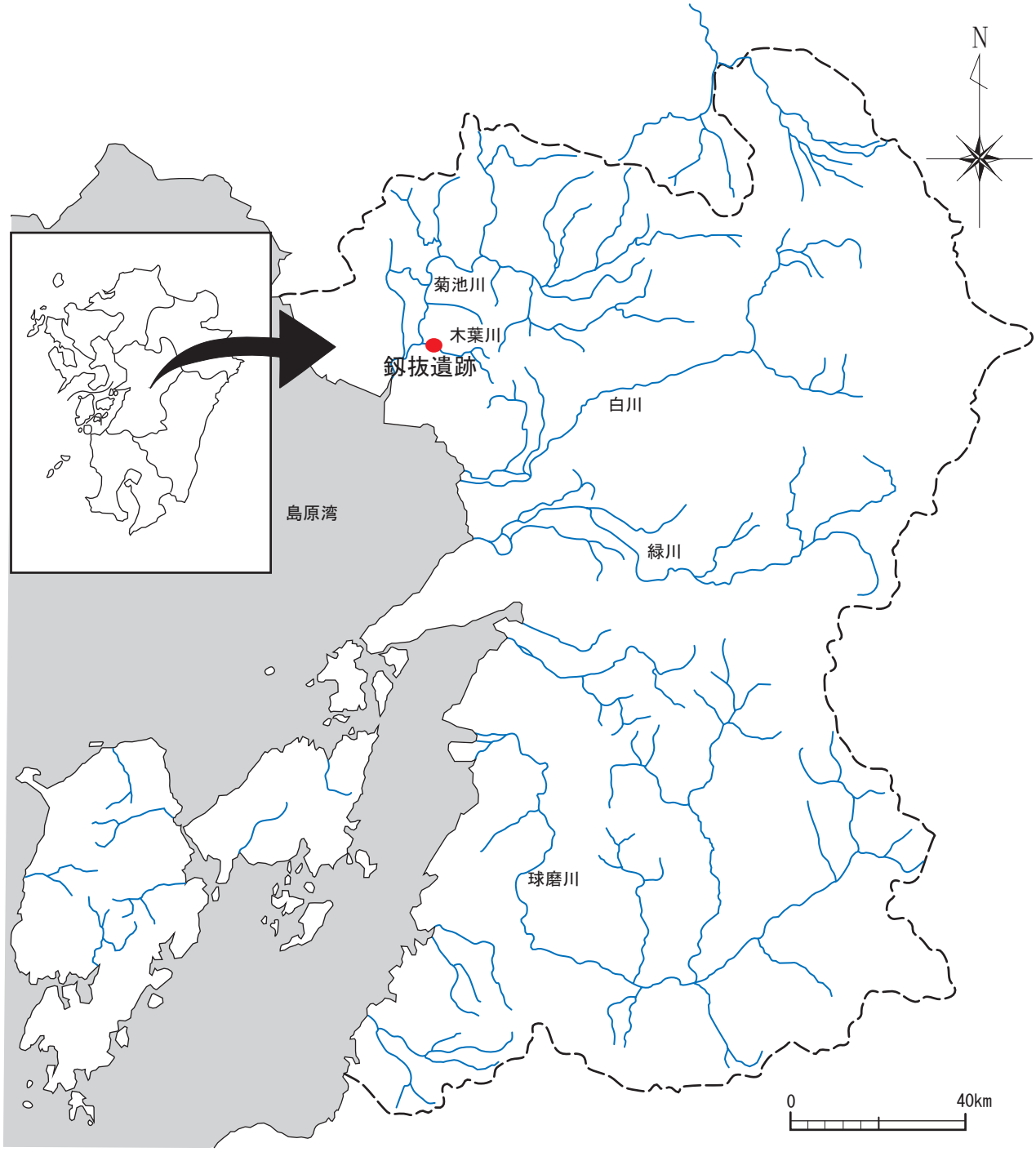
遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種　別	器　種	石　材	法　量（cm）			（g）	備　　考
				調査区	遺構略号					長さ	幅・径	厚さ	重さ	
1201	422	432	包含層	1区	—	平坦地区２b層	石製品	石包丁	泥質片岩	6.10	(8.75)	0.43	38.3	
1202	422	434	包含層	2区	—	平坦地区２b層	石製品	石包丁	頁岩	3.70	(9.30)	0.65	37.3	
1203	423	口絵－14	包含層	1区	—	平坦地区２b層	石製品	石包丁	頁岩	4.25	(8.65)	0.75	42.9	
1204	423	口絵－14	包含層	8区	—	平坦地区２b層	石製品	石包丁	頁岩	3.10	(8.05)	0.80	33.3	
1205	423	口絵－14	包含層	7区	—	平坦地区２b層	石製品	石包丁	頁岩	4.80	(7.60)	0.68	32.2	
1206	423	口絵－14	包含層	8区	—	平坦地区２b層	石製品	石包丁	泥質片岩	3.65	4.60	0.80	14.7	
1207	423	434	包含層	2区	—	平坦地区２b層	石製品	石包丁	頁岩	3.08	5.55	0.61	14.6	
1208	423	421	包含層	8区	—	平坦地区２b層	石製品	磨製石斧	砂岩	7.78	3.22	3.40	146.9	
1209	424	423	包含層	2区	—	平坦地区２b層	石製品	磨製石斧	緑泥片岩	9.65	5.40	1.70	135.1	
1210	424	423	包含層	2区	—	平坦地区２b層	石製品	磨製石斧	緑泥片岩	9.10	4.80	1.15	96.8	
1211	424	424	包含層	1区	—	平坦地区２b層	石製品	磨製石斧	泥質片岩	12.25	6.10	4.10	296.1	
1212	424	423	包含層	2区	—	平坦地区２b層	石製品	磨製石斧	砂岩	13.31	5.76	2.98	311.0	
1213	424	422	包含層	2区	—	平坦地区２b層	石製品	磨製石斧	頁岩	12.60	5.15	3.58	286.0	
1214	425	423	包含層	2区	—	平坦地区２b層	石製品	磨製石斧	泥岩	11.88	4.43	3.35	244.0	
1215	425	421	包含層	8区	—	平坦地区２b層	石製品	磨製石斧	変ハンレイ岩	11.50	7.10	1.70	129.1	
1216	425	421	包含層	8区	—	平坦地区２b層	石製品	磨製石斧	蛇紋岩	7.50	7.10	3.60	225.0	
1217	425	421	包含層	8区	—	平坦地区２b層	石製品	磨製石斧	頁岩	10.00	6.41	3.01	291.0	
1218	425	430	包含層	1区	—	平坦地区２b層	石製品	敲石	砂岩	10.00	4.30	3.85	264.0	
1219	426	429	包含層	8区	—	平坦地区２b層	石製品	敲石	輝石安山岩	11.95	4.55	3.05	245.0	
1220	426	428	包含層	1区	—	平坦地区２b層	石製品	磨石	角閃石安山岩	7.70	7.00	3.80	292.0	
1221	426	425	包含層	2区	—	平坦地区２b層	石製品	磨石	輝石安山岩	7.11	6.55	4.10	235.0	
1222	426	425	包含層	2区	—	平坦地区２b層	石製品	磨石	輝石安山岩	5.06	4.60	3.90	62.6	
1223	427	425	包含層	2区	—	平坦地区２b層	石製品	磨石	輝石安山岩	4.67	3.92	3.30	70.1	
1224	427	429	包含層	8区	—	平坦地区２b層	石製品	磨石・敲石	輝石角閃石安山岩	5.90	5.10	2.70	81.7	
1225	427		包含層	2区	—	平坦地区２b層	石製品	磨石	輝石安山岩	8.40	7.50	6.80	492.0	
1226	427	430	包含層	2区	—	平坦地区２b層	石製品	敲石	輝石安山岩	9.25	5.80	5.35	435.0	被熱による赤色化あり
1227	427	426	包含層	2区	—	平坦地区２b層	石製品	磨石	輝石安山岩	12.30	7.83	5.40	750.0	
1228	428	438	包含層	2区	—	平坦地区２b層	石製品	砥石	砂岩	4.55	2.10	1.85	28.9	
1229	428	438	包含層	2区	—	平坦地区２b層	石製品	砥石	輝石安山岩	6.75	6.65	2.10	119.4	被熱による赤色化あり

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点		包含層層位	種　別	器　種	石　材	法　量（cm）			（g）	備　　考
				調査区	遺構略号					長さ	幅・径	厚さ	重さ	
1230	428	439	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	石製品	砥石	輝石安山岩	24.50	9.10	9.10	2650.0	
1231	428	440	包含層	1区	—	平坦地区2ｂ層	石製品	砥石	リソイダイト	10.10	6.35	3.50	214.7	
1232	429	438	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	石製品	砥石	砂岩	8.10	3.80	2.70	155.3	
1233	429	437	包含層	2区	—	平坦地区2ｂ層	石製品	浮子？	軽石	8.35	11.16	2.60	122.8	
1234	429	441	包含層	7区	—	平坦地区2ｂ層	石製品	硯	リソイダイト	8.90	8.20	3.70	320.0	
1332	439	413	包含層	1区	—	平坦地区2ａ層	石製品	石匙	サヌカイト	3.10	(3.55)	0.65	5.9	
1333	439	408	包含層	1区	—	平坦地区2ａ層	石製品	打製石鏃	黒曜石	3.26	1.75	0.45	2.0	黒色
1334	439	415	包含層	1区	—	平坦地区2ａ層	石製品	剥片石器	結晶質石灰岩	5.05	2.50	1.20	10.7	
1335	439	410	包含層	1区	—	平坦地区2ａ層	石製品	磨製石鏃	頁岩	3.30	2.30	0.30	2.2	
1336	439	436	包含層	1区	—	平坦地区2ａ層	石製品	石剣？	頁岩	(5.40)	3.60	0.95	24.2	
1337	439	419	包含層	2区	—	平坦地区2ａ層	石製品	打製石斧	変ハンレイ岩	16.20	5.90	2.25	367.2	
1338	439	424	包含層	1区	—	平坦地区2ａ層	石製品	磨製石斧	頁岩	11.85	5.30	3.35	323.5	
1339	439	435	包含層	1区	—	平坦地区2ａ層	石製品	紡錘車	輝石安山岩		3.60	0.50	10.4	孔径0.8 ～ 1.0cm
1340	440	437	包含層	1区	—	平坦地区2ａ層	石製品	石錘	砂岩	8.70	5.10	5.50	304.8	
1341	440	440	包含層	1区	—	平坦地区2ａ層	石製品	砥石	頁岩	24.40	4.80	4.90	605.0	
1376	447	446	包含層	3区	—	湿地区4層	石製品	磨製石鏃	片岩	3.90	2.35	0.30	3.9	
1377	447	446	包含層	3区	—	湿地区4層	石製品	打製石斧	安山岩	14.00	8.85	2.90	410.0	
1378	447	446	包含層	3区	—	湿地区4層	石製品	石包丁	輝石安山岩	4.90	11.90	0.50	51.1	
1379	447	446	包含層	3区	—	湿地区4層	石製品	石包丁	頁岩	3.25	5.10	0.50	13.3	
1380	447	446	包含層	3区	—	湿地区4層	石製品	磨製石斧	蛇紋岩	9.75	6.45	2.30	160.5	
1381	447	446	包含層	3区	—	湿地区4層	石製品	不明石器	滑石	4.05	7.65	2.25	123.5	
1427	453	446	包含層	3区	—	湿地区3層	石製品	砥石	リソイダイト	12.00	5.90	4.50	292.6	天草砥石
1428	453	446	包含層	3区	—	湿地区3層	石製品	棒状石製品	片岩	9.40	3.70	1.25	65.5	

表－20－５　北の崎遺跡出土遺物観察表　　鉄製品

遺物番号	図版番号	写真番号	遺構名	出土地点	遺構略号	包含層層位	種　別	器　種	法　量（cm）			（g）	備　　考
				調査区					長さ	幅・径	厚さ	重さ	
393	248	447	28号住居	２区	SI-13	—	鉄製品	不明鉄器	9.7	1.5	0.8	11.8	
462	262	447	33号住居	６区	SI-26②	—	鉄製品	刀子	8.4	1.5	0.8	10.0	
584	297		67号土坑	１区	SK-01	—	鉄製品	不明鉄器	5.0	3.8	0.6	3.8	
654	313		44号住居	１区	SI-01②	—	鉄製品	鉄鏃	6.0	1.0	0.8	6.2	
780	336	447	75号土坑	１区	SX-05	—	鉄製品	鉄鏃	10.9	1.2		16.0	
822	362	447	７号溝	７区	SD-08	—	鉄製品	鉄鏃	6.8	1.4		5.6	
911	375	447	11号溝	２区	SD-03	—	鉄製品	釘	6.4	1.3		12.8	
958	386	448	包含層	７区	—	平坦地区３層	鉄製品	鉄鏃	14.0	1.1	1.3	32.6	
1235	430	449	包含層	１区	—	平坦地区２ｂ層	鉄製品	鍬先	13.0	13.9		138.2	
1236	430	448	包含層	２区	—	平坦地区２ｂ層	鉄製品	刀子	6.0	5.1	0.5	34.4	
1237	430		包含層	２区	—	平坦地区２ｂ層	鉄製品	不明鉄器	4.5	3.9	0.6	22.8	
1238	430		包含層	６区	—	平坦地区２ｂ層	鉄製品	不明鉄器	4.2	4.4	0.9	24.2	
1239	430		包含層	６区	—	平坦地区２ｂ層	鉄製品	不明鉄器	3.1	2.8	0.8	9.8	
1240	430		包含層	６区	—	平坦地区２ｂ層	鉄製品	不明鉄器	4.2	3.7	0.8	17.2	
1241	430		包含層	８区	—	平坦地区２ｂ層	鉄製品	不明鉄器	3.2	4.5		7.6	
1342	441	448	包含層	１区	—	平坦地区２ａ層	鉄製品	鎹	(9.1)	1.8	1.3	33.6	
1343	441	448	包含層	１区	—	平坦地区２ａ層	鉄製品	刀子	(3.9)	1.1		3.0	
1344	441	448	包含層	１区	—	平坦地区２ａ層	鉄製品	鉄素材	9.4	6.0	0.8	131.8	
1345	441	448	包含層	１区	—	平坦地区２ａ層	銅製品	キセル	7.5	1.0		9.6	
1346	441	448	包含層	１区	—	平坦地区２ａ層	銅製品	キセル	5.5	1.6	1.7	10.4	
1347	441		包含層	１区	—	平坦地区２ａ層	鉄製品	不明鉄器	2.7	4.3	1.0	10.6	

釼抜遺跡



第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査組織

予備調査、発掘調査の調査体制及び整理・報告書作成業務に関わる組織は次の通りである（敬称略）。

１　予備調査（平成14年度）

調査主体	熊本県教育委員会	
調査責任者	熊本県教育庁文化課長	成瀬　烈大
	教育審議員兼課長補佐	島津　義昭
調査総括	文化財調査第二係長	木崎　康弘
調査事務局	教育審議員兼課長補佐	小田　信也
	主幹兼総務係長	中村　幸宏
	主任主事	天野　寿久
調査担当者	参事	廣田　静学
	嘱託	西　慶喜
	嘱託	西口　貴志

２　発掘調査（平成14年度）

調査主体	熊本県教育委員会	
調査責任者	熊本県教育庁文化課長	成瀬　烈大
	教育審議員兼課長補佐	島津　義昭
調査総括	文化財調査第二係長	西住欣一郎
調査事務局	課長補佐	小田　信也
	主幹兼総務係長	中村　幸宏
	主任主事	天野　寿久
調査担当	主任学芸員	宮崎　敬士
	文化財保護主事	馬場　正弘
	嘱託	福永　雅美
	嘱託	稲富　陽子
	嘱託	米村　俊治
	嘱託	松野　直子

３　整理（平成18年度）

調査主体	熊本県教育委員会	
整理責任者	熊本県教育庁文化課長	梶野　英二
	課長補佐	江本　　直
整理総括	主幹兼文化財調査第二係長	西住欣一郎
調査事務局	課長補佐	吉田　　恵
	主幹兼総務係長	高宮　優美
	主任主事	小谷　仁志
整理担当	文化財保護主事	馬場　正弘
	嘱託	坂田美智子

４　報告書作成（平成22年度）

調査主体	熊本県教育委員会	
整理責任者	熊本県教育庁文化課長	小田　信也
	課長補佐	木崎　康弘
整理総括	主幹兼文化財調査第二係長	西住欣一郎
調査事務局	教育審議員兼課長補佐	宗村　士郎
	課長補佐	元島　　茂
	参事	山田　京子
整理担当	文化財保護主事	馬場　正弘
	嘱託	坂田美智子

５　調査指導及び調査協力者

発掘調査及び整理・報告書作成に関する指導・助言を頂いた先生方は以下の通りである。記して感謝の意を表したい（敬称略）。

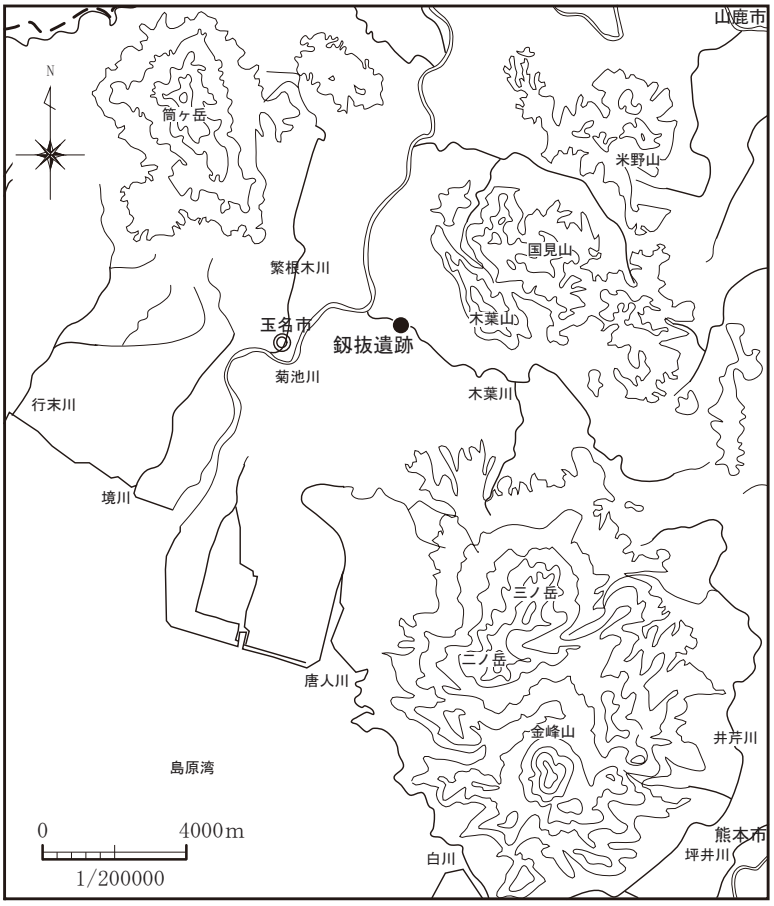
調査協力者

岡本　真也（熊本県教育委員会）
後藤貴美子（熊本県教育委員会）
廣田　静学（熊本県教育委員会）
西　　慶喜（熊本県教育委員会）
中尾　健照（旧岱明町教育委員会）

６　調査作業員（敬称略）

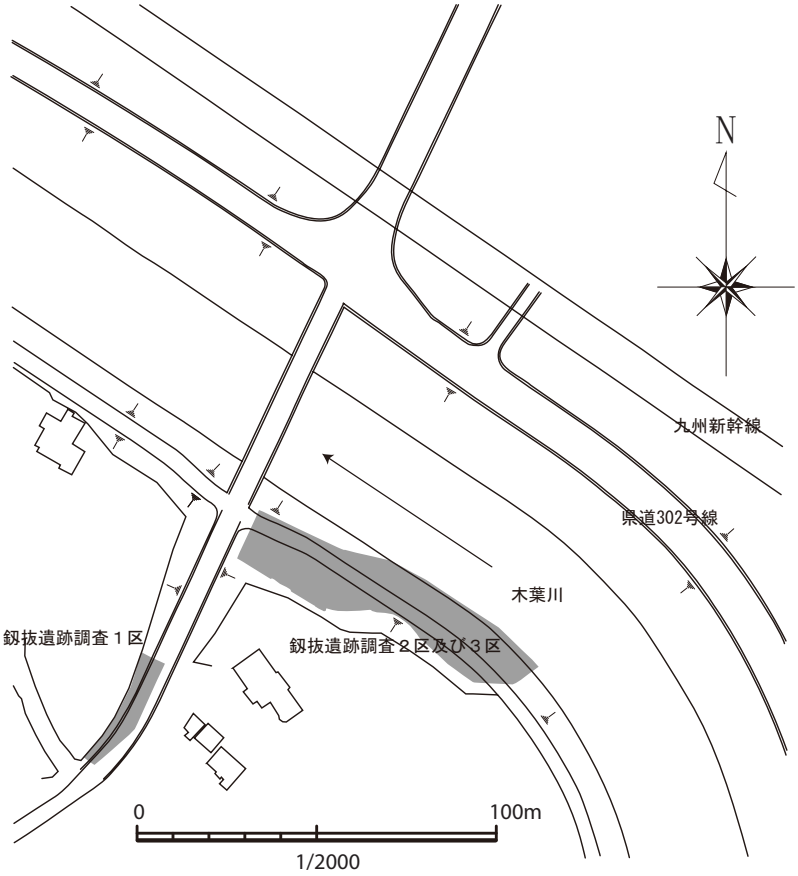
（１）　発掘調査

赤尾真史　荒木侯子　飯塚俊一　池田八千代
北田弘成　北原靖治　木本勝雄　田上敏子
高村伸一　中本フタミ　仲山諏訪子　仲山光丸
仲山睦郎　西嶋喜久代　東とし子　平山節子
廣瀬正義　前田道子　村上勝也　村上敏則
矢加部潔　山内勲　池田耕廣　雪野ミチ子
石島カシ子　生森キミヨ　藤嶽和義　木山鎮良
三津家キミ子　榎本ミチヨ　榎本喜義　明石照弘
清田栄子　清田淳二　大久保靖子　猿渡カオリ
小島春子　大野広行　古庄哲子　南久子　満原恵
明石穂奈美　左内誠志　松本肇代　荒木優子
平永保雄　石原紀久代　石元孝行　梶山文男
北田テイ子　高崎ハル子　田添五雄　徳山司
中林静代　中林淳子　藤本政子　星野テツヤ
前村国博　宮本知恵子　村上洋子　森本起江
山中栄一郎　吉田由美子



図－487　剱抜遺跡の位置図
玉名市大字安楽寺字舟島

木葉川左岸の舟島橋周辺に所在する遺跡。



図－488　剱抜遺跡調査地の位置図

工事後の遺跡周辺の略図と剱抜遺跡の位置。色をつけてある部分が今回発掘調査を行った箇所。現在では木葉川の堤防と舟島の集落に入る道路となっている。

（2）　整理作業

（一次整理）

瀬口絹代　松本直枝　吉武知佐子　浪床せい子
青山玲子　中島ひろみ　冨田知子　興梠富貴子
米倉五月　村山紀子　篠崎チカ子　上野栄子
内田孝子　中山安子　吉本清子　古閑知子
益田久子

（二次整理）

井島秀子　金子美代子　府内博子

第２節　調査の経過

１　調査に至る経緯

平成11年に玉名地域振興局土木部から依頼を受け、県文化課が遺跡地図との照合と現地踏査を実施した結果、工事予定地内には埋蔵文化財が存在する可能性が高いと判断し、予備調査が必要な旨を玉名地域振興局に通知した。これを受け玉名地域振興局土木部（玉名工124号）から平成12年９月６日に予備調査の依頼が県文化課になされたため、平成14年６月５日から平成14年６月10日、平成14年８月30日に同調査を実施した。同調査では、試掘坑（トレンチ）を10箇所設定した。その結果、２トレンチから古墳時代から奈良・平安時代の土師器を中心におびただしい量の遺物が包含されていることが発見された。そのため、平成14年９月30日に玉名地域振興局に対し予備調査結果を通知し、併せて文化財保護法57条の３第１項に基づき発掘の通知が必要な旨を通知した。それを受け平成14年11月21日に発掘通知を文化財保護法第57条の３第１項に基づき通知された。

平成14年11月29日に玉名地域振興局土木部から埋蔵文化財発掘に関する依頼が県文化課に提出されたため、県文化課は文化財保護法第58条の２第１項に基づき、平成15年１月８日に玉名地域振興局及び玉名市教育員会に対し、発掘調査に着手する旨を通知し発掘調査に至っている。

２　調査の過程

平成15年１月６日　調査１区がおびただしい出水のため冠水しており、水中ポンプにて揚水作業を行う。

平成15年１月７日　発掘調査事務所にて、作業員への説明会を実施する。

平成15年１月８日　発掘調査を開始する。調査１区は狭小地のため10mごとに区画してグリッド設定を行い、遺物包含層である２層を掘削開始。

平成15年１月10日　廃土移動のためのベルトコンベアを設置する。

平成15年１月14日　調査１区の基本土層を確定させる。

平成15年１月16日　出水が激しく、調査１区全体が潟状となり、出土遺物にも粘性の高い粘土が付着し、電動噴霧器により洗い流す作業を発掘作業と同時に行う。

平成15年１月22日　調査２区の表土掘削を行う。調査１区では、３ａ層掘削を開始する。

平成15年２月７日　調査１区の調査を完了する。

平成15年２月12日　調査２区の調査を開始する。調査区北側の矢板に沿ってトレンチを入れる。本調査区も調査１区同様おびただしい出水をみる。２層を各グリッドごとに掘削する。

平成15年２月13日　調査２区の基本土層を確定させる。

平成15年２月27日　調査２区は、３ａ層を掘削する。

平成15年３月５日　調査２区西側半分の調査完了写真を撮影し、調査を終える。

平成15年３月12日　調査３区の表土掘削を開始する。

平成15年３月14日　調査３区の基本土層を確定し、２層の掘削を開始する。

平成15年３月28日　調査３区の調査完了写真を撮影し、調査を完了した。午後調査機材や出土物を文化財資料室に撤収した。

第Ⅱ章　遺跡の概要

北の崎遺跡と同一事業、同一地域であり、北の崎遺跡と重複するため割愛する。　北の崎遺跡参照。

第Ⅲ章　調査成果

第１節　調査地について

１　調査にあたっての開削工法及び調査機材

本遺跡は、沖積地の遺跡である。遺跡に隣接する道路及び堤防の法面保護のため止水鋼矢板を打って開削工法をとった。

調査機材にあたっては、現地表面からの掘削深度が深いためベルトコンベアによる廃土運搬を行うこととした。また、調査中激しく湧水したため水中ポンプにより恒常的に排水した。

２　調査区の設定

調査総面積は、1408㎡である。調査地は、（現）木葉川の南側の水田部である。そこで工事によって道路になる部分を１区、木葉川の堤防部になる部分を２区及び３区とした。尚、堤防となる部分においては、廃土置き場の問題があり半分調査を行い、半分を廃土置き場にし、調査が完了したら反転させる手法をとったため２区と３区に分割した。

第２節　調査の方法

調査にあたっては、調査を開始する前に発掘調査要領を作成し、調査担当者が共通理解を行い同じ調査の精度であたれるようにした。以下その要旨のみを記載しておく。

１　測量

木葉川災害復旧等関連事業において熊本県土木部が設置した日本測地系の基準点資料をもとに、既知点間を検査測量精度確認した上で、新設基準点を打設し結合トラバースを組み基準点測量を調査区ごとに行った。また、メッシュ杭設置においては、設置した４級の新設基準点をもとに、調査区域内のメッシュ杭を10mピッチで打設した。よって、今回、釼抜遺跡は、木葉川災害復旧等関連事業に伴う基準点資料を使用したことにより日本測地形による座標を用いることとした。

２　グリッド調査法

国土座標（Ⅱ系）に準拠した10mグリッドを基本単位とするグリッド法を用いた。調査区すべての範囲を網羅するために、国土座標に基づき釼抜遺跡座標を設定した。国土座標（Ｘ＝－8600m、Ｙ＝－37600m）を釼抜遺跡座標の原点（ｘ＝０ｍ、ｙ＝０ｍ）として、３桁の正の整数で表すこととした。国土座標から釼抜遺跡座標への変換式は次の通りである。（ｘ、ｙ）＝（8600＋国土Ｘ座標、37600＋国土Ｙ座標）また、10ｍごとに打設したグリッド杭の名称は、釼抜遺跡の座標値（ｘ＝100ａ＋10ｂ、ｙ＝100ｃ＋10ｄ：ａはｘ座標の百の位の数字、ｂはｘ座標の十の位の数字、ｃはｙ座標の百の位の数字、ｄはｙ座標の十の位の数字である）を「acbd」として表し、各グリッドの南西隅の杭名をグリッド名とした。

尚、１区は、狭小区であったため、上記のグリッド設定はせず、北側から４区分し、１グリッド・２グリッド・３グリッド・４グリッドとグリッド名をつけ調査にあたった。

３　分層調査法

層位については、遺物包含層（土器や石器などの遺物を含んだ自然堆積層）の層位と遺構内の埋土（人為的もしくは自然に遺構を埋られた土）で使用する層位を区別するために、遺物包含層については、算用数字で上層から１層、２層・・・と表記し、遺構内の埋土の層を表す時には算用数字の前に埋められた土であるという意味を持たせるため「埋」をつけ、埋１層、埋２層・・・と表記した。尚、調査の途中で漸移層（層と層の境界で漸移的に移りかわっていく部分）や新たに認識された層が出てきたときには、アルファベットの小文字をつけ、埋２ｂ層のように細分した。

しかし、今回の調査では遺物は出土したものの遺構は１基も検出されなかったため埋土の表記はなかった。

４　実測図作成

現地での発掘調査における実測図作成にあたっては、1/20の縮尺で断面図・平面図・遺物出土状況図を作成することとした。

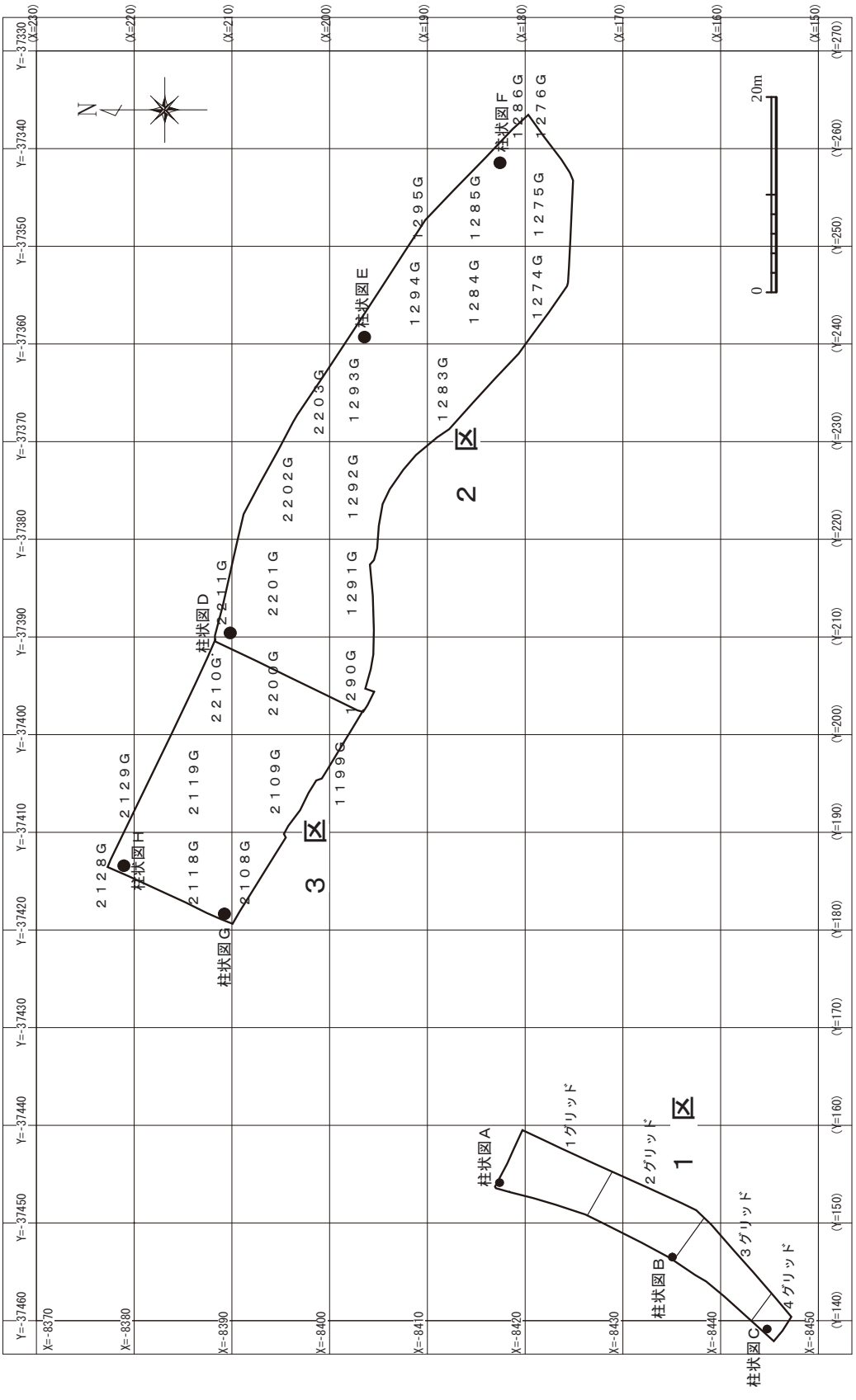
５　写真撮影

遺構検出時（掘削前）、遺物出土時（掘削中）、完掘時（掘削後）の各段階において、調査担当者が小型カメラと中型カメラを使用し、モノクロとカラーで撮影することとした。

6　出土遺物の取り上げ

出土遺物の取り上げについては、各グリッド、各層位ごとに一括して取り上げる方法と出土地点を平面座標と標高を記録して取り上げる方法のどちらかを必要に応じて採用した。

*(　　)内の数値は、釦抜遺跡座標



図－489　釦抜遺跡グリッド設定図

第３節　釧抜遺跡基本土層

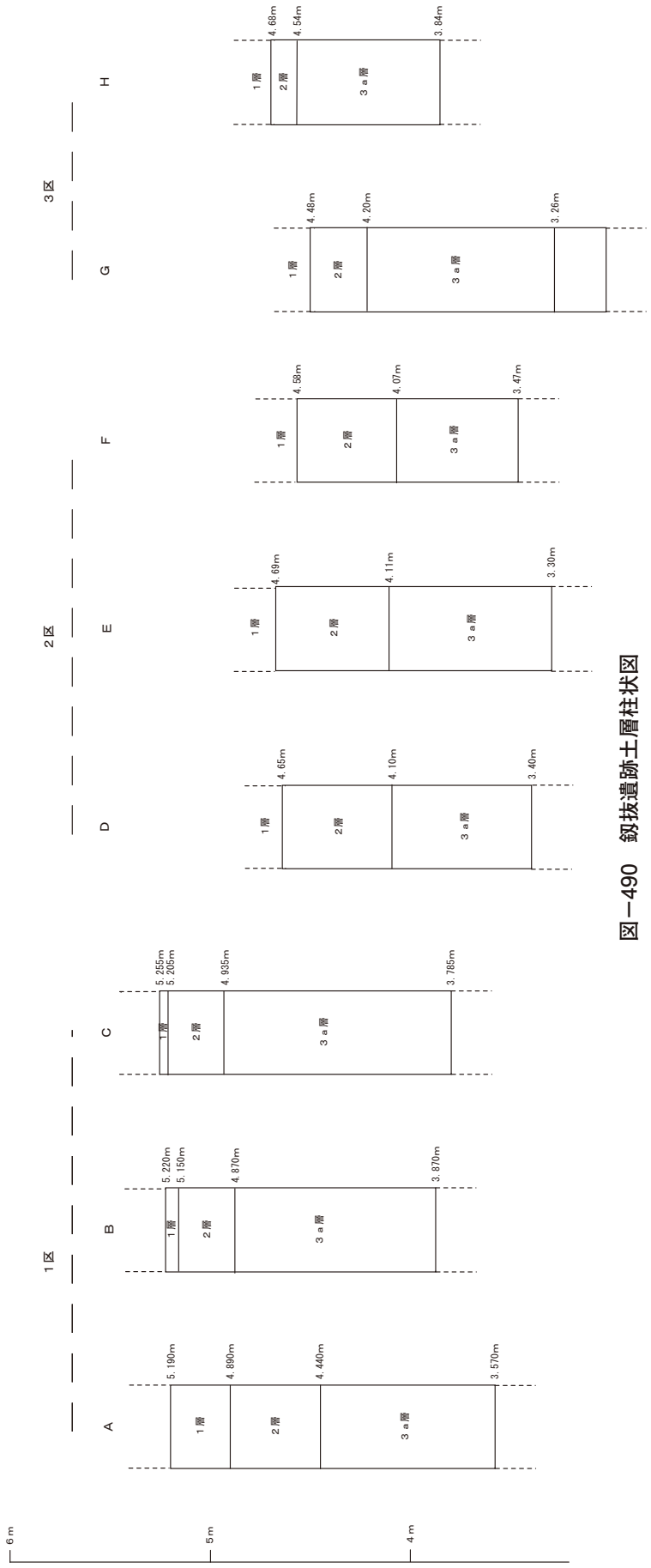
１層　表土

２層　遺物包含層。黒褐色（10YR3/1）粘土層。直径が１cm以内程度の安山岩の風化物を含む。粘性は中程度、しまりも中程度である。本層には、植物片（根・枝など）を含む。最下層においては量的にも増える。

３a層　遺物包含層。灰色（7.5YR4/1）粘土。２層よりかなり明度が増し黄色が強くなる。最上部から約30cm付近にレンズ状に黒色粘土層を挟む。層として２区の一部で見られ、連続性がないことからあえて層名を付けていない。この層には植物片が非常に少なく粘土として純度が高い。粘性は強く、しまりは中程度。

３b層　層全体の色調としては、赤褐色であるが本層を構成する粘土は灰色（7.5Y4/1）の粘土である。植物片を多量に含む。１区が量的には最も多く、２区、３区と量的に減る傾向をしめす。旧河川より離れることにより減る傾向にあるのだろう。よって１区付近は、過去小川のような小規模の河川が形成されていた可能性がある。遺物を少量含む。粘性は中程度でしまりは弱い。

４層　青灰色（5BG5/1）粘土。かなり粘土質であるが、小礫が含まれる。上位の層で見られていた植物片が全く見られない。無遺物層である。粘性及びしまりは１層から４層の中では最大である。



図－490　釧抜遺跡土層柱状図

第４節　遺構及び遺物

１　遺構

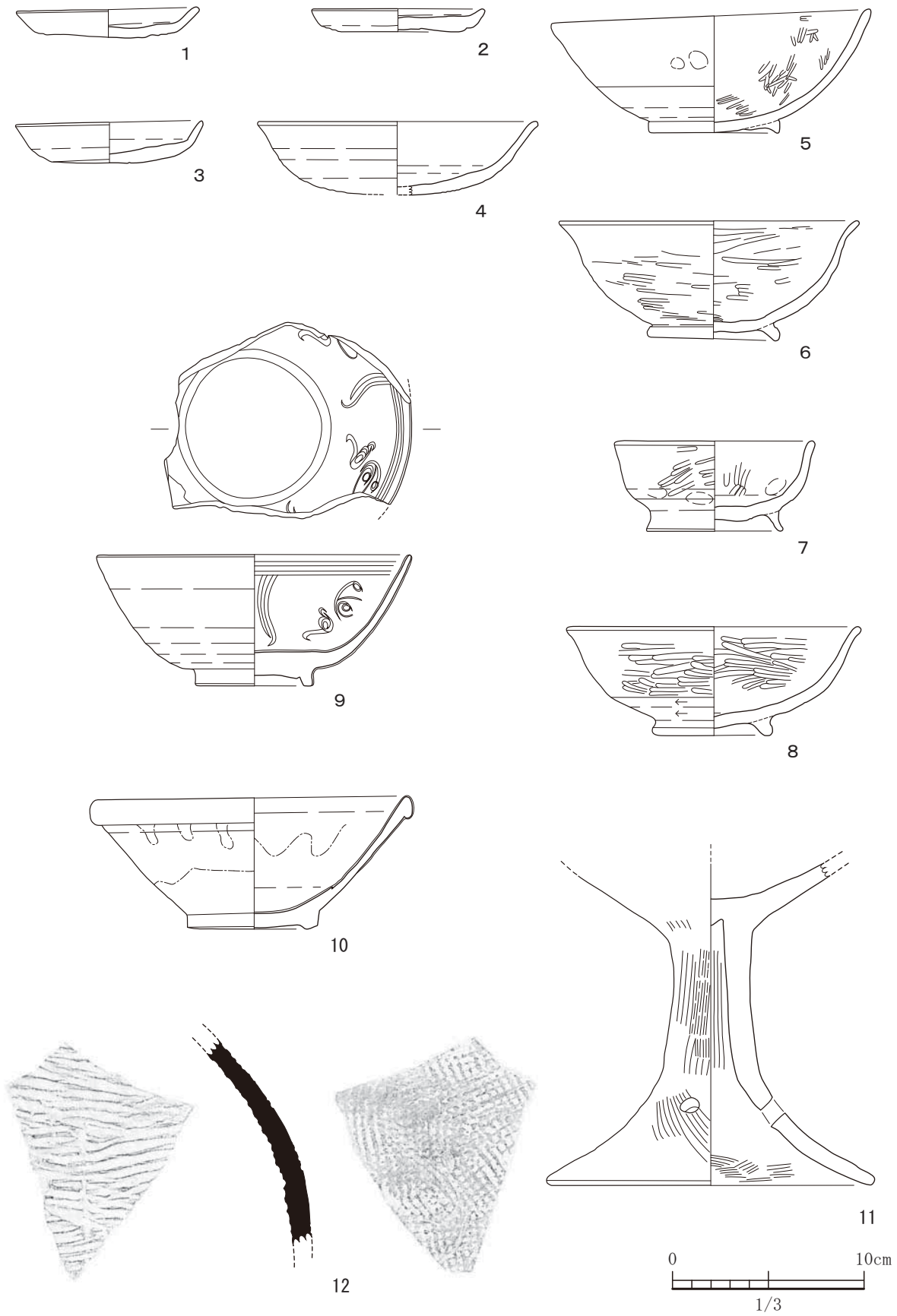
今回の発掘調査で、遺構は検出されなかった。

２　遺物

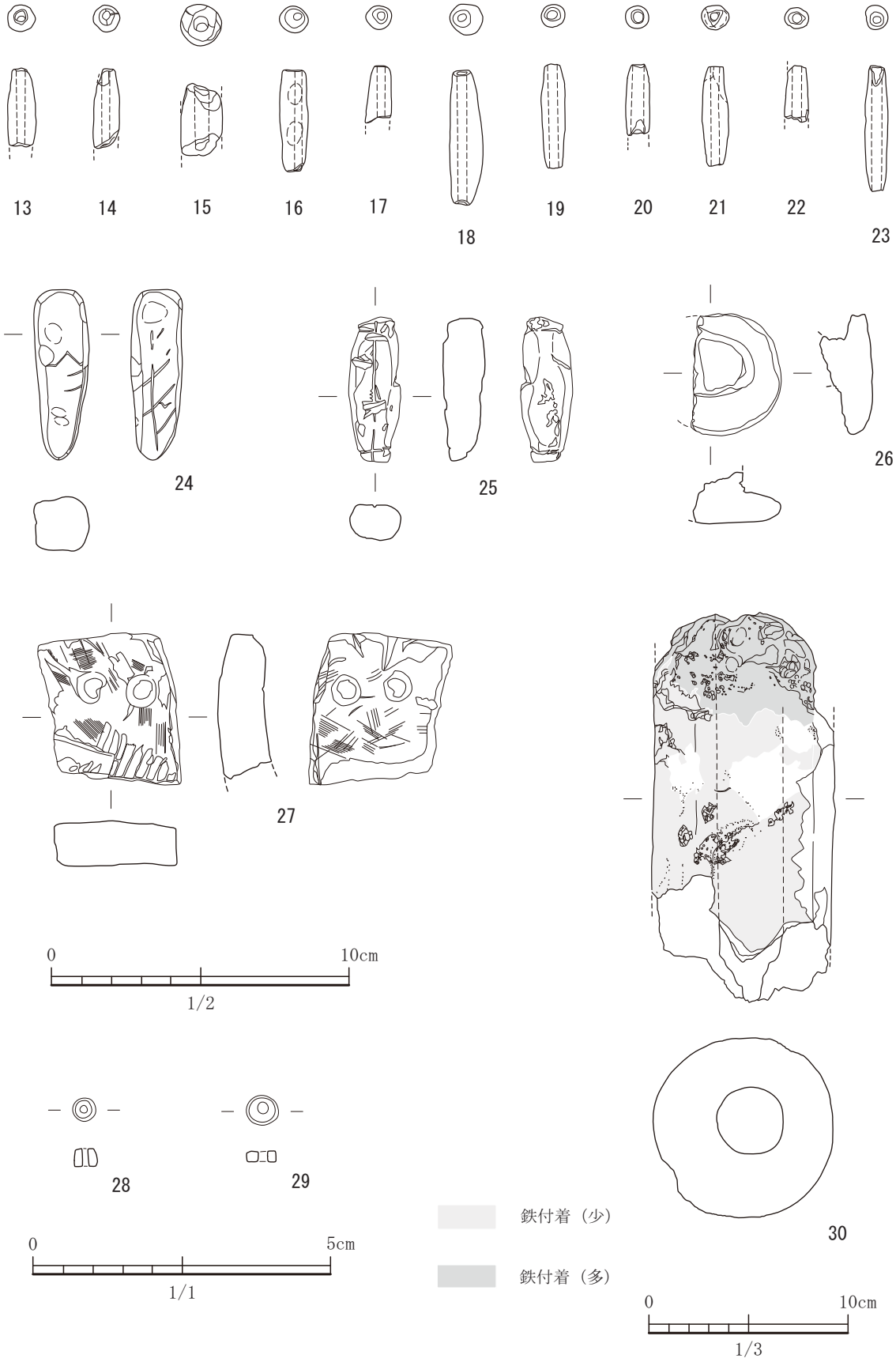
今回の発掘調査で、遺構は検出されなかったが、遺物は包含層の中から、古墳時代から中世までの土器や石器などが各層で混在して出土した。それぞれの層を形成した時代の人々によって層ごと乱されたものと考えられる。よって、ここでは遺物実測図を掲載するとともに、写真を掲載し、各遺物を解説しておく。なお、本遺跡の包含層は２層と３ａ層からなる。

２層の出土遺物から解説する。２層は、中世から古代の遺物を中心とするようである。１は土師器小皿。外底面に回転糸切り離し痕がのこる。２は土師器小皿で、外底面にはヘラ切り離し痕が見られる。３は坏である。底部から屈曲して立ち上がる。４は土師器の坏である。丸みを帯びながら立ち上がる。５、６は、瓦器質椀である。内外面にミガキが施されている。７、８は、瓦器質椀で炭素吸着処理を内器面に施した黒色土器Ａ類である。７は器高がやや高く外に開く長い高台をもつ。９は、龍泉窯系青磁椀である。二又片刃によって体部内面を分割してあり、その中には、飛雲文を入れてある。底部の器肉が厚く断面が四角形の高台を有する。この類の椀には口縁端部に指でつまんだような凹部をなすものがあるが、口縁がほとんど残存しておらず不明である。12世紀中頃から後半にかけてのものであると思われる。10は、白磁の椀である。口縁部には、肉厚な玉縁がある。内面には、横沈線が施され、見込み部には一段沈む部分がなく、高台では内側の抉りが浅く、底部の器肉が厚い。11世紀後半から12世紀前半のものではないかと考えられる。11は、土師器の高坏で、脚部に３箇所の穿孔を施してある。坏部は欠損して不明。12は須恵器の甕の胴部の破片である。外面には格子目タタキ、内面には平行タタキ調整を行っている。13から23までは土錘である。16、18、19はほぼ完形である。16には指頭圧痕が残る。刺し網に使用されたものであろう。24は用途不明の土製品である。25は滑石製の石である。26は滑石製の円盤状の石製品である。中央はつまみ状になっている。用途不明である。27は、滑石製の石鍋の口縁部と思われる。２箇所の凹部がある。28と29は、滑石製の臼玉である。30は羽口である。先端部には鉄が付着している。孔径は3.4㎝、径は9.05㎝を測る。やや細身である。製鉄というより鍛冶の羽口と考えている。31は、石包丁である。石材は砂岩である。中央部分しか残っていない。32、33は、砥石である。石材は、32が片岩で33は砂岩であり、２面に明瞭な磨り面がある。34と35は瓦である。34は丸瓦で凹面には布目痕があり、35は平瓦で凹面に布目痕。凸面に縄目痕がある。36は鈴である。時代は不明である。37は、筒状の銅製品である。両端と中央部に２条ずつ溝を施してある。用途不明である。

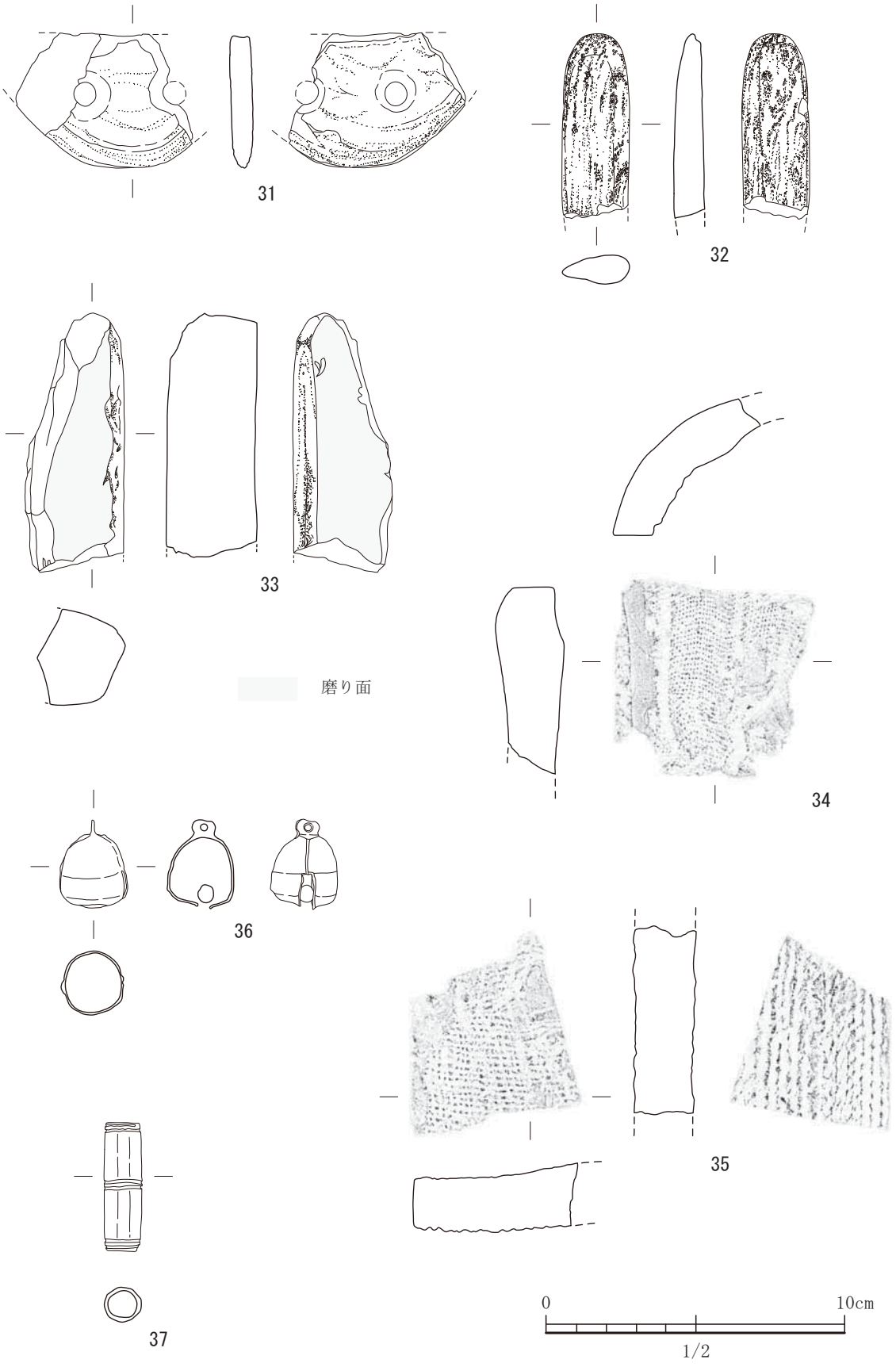
本遺跡は、低湿地の遺跡であり、基本土層に記載があるように粘土が卓越する。よってこの粘土が空気を遮断することにより木器が朽ちることなく良好に保存されていた。今回の調査区においては流木とともに植物の葉なども出てきたが、掘削直後は緑色を呈していた。空気に触れることで急激に酸化され黒色化してしまうところから如何に保存状態がよかったかが理解できる。38は、板状の木製品である。中央に直径1.8㎝の穿孔が施されている。中央の直径1.9㎝の孔から２個の孔にむかって２本放射状にのびる紐の痕跡が見られ、裏面では板を巻くように外へのびる紐の跡が見られる。用途は不明である。39は薄板状の曲物の一部である。材料はスギ材である。40は、鏑矢である。タイミンタチバナの木を材料とする木製の鏑矢である。内部は空洞になっており、一部欠損しており正確にはわからないが、８箇所に小孔を空けてあり卵型の形状をなしていると思われる。小孔は６箇所残存する。41は、ヒノキを材料とする把手である。本体部は完全に欠損している。42は、ムクノキを材料とする棒状加工品である。先端部に工具痕が認められる。43は、薄板状の板状加工品で用途は不明。



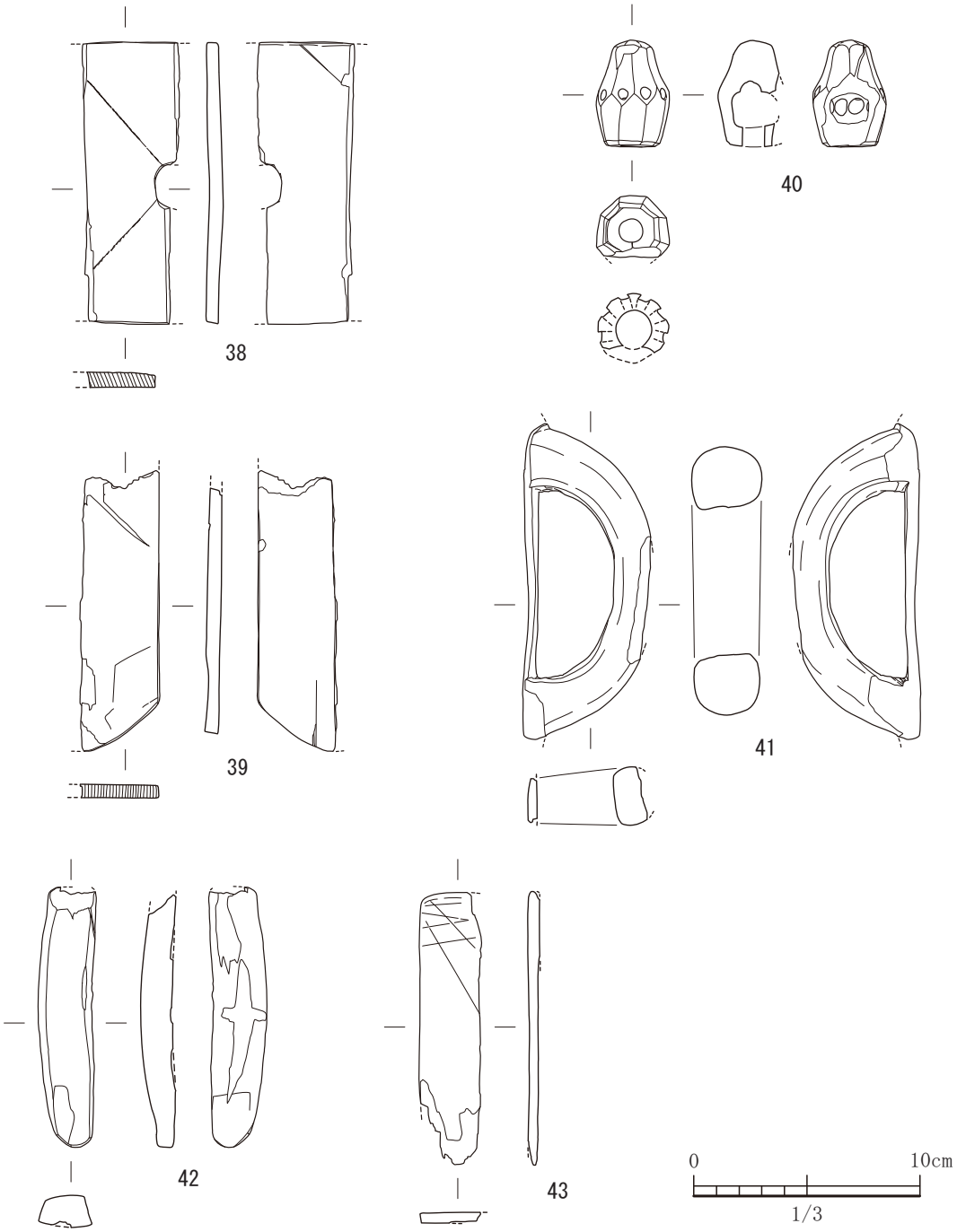
図－491　釼抜遺跡遺物包含層（２層）出土遺物　①



図－492　釦抜遺跡遺物包含層（２層）出土遺物　②

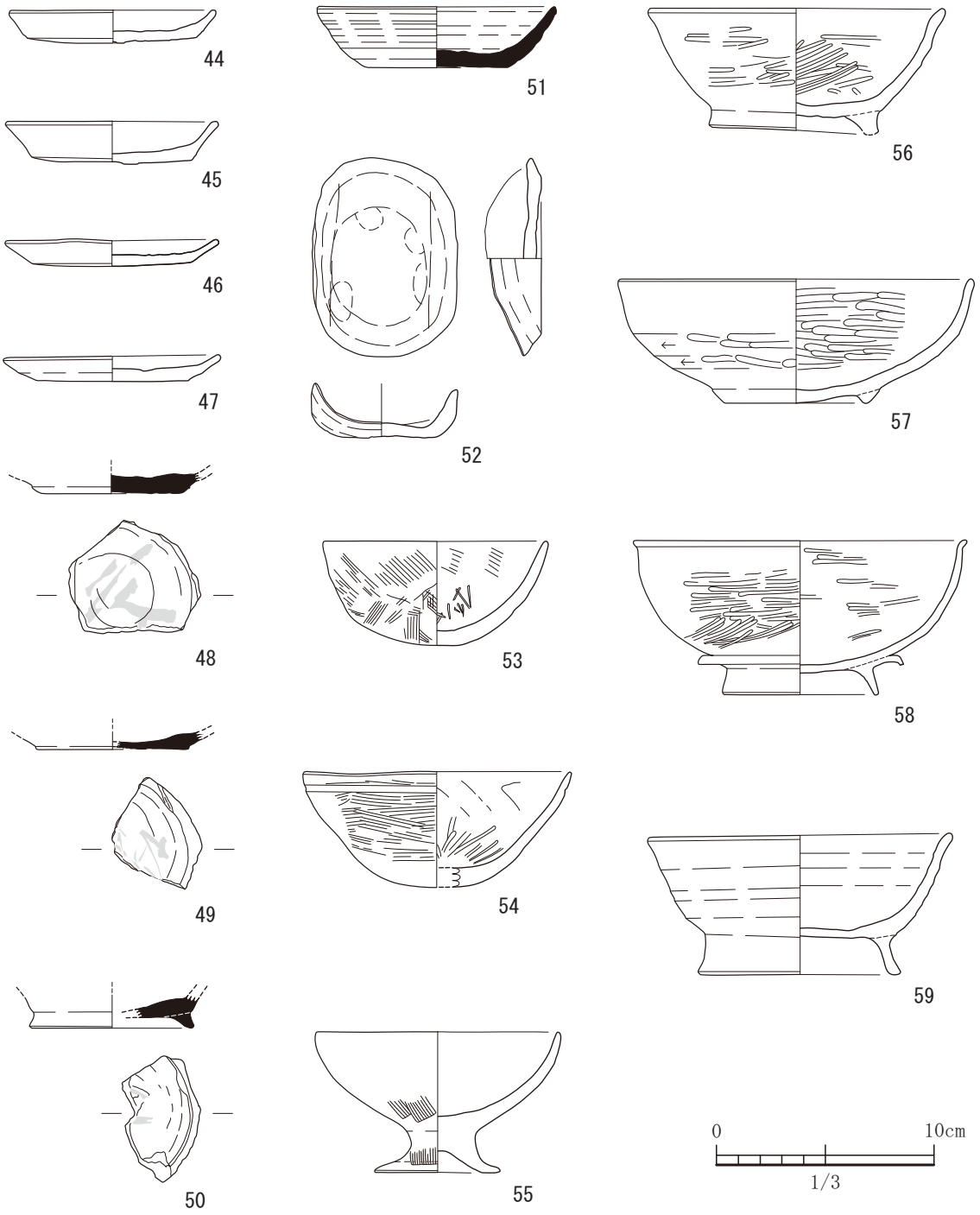


図－493　釦抜遺跡遺物包含層（２層）出土遺物　③



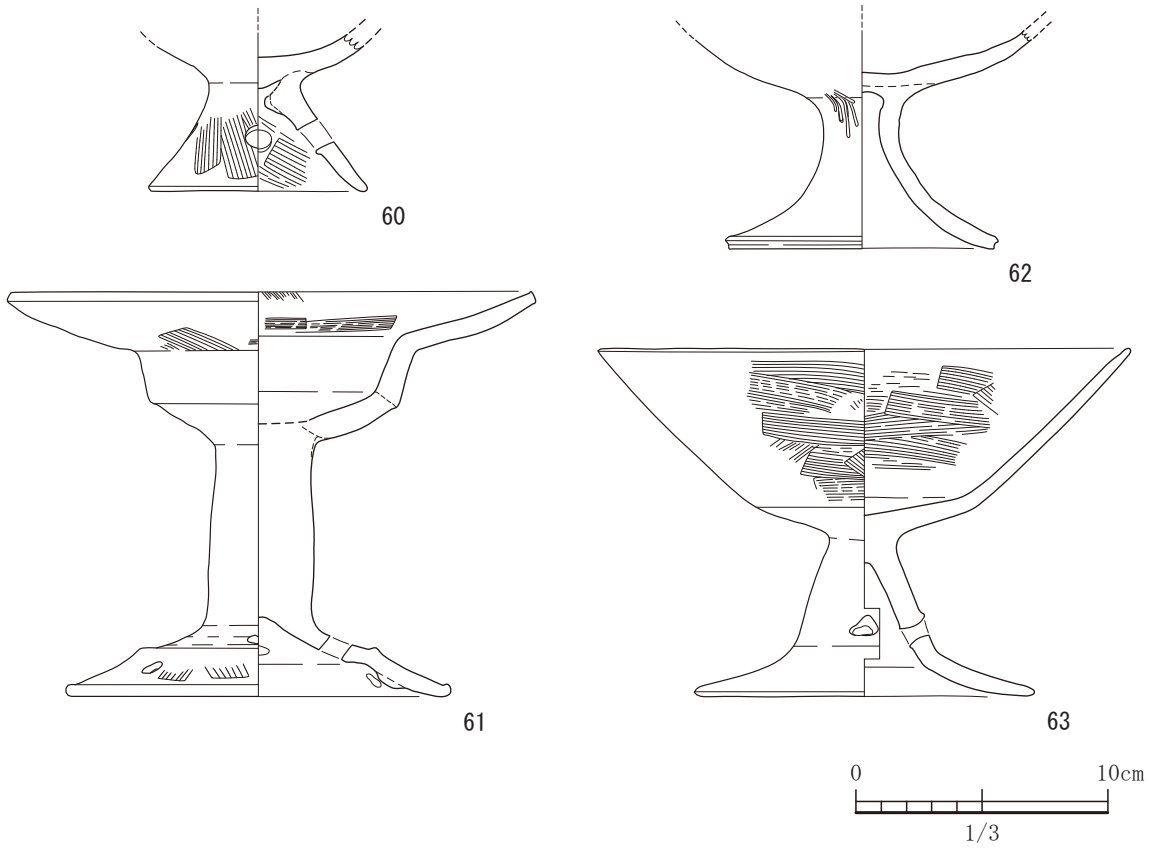
図－494　釼抜遺跡遺物包含層（２層）出土遺物　④

44から47は土師器の皿である。底部は回転ヘラ切離し後未調整である。48と49は、須恵器の皿で、底部外面に墨書がなされている。どちらも釈読できず。50は、須恵器椀である。底部外面に墨書されているが釈読できず。51は須恵器の坏である。52は、完形の土師器の耳坏である。上面は楕円状をなし耳状の形状を呈している。見込み部には指頭圧痕がのこる。53と54は、土師器の鉢である。53は見込み部に工具痕がある。54は、外面の口縁部に１条の沈線をめぐらし、内面の見込み部はミガキ調整を施す。55は、土師器の台付鉢である。脚部は短く、外に大きく開く。全面に赤色顔料痕がある。56は、土師器椀の黒色土器である。炭素吸着処理を内面に施した黒色土器Ａ類である。内外面ともミガキ調整を施す。57は、



図－495　釼抜遺跡遺物包含層（３ａ層）出土遺物　①

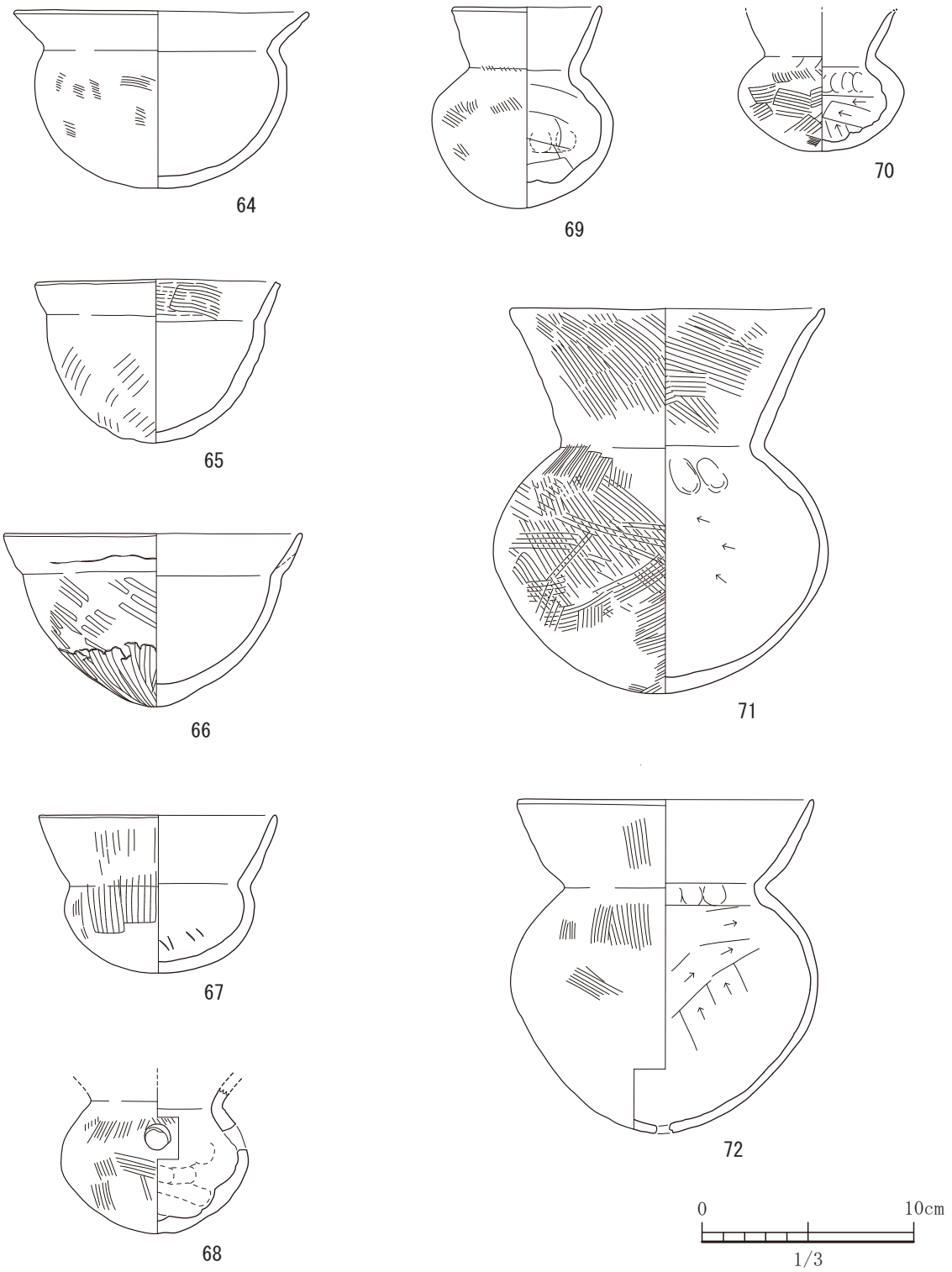
瓦器質椀である。ミガキ調整を施しているが粗雑で、高台は低い。口縁部には一周めぐる黒斑が見られる。58は、瓦器質椀である。高台の上には１段別に台を設け、口縁は小さくつまみだしている。59は、土師器椀である。高台は高い。全体的に摩耗が激しい。60は、土師器の器台である。脚部に一部黒斑が見られ、1/2は欠損しているが、穿孔の位置関係から４箇所に穿孔があると思われる。また、脚部内面上部に盛り上がった箇所が見られる。支持土と思われる。61は、土師器の高坏である。柱状部は中実で



図－496　釦抜遺跡遺物包含層（３ａ層）出土遺物　②

ある。坏部は大きく屈曲し、ケズリのちハケメやナデ調整でミガキが施されていない。調整がやや雑でミガキが省略されているものと思われる。脚部も屈曲しており段がつけてある。それぞれの段に４箇所ずつ穿孔が設けてあり、計８箇所ある。

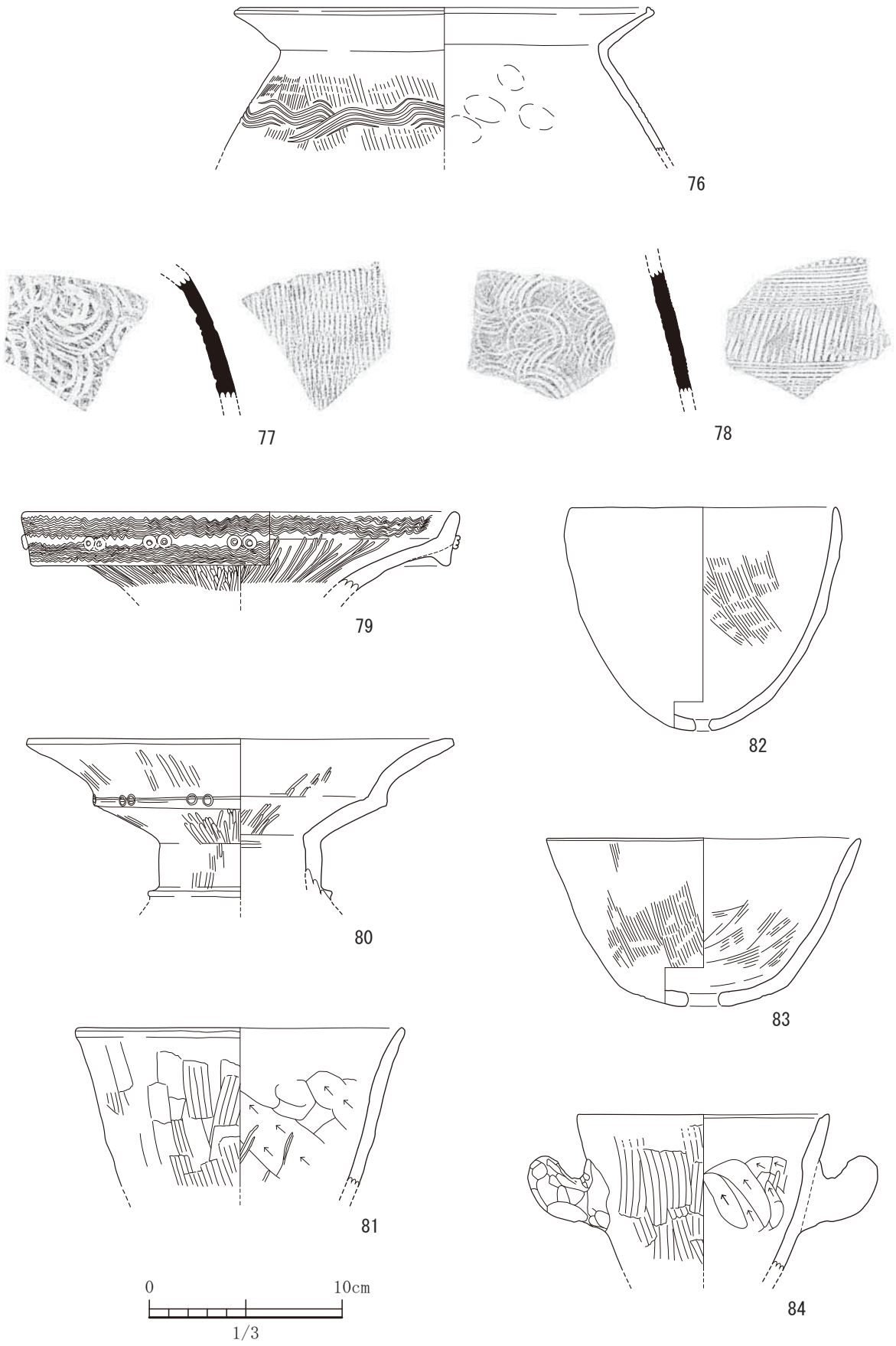
62と63は、高坏である。63は、坏部の上半と下半の屈曲部はあまり目立たなく、上半部は直線的に延びる。脚柱状部は、脚裾部への屈曲がきつい。穿孔は、柱状部の下部に１箇所空けられている。坏部内外面ともハケメ調整である。64は小型丸底壺である。65と66は、小形丸底鉢である。底部はやや尖底ぎみで、口縁はさほど長くなく頸部がしまらない。67は小型丸底壺である。底部は丸底になり、くびれも強くなり、頸部が長くなる。68は「はそう」である。胴部に孔を有し、1.2cmをはかる。口縁部は欠損している。69と70は小型丸底壺である。頸部のしまりがきつい。70は口縁端部が欠損している。71と72は壺である。71は口縁部は直線的に立ち上がり、72はやや内湾している。73と74は甕である。73は小形の甕で平底である。74は、丸底の甕で口縁がやや外反する。75は、壺である。76は甕で、器壁が薄くなり、胴部の肩に櫛描きの波状文を一周めぐらす。口縁端部は、内側にすこしつまみ出して内傾している。77と78は須恵器の甕の胴部である。内面に同心円状のあて具痕があり、外面は平行タタキである。79と80は加飾複合口縁壺である。79には２個組の浮文が口縁部にめぐらしてある。80は、２個組の竹管文が3.2cm～3.5cm間隔で10組あり、一周めぐらすように施してある。内外面ともミガキ調整であり、80では、頸部下部に突帯をめぐらしている。81から84は甑である。82及び83は底部から体部にかけゆるやかに立ち上がる。また底部に穿孔を施してある。古墳時代の所産と思われる。82は内面がハケメ調整後ナデ、外面がナデ調整である。穿孔の直径は６㎜をはかる。83は、内外面ともハケメ調整後ナデである。穿孔は15㎜をはかる。81及び84は、８世紀後半から９



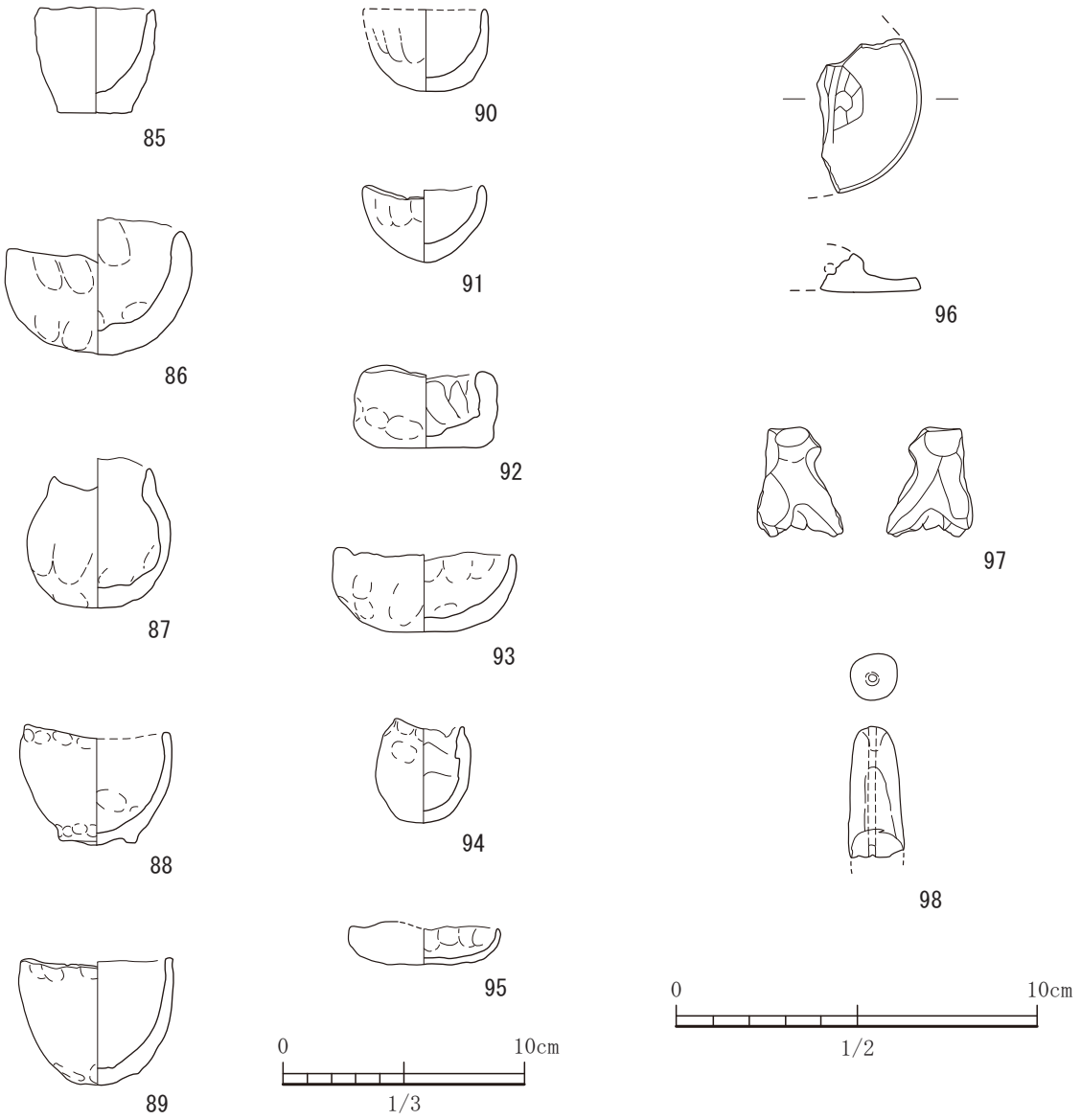
図－497　釦抜遺跡遺物包含層（３ａ層）出土遺物　③

世紀前半の甑と思われる。内外面とも灰黄色を呈している。84にはケズリ後丁寧にナデている把手がつく。底部は欠損している。内面はヘラケズリで外面はタテ方向のハケメ調整である。85は、完形で鉢形の手捏ね土器である。底部は平底で外面に黒斑がある。ナデ調整である。86も、完形で鉢形の手捏ね土

図－498　釦抜遺跡遺物包含層（３ａ層）出土遺物　④

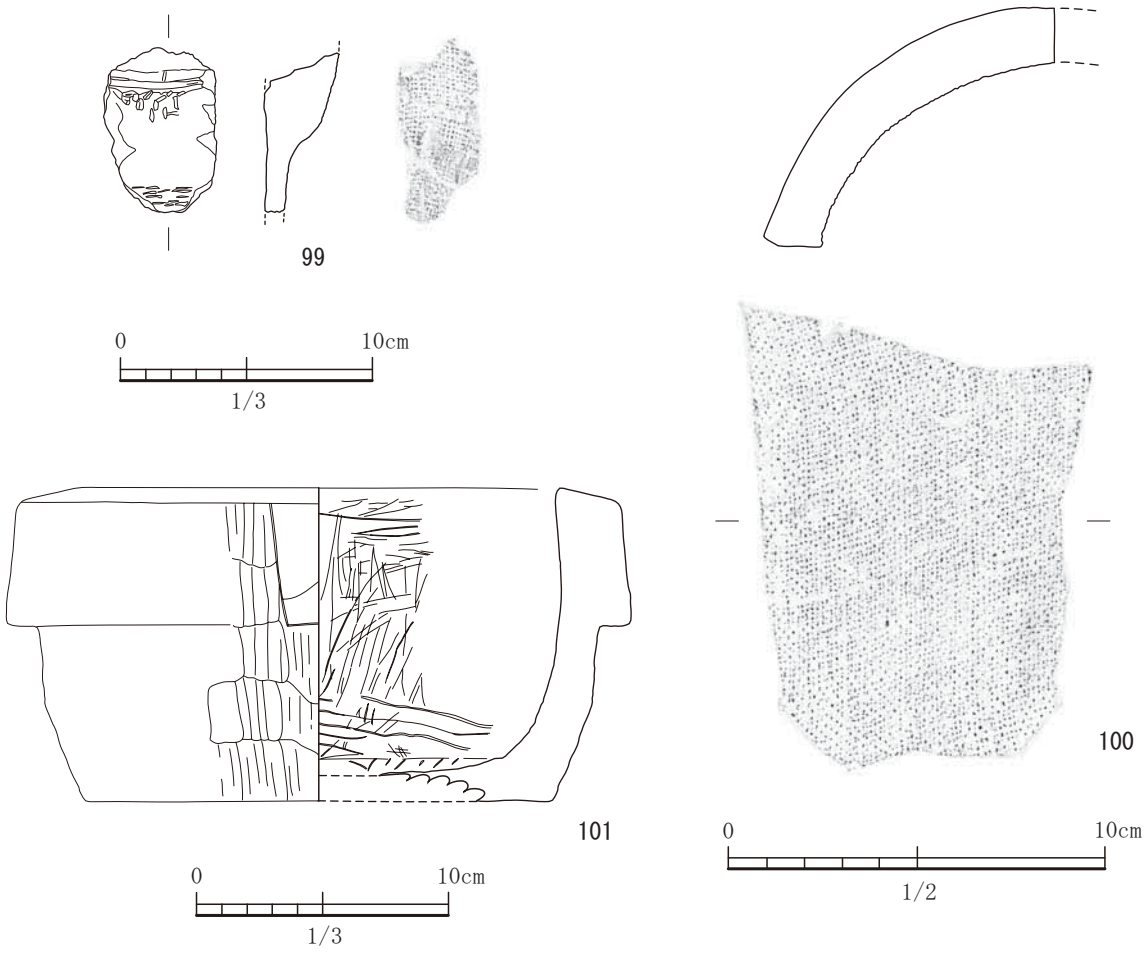


図－499　釧抜遺跡遺物包含層（３ａ層）出土遺物　⑤



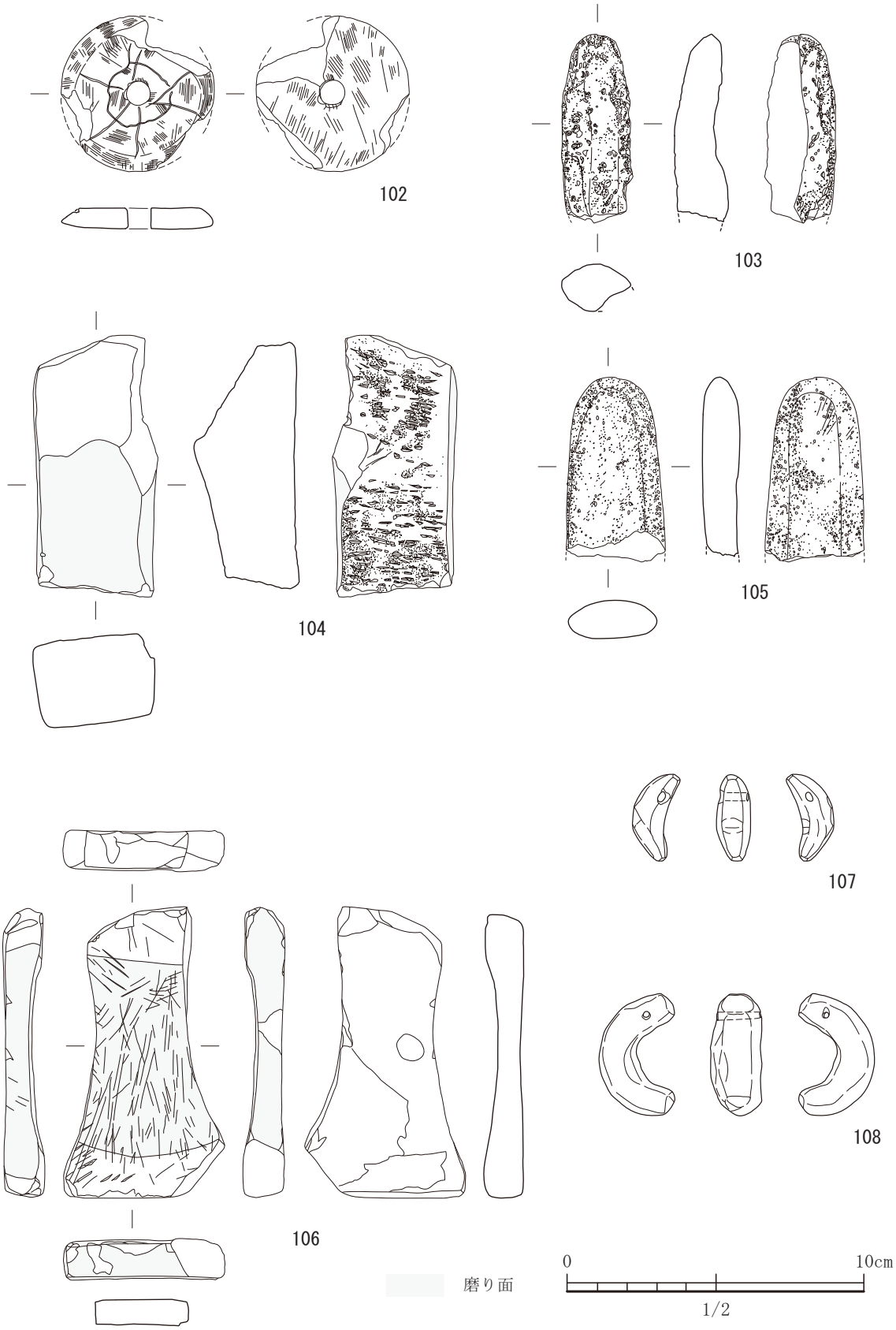
図－500　釦抜遺跡遺物包含層（３ａ層）出土遺物　⑥

器である。器壁が非常に厚い。全体的に指ナデであり指頭圧痕が残る。87は、壺形の手捏ね土器である。口縁部が欠損している。内外面ともナデ調整であるが、一部指頭圧痕が残っている。外面に黒斑がある。88は、鉢形の手捏ね土器である。意識的に底部を作り上げている。指頭圧痕が一部残る。89から93まで、鉢形の手捏ね土器である。89は外面の口縁部や底部に指頭圧痕が残る。90は、体部から口縁部にかけ一部欠損している。91は、尖底のものですわりが悪い。92と93は、平底である。94は甕形の手捏ね土器で口縁端部を若干つまみあげて作り上げている。平底ぎみである。95は、坏形の手捏ね土器で、口縁部は指おさえで整形。96は、鏡形の土製模造品である。鈕はつまみ形であり横に孔をあけている。全体ナデ調整である。97は人形の土製品で全体の形状は不明。98は細長い筒型の土錘である。1/3ほど欠損していると思われる。99及び100は丸瓦の破片である。凹面には布目痕が残り、凸面はナデである。101は石鍋である。滑石というよりは黒雲母片岩を石材としている。外面には手斧によるケズリ痕があり底部にかなりしっかりと煤が付着している。内面は不定方向のケズリがなされている。内面底部には炭化

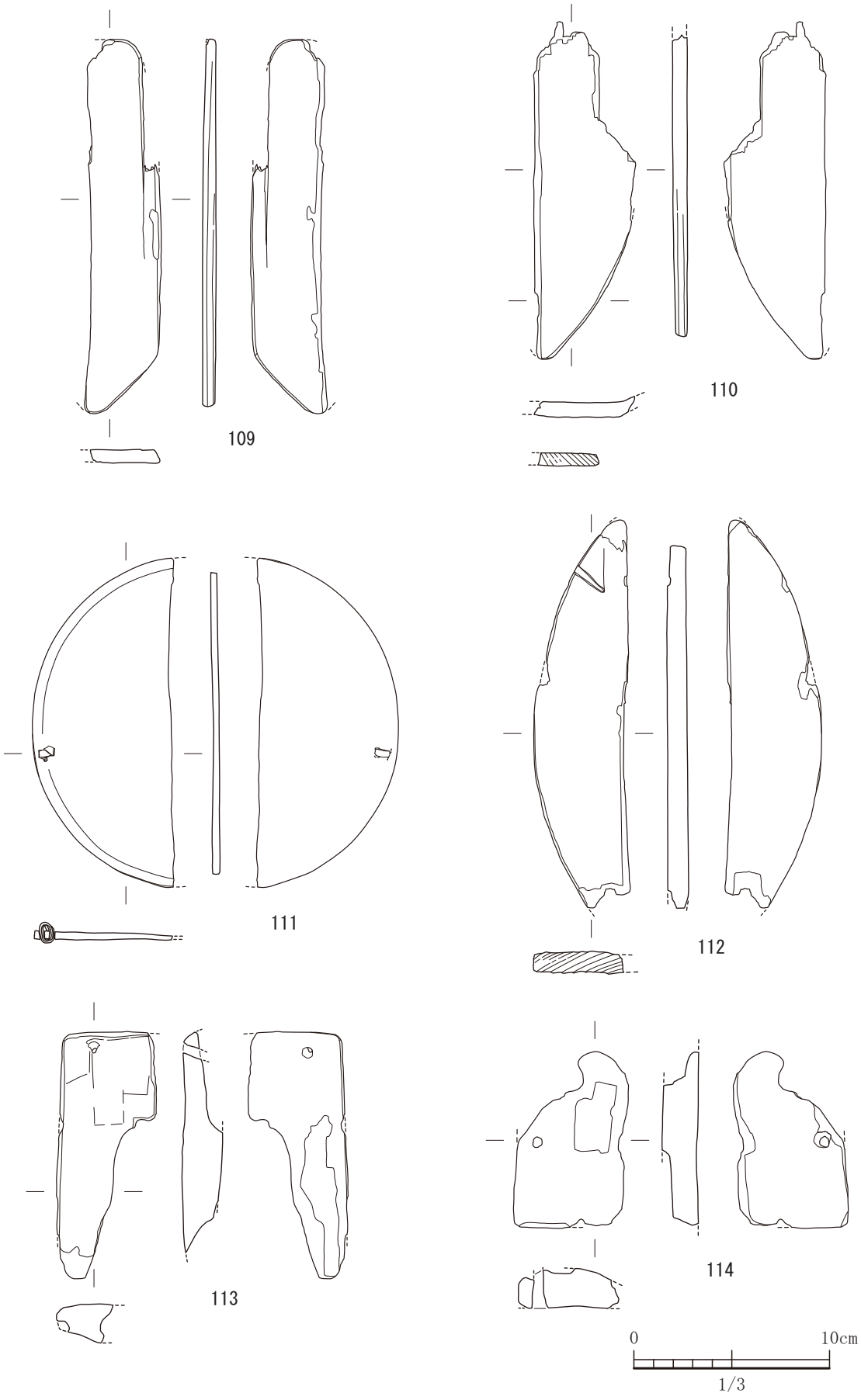


図－501　釧抜遺跡遺物包含層（３ａ層）出土遺物　⑦

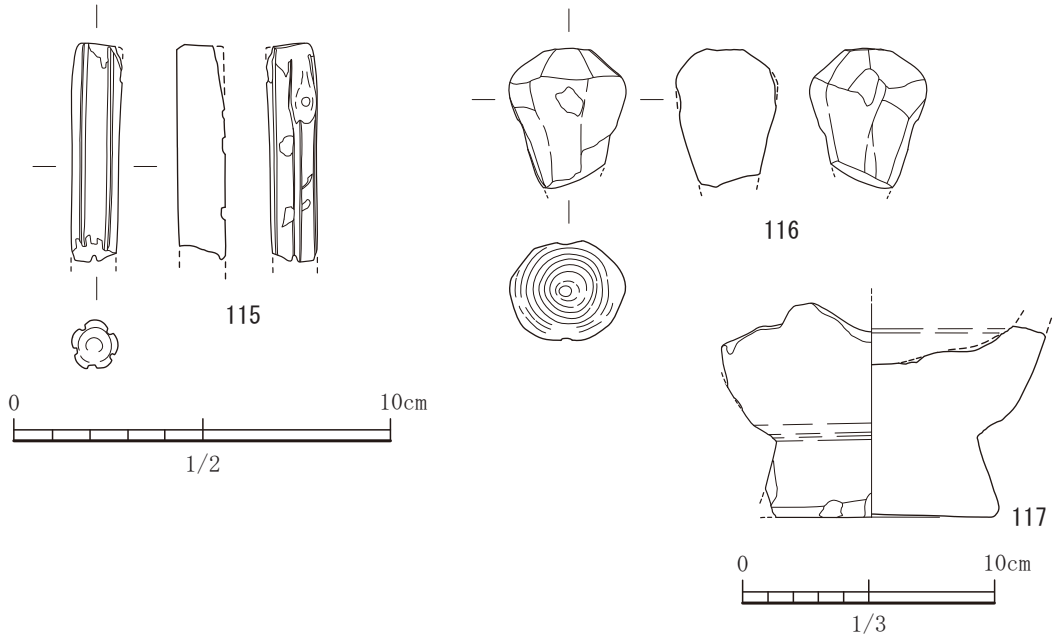
物が付着している。食物の残骸と思われる。把手は縦長に削り出して作られている。102は、滑石製の紡錘車であり、一部欠損している。穿孔から放射状に線刻が施され、その中央部に円を描くように輪状の線刻が施されている。103は、棒状の石製品で用途不明。104から106は、砥石である。104は３面、106では４面に磨り面が確認できる。107と108は土製勾玉であり、穿孔は一方向から空けられている。109から112は、曲物の蓋もしくは底板の一部と考えられる。111には金具が取り付けてある。紐をかけたものであると考えられるため蓋であろうと考えられる。109、110及び112は材として、マツ科モミ属の木材を使用しており、111はツガ属を使用している。113と114は、板状の加工品であり、穿孔を施してある。113は、斜めに空けられており、114は面に対して垂直に空けられている。材はともにコナラ属アカガシ亜属である。同じ１区２グリッドの３ａ層から出土しているため同一個体の可能性がある。板の厚さは、113が2.1cm、114が2.0cmでありほぼ同じ厚さである。115は、棒状の加工品であり、材はブナ科コナラ属である。表面に縦に５条の溝が設けられている。用途は不明である。116は棒状の加工品の先端部と思われる。木錘が折れたものかもしれない。材としてヤブツバキを使用している。117は、木製の台付椀である。ガマズミ属の材を使用している。体部から口縁部まで欠損している。118は石包丁である。一部欠損している。119は土師器の坏である。底部に穿孔が施されている。外面底部には回転糸切り痕が残る。



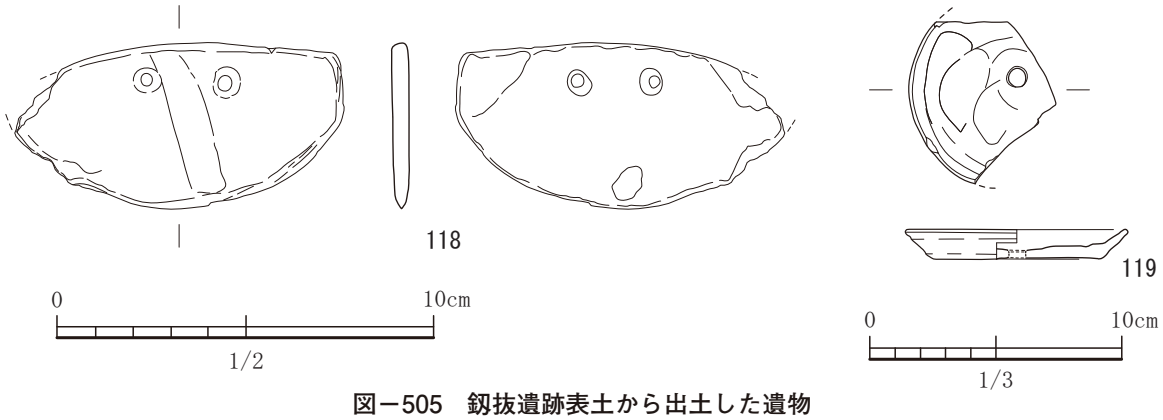
図－502　釧抜遺跡遺物包含層（３ａ層）出土遺物　⑧



図－503　釧抜遺跡遺物包含層（３ａ層）出土遺物　⑨



図－504　釼抜遺跡遺物包含層（３ａ層）出土遺物　⑩



図－505　釼抜遺跡表土から出土した遺物

調査成果のまとめ

今回の発掘調査では、遺構の検出はなかったが、ある程度まとまった遺物が検出された。釼抜遺跡での包含層は２枚ある。それぞれの包含層が形成された時期の詳細はわからないが、おおかた２層は古代（８世紀後半）から中世（12世紀中頃から後半）の出土遺物が認められた。一方、３ａ層では古墳前期から古代（10世紀中葉）の幅で出土遺物が認められた。各層で時代が若干重複するところはあるがおおかた２層が中世の層で、３ａ層が古墳時代から古代にかけての層であるような傾向を示す。

特筆すべき点としては、２層から鏑矢が出土していることである。梅林天満宮では今でも氏子を持ち回りで変えながら流鏑馬が行われている。この鏑矢が直接関係しているか定かではないが、 900年以上前から現代に引き継がれている伝統行事だけに注意を要するところであろう。また、羽口が検出されていることから周囲に鍛冶遺構が存在した可能性がある。３ａ層では、墨書土器が出土したり、耳坏や58の椀に見られるような高台の上に台をつけるような特異的な土器が出土したり、布目瓦が出土している点から、近隣に寺があった可能性がある。

住民への聞き取りで、釼抜遺跡が所在する舟島には戦前まで遺跡の南側に小高い丘が存在していたそうである。今では削平され消失しているが、この丘には、出土した遺物に関連がある施設があった可能性は十分考えられる。

第Ⅳ章　理化学分析

釼抜遺跡出土木製品の樹種調査

株式会社　吉田生物研究所

1　試料

試料は熊本県釼抜遺跡から出土した用途不明品６点である。

2　観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3　結果

樹種同定結果（針葉樹３種、広葉樹２種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1）マツ科モミ属（*Abies sp.*）

（遺物No.109）（遺物No.110）

（写真－38　No．４）（写真－38　No．５）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は比較的ゆるやかで晩材部の幅は狭い。柾目では放射組織の上下縁辺部に不規則な形状の放射柔細胞がみられる。放射柔細胞の壁は厚く、数珠状末端壁になっている。放射組織の分野壁孔はスギ型で１分野に１～４個ある。板目では放射組織は単列であった。モミ属はトドマツ、モミ、シラベがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

2）ヒノキ科アスナロ属（*Thujopsis sp.*）

（遺物No.43）

（写真－39　No.10）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で１分野に２～４個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

3）スギ科スギ属スギ

（*Cryptomeria japonica D. Don*）

（遺物No.39）

（写真－39　No.13）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で１分野に１～３個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

4）ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節

（*Sect. Prinus Loudon syn. Diversipilosae, Dentatae*）

（遺物No.115）

（写真－38　No．６）

環孔材である。木口では大道管（～380㎛）が年輪界にそって１～３列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、薄壁で角張っている小道管が単独あるいは２～３個複合して火炎状に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織は全て平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。コナラ節にはコナラ、ミズナラ、カシワ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

5）ニレ科ムクノキ属ムクノキ

（*Aphananthe aspera Planchon*）

（遺物No.42）

（写真－39　No.14）

散孔材である。木口では中庸の道管（～170㎛）が単独ないし２～３個放射方向に複合して年輪界に散らばっている。軸方向柔細胞は道管の周囲を取り囲んだものやそれらがつながって白い帯のように見えるもの（連合翼状～帯状柔組織）がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は篩状の壁孔が存在する。板目では放射組織は１～５細胞列、高さ～700㎛からなる。ムクノキは本州、四国、九州に分布する。

◆参考文献◆

島地　謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）

島地　謙･伊東隆夫「図説木材組織」地球社（1982）

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所（1999）

北村四郎・村田　源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」保育社（1979）

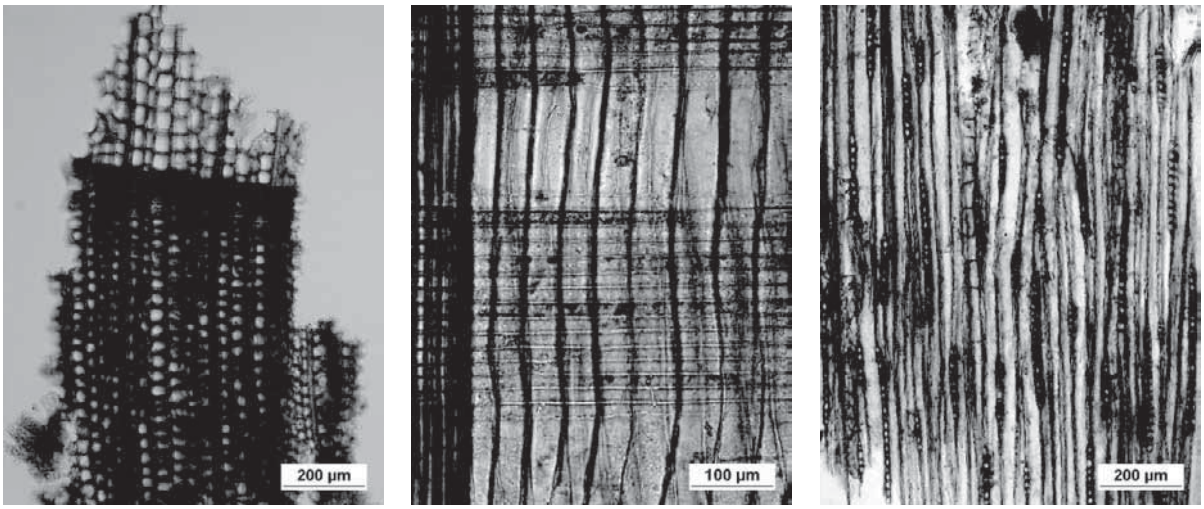
深澤和三「樹体の解剖」海青社（1997）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所　史料第27冊　木器集成図録 近畿古代篇」（1985）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所　史料第36冊　木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

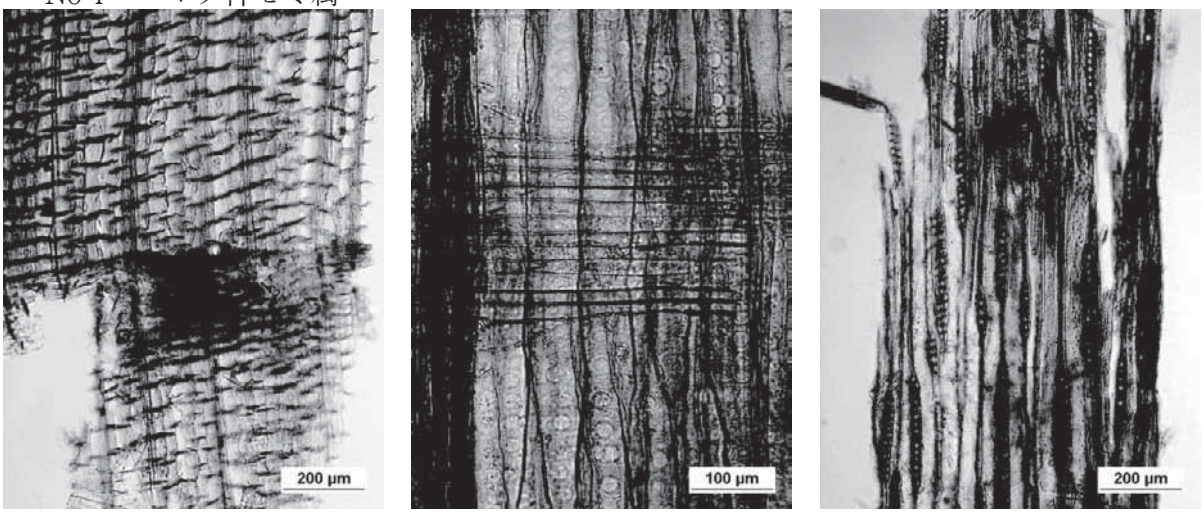
表－21　釧抜遺跡出土木製品同定表

遺物番号	器　種	樹　種
109	板状加工品	マツ科モミ属
110	板状加工品	マツ科モミ属
115	棒状加工品	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
43	板状加工品	ヒノキ科アスナロ属
39	板状加工品	スギ科スギ属スギ
42	棒状加工品	ニレ科ムクノキ属ムクノキ



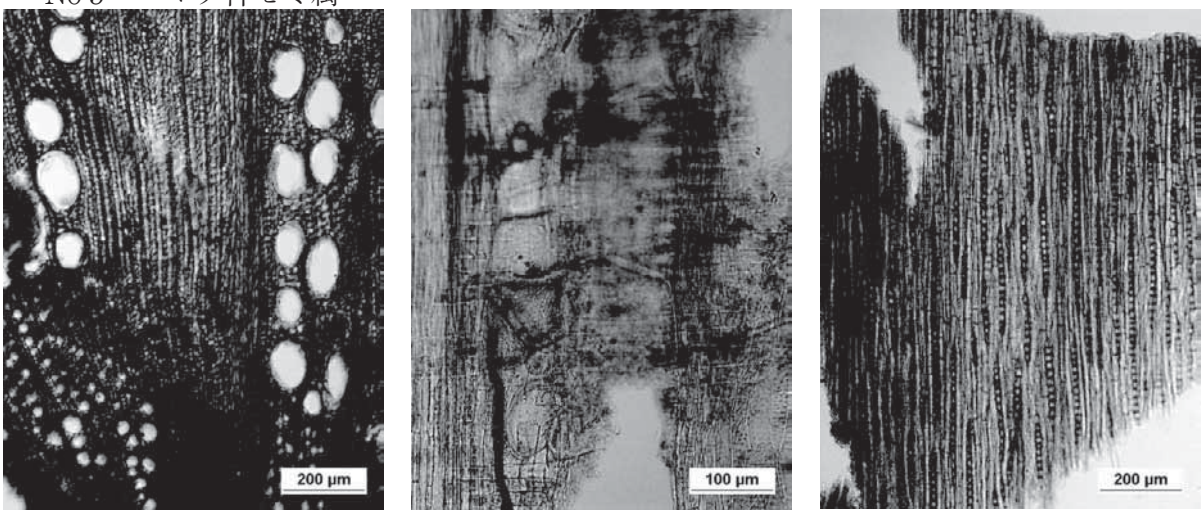
木口　　柾目　　板目

No-4　　マツ科モミ属



木口　　柾目　　板目

No-5　　マツ科モミ属



木口　　柾目　　板目

No-6　　ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節

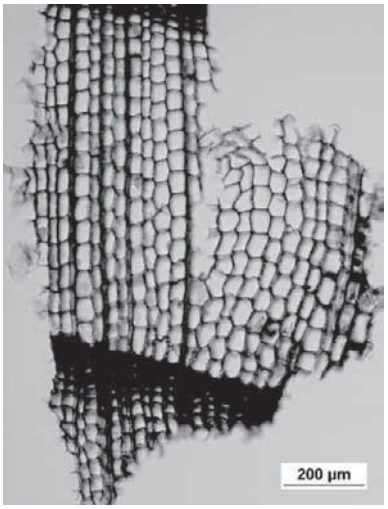
写真－38　釦抜遺跡出土木製品顕微鏡写真　①

木口

柾目

板目

No-10　ヒノキ科アスナロ属

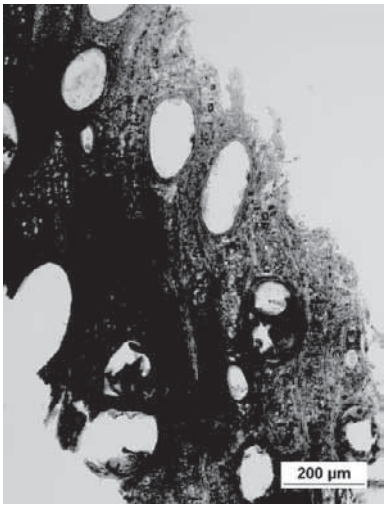


木口

柾目

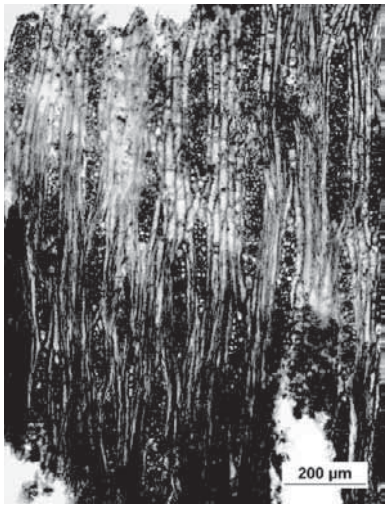
板目

No-13　スギ科スギ属スギ



木口

柾目



板目

No-14　ニレ科ムクノキ属ムクノキ

写真－39　釦抜遺跡出土木製品顕微鏡写真　②

表－22－１　釧抜遺跡出土遺物観察表　土器

法量（　　）は復元値。焼成は、良好、良、不良の３段階に分ける。

遺物番号	図版番号	写真番号	出土地点	包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
							口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
1	491	450	調査３区 2128 G	２層	土師器	皿	9.4	7.2		1.5			ヨコナデ　回転糸切り離し	ヨコナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄燈 (10YR7/3)	長石　角閃石 雲母　赤色粒	良	
2	491	450	調査３区 2118 G	２層	土師器	皿	8.9	6.4		1.2			ヨコナデ　ヘラ切り離し	ヨコナデ	灰黄褐 (10YR6/2)	灰黄褐 (10YR6/2)	長石　雲母 赤色粒	良	
3	491	450	調査３区 2119 G	２層	土師器	杯	9.7	6.5		2.2			回転ナデ　ヘラ切り離し	回転ナデ　ナデ	灰黄 (2.5Y6/2)	灰黄 (2.5Y6/2)	石英　褐色粒	良好	
4	491	450	調査３区 2118 G	２層	土師器	坏	14.4	7.5		3.8			ヨコナデ　ヘラ切り離し	ヨコナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	長石　雲母 赤褐色粒	良	
5	491	450	調査３区 2109 G	２層	瓦器質土器	椀	16.6	6.6		6.5	0.3		回転ナデ　ミガキ　ナデ	ミガキ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	石英　赤色粒	良	外面に指頭圧痕
6	491	450	調査１区 ３G	２層	瓦器質土器	椀	(15.5)	6.5		6.3	0.5		ヨコナデ　ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	長石　雲母	良	
7	491	450	調査１区 ３G	２層	黒色土器Ａ類	椀	(10.2)	(7.0)		4.7	0.8		ヨコナデ　ミガキ ヘラケズリ	ミガキ	灰黄 (2.5Y7/2)	黒 (7.5Y2/1)	長石　角閃石	良	内面に指頭圧痕
8	491	450	調査１区 ２G	２層	黒色土器Ａ類	椀	(15.2)	6.0		5.7	0.6		ナデ　ミガキ ヘラケズリ	ミガキ	黄灰 (2.5Y4/1)	オリーブ黒 (5Y3/1)	長石　雲母	良	
9	491	450	調査１区 ２G	２層	青磁	椀	16.3	6.0		6.9	0.5		ヘラケズリ　ケズリ出し		オリーブ黄 (7.5Y6/3)	オリーブ黄 (7.5Y6/3)		良好	龍泉窯系　内面に飛雲文あり 内、外面に施釉
10	491	450	調査１区 １G・２G	２層	白磁	椀	16.2	5.6		7.0	0.2		ヘラケズリ ケズリ出し		灰 (5Y7/2) 灰白 (7.5Y7/1)	灰白 (5Y7/2)		良好	内面から外面の胴部付近まで施釉 一部釉ダレが見受けられる 内面に沈線あり
11	491	450	調査２区 1275 G	２層	土師器	高坏		(16.6)				16.8	不定方向のハケメ 縦方向のハケメ 斜め方向のハケメ	ナデ 横方向のハケメ後ナデ	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	長石　角閃石 石英　赤色粒	良	脚部に穿孔が３ヶ所ある 内面に工具痕あり
12	491	450	調査１区 ４G	２層	須恵器	甕						10.9	格子目タタキ	平行タタキ	灰褐 (7.5YR4/2)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	石英　長石	良好	
44	495	453	調査１区 ３G	３a層	土師器	皿	9.2	7.8		1.5			回転ナデ ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英　雲母 赤褐色粒	良好	
45	495	453	調査１区 ３G	３a層	土師器	皿	9.6	7.4		2.0			回転ナデ ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ	にぶい黄 (2.5Y6/3)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	石英　角閃石 雲母　褐色粒	良好	
46	495	453	調査１区 ３G	３a層	土師器	皿	9.6	7.3		1.3			回転ナデ ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ	にぶい黄 (2.5Y6/3)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	石英　雲母 角閃石　褐色粒	良好	
47	495	453	調査１区 ３G	３a層	土師器	皿	9.7	7.0		1.2			回転ナデ ヘラ切り離し後未調整	回転ナデ	にぶい黄 (2.5Y6/3)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	石英　雲母 長石　角閃石	良好	
48	495	453	調査１区 ２G	３a層	須恵器	皿		(6.4)				0.9	回転ナデ　ヘラ切り離し	回転ナデ	灰 (N6/0)	灰 (N6/0)	長石　黒色粒	良好	底部外面に墨書あり
49	495	453	調査１区 ２G	３a層	須恵器	皿		(6.8)				0.8	回転ナデ　ヘラ切り離し	回転ナデ	灰褐 (7.5YR5/2) 褐灰 (7.5YR5/1)	にぶい褐 (7.5YR5/2) 褐灰 (7.5YR5/1)	長石	良好	底部外面に墨書あり
50	495	453	調査１区 ２G	３a層	須恵器	椀		(7.4)			0.5	1.5	ヨコナデ ヘラ切り離し後ヨコナデ	ヨコナデ	灰白 (N7/0)	灰白 (N7/0)	石英	良好	底部外面に墨書あり
51	495	453	調査２区 1275 G	３a層	須恵器	坏	(10.9)			2.8			回転ナデ　ヘラケズリ後 回転ナデ　ヘラ切り離し	回転ナデ　ナデ	灰黄 (2.5Y7/2)	灰黄 (2.5Y7/2)	角閃石　長石	不良	
52	495	453	調査１区 １G	３a層	土師器	耳坏	9.1	7.1		2.4			ヨコナデ　ヘラケズリ	ヨコナデ	灰黄褐 (10YR6/2)	灰黄褐 (10YR6/2)	石英　長石 角閃石	良	内面に指頭圧痕あり
53	495	453	調査１区 １G	３a層	土師器	鉢	10.2			4.8			ヨコナデ 不定方向のハケメ	斜め方向のハケメ ナデ	灰黄褐 (10YR5/2)	灰黄褐 (10YR5/2)	長石　雲母	良	見込み部に工具痕あり 外面に黒斑あり

遺物番号	図版番号	写真番号	出土地点	包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
							口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
54	495	453	調査１区 ３Ｇ	３ａ層	土師器	鉢	12.2					5.3	ナデ ヨコ斜め方向のハケメ	ミガキ	浅黄橙 (7.5YR8/3)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	石英　雲母 褐色粒 黒色粒	良好	口縁部に沈線あり
55	495	453	調査１区 ３Ｇ	３ａ層	土師器	台付鉢	(11.0)	5.7		6.5			ナデ　不定方向のハケメ 後ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英　長石 角閃石　赤色粒	良	赤色顔料痕あり
56	495	453	調査２区 2201 Ｇ	３ａ層	黒色土器Ａ類	椀	13.4	(7.8)		5.8	0.8		回転ナデ　ミガキ ヘラ切り離し	回転ナデ　ミガキ	灰褐 (7.5YR6/2)	黒 (7.5Y2/1)	長石　角閃石 赤色粒	良	
57	495	454	調査１区 ２Ｇ	３ａ層	瓦器質土器	椀	(16.0)	6.6		5.7	0.4		回転ナデ ヘラケズリ後ミガキ　ナデ	ミガキ	灰白 (2.5Y8/1)	灰 (5Y4/1)	長石　石英	良	還元焔焼成　口縁部付近に重ね焼きの跡の黒斑が見られる
58	495	454	調査１区 ３Ｇ	３ａ層	瓦器質土器	椀	15.2	7.0		7.1	1.1		ヨコ斜め方向のミガキ 回転ナデ	ヨコ　斜め方向のミガキ	灰 (5Y6/1)	灰 (5Y6/1)	石英	良好	
59	495	454	調査１区 ４Ｇ	３ａ層	土師器	椀	13.8	9.0		6.5	1.7		回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙 (7.5YR5/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英　長石 角閃石 褐色粒	良好	
60	496	454	調査１区 ３Ｇ	３ａ層	土師器	器台		(8.5)				6.2	不定方向のハケメ 縦方向ハケメ	ナデ　横方向ハケメ	灰黄 (2.5Y7/2)	灰黄 (2.5Y7/2)	石英　長石 角閃石	良	一部黒斑あり 脚部に穿孔あり
61	496	454	調査１区 ３Ｇ	３ａ層	土師器	高坏	20.7	15.0		16.1			ヨコナデ 不定方向のハケメ ケズリ後ナデ	不定方向のハケメ後ナデ ケズリ後ナデ ナデ　ヨコナデ	にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	長石　石英 角閃石 赤色粒	良	脚部に８ヵ所穿孔あり　坏部外面と見込み部に赤色顔料痕あり
62	496	454	調査２区 1292 Ｇ	３ａ層	土師器	高坏		(10.6)				8.7	回転ナデ　ナデ ヘラケズリ後ナデ	不定方向のナデ 回転ナデ	にぶい赤褐 (2.5YR5/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	長石　赤色粒	良	脚部に工具痕あり
63	496	454	調査１区 ３Ｇ	３ａ層	土師器	高坏	21.1	13.0		13.8			ナデ　不定方向のハケメ	横方向のハケメ ナデ　ヘラケズリ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英　長石 角閃石 赤色粒	良	脚部に穿孔あり
64	497	454	調査２区 1275 Ｇ	３ａ層	土師器	小形丸底壺	(13.8)		12.0	8.4			ハケメ　調整不明	ナデ	灰黄褐 (10YR6/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	角閃石　長石 石英 赤褐色粒	良好	
65	497	455	調査１区 ３Ｇ	３ａ層	土師器	小形丸底鉢	11.3			7.7			ナデ　不定方向のハケメ	タテ方向のハケメ　ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/2)	灰白 (2.5Y7/1)	長石　角閃石 赤色粒　安山岩礫	良	内外面に黒斑あり
66	497	455	調査１区 ２Ｇ	３ａ層	土師器	小形丸底鉢	(14.0)			8.1			ヨコナデ　タタキ後ナデ 放射線状のハケメ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰黄褐 (10YR6/2)	長石　石英 赤褐色粒	良好	
67	497	455	調査１区 ３Ｇ	３ａ層	土師器	小形丸底壺	11.2			7.4			タテ方向のハケメ後ヨコナデ 不定方向のハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	石英　長石 角閃石　赤色粒	良	赤色顔料痕あり 内面に工具痕あり
68	497	455	調査２区 1292 Ｇ	３ａ層	土師器	はそう			8.9			6.9	ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ナデ　指ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/2)	褐灰 (10YR6/1)	長石　角閃石 雲母　赤褐色粒　黒色粒	良好	外面にスス付着 穿孔あり
69	497	455	調査２区 1292 Ｇ	３ａ層	土師器	小形丸底壺	7.0		8.6	9.1			ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ 左方向への指ナデ	明赤褐 (5YR5/8)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	角閃石　石英 長石　赤褐色粒	良好	黒斑あり 外面に赤色顔料痕あり
70	497	455	調査２区 2202 Ｇ	３ａ層	土師器	小形丸底壺			7.9			6.6	ヨコナデ 多方向のハケメ後ナデ	ヨコナデ　ナデ　ケズリ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英　長石 角閃石 赤褐色粒	良好	内外面に黒斑あり 指頭圧痕あり
71	497	455	調査１区 ３Ｇ	３ａ層	土師器	壺	(14.8)		15.9	18.2			ヨコナデ　ハケメ	ハケメ　ナデ　左上がり 方向のケズリ後ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	長石　角閃石 赤褐色粒 黒色粒	良好	指頭圧痕あり
72	497	455	調査２区 1275 Ｇ	３ａ層	土師器	壺	(13.9)		(14.5)	15.8			縦方向のハケメ後ヨコナデ 縦方向のハケメ 斜め方向のハケメ	ヨコナデ　横方向ケズリ 斜め方向のケズリ後ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	石英　長石 角閃石　赤色粒　片岩粒	良	穿孔あり 指頭圧痕あり
73	498	456	調査１区 ３Ｇ	３ａ層	土師器	甕	(11.1)	(2.4)	(11.5)	11.1			ヨコナデ　ハケメ後ナデ ナデ	ヨコナデ　ナデ 横方向のナデ	灰黄 (2.5Y6/2)	灰黄 (2.5Y6/2)	角閃石 石英　長石 赤褐色粒	良好	外面に黒斑あり
74	498	456	調査２区 1292 Ｇ	３ａ層	土師器	甕	15.2		23.0	24.4			ヨコナデ　縦方向のハケメ後ヨコナデ　ハケメ後ナデ	ヨコナデ 斜め方向のケズリ後ナデ	浅黄 (2.5Y7/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	石英　長石 赤色粒　雲母 角閃石	良	

遺物番号	図版番号	写真番号	出土地点	包含層層位	種別	器種	法量（cm）						調整		色調		胎土	焼成	備考
							口径	底径	最大胴径	器高	高台高	残存高	外面	内面	外面	内面			
75	498	456	調査２区 1292 G	３a層	土師器	壺	17.1		37.6			43.7	ハケメ後ヨコナデ 左上がり方向のハケメ	ハケメ後ヨコナデ ナデ	灰白 (2.5Y8/2)	灰白 (2.5Y7/1)	石英　長石 赤褐色粒 角閃石	良	内面全体に黒斑あり 内面に指頭圧痕あり
76	499	456	調査１区 ３G	３a層	土師器	甕	21.2					7.4	ヨコナデ ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ　指ナデ	にぶい黄 (2.5Y6/3)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	石英　角閃石 長石　褐色粒	良好	外面に黒斑あり 波状文あり
77	499	456	調査１区 ４G	３a層	須恵器	甕						6.3	平行タタキ	同心円の当て具痕	黒褐 (2.5Y3/1)	褐灰 (10YR5/1)	長石　黒色粒	良好	
78	499	456	調査１区 ３G	３a層	須恵器	甕						6.4	平行タタキ	同心円の当て具痕	灰 (N4/0)	灰 (N4/0)	長石	良好	
79	499	456	調査１区 ３G	３a層	土師器	複合口縁壺	(22.2)					4.1	ヨコナデ 放射状のミガキ	ヨコナデ 横方向のハケメ後ミガキ	にぶい橙 (5YR6/4) 灰黄褐 (10YR6/2)	にぶい橙 (7.5YR6/3) 灰黄褐 (10YR6/2)	長石　角閃石	良好	口縁部に櫛形波状文が見られる ２個１組の浮文が全周で16組か？
80	499	456	調査１区 ２G・３G	３a層	土師器	複合口縁壺	(22.1)					8.4	ミガキ	ミガキ　横方向のハケメ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	長石　角閃石 石英	良好	山陰系　１㎜幅の沈線の後、２個組の竹管文が3.2～3.5㎝位の間隔で入る　頸部下部に突帯文あり
81	499	456	調査２区 1275 G	３a層	土師器	甑	(16.8)					8.3	ヨコナデ 縦方向のハケメ	ヨコナデ 左上がりのヘラケズリ	灰黄 (2.5Y7/2)	灰黄 (2.5Y7/2)	石英　角閃石 長石　赤褐色粒	良好	甑用下甕
82	499	456	調査２区 1275 G	３a層	土師器	甑	(13.7)			11.6			ナデ	ハケメ後ナデ　ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英　褐色粒 長石　角閃石 黒曜石	良好	底部に一部黒斑あり 工具痕あり　穿孔あり
83	499	457	調査１区 ２G・３G	３a層	土師器	甑	(16.2)	8.8		8.7			斜め方向のハケメ後ナデ	斜め方向のハケメ後ナデ	明赤褐 (2.5YR5/6)	明赤褐 (2.5YR5/6)	角閃石　長石	良好	穿孔あり
84	499	457	調査２区 1275 G	３a層	土師器	甑	(13.0)					8.1	ヨコナデ　縦方向のハケメ 縦方向のハケメ	ヨコナデ 左上がり方向のヘラケズリ	灰黄 (2.5Y7/2)	灰黄 (2.5Y7/2)	石英　長石 角閃石 赤褐色粒	良好	黒斑あり　把手あり
85	500	457	調査２区 1291 G	３a層	－	手捏ね	4.7	3.0		4.4			ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英　長石 角閃石	良	胴部に黒斑あり
86	500	457	調査２区 1292 G	３a層	－	手捏ね	7.1			5.6			指ナデ	指ナデ	明褐灰 (7.5YR7/2)	灰白 (2.5Y7/1)	長石　角閃石 赤色粒　片岩	良	
87	500	457	調査２区 1293 G	３a層	－	手捏ね				6.2			指ナデ	指ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	石英　長石 角閃石　片岩	良	胴部に黒斑あり
88	500	457	調査１区 ３G	３a層	－	手捏ね	5.9	3.1		5.0			指ナデ	指ナデ	浅黄 (2.5Y7/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	石英　角閃石 長石　褐色粒	良好	
89	500	457	調査１区 ３G	３a層	－	手捏ね	6.2			5.3			指ナデ	指ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英　長石	良好	
90	500	457	調査１区 ３G	３a層	－	手捏ね				3.4			指ナデ	指ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英　長石 角閃石　褐色粒	良好	
91	500	457	調査１区 １G	３a層	－	手捏ね	4.8			3.2			指ナデ	指ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英　角閃石 褐色粒　片岩礫	良好	
92	500	457	調査１区 ２G	３a層	－	手捏ね	5.0	4.2		3.4			指ナデ	指ナデ	浅黄 (2.5Y7/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	長石	良好	
93	500	457	調査１区 ３G	３a層	－	手捏ね	7.2			3.5			指ナデ	指ナデ	灰黄 (2.5Y6/2)	灰黄 (2.5Y6/2)	角閃石　石英 長石　褐色粒	良好	
94	500	457	調査１区 ３G	３a層	－	手捏ね	2.8	2.0		4.4			指ナデ	指ナデ	灰黄 (2.5Y6/2)	灰黄 (2.5Y6/2)	石英　長石 角閃石　褐色粒	良好	
95	500	457	調査１区 ３G	３a層	－	手捏ね	6.2			1.8			指ナデ	指ナデ	黒 (7.5Y2/1)	灰 (5Y4/1)	長石　角閃石	良	
119	505	458	調査１区 調査区一括	－	土師器	坏	(8.6)	(6.6)		1.2			ヨコナデ 回転糸切り離し	ヨコナデ	にぶい橙 (7.5YR7/3)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	雲母　長石 黒色粒 赤褐色粒	良好	底部に穿孔あり 内面底部に指頭圧痕あり

表－22－２　釼抜遺跡出土遺物観察表　土製品

遺物番号	図版番号	写真番号	出土地点	包含層	種　別	器　種	色　調	胎　土	法　量（cm）					重さ（g）	備　　考
									長さ	幅	厚さ	孔径	径		
13	492	451	調査１区　２G	２層	土製品	土錘	灰（5Y6/1）	石英　雲母　長石	2.65			0.35		2.1	短径0.9　長径0.95
14	492	451	調査１区　１G	２層	土製品	土錘	にぶい赤（7.5R4/4）	長石　黒色粒	2.65			0.3		2.5	短径1.9　長径1.9
15	492	451	調査３区　2119 G	２層	土製品	土錘	にぶい黄橙（10YR6/3）	角閃石　長石	2.4			0.5		4.0	短径1.4　長径1.4
16	492	451	調査１区　２G	２層	土製品	土錘	褐灰（5YR5/1）	長石　雲母	3.4			0.3		2.9	短径0.75　長径0.95　指頭圧痕あり
17	492	451	調査１区　２G	２層	土製品	土錘	にぶい赤褐（2.5YR5/4）	長石　角閃石　雲母	1.9			0.3		1.0	
18	492	451	調査３区　2118 G	２層	土製品	土錘	にぶい橙（2.5YR6/4）	長石　赤色粒	4.5			0.35		4.2	短径0.6　長径1.1
19	492	451	調査１区　２G	２層	土製品	土錘	赤褐（10R5/4）	石英　長石　角閃石　雲母	3.5			0.3 × 0.35		1.8	短径0.75　長径0.8
20	492	451	調査１区　２G	２層	土製品	土錘	にぶい赤褐（2.5YR5/4）	長石　雲母　角閃石	2.4			0.5 × 0.4		1.0	短径0.73　長径0.8
21	492	451	調査１区　２G	２層	土製品	土錘	赤（10R5/6）	石英　長石　角閃石　雲母	3.3			0.2 × 0.32		2.0	短径0.8　長径9.8　端部に手で押さえた跡あり
22	492	451	調査１区　２G	２層	土製品	土錘	にぶい橙（5YR6/4）	長石　角閃石	1.9			0.3 × 0.32		0.8	短径0.7　長径0.8
23	492	451	調査１区　２G	２層	土製品	土錘	灰赤（2.5YR6/2）	石英　長石　角閃石	4.3			0.3 × 0.32		2.0	短径0.75　長径0.8　黒斑あり
24	492	451	調査１区　２G	２層	土製品	？	にぶい黄（2.5Y6/3）		5.7	1.85	1.8			19.7	
30	492	451	調査３区　2109 G	２層	土製品	羽口	暗灰黄（2.5Y5/2）		19.5	9.2	9.05	3.4			先端部に鉄付着
34	493	452	調査１区　１G	２層	瓦	軒丸瓦	灰オリーブ（5Y6/2）	石英　長石　角閃石　安山岩礫	6.2	6.2	2.3				凸面　ナデ　凹面　布目痕
35	493	452	調査１区　２G	２層	瓦	平瓦	褐灰（10YR6/1）	長石　石英　角閃石　黒色粒	（5.1）	（5.6）	2.1				凸面　縄目痕　凹面　布目痕
96	500	457	調査１区　１G	３ａ層	土製品	土製模造鏡	にぶい黄橙（10YR6/3）	石英　長石　角閃石		1.1			（5.4）	8.1	
97	500	457	調査１区　３G	３ａ層	土製品	人形土製品	灰黄（2.5Y6/2）	長石　角閃石　雲母　褐色粒	3.0	2.3				6.4	
98	500	457	調査２区　1293 G	３ａ層	土製品	土錘	暗灰黄（2.5Y5/2）		3.6	1.55	1.3	0.25 × 0.2		7.8	
99	501	457	調査１区　１G	３ａ層	瓦	丸瓦	灰白（2.5Y7/1）	長石　角閃石	5.2	4.3	2.7				凹面　布目痕　凸面　ヨコナデ　工具痕あり
100	501	457	調査２区　2200 G	３ａ層	瓦	丸瓦	黄灰（2.5Y6/1）	石英　黒色粒	13.6	10.8	1.6				凹面　布目痕　凸面　ヨコナデ
107	502	458	調査２区　1293 G	３ａ層	土製品	土製勾玉	灰黄（2.5Y7/2）	角閃石　褐色粒　石英　長石	2.9	1.6	1.1	2.0		3.7	
108	502	458	調査２区　1293 G	３ａ層	土製品	土製勾玉	灰黄（2.5Y6/2）	石英　長石　雲母	4.1	2.5	1.7	2.0		14.4	

表－22－３　釼抜遺跡出土遺物観察表　石製品

遺物番号	図版番号	写真番号	出土地点	包含層層位	種　別	器　種	石　材	法　量（cm）						重さ（g）	備　　考
								長さ	幅	厚さ	器高	口径	底径		
25	492	451	調査３区　2118 G	２層	石製品	石錘	滑石	4.85	1.75	1.4	－	－	－	17.3	
26	492	451	調査３区　2119 G	２層	石製品	円盤状石器	滑石	4.1	3.05	1.75	－	－	－	23.4	
27	492	451	調査３区　2109 G	２層	石製品	石鍋	滑石	5.1	4.75	1.8	－	－	－	68.8	２ヶ所の凹部あり
28	492	451	調査３区　2200 G	２層	石製品	臼玉	滑石	0.4	0.4	0.3	－	－	－	0.1	

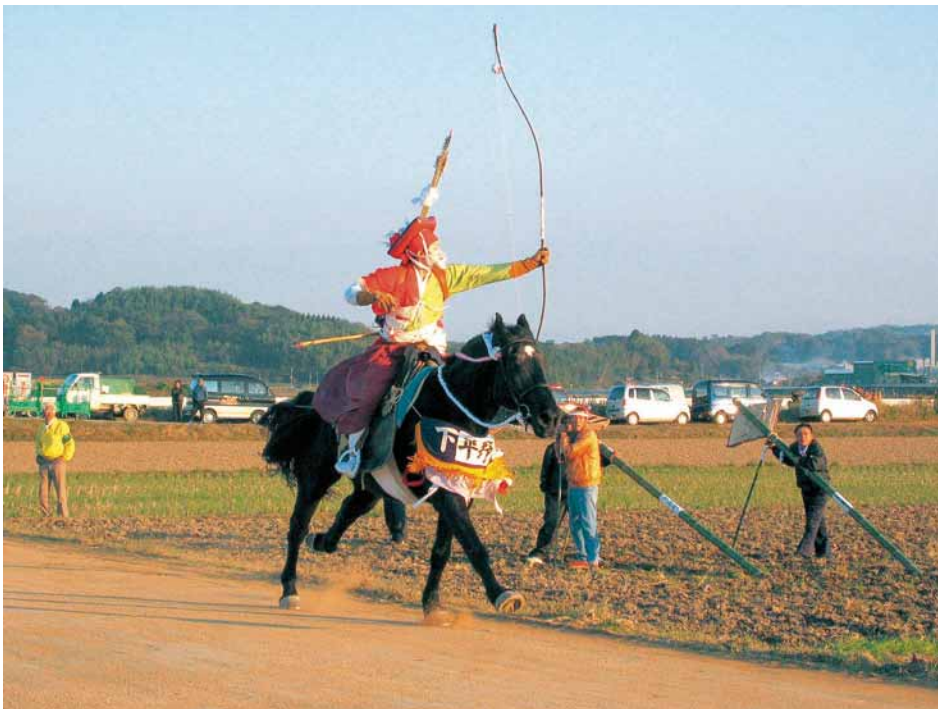
遺物番号	図版番号	写真番号	出土地点	包含層層位	種別	器種	石材	法量（cm）						重さ（g）	備考
								長さ	幅	厚さ	器高	口径	底径		
29	492	451	調査１区　１G	２層	石製品	臼玉	滑石	0.45	0.5	0.2	－	－	－	0.1	
31	493	451	調査２区　1284 G	２層	石製品	石包丁	砂岩	4.5	5.9	0.75	－	－	－	26.7	
32	493	451	調査１区　３G	２層	石製品	砥石	片岩	6.15	2.25	0.75	－	－	－	22.5	
33	493	452	調査３区　2118 G	２層	石製品	砥石	砂岩	8.65	3.45	3.15	－	－	－	149.0	
101	501	457	調査２区　2200 G	３a層	石製品	石鍋	黒雲母片岩	－	－	－	12.4	(19.0)	(18.4)	－	内、外面にスス付着　内面底部に炭化物付着
102	502	457	調査２区　1284 G	３a層	石製品	紡錘車	滑石	5.2	5.2	0.7	－	－	－	26.0	孔径0.85cm　表面に線刻あり
103	502	457	調査１区　１G	３a層	石製品	棒状石製品	安山岩	6.35	2.4	1.8	－	－	－	26.9	
104	502	458	調査１区　２G	３a層	石製品	砥石	砂岩	8.8	4.2	3.5	－	－	－	180.2	
105	502	457	調査１区　１G	３a層	石製品	砥石	安山岩	6.2	3.3	1.3	－	－	－	37.4	
106	502	458	調査２区　1283 G	３a層	石製品	砥石	頁岩	9.75	5.45	1.4	－	－	－	85.3	
118	505	458	調査２区　1292 G	１層	石製品	石包丁	片岩	4.4	8.7	0.45	－	－	－	31.3	

表－22－４　釼抜遺跡出土遺物観察表　木製品

遺物番号	図版番号	写真番号	出土地点	包含層層位	種別	器種	樹種	法量（cm）					備考
								長さ	幅	厚さ	残存高	底径	
38	494	452	調査２区　1274G	２層	木製品	板状加工品	スギ	12.5	4.3	0.7	－	－	
39	494	452	調査３区　2109G	２層	木製品	板状加工品	スギ科スギ属スギ	12.5	3.5	0.7	－	－	
40	494	452	調査２区　2201G	２層	木製品	鏑矢	タイミンタチバナ	4.7	3.3	2.7	－	－	
41	494	452	調査３区　2210G	２層	木製品	把手	ヒノキ	14.0	5.6	3.1	－	－	
42	494	452	調査３区　2118G	２層	木製品	棒状加工品	ニレ科ムクノキ属ムクノキ	11.5	2.6	1.4	－	－	
43	494	452	調査２区　2201G	２層	木製品	板状加工品	ヒノキ科アスナロ属	12.1	2.8	0.5	－	－	
109	503	458	調査１区　２G	３a層	木製品	板状加工品	マツ科モミ属	19.2	3.9	0.7	－	－	
110	503	458	調査１区　２G	３a層	木製品	板状加工品	マツ科モミ属	17.3	5.2	0.8	－	－	
111	503	458	調査１区　３G	３a層	木製品	円形板	ツガ属	16.9	7.3	0.4	－	－	
112	503	458	調査１区　３G	３a層	木製品	板状加工品	マツ科モミ属	19.9	5.0	1.1	－	－	
113	503	458	調査１区　２G	３a層	木製品	板状加工品	コナラ属アカガシ亜属	12.7	5.1	2.1	－	－	
114	503	458	調査１区　２G	３a層	木製品	板状加工品	コナラ属アカガシ亜属	9.0	5.9	2.0	－	－	
115	504	458	調査１区　２G	３a層	木製品	棒状加工品	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節	5.8	1.4	1.3	－	－	
116	504	458	調査２区　1293G	３a層	木製品	棒状加工品先端部	ヤブツバキ	5.6	4.7	4.0	－	－	
117	504	458	調査１区　１G	３a層	木製品	台付椀	ガマズミ属	－	－	－	8.5	(10.1)	

表－22－５　釦抜遺跡出土遺物観察表　鉄製品

遺物番号	図版番号	写真番号	出土地点	包含層層位	種別	器種	法量（cm）			重さ(g)	備考
							長さ	幅	厚さ		
36	493	452	調査１区　３Ｇ	２層	銅製品	鈴	2.95	2.30	2.15	12.7	
37	493	452	調査３区　2118G	２層	銅製品	筒状銅製品	4.30	1.30	1.15	15.6	孔径　0.90cm



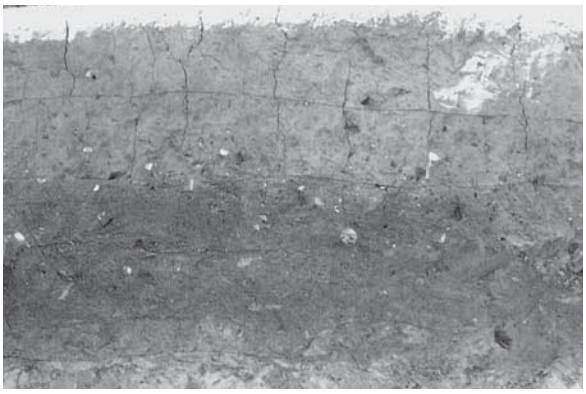
梅林天満宮の流鏑馬（やぶさめ）

秋

県重要無形民俗文化財に指定されており、大宰府天満宮の分社である梅林天満宮で、毎年11月25日に下・安楽寺・津留の氏子によって流鏑馬が奉納されている。この流鏑馬は、五穀豊穣や無病息災を祈願する伝統行事で、約900年以上も前から続いていると言われている。

約360mの馬場沿いに１の的（鳥居東）・２の的（鳥居前）・３の的（鳥居西）にそれぞれに３本の的が設置され、各的３本ずつ計９本の矢が放たれる。矢が的にあたると歓声があがっていた。

写真－40　平坦地区基本土層

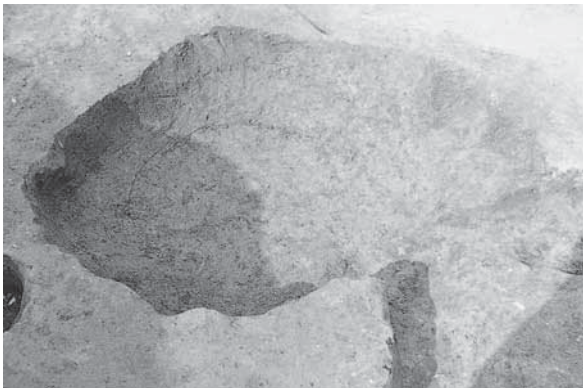


写真－41　湿地区基本土層

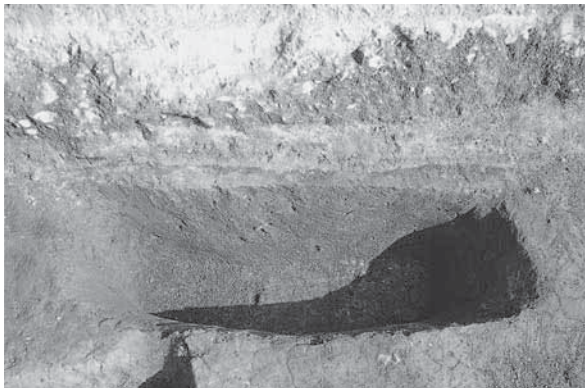
写真－42　作業風景

写真－43　１号住居完掘状況

写真－44　１号土坑遺物出土状況



写真－45　１号土坑完掘状況



写真－46　２号土坑完掘状況

写真－47　３号土坑完掘状況

写真－48　１号埋鉢遺物出土状況

写真－49　２号埋鉢遺物出土状況

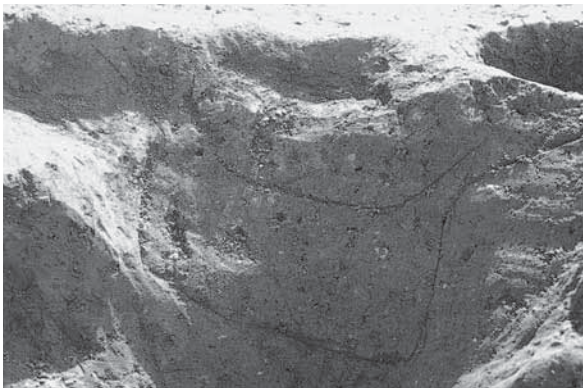
写真－50　２号住居遺物出土状況

写真－51　２号住居完掘状況

写真－52　２号住居炉・焼土塊土層断面

写真－53　３号住居遺物出土状況

写真－54　３号住居完掘状況



写真－55　３号住居炉・焼土塊土層断面

写真－56　４号住居遺物出土状況

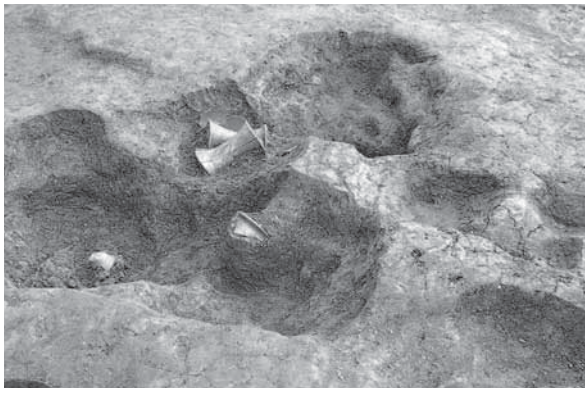
写真－57　５号住居完掘状況

写真－58　６号住居完掘状況

写真－59　７号住居完掘状況

写真－60　８号住居遺物出土状況

写真－61　８号住居西側ピット遺物出土状況



写真－62　８号住居第２住居内土坑遺物出土状況

写真－63　８号住居完掘状況

写真－64　９号住居完掘状況

写真－65　１０号住居完掘状況

写真－66　１１号住居完掘状況

写真－67　１２号住居完掘状況

写真－68　１３号住居完掘状況

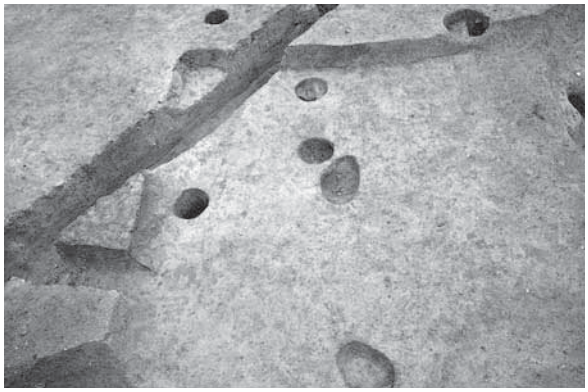
写真－69　１４号住居遺物出土状況

写真－70　１５号住居遺物出土状況

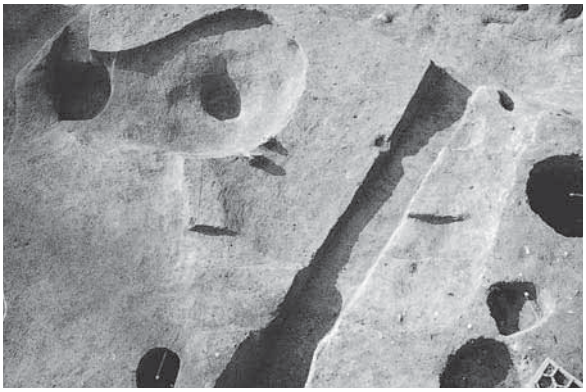
写真－71　１５号住居完掘状況

写真－72　１６号住居完掘状況

写真－73　１７号住居完掘状況



写真－74　１８号住居完掘状況

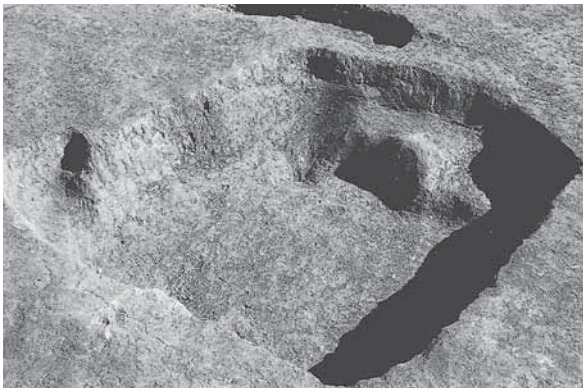


写真－75　１９号住居完掘状況

写真－76　２０号住居完掘状況

写真－77　２２号住居完掘状況

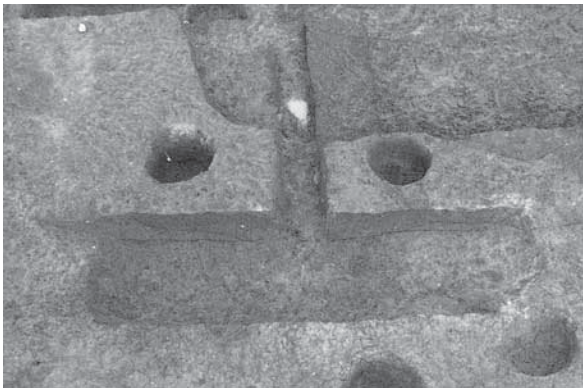
写真－78　１号掘立柱建物



写真－79　５号土坑完掘状況

写真－80　６号土坑完掘状況

写真－81　８号土坑完掘状況



写真－82　９号土坑完掘状況

写真－83　１０号土坑完掘状況

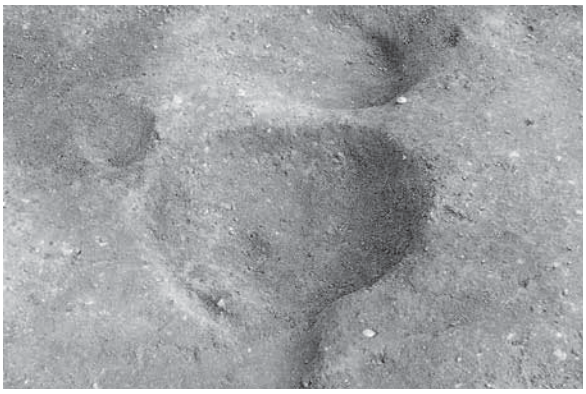
写真－84　１１号土坑完掘状況

写真－85　１２号土坑完掘状況

写真－86　１３号土坑完掘状況

写真－87　１４号土坑完掘状況

写真－88　１５号土坑遺物出土状況

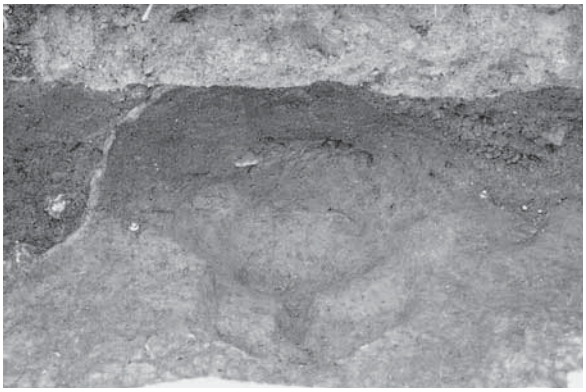


写真－89　１５号土坑完掘状況

写真－90　１６号土坑完掘状況

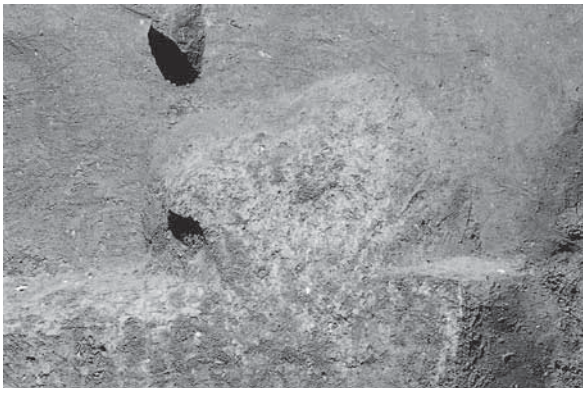
写真－91　１７号土坑完掘状況

写真－92　１８号土坑完掘状況



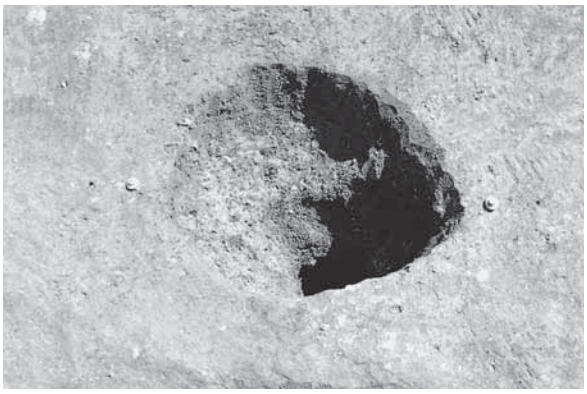
写真－93　１９号土坑完掘状況

写真－94　２０号土坑完掘状況



写真－95　２１号土坑完掘状況

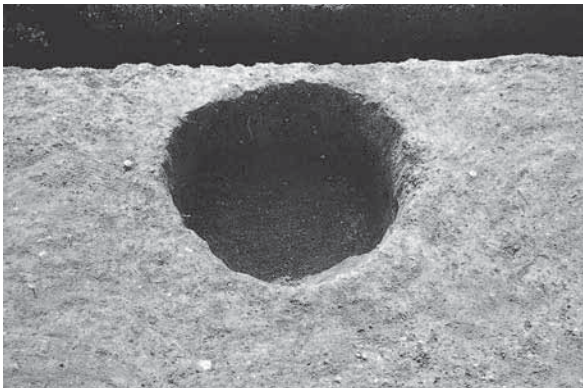
写真－96　２２号土坑完掘状況



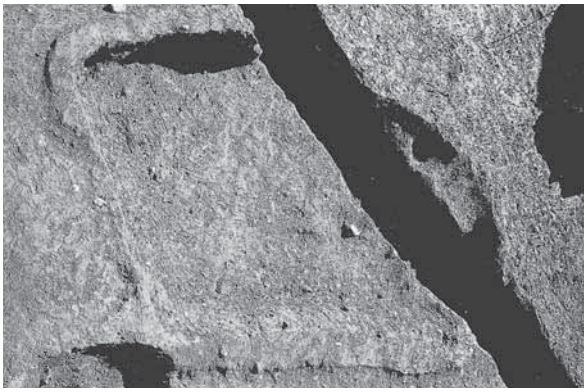
写真－97　２３号土坑完掘状況

写真－98　２８号土坑遺物出土状況

写真－99　２８号土坑完掘状況

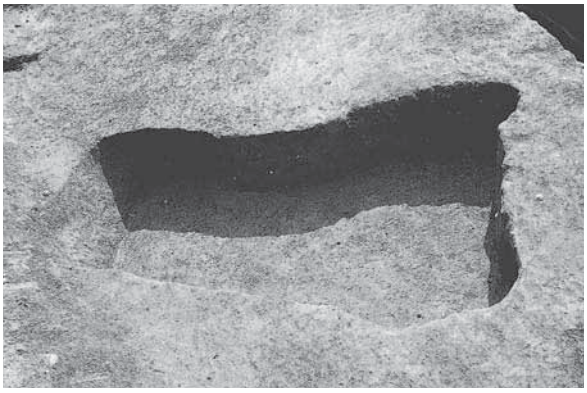


写真－100　２９号土坑完掘状況



写真－101　３０号土坑完掘状況

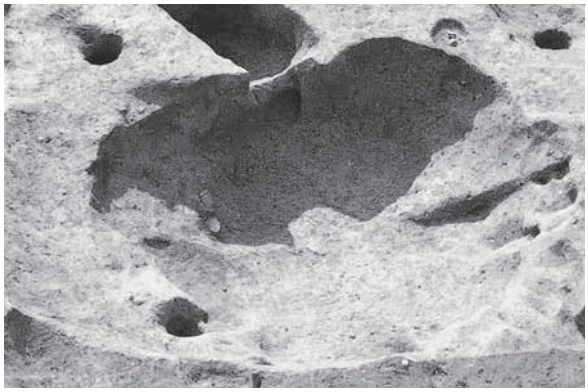
写真－102　３１号土坑完掘状況



写真－103　３２号土坑完掘状況

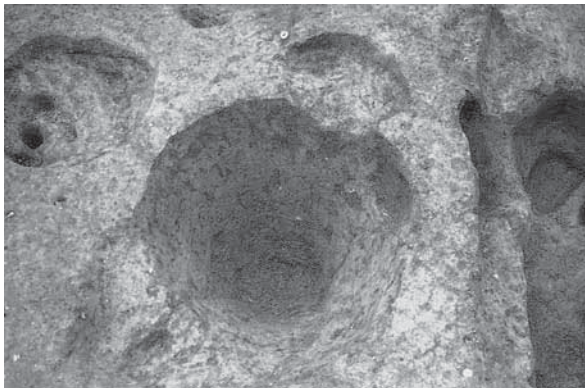
写真－104　３３号土坑完掘状況

写真－105　３４号土坑完掘状況



写真－106　３６号土坑完掘状況

写真－107　３７号土坑完掘状況

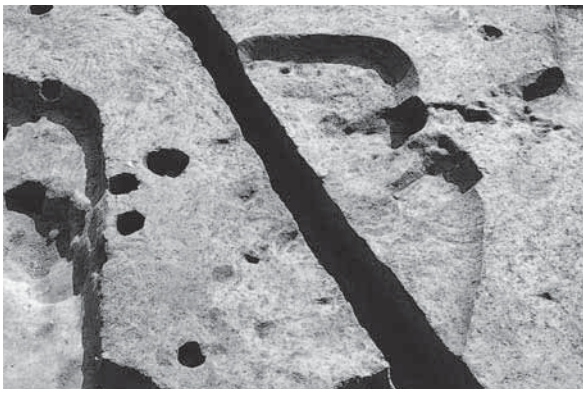


写真－108　３８号土坑完掘状況

写真－109　３９号土坑完掘状況

写真－110　４０号土坑完掘状況

写真－111　４１号土坑完掘状況



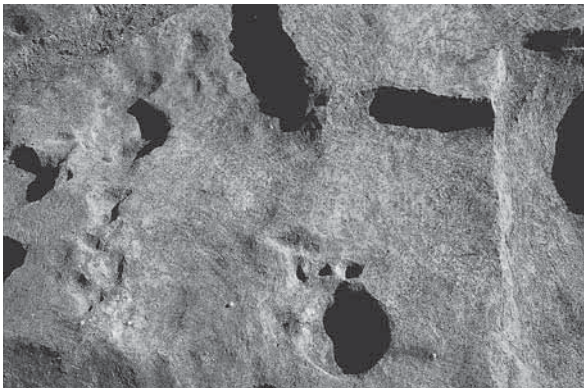
写真－112　４２号土坑完掘状況

写真－113　４４号土坑完掘状況

写真－114　４５号土坑完掘状況

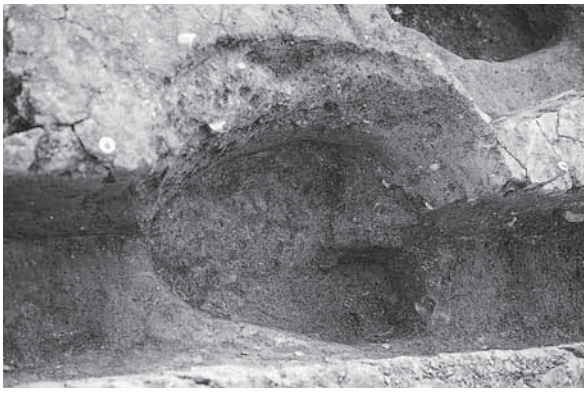
写真－115　４６号土坑完掘状況

写真－116　４７号土坑完掘状況



写真－117　４８号土坑完掘状況

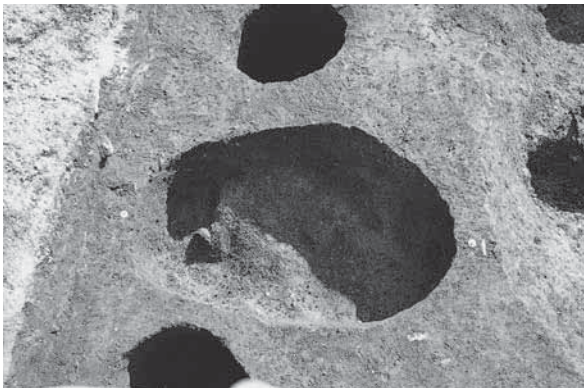
写真－118　４９号土坑完掘状況



写真－119　５０号土坑完掘状況

写真－120　５２号土坑完掘状況

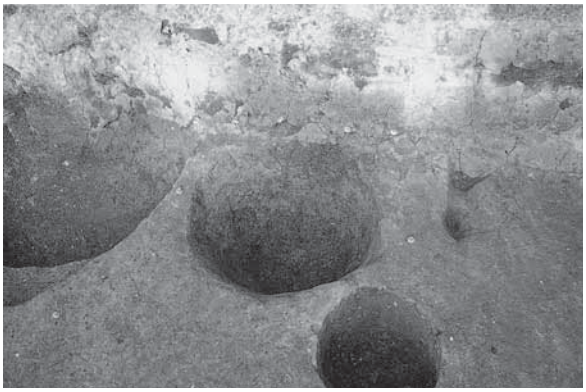
写真－121　５３号土坑完掘状況



写真－122　５４号土坑完掘状況

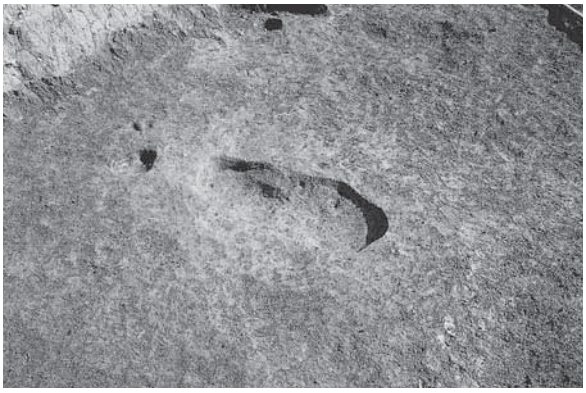
写真－123　５５号土坑完掘状況

写真－124　５７号土坑完掘状況



写真－125　５８号土坑完掘状況

写真－126　６０号土坑完掘状況



写真－127　６１号土坑完掘状況

写真－128　６２号土坑完掘状況

写真－129　６３号土坑完掘状況

写真－130　６４号土坑完掘状況

写真－131　１号溝完掘状況

写真－132　３号溝完掘状況

写真－133　４号溝遺物出土状況

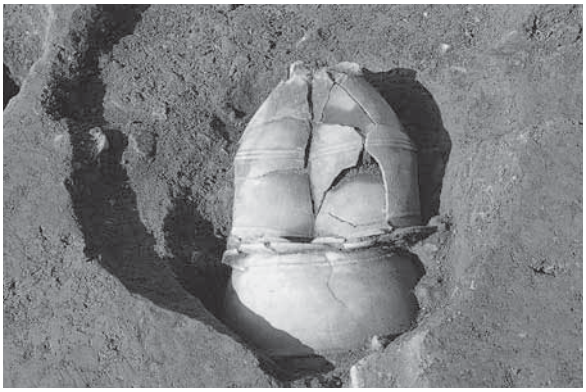
写真－134　４号溝完掘状況

写真－135　１号甕棺墓遺物出土状況

写真－136　１号甕棺墓完掘状況

写真－137　２号甕棺墓遺物出土状況

写真－138　２号甕棺墓完掘状況



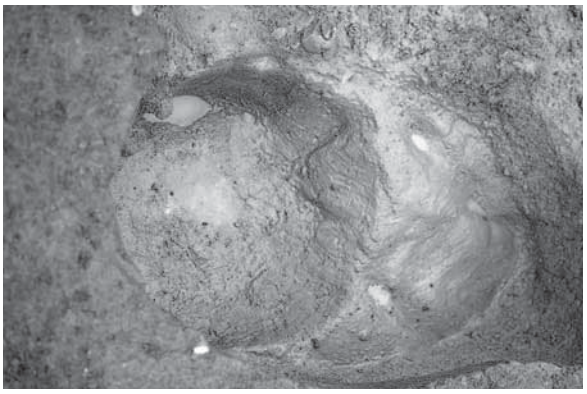
写真－139　３号甕棺墓遺物出土状況

写真－140　４号甕棺墓遺物出土状況

写真－141　４号甕棺墓完掘状況

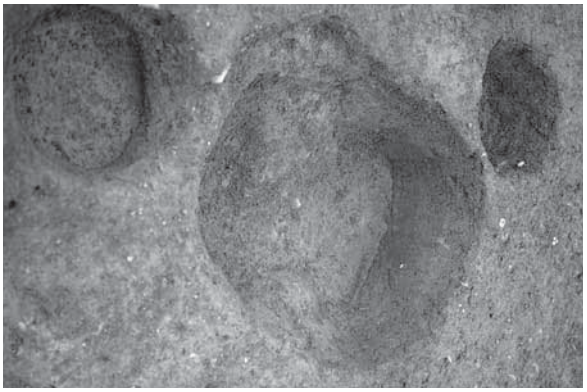
写真－142　５号甕棺墓遺物出土状況

写真－143　６号甕棺墓遺物出土状況



写真－144　６号甕棺墓完掘状況

写真－145　７号甕棺墓遺物出土状況

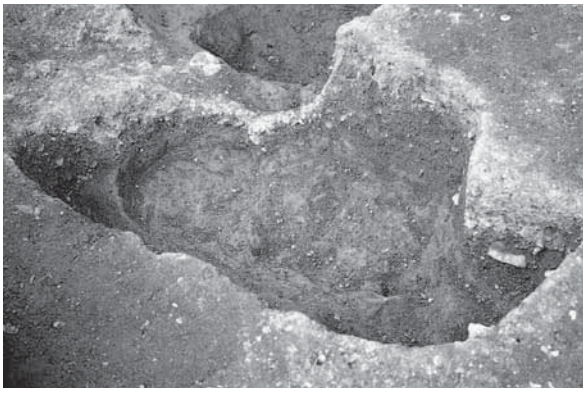


写真－146　７号甕棺墓完掘状況

写真－147　８号甕棺墓遺物出土状況

写真－148　８号甕棺墓完掘状況

写真－149　９号甕棺墓遺物出土状況



写真－150　９号甕棺墓完掘状況

写真－151　１０号甕棺墓遺物出土状況

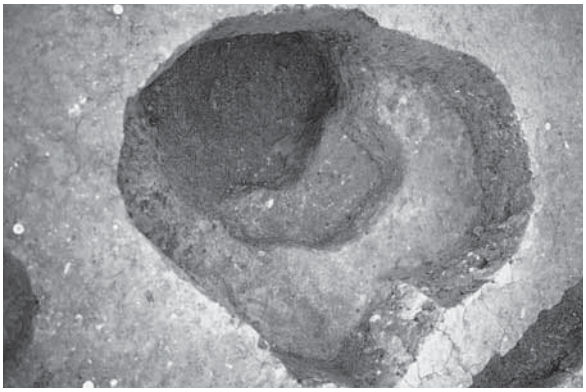
写真－152　１１号甕棺墓遺物出土状況

写真－153　１１号甕棺墓完掘状況

写真－154　１２号甕棺墓遺物出土状況

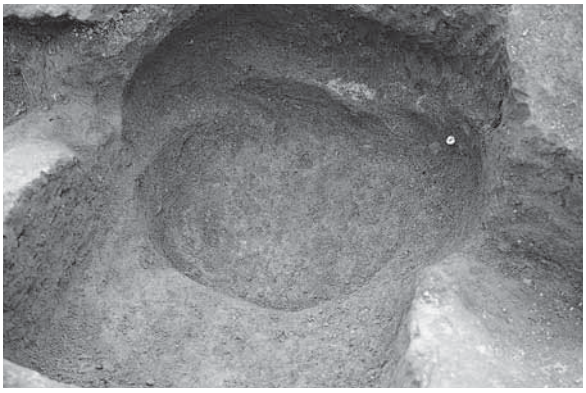
写真－155　１２号甕棺墓完掘状況

写真－156　１３号甕棺墓遺物出土状況



写真－157　１３号甕棺墓完掘状況

写真－158　１４号甕棺墓遺物出土状況



写真－159　１４号甕棺墓完掘状況

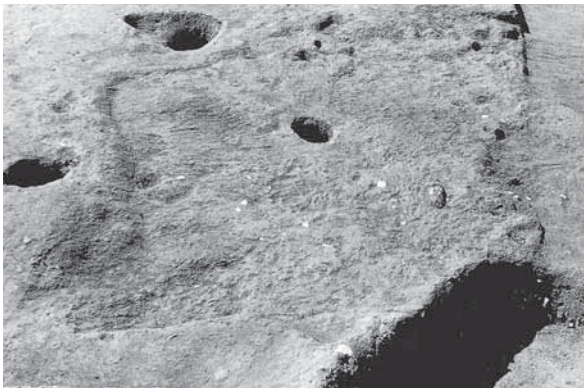
写真－160　２３号住居遺物出土状況①

写真－161　２３号住居遺物出土状況②

写真－162　２３号住居遺物出土状況③

写真－163　２３号住居完掘状況

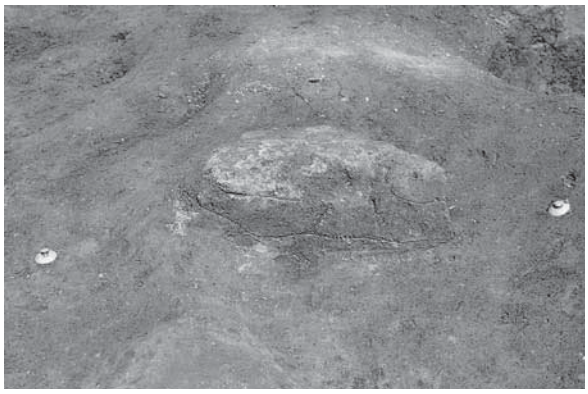
写真－164　２３号住居焼土塊土層断面



写真－165　２４号住居完掘状況

写真－166　２５号住居遺物出土状況

写真－167　２５号住居完掘状況



写真－168　２５号住居焼土塊土層断面

写真－169　２６号住居遺物出土状況

写真－170　２６号住居完掘状況

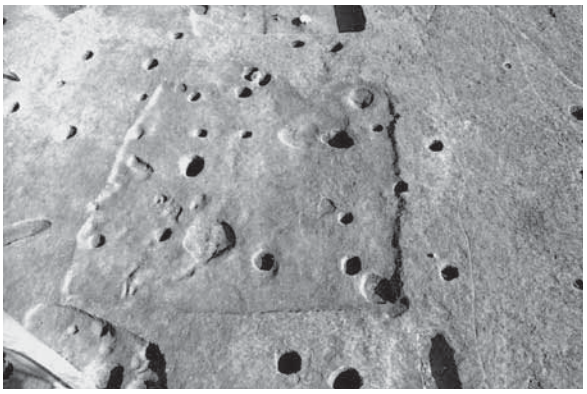
写真－171　２７号住居遺物出土状況遠景

写真－172　２７号住居遺物出土状況近景

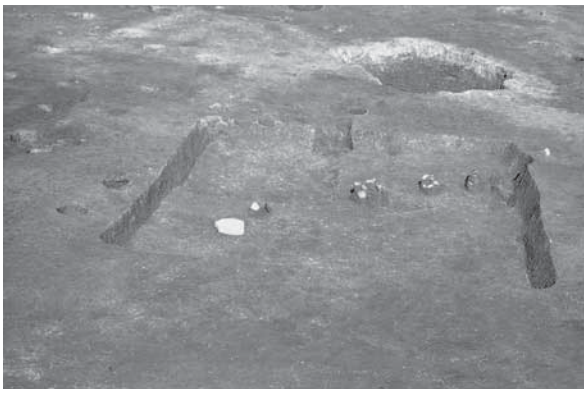
写真－173　２７号住居完掘状況

写真－174　２８号住居完掘状況

写真－175　２９号住居遺物出土状況



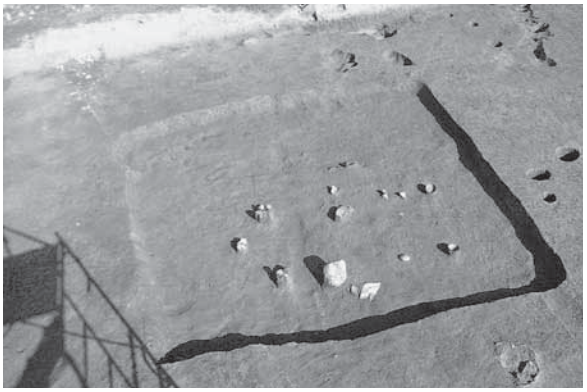
写真－176　２９号住居完掘状況



写真－177　３０号住居遺物出土状況

写真－178　３０号住居完掘状況

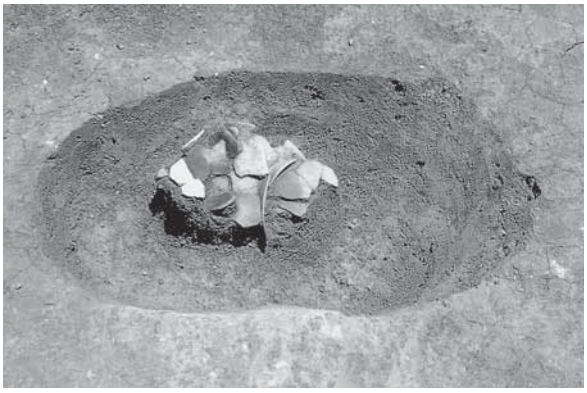
写真－179　３１号住居完掘状況



写真－180　３２号住居遺物出土状況

写真－181　３２号住居完掘状況

写真－182　３３号住居遺物出土状況①



写真－183　３３号住居遺物出土状況②

写真－184　３３号住居完掘状況

写真－185　３４号住居遺物出土状況

写真－186　３４号住居完掘状況

写真－187　３５号住居遺物出土状況遠景

写真－188　３５号住居遺物出土状況近景

写真－189　３５号住居貯蔵穴遺物出土状況

写真－190　３５号住居完掘状況

写真－191　３５号住居焼土塊土層断面

写真－192　３６号住居完掘状況

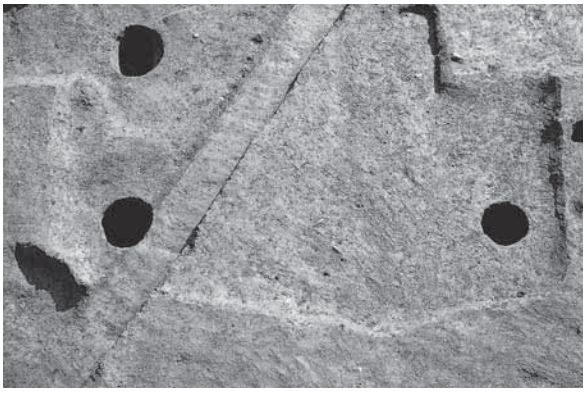
写真－193　３７号住居遺物出土状況

写真－194　３７号住居完掘状況

写真－195　３８号住居完掘状況

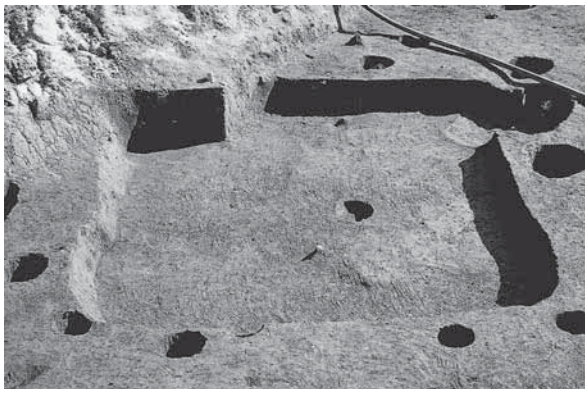
写真－196　３９号住居完掘状況

写真－197　４０号住居完掘状況



写真－198　４１号住居完掘状況

写真－199　４２号住居遺物出土状況



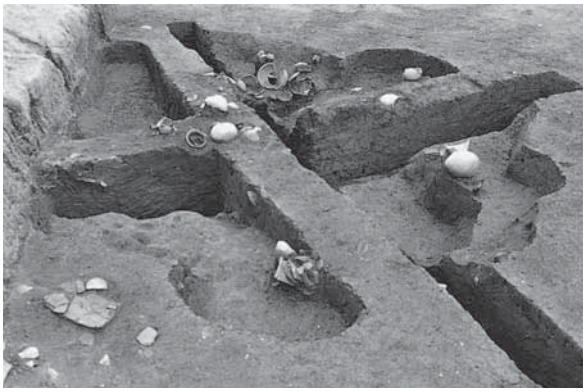
写真－200　４２号住居完掘状況

写真－201　４３号住居完掘状況

写真－202　６５号土坑完掘状況

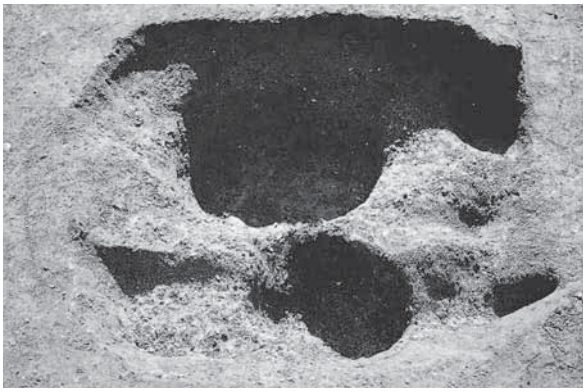
写真－203　６６号土坑遺物出土状況

写真－204　６７号土坑遺物出土状況（南から）

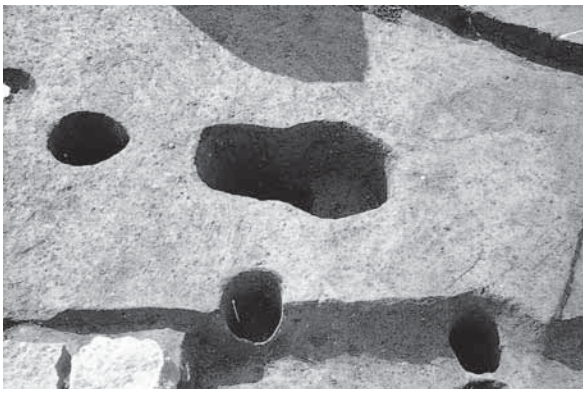


写真－205　６７号土坑遺物出土状況（北から）

写真－206　６８号土坑完掘状況



写真－207　７０号土坑完掘状況

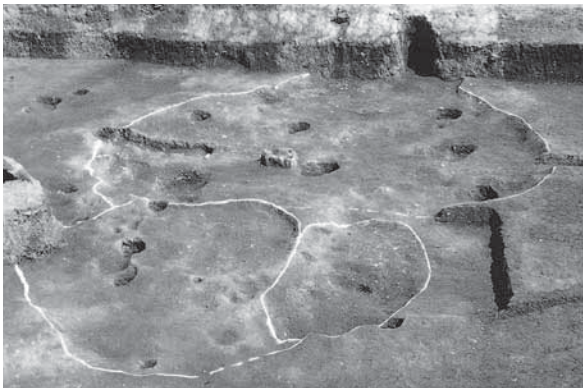


写真－208　７１号土坑完掘状況

写真－209　５号溝完掘状況

写真－210　４４号住居遺物出土状況①

写真－211　４４号住居遺物出土状況②



写真－212　４４号住居完掘状況

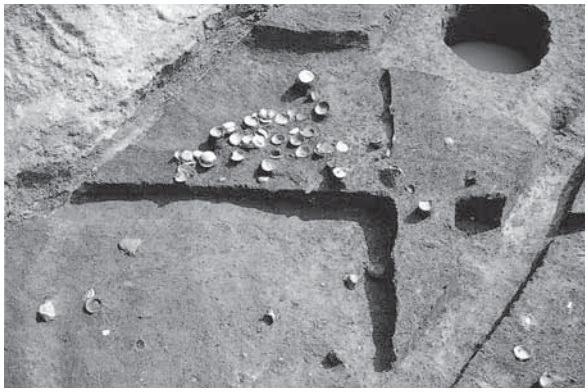
写真－213　４５号住居完掘状況

写真－214　４６号住居完掘状況

写真－215　４７号住居完掘状況

写真－216　４８号住居完掘状況

写真－217　４８号住居カマド完掘状況

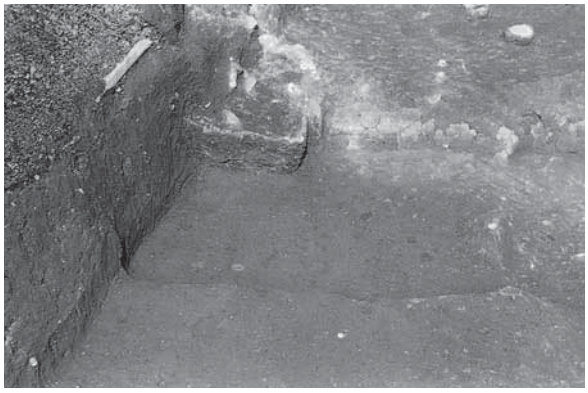


写真－218　４９号住居遺物出土状況

写真－219　４９号住居完掘状況

写真－220　５０号住居遺物出土状況

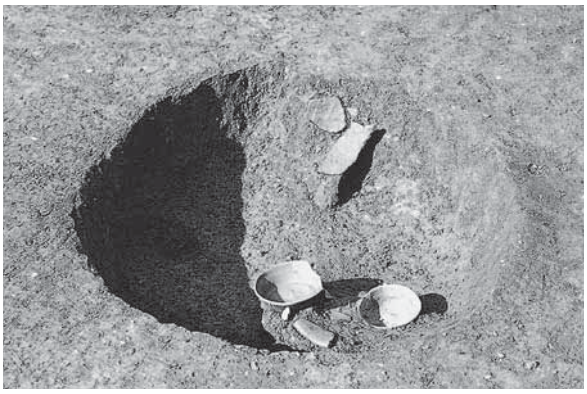
写真－221　５０号住居完掘状況



写真－222　７２号土坑完掘状況

写真－223　７６号土坑完掘状況

写真－224　７７号土坑完掘状況



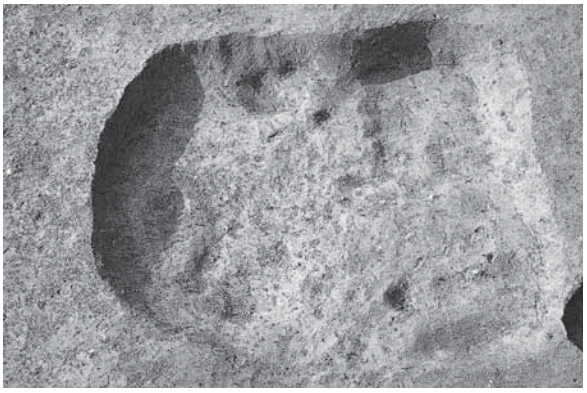
写真－225　７８号土坑遺物出土状況

写真－226　８０号土坑完掘状況

写真－227　８１号土坑完掘状況

写真－228　８２号土坑完掘状況

写真－229　８３号土坑完掘状況



写真－230　８４号土坑完掘状況

写真－231　８５号土坑完掘状況

写真－232　８７号土坑完掘状況

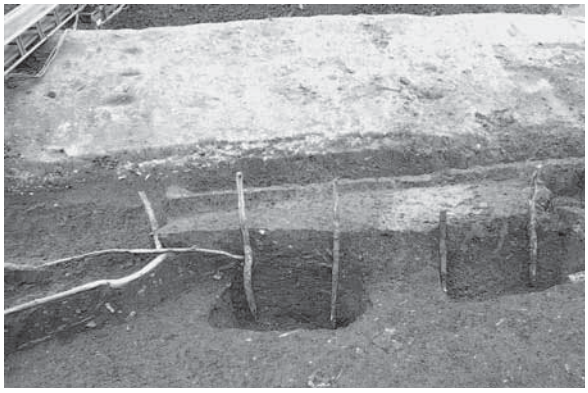
写真－233　６号溝完掘状況

写真－234　７号溝完掘状況

写真－235　１０号溝完掘状況

写真－236　１１号溝完掘状況（北から）

写真－237　１１号溝完掘状況（西から）



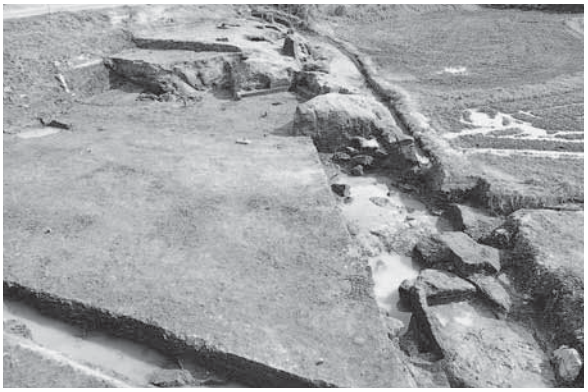
写真－238　１号杭列出土状況

写真－ 239　３区調査完了

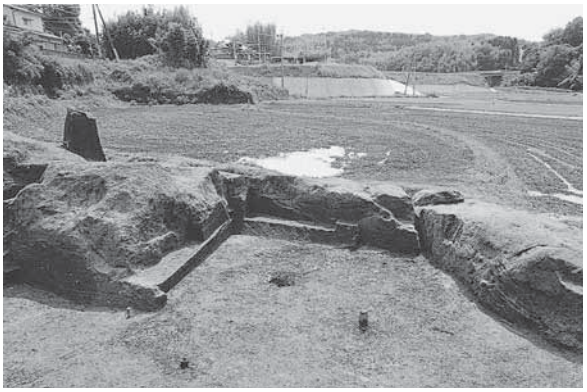
写真－240　４区調査完了

写真－241　４区出水状況

写真－242　１２号溝と１３号溝完掘状況



写真－243　５区調査完了



写真－244　昭和初期まで掘削されていた石切場

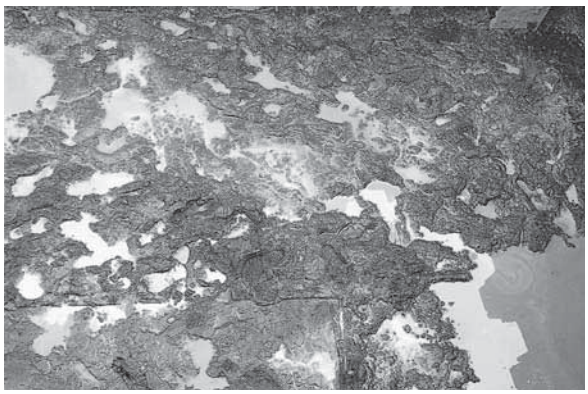
写真－245　発掘調査前の北の崎遺跡のようす

写真－246　工事後の北の崎遺跡

写真－247　発掘調査に携わった人々

写真－248　発掘調査前の釦抜遺跡のようす（北から）

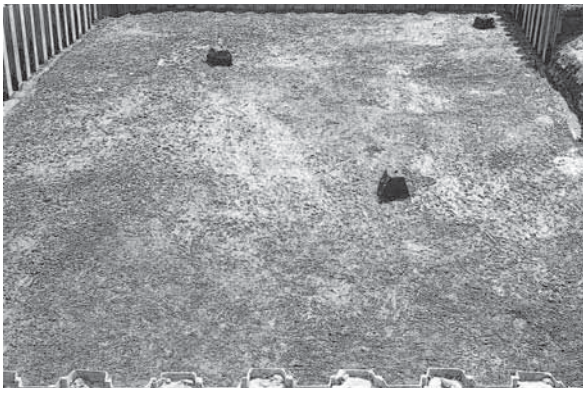
写真－249　発掘調査前の釦抜遺跡のようす（東から）



写真－250　発掘調査中のおびただしい出水

写真－251　釦抜遺跡１区調査完了（北から）

写真－ 252　釦抜遺跡２区調査完了（西から）



写真－253　釦抜遺跡３区調査完了（西から）

写真－254　工事後の釦抜遺跡のようす（北から）

写真－255　工事後の釦抜遺跡のようす（東から）

写真－256　生見の六地蔵

銘文が刻まれた竿石の
面を撮影
（東より）

附論参照

写真－257　生見の六地蔵

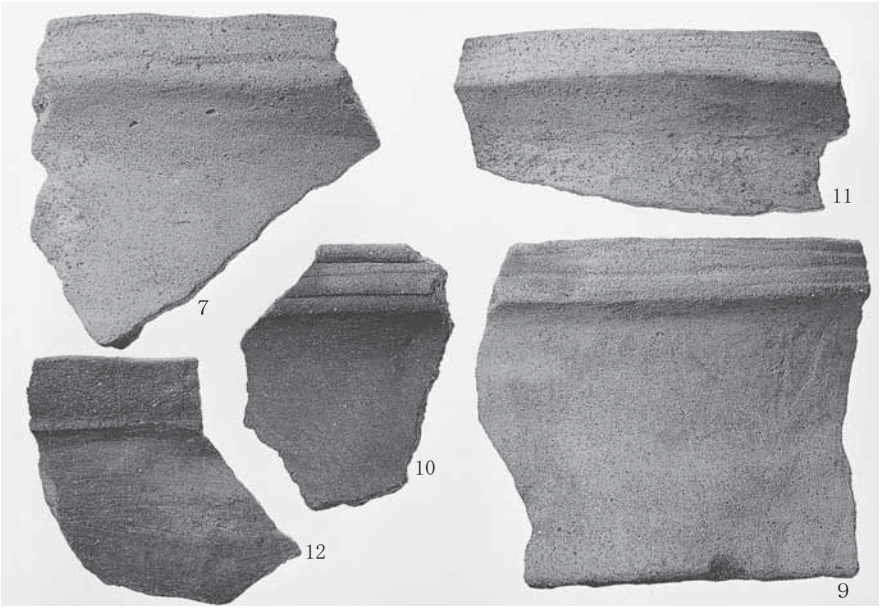
銘文が刻まれた竿石の
面を背面から撮影
（西より）

附論参照

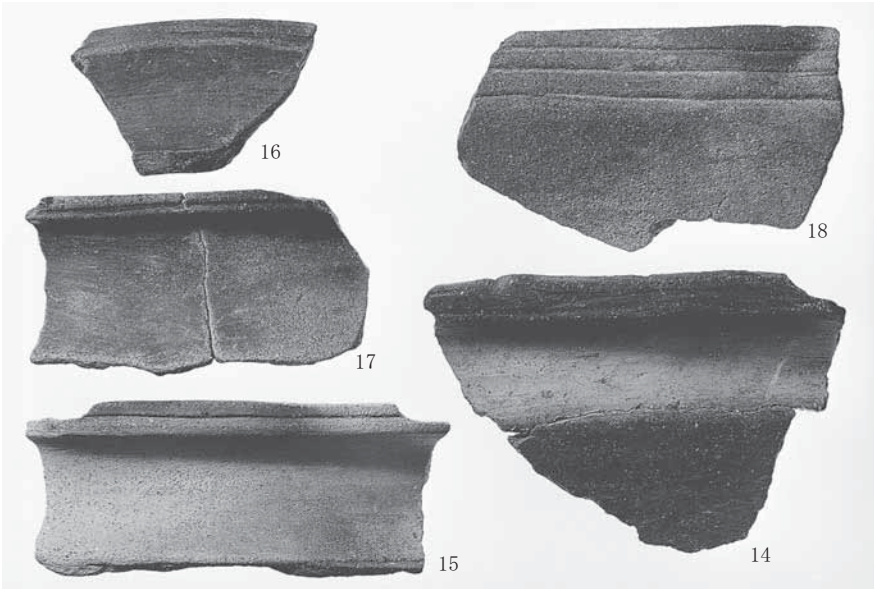
写真－258　１号埋鉢から出土した縄文土器

写真－259　２号埋鉢から出土した縄文土器

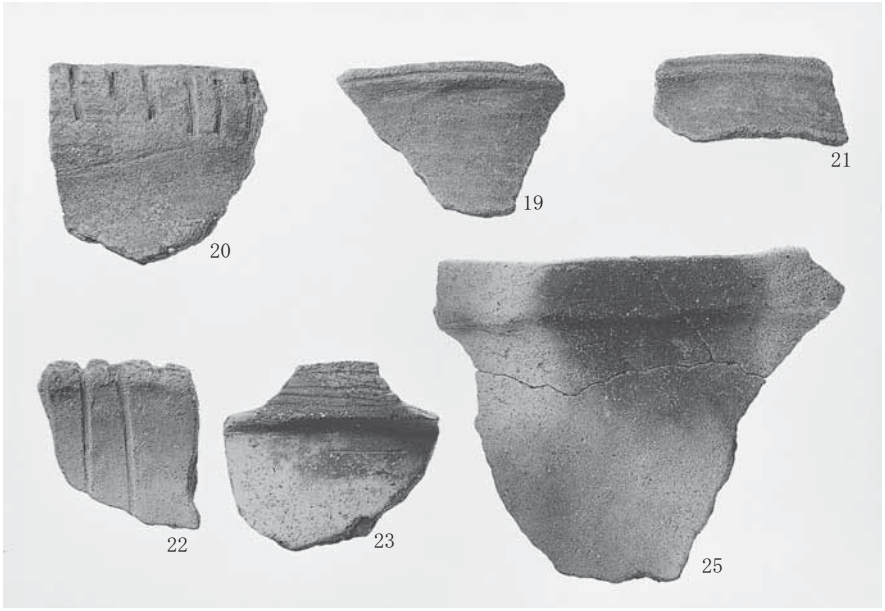
写真－260
１号住居から出土した
縄文土器



写真－261
１号住居から出土した
縄文土器



写真－262
１号住居から出土した
縄文土器



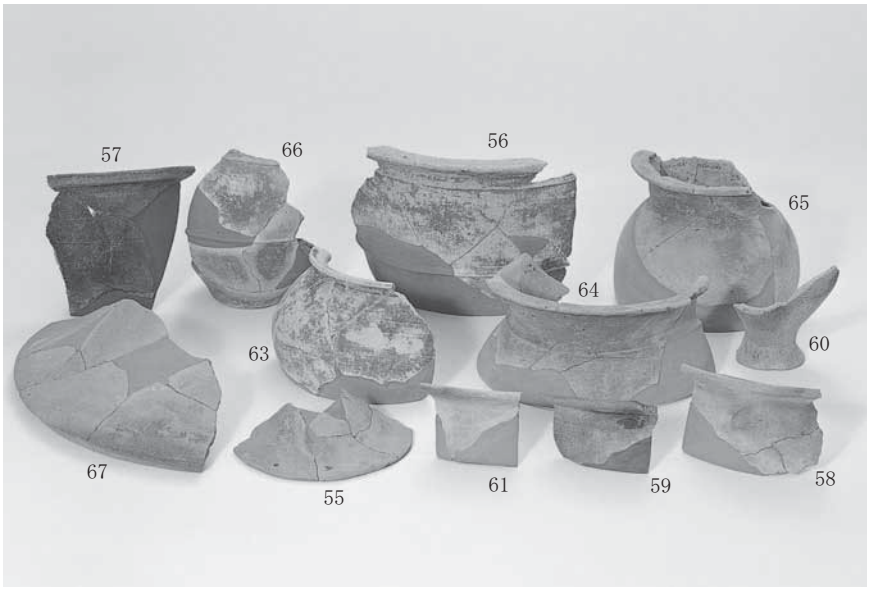
写真－263
１号土坑から出土した
縄文土器

写真－264
３号土坑から出土した
縄文土器

写真－265
２号住居から出土した
弥生土器

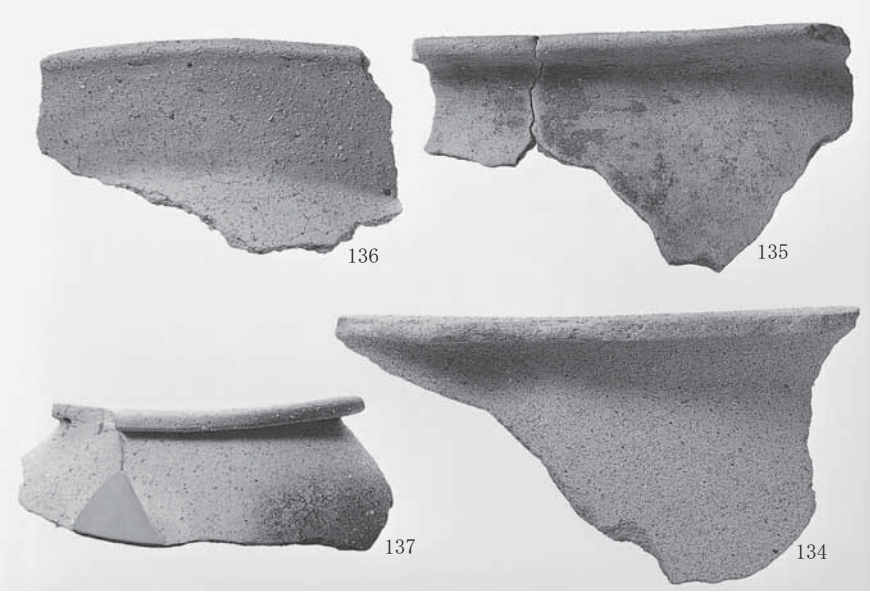
写真－266
２号住居から出土した
弥生土器

写真－267
２号住居から出土した
弥生土器

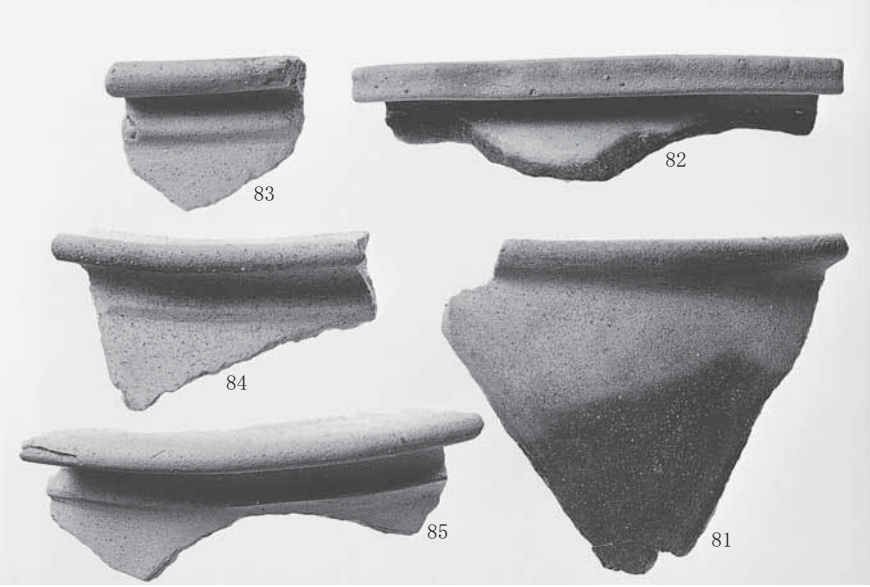


写真－268
３号住居から出土した
弥生土器

写真－269
３号住居から出土した
弥生土器の把手



写真－270
１０号住居から出土した
弥生土器



写真－271
６号住居から出土した
弥生土器

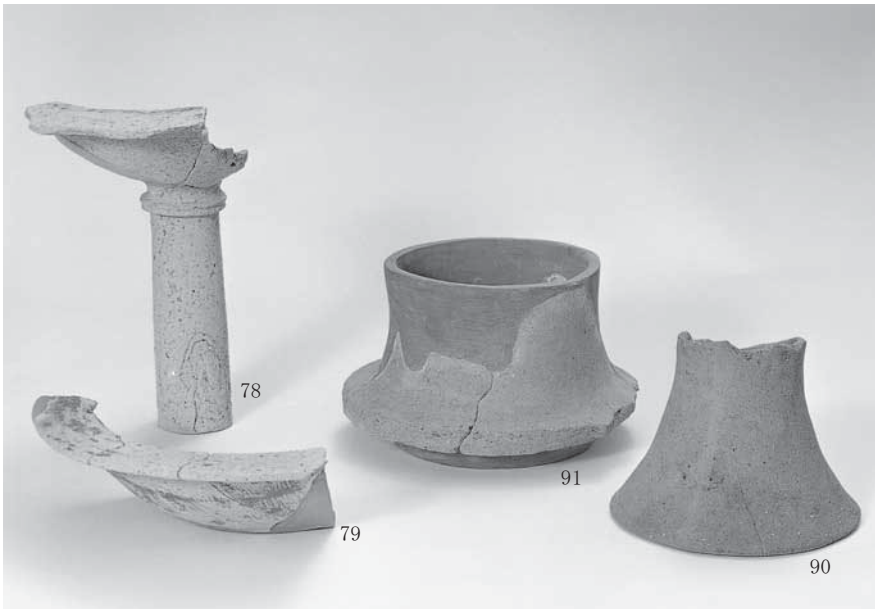
写真－272
４号住居から出土した
弥生土器

写真－273
４号住居から出土した
弥生土器

写真－274
１１号住居から出土した
弥生土器

写真－275
１４号住居から出土した
弥生土器

写真－276
１８号住居から出土した
弥生土器



写真－277
６号住居から出土した
弥生土器

写真－278
７号住居から出土した
弥生土器

写真－279
２８号土坑から出土した
弥生土器

写真－280
２７号土坑から出土した
弥生土器

写真－281　３６号土坑から出土した弥生土器

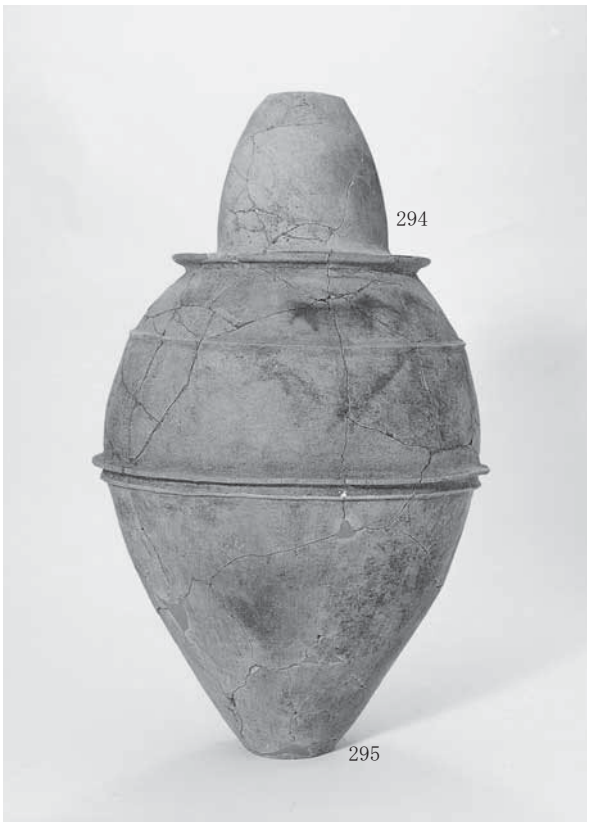
写真－282　１号甕棺墓から出土した甕棺

写真－283　２号甕棺墓から出土した甕棺

写真－284　３号甕棺墓から出土した甕棺

写真－285　４号甕棺墓から出土した甕棺

写真－286　５号甕棺墓から出土した甕棺



写真－287　６号甕棺墓から出土した甕棺

写真－288　７号甕棺墓から出土した甕棺

写真－289　８号甕棺墓から出土した甕棺

写真－290　９号甕棺墓から出土した甕棺

写真－291　１１号甕棺墓から出土した甕棺

写真－292　１２号甕棺墓から出土した甕棺

写真－293　１３号甕棺墓から出土した甕棺

写真－294　１３号甕棺墓から出土した甕棺

写真－295　１４号甕棺墓から出土した甕棺

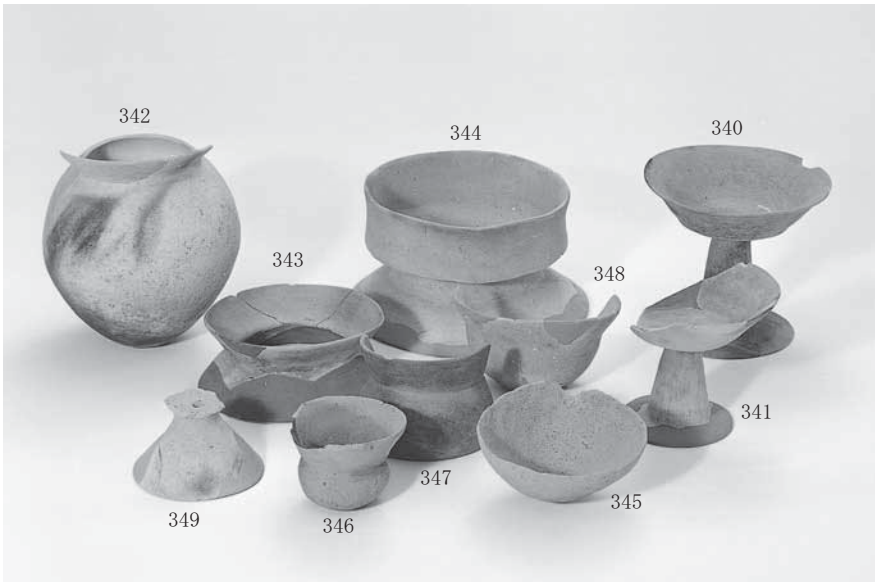
写真－296　１４号甕棺墓から出土した甕棺

写真－297
３、４号溝から出土した
弥生土器

写真－298
２３号住居から出土した
土師器

写真－299
２３号住居から出土した
土師器

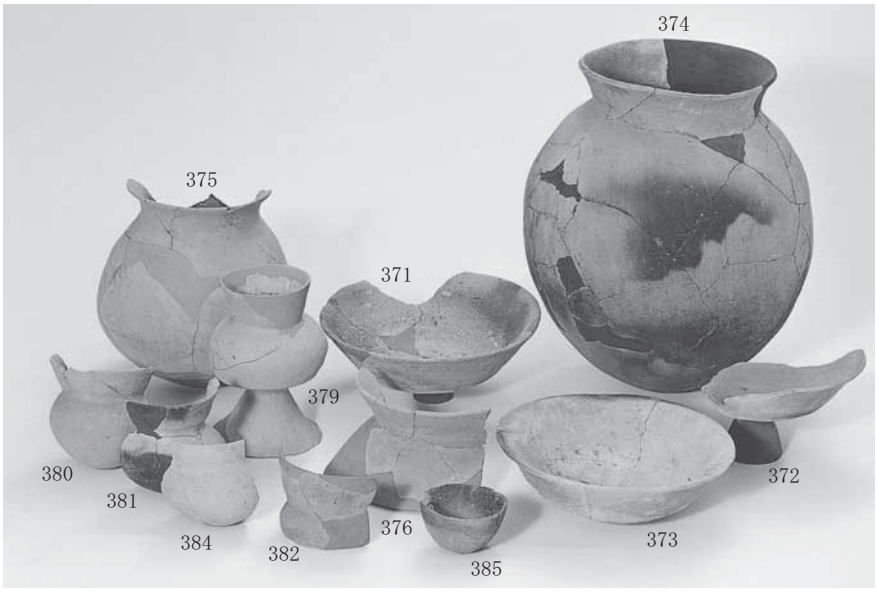
写真－300
２３号住居から出土した
土師器



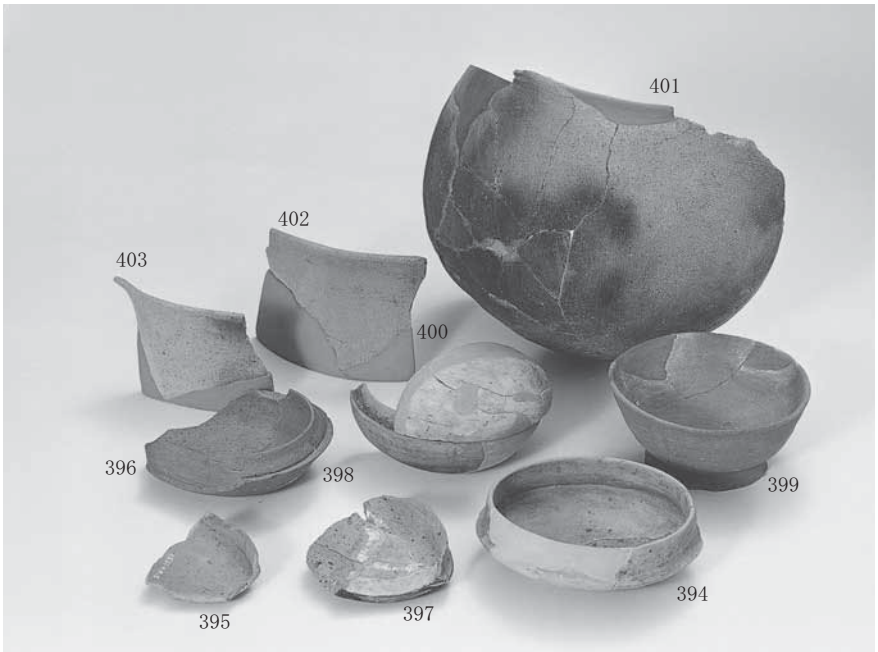
写真－301
２５号住居から出土した
土師器

写真－302
２６号住居から出土した
土師器

写真－303
２６号住居から出土した
土錘



写真－304
２７号住居から出土した
土師器

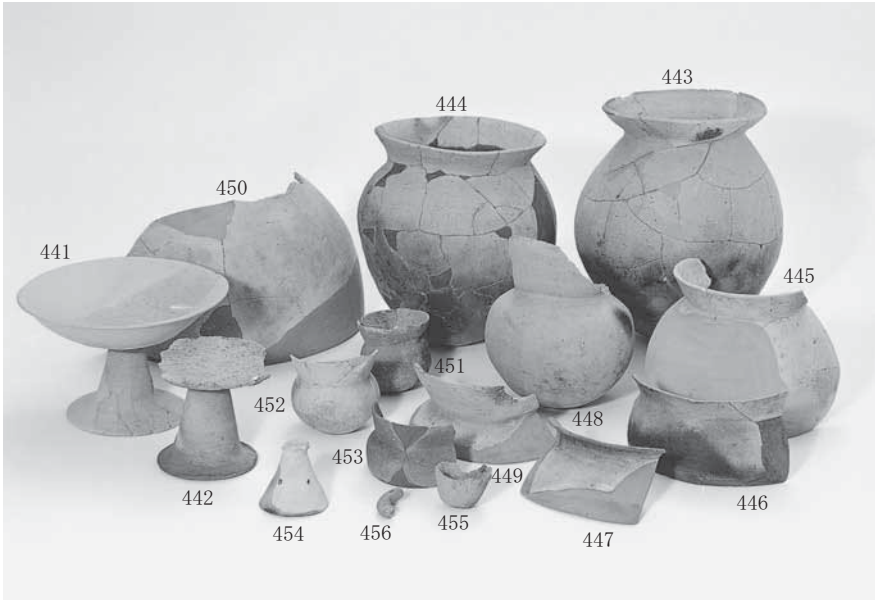


写真－305
２９号住居から出土した
土師器と須恵器

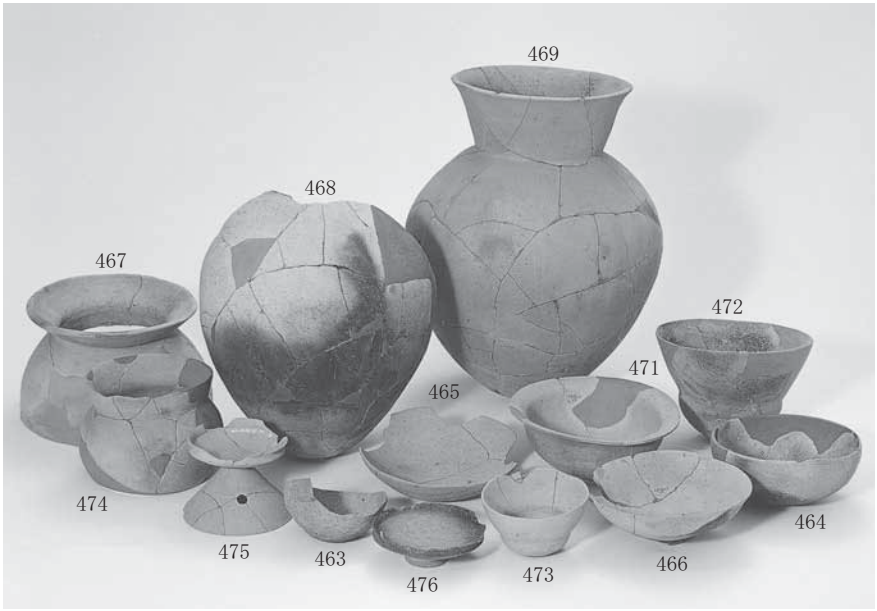
写真－306
３０号住居から出土した
土師器

写真－307
３２号住居から出土した
土師器

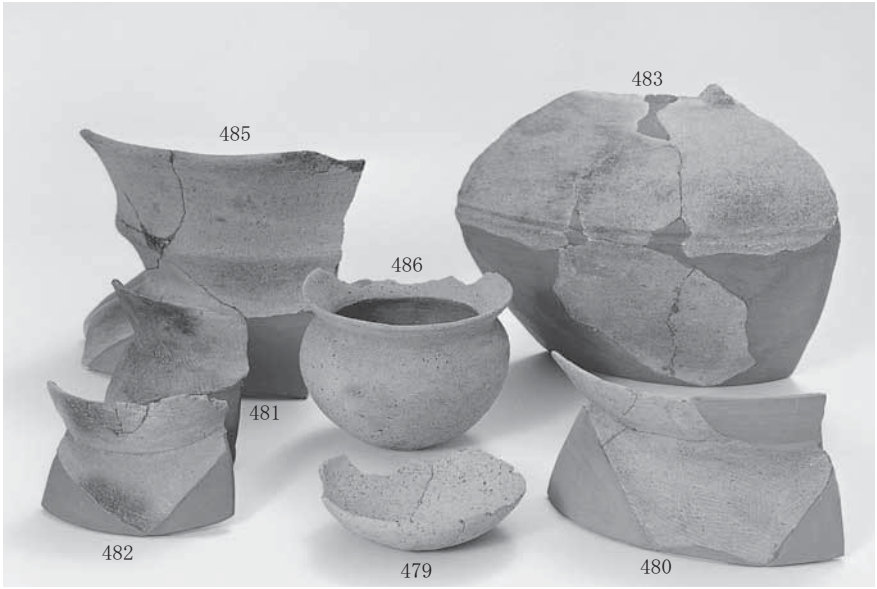
写真－308
３２号住居から出土した
土師器



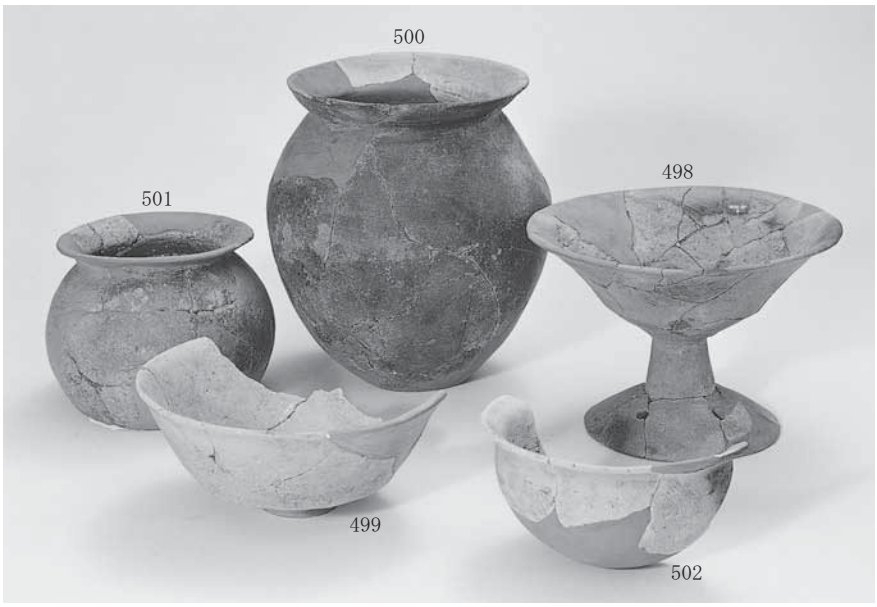
写真－309
３３号住居から出土した
土師器等



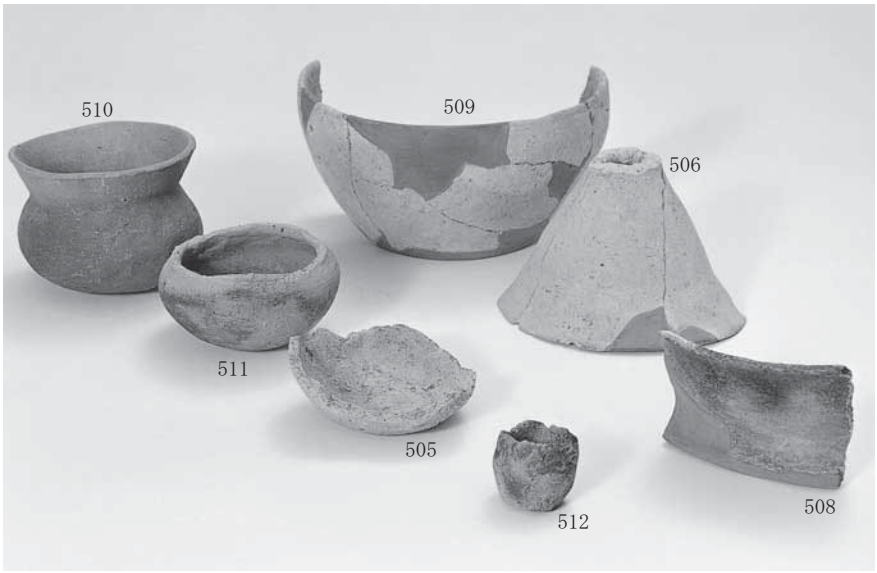
写真－310
３４号住居から出土した
土師器



写真－311
３５号住居から出土した
土師器

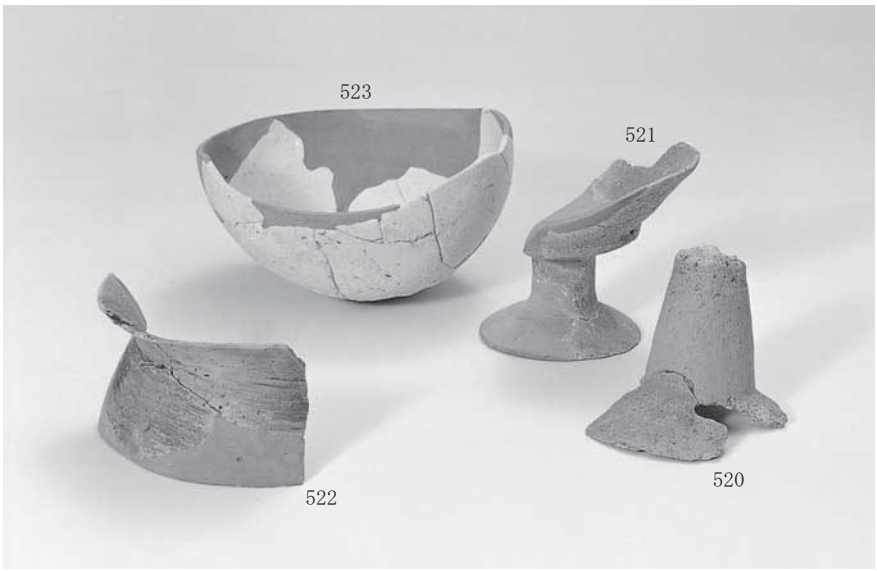


写真－312
３７号住居から出土した
土師器



写真－313
３８号住居から出土した
土師器等

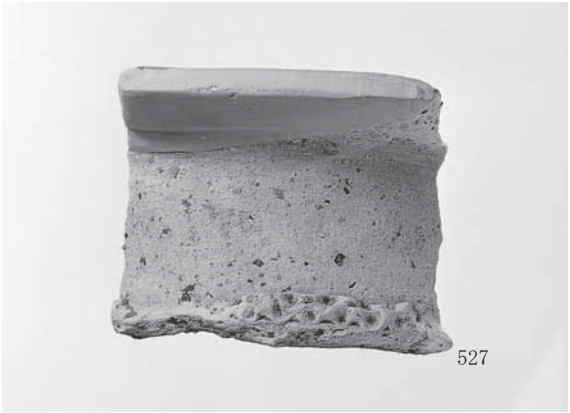
写真－314
３９号住居から出土した
土師器



写真－315
４１号住居から出土した
土師器

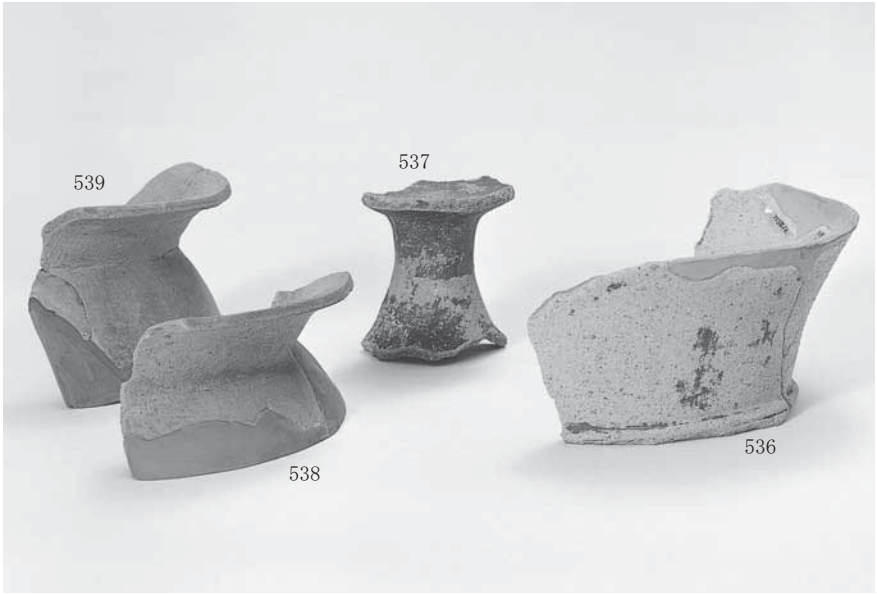
写真－316
４２号住居から出土した底
部に圧痕がみられる土師器

写真－317
４１号住居から出土した複合口縁壺にみられる浮文



写真－318
４１号住居から出土した複合口縁壺にみられる文様

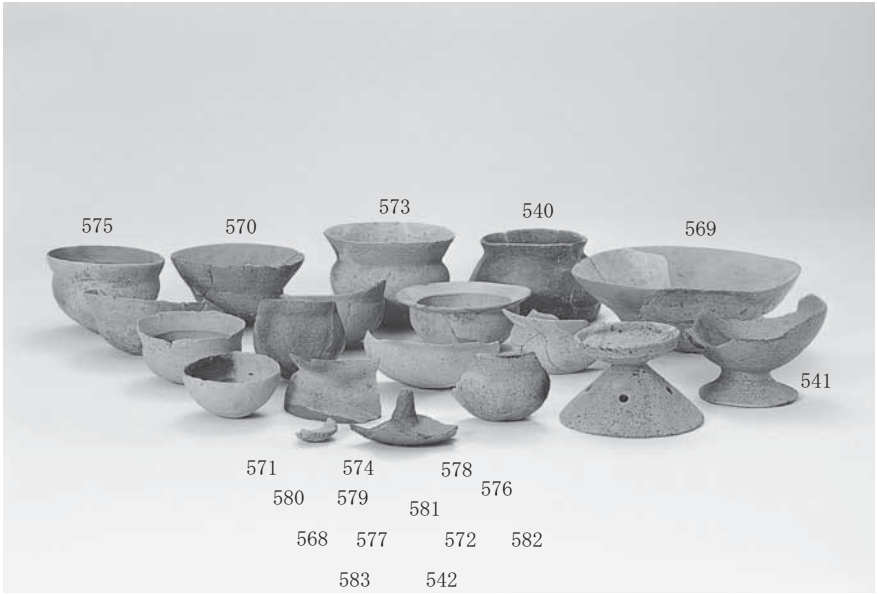
写真－319
４２、４３号住居から出土した土師器と須恵器



写真－320
６５、６６号土坑から出土した弥生土器

写真－321
６７号土坑から出土した土師器

写真－322
６７号土坑から出土した
土師器



写真－323
６７号土坑から出土した
土師器等

写真－324
６８号土坑から出土した
土師器

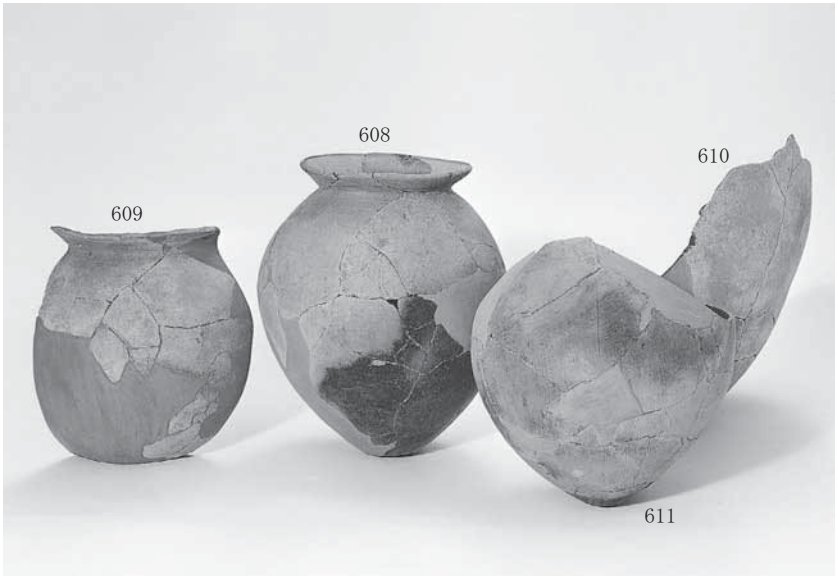
写真－325
６９号土坑から出土した
土師器

写真－326
６７号土坑から出土した複合
口縁壺にみられる櫛描波状文

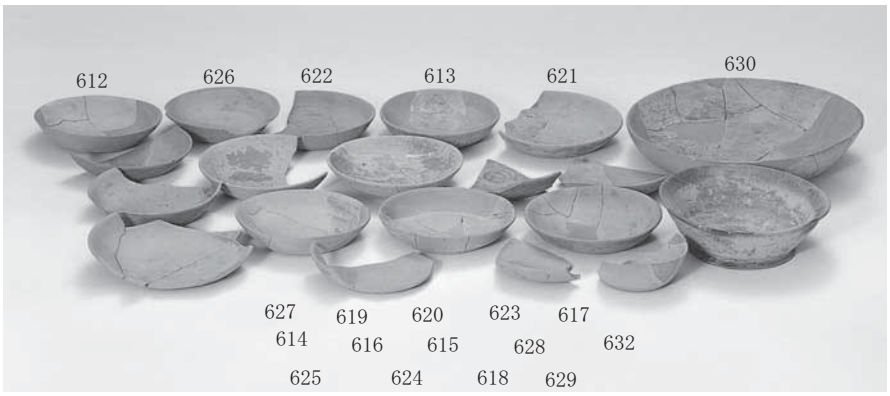
写真－327
６７号土坑から出土した複
合口縁壺にみられる波状文

写真－328
６８号土坑から出土した複合口縁壺にみられる鋸歯状突帯

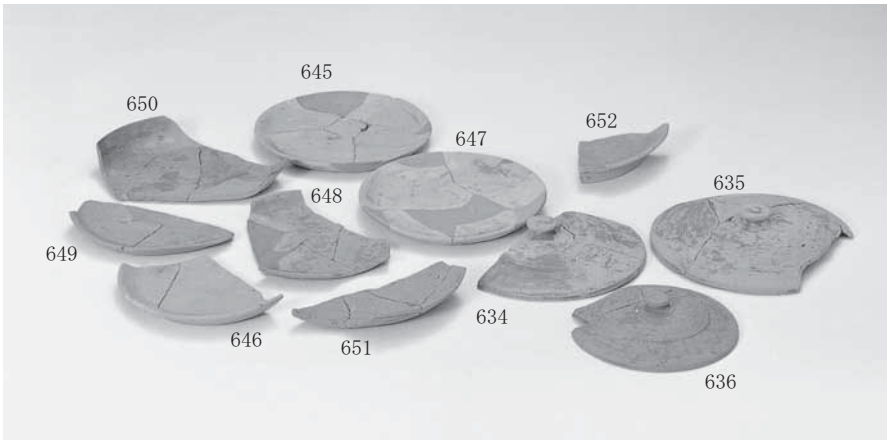
写真－ 329
６８号土坑から出土した器台のミニチュア土器



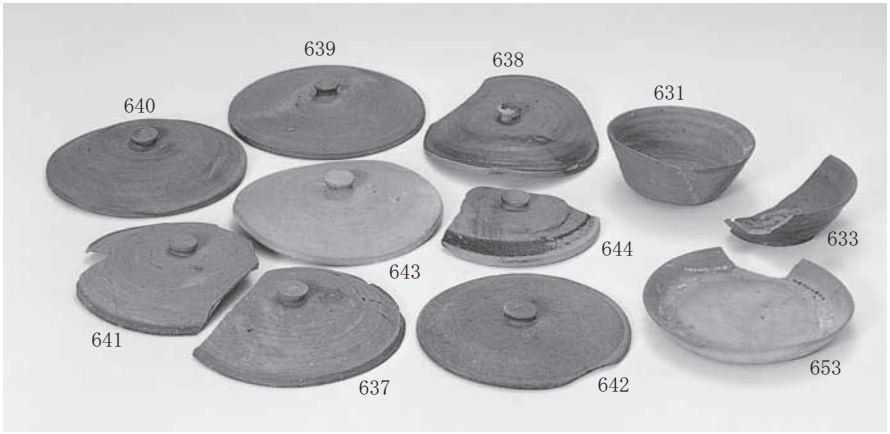
写真－330
５号溝から出土した土師器



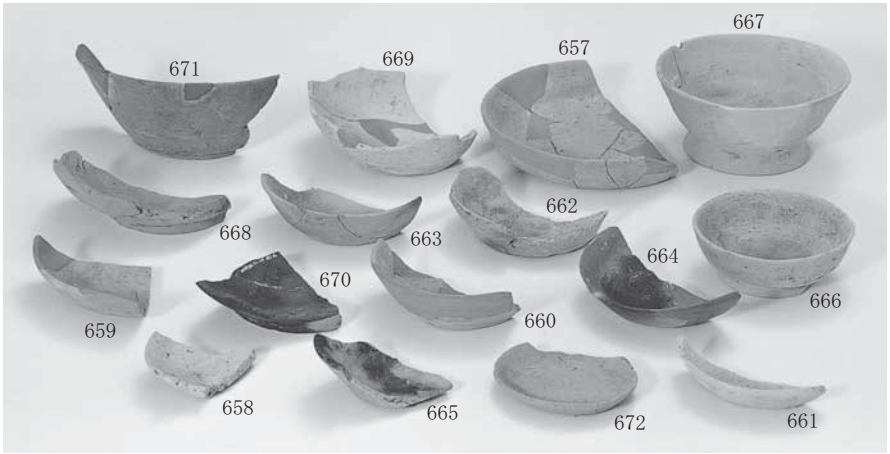
写真－331
４４号住居から出土した
土師器



写真－332
４４号住居から出土した
土師器

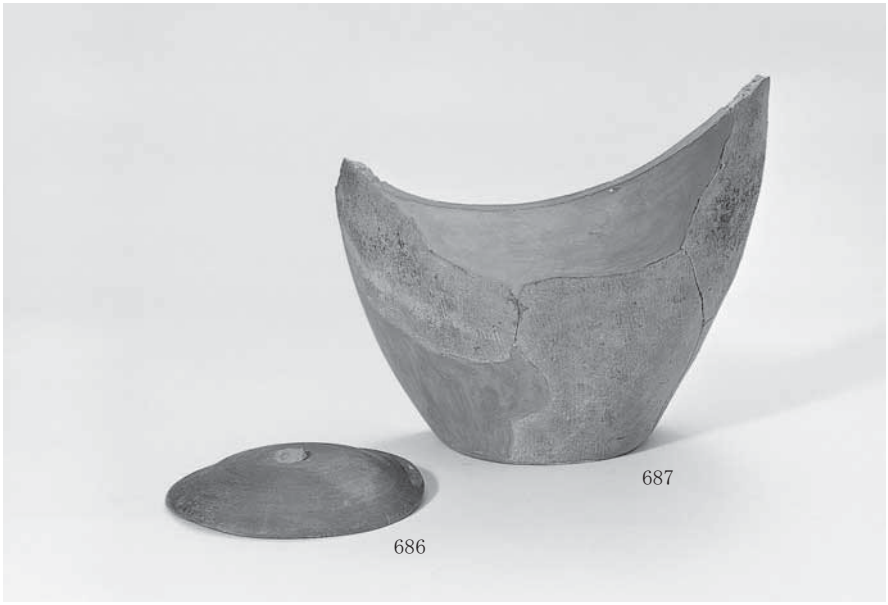


写真－333
４４号住居から出土した
須恵器

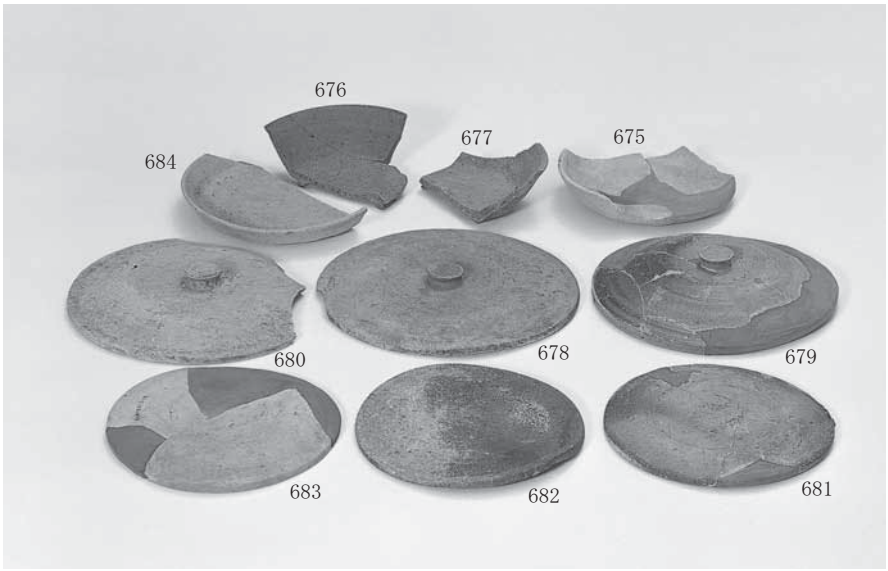


写真－334
４６号住居から出土した
土師器と須恵器

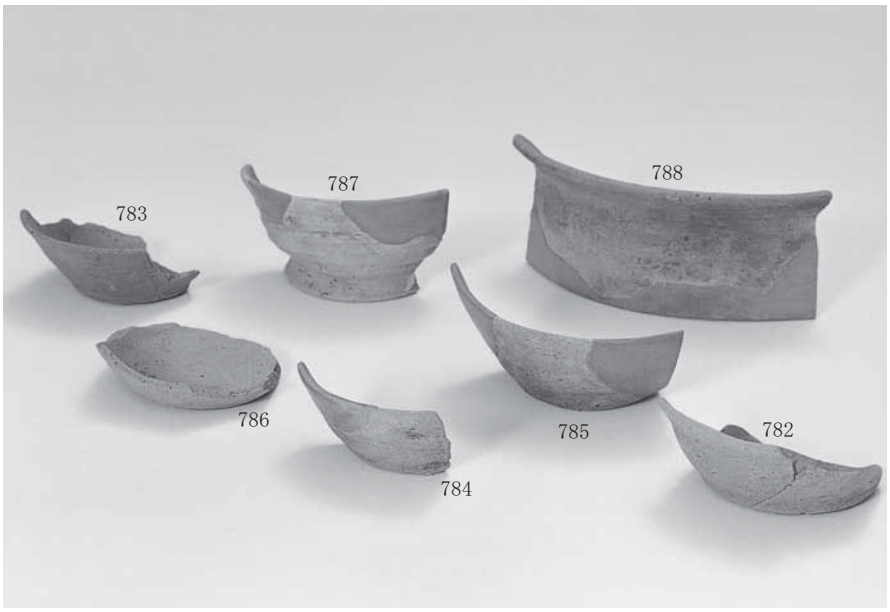
写真－335
５０号住居から出土した
土師器と須恵器



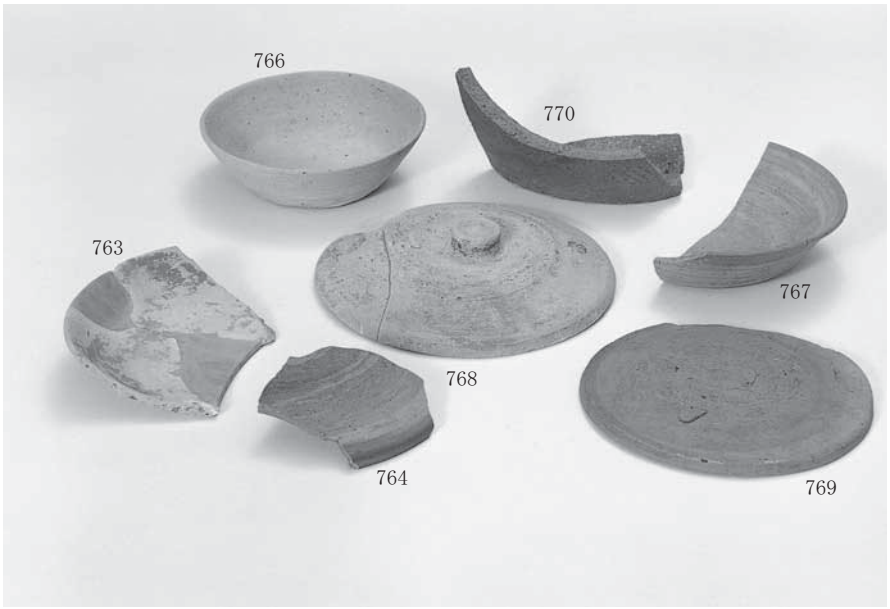
写真－336
４８号住居から出土した
土師器と須恵器



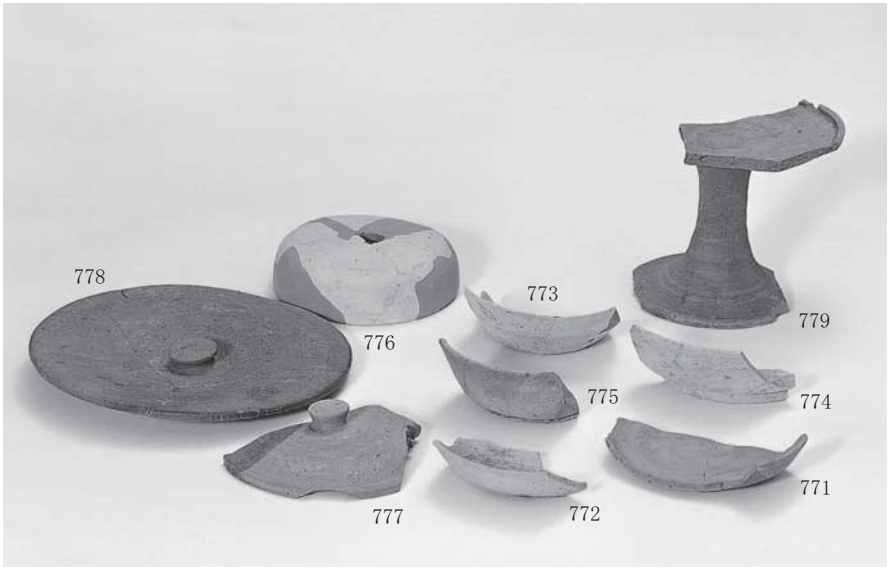
写真－337
４７号住居から出土した
土師器と須恵器



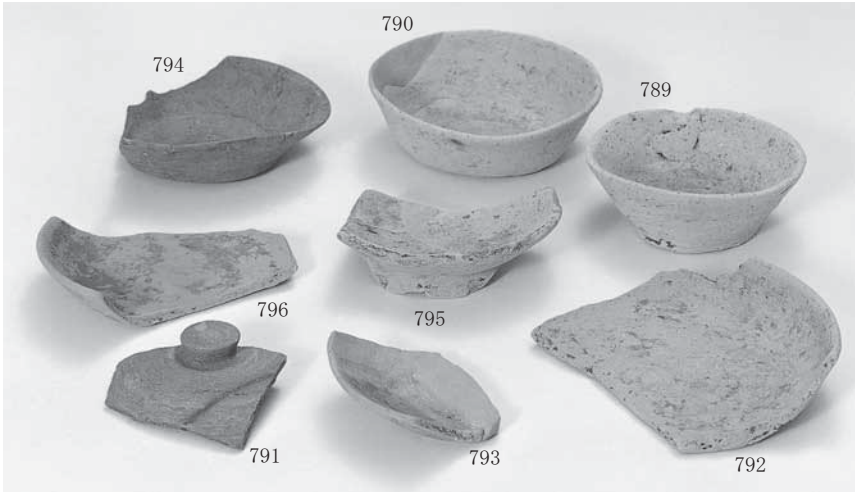
写真－338
７７号土坑から出土した
土師器と須恵器



写真－ 339
７３、７４号土坑から出
土した土師器と須恵器

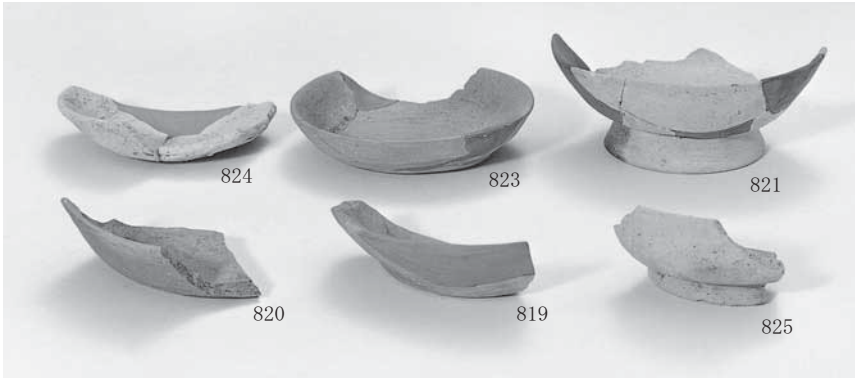


写真－340
７５号土坑から出土した
土師器と須恵器

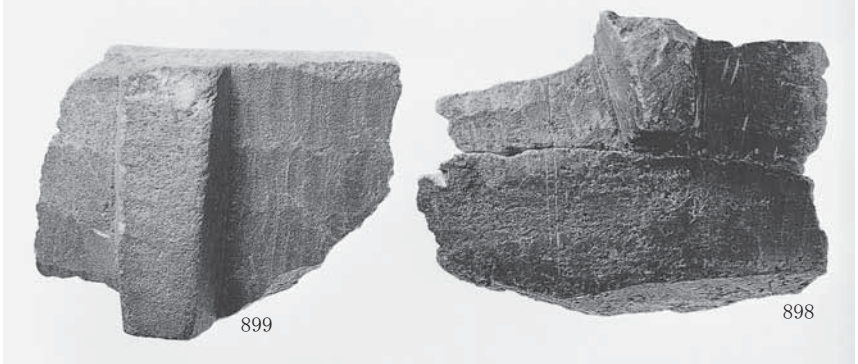


写真－341
７８、７９、８０、８２、８３号土坑から出土した土師器と須恵器

写真－342
６号溝から出土した土師器と須恵器

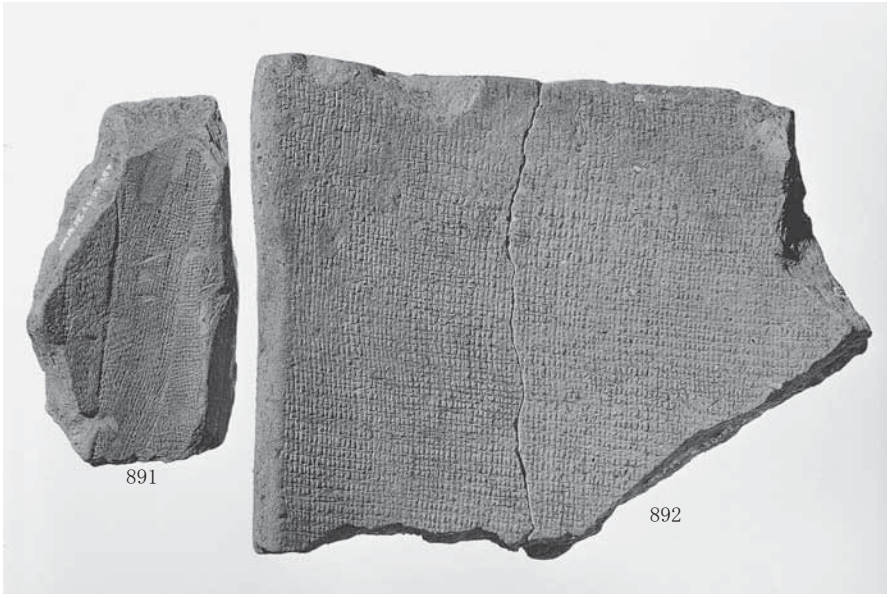


写真－343
７、８号溝から出土した土師器と須恵器

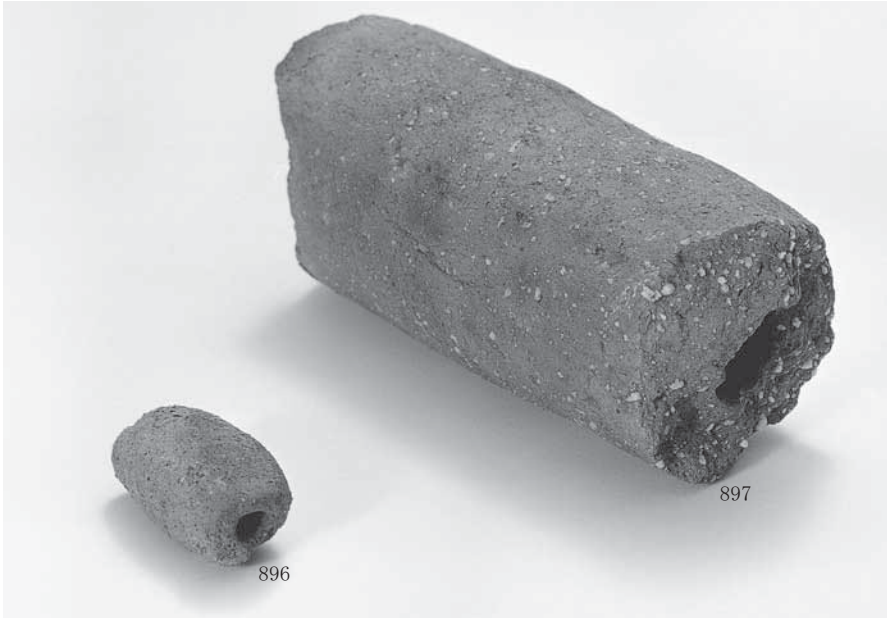


写真－344
１１号溝から出土した石鍋

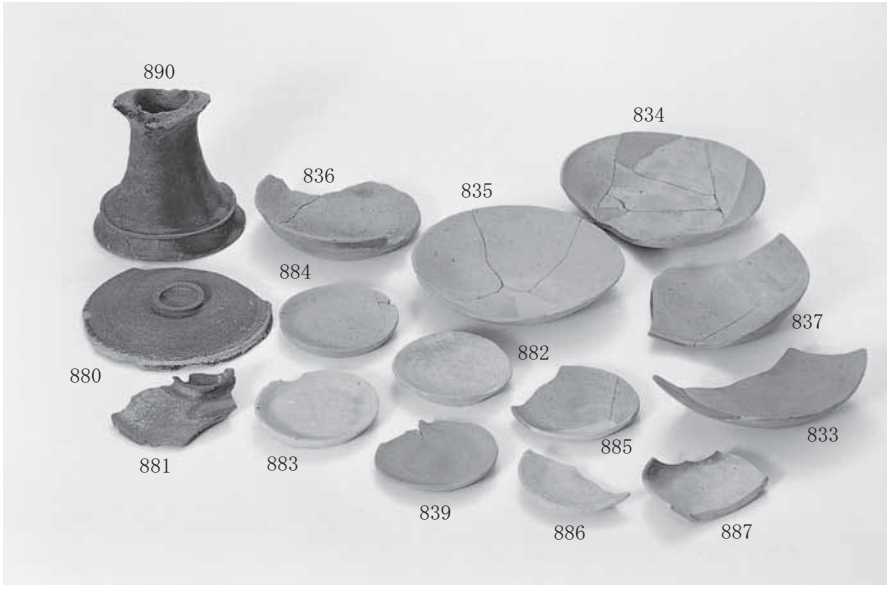
写真－345
１１号溝から出土した
瓦の凸面



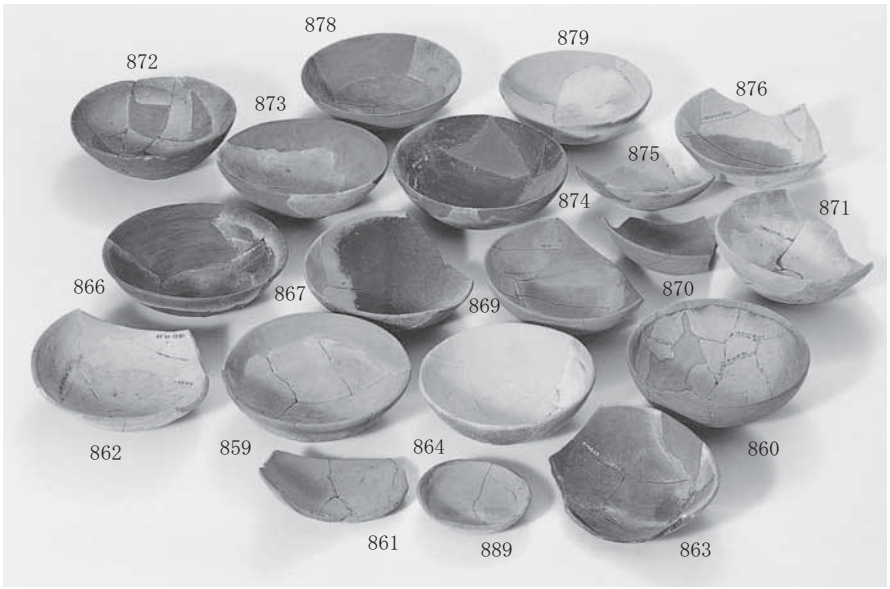
写真－346
１１号溝から出土した
瓦の凹面



写真－347
１１号溝から出土した
土錘と羽口



写真－348
１１号溝から出土した
土師器と須恵器



写真－349
１１号溝から出土した
瓦器

写真－350
三池往還側溝部から出土
した戦争関連遺物
（附論参照）

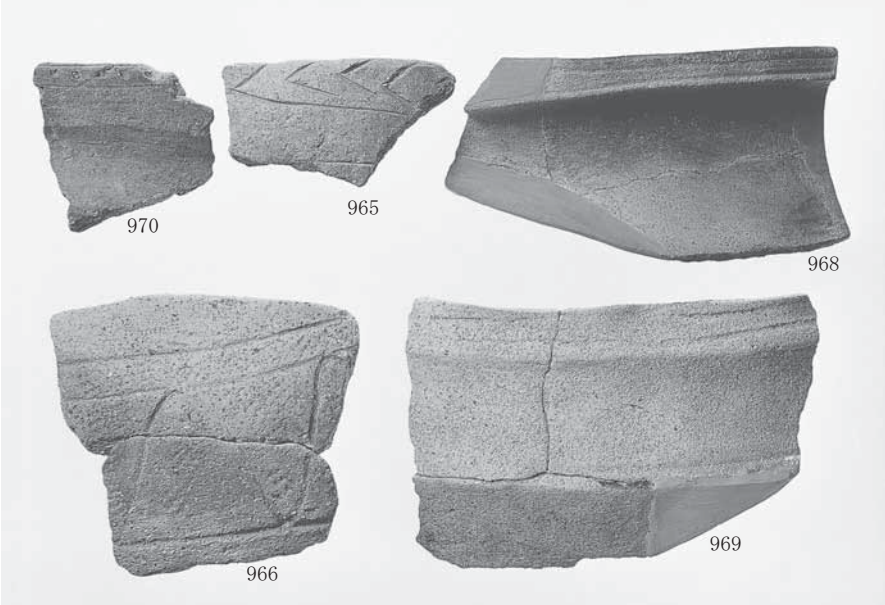
写真－351
８７号土坑から出土した
瓦器と白磁

写真－352
１１号溝から出土した
白磁

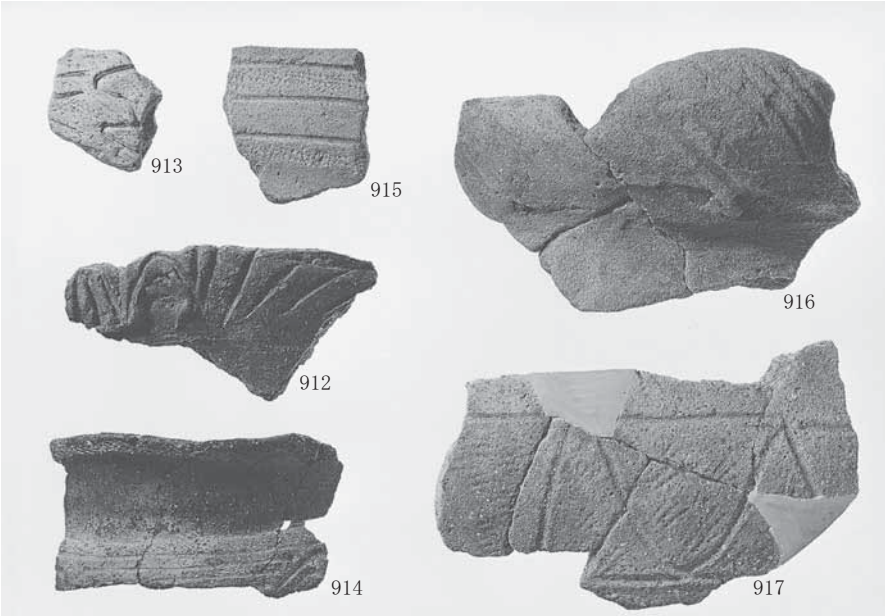
写真－353
１１号溝から出土した青
磁と白磁

写真－354　平坦地区第３包含層（３層）から出土した縄文土器

写真－355　平坦地区第３包含層（３層）から出土した縄文土器

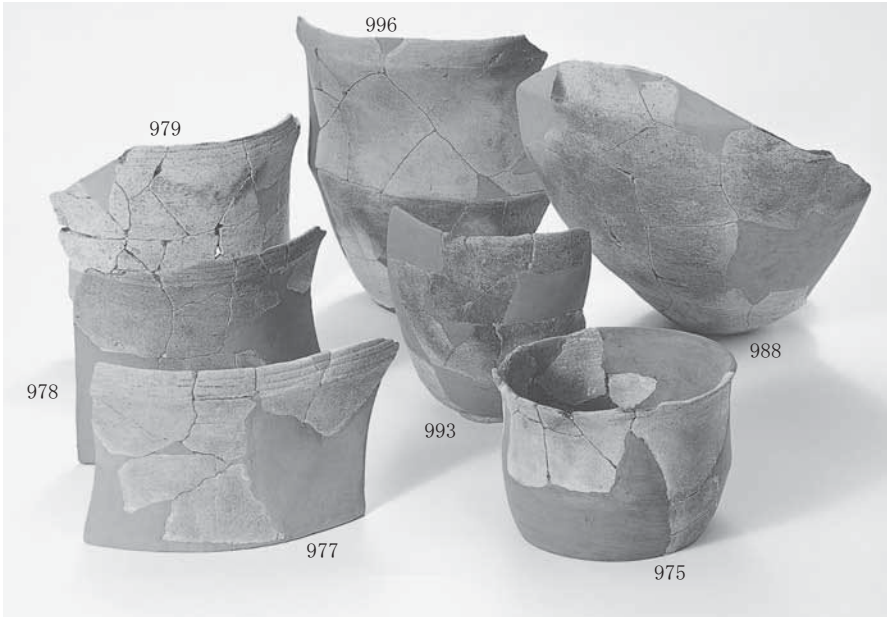


写真－356
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した縄文土器



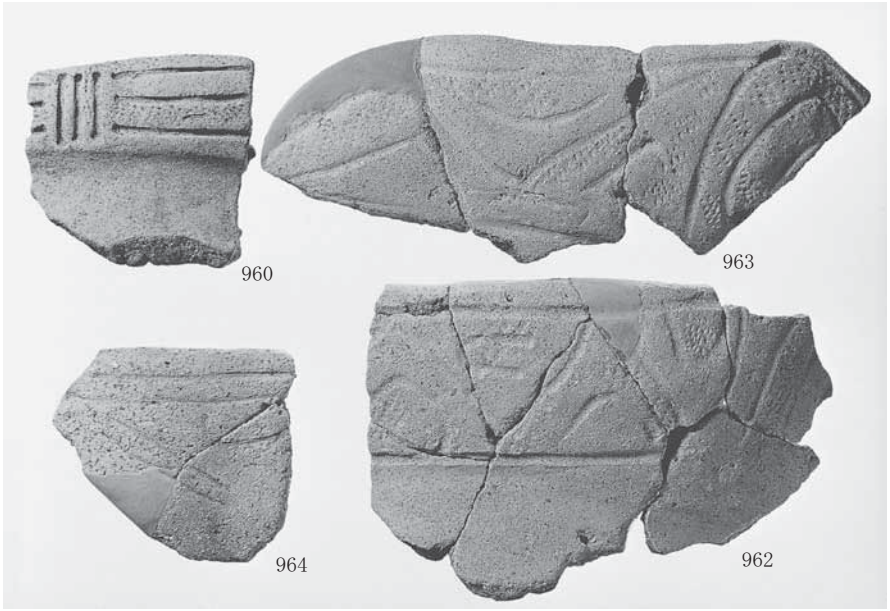
写真－357
平坦地区第３包含層（３層）から出土した縄文土器

写真－358
平坦地区第３包含層（３層）から出土した縄文土器

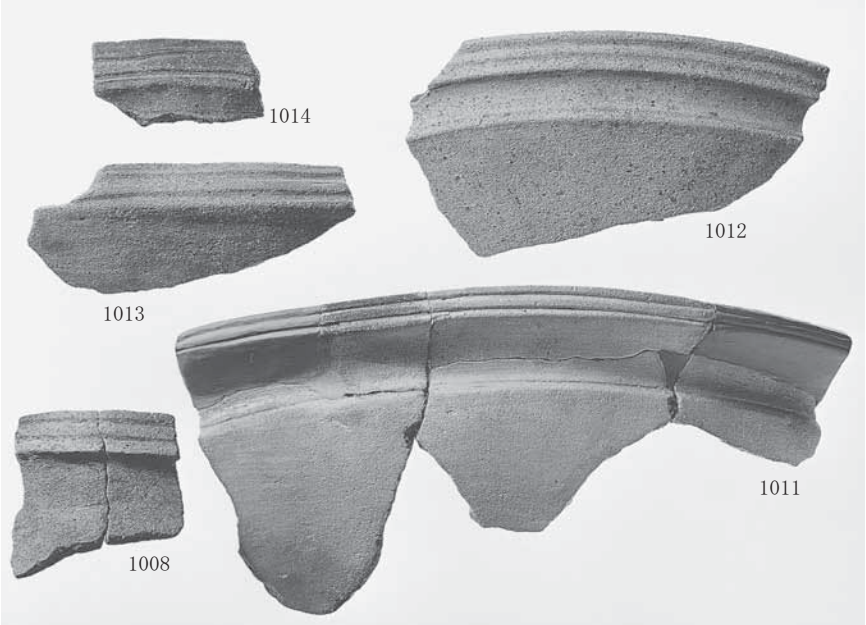


写真－359
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した縄文土器

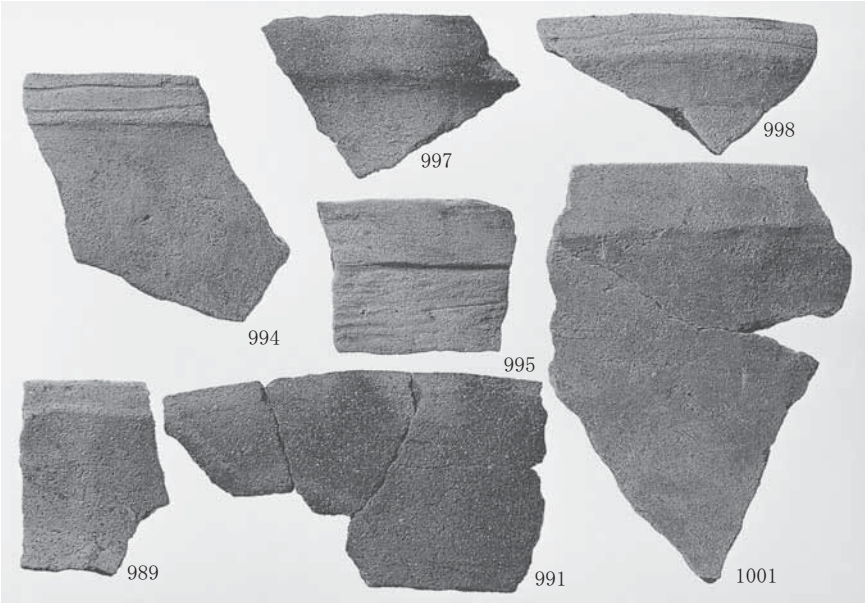
写真－360
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した縄文土器



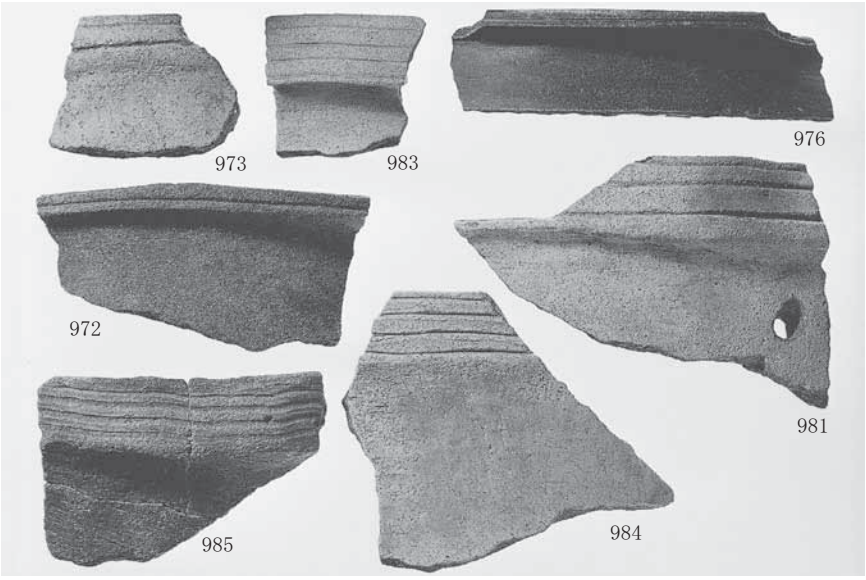
写真－361
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した縄文土器



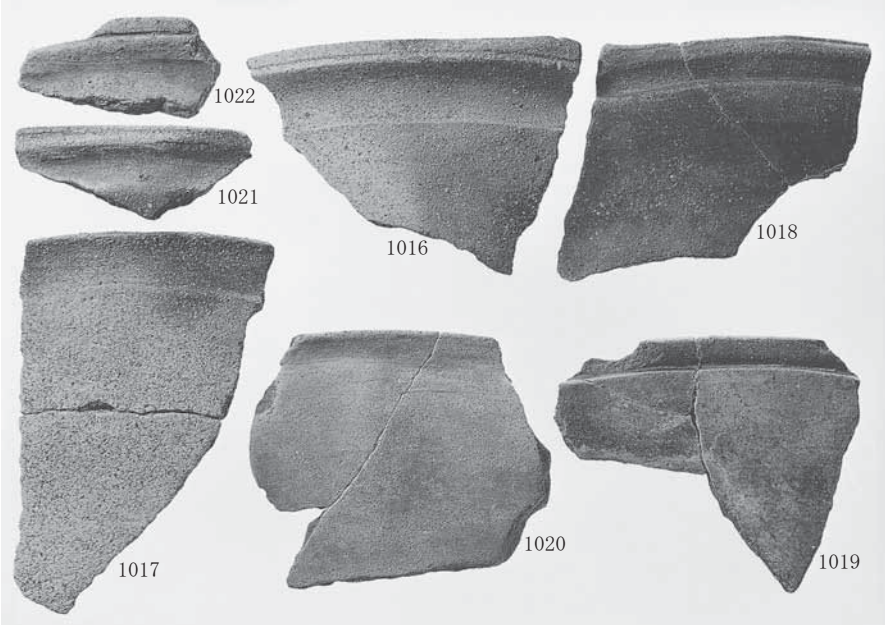
写真－362
平坦地区第２包含層（２b層)から出土した縄文土器



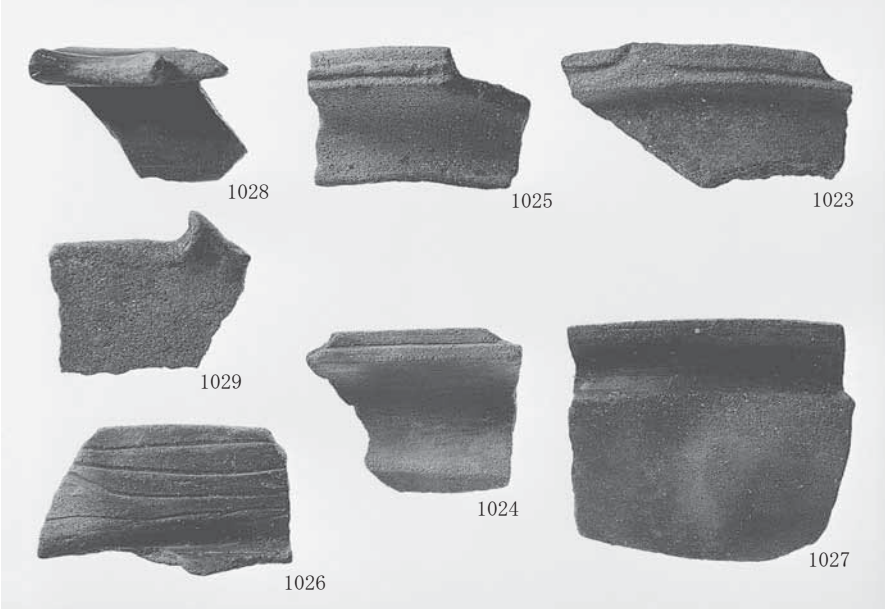
写真－363
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した縄文土器



写真－364
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した縄文土器



写真－365
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した縄文土器



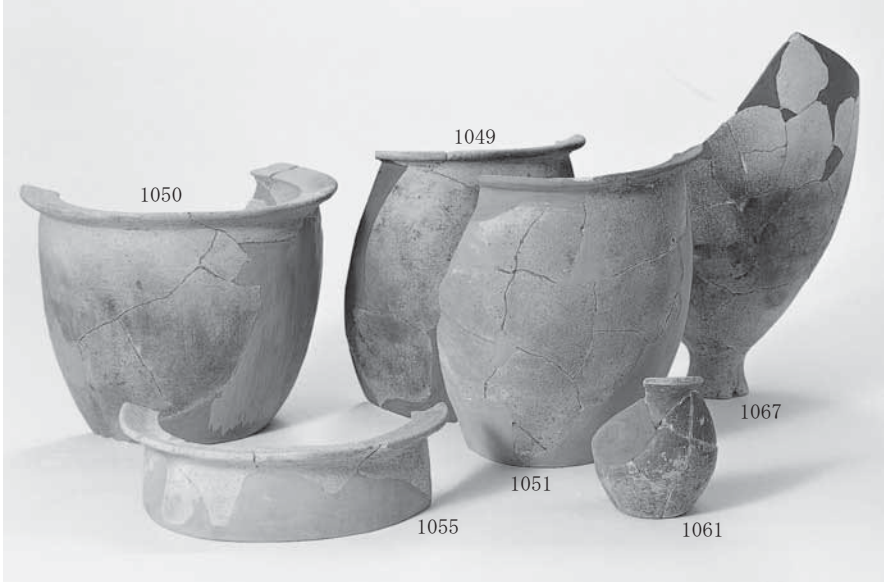
写真－366
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した縄文土器

写真－367
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した縄文土器

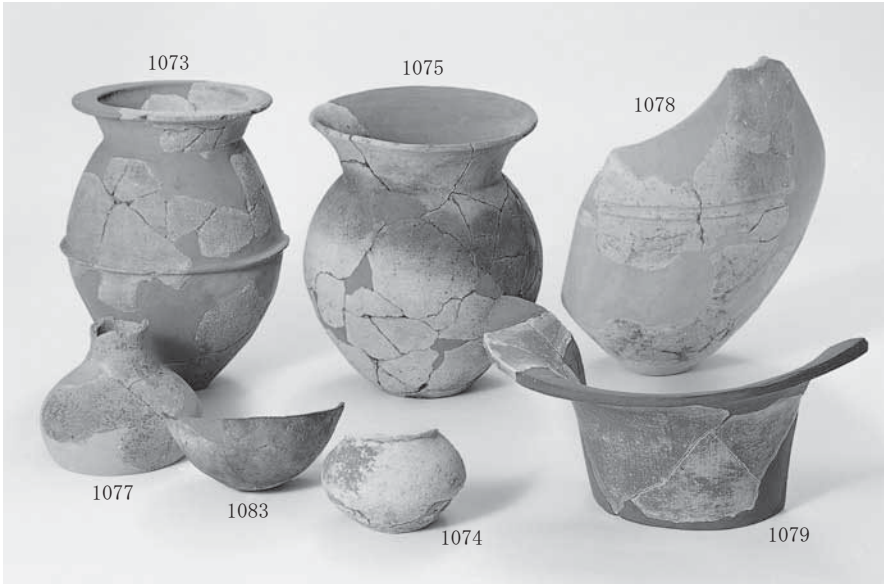
写真－368　平坦地区第３包含層（３層）から出土した弥生土器

写真－369
平坦地区第３包含層（３層）から出土した弥生土器

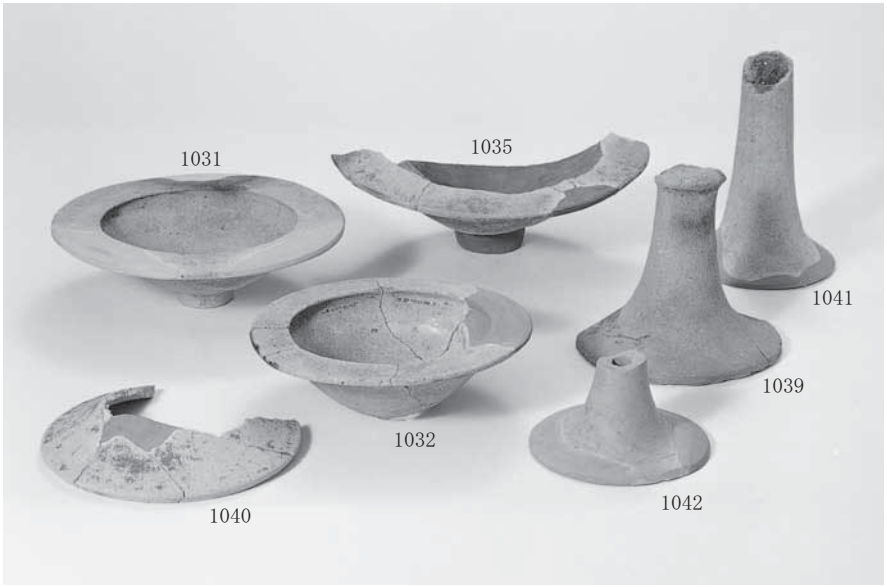
写真－370
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した弥生土器



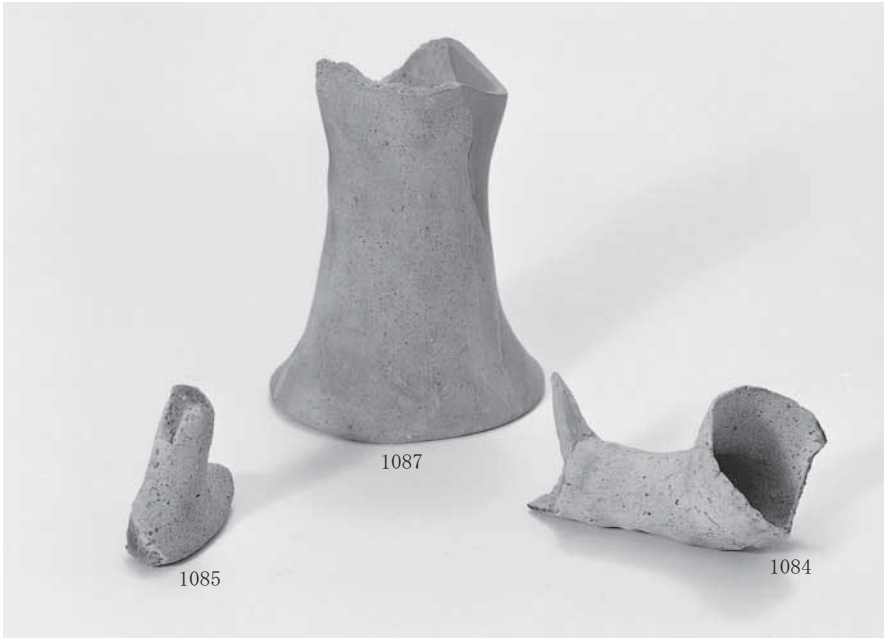
写真－371
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した弥生土器



写真－372
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した弥生土器



写真－373
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した弥生土器

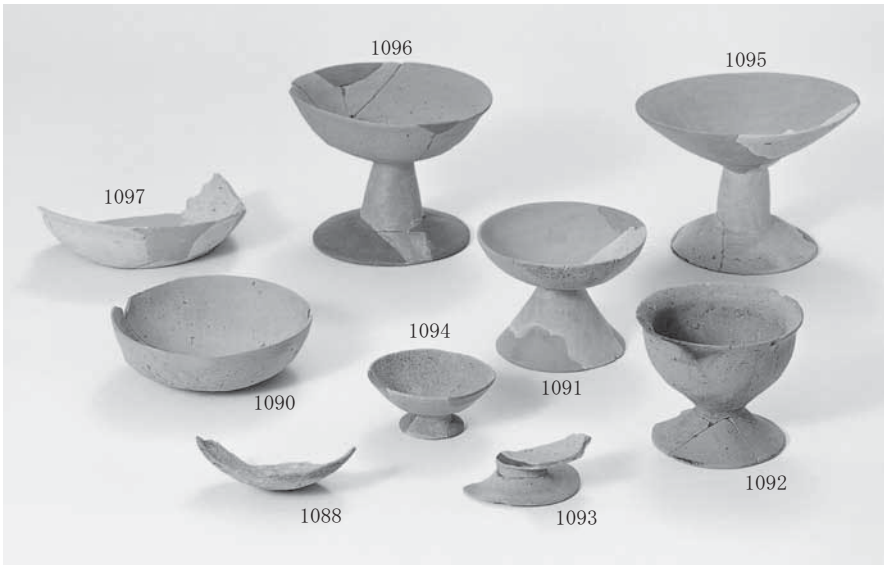


写真－374
平坦地区第２包含層（2b層）から出土した弥生土器等

写真－375
平坦地区第２包含層（2b層）から出土した弥生土器にみられる浮文

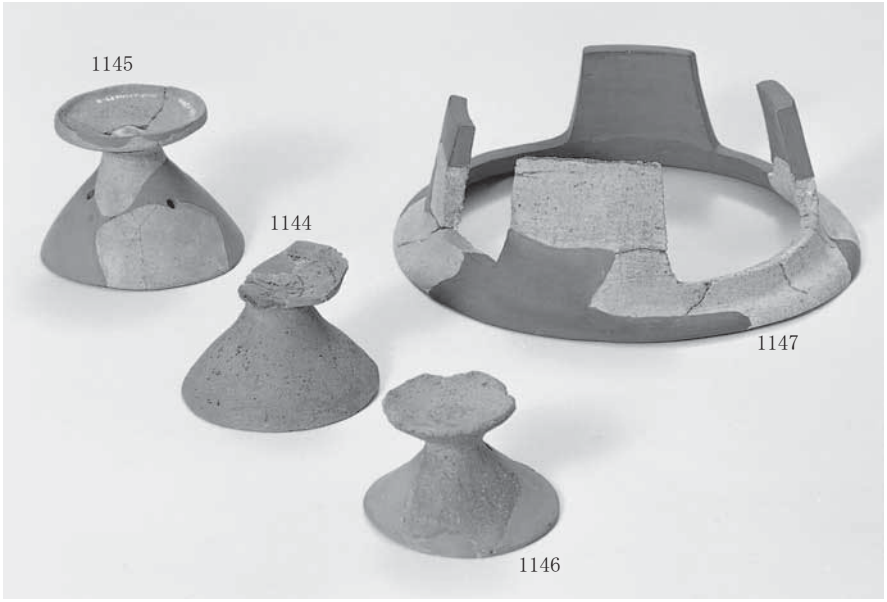
写真－376
平坦地区第２包含層（2b層）から出土した土師器

写真－377
平坦地区第２包含層（2b層）から出土した土師器

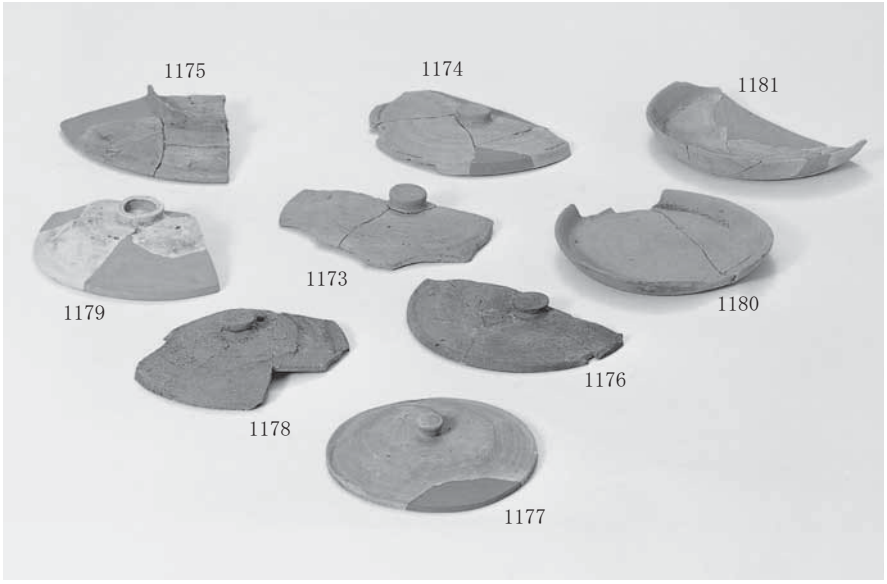


写真－378
平坦地区第２包含層（2b層）から出土した土師器

写真－379
平坦地区第２包含層（2b層）から出土した土師器

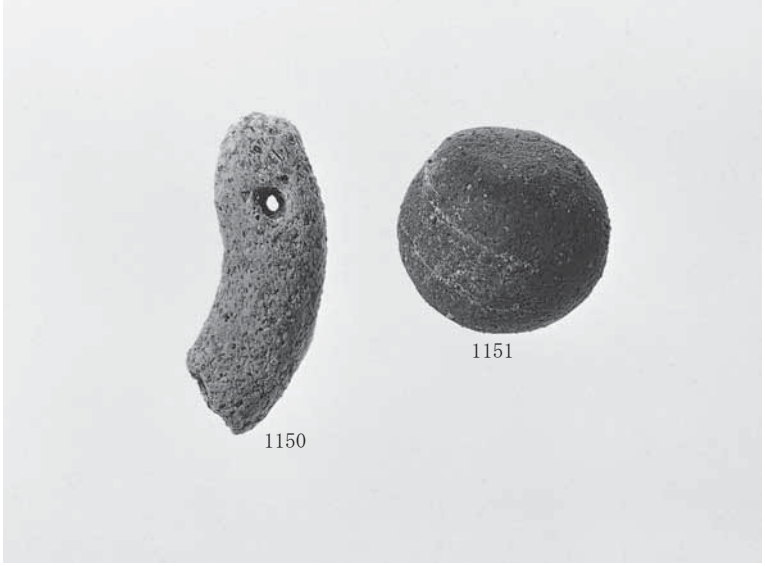


写真－380
平坦地区第２包含層（2b層）から出土した土師器

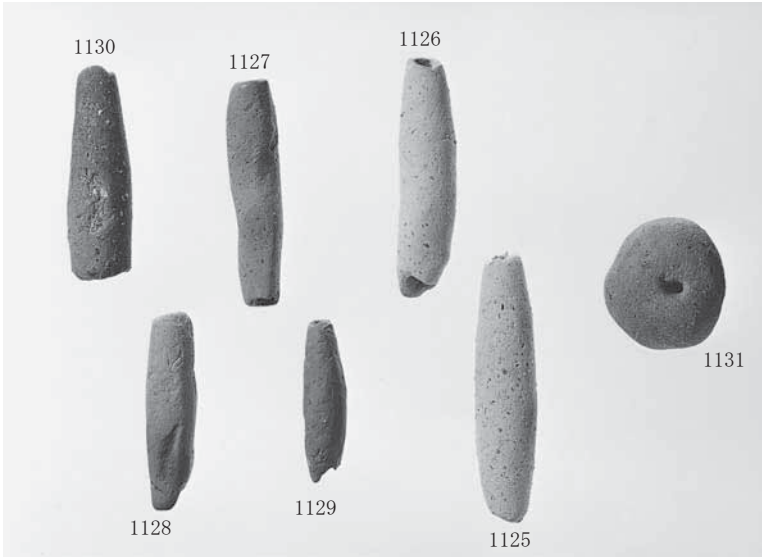


写真－381
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した土師器と須恵器

写真－382
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した土師器と須恵器



写真－383
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した土製勾玉と土玉



写真－384
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した土錘

写真－385
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した底部に線刻がみられる土師器

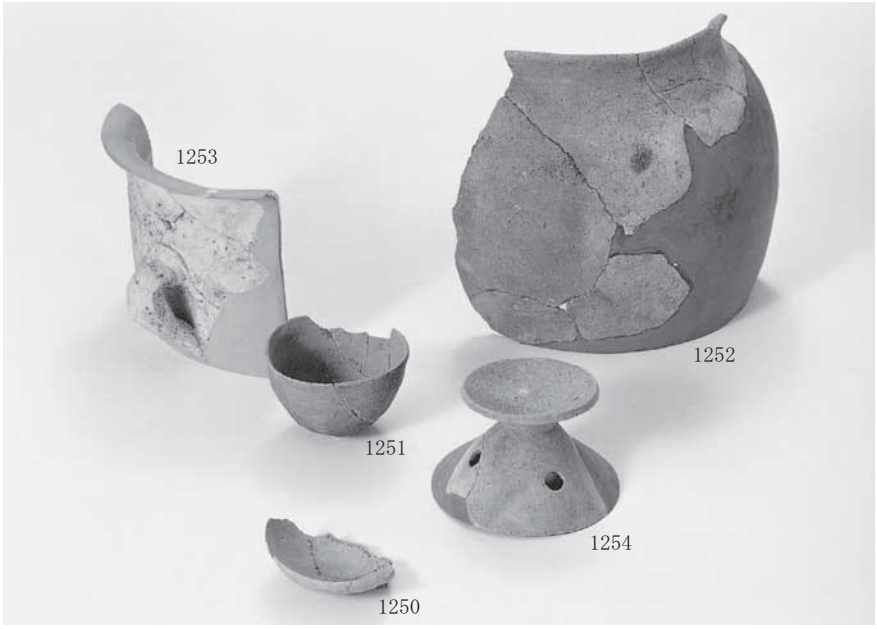
写真－386
平坦地区第２包含層（２b層）から出土した円面硯

写真－387
平坦地区第１包含層（２a層）から出土した土製品

写真－388
平坦地区第１包含層（２a層）から出土した土製品

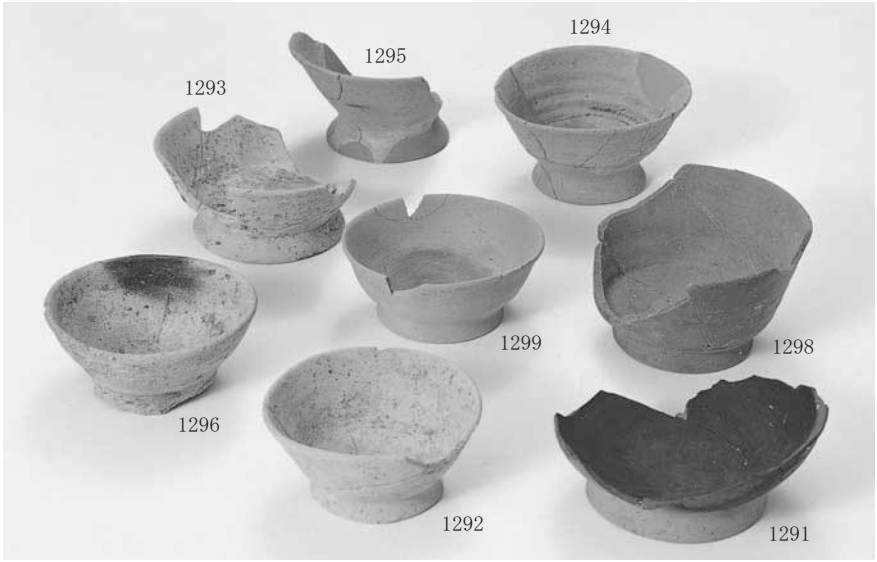
写真－389　平坦地区第１包含層（２a層）から出土した弥生土器

写真－390　平坦地区第１包含層（２a層）から出土した弥生土器

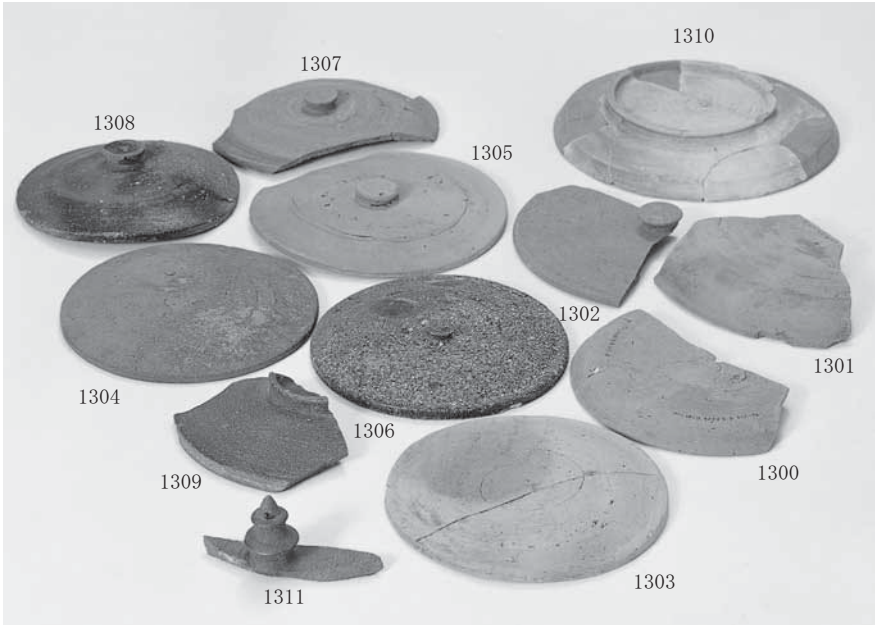


写真－391
平坦地区第1包含層（2a層）から出土した土師器

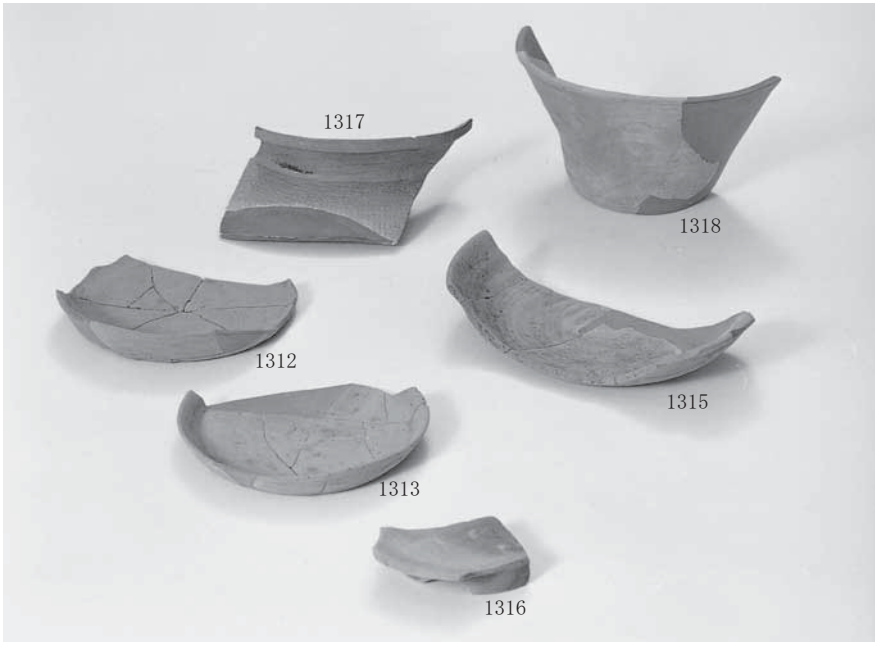
写真－392
平坦地区第１包含層（2a層）から出土した土師器と須恵器



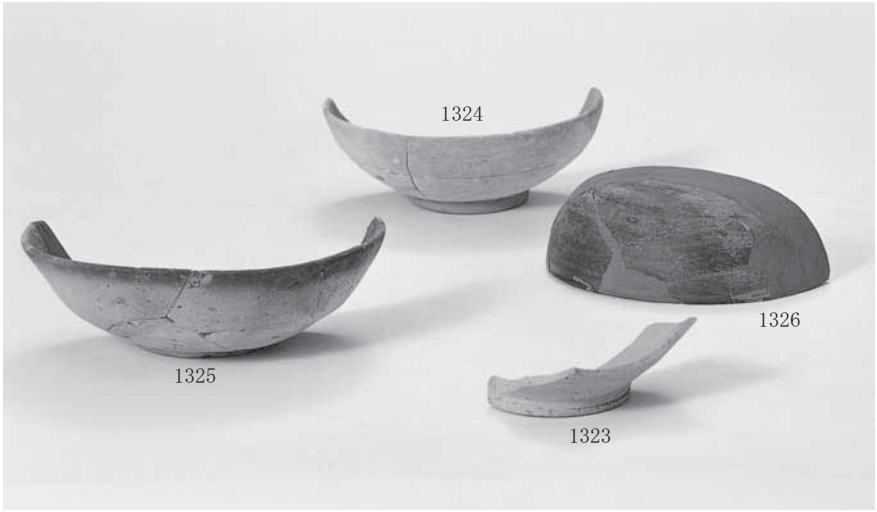
写真－393
平坦地区第１包含層（2a層）から出土した土師器と須恵器、黒色土器



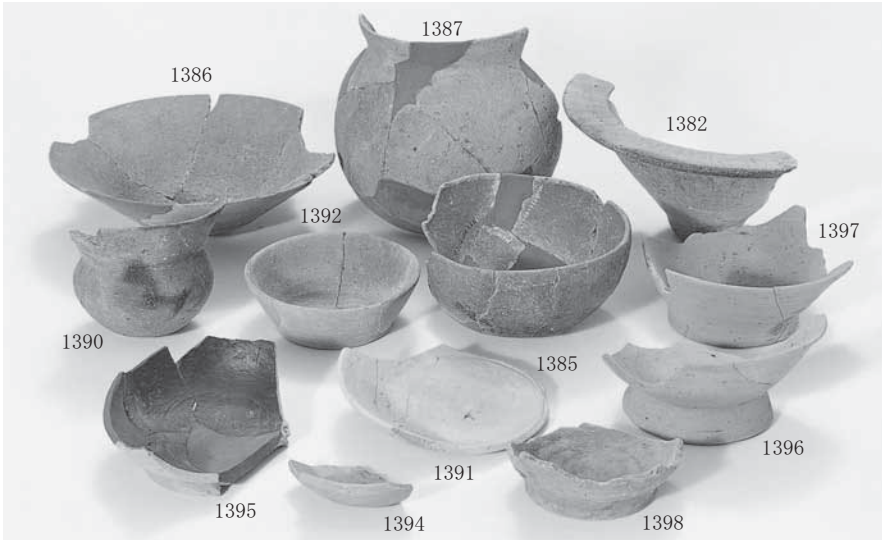
写真－394
平坦地区第１包含層（2a層）から出土した土師器と須恵器



写真－395
平坦地区第１包含層（2a層）から出土した土師器と須恵器



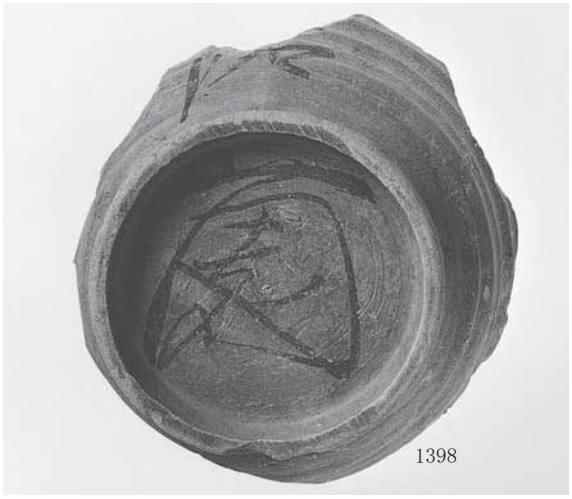
写真－396
平坦地区第１包含層（2a層）から出土した瓦器と白磁



写真－ 397
湿地区第２包含層（３層）から出土した弥生土器と土師器、須恵器、黒色土器

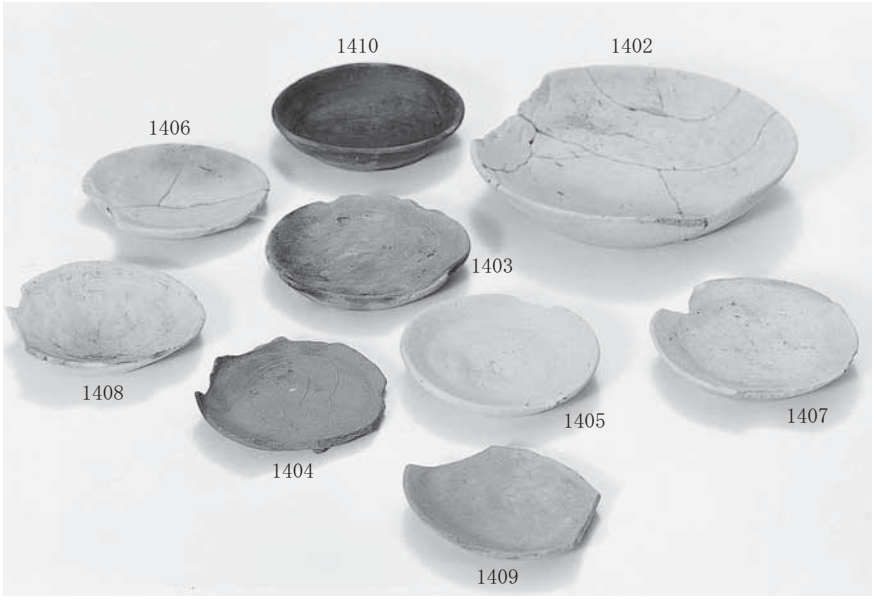
写真－398　湿地区第３包含層（４層）から出土した弥生土器と土師器

写真－399　湿地区第２包含層（３層）から出土した須恵器

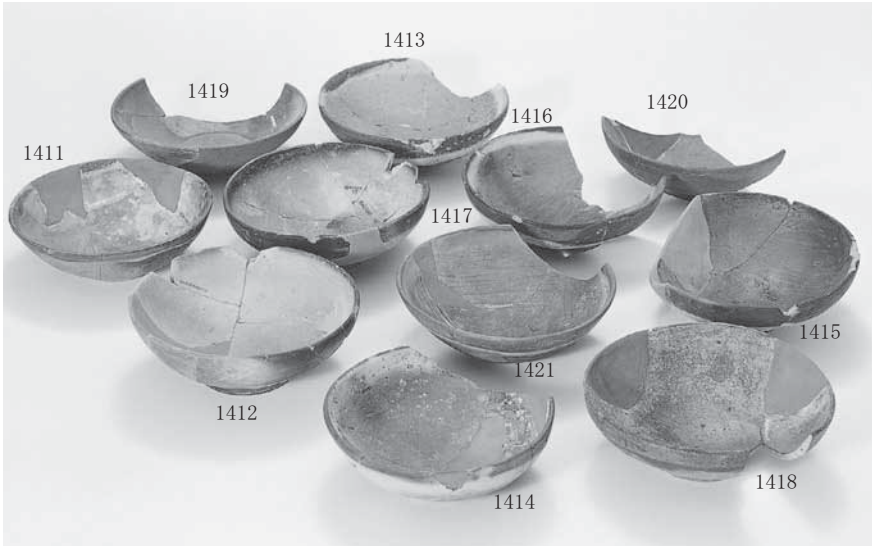


写真－400　湿地区第２包含層（３層）から出土した須恵器の底部（墨書）

写真－401　湿地区第２包含層（３層）から出土した須恵器の底部（墨書）

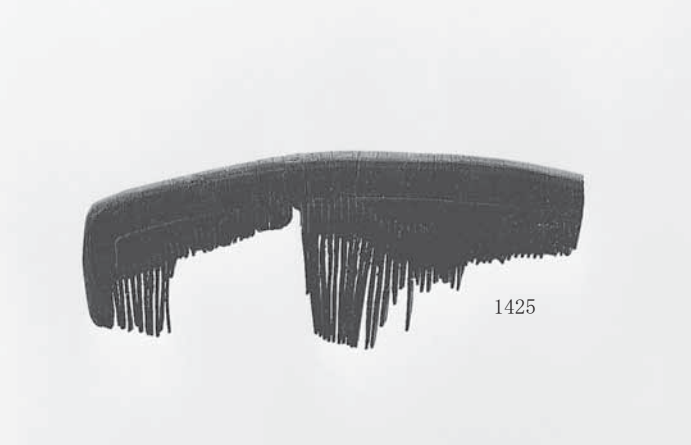


写真－402
湿地区第２包含層（３層）
から出土した土師器と瓦器



写真－403
湿地区第２包含層（３層）
から出土した瓦器

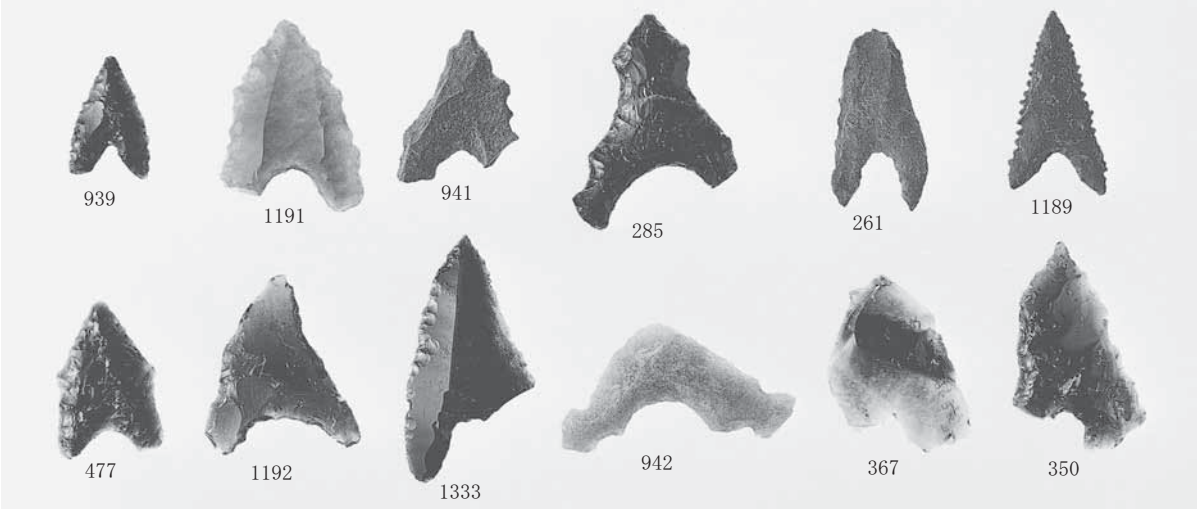
写真－404
湿地区第１包含層（２層）
から出土した弥生土器と土
師器



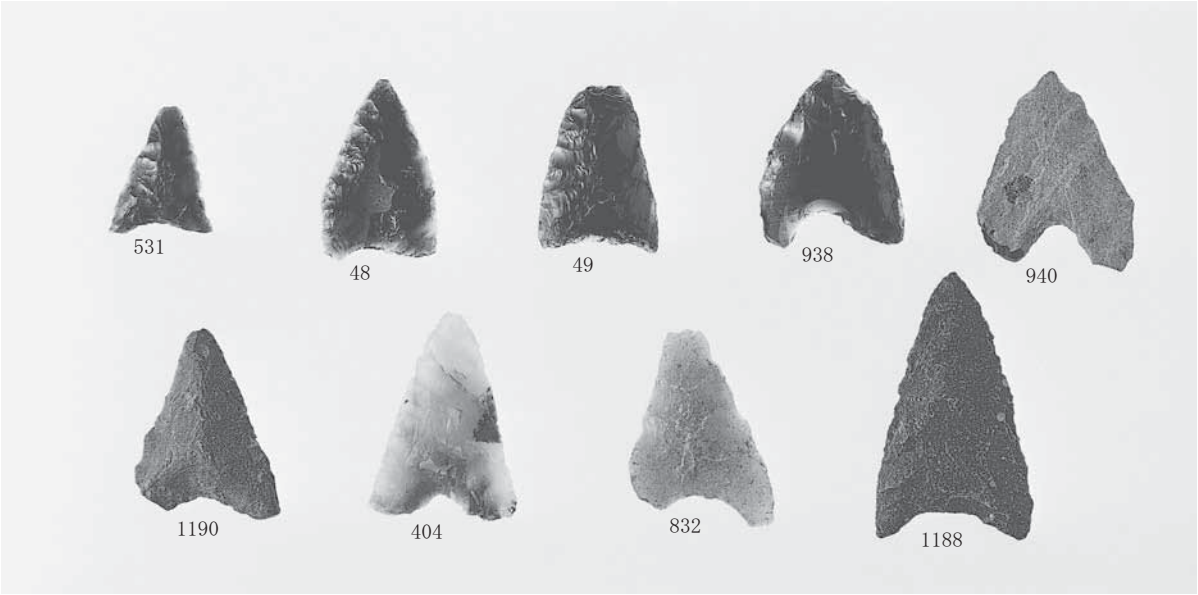
写真－405
湿地区第２包含層（３層）
から出土した櫛

写真－406
湿地区第２包含層（３層）
から出土した木製品

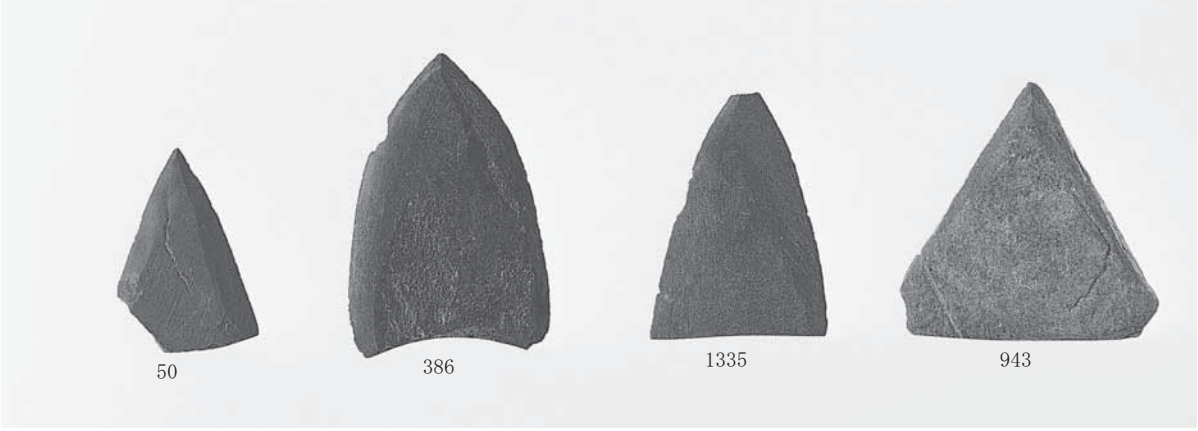
写真－407
湿地区第２包含層（３層）
から出土した木製品



写真－408　打製石鏃

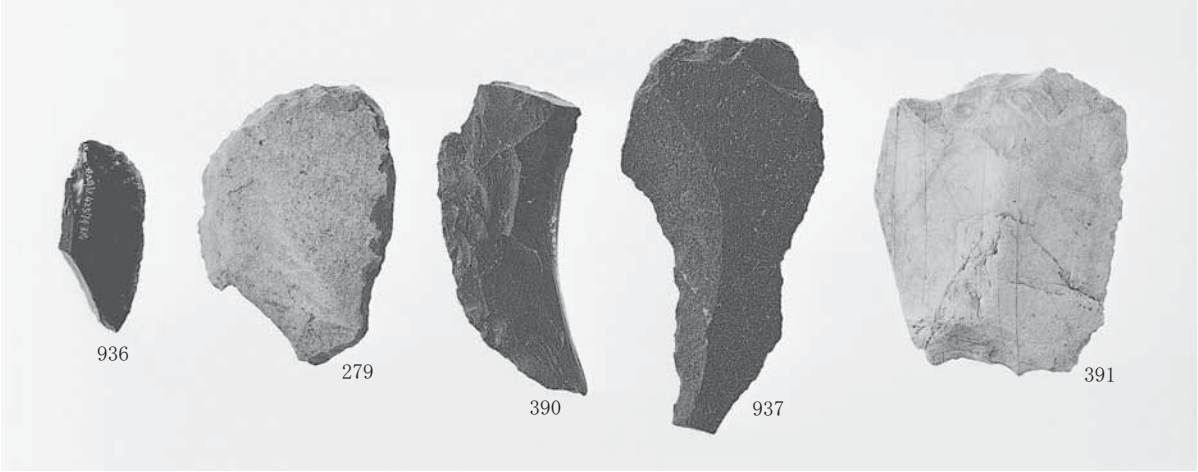


写真－409　打製石鏃

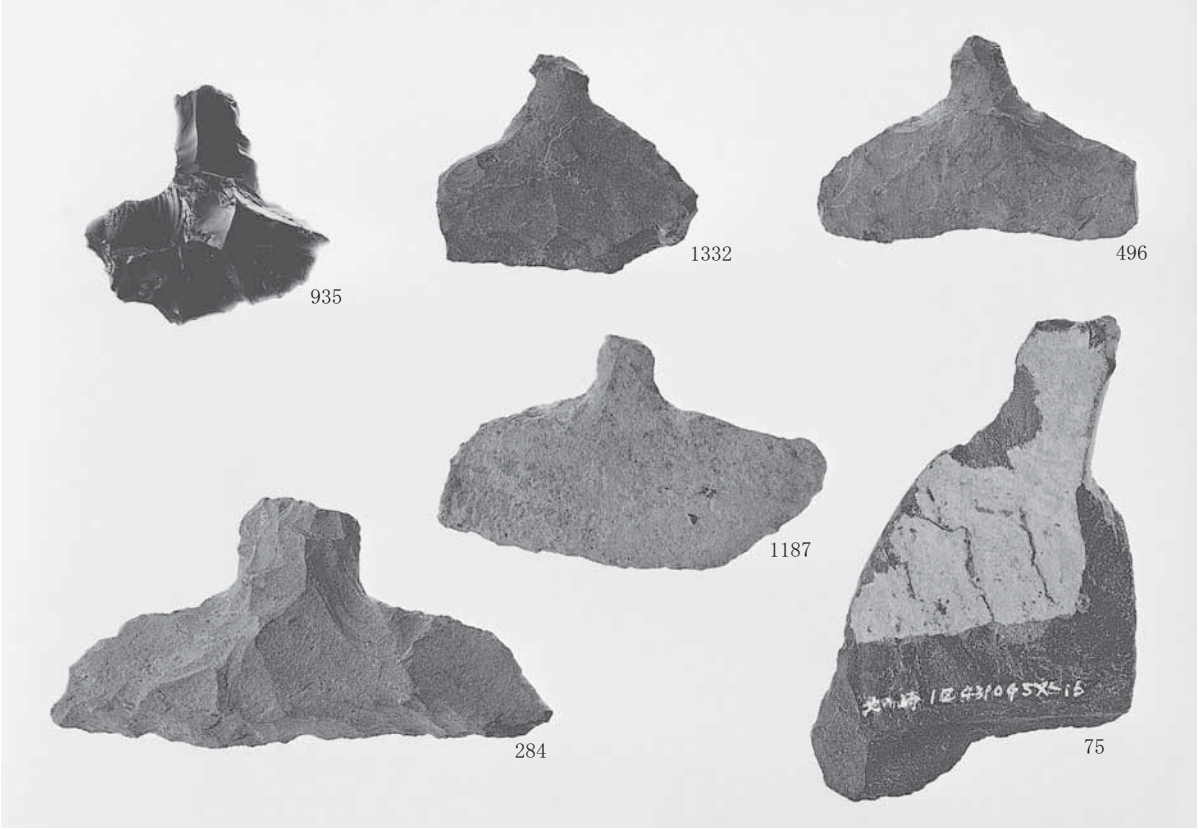


写真－410　磨製石鏃

写真－411　削器等

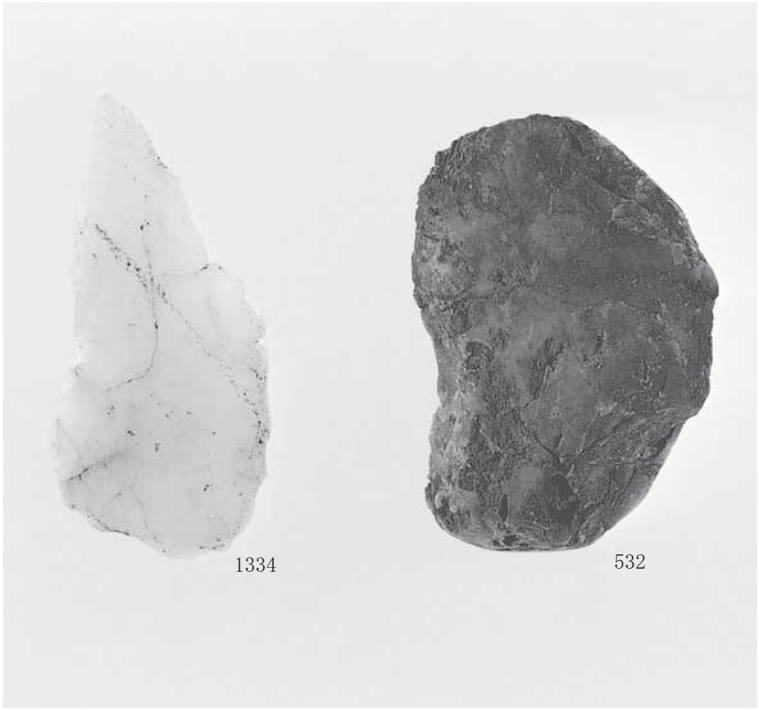


写真－412　スクレイパー

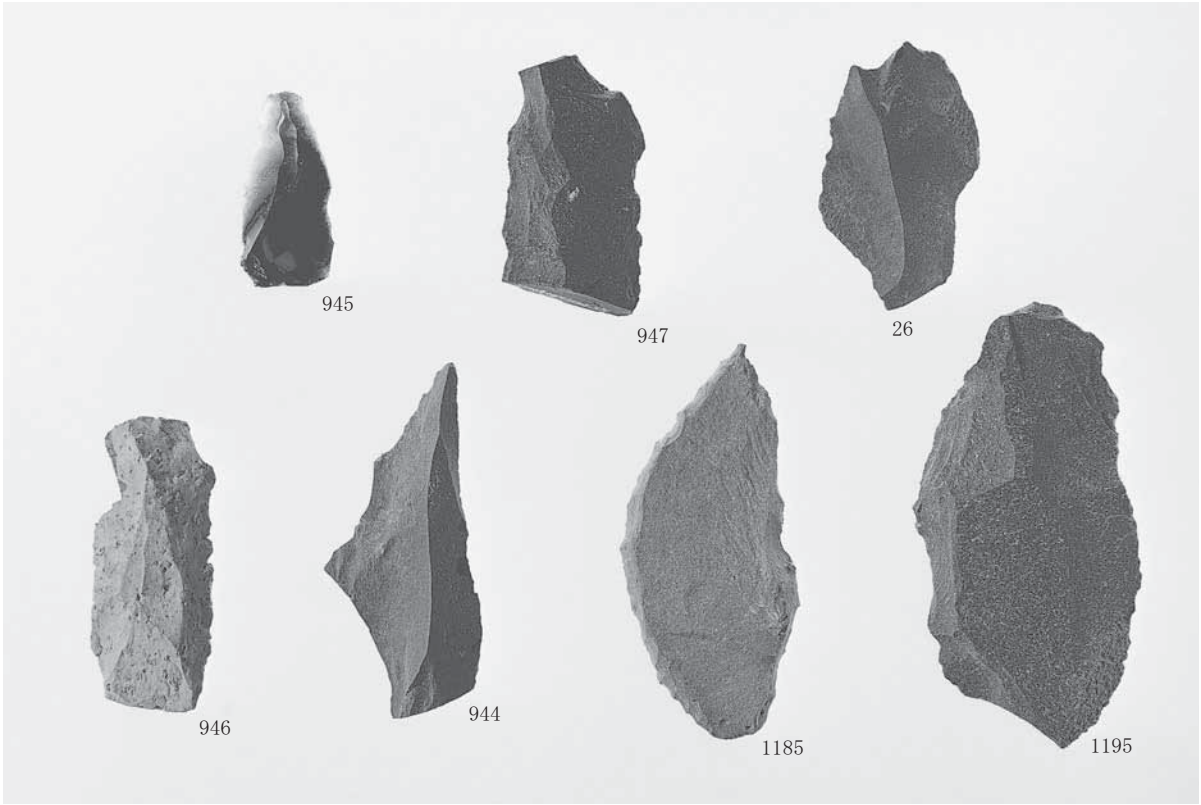


写真－413　石匙等

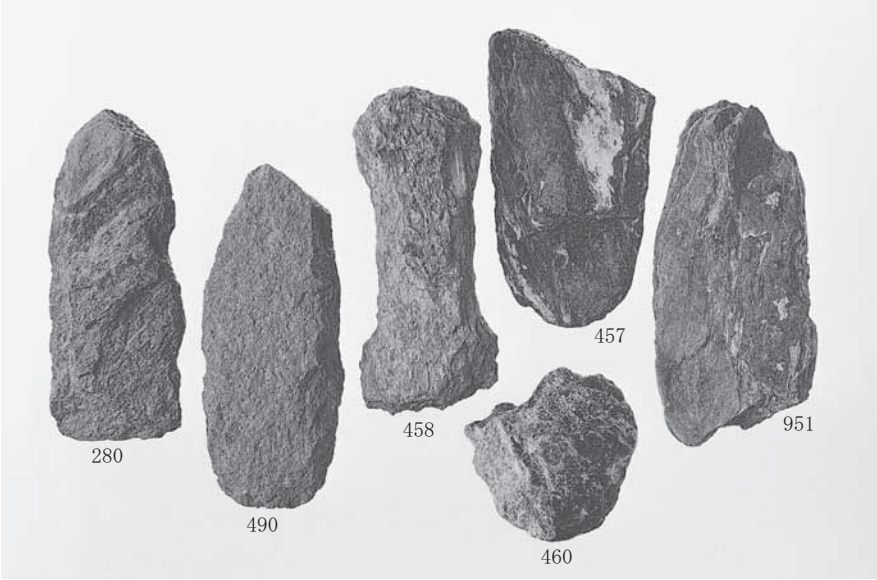
写真－414　三日月型石器



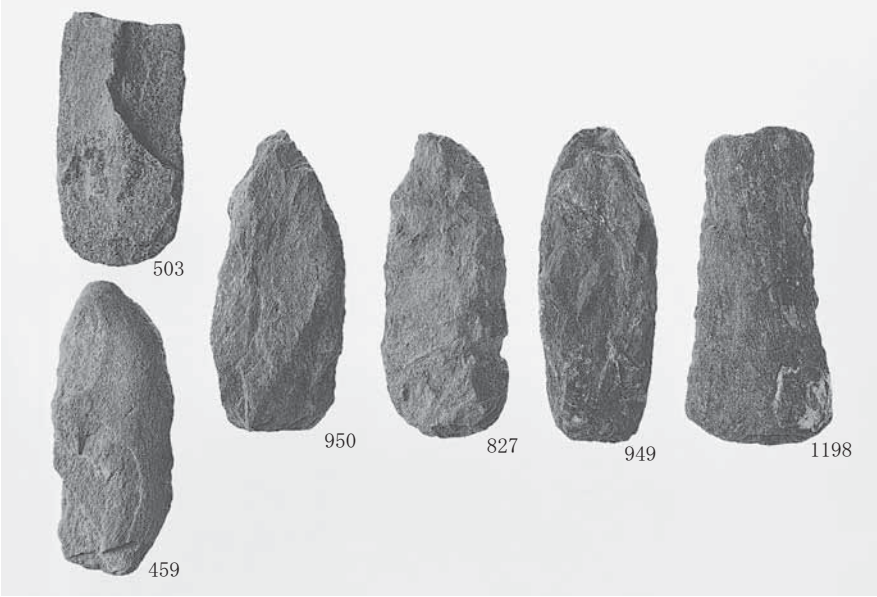
写真－415　剥片石器



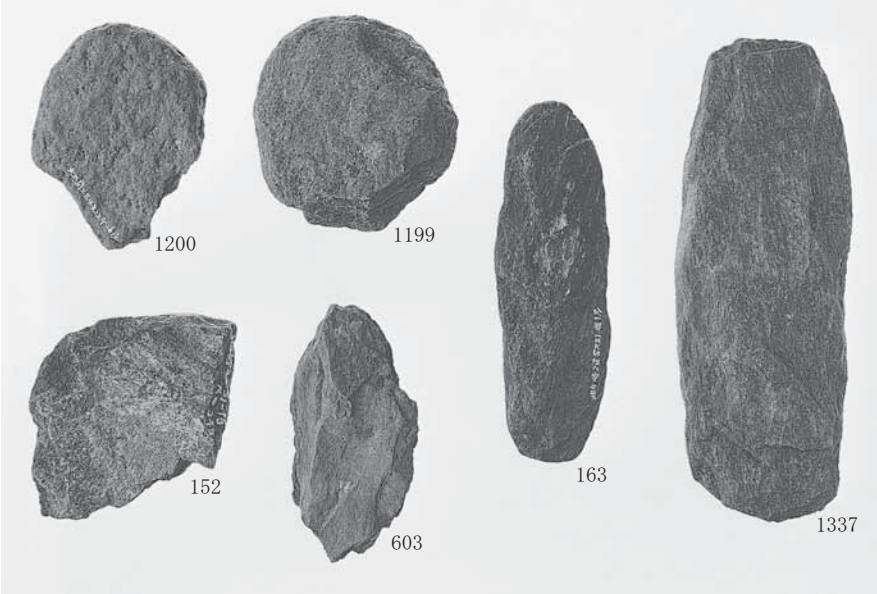
写真－416　剥片石器等



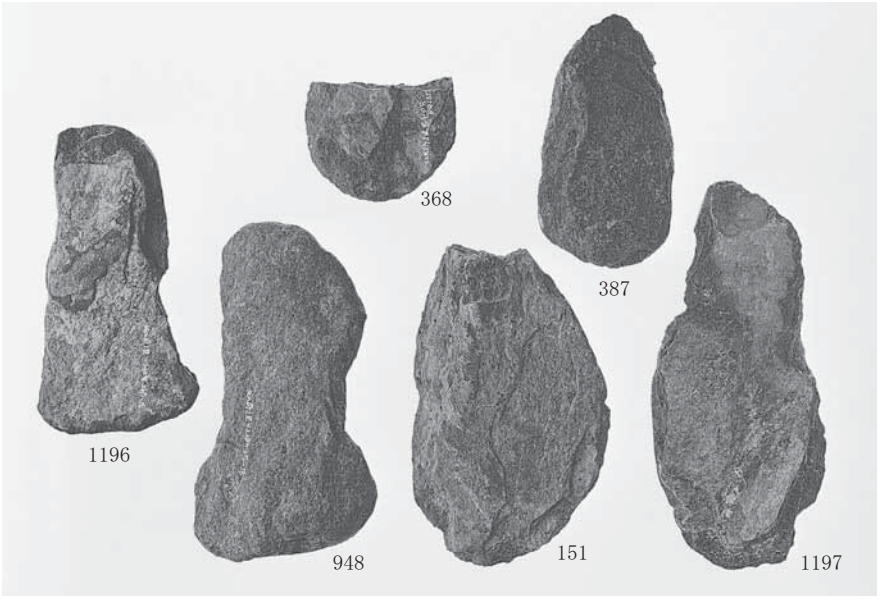
写真－417
打製石斧



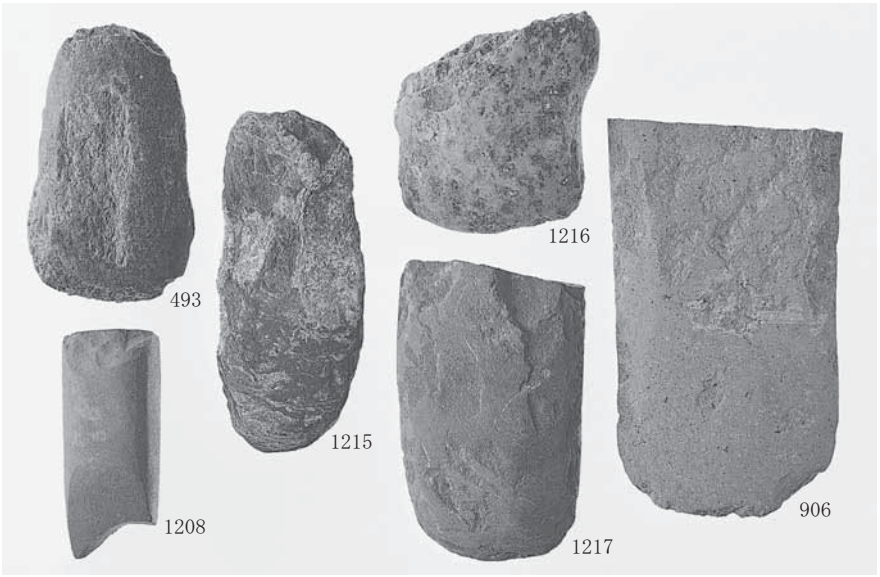
写真－418
打製石斧



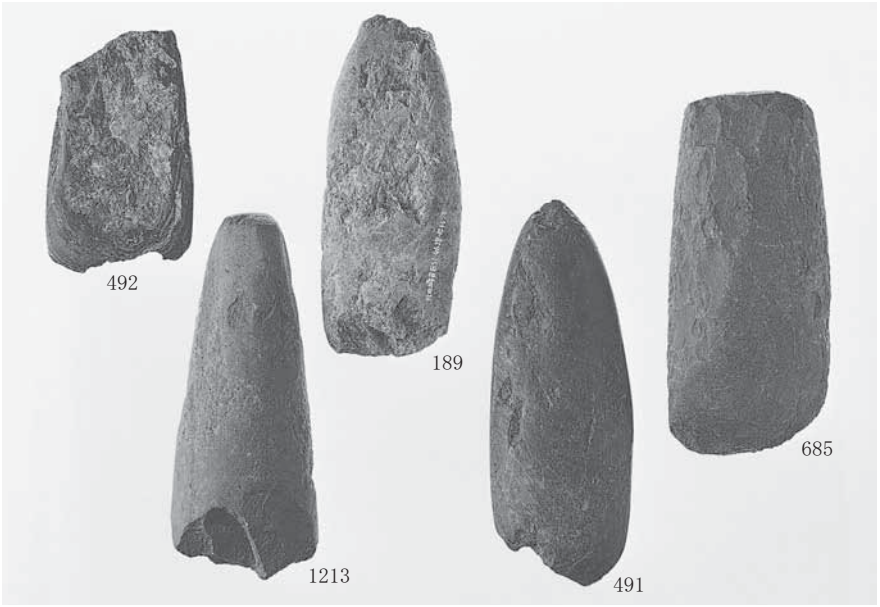
写真－419
打製石斧



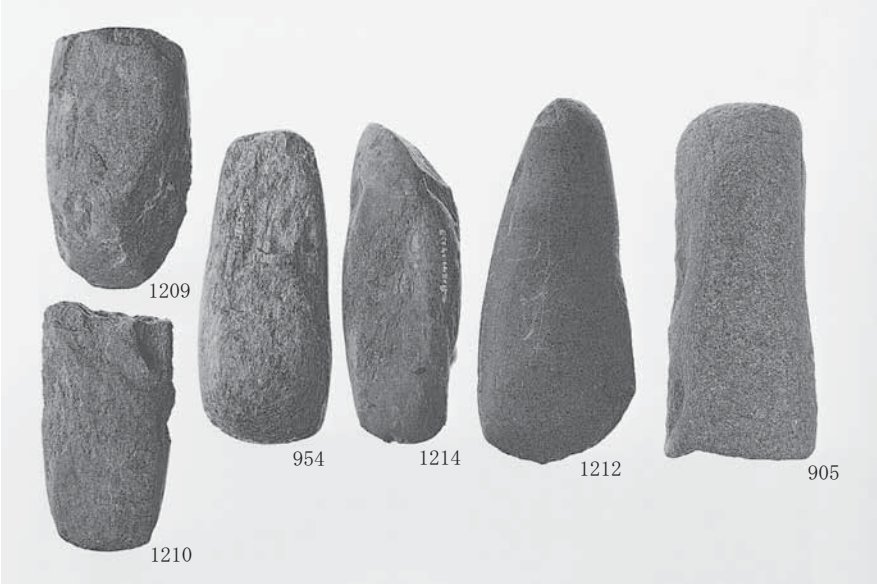
写真－420
打製石斧



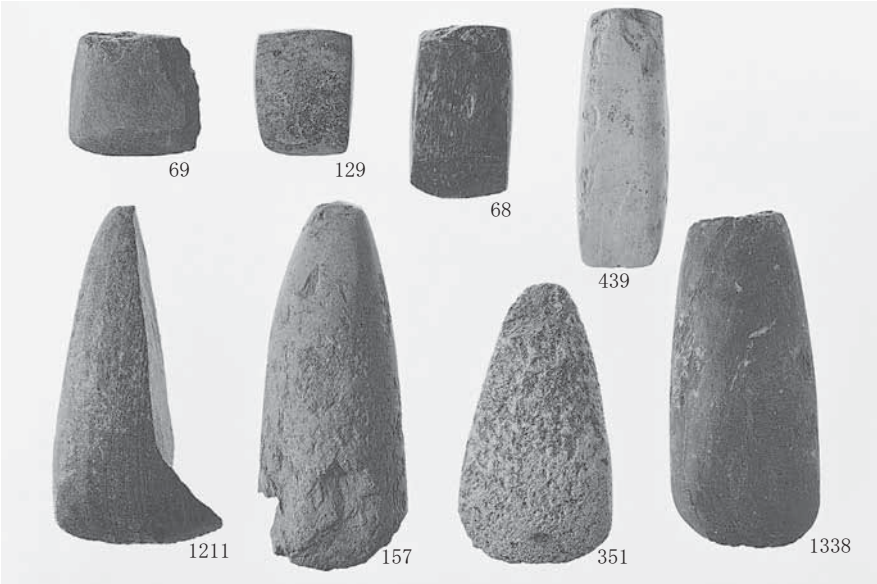
写真－421
磨製石斧



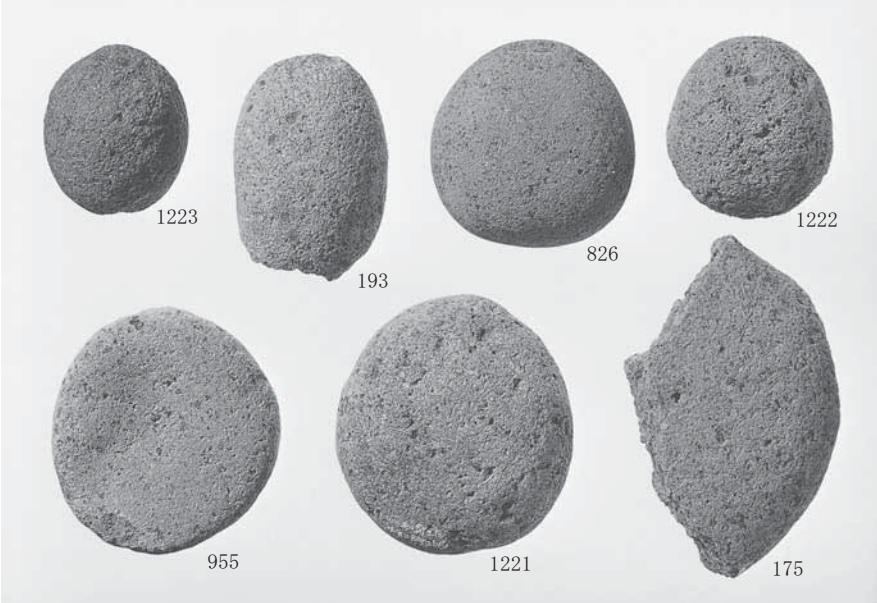
写真－422
磨製石斧



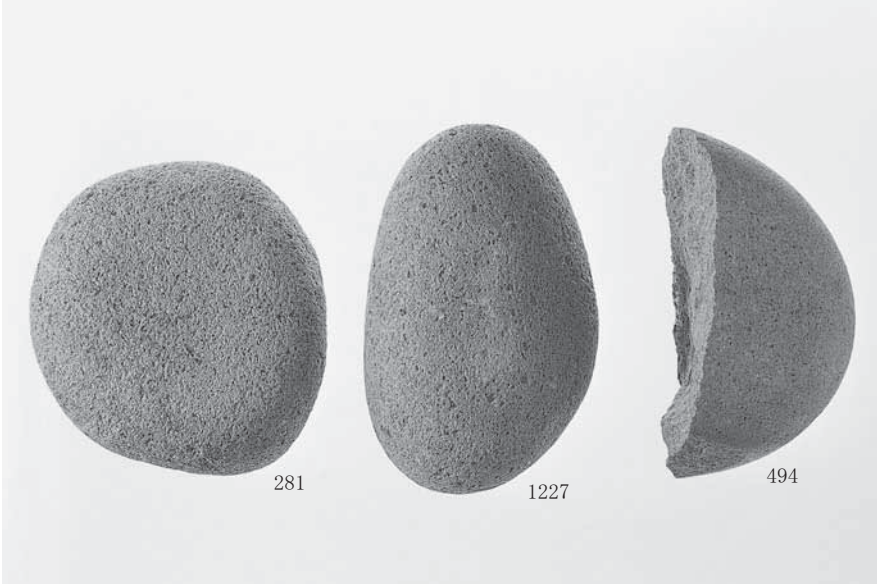
写真－423
磨製石斧



写真－424
磨製石斧

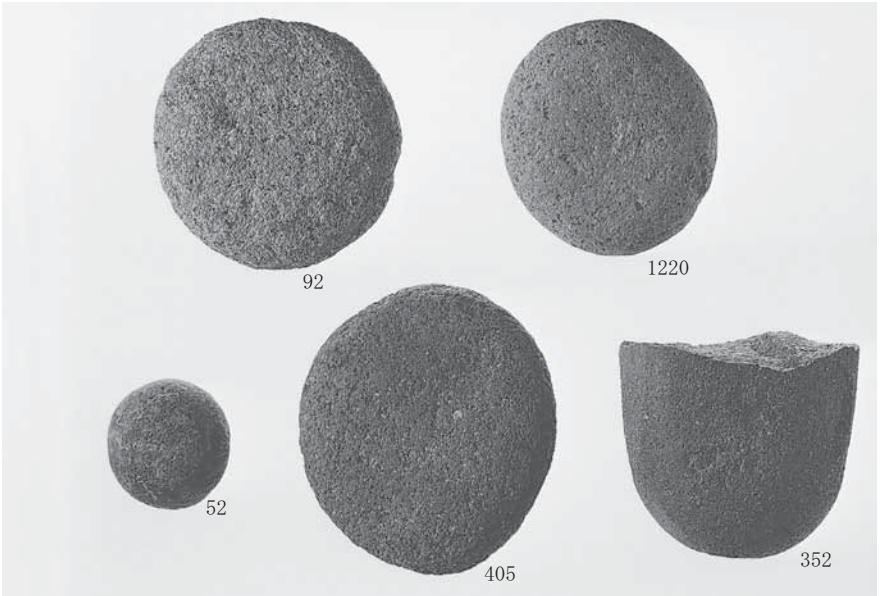


写真－425
磨石



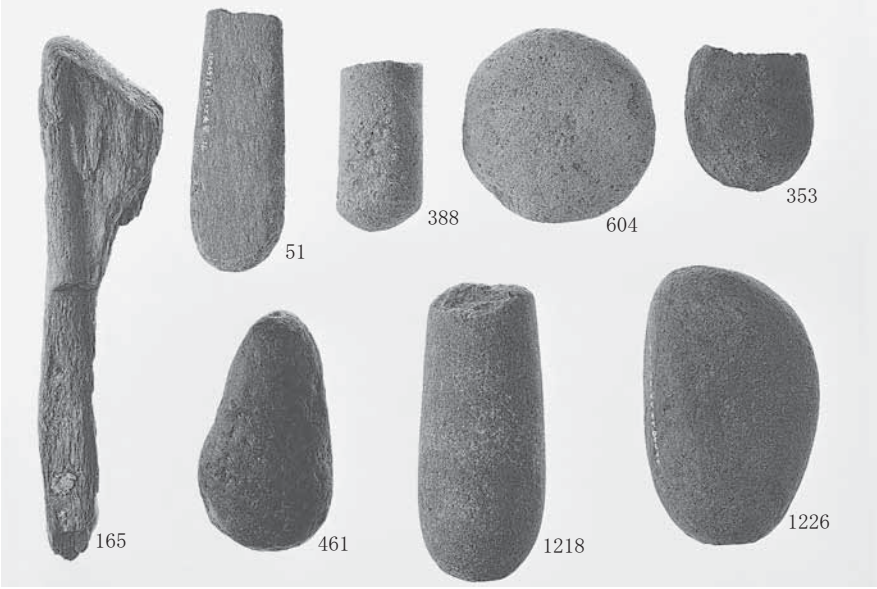
写真－426
磨石

写真－427
磨石

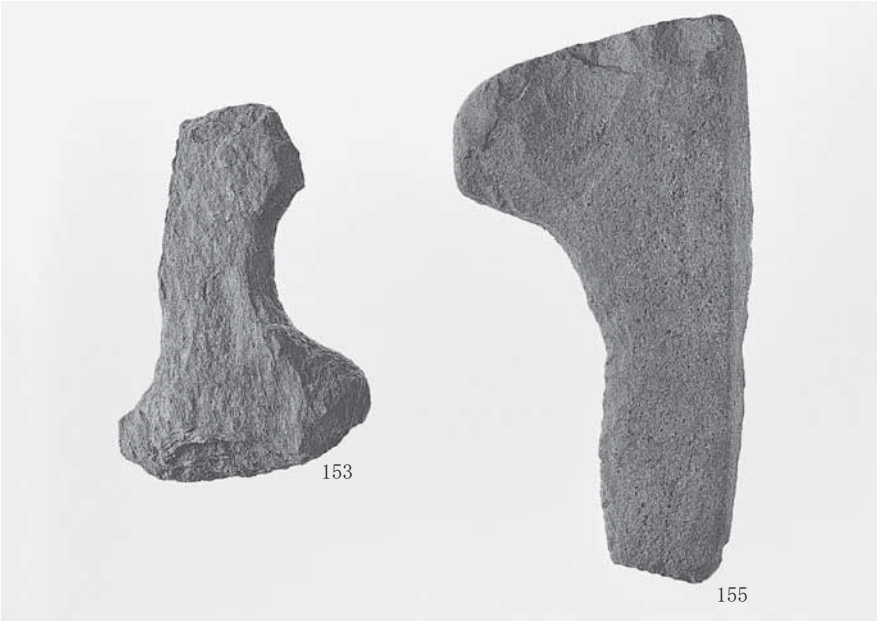


写真－428
磨石

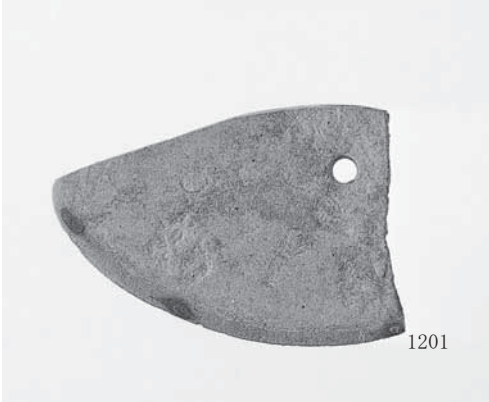
写真－429
敲石・磨石



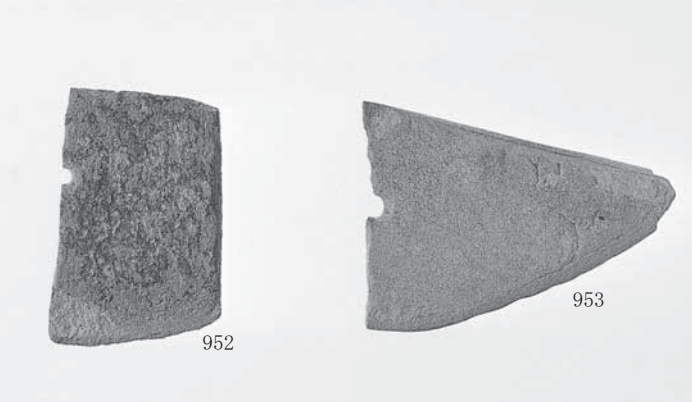
写真－430
磨石



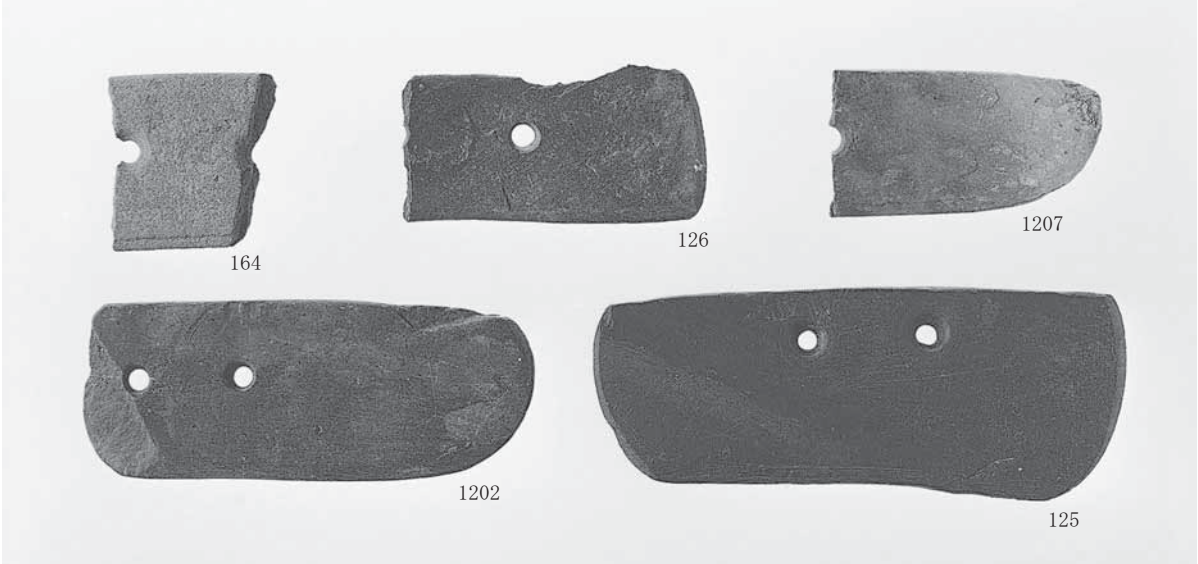
写真－431
打製石斧と石製模造品



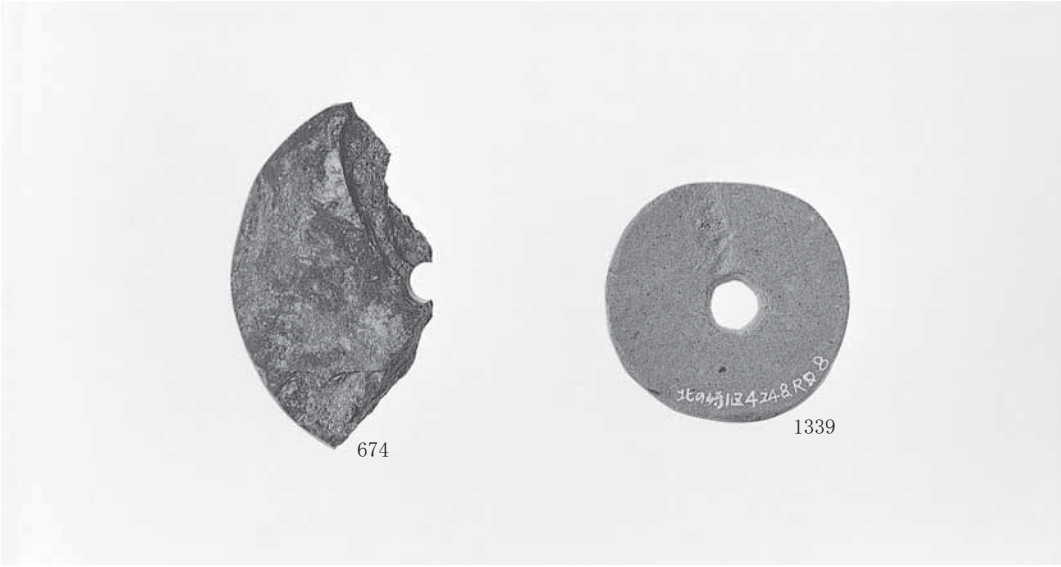
写真－432　石包丁



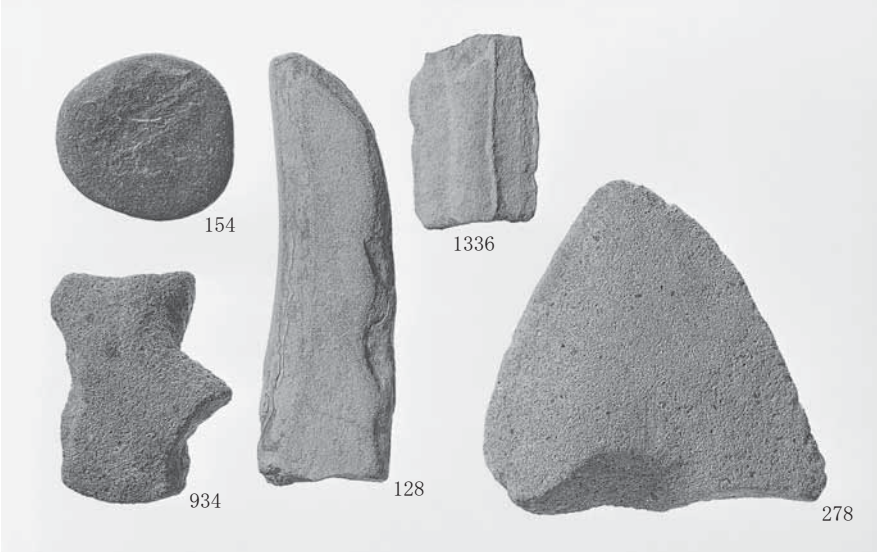
写真－433　石包丁



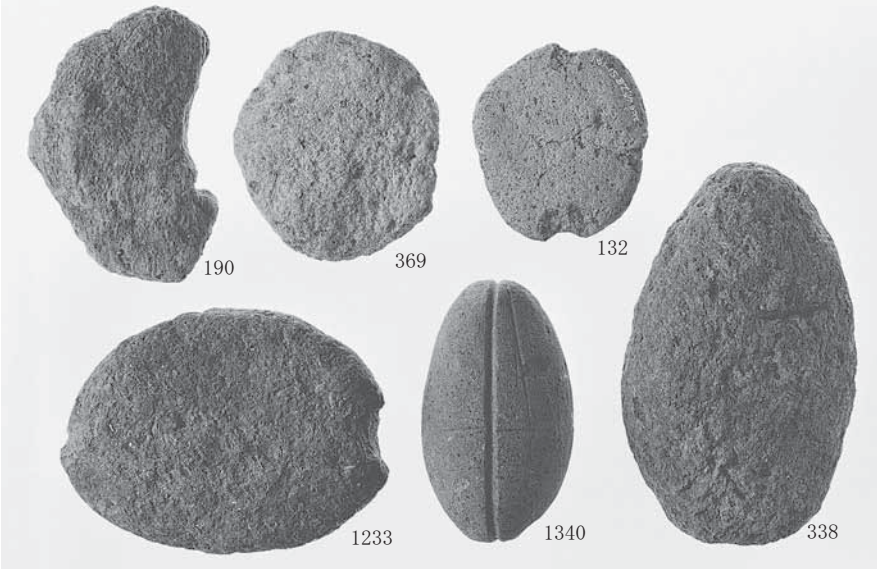
写真－434　石包丁



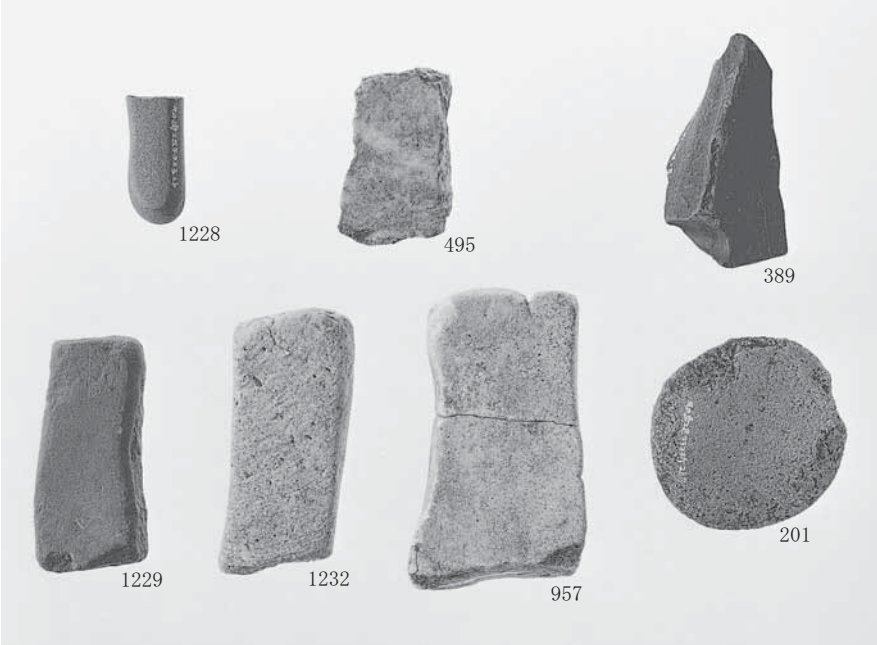
写真－435　紡錘車



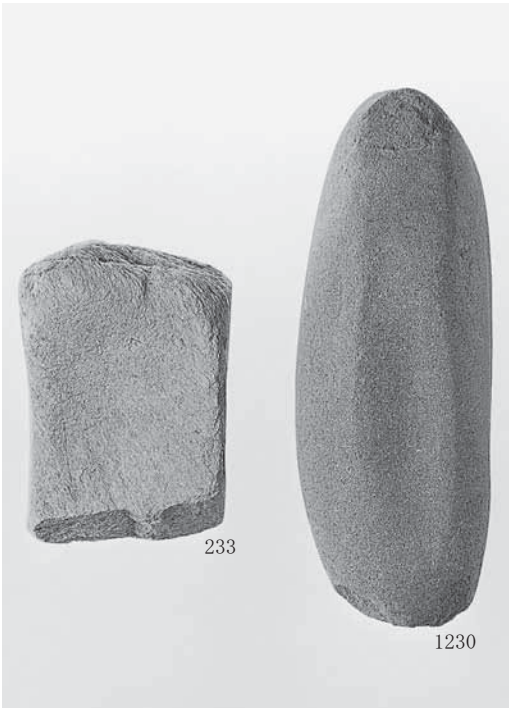
写真－436
石鎌、礫器等



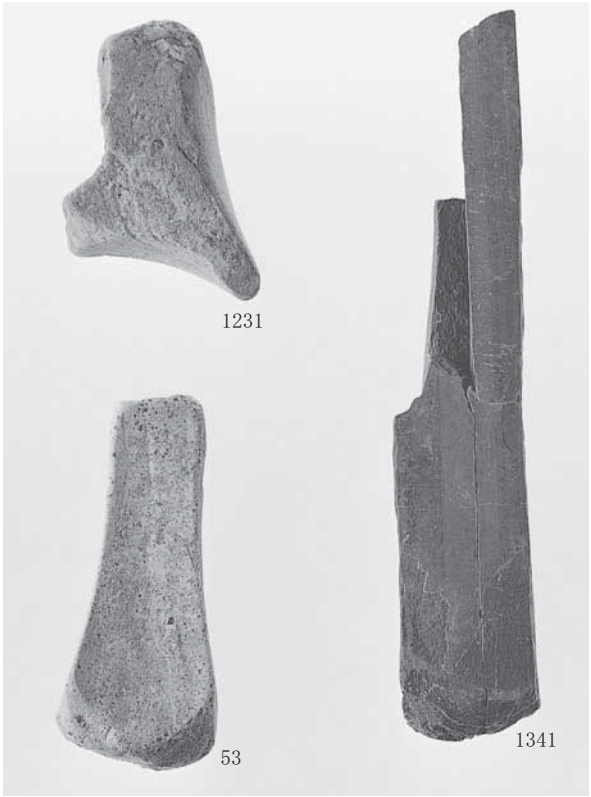
写真－437
石錘、円盤状石器等



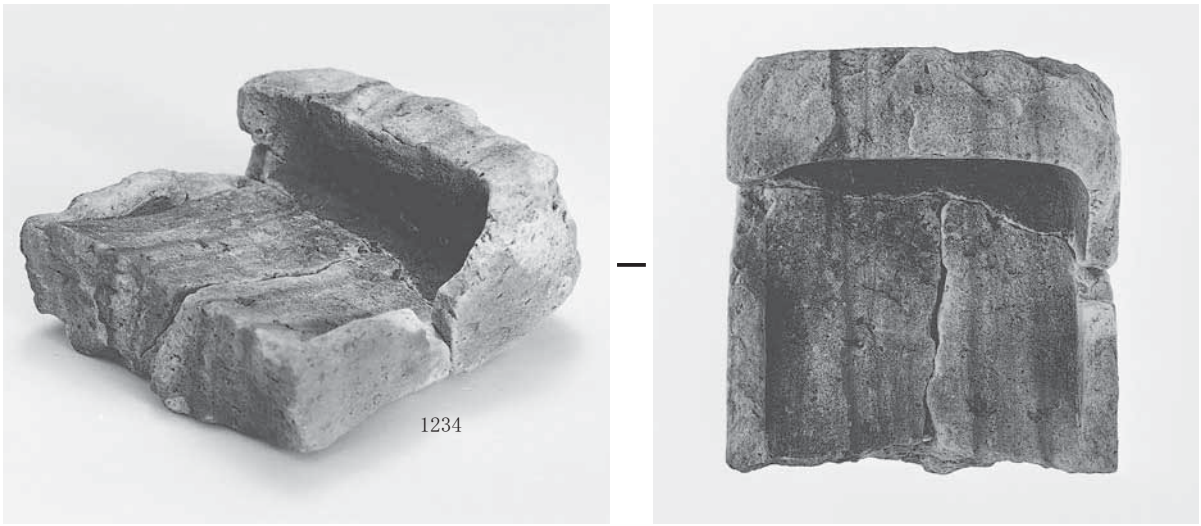
写真－438
砥石



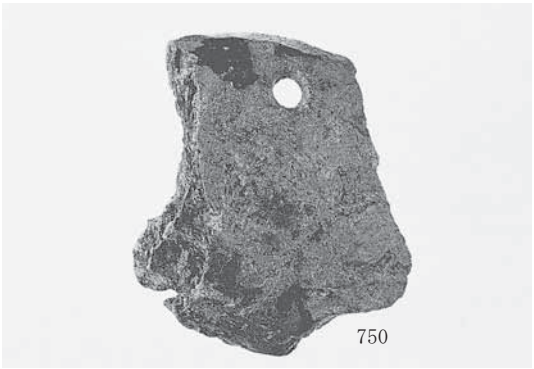
写真－439　砥石



写真－440　砥石



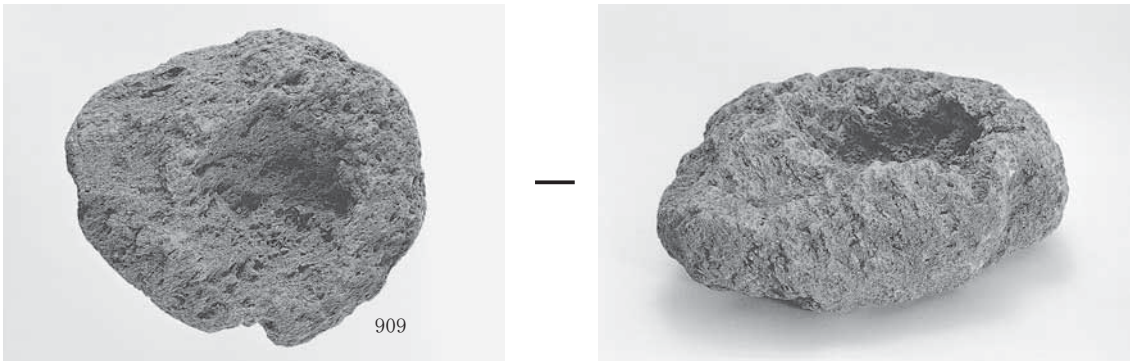
写真－441　硯



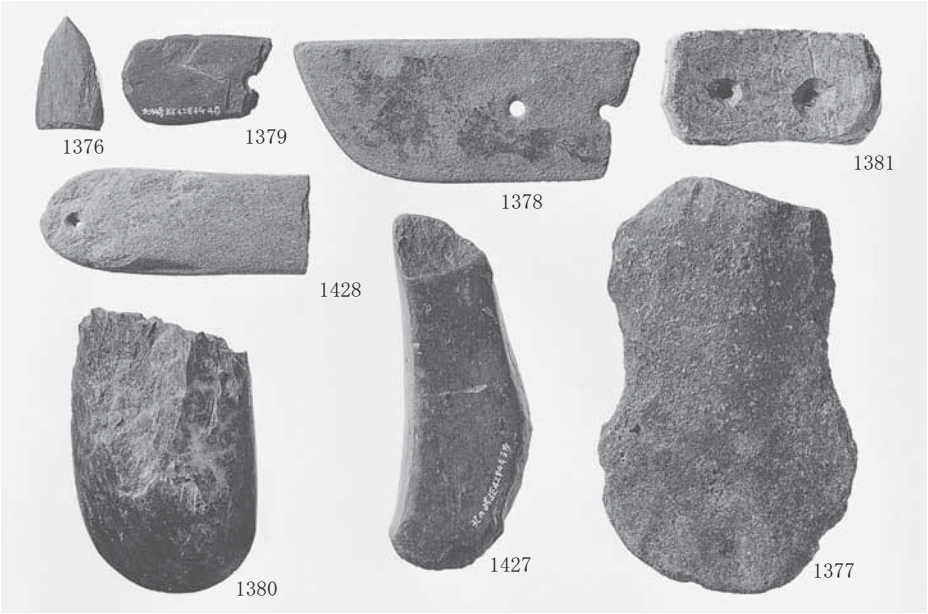
写真－442　滑石製石製品

写真－443　連盃

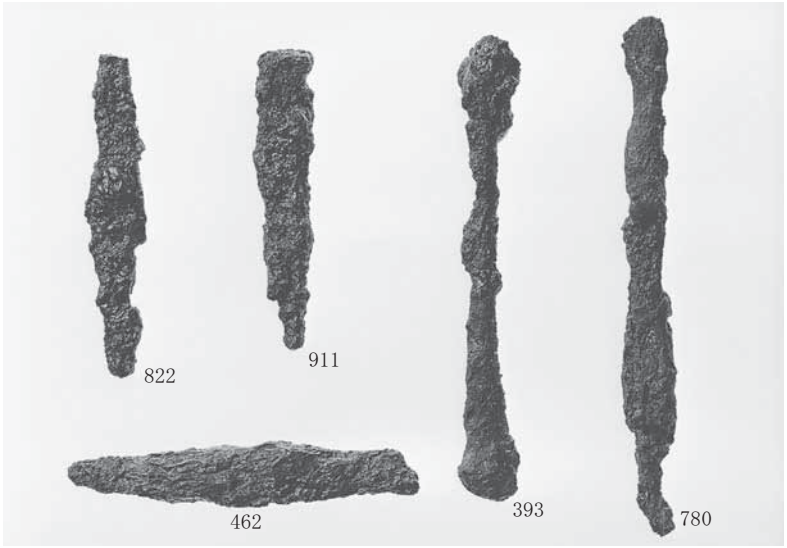
写真－444　歯車状石器



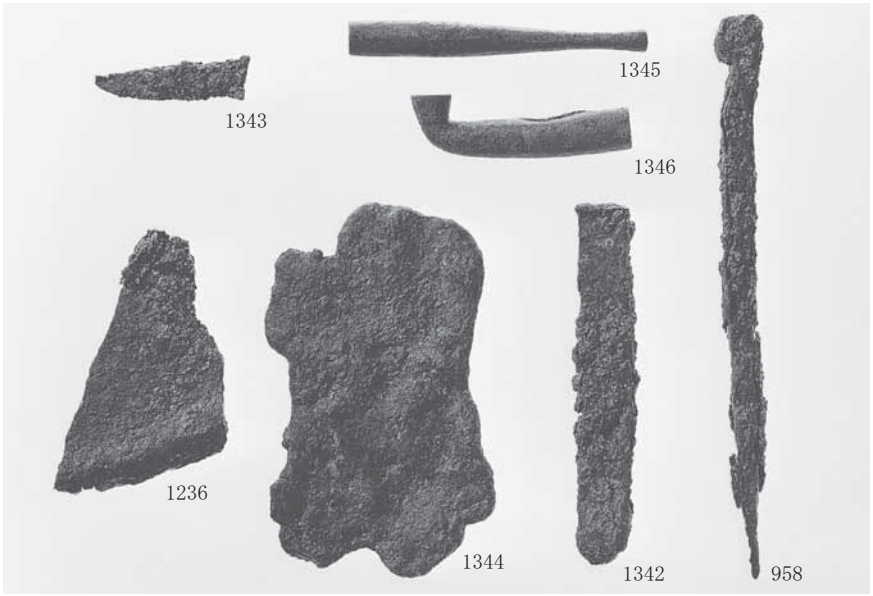
写真－445　石鉢



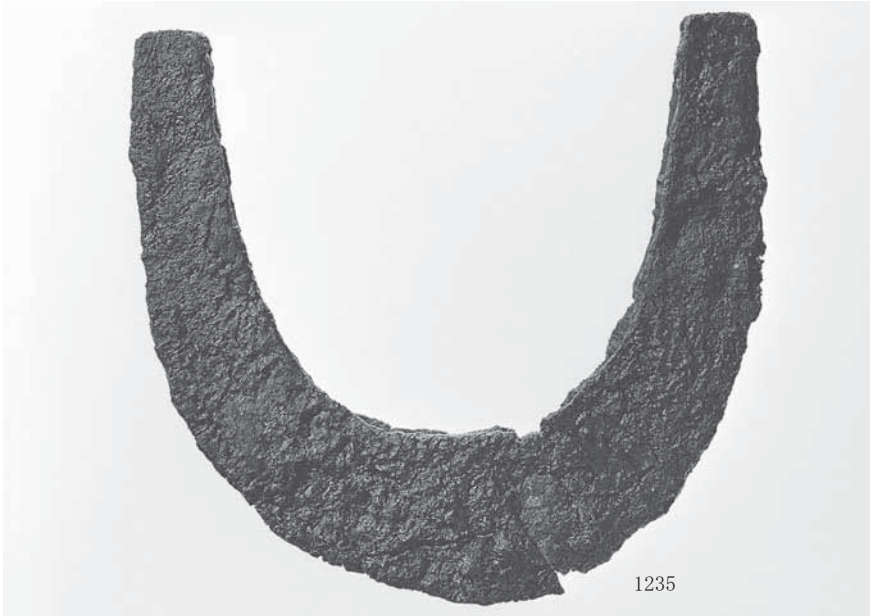
写真－446　湿地区第２、第３包含層（３、４層）から出土した石製品



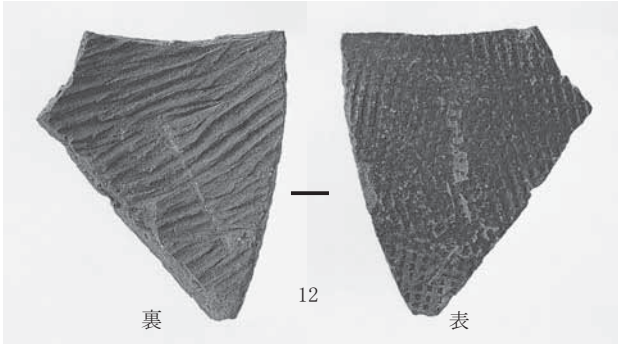
写真－447
遺構から出土した
鉄器



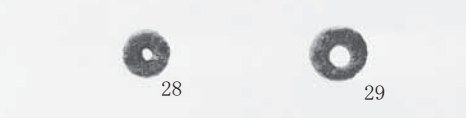
写真－448
平坦地区の包含層から出土
した鉄器等

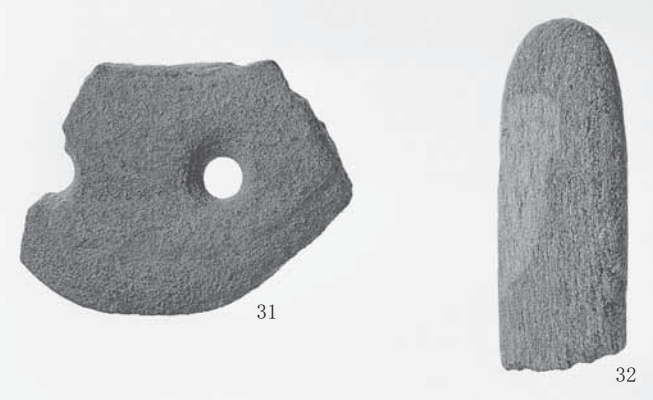


写真－449
平坦地区第２包含層（２b
層）から出土した鉄器



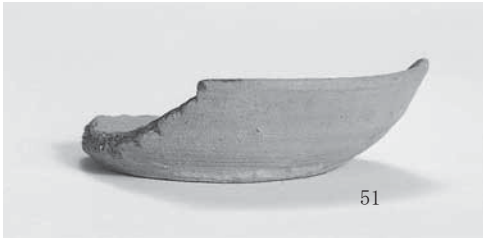
写真－450　釧抜遺跡遺物包含層（２層）から出土した遺物

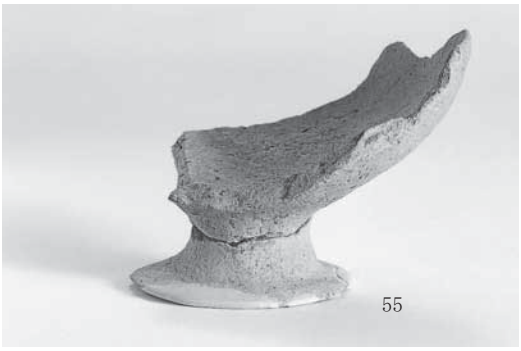




写真－451　釧抜遺跡遺物包含層（２層）から出土した遺物

写真－452　釧抜遺跡遺物包含層（２層）から出土した遺物





写真－453　釧抜遺跡遺物包含層（3a層）から出土した遺物

写真－454　釧抜遺跡遺物包含層（3a層）から出土した遺物

写真－455　釧抜遺跡遺物包含層（3a層）から出土した遺物

73

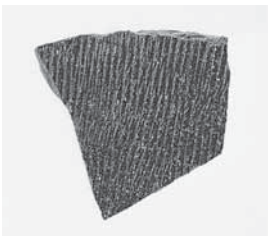
74

75

76

裏

77



表

裏

78

表

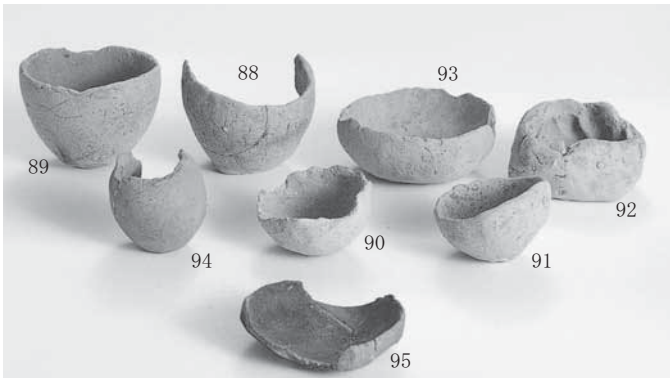
79

80

81

82

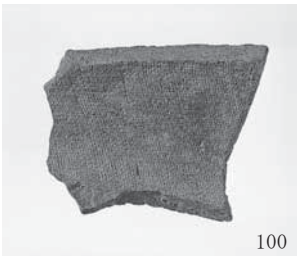
写真－456　釼抜遺跡遺物包含層(3a層)から出土した遺物



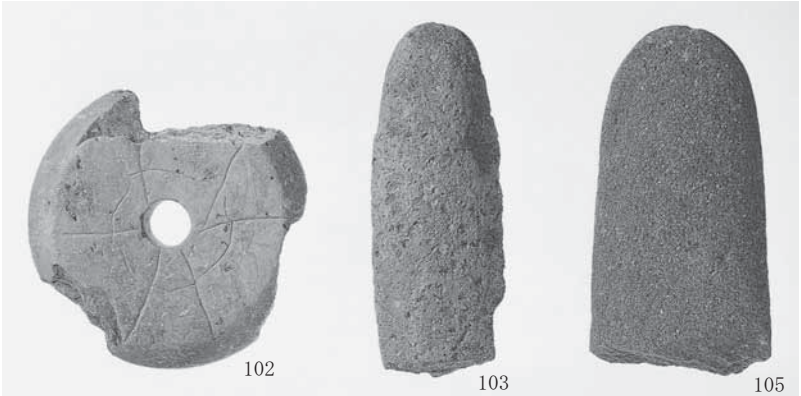
凸面

凹面

凸面



凹面



写真－457　釧抜遺跡遺物包含層（3a層）から出土した遺物

写真－458　釧抜遺跡遺物包含層（3a層）から出土した遺物

1　生見の「六地蔵」及び「大永の卍板碑」

1　はじめに

木葉川河川災害復旧等関連緊急事業に伴って、玉名市安楽寺生見に所在する生見六地蔵と大永の卍板碑が据えられている道路の路盤を上げる工事を行うこととなった。路面を上げる際に、六地蔵も現位置を留めた状態で若干底上げする必要があった。底上げの際、地下構造（台石の有無等）があるか確認するとともに、写真、拓本及び図面作成を行い、記録を残すこととした。六地蔵については、住民への聞き取りで戦前には現位置にはなく別の場所に設置してあり移設されたことが判明していた。聞き取りの通り、地下構造があるわけでもなく単に移して据えてあるつくりであった。なお、生見の六地蔵と大永の卍板碑に関しては、前川清一氏に拓本を取っていただき、銘文について解説を加えて頂いた。

2　石幢（せきどう）及び板碑とは

石幢とは、石塔のひとつで、中国の遼の時代に地蔵信仰として発達したものが伝わり鎌倉時代以降に供養塔として造立された。多角形の石柱に経文を刻んだ経幢の影響を受けて日本でも行われたものと考えられている。多角形の石柱には、八面・六面・四面のものがある。特に、龕部（がんぶ）に六体の地蔵を刻み込んだものを、俗に六地蔵と呼んでいる。

仏教の世界には、輪廻という考え方がある。生きているものが死んだ後、次の世に向けて生と死を繰り返すことを言う考え方である。そこには、六道といってそれぞれの世界に苦しみがあるとされている。閻魔（えんま）が、生前の罪を審判して、その度合いに応じて苦しみを与える「地獄道」。生前の悪行の報いで、手にとった食べ物が火にかわり飢えに苦しむ「餓鬼道」。鳥獣虫魚のことで、愚かで肉親をも傷つけ、苦しみが多い「畜生道」。永久に争いが絶えない「修羅道」。人間として存在する世界で、老いや死の苦しみがある「人道」。天上の世界で、死という苦しみが残っている「天道」。それぞれの世界での苦しみから救済されるように願い、はじめられたのが六道信仰である。

仏様は、観音菩薩だったのだが、民衆に浸透するにつれて、地蔵菩薩が対象となってきた。地蔵菩薩は、６つのそれぞれの世界の入り口で、亡きものを救済し浄土に送り届けると信じられるようになり、寺院や墓地の入り口に石像の六地蔵が造られるようになった。さらに民衆に広く浸透していくと、村や入り口に設置され、道しるべや境界の意味をもつようになっていった。全国的には六体の地蔵尊をまつる場合や1面に六体の像を彫りこんだ場合などさまざまだが、九州では六角柱のそれぞれの面に地蔵を彫りこんだ六地蔵石幢が多いようである。

一方、板碑とは、仏教信仰による造塔が普及し、これに願文、趣意、紀年銘などを刻む必要性が生じたためにできたとされている。薄い板状の自然石を使用してたてられたものや、頭部を山形にしその下をくりこんで段をつくり、その下面をいっそう細身にしたものがある。大永の卍板碑は、前者の自然石を利用して造られたものである。

3　石幢及び板碑の保存状況

石幢は、石材は阿蘇溶結凝灰岩であり、台石がなく直接地面に幢身が設置してあり、幢身の東側の面に銘文が刻まれているが、風化が進み見えなくなっている。また、追刻されており解読は非常に難しい。

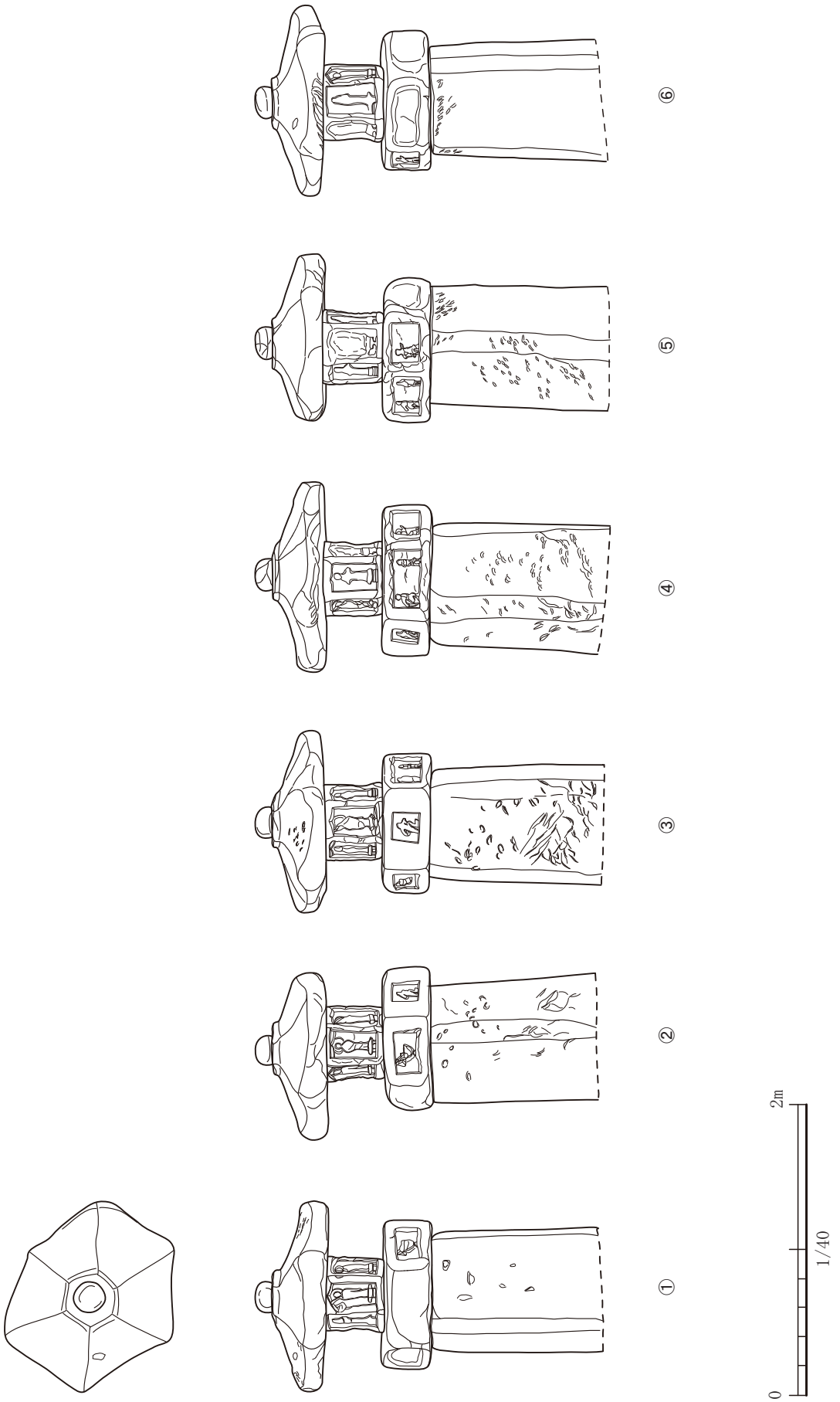
板碑は、石材が輝石安山岩であり硬質であることから、保存状態は、石幢と比べれば良好である。

4　実測図及び拓本

生見の六地蔵については、実測図を作成し、拓本作成及び写真撮影を行った。尚、拓本は前川清一氏に、写真撮影（写真図版）は*長谷部善一氏にお願いした。両名には、真夏の暑い中、ご協力頂き御礼申し上げる。

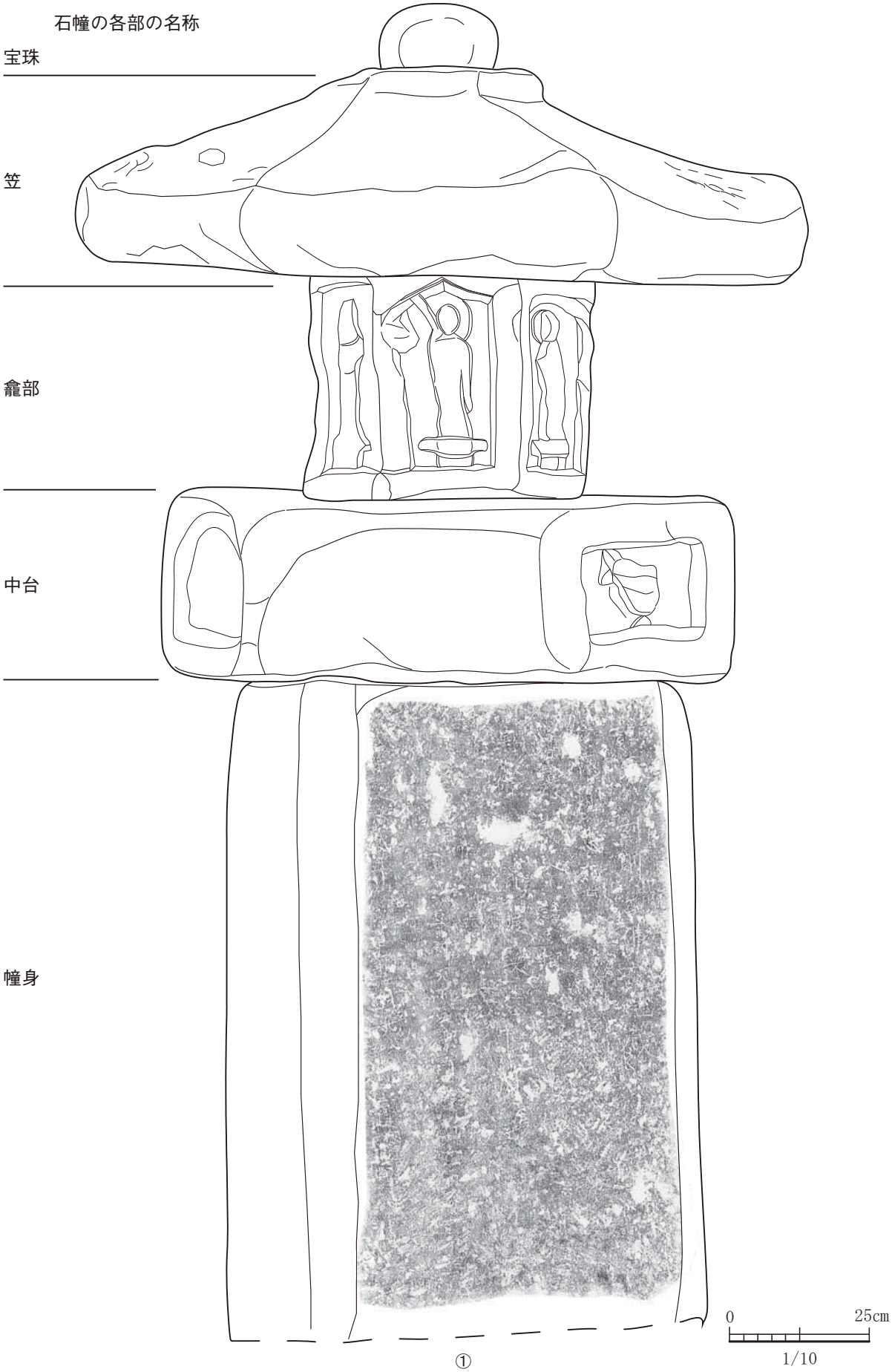
この生見六地蔵は、㈱トーワエンジニアリングに委託し、三次元レーザー測量で立体モデル図も作成している。

＊熊本県教育庁文化課

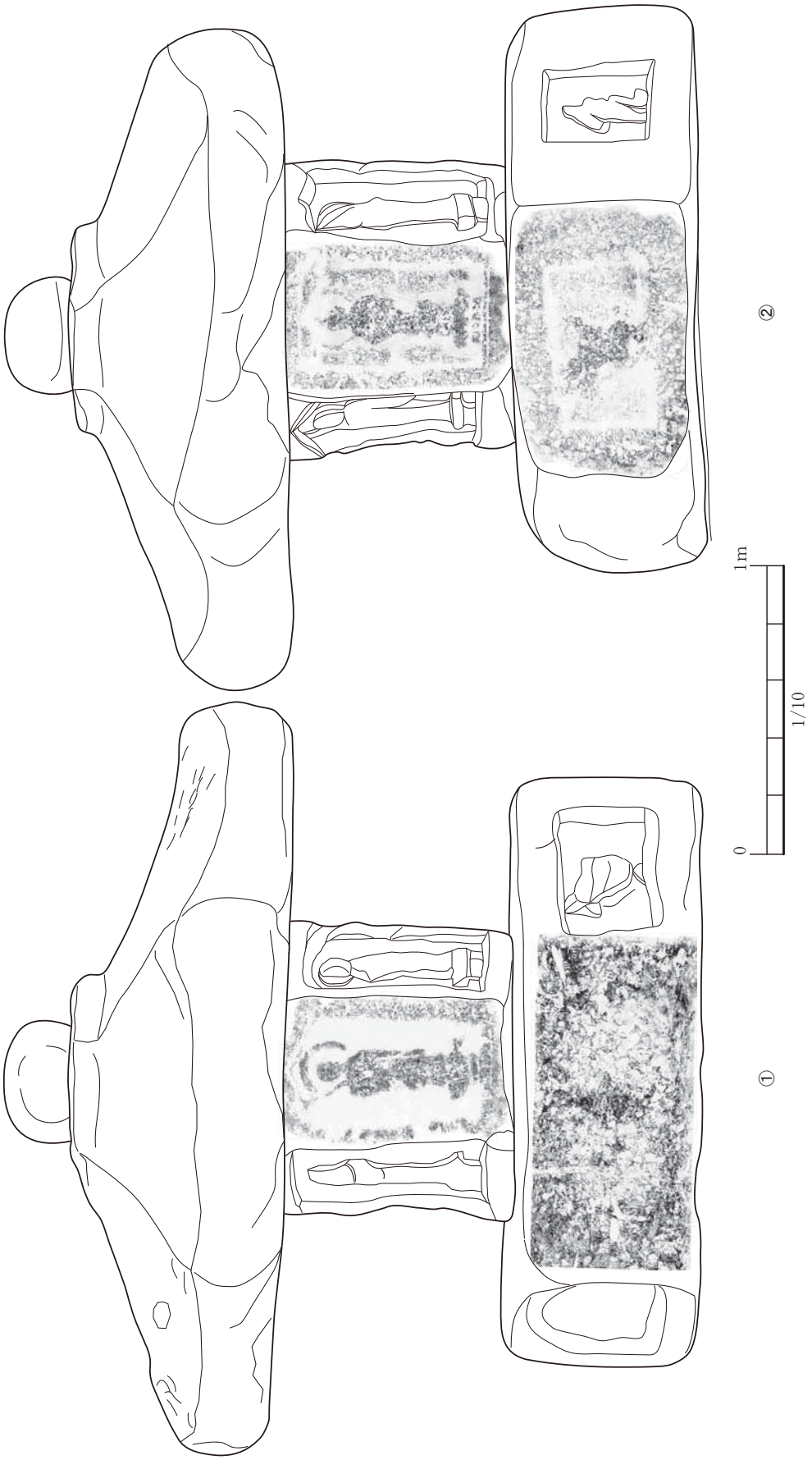


図－506　生見六地蔵実測図

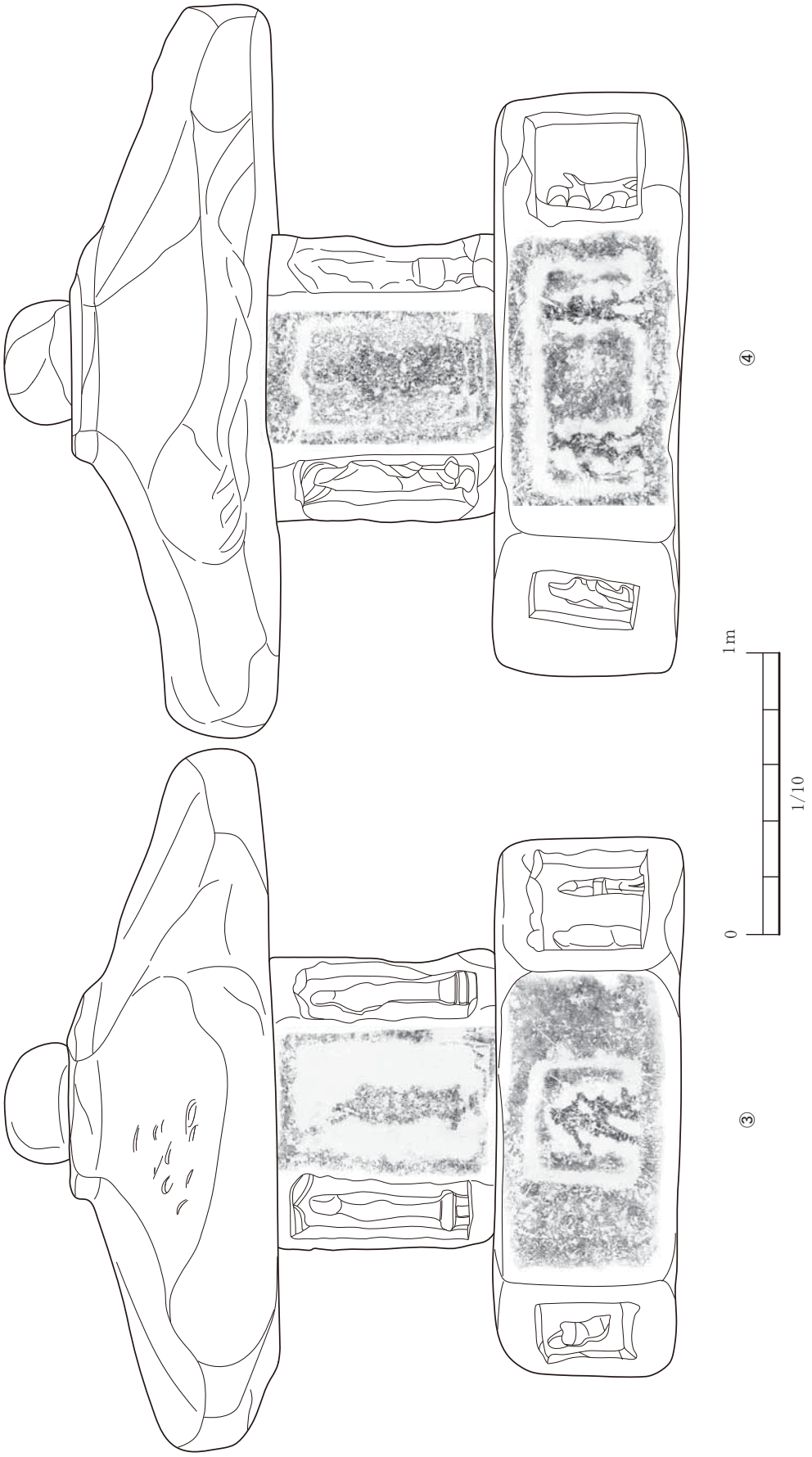
実測図は、40分の１スケールで作成し、銘文が刻まれている面を①として、幢身の６面分をそれぞれ実測している。



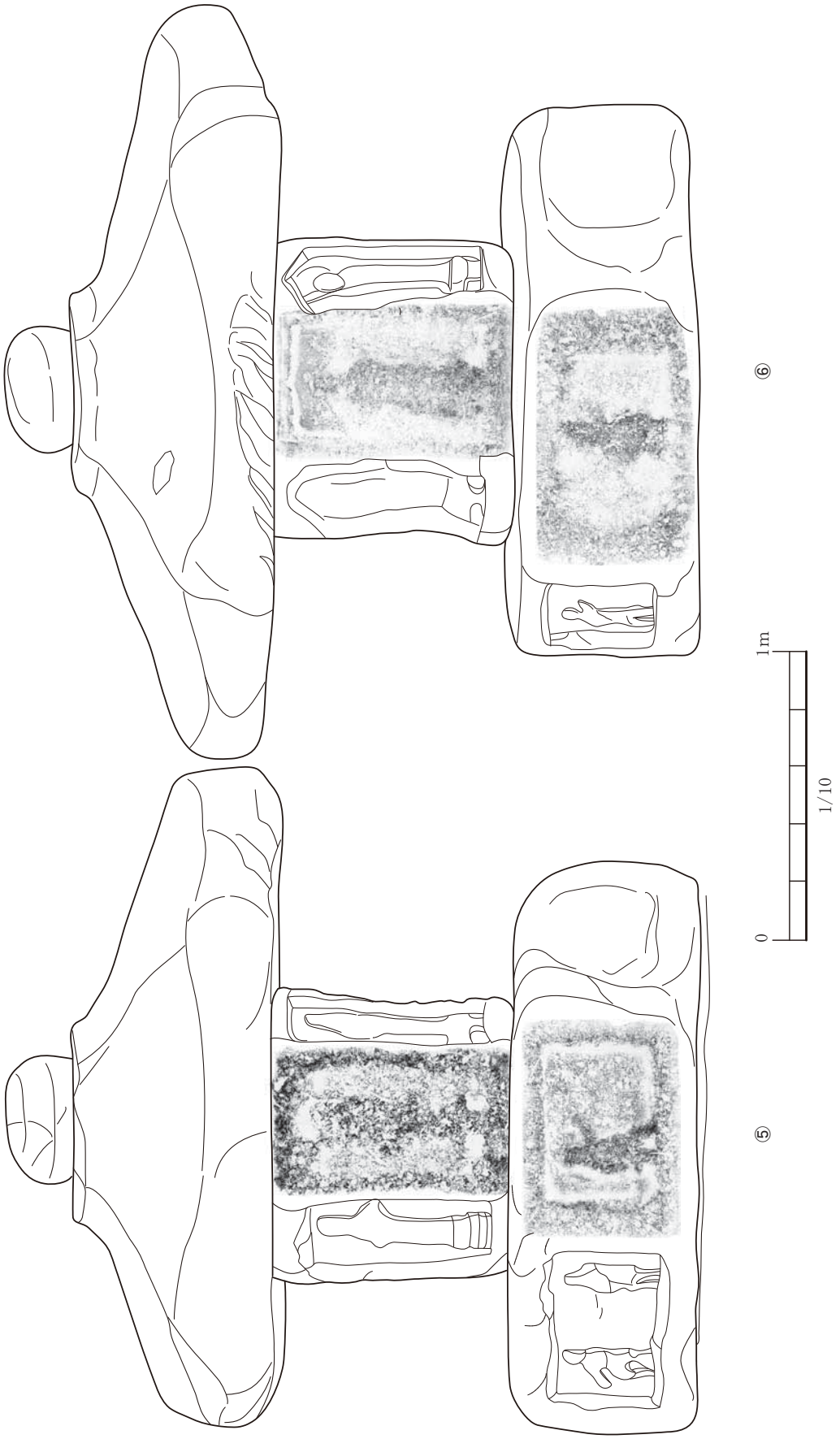
図－507　生見六地蔵の幢身に刻まれた銘文の拓本



図－508　生見六地蔵龕部や中台の拓本　①　②



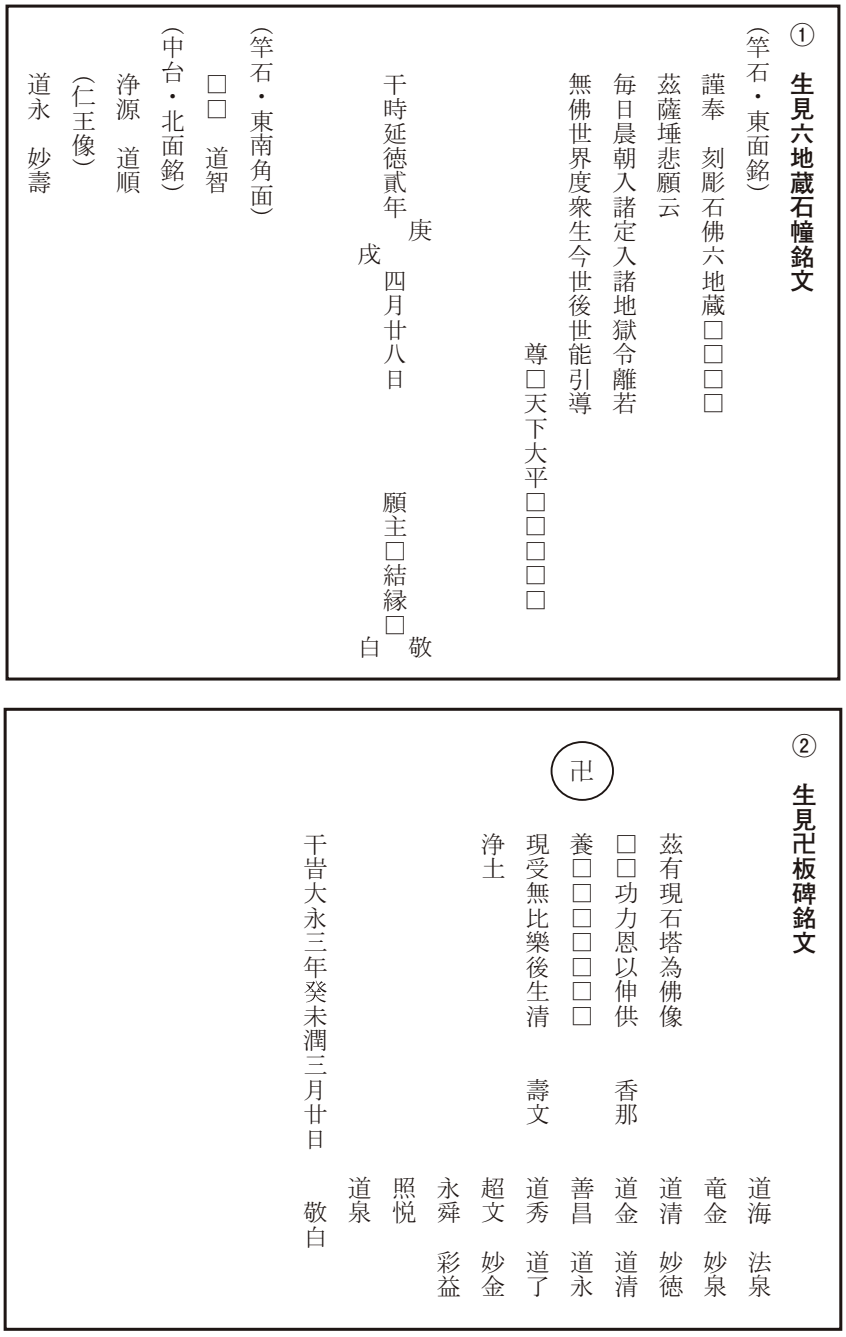
図－509　生見六地蔵龕部や中台の拓本　③　④



図－510　生見六地蔵龕部や中台の拓本　⑤　⑥

玉名市生見の六地蔵石幢と卍板碑について

前川　清一



図－511　六地蔵及び板碑に刻まれている銘文

①　生見六地蔵石幢銘文

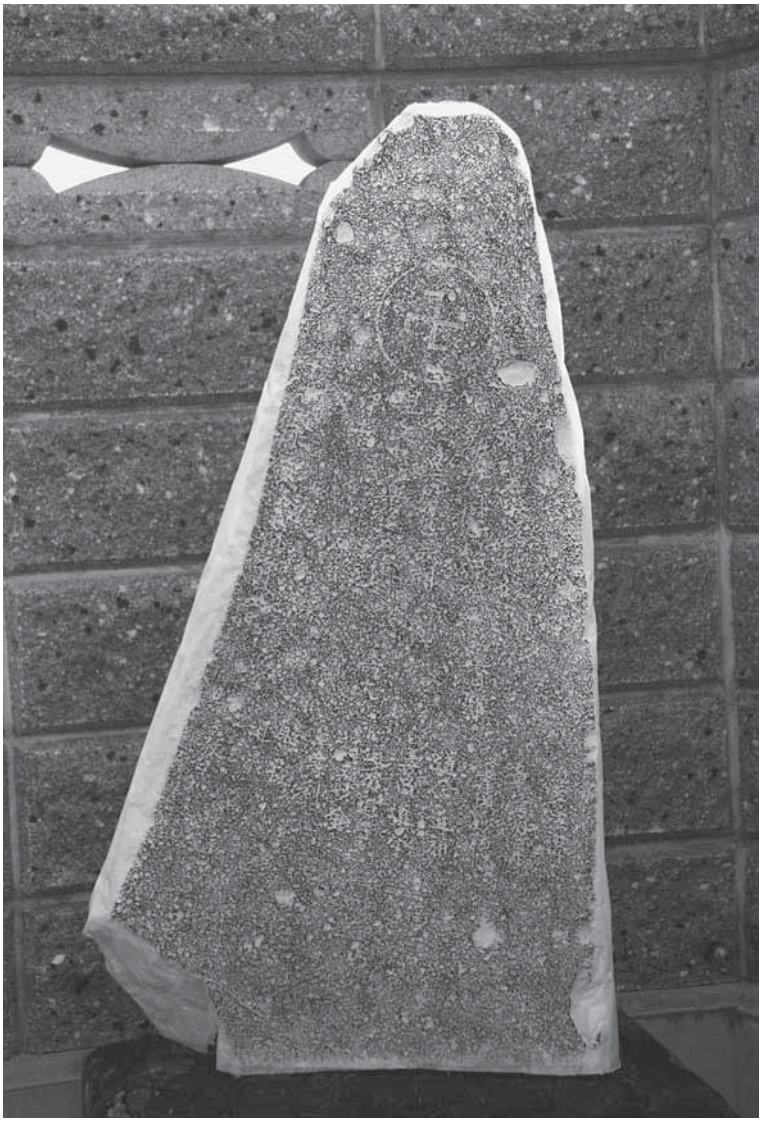
延徳２年（1490）に建立されたもので、願主として中台に「浄源」「道順」「道永」「妙壽」の４名、竿石に「道智」ほか１名（判読不可）の名前が見られる。また、竿石には、願文と紀年銘を刻む。願文の後半部は、『延命地蔵経』の一節がみられる。銘文によれば、謹んで、六地蔵菩薩の悲願を石仏に刻み彫り奉ったものである。その願いとは、「毎日、朝早く諸々の修業に入り、諸々の地獄に入る。仏の居られない世界で永劫に苦しむ衆生（人々）を救済するために、この世であれあの世であれ、正しく導く」とする。なお、「諸々の地獄」とは、六道（天道・人道・修羅道・畜生道・餓鬼道・地獄道）のことである。地蔵菩薩は六

道それぞれに化物となり、人々の救済に当たるものであり、化仏といえどもローソクの火を分かつように、その力は変わらないとされる。また、「無仏世界」とは、お釈迦様の死後から五十六億七千万年後に救済主としての弥勒如来登場までの期間をいう。地蔵菩薩は、この無仏世界において、弥勒如来の現れるまでの期間、人々の救済を誓ったのである。

②　生見卍板碑銘文

大永３年（1523）に建立されたもので、願主は「香那」「壽文」をはじめとした20名の人々（講衆：こうしゅう）による。願文には、この石塔は佛像の功徳を得るための供養を行うために建立するものであるとし、その功徳として「現（まのあた）りに無比の樂を受く。後世は清浄土なり。」とする。なお、20名の名前は戒名で記されるが、生前に自らの死後に行う供養（逆修供養）を行えば、「七部全得」（功徳の全部を得る）できるとされた。また、逆修供養を行うことで、戒名を授かったものだ。この世で使用している名前は、俗名といい、死後では通用しないために、当時は、あの世で本名とされる戒名を刻むことが一般的であった。戒名のうち、頭に「道」の付くものは男性、「妙」の付くものは女性である場合が多い。

なお、このような石造物を建立できる人々は、地域の支配的立場の人々である。地域の歴史を知る上で、貴重な石造物である。



写真－459
生見の『大永の卍板碑』の拓本

2　北の崎遺跡より出土した戦争関連遺物について

藤崎　正人

1　はじめに

熊本県は朝鮮半島や中国大陸と近く、有明海や八代海、東シナ海に面しているという地理的特性から、重要な軍事施設が多くつくられた。本報告書で取り上げた北の崎遺跡・釼抜遺跡を有する玉名地域も例外ではなく、陸軍玉名飛行場をはじめとした施設がつくられた。近年、軍事関係の施設や空襲・戦災の跡（前者は能動的遺跡、後者は受動的遺跡に大別される、との指摘がある。）などを戦争遺跡として再考する動きが多くみられる。ここでは、北の崎遺跡８区（旧三池往還側溝部）より出土した日中戦争関連遺物及び大日本帝国陸軍歩兵第13聯隊関連遺物（合計２点）について考察を加えたい。なお、戦争などの呼称については、日中戦争が日本側呼称では支那事変や日支事変となるなど、現在も議論の分かれる点ではあるが、今回取り上げた遺物に記されている場合を除き、可能な限り通称を用いることとした。また、戦争関連遺物については、今回確認できた日清戦争以降のものを定義した。

2　日支事変救護記念湯呑（１点）

外面に「日支事変救護記念」、その左右に桜花模様の上絵付けが施されている。本品の特徴として、外面にみられる「日支事変救護記念」の文字と、高台内の「岐518」印の２点を挙げることができる。法量は、口径6.7㎝、器高7.4㎝、高台径3.6㎝を計測する。

（イ）「日支事変救護記念」について

外面に「救護記念」とあることから、日中戦争当時、日本赤十字社の戦地における救護活動の記念として生産され、救護活動従事者や日本赤十字社社員などの関係者に配られたものと当初考えたが、日中戦争当時、日本赤十字社では「日支事変」の呼称を用いていなかったこと、種々の救護活動に従事した際の記念品に描かれる日本赤十字社社章がみられないことから、この湯呑の注文者は、日中戦争時、戦地へ赴いた軍関係者（主に隊付衛生兵や病院付衛生兵）もしくは徴傭された民間の医療従事者が考えられる。

流通経路や生産個数については、空襲や戦後における関係資料の焼却処分などにより、その詳細を把握することは困難ということである。通常、陶磁器の生産は、注文主－陶磁器を扱う商社（土岐市やその周辺では陶器商とよんでいる。）－生産者という経路で行われるため、この逆方向に商品は納められ、注文主から商店や各個人へ配られたり、売られたりしたものと想定できる。また生産個数についても、この地方では既に量産体制が整っていたため、かなりの数量を受注できたそうである。

（ロ）生産者別標示記号「岐518」について

戦時中、当時の岐阜県陶磁器工業組合連合会によって定められた生産者別標示記号で、一般的に「統制番号」とよばれている。太平洋戦争開戦を前に窯業界も戦時体制に突入し、生産から販売まで完全に統制下に収めた。陶磁器工業組合は、製陶業･製土業･製型業・匣鉢業の各業者によって構成されていたが、生産者別標示記号は製陶業者にのみ付された。当時の窯業界、特に製陶業においては、石炭窯による製造法が主流であり、生産の過程で使用していた石炭を、戦時体制のなかで必要な分野、すなわち軍事関係の電力供給源や動力源へと優先的に振り分ける目的でこの標示記号を付し、流通を管理したものと思われる。

当該番号は、現在の岐阜県土岐市土岐津町土岐口地内で操業していた吉本菊夫氏のものである。詳細な位置は不明であるが、土岐津陶磁器工業組合（注）に加盟し、土岐口字本郷（現在の土岐市役所周辺）に工場をもっていたということである。

（注）　土岐津陶磁器工業組合は土岐郡土岐津町高山・土岐口、泉町大富・久尻・定林寺、明世村河合、肥田村肥田・浅野、多治見市高田・小名田の業者によって構成された組合で、現在は土岐市泉町・土岐津町・肥田町、多治見市高田町・小名田町となっている。

写真－460
日支事変救護記念湯呑
（外面）

写真－461
日支事変救護記念湯呑
（外面右側）

写真－462
日支事変救護記念湯呑
（外面左側）

写真－463
日支事変救護記念湯呑
（底部外面）

３　大日本帝国陸軍歩兵第13聯隊除隊記念盃（１点）

一般的に記念盃または兵隊盃といわれているもので、おもに戦勝祈願や戦勝記念として、また、徴兵期間を満了した兵士が除隊（満期除隊）を迎えて帰郷する際、餞別の返礼品として兵士の縁者へ配るために生産されたものである。本盃は陸軍歩兵第13聯隊に徴兵された「鈴木」氏の満期除隊記念品であると思われる。機械ロクロ成形で、高台は低い隅丸四方形（よほうがた）をなす。また、高台内を渦巻き形に、高台四方の脇を４か所半円状に削っている。ゴム版絵付が用いられ、中央に桜花と軍旗である旭日状の聯隊旗が着彩されている。その上部に「歩十三紀念」、下部に「鈴木」とそれぞれ書かれている。名前が書かれているのは、外征用の主力部隊（常備隊）兵であることが多く、本隊の出征に伴って兵営に編成された部隊（留守隊）の場合は所属部隊のみであったという。なお、形状の特徴から、現在の岐阜県多治見市市之倉（いちのくら）付近の窯で生産されたものであることがわかる。法量は口径5.9㎝、器高2.8㎝、高台径2.0㎝を計測する。

生産時期については、以下の二点を可能性として検討することができる。一点目は技法の面からみた場合、ゴム版絵付けの技法が美濃地方で取り入れられたのが大正５年からであること、先述の湯呑にみられた生産者別標示記号がないことから、上限を大正５年以降、下限を昭和16年以前とすることである。二点目は類似品の出土例からみた場合である。類似品は多治見市の酒井ヶ峯１・２号窯より出土しているが、この窯体が大正11年にはすでになかったという指摘を踏まえて、本盃をこの窯で焼かれたものと仮定した場合、一点目の技法の面と合わせて、大正５年から11年の間とすることである。この時期、歩兵第13聯隊は現在の熊本市二の丸に所在し、中支（上海方面）で行動していた。

写真－464
大日本帝国陸軍歩兵第13聯隊
除隊記念盃（内面）

写真－465
大日本帝国陸軍歩兵第13聯隊
除隊記念盃（外面）

写真－466
大日本帝国陸軍歩兵第13聯隊
除隊記念盃（底部外面）

この盃を含め、記念盃には様々な意匠が取り入れられている。代表的なものとして、軍や兵科を象徴する図柄を用いたものがある。

（イ）陸軍

軍の中で最大の勢力を占め、兵科も多岐にわたることから、様々な意匠が用いられている。

近衛聯隊：皇宮の護衛を担うことから菊の御紋や陸軍の五芒星を用いることが多い。（写真－467）

歩兵聯隊：鉄兜や銃砲を用いたものがみられる。（写真－468）

砲兵聯隊：火砲類を多く用いている。（写真－469）

鉄道聯隊：鉄道（機関車）や鉄道敷設用の工具類。（写真－470）

電信兵聯隊：通信線と電信隊旗の組み合わせが多い。（写真－471）

騎兵聯隊：騎馬や五芒星が多いが、軍旗を鞍代わりに用いているものがみられる。（写真－472）

これらの他にも趣向を凝らしたものとして、外面を鉄兜に見立てて茶系統の色で着彩し、高台部は桜花や戦闘機、銃砲、「忠」の字形にしたもの（写真－473、474）や、徳利と組み合わせて砲弾の形となるものがみられる。

写真ー 467　近衛聯隊（加藤六月氏所蔵）

写真ー468　歩兵聯隊（加藤六月氏所蔵）

写真ー 469　砲兵聯隊（加藤六月氏所蔵）

写真ー 470　鉄道聯隊（加藤六月氏所蔵）

写真ー 471　電信兵聯隊（加藤六月氏所蔵）

写真ー 472　騎兵聯隊（加藤六月氏所蔵）

写真ー 473　外面に鉄兜の意匠を凝らした盃（外面）
（加藤啓輔氏所蔵）

写真ー 474　外面に鉄兜の意匠を凝らした盃（内面）
（加藤啓輔氏所蔵）

（ロ）海軍

海軍の場合、陸軍と異なり、兵科別、艦種別の盃はあまりみられない。図柄は海軍の象徴である船の錨（いかり）を用いたものが多く、桜花模様や軍艦旗などと組み合わせて、陸軍の記念盃より華やかな意匠（写真－475、476）としている。また、軍艦を描いたものや、「春日」、「相模」、「金剛」などといった艦名を記したものもある。さらには陸軍同様、日清・日露戦争期を中心に、陶磁盃とは別に漆塗りに金粉をあしらった木盃も多くつくられていた。（写真－475、477・478）

写真－477及び478の木盃は、内面にある「明治卅七八年戦役」、すなわち日露戦争の凱旋記念盃である。この時期の海軍は、入隊に関しては10人に１人と云われる程、厳しい適性を求められたという。この盃は外面の上部に「下妻村尚武会」とあり、下妻郡下妻村（現在の福岡県筑後市下妻付近）出身者で日露戦争へ出征した人物が凱旋帰郷した際に生産された。

木盃は磁器盃に比べ生産コストが高いが、そこに従軍した誇りを感じることができる。後に戦時体制になると、贅沢品とされた木盃や金銀盃に替わる形で磁器盃が生産されて行く。

記念盃を配るという慣習は、日中戦争で軍が戦勝を重ねていた頃までは行われていたようだが、太平洋戦争の頃になると殆ど見られなくなる。理由は諸説あるが、太平洋戦争に突入すると、一度除隊してもすぐに召集され、除隊記念品としての意味合いが薄れてきたこと。また、戦時体制の中で国力のすべてを戦争へつぎ込んでいった結果、様々な面で余力がなくなっていった。そして太平洋戦争自体が敗戦であったことなどが挙げられる。

写真－475　木盃を含む海軍の記念盃
（加藤六月氏所蔵）

写真－476　海軍満期除隊記念盃
（加藤啓輔氏所蔵）

写真－ 477　明治卅七八年戦役凱旋記念盃（内面）
（山下義満氏所蔵）

写真－ 478　明治卅七八年戦役凱旋記念盃底部（外面）
（山下義満氏所蔵）

４　おわりに

今回取り上げた２点から分かることとして、湯呑に関しては「救護記念」の品ではあるものの、生産者別標示記号（統制番号）の付された陶磁器類が戦時下にあっても各地へ流通していたこと。盃についても、湯呑と同様のことがいえるが、除隊だけに留まらず、さまざまな記念でつくられていたこと。また、そういった記念品が戦争という特異な状況下にあっても一定のまとまった数量生産されていたこと。を挙げることができる。今回は附論であり、流通経路や生産個数などの詳細については今後の課題としたい。また、今回特定にまで至らなかった盃の生産窯についても、これらの品が瀬戸・美濃地域だけで焼かれたものなのか。肥前や九谷といった他の窯業地における動向や生産の起源も含めて検討の必要がある。さらに、盃を記念品として生産した経緯について、今後従軍した当時の兵士の内面的な視点からも考える必要がある。

種類や意匠こそ異なるものの、今回取り上げた戦争関連遺物は単に記念品の範疇に納まらず、従軍した誇りや証、生還した喜びといったものを「器」という形に反映させているのではないだろうか。戦争に関する事物ではとかく負の側面が強調されがちである。しかし近年、戦争を経験した方々の証言や戦争遺跡が平和学習の教材として見直され、活用されているように、今回取り上げた湯呑や記念盃といった物品が戦時下であっても生産されていたということを考えたとき、これら戦争関連遺物も平和学習に十分活用できるのではないかと考える。

なお、附論作成にあたり、以下の方々に御教示いただきました。文末ながら記して感謝申し上げます。
防衛省防衛研究所　土岐市教育委員会　多治見市図書館　日本赤十字社　熊本県護国神社
加藤真司（土岐市教育委員会）　春日春海（多治見市文化財保護センター）　山下義満・岡本真也（熊本県教育委員会）　加藤啓輔　加藤勝信

（順不同、敬称略）

引用・参考文献

しらべる戦争遺跡の事典　十菱駿武・菊池　実　2002
兵隊盃　平和への無限の思い　加藤六月　総合政経懇話会出版部　1984
熊本県の近代化遺産　熊本県文化財調査報告書　第182集　1999
大江遺跡群Ⅱ　熊本県文化財調査報告書　第221集　2006
子どもと歩く戦争遺跡　熊本編Ⅰ　熊本の戦争遺跡研究会　2005
子どもと歩く戦争遺跡Ⅱ　県北編　熊本の戦争遺跡研究会　2006
戦後65年　熊本の戦争遺跡　熊本の戦争遺跡研究会　2010
美濃の古陶　（美濃古窯研究会会報　第8号）　美濃古窯研究会　1999
歩兵13聯隊略史　森田正則　1996
日本陸軍連隊総覧　新人物往来社　1990
日本陸海軍総合事典　第2版　秦　郁彦編　東京大学出版会　2005
酒井ヶ峯１・２号窯発掘調査報告書　多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書　第60号　多治見市教育委員会・財団法人多治見市文化振興事業団　1999
TAJIMIST（たじみすと）　広報たじみ　No.2199（2010年12月１日号）　多治見市役所　2010

3　熊本県内の平野部における縄文海進・海退について

馬場　正弘

1　はじめに

熊本県文化課は、埋蔵文化財発掘調査において、平野部にあたる沖積地（１万年前以降にできた土地）の発掘調査を行ってきた。当然発掘調査であるから、人類が生活していた時代ごとに検出された遺構や出土した遺物について詳細に記載されてきた。中でも縄文時代の遺跡を代表するものとして貝塚（写真－479）がある。貝塚は、生活に関わるものが多く包蔵されているため、当時の生活の様子を知る上で大変貴重な資料となる。よって、現地では貝層の堆積物を観察し記録をとり、出土した土器、装身具、骨、貝などは室内にて詳細に調べていく。その結果、貝塚から海性や汽水性の貝が産するので、縄文時代に海面が上昇した海進があり、貝塚が所在する平野部の奥まで海が浸入していたことは、従来から予察していた。また、宇土半島先端部にあたる三角において、海水面より高い位置に海食洞（写真－480）があることから、地形学や地質学的にも明らかであった。しかしながら、「平野部の堆積物でどの層が縄文海進の影響を受けたものであるのか」、「縄文時代でも、どの時期に海進が始まり、どの時期に海退が始まったのか」または「海面がどの程度上昇したか」など、県内の有明海や不知火海の当時の状況を総合的に把握したものがなかった。そこで、今回、縄文時代の遺跡の立地や人の動きとも非常に関係が深いことから、熊本県内の平野部における縄文海進を概観する。

写真－479　熊本平野の奥地にあたる熊本市城南町に所在する御領貝塚

写真－480　海水面より高い位置にある海食洞

2　熊本の平野部における縄文海進の調査の必要性

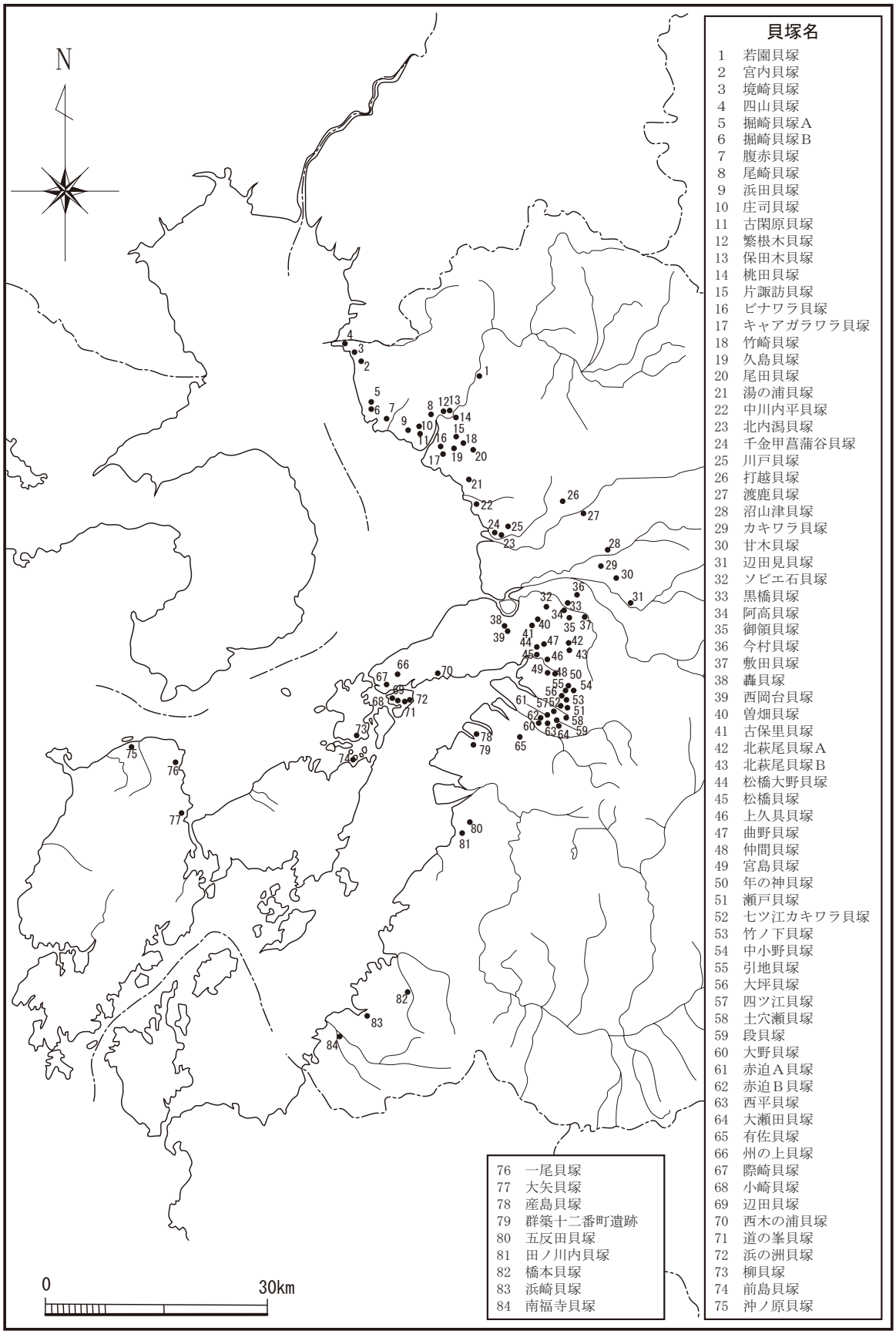
（１）　熊本を含む有明海沿岸が全国の他の都道府県と異なる地形的な特徴を有するため潮位にも大きな違いを有する。

有明海は、湾の形状により（湾の奥行や平均水深などの湾の形状で決まる水面の自由振動の周期が、分潮の半日周期と一致し共振を引き起こす）潮位差が他の地域より大きい。現在では、平均潮位差は5.0mある。単純ではない。

（２）　熊本における平野部の形成がいつなされたか解明することにより、旧石器時代から現代にいたるまで、人々がどのような場所を生活の場所として選定できたか理解することができる。

（３）　地形発達史（地形がどのような過程をふんで形成されたか）と遺跡の分布を相互的に考察する資料として必要である。現在では、単に平坦地に見える場所において、自然堤防等の微高地が埋積されている可能性を旧地形から読み取る必要性がある。

（４）　今まで貝塚の分布や貝塚の貝層から出土した貝の貝種組成から旧海岸線が推定されている。熊本では、縄文海進による堆積物の特徴、年代、海水の浸入による影響、気候変動を総合的に解



図－512　熊本県内の縄文時代の貝塚の分布

1　玉名市上小田

2　玉名市安楽寺田崎

3　熊本市池上

4　熊本市九品寺

5　八代市宮地

図－513　分析を行った地点の位置図

説してある一般向けのものが不足している。

（5）　今回は、南極の氷、北アメリカ、ヨーロッパ大陸北部の氷床が解けたことによる海水による荷重増加による隆起（ハイドロアイソスタシー）や別府島原地溝帯の影響は資料の不足により考察できていない。これらを考えていく上でも、基礎資料として価値がある。

3　これまでの研究史

縄文海進に関する報告としては、有明海研究グループ（1965）の有明粘土層が最も古い。しかし、有明海についての記載はあるものの玉名平野などの陸上部にある縄文海進期や海退後の記載はなされていない。その後、田村・堀川（1988）は、浜戸川の改修工事の際、地下５ｍから産した貝を記載し縄文海進層について記載した。さらに、田村（1990）は、熊本平野における縄文海進を、化石、ボーリング調査、放射性炭素年代測定、花粉分析をもとに総合的に解析を行っている。最近では、長岡ら（1997）が、ボーリング調査、放射性炭素年代測定や珪藻分析を行い、玉名平野の海面変化について考察を加えている。尚、長岡らは、最高海面期でも上小田宮の前遺跡や北の崎遺跡が所在する玉名市街地南西方の狭窄部（高瀬付近）より上流の玉名平野部には海岸線はないとして、（古）菊池川河口は、この狭窄部付近にあったとしている。

4　分析を行った遺跡　（図－513）

①　玉名平野

1　上小田宮の前遺跡（玉名市上小田）

2　北の崎遺跡（玉名市安楽寺田崎）

②　熊本平野

3　池辺寺関連遺跡群（熊本市池上）

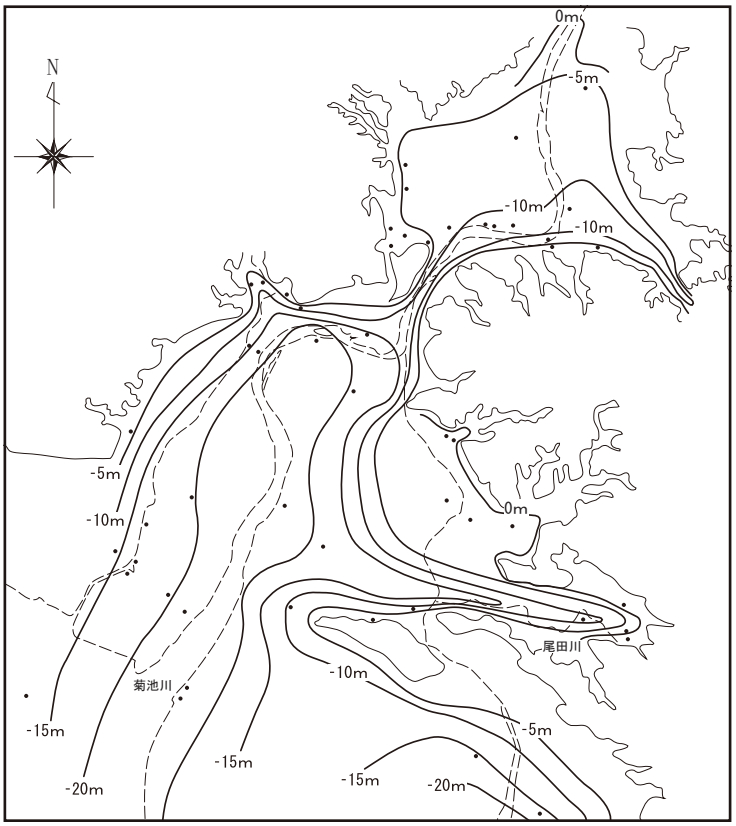
4　大江遺跡群（熊本市九品寺）

③　八代平野

5　西片百田遺跡付近（八代市宮地）

5　玉名平野及び熊本平野の約１万年前の地形

約１万年前の（最終氷期の）有明海の最低海水準は、－130m以下であったとされている（有明海研究グループ，1965）。その時代にあっては、玉名平野と熊本平野は、今でいう扇状地的な場所であり土石流などによって埋めたてられた場所であったと考えられる。よって、堆積物も扇状地と同じような砂礫層であった。平野部の基盤となっている砂礫層（基底砂礫層）の深さを地図上に落として等高線をえがいたのが図－514と図－515である。



田村（1990）より引用

図－514　玉名平野における縄文海進前の等高線図

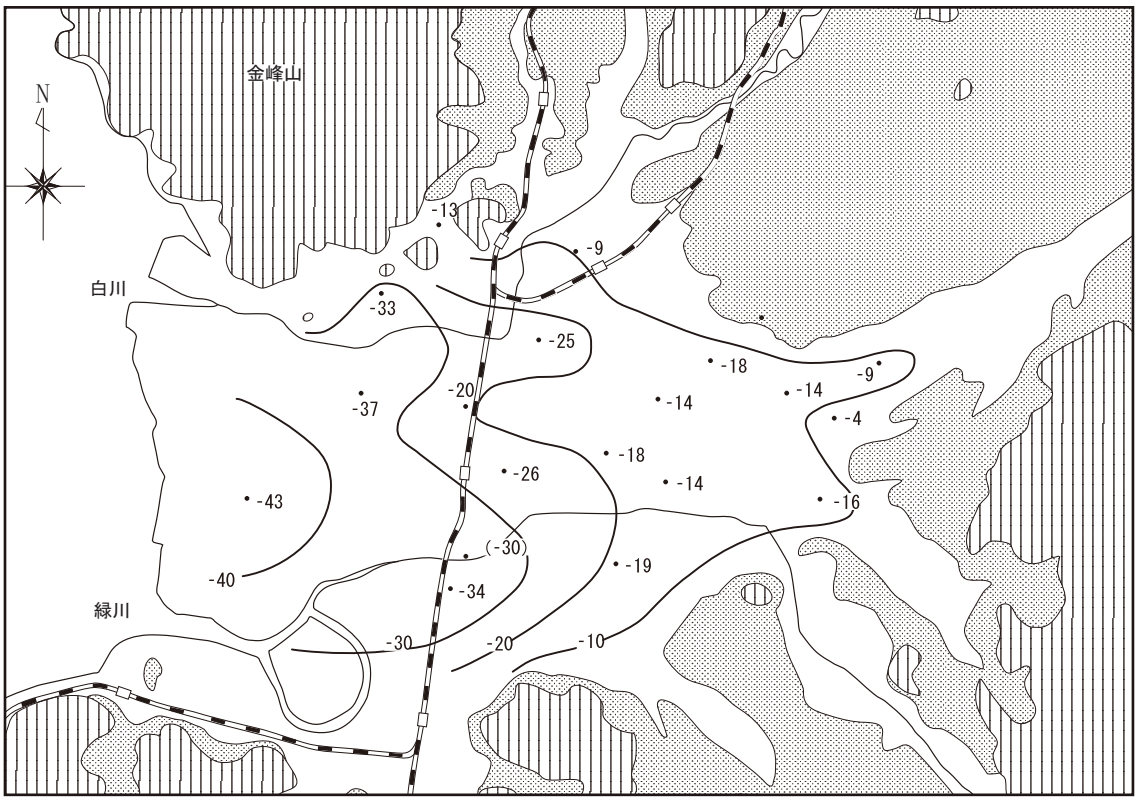
玉名平野では、北の崎遺跡や上小田宮の前遺跡が所在する狭窄部より上流の菊池川流域では、現在の木葉川付近が海抜－10mの谷地形（埋没谷）となって（古）木葉川が流れており、（古）菊池川が現在の位置より東側を流れて、（古）木葉川と合流していたものと考えられる。現在のような平坦な土地ではなく谷地形が存在していた。

一方、熊本平野では、海抜－10mの等高線は現在の平野部の奥までのびており、木山川流域では沼山津付近、御船川流域では御船インターチェンジ付近、緑川では御船川との合流地点付近まできており、等高線内側では玉名平野同様、全体的には谷地形（埋没谷）が見られ、現在のような平坦地形ではないことが理解できる。

さらに、アカホヤ火山灰の標高を地図上に落とし、海抜５m間隔で等高線を引いたのが図－516である。アカホヤ火山灰とは、今から約6300年前、鬼界カルデラが火砕流噴火を起こしたときに、上空に舞い上がった火山灰が堆積したものを言う。全国一円に堆積しており、この火山灰により全国各地に統一した時間軸をもたせることができる。考古学においてはたいへん便利な火山灰である。約１万年前の等高線図と比較すると、既に谷の部分が埋められていっていることが理解できる。なお、アカホヤ火山灰が降灰した約6300年前付近は、海面が上昇したピークとされている。

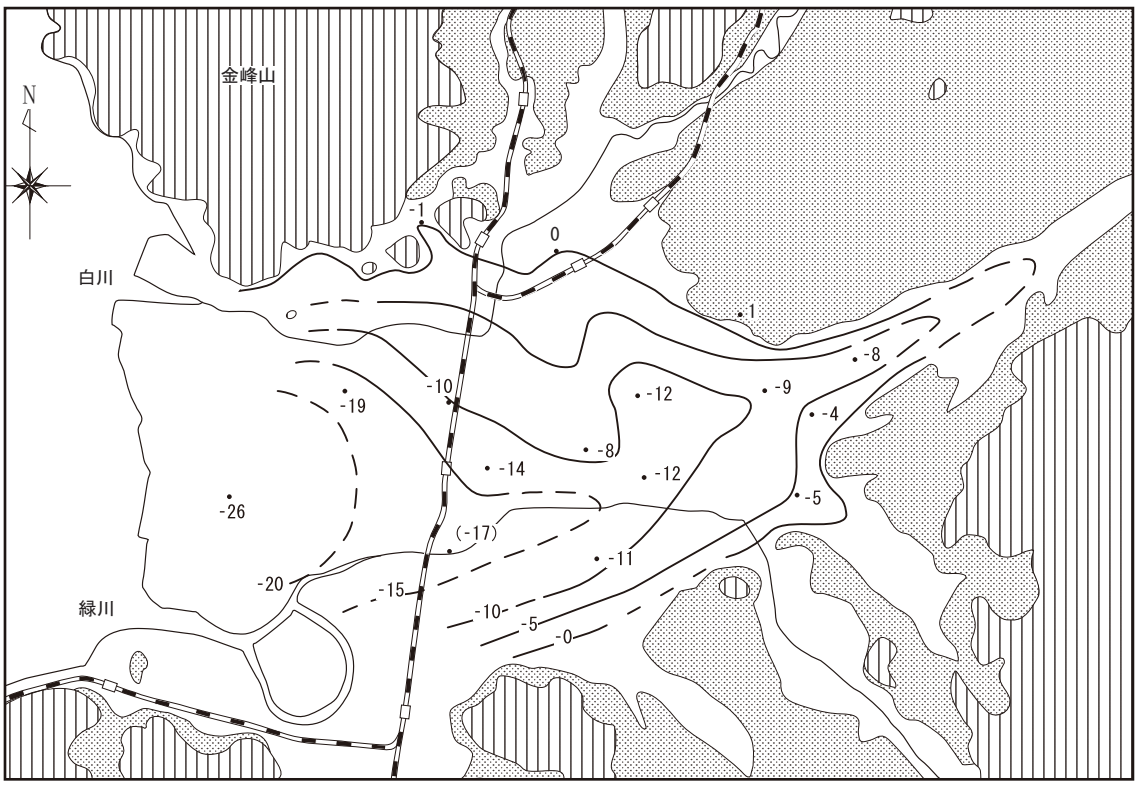
６　縄文海進・海退

縄文海進とはそもそも全国に分布する貝塚の存在から提唱されたものである。海性や汽水性の貝などが産することにより海岸線付近に多数あるはずの貝塚が、内陸部で発見されたことから海が陸地に浸入する海進説が唱えられた。当初は、火山活動や地震による影響で地面が沈降して相対的に海面が上がり上昇したように見えるのではないかなどの見解もあったが、日本の縄文時代と同時期に世界的に海水面の上昇が起こっていることが判明し、全世界的に起こった海面上昇が原因であることがわかったのである。海面上昇をもたらした大きな原因は温暖化による極地方の氷床が融けたことにある。今回の調査で、八代の西片百田遺跡近くの宮地以外の調査地で植物の花粉分析を行い気候変動についても分析を行った。図－523の「玉名市安楽寺田崎における縄文海進の状況」の花粉群集を参照していただきたい。海退期後に照葉樹にかわって針葉樹が繁栄してはいないので劇的に気温が低下したことではない。またこのような海水準変動については、その後多くの研究がなされ、縄文時代以降にも海面変化が起こっていることが理解されるようになってきた。最近の研究により８世紀初頭の海水面は現在より約１m低く、10世紀初頭になるとほぼ現在の海水面まで上昇している。さらに12世紀になると現在の海水面より約50㎝高くなったとされている。この頃、ヨーロッパでは中世海進がおこっている。ヨーロッパ各地で発見される海底遺跡からも海進・海退があったと考えられてい



田村（1990）より引用

図－515　熊本平野における縄文海進前の等高線図（単位：m）



田村（1990）より引用

図－516　熊本平野におけるアカホヤ火山灰層基底面の等高線図（単位：m）

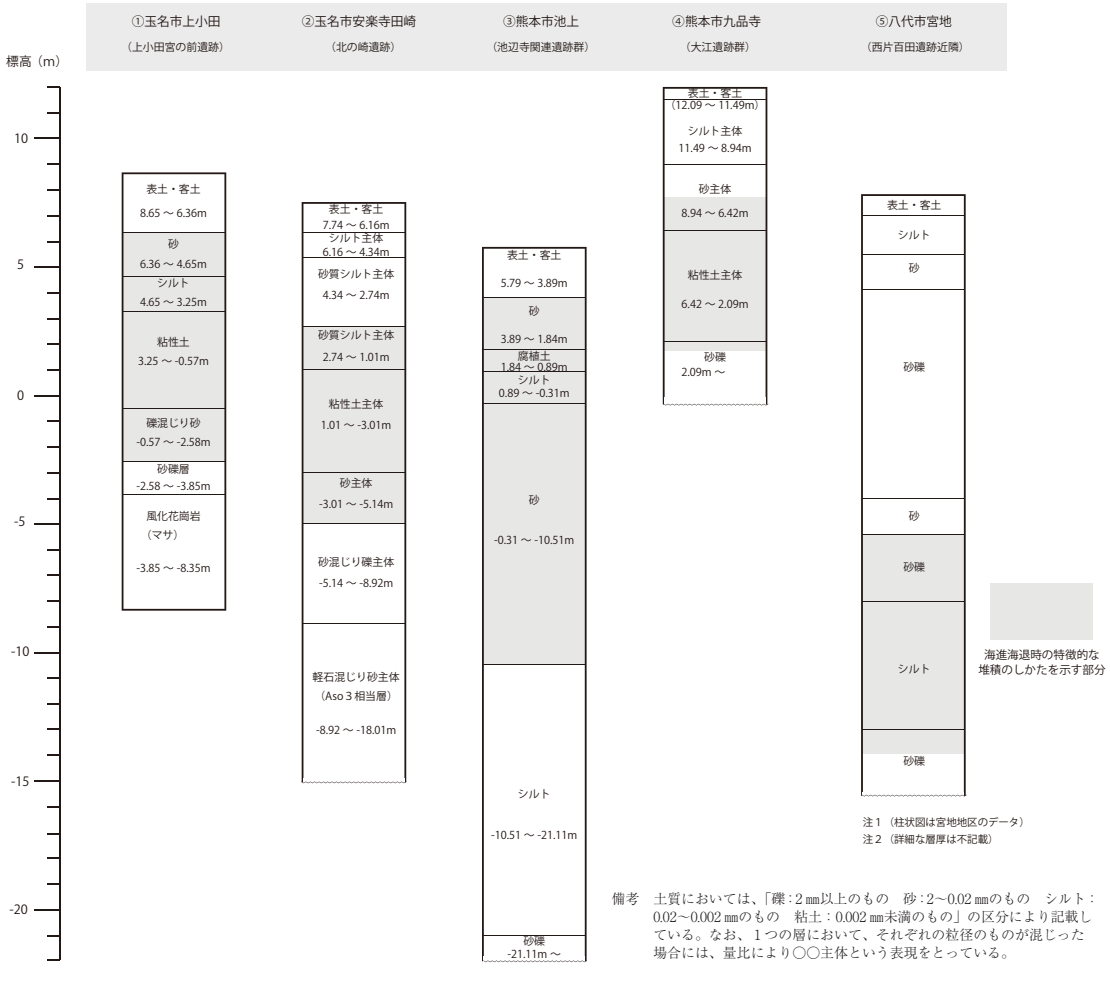
るが、全世界的に起こったものかは判明しておらず、半地球的であった可能性もある。

一方、海退は、温暖化後寒冷化し氷床が再びできたからではない。事実、今回の調査の花粉分析等からも植生が寒冷化した事実は見つかっていない。縄文海進時の植生が引き続き繁栄している。温暖化の影響を受け極地方にある氷床が融け海面が上昇し海水量が増加したことにより、海水の重みで海洋底が形面上昇の時期から遅らせながら、ゆっくり下がったことが大きな原因である。つまり地面が下がって、見かけ上海面が下がったように見えているのである。

7　縄文海進による層相（地層の様子）変化

日本各地の平野部の堆積物において、縄文海進時の堆積部は、特徴的な地層変化（層相変化）が見られる。縄文海進によって海面が上昇することによって海が内陸部まで浸入してくる。それまで浸食の場から一転堆積の場へと移りかわる。すると、砂質の堆積物を主とするものになる。さらに、海面が急激に上昇すると現在の有明海の干潟のような環境になり、堆積物は粘土が中心となる。その後、海退期になると、一部陸地化し河口の末端に三角州が発達する。すると堆積物も砂や粘土を中心とした三角州堆積物から構成されるようになる。海水が浸入して海面下になった場合、このような一連の堆積物になることが多い。このような堆積の仕方は、日本各地の平野部でしばしば見られている。

今回、調査対象とした遺跡の上小田宮の前では6.36 ～ -2.58m、北の崎遺跡では2.74 ～ -5.14m、池辺寺関連遺跡群では3.89 ～ -10.51m、大江遺跡群では8.94 ～ 2.09m、西片百田遺跡近隣の八代市宮地では-5.4 ～ -15.5mにおいて、遺跡によっては欠落している層はあるものの、下位（下の層）から、基本的に砂→シルト→粘性土（腐植土）→シルト→粘土と変化しているのが理解できる。縄文海進に



図－517　縄文海進時に見られる特徴的な地層の変化

よって完全に潮下帯（海水中浅海）に入ってはいないとしても、海水準が上昇することによる影響を受けているものとなっている。なお、潮の干満によって、潮が満ちたときの水面に近い場所を高潮帯といい、潮が引いたときの水面に近い場所を低潮帯といい、高潮帯と低潮帯の中間を中潮帯という。これらの潮が満ちると水面に沈み、潮が引くと水面より上になる場所を潮間帯という。この潮間帯より上を潮上帯、下を潮下帯といい区別する。

潮上帯 － 潮間帯（高潮帯－中潮帯－低潮帯）－ 潮下帯（浅海）

8　海水の影響

縄文海進による海面上昇による海水の影響という観点では、海抜０m以下であれば直接影響をうけるのは当然であるが、海岸線より内陸部においても海水の影響をうける場所がある。それは河川である。河口付近の河川は川底が海面より低くなり、河川に海水が浸入する。この時、海水の方が淡水よりも比重が大きい為、表面付近は淡水、川底付近には塩分濃度の高い海水となる。河川の淡水の下に海水が潜り込み、くさびが打ち込まれたような形状になることから「塩水くさび」と言われている。よって、現在の河川においては、遡上する海水による塩害を防ぐため河口堰を設けている。よって縄文時代、満潮時には海水の遡上により河川の内陸奥深くまで影響を受けた可能性がある。約１万年前の最終氷期終末期において、玉名地方では、（古）木葉川（縄文海進前の木葉川）付近では海抜－10m程度であったので十分川を遡上して塩水が浸入してきたことが予想される。また、熊本平野においても同様のことが言える。

9　各地点の堆積環境（珪藻分析）

珪藻は、おもに水域に生息するケイ酸の殻をもつ単細胞植物である。海水域から淡水域のほぼ全域に生息しており、粘土やシルト質土壌など湿った土壌にまで生息する。珪藻の塩分濃度、酸性度、流水性などの環境下において、それぞれ固有の環境もしくは多重な環境下で生育する。珪藻の殻は、死後堆積物中に保持される。堆積物中から検出された珪藻の遺骸は、当時の堆積環境を反映しており、古環境復元の指標とされている。

今回の調査においては、堆積物が淡水、汽水、海水のどの環境下にあったか区別するために、珪藻分析を行い各層の把握を行った。

なお、分析にあたっては、砂の層では、珪藻の生育に適さない堆積環境であると考えられ、粘性土及びシルトの層にしぼり、これらを分析している。

①　上小田宮の前遺跡

粘性土層下部（図－518－９）の堆積当時は、真一中塩性種（海一汽水生種）や陸生珪藻が優占し、珪藻密度が低いことから、汽水域に面する汀線の環境が推定される。

粘性上層上部（図－518－８）では、陸生珪藻、中塩性種（汽水生種）、海水砂質干潟環境指標種群、海水泥質干潟環境指標種群、流水性種が主に出現することから、流水の影響のある汽水域から干潟、湿った陸域が示唆され、広域に海水が移動する遠浅の干潟の汀線付近の環境が推定される。

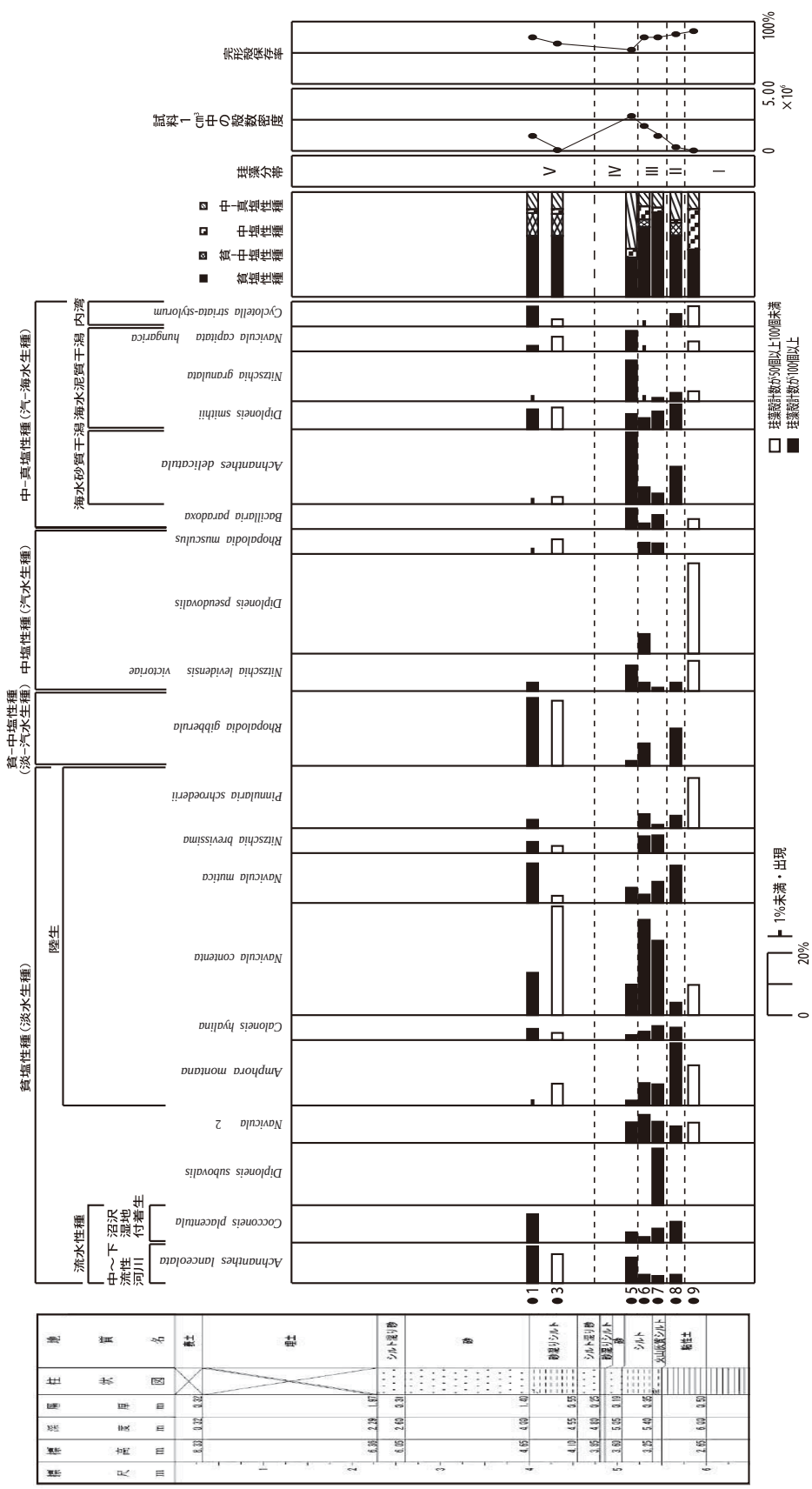
シルト層（図－518－６、７）では、陸生珪藻を主に、海水砂質干潟環境指標種群、海水泥質干潟環境指標種群、流水性種を含む貧塩性種（淡水生種）が出現することから、汀線付近の湿った陸域環境が示唆される。

放射性炭素年代測定で6000±40年BPの年代値が得られた層準直下のシルト層（図－518－５）では、海水砂質干潟環境指標種群と海水泥質干潟環境指標種群が優占し、陸生珪藻、流水性種などが伴われることから、干潟環境が示唆される。

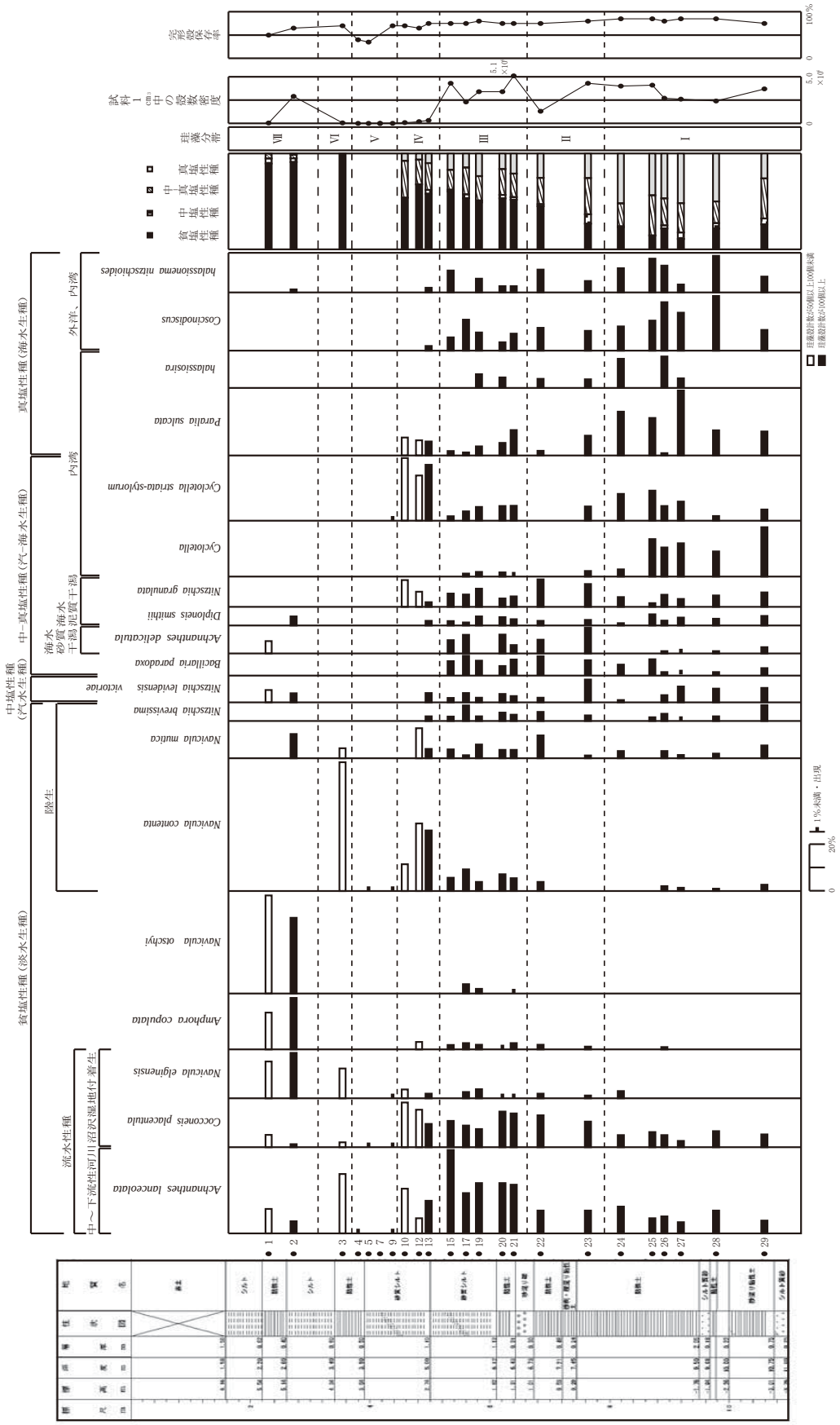
5870±40年BPの年代値が得られた層準より上位の砂混じりシルト（図－518－１、３）では、陸生珪藻や中塩性種（汽水生種）が多く、流水性種、干潟種を主とする真一中塩性種（海一汽水生種）が伴われることから、河川の影響のある汽水域の汀線付近の湿った陸域環境が推定される。

②　北の崎遺跡

放射性炭素年代測定で7190±50年BPの年代値が得られた砂混じり粘質土層（図－519－29）の堆積当時は、外洋、内湾環境指標種群の真塩性種（海水生種）、海水砂質干潟環境指標種群、海水泥質干潟



図－518　玉名市上小田（上小田宮の前遺跡）における珪藻分析



図－519　玉名市安楽寺田崎（北の崎遺跡）における珪藻分析

環境指標種群を主とする真－中塩性種（海－汽水生種）が優占することから、湾外からの影響を受ける内湾から干潟の環境が示唆される。貧塩性種（淡水生種）は近隣の河川の流れ込みによると考えられる。

6690±40年BPの年代値が得られた層準下位の粘性土層（図－519－28）から6960±40年BPの年代値が得られた粘性土層下部（図－519－26、27）にかけては、外洋、内湾環境指標種群が優占することから、湾外からの影響を受ける内湾の環境が示唆される。また、近隣での干潟の分布、河川の流れ込みが推定される。

6420±40年BPの年代値が得られた層準付近（図－519－24、25）では、外洋、内湾環境指標種群が優占することから、湾外からの影響を受ける内湾の環境が拡大したと考えられ、近隣の河川の流れ込みと水域の分布が推定される。

5740±40年BPの年代値が得られた層準より下位の粘性土層（図－519－22、23）では、海水砂質干潟環境指標種群、海水泥質干潟環境指標種群および流水性の中～下流水性河川環境指標種群と沼沢湿地付着生種の貧塩性種（淡水生種）が増加し、外洋、内湾環境指標種群はやや減少していることから、干潟環境と河川河口域の環境が考えられ、海水準の低下が示唆される。

5720±40年BPの年代値が得られた層準直下の粘質上層（図－519－20、21）から5680±40年BPの年代値が得られた砂質土シルト層（図－519－15～19）にかけては、流水性の中～下流水性河川環境指標種群、沼沢湿地付着生種が優占し、海水泥質干潟環境指標種群、外洋、内湾環境指標種群、陸生珪藻が出現することから、近隣に陸域を伴う河川河口域の環境が示唆され、潮の干満により干潟、内湾、湾外からの影響があったことが推定される。

砂質土シルト層中部（図－519－10～13）では、内湾環境指標種群、流水性の中～下流水性河川環境指標種群、沼沢湿地付着生種、陸生珪藻が優占し、海水泥質干潟環境指標種群が伴われることから、河川河口域の影響の強い、内湾環境が陸域に接する湿地の環境が示唆される。

砂質土シルト層上部（図－519－５～９）から粘性土層下部（図－519－４）にかけては、珪藻がほとんど検出されなかった。珪藻が検出されない原因としては、珪藻の生育に適さない乾燥した堆積環境であったことや、水流による淘汰を受けたことなどが考えられる。

粘性土層上部（図－519－３）では、陸生珪藻が優占し、中～下流水性河川環境指標種群、沼沢湿地付着生種の流水性種が伴われることから、河川に接するやや乾燥した湿地の環境が示唆される。

シルト層（図－519－２）から粘性土層（試料１－１）にかけては、流水不定性種を主に、沼沢湿地付着生種、中～下流性河川環境指標種群の流水性種が優占することから、河川に接する不安定な淡水域が示唆される。

③　池辺寺関連遺跡群

Ⅰ帯（図－520－試料2680）では、陸生珪藻で占められ、湿った陸域の環境が示唆される。

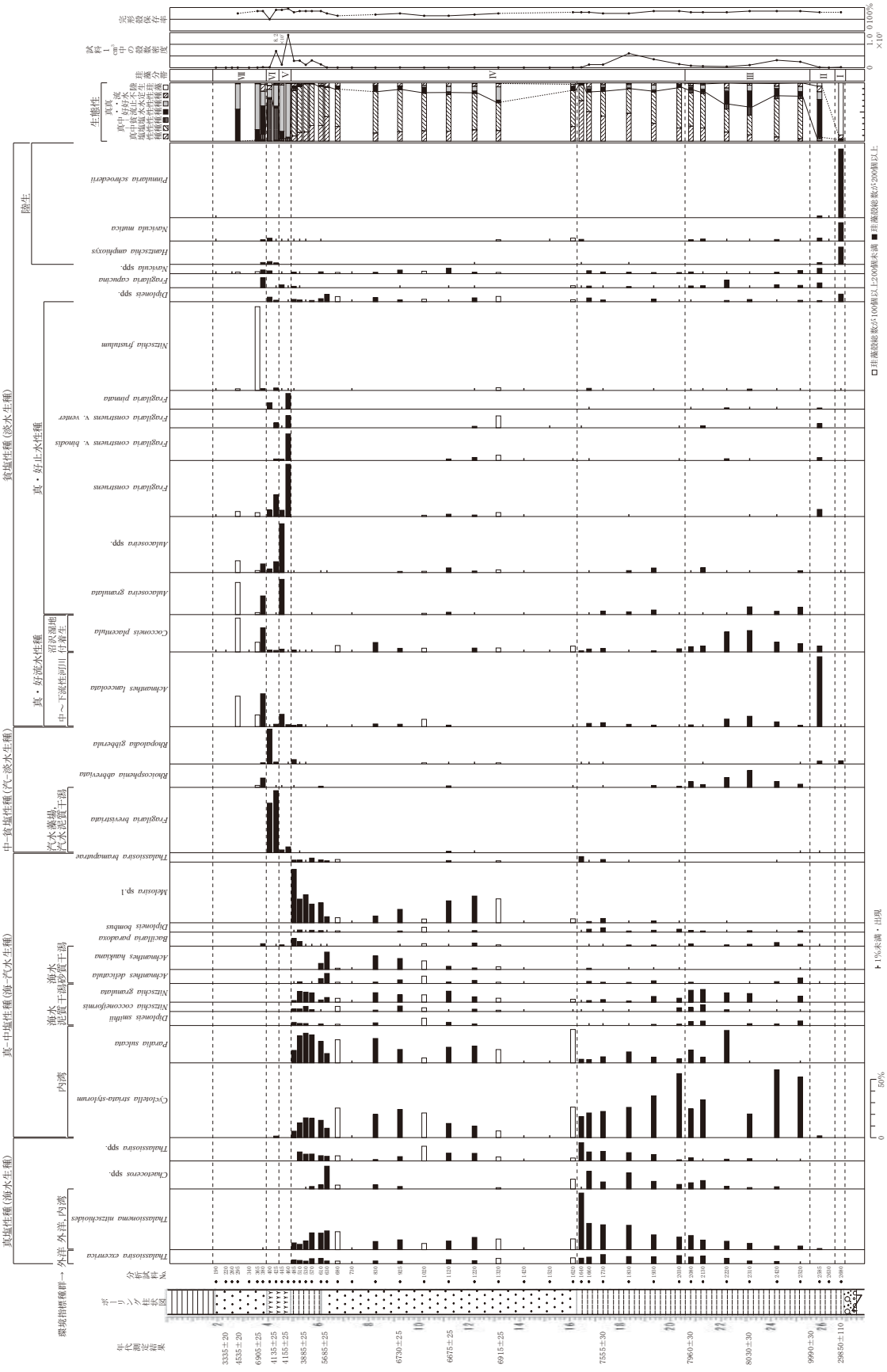
Ⅱ帯（図－520－試料2585、2630）では、中～下流性河川環境指標種群の好流水性種が優占し、中～下流の河川域の環境が推定される。

Ⅲ帯（図－520－試料2080、2520）では、内湾環境指標種群が優占し、中－貧塩性種を伴うことから、内湾でも河口付近の汽水や淡水の影響を受ける環境が推定される。

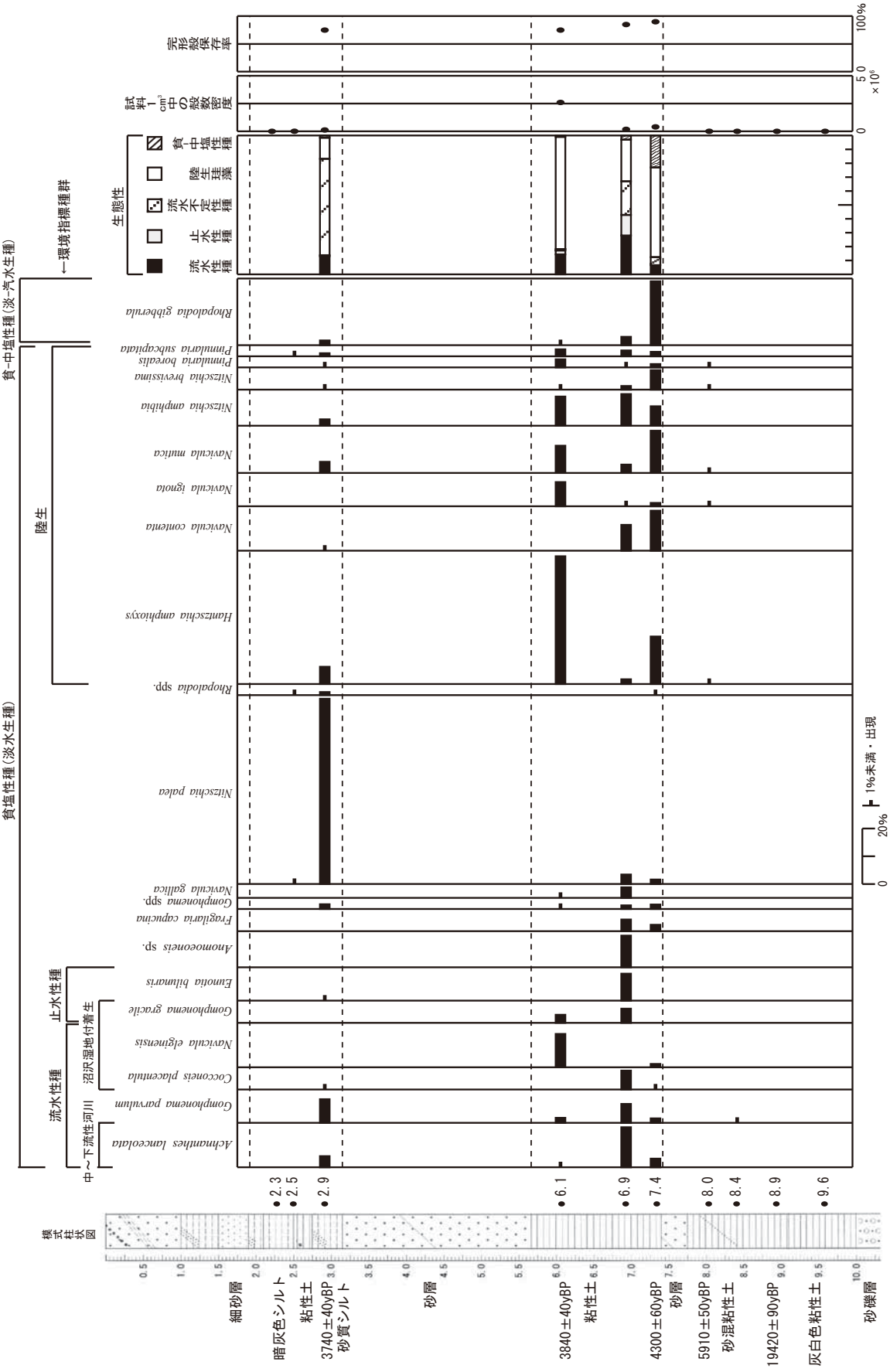
Ⅳ帯（図－520－試料485～2030）では、外洋、内湾環境指標種群の真塩性種（海水生種）、内湾環境指標種群の真－中塩性種（海－汽水生種）が占める割合がさらに増加し、Ⅲ帯よりも外洋の影響を強く受ける内湾の環境が示唆される。なお、下位（図－520－試料1640～2030）では外洋、内湾環境指標種群が増加傾向を示すことから、海進が進行したことが推定され、上位（図－520－試料485～1620）では真－中塩性種（海－汽水生種）や内湾環境指標種群の真－中塩性種（海－汽水生種）がやや多様に出現することから、海進が落ち着き内湾から干潟の環境に遷移したことが推定される。

Ⅴ帯（図－520－試料445、460）では、真・好止水性種が優占し、流れのない湖沼域の環境が示唆される。

Ⅵ帯（図－520－試料400、425）では、汽水藻場



図－520　熊本市池上（池辺寺関連遺跡群）における珪藻分析



図－521　熊本市九品寺（大江遺跡群）における珪藻分析

環境指標種群、汽水泥質干潟環境指標種群が優占し、*Rhopalodia gibberula*が伴われることから、浅い汽水域の環境が推定される。

Ⅶ帯（図－520－試料190 ～ 380）では、貧塩性種（淡水生種）で占められ、中～下流性河川環境指標種群、沼沢湿地付着生環境指標種群、真・好止水性種が出現し、河川の流水域から流れのない沼沢域の環境が示唆される。珪藻密度が低いことなどから、土層の堆積速度が速かった可能性が考えられる。

④　大江遺跡群

放射性炭素年代測定で5910±50年BPの年代値が得られた試料8.0m（図－521）より下位の層準では、珪藻がほとんど検出されないことから、堆積環境の推定は困難である。珪藻が検出されない原因としては、珪藻の生育に適さない乾燥した堆積環境であったこと、水流による淘汰を受けたこと、および土層の堆積速度が速かったことなどが考えられる。なお、試料8.0m（図－521）では微量ながら中－真塩性種（汽－海水生種）が認められることから、何らかの海水の影響を受けていた可能性が示唆される。

4300±60年BPの年代値が得られた試料7.4m（図－521）では、陸生珪藻が優占し、貧－中塩性種（淡－汽水生種）も比較的多いことから、湿潤な陸域が優勢な環境であり、淡水域から汽水域の影響も受けていたと考えられる。その後、試料6.9m（図－521）の時期には河川の影響のある湿地が拡大したと考えられ、汽水域の影響は見られなくなったと推定される。3840±40年BPの年代値が得られた試料6.1m（図－521）の黒色粘性土の堆積当時は、湿潤な陸域が優勢な環境であり、流水の影響のある湿地も分布していたと推定される。

3740±40年BPの年代値が得られた試料2.9m（図－521）の砂質シルト層では、流水性種を伴う流水不定性種が優占することから、流水の影響もある不安定な水域の環境が示唆される。試料2.5m（図－521）と試料2.3m（図－521）の固く締まった暗灰色シルト層では、珪藻がほとんど検出されないことから、堆積環境の推定は困難である。珪藻が検出されない原因としては、前述のようなことが考えられる。

10　玉名平野や熊本平野における縄文海進・海退の時期

（1）　玉名平野における縄文海進・海退の状況

①　上小田宮の前遺跡

放射性炭素年代測定の結果、今回分析した地層は、縄文時代前期（5870±40yBP ～ 6000±40yBP）の堆積物が中心である。分析に耐えうるだけの試料が採収できたのはこれらの層しかなく、本遺跡の堆積物の分析結果から海進時期や海退時期を議論するだけのものは得られなかった。

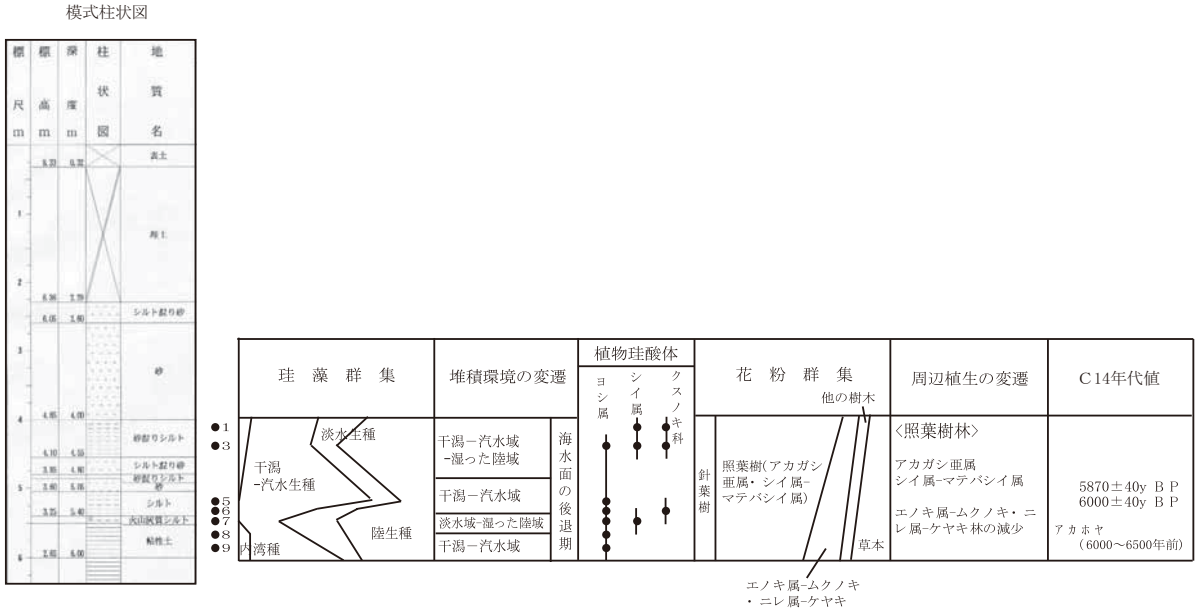
しかし、日本各地の海岸平野部には、縄文海進によって海が進入してきたときを示す砂質堆積物を主とする地層と、つづいて海面が急速に上昇したときに堆積した粘土が中心になる地層と、その後の小規模な海面低下と三角州の発達による砂や粘土を中心とする三角州堆積物の三層で構成されているところが多いが、本調査地の地層においても同様の傾向が得られていることから、分析の結果では十分な結果は得られなかったが、地層の層相変化を考えると縄文海進の影響があったことがうかがわれる。

また、珪藻分析結果からは、湿った陸域と干潟や汽水域の環境を繰り返すような海岸線付近の不安定な環境にあったことが推察される。また、花粉分析やプラント・オパール分析結果からは、照葉樹林を主体とする温暖な気候であったことがうかがわれる。したがって、上小田宮の前遺跡付近では、縄文時代前期（5870±40yBP ～ 6000±40yBP）に、縄文海進によって調査地点付近まで海岸線が到達していた可能性が高い。ただし、淡水生種や陸生種も検出されていることから、完全に海水域であったのではなく、潮の干満によって変化する海岸線付近の環境であったと考えられる。

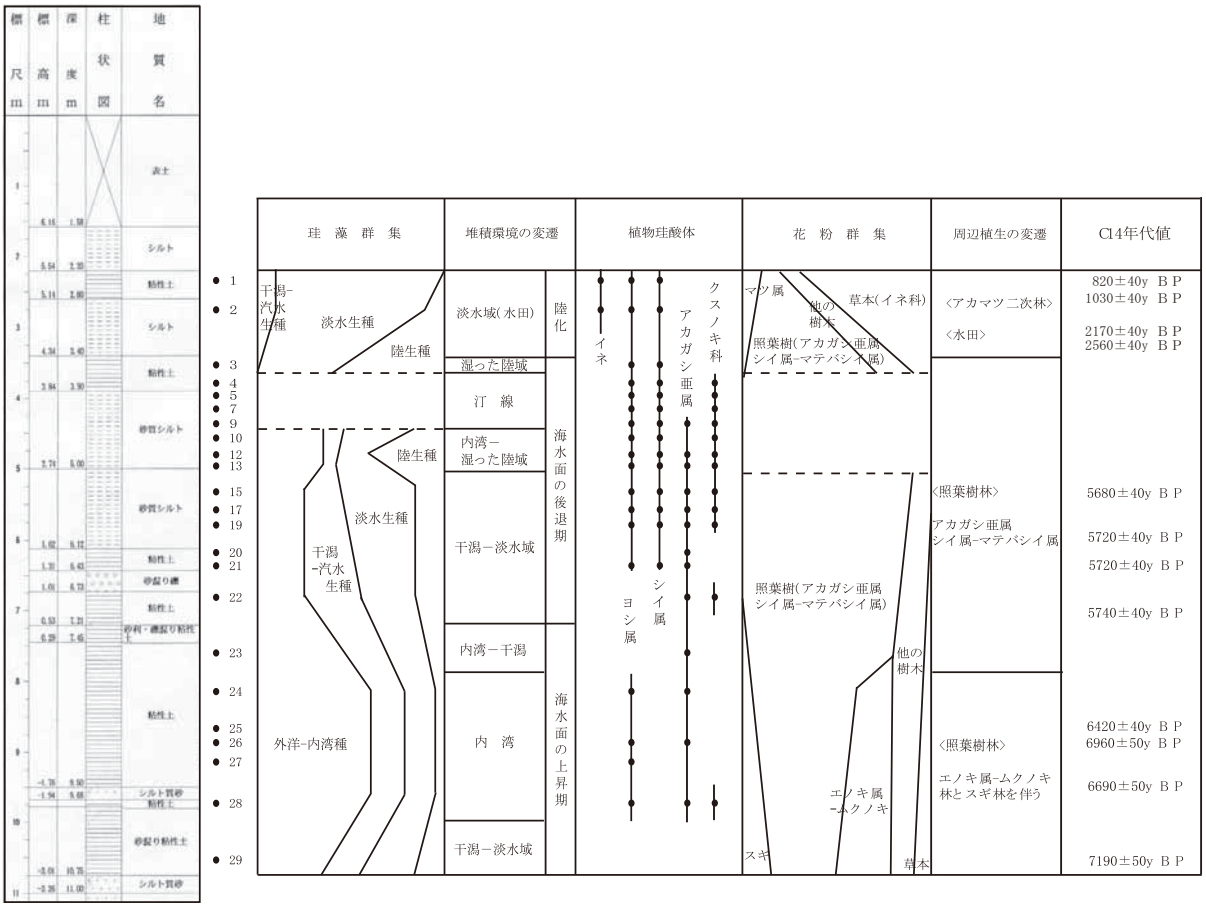
②　北の崎遺跡

北の崎遺跡の地層においては、中世の遺物包含層から深度約12mの深さまでシルト層や粘性土を主体としており分析に適した層が豊富である。よって年代測定、珪藻分析、花粉分析等においてほぼ連続的に分析が可能となった。

放射性炭素年代測定の結果、今回分析した地層は、縄文時代早期～前期（7190±50yBP ～ 5680±40yBP）の地層を中心とし、縄文海進期の高頂期の



図－522　玉名市上小田における縄文海進の状況



図－523　玉名市安楽寺田崎における縄文海進の状況

約6000年前と言われている前後の層をとらえることができた。

具体的に地層の層相変化を見ると、日本各地の海岸平野部で見られるように、縄文海進によって海が進入してきたときを示す砂質堆積物を主とする地層と、つづいて海面が急速に上昇したときに堆積した粘土が中心になる地層と、その後の小規模な海面低下と三角州の発達による砂や粘土を中心とする三角州堆積物の三層で構成されている。よって北の崎遺跡の地層においても全国の平野部で見られる傾向が得られている。同じ玉名平野に所在する上小田宮の前遺跡においても、同じ層相変化をしていることから、堆積物の特徴からも縄文海進期には海面上昇に伴い現在の平野部に海水が浸入してきた様子がうかがえる。

北の崎遺跡では、珪藻分析結果から、下位の粘性土を主とする層では内湾～外洋の海水の影響を受けていたことが推察される。このことは完全に海水に覆われる潮下帯（浅海）になったことを意味している。よって内湾～外洋になった時期には、北の崎遺跡周辺は海で遺跡の平坦部が汀線、いわゆる波打ち際である海岸線となり木葉川の上流域まで海水の影響を受けていたことが予想される。

花粉分析やプラント・オパール分析結果では、上小田宮の前遺跡同様、照葉樹林を主体とする温暖な気候であったことがうかがわれる。したがって、北の崎遺跡付近では、およそ6000 ～ 7000年前に最も海岸線が入り込んでいたと考えられる。ただし、淡水生種や陸生種も検出されていることから、完全に海水域であったのではなく、潮の干満によって変化する海岸線付近の内湾環境であったと考えられる。その後、約4000年前付近（不整合がないものとして層相、層厚と年代より割り出した値）から次第に海水面が後退し、干潟の環境に遷移し、歴史時代には完全に陸域になったものと推察される。

（2） 熊本平野における縄文海進・海退の状況

① 池辺寺関連遺跡群

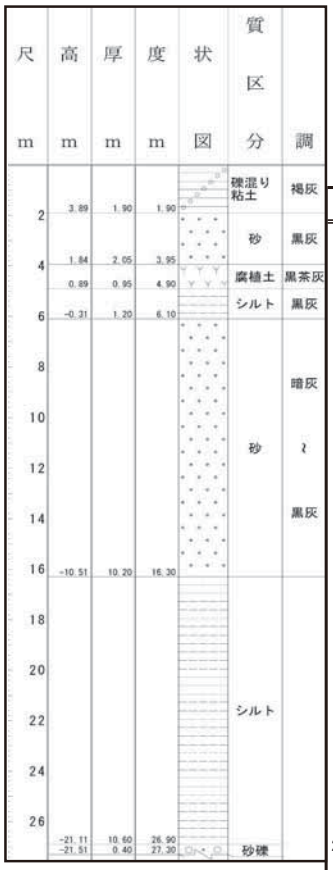
砂礫層直上のシルト層は、放射性炭素年代測定により最終氷期にあたる29850±110年BPの年代値が得られ、同シルト層の上の層からは9990±30年BPの年代値が得られており不整合が間に挟まれている可能性が高い。この期間は、最終氷期といわれ気温の低下に伴って、海水中の水が蒸発して降雪し陸上の氷となったため、地球上の海水量が大幅に減少し、世界中で海面が約120mも低下したと言われている。この影響で堆積作用が少なくなったり、侵食を受けるなどして堆積ができなかった時期に相当すると思われる。分析結果からイネ科（ヨシ属など）やカヤツリグサ科などの草本類が生育する湿地的な環境が推定される。周辺に森林は少なく、やや遠方もしくは部分的にナラ類（コナラ属コナラ亜属）、エノキ属－ムクノキ、スギなどが生育していたと考えられる。このように、放射性炭素年代測定結果や植生・環境の推移から、最終氷期最寒冷期の堆積層は欠如していると考えられる。

9990±30年BPの年代値が得られた層準では、イネ科（ヨシ属など）やカヤツリグサ科などが生育する草本湿地や河川域の環境が推定され、周辺にはナラ類を主としてクルミ属、ハンノキ属なども生育する落葉広葉樹林が分布していたと考えられる。落葉広葉樹林の分布から、冷温帯の気候が示唆される。

8030±30年BPの年代値が得られた層準では、内湾や汽水域の環境が推定され、海面上昇（海進）の影響が考えられる。周辺域には温帯性針葉樹のイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、温帯落葉樹の性格をもつエノキ属－ムクノキなどが生育する中間温帯林が分布していたと考えられ、調査地点付近にはイネ科（ヨシ属など）やカヤツリグサ科などの草本湿地が分布していたと推定される。

7555±30年BPから5685±25年BPの年代値が得られた層準では、外洋の影響を受ける内湾の環境が推定され、海面上昇（海進）がさらに進んだと考えられる。周辺域では気候温暖化に伴ってカシ類（コナラ属アカガシ亜属）やシイ類（シイ属－マテバシイ属）を主体とする照葉樹林が分布拡大したと推定される。

4155±25年BPおよび4135±25年BPの年代値が得られた層準では、淡水の湖沼ないし浅い汽水域の環境が推定され、海面低下（海退）の影響が考えられる。調査地点にはイネ科（ヨシ属、マコモ属など）、ガマ属－ミクリ属などの草本湿地が分布しており、



C14年代	植珪帯	植生・環境	花粉帯	植生・環境	珪藻帯	水域環境
	造成土（土層欠如？）					
3335±20	Ⅵ	（植物珪酸体少ない）	Ⅵ（砂）	（花粉なし）	Ⅶ	淡水域（珪藻少ない）
4135±25	Ⅴ	照葉樹林　ヨシ・マコモ湿地	Ⅴ	照葉樹林	Ⅵ	汽水域
					Ⅴ	淡水域
4135±25	Ⅳ	ヨシ湿地（海綿骨針多い）		草本湿地	Ⅳ	内湾
5685±25	Ⅲ	（植物珪酸体少ない）				
6915±25						
7555±30	Ⅱ	ヨシ湿地 ササ類・ススキ属 （海綿骨針多い）	Ⅳ	照葉樹林の拡大 温帯性針葉樹 エノキ属－ムクノキ	Ⅲ	内湾－汽水－淡水
7960±30					Ⅱ	河川域
8030±30			Ⅲ	温帯性針葉樹 エノキ属－ムクノキ		
9990±30			Ⅱ	落葉広葉樹林		
	最終氷期最寒冷期の堆積層欠如					
29850±110	Ⅰ	ヨシ湿地	Ⅰ	草本湿地	Ⅰ	湿った陸域
	砂礫層（基底）					

図－524　熊本市池上における縄文海進の状況

周辺域にはカシ類、シイ類、クスノキ科などの照葉樹林が分布していたと推定される。

3335±20年BPの年代値が得られた層準では、淡水域の環境が推定され、海退後河川が形成されたと考えられる。尚、花粉が検出されていない。

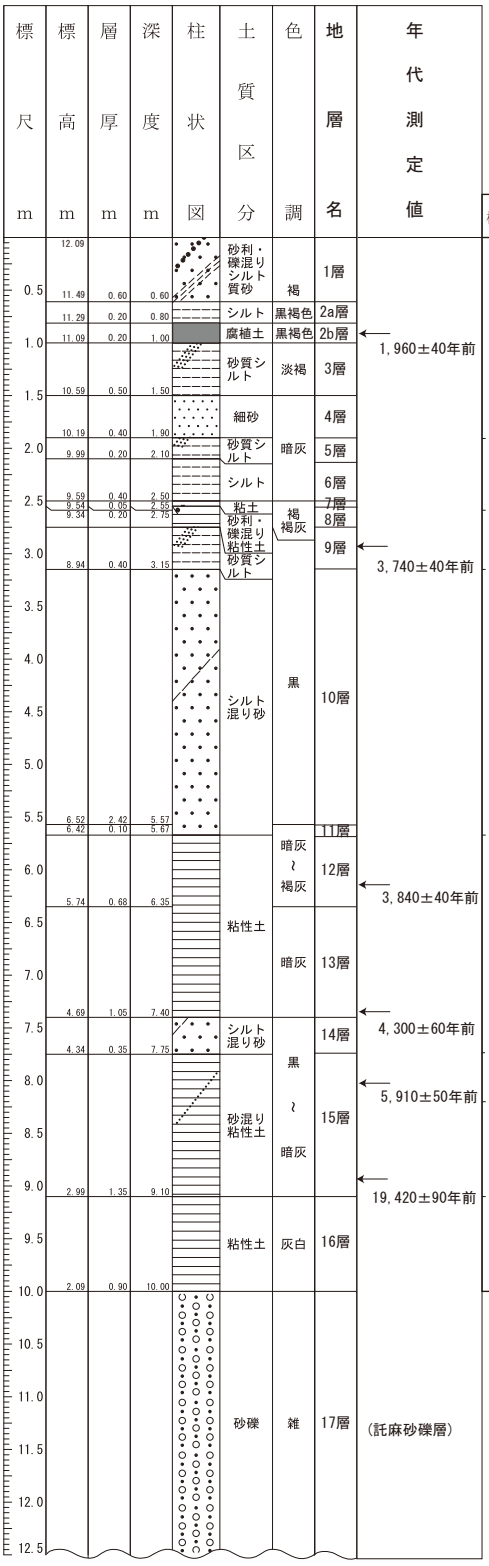
熊本市池上付近では、約8000年前に縄文海進が始まり、汽水域である海岸線付近の環境であり、その後さらに海進が進むと、約7500年前には完全に海面下になり外洋の影響を受ける内湾の環境になっている。その後、海退に伴って、約4100年前に淡水域もしくは汽水域の環境で海岸線付近の環境であったことが予想される。

②　大江遺跡群

19420±90年BPの年代が得られた層準からは、植物珪酸体分析等からササ属（ミヤコザサ）が卓越していることから比較的寒冷な気候であったことが推定される。

5910±50年BPの年代値が得られた層準からは、ススキ属やチガヤ属などが生育する草原で、周囲にはクスノキ科などの照葉樹林が分布するような環境で、比較的温暖な気候であったことが推定される。この層準から微量ながら汽水～海水性の珪藻が認められることから、何らかの海水の影響を受けていた可能性がある。

19420±90年BPと5910±50年BPの層準の間は、層の厚さが約１ｍほどしかなく約13500年ほど年代の開きがあり、植生や堆積の環境がまったく異なるものになっているため、不整合が存在していることが予想され、これらの年代を示した層の間は大きく欠落している可能性が高い。これは他の遺跡の状況と全く同じであり、寒冷化した最終氷期の影響を受けて欠落したものであると考えられる。



植珪帯	植物珪酸体分析からわかる植生・環境	花粉帯	花粉分析からわかる植生・環境	珪藻帯	珪藻分析からわかる植生・環境
VI	植物珪酸体はほとんど検出されない	IV	花粉はほとんど検出されない	III	流水の影響がある水域環境
V	ススキ属、チガヤ属、ヨシ属が一部見られる				
IV	部分的にヨシ属やウシクサ属が見られる環境で、河川等の影響でイネ科植物が育たない環境 約3,850前には、一時的にヨシ属が繁茂する湿地環境	III	カヤツリグサ科などが生育する湿地の環境。周囲には照葉樹林が分布	II	約4,300年前では淡水～汽水の影響をうける環境 約3,840年前では湿潤な陸域で一部流水の影響がある湿地も分布
		II	照葉樹を主体として落葉樹も生育する森林植生、林縁には草木類も生育		
III	ススキ属やチガヤ属が生育する草原的な環境	I	花粉はほとんど検出されないが、タンポポ亜科やヨモギ属が一部認められるため比較的乾燥していた環境	I	珪藻がほとんど検出されないが、約5,910年前では、汽水～海水の影響を受けていた環境
II	笹類を主体として、イネ科の植生で、比較的乾燥した環境				
I	竹笹類及びイネ科の植生で比較的乾燥した環境				

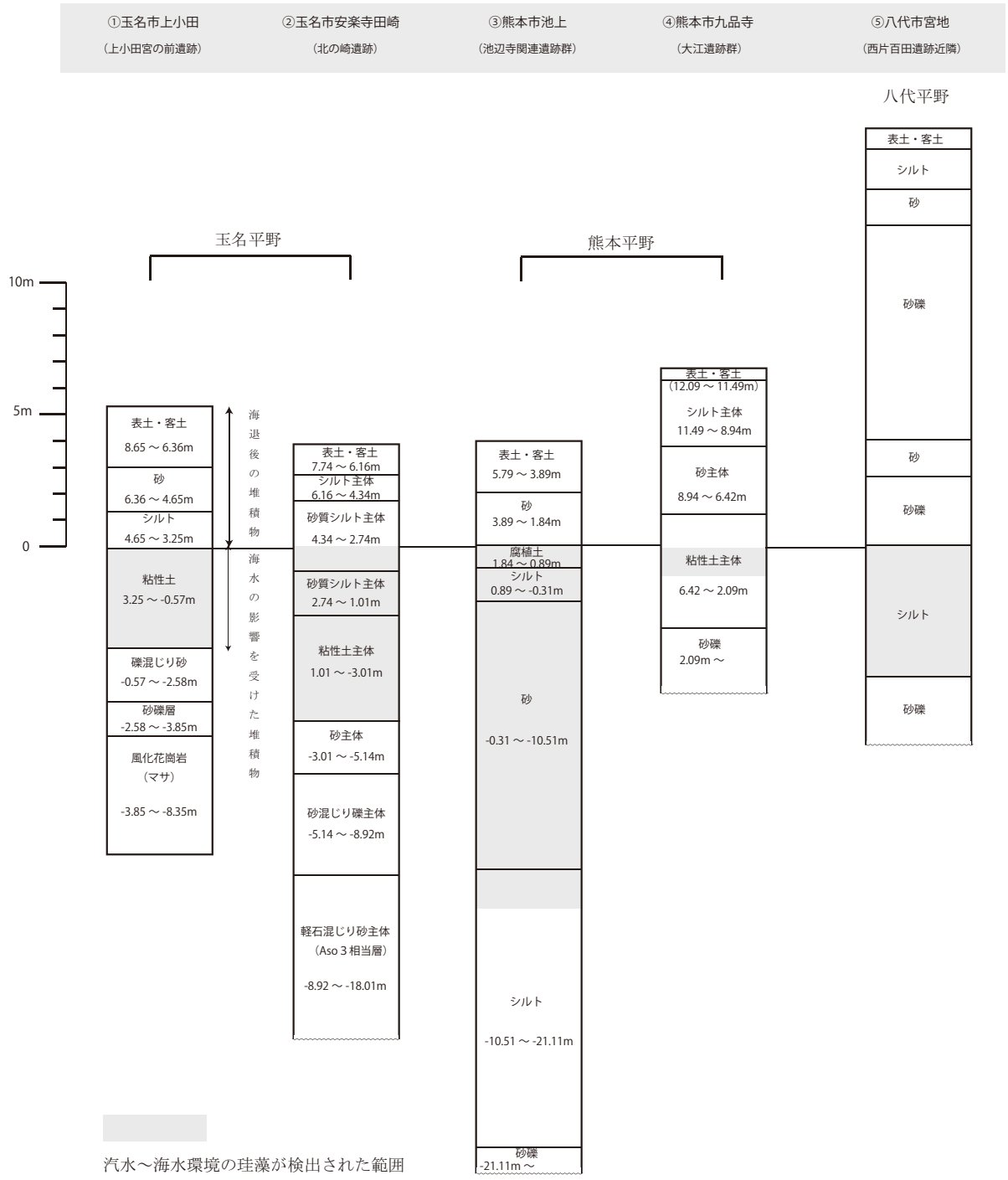
図－525　熊本市九品寺における縄文海進の状況

4300±60年BPの年代が得られた層準からは、カシ類やシイ類などの照葉樹を主体とし、ハンノキ属やエノキ属などの落葉樹も生育する森林植生が分布していて温暖な気候であったことが推定される。また、この層準では、陸生珪藻が優占するものの、淡水～汽水生種の珪藻も比較的多いことから、湿潤な

陸域で海水の影響を受けるような環境であったことが推定できる。

3840±40年BPの層準では、カヤツリグサ科やヨシ属などが生育する湿地環境であり、周辺にはカシ類やシイ類を主体とした照葉樹林が分布しており、また珪藻分析では陸生珪藻が主で、流水性種で沼沢湿地付着生環境指標種群を伴うことから、この当時は湿潤な陸域で淡水の流水の影響がある環境であったことが推定される。よって約3800年前には海水の影響を受ける環境ではなくなっていたことが理解できる。

3740±40年BPの層準では、ススキ属やヨシ属など植生が見られるような湿潤な環境で、珪藻では、流水性種を伴う流水不安定種が優占することから、流水の影響がある湿地であったと推定される。この



図－526　縄文海進により海水の影響を受けた層の層厚変化

時期になると河川の影響を受けているのではないかと考えられる。

以上のことをまとめると、大江遺跡群が所在する熊本市九品寺付近では、縄文海進の時期は特定できないが、少なくとも約5900年前から約4300年前の期間で海水の影響を受ける海岸線付近の環境であったことが考えられる。しかし、約5900年前以前においては層が欠落しており、何年前から海水の影響を受けていたかはわからない。そして約3800年前以降になると、海水の影響を受けなくなり、河川などの流水の影響を受ける環境になっているため、この時期になると海退した後であると考えられる。

11　熊本県内平野部における海水準変動について

今回は、明らかに海水の影響を受けた汽水域および海域になった層の上面の標高を示すと、玉名市上小田では、標高3.25m、玉名市安楽寺田崎では、標高3.32m、熊本市池上では標高1.84m、熊本市九品寺では標高5.19mであった。八代市宮地では－８ｍであるが、日奈久断層の平均変位量（10.7m）を戻すと標高約2.7mとなる。約３mは確実に海面が上昇していたと考えられ、海水が遡上するような河川地域では標高５m付近まで海水の影響があったものと考えられる。よって、今回の古環境調査によって縄文時代には、約３ｍ～５mの最高海面高の変化があったものと考えている。

12　熊本県内における海岸に面する平野部の形成

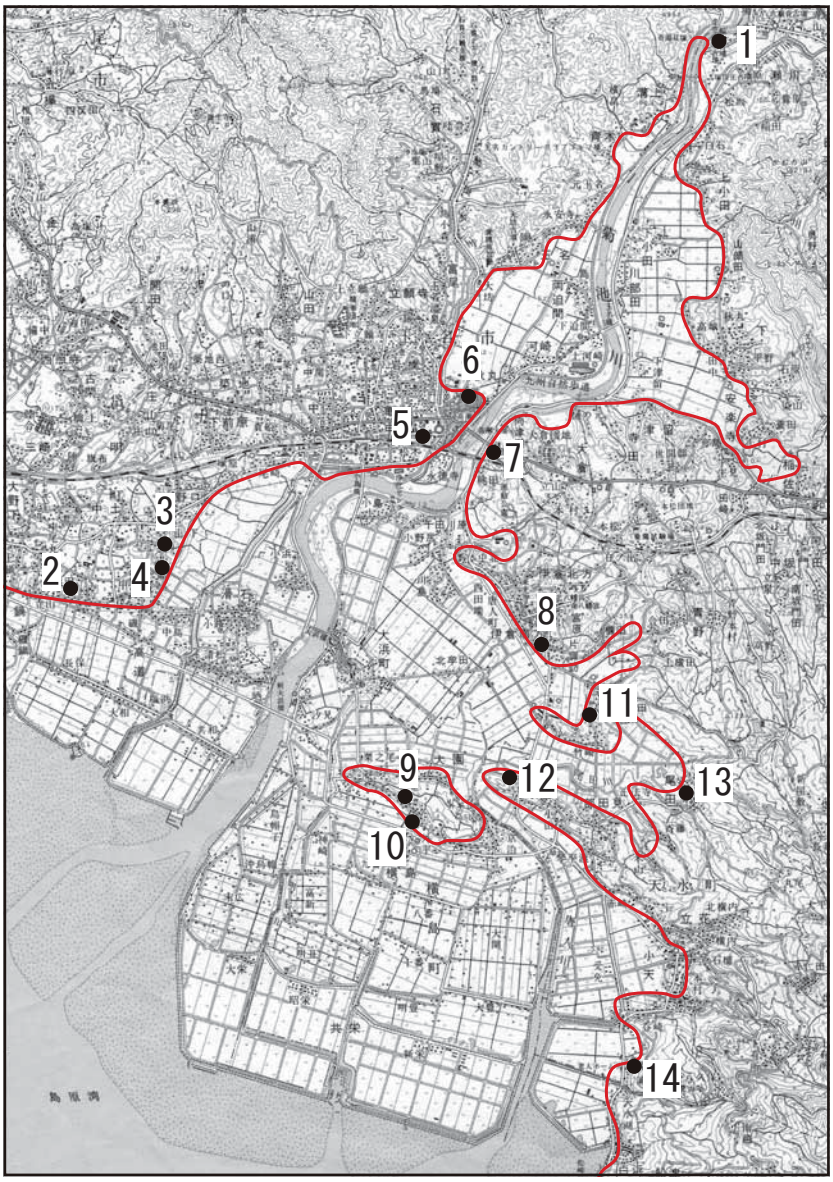
汽水及び海性層と考えられる粘質土からシルト層のトップ（上面）より上位にのる堆積物の層厚（海退時～現在までの層の厚さ）を比較すると、上小田宮の前遺跡5.4m、北の崎遺跡5.0m、池辺寺遺跡4.0m、大江遺跡群6.9m、西片百田遺跡周辺部12.8mである。玉名平野と熊本平野では大方４mから７mの範囲に含まれる。尚、これらの層の中には人為的な削平が行われており、本来の層厚であるとは考えられないが、現在の平野部の表面から大きく低下しているものではなく人為的に客土で元の高さまで戻されているため、現在の地表の標高を削平を受けていない状態の標高とほぼ同じと仮定して算出している。しかしながら西方百田遺跡周辺では、12.8mにもなる。この地域では、前述したとおり断層運動による変動を考慮しなければならない。八代平野には平野部の東に連なる山地部に平行するように日奈久断層という活断層が延びている。熊本県地域活断層調査委員会（1998）の評価では、103年に0.15～0.40m活断層による変位量が割り出されている。海退が進んだ4000年前から現代までの変位量が約5.8～15.5mで平均値が10.7mである。よって、約4000年間で平均で10.7m地面が沈んでいることとなる。沈めば新たな堆積の場となり砂などが急速に堆積する。他の地域とは全く異なるスピードで埋められたことにより、海退期以降の堆積物が約13mとなったと考えられる。よって他の地域にそのままあてはめることはできないので八代平野の場合、熊本平野や玉名平野とは異なり補正を加えながら考察するべきである。今回は参考程度に見て頂きたい。

写真－481　益城町から望む熊本平野
（右奥に見える山が金峰山）

熊本平野や玉名平野では、縄文海進の海退期後は河川流域を除いてほぼ同じような厚さ（３～４mの差はある）で堆積物がのっていると考えられ、平坦な地形の原型を形成したのは縄文海進によって海水による埋め立てられたことによるものであると考えられる。縄文海進前は、熊本平野では約30mの標高差、玉名平野では約10mの標高差がある地形を呈していたものが、現代でほぼ標高差がほとんどない地形になっていることからも、縄文海進が平野形成に大きく寄与しているかがうかがえる。

13　縄文時代の最高海面期における海岸線の推定

縄文時代には、熊本県内の平野部には海水が浸入してきたのは事実であるが、海岸線がどこにあった



貝塚の名称

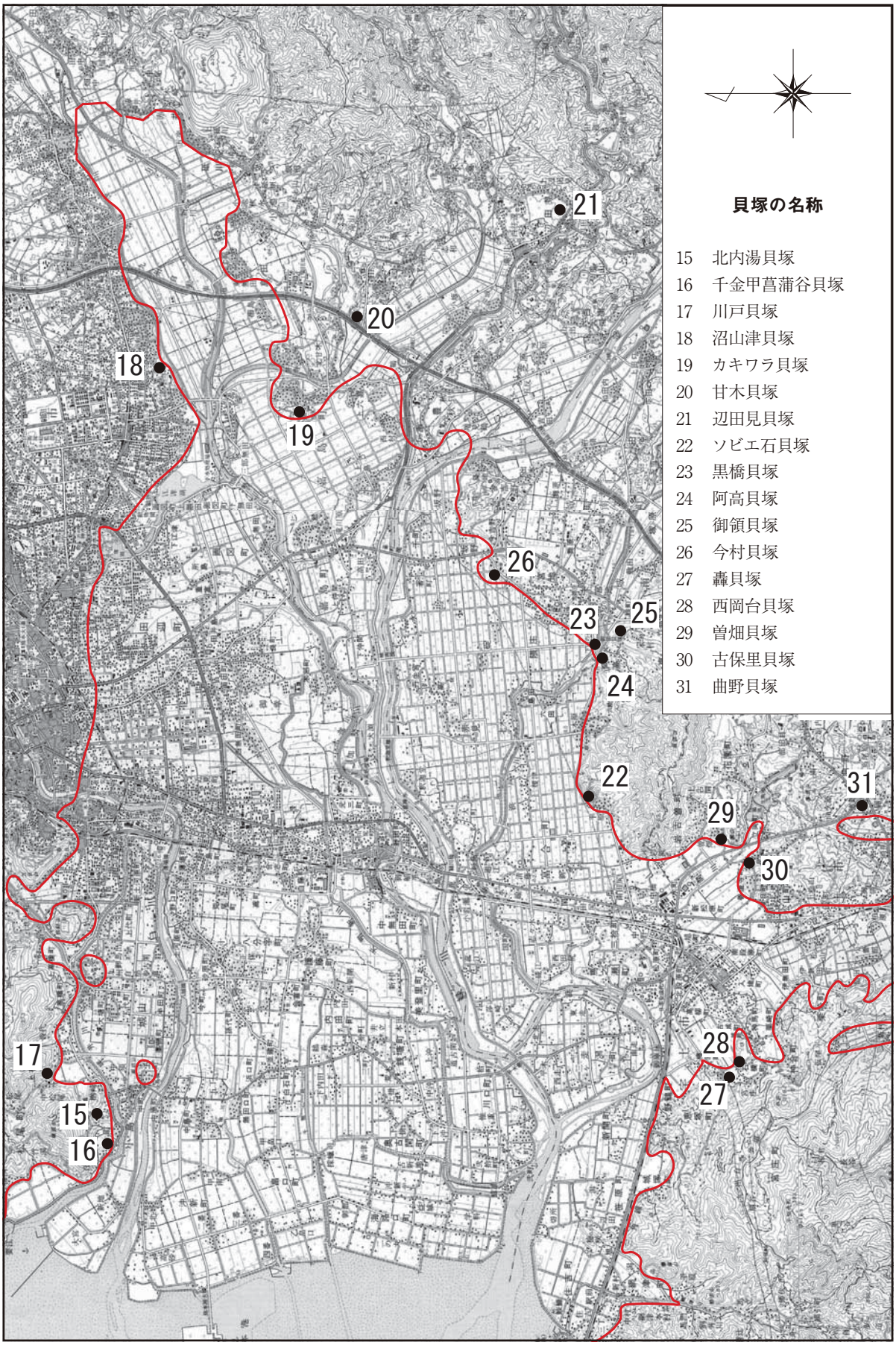
1　若園貝塚
2　浜田貝塚
3　庄司貝塚
4　古閑原貝塚
5　繁根木貝塚
6　保田木貝塚
7　桃田貝塚
8　片諏訪貝塚
9　ビナワラ貝塚
10　キャアガラワラ貝塚
11　竹崎貝塚
12　久島貝塚
13　尾田貝塚
14　湯の浦貝塚

図－527　縄文時代最高海面期における玉名平野の海岸線推定線（縮尺：1/100,000）

か復元するのは極めて困難である。今回の調査によって熊本県内では３m以上海面が上昇したことは判明した。３m上昇したということで、そのまま３m海面を上げたところで海岸線を設定することはできない。前述したように、海水量が増えたことによる地形の変化（ハイドロアイソスタシー）によって地面の変動が起こっていること。または熊本県内には日奈久断層、布田川断層、竜田山断層など活断層が複雑に存在していること。これらの要因により正確な海岸線を設定はできない。

今回は、埋蔵文化財における縄文時代の遺跡の立地条件や人々の移動を考える上では、おおよその推定線は必要と考え、不確実ではあるが推定域を設定した。推定域を考察する上で、以下の観点から設定しているのでご留意いただきたい。

① 傾斜区分図において、３度未満であること。
② 沖積世と洪積世以前の地質との地形境界を境として平坦地であること。
③ 標高10m以下の平坦地を対象とし、内陸部の平坦地は除外する。
④ 貝塚が位置する地点より海岸線側に推定域を設定する。



図－528　縄文時代最高海面期における熊本平野の海岸線推定線（縮尺：1/100,000）

14　まとめ

（１）熊本県内では、縄文時代に起こったとされている海進（縄文海進）は、約7000年前に始まり約4000年前に海面が現在の高さまで戻ったと考えられる。

（２）縄文海進による海水面の変化は、３ｍ～５ｍであったと考えられる。

（３）県内の平野部の平坦地形の形成には、縄文海進が大きく関与しており、現在のような平坦地形は約4000年前に大方できていたと考えられる。

（４）県内の平野部においては、地形境界の近隣まで海水が浸入してきている。貝塚も沖積地と洪積地の地形境界付近に分布する。よって貝塚の位置は大方当時の海岸線を示唆するものである。

（５）今回の結果は平野部の傾向を示すものであり、正確な数値を出すまでの精度はない。よって今後データを増やすことにより精度を高めていく必要がある。

文献

有明海研究グループ（1965）有明・不知火海域の第四糸．地学団体研究会，専報.

馬場正弘（2006）「大江遺跡群Ⅲ」熊本県文化財調査報告第232集，熊本県教育委員会.

長谷部善一（2007）「西片百田遺跡」熊本県文化財調査報告第242集，熊本県教育委員会.

帆足俊文（2005）「阿高貝塚」熊本県文化財調査報告第223集，熊本県教育委員会.

熊本県（1998）日奈久断層に関する調査．平成９年度地震調査研究交付金成果報告書.

熊本県 土地分類基本調査「玉名」.

熊本県教育委員会（2004）北の崎遺跡における地質調査業務成果報告書.

熊本県教育委員会（2008）埋蔵文化財発掘調査に係る古環境調査業務成果報告書.

文部科学省地震研究推進本部地震調査委員会(2002)「布田川・日奈久断層帯の評価」.

長岡・他５名（1997）有明海南東岸玉名平野の地形発達史と完新世海面変化．地理学評論.

玉名市教育委員会（1989）「菊池川下流域遺跡詳細分布調査事業報告書（１）」，玉名市歴史資料集成第６集.

田村（1990）熊本平野における完新世の古環境変化に関する研究．特定研究成果報告書.

報 告 書 抄 録

ふりがな	きたのさきいせき　　けんぬきいせき
書名	北の崎遺跡　　釼抜遺跡
副書名	木葉川災害復旧等関連緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第264集
編著者名	馬場正弘
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862-8609　熊本県熊本市水前寺6丁目18番1号
発行年月日	平成23年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
きたのさきいせき 北の崎遺跡	くまもとけんたまなしあんらくじたさき 熊本県玉名市大字安楽寺字田崎	43206	494	32度55分16秒	130度36分19秒	平成15年5月～平成16年11月	5,038㎡	河川工事
けんぬきいせき 釼抜遺跡	くまもとけんたまなしあんらくじふなしま 熊本県玉名市大字安楽寺字舟島	43206	495	32度55分32秒	130度35分56秒	平成15年1月～平成15年3月	1,407㎡	河川工事

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北の崎遺跡	集落址	縄文時代 弥生時代 古墳時代 古代 中世	竪穴住居址 埋鉢 甕棺墓 土坑 溝 掘立柱建物 杭列	縄文土器　弥生土器 土師器　須恵器 木製品　石製品 鉄製品　石鍋 布目瓦　羽口 輸入陶磁器 瓦器質土器	石戈 丹塗土器 墨書土器少量出土
釼抜遺跡	包蔵地	古墳時代 古代 中世	なし	土師器　須恵器 木製品　石製品 羽口　輸入陶磁器 瓦器質土器	墨書土器 布目瓦

遺 跡 の 概 要

北の崎遺跡では、洪積地の平坦地区と沖積地である湿地区の土質が異なる地域の発掘調査となった。調査の主な成果は、縄文時代晩期、弥生時代中期、古墳前期～中期前葉、奈良・平安時代のそれぞれの集落の様子を考察できたことにある。縄文時代においては、包含層中から後期から晩期の土器を中心として出土しているが、遺構としては、晩期の住居・土坑・埋鉢が検出された。玉名地方では縄文時代の遺構の検出例がさほど多くないことから貴重な資料となりうる。また、縄文時代については、湿地区の土壌分析により、7000年前に海進が始まり、4000年前に海退していったことがわかり、本遺跡も少なからず海水の影響を受けたことがわかった。弥生時代においては、竪穴住居、掘立柱建物および甕棺墓が検出されている。住居では、石戈や器台などの出土があり祭祀的色合いが強いものが認められるものもある。また、甕棺墓は、集落の周辺部に14基確認された。特に弥生時代中期後半の集落の構造（土地利用）が確認できたことは大きな成果であった。古墳時代においては、前期の土器がまとまって出土しており、型式分類を行ってその特徴をつかんだ。古代においては、灯明皿として使用した坏・皿等が多量に出土した住居が検出された。また、湿地区から出土した椀に「薗」と記されており、寺が管理していた畑が周辺に存在していた可能性があると考えられる。古代・中世の包含層からのアブラナ科の花粉の検出はその可能性に調和的とも言える。今後稲佐廃寺との関連性を考慮しておく必要がある。土器の胎土において各時代ごとに、胎土と採掘できる地域との関連性の考察を行っている。土器作りに使用した粘土には、火山岩系と深成岩系のものがあり、器種によって使用粘土に一定の傾向があることがわかった。

一方、釼抜遺跡では、遺構の検出はなかったが、ある程度まとまった遺物が出土した。釼抜遺跡での包含層は２枚ある。それぞれの包含層が形成された時期の詳細はわからないが、おおかた２層は古代（８世紀後半）から中世（12世紀中頃から後半）で、３ａ層では一部中世の遺物を包含するものの、古墳時代から古代（10世紀中葉）であろう。特筆すべき点としては、２層から鏑矢が出土していることである。梅林天満宮で今でも氏子を持ち回りで変えながら流鏑馬が行われている。この鏑矢が直接関係しているか定かではないが、900年以上前から現代に引き継がれている伝統行事だけに注意を要するものであろう。また、羽口が検出されていることから周囲に鍛冶遺構が存在する可能性がある。３ａ層では、墨書土器が出土したり、耳坏や椀の高台の上に台をつけるような特異的な土器が出土したり、布目瓦が出土している点から、近隣に寺があった可能性がある。

参考文献

網田龍生（1994）「奈良時代肥後の土器」『先史学・考古学論究－熊本大学文学部考古学研究室創設20周年記念論文集－』，龍田考古学.

網田龍生（2003）「古代荒尾産須恵器と宇城産須恵器」『先史学・考古学論究Ⅳ－熊本大学文学部考古学研究室創設30周年記念論文集－』，龍田考古学.

馬場正弘（2006）「大江遺跡群Ⅲ」，熊本県文化財調査報告第232集　熊本県教育委員会.

舟山良一（2003）『九州地方の土器』「考古資料大観　弥生・古墳時代　土器Ⅲ」，小学館.

古森政次（1992）「ワクド石遺跡」，熊本県文化財調査報告第144集　熊本県教育委員会.

橋口達也（2007）「弥生時代の戦い　戦いの実態と権力機構の生成」，雄山閣.

林田和人（2002）「肥後における中・後期の様相」『古墳時代中・後期の土師器』，九州前方後円墳研究会.

久住猛雄（1999）「北部九州における庄内式併行期の土器様相」『庄内式土器研究19』，庄内式土器研究会.

久住猛雄（2004）「博多湾岸周辺地域における古墳時代初頭前後の土器様式の変容過程」，異系統土器の出会い研究会.

金関恕・佐原眞（1996）「弥生文化の研究」，雄山閣.

熊本県地質図編集委員会（2008）「熊本県地質図（10万分の１）」，社団法人熊本県地質調査業協会.

国立歴史民族博物館（2009）「縄文はいつから　１万５千年前になにがおこなったのか」，財団法人歴史民俗博物館振興会.

木﨑康弘（1996）「蒲生・上の原遺跡」，熊本県文化財報告第158集　熊本県教育委員会.

松本雅明（1987）「肥後の国府と古代寺院址の研究」，弘生書林.

馬田弘稔・他５名（1999）「以来尺遺跡Ⅲ」，一般国道３号筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告第７集　福岡県教育委員会.

常松幹雄（2002）『九州地方の土器』「考古資料大観　弥生・古墳時代　土器Ⅱ」，小学館.

冨田紘一（1996）「新熊本市史　史料編　第一巻考古資料」 熊本市教育委員会.

長岡信治・横山祐典・中田正夫・前田保夫・奥野淳一・白井克己（1997） 有明海南東岸玉名平野の地形発達史と完新世海面変化，地理学評論　70A-5　287-306.

日本土器事典（1998），雄山閣.

大村雅夫・小原貴樹・下高瑞哉（1999）「新修米子市史第７巻　資料編　考古・古代・中世」，米子市史編さん協議会.

岡本真也（2005）「前田遺跡」，熊本県文化財調査報告第225集　熊本県教育委員会.

岡本真也（2004）「群前遺跡」，熊本県文化財調査報告第219集　熊本県教育委員会.

坂田邦彦（2003）「中・北部九州の古式土師器－古墳時代初頭前後を中心に－」，熊本古墳研究会.

坂田和弘（1998）「鶴羽田遺跡」，熊本県文化財調査報告第168集　熊本県教育委員会.

坂田和弘（2004）「柳町遺跡Ⅱ」，熊本県文化財調査報告第218集　熊本県教育委員会.

下高瑞哉（1991）「上副万妻神遺跡」，県道金屋谷米子線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　米子市教育委員会.

高谷和生（2001）「柳町遺跡Ⅰ」，熊本県文化財調査報告第200集　熊本県教育委員会.

武末純一（2000）「筑紫野市史　資料編（上）考古資料」，筑紫野市.

武末純一（2003）『九州地方の土器』「考古資料大観　弥生・古墳時代　土器Ⅰ」，小学館.

玉名市教育委員会（1989）「菊池川下流域遺跡詳細分布調査事業報告書（１）」，玉名市歴史資料集成第６集.

玉名市史編集委員会（1992）「玉名市史　資料篇１　絵図・地図」，玉名市.
玉名市史編集委員会（1994）「玉名市郡衛」，玉名市歴史資料集成第12集　玉名市.
田村実・他６名（1990）　熊本平野における完新世の古環境変化に関する研究，平成元年度特定研究成果報告書.
常松幹雄（2002）　『九州地方の土器』「考古資料大観　弥生・古墳時代　土器Ⅱ」，小学館.
中世土器研究会（1995）「概説中世の土器・陶磁器」，真陽社.
横山勝三・渡辺一徳（1991）　熊本市および周辺地域の地形・地質概要と研究課題，熊本市史研究くまもと第２号.
柳田康雄（2002）「九州弥生文化の研究」，学生社.
山本信夫（2000）「大宰府条坊跡XV」『陶磁器分類編－太宰府市の文化財第49集』，太宰府市教育委員会.
和田　萃（1992）「大系日本の歴史（２）古墳時代」，小学館ライブラリー.
山下義満（2004）「地蔵原遺跡」，熊本県文化財調査報告第220集　熊本県教育委員会.
吉田徹也・他３名（2009）「祭田下遺跡」，熊本県文化財調査報告第247集　熊本県教育委員会.

平成23年３月に全線開通した九州新幹線鹿児島ルート。開業前の新玉名駅の冬景色。この年は元旦から積雪し、ひと際輝いて見える新玉名駅でした。この九州新幹線の工事に伴って多くの発掘調査が実施されています。埋蔵文化財という財産も将来の人々のために末永く残していってもらいたいと思います。

冬

熊本県文化財調査報告　第264集

北の崎遺跡　釼抜遺跡

平成23年３月31日

編 集　熊本県教育委員会

発 行　〒862-8609　熊本市水前寺６丁目18番１号

印 刷　白木メディア株式会社

〒862-0976　熊本市九品寺５丁目９番35号
TEL 096－362－1255

22　教委　教文
②　０１０

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 264 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名： 北の崎遺跡 釵抜遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/